

平成 20 年度 医学部 教室別業績集 目次

第一内科学教室	解剖学教室
呼吸器内科 … 2	肉眼解剖学 …212
腎臓・リウマチ・膠原病内科 …7	顕微解剖学 …215
神経内科 …13	統合生理学教室 …219
第二内科学教室	細胞生理学教室 …221
循環器内科 …22	生化学教室 1 …223
血液内科 …35	生化学教室 2 …224
第三内科学教室	薬理学教室 …226
消化器内科 …36	病理学教室・病院病理部 …234
糖尿病・内分泌・代謝内科 …46	感染症学教室
内科学腫瘍科教室 …51	微生物学 …246
高齢医学教室 …56	寄生虫学 …251
精神神経科学教室 …68	衛生学公衆衛生学教室 …254
小児科学教室 …71	法医学教室 …263
外科学教室	フローサイトメトリー部門 …265
消化器・一般外科 …77	実験動物部門 …267
呼吸器・甲状腺外科 …88	生物学教室 …268
乳腺外科 …95	物理学教室 …270
小児外科学教室 …98	化学教室 …271
救急医学教室 …101	
脳神経外科学教室 …107	
心臓血管外科学教室 …125	
整形外科学教室 …127	
皮膚科学教室 …139	
形成外科学教室 …151	
泌尿器科学教室 …158	
眼科学教室 …165	
耳鼻咽喉科学教室 …177	
産婦人科学教室 …183	
放射線医学教室 …188	
麻酔科学教室 …192	
臨床検査医学教室 …194	
総合医療学教室 …198	
リハビリテーション医学教室 …202	
リハビリテーション室 …209	
医学教育学教室 …211	

第一内科学教室(呼吸器)

I. 口演

1. 後藤元: 呼吸器感染症の最近の知見. 第 105 回日本内科学会総会, 東京, 平成 20 年 4 月 13 日.
2. 石井晴之, 中田光¹, 平尾晋, 加藤純大, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 和田裕雄, 後藤元(¹新潟大学医歯学総合病院・生命科学医療センター): 本邦における続発性肺胞蛋白症の臨床的特徴. 第 105 回日本内科学会講演会, 東京, 平成 20 年 4 月 13 日.
3. 武田英紀¹, 岡崎充宏², 佐野彰彦³, 青柳佳樹, 山元正之, 加地秀生, 河合伸⁴, 後藤元, 大塚邦明(¹東京女子医大東医療センター・内科,²杏林大・医・細菌検査室,³佐野病院・呼吸器科,⁴杏林大・医・感染症): 薬剤感受性試験からみる日米院内肺炎ガイドラインの検討. 第 82 回日本感染症学会総会, 松江, 平成 20 年 4 月 18 日.
4. 倉井大輔, 皿谷健, 和田裕雄, 平尾晋, 明石敏¹, 神谷茂², 後藤元(¹大正製薬株式会社,²杏林大・医・感染症): マイコプラズマ肺炎マウスモデルにおける IL-17 の関与の検討. 第 82 回日本感染症学会総会, 松江, 平成 20 年 4 月 18 日.
5. 皿谷健, 倉井大輔, 平尾晋, 和田裕雄, 石井晴之, 蔵田訓¹, 神谷茂¹, 田口晴彦¹, 明石敏²(¹杏林大・医・感染症,²大正製薬株式会社): ヒト型マイコプラズマ肺炎マウスモデルに及ぼすクラリスロマイシンの効果の検討. 第 82 回日本感染症学会総会, 松江, 平成 20 年 4 月 18 日.
6. Ishii H, Inoue Y¹, Tazawa R², Watanabe M, Yokoyama T, Kurai D, Saraya T, Wada H, Goto H, Nakata K³(¹Kinki-Chuo Chest Medical Center, ²Institute of Development, Aging and Cancer, Tohoku University, ³Bioscience Medical Research Center, Niigata University Medical and Dental Hospital): Strategy for diagnosis of secondary pulmonary alveolar proteinosis. American Thoracic Society International Conference 2008, Toronto, May 21, 2008.
7. Ishii H: Natural history of secondary pulmonary alveolar proteinosis. American Thoracic Society 2008; Scientific Symposium. Toronto, May 21, 2008.
8. 石井晴之: 基礎から学ぶ生理機能講習会—呼吸のしくみ—. 東京都臨床検査技師会, 東京, 平成 20 年 6 月 13 日.
9. 石井晴之, 中田光¹, 安武哲生, 横山知恵, 高田佐織, 平尾晋, 加藤純大, 渡辺雅人, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 和田裕雄, 後藤元(¹新潟大学医歯学総合病院・生命科学医療センター): 続発性肺胞蛋白症における画像所見の検討. 第 48 回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 平成 20 年 6 月 17 日.
10. 渡辺彰¹, 後藤元(¹東北大学加齢医学研究所・抗感染症薬開発研究部門): 市中肺炎ガイドライン 2005 年改訂版(JRS2005)の全国共同検証成績及び 200 年初版(JRS200)との比較. 第 48 回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 平成 20 年 6 月 17 日.
11. 後藤元: 呼吸器感染症分離菌の推移—25 年間・1 万症例の調査から—. 第 48 回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸, 平成 20 年 6 月 17 日.
12. 加藤純大: どう考えますか? 外来診療での診断アプローチ—呼吸困難編—. 第 9 回三鷹市医師会呼吸器病研究会, 三鷹, 平成 20 年 6 月 25 日.
13. 石井晴之: 本邦における続発性肺胞蛋白症について. 福井 COPD 研究会 (肺胞蛋白症講演会), 福井,

平成 20 年 9 月 3 日.

14. 吉本恵理, 横山琢磨, 和田裕雄, 乾俊哉, 中村益夫, 本多紘二郎, 荒井禎子, 太田敦子, 小屋敷恵美, 清水雪絵, 小出卓, 田村仁樹, 檜垣学, 三倉真一郎, 高田佐織, 安武哲生, 横山知恵, 平尾晋, 渡辺雅人, 加藤純大, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 後藤元: 開胸下胸壁・胸膜生検にても診断に苦慮した胸膜中皮腫 desmoplastic type の一例. 第 181 回日本呼吸器学会関東地方会, 高崎市, 平成 20 年 9 月 20 日.
15. Hirao S, Saraya T, Kurai D, Wada H, Ishii H, Kurata S¹, Taguchi H¹, Kamiya S¹, Akashi T², Nakagaki K³, Nakata K⁴, Goto H¹(Division of Medical Microbiology, Kyorin University, School of Medicine, ²Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., ³Laboratory of Wildlife, College of Veterinary, Nippon Veterinary and Life Science University, ⁴Bioscience Medical Research Center, Niigata University Medical and dental Hospital) : Comparison of immunomodulating effects among clarithromycin, dexamethasone and levofloxacin on the murine model of *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia. 2005 Annual Congress of European Respiratory Society, Berlin, October 8, 2008.
16. Wada H, Nishimura K¹, Kashiba M², Hagiwara S³, Mikura S, Nakagaki K⁴, Yamamoto Y⁵, Goto H¹(Bioresource Laboratories, Mercian Corporation, ²School of Bionics, Tokyo University of Technology, ³Department of Respiratory Medicine, Jichi Medical School Hospital, ⁴Faculty of Veterinary Science, Nippon Veterinary and Life Science University, ⁵Department of Bionics, Tokyo University of Technology): Enhanced oxidative stress in the lung of klotho mouse, an aging model, as measured by the redox status of coenzyme Q9. 2005 Annual Congress of European Respiratory Society, Berlin, October 8, 2008.
17. 和田裕雄: 多摩地区における気管支喘息患者 (延べ 10771 人) の症状と生活の質の検討—多摩気管支喘息 QOL アンケートを用いた 5 年間の経験—. 第 6 回多摩気管支喘息 QOL 研究会, 東京, 平成 20 年 10 月 16 日.
18. 本多紘二郎, 横山琢磨, 和田裕雄, 中村益夫, 清水雪絵, 小出卓, 安武哲生, 皿谷健, 石井晴之, 後藤元: カンジダ感染症に続発した冠動脈および脾動脈感染性動脈瘤の一例. 第 57 回日本感染症学会東日本地方会, 大宮, 平成 20 年 10 月 23 日.
19. 後藤元: 呼吸器感染症の分離菌と薬剤感受性の年次推移. 第 55 回日本化学療法学会東日本支部総会, 大宮, 平成 20 年 10 月 23 日.
20. 山本善裕¹, 渡辺彰², 後藤元, 松島敏春³, 阿部庄作⁴, 青木信樹⁵, 下方薫⁶, 三笠桂一⁷, 二木芳人⁸, 河野茂¹(¹長崎大学大学院医歯薬総合研究科・感染免疫学, ²東北大学加齢医学研究所・抗感染症薬開発研究部門, ³倉敷第一病院・呼吸器センター, ⁴札幌三条病院・呼吸器, ⁵信楽園病院・内科, ⁶中部大学・生命健康科学部 生命医科学科, ⁷奈良県立医科大学・感染症センター, ⁸昭和大学・感染症科): 成人市中肺炎ガイドライン 2005 年改訂版 (JRS2005) の全国共同県庁調査におけるペントシリン (PIPC) 使用症例の検討. 第 55 回日本化学療法学会東日本支部総会, 大宮, 平成 20 年 10 月 23 日.
21. 後藤元, 渡辺彰¹, 河野茂², 松島敏春³, 阿部庄作⁴, 青木信樹⁵, 下方薫⁶, 三笠桂一⁷, 二木芳人⁸(¹東北大学加齢医学研究所・抗感染症薬開発研究部門, ²長崎大学大学院医歯薬総合研究科・感染免疫学, ³倉敷第一病院・呼吸器センター, ⁴札幌三条病院・呼吸器 ⁵信楽園病院・内科, ⁶中部大学・

生命健康科学部 生命医科学科,⁷ 奈良県立医科大学・感染症センター, ⁸ 昭和大学・感染症科): 成人市中肺炎を対象としたクラリス錠特定使用成績調査結果報告. 第 55 回日本化学療法学会東日本支部総会, 大宮, 平成 20 年 10 月 23 日.

22. 和田裕雄: COPD—私どもの取り組み—. 第 3 回多摩 COPD 研究会, 東京, 平成 20 年 10 月 28 日.
23. 石井晴之, 後藤元, 中田光¹ (¹新潟大学医歯学総合病院・生命科学医療センター): 我が国における続発性肺胞蛋白症の臨床的特徴—早期診断のための戦略—. 第 12 回東京呼吸病態研究会, 東京, 平成 20 年 11 月 4 日.
24. 後藤元: 特別講演: 院内肺炎ガイドラインをめぐって. 第 331 回熊本 Chest カンファレンス特別講演会, 熊本, 平成 20 年 11 月 14 日.
25. 中村益夫, 横山琢磨, 和田裕雄, 吉本恵理, 本多紘二郎, 清水雪絵, 石井晴之, 呉屋朝幸¹, 藤野節², 藤岡保範², 後藤元(¹杏林大・医・呼吸器外科, ²杏林大・医・病理学教室): 開胸下胸壁・胸膜生検にても診断に苦慮した胸膜中皮腫 desmoplastic type の一例. 杏林医学会総会, 東京, 平成 20 年 11 月 15 日.
26. 和田裕雄: 今日の咳嗽の診断と治療—ガイドラインに基づいて—. 第 10 回三鷹市医師会呼吸器病研究会, 三鷹市, 平成 20 年 11 月 21 日.
27. 渡辺彰¹, 後藤元, 相馬一玄² (¹東北大学加齢医学研究所・抗感染症薬開発研究部門, ²北里大学医学部・救命救急医学): MRSA 肺炎に対するリネゾリドの有効性と有用性の検討. 第 56 回日本化学療法学会西日本支部総会, 広島, 平成 20 年 12 月 7 日.
28. 石田正¹, 早川順¹, 塩原哲夫¹, 横山琢磨, 後藤元(¹杏林大・医・皮膚科学教室): 特異な臨床像を呈し, 死の転帰をとった皮膚筋炎の 1 例. 第 72 回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 平成 21 年 2 月 21 日.
29. 後藤元: 院内肺炎ガイドラインをめぐって. 第 10 回筑紫感染症カンファレンス, 久留米市, 平成 21 年 2 月 27 日.
30. 後藤元: クリプトコッカス症. 第 2 回関東呼吸器真菌症研究会, 東京, 平成 21 年 3 月 7 日.
31. 後藤元: 院内肺炎の新しいガイドラインを巡って. 第 76 回慈大呼吸器疾患研究会, 東京, 平成 21 年 3 月 16 日.

II. 論文

1. 加藤純大, 後藤元: 急性上気道炎. 総合臨牀 57: 875-877, 2008.
2. 渡辺雅人: インフルエンザ. 総合臨牀 57: 878-880, 2008
3. Shimura C, Saraya T, Wada H, Takata S, Mikura S, Yasutake T, Kato J, Kato A, Yamamoto M, Watanabe M, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Aoshima M, Yamada A¹, Goto H(¹Department of Renal Medicine, Kyorin University School of Medicine): Pathological evidence of rhabdomyolysis-induced acute tubulointerstitial nephritis accompanying *Legionella pneumophila* pneumonia. Journal of Clinical Pathology 61: 1062-1063, 2008.
4. 後藤元: マイコプラズマ肺炎. ドクターサロン 52(9): 649-652, 2008.
5. 渡辺雅人, 後藤元: キノロン系薬の展開—NA からレスピラトリーキノロンまで—. 臨床と微生物 35(5): 411-416, 2008.

6. 和田裕雄, 大島信治¹, 鈴木道明², 高橋寿保³, 渡辺秀裕⁴, 山崎博臣⁵, 沖和彦⁶, 藤田明⁷, 吉澤正文⁸, 山口規夫⁹, 松岡緑郎¹⁰, 後藤元(¹東京病院・呼吸器内科, ²公立昭和病院・呼吸器科, ³高橋内科クリニック, ⁴町田市民病院呼吸器科, ⁵山崎内科医院, ⁶沖クリニック, ⁷都立府中病院・呼吸器科, ⁸武蔵野赤十字病院・呼吸器科, ⁹山口内科呼吸器科クリニック, ¹⁰エム・クリニック): 多摩地区における気管支喘息患者 (のべ 10771 人) の症状と生活の質の検討—多摩気管支喘息 QOL アンケートを用いた 5 年間の経験—. 日本胸部臨床 67(19): 860-873, 2008.
7. 後藤元: 呼吸器感染症—耐性菌との戦い—. 東京都医師会雑誌 61(8): 794-801, 2008.
8. Tokuda H¹, Sakai F², Yamada H¹, Johkoh T³, Imamura A⁴, Dohi M⁵, Hirakata M⁶, Yamada T⁷ Kamatani N⁸, Kikuchi Y⁹, Sugii S¹⁰, Takeuchi T¹¹, Tateda K, ¹² Goto H (¹Department of Internal Medicine, Social Health Insurance Central General Hospital, ²Department of Neurology, Kitasato University, ³Department of Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Jichi Medical University, ⁴Department of Cardiology, Nagoya University Graduate School of Medicine, ⁵University of Tokyo, Department of Allergy and Rheumatology, Graduate School of Medicine, ⁶Division of Rheumatology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, ⁷Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ⁸Human Genome Center, Institute of Medical Science, the University of Tokyo, ⁹Joining and Welding Research Institute, Osaka University, ¹⁰Department of Rheumatology, Sagamihara National Hospital, ¹¹Division of Rheumatology/Clinical Immunology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, ¹²Dainippon Sumitomo Pharma Co., Ltd): Clinical and radiological features of Pneumocystis pneumonia in patients with rheumatoid arthritis, in comparison with methotrexate pneumonitis and Pneumocystis pneumonia in acquired immunodeficiency syndrome: A multicenter study. Internal Medicine 47: 915-923, 2008.
9. Saraya T, Shimura C, Mikura S, Yasutake T, Kato J, Yokoyama T, Kurai D, Fujino T, ¹ Yokoyama K², Furuyashiki G³, Wada H, Ishii H, Goto H (¹ Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, ² Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Thoracic Surgery, Kyorin University School of Medicine): Huge mediastinal mass with SVC syndrome accompanying numerous chest wall collateral vessels. Internal Medicine 47(19): 1719-1722, 2008.
10. 後藤元: 呼吸器感染症最近の知見. 日本内科学雑誌 97(9): 303-309, 2008.
11. 後藤元: 関東呼吸器真菌症研究会から. The Japanese Journal of Antibiotics 62(1): 53-68, 2008.
12. 皿谷健, 倉井大輔, 平尾晋, 加藤愛香, 和田裕雄, 石井晴之, 飯原久仁子¹, 藤岡保範¹, 蔵田訓², 田口晴彦², 神谷茂², 岡輝明³, 明石敏⁴, 中垣和英⁵, 中田光⁶, 後藤元(¹杏林大・医・病理学教室, ²杏林大・医・感染症, ³関東中央病院病理部, ⁴大正製薬株式会社, ⁵日本生命科学大学獣医学部・野生動物学教室, ⁶新潟大学医歯学総合病院・生命科学医療センター): マイコプラズマ肺炎マウスモデルに対する Clarithromycin の免疫調節作用の検討. The Japanese Journal of Antibiotics 61 Suppl.A: 9-12, 2008.
13. Wada H, Yamamoto M¹, Okazaki M², Watanabe T¹, Goto H (¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Clinical Laboratory, Kyorin University School of Medicine): Isolation of *Mycobacterium kyorinense* in a patient with respiratory failure. Ann Intern Med 150: 568-570, 2009.

14. 加藤純大, 後藤元: 成人市中肺炎診療ガイドラインの実用性と問題点. 呼吸器科 15(3): 160-163, 2009.

III. 著書

1. 後藤元 (監修) : 抗菌薬使用の原則. 最新感染症治療指針 2008 年改訂版. 東京, 医薬ジャーナル社, 2008. p.12-15.
2. 加藤純大, 後藤元: 感染症診断に役立つ特殊検査. 呼吸器疾患診療マニュアル. 工藤翔二編. 東京, 日本医師会, 2008. p.147-148.
3. 湯浅和美¹, 後藤元(¹都立駒込病院・呼吸器内科): D-アラビニトール, エンドトキシン, β -D-グルカン, 猩紅熱, ブドウ球菌感染症, 在郷軍人病 (レジオネラ症), 腸チフス, 細菌性赤痢, コレラ, グラム陰性菌感染症, 細菌性食中毒. 臨床検査データブック 2009-2010. 黒川清, 春日雅人, 北村聖編. 東京, 医学書院, 2009. p.531-532, p.580-581, p.815-818.
4. 後藤元: ブルセラ症. 今日の治療指針 2009 年版. 山口徹, 北原光夫, 福井次矢編. 東京, 医学書院, 2009. p.147.
5. 石井晴之, 中田光¹(¹新潟大学医歯学総合病院・生命科学医療センター): 続発性 (二次性) 肺胞タンパク症. 呼吸器症候群 (第 2 版) I. 東京, 日本臨床社, 2008. p.481-483.
6. 石井晴之, 佐藤雅史¹(¹東邦大学医学部・放射線科): 画像診断の手引き Suppl 80. 確定診断から治療への道 No.28. 東京, 国際医学出版, 2008. p.1-16.

第一内科学教室（腎臓・リウマチ膠原病）

I 口演

1. 有村義宏：ANCA 関連血管炎の臨床。ANCA 関連疾患勉強会，沖縄，平成 20 年 4 月 5 日。
2. 福岡利仁、大塚貴子、須藤京、野村和史、要伸也、有村義宏、中林公正、山田明：微小変化群ネフローゼ症候群（MCNS）症例へのシクロスポリン（CsA）治療に関する臨床的検討。第 105 回日本内科学会、東京、平成 20 年 4 月 11 日-13 日。
3. 内堀歩、長田純理、宮崎泰、小路仁、山田明、千葉厚郎：小脳に局限した可逆性病変を 3 回繰り返した SLE の 2 4 歳女性例。日本神経免疫学会、新潟、平成 20 年 4 月 17 日-18 日。
4. 吉原堅、有村義宏、川嶋聡子、須藤京、池谷紀子、大塚貴子、小路仁、福岡利仁、軽部美穂、要伸也、中林公正、山田明：Capture ELISA による PR3-ANCA 測定の臨床的有用性に関する検討。第 52 回日本リウマチ学会、札幌、平成 20 年 4 月 20 日-4 月 23 日。
5. 中林公正、小路仁、吉原堅、有村義宏、山田明：Methotrexate 治療中に発症し、MTX 中止により自然軽快を示した T 細胞リンパ腫類似病態の関節リウマチの 1 例。第 52 回日本リウマチ学会、札幌、平成 20 年 4 月 20 日-4 月 23 日。
6. 須藤京、有村義宏、早川哲、軽部美穂、吉原堅、要伸也、中林公正、山田明：MPO-ANCA 陰性で再燃した MPO-ANCA 関連血管炎の検討。第 52 回日本リウマチ学会、札幌、平成 20 年 4 月 20 日-4 月 23 日。
7. 川嶋聡子、有村義宏、軽部美穂、吉原堅、要伸也、中林公正、山田明：MPO-ANCA 関連腎炎における糸球体内 MPO 陽性細胞及び細胞外 MPO についての腎病理組織学的検討。第 51 回日本腎臓学会、福岡、平成 20 年 5 月 30 日-6 月 1 日。
8. 軽部美穂、中林公正、小路仁、要伸也、有村義宏、山田明：尿異常所見に乏しい MPO-ANCA 陽性多発血管炎症例にみられる尿細管間質病変の検討。第 51 回日本腎臓学会、福岡、平成 20 年 5 月 30 日-6 月 1 日。
9. 福岡利仁、大塚貴子、須藤京、齋藤督芸、野村和史、要伸也、有村義宏、中林公正、山田明：シクロスポリン（CsA）を用いて治療した当院微小変化群ネフローゼ症候群（MCNS）の臨床的検討。第 51 回日本腎臓学会、福岡、平成 20 年 5 月 30 日-6 月 1 日。
10. 池谷紀子、有村義宏、吉原堅、要伸也、中林公正、山田明：膠原病疾患における HPLC 法による尿中完全長（インタクト）微量アルブミン測定の意義。第 51 回日本腎臓学会、福岡、平成 20 年 5 月 30 日-6 月 1 日。
11. 池谷紀子：増殖性病変を伴った膜性腎症の 1 例。第 39 回三多摩腎生検カンファランス、三鷹、平成 20 年 6 月 4 日。
12. 小路仁、中林公正、有村義宏、山田明：関節リウマチの治療経過中、MTX 中止のみで寛解したリンパ増殖性疾患の 1 例。第 41 回多摩リウマチ研究会、東京、平成 20 年 6 月 7 日。
13. 池谷紀子、要伸也、大和恒恵、福岡利仁、吉原堅、有村義宏、山田明：エリスロポエチン投与により蛋白尿減少を認めたネフローゼ症候群の一例。第 55 回三多摩腎疾患治療医会、三鷹、平成 20 年 6 月 8 日。

14. 千々和京介¹、平松佐紀子¹、柴田美帆¹、片山満代¹、浜井章¹、則竹敬子¹、吉原堅、小路仁、福岡利仁、軽部美穂、要伸也、山田明（杏林大学透析センター¹）：腹膜透析外来導入の試み。第53回日本透析医学会学術集会・総会、神戸、平成20年6月20日～22日。
15. 福岡利仁、大塚貴子、須藤京、野村和史、齋藤督芸、有村義宏、要伸也、中林公正、山田明：各種腎代替療法における末梢血血管内皮前駆細胞数の臨床的検討。第53回日本透析医学会学術集会・総会、神戸、平成20年6月20日～22日。
16. 須藤京、有村義宏、池谷紀子、福岡利仁、軽部美穂、要伸也、中林公正、山田明：血液透析を施行した抗GBM抗体腎炎症例の解析。第53回日本透析医学会学術集会・総会、神戸、平成20年6月20日～22日。
17. 有村義宏：ANCA関連血管炎の現況。京都腎臓内科フォーラム、京都、平成20年6月24日。
18. 有村義宏：ANCA関連血管炎-寛解維持療法-。血管炎治療フォーラム、大阪、平成20年6月26日。
19. 池谷紀子、有村義宏、岩澤彰子、要伸也、山田明：長年持続するANCA著明高値例の検討。
厚生労働科学研究費補助金創薬基盤推進研究事業、血管炎治療のための人工エポリクロナルグロブリン製剤の開発と安全性確保に関する研究班、第1回班会議、千葉、平成20年6月28日。
20. 有村義宏、和田隆志：ANCA関連血管炎の寛解維持療法における副腎皮質ステロイド療法の研究。厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業難治性血管炎に関する調査研究。平成20年度第1回班会議、東京、平成20年7月11日。
21. 有村義宏：膠原病・血管炎の新しい展開＝ANCA関連血管炎。第385回国際治療談話会例会、東京、平成20年7月17日。
22. 川嶋聡子：溶連菌感染後急性腎炎から回復7年後に大量の内皮下沈着物を生じた1例。第40回三多摩腎生検カンファランス、三鷹、平成20年8月6日。
23. 平原一郎、武藤重明、海野鉄男、井上真、安藤康宏、湯村和子、石橋由孝、清水英樹、要伸也、藤田敏郎、草野英二：新しい動物モデルを用いた遺伝子発現および代謝産物の網羅的解析による被嚢性腹膜硬化症の発症メカニズムの解明。第14回日本腹膜透析研究会、札幌、平成20年9月13日。
24. 有村義宏：ANCA関連血管炎の寛解維持治療-ミゾリビン治療を中心に-。多摩ANCAフォーラム、東京、平成20年9月25日。
25. 山田明：CKDにおけるEPO治療について。第2回立川保存期腎不全研究会、東京、平成20年9月26日。
26. 池谷紀子、吉原堅、須藤京、小路仁、有村義宏、山田明、甫守正史：乳房外Paget病の骨髄転移による血栓性血小板減少性紫斑病を呈した1例。第557回日本内科学会関東地方会、東京、平成20年10月4日。
27. 有村義宏：ミニレクチャー：ANCA関連血管炎-治療のup to date。第38回日本腎臓学会東部学術大会、東京、平成20年10月11日。
28. 齋藤督芸、野村和史、大塚貴子、須藤京、福岡利仁、要伸也、有村義宏、山田明：高度蛋白尿を来した溶連菌感染後急性糸球体腎炎(PSAGN)の一例。第38回日本腎臓学会東部学術大会、東京、平成20年10月11日～12日。

29. 窪田沙也花、小西文晴、野村和史、福岡利仁、吉原堅、要伸也、有村義宏、山田明：膜性腎症を合併したANCA関連血管炎の1例。第38回日本腎臓学会東部学術大会、東京、平成20年10月11日～12日。
30. 岩沢彰子、齋藤督芸、要伸也、有村義宏、山田明：維持透析導入から18年間のMPO-ANCA高値持続後に肺出血と強膜炎で再燃した顕微鏡的多発血管炎の1例。第38回日本腎臓学会東部学術大会、東京、平成20年10月11日～12日。
31. 要伸也、福岡利仁、軽部美穂、吉原堅、有村義宏、山田明：スタチン製剤が誘因と考えられる偽性高カリウム血症の一例。第38回日本腎臓学会東部学術大会、東京、平成20年10月11日～12日。
32. 山田明：ネフローゼ症候群の再発予防と再発治療。第38回日本腎臓学会東部学術大会、東京、平成20年10月11日～12日。
33. 要伸也：CKD-MBDの概念と二次性副甲状腺機能亢進症の内科的管理。第41回日本甲状腺外科学会、東京、平成20年10月17日。
34. 有村義宏、軽部美穂、山田明：ANCA関連血管炎。第16回七隈膠原病セミナー、福岡、平成20年10月23日。
35. 有村義宏、軽部美穂、山田明：中・小型血管炎と悪性腫瘍-本邦報告例の検討-。厚生省血管炎治療のための人工エポリクローナルグロブリン製剤の開発と安全性確保に関する研究班班会議、東京、平成20年11月14日。
36. 平野綾、浅原千歩、要伸也、有村義宏、山田明：シェーグレン症候群の経過中に全身性エリテマトーデスを発症した一例。第37回杏林医学会総会、三鷹、平成20年11月15日。
37. 要伸也¹、早川哲¹、軽部美穂¹、吉原堅¹、有村義宏¹、山田明¹、田中利明²、奴田原紀久³（¹杏林大学第一内科、²杏林大学第三内科、³杏林大学泌尿器科）：保存期に腎結石と急速な副甲状腺機能亢進症の進行を認めた慢性腎不全の一例。第56回三多摩腎疾患治療医会、三鷹、平成20年11月16日。
38. 軽部美穂：APLSによるネフローゼ症候群の1例。第42回三多摩腎生検カンファランス、三鷹、平成20年11月26日。
39. 有村義宏：ANCA関連血管炎の病態と治療。南大阪 Nephrology Forum、大阪、平成20年11月27日。
40. 平野綾、野村和史、要伸也、有村義宏、山田明：シェーグレン症候群の経過中に全身性エリテマトーデスを発症した一例。第19回日本リウマチ学会関東支部学術集会、群馬、平成20年12月6日。
41. 軽部美穂、齋藤督芸、池谷紀子、要伸也、有村義宏、山田明：自己免疫性溶血性貧血を合併したネフローゼ症候群にMPGN様糸球病変を認めた1例。第55回東京腎生検カンファランス、東京、平成20年12月22日。
42. 有村義宏：見逃しやすい臨床症候群-急速進行性腎炎症候群。三鷹市医師会 学術講演会、東京、平成21年1月22日。
43. 要伸也：CKDを考慮した脂質異常症の管理。Frontier Lipid Forum、東京、平成21年1月24日。
44. 平野綾：ステロイド中止を契機にループス腎炎を発症したシェーグレン症候群の1例。第43回三多摩腎生検カンファランス、三鷹、平成21年1月28日。

45. 福岡利仁、木村里緒、大塚貴子、小西文晴、渡邊沙也花、要伸也、有村義宏、山田明：CKDに5-HT_{2A}受容体拮抗薬は有効か？. 第14回関東甲信越セロトニン研究会学術集会、東京、平成21年2月7日.
46. 小西文晴、大塚貴子、渡邊沙也花、川嶋聡子、福岡利仁、軽部美穂、吉原堅、要伸也、有村義宏、山田明：広範囲の下腿皮膚潰瘍を生じたMPO-ANCA陽性Churg Strauss症候群(CSS)の1例. 第560回日本内科学会関東地方会、東京、平成21年2月9日.
47. 軽部美穂、有村義宏、大和恒恵、大塚貴子、山田明：当院におけるLCAP使用経験と経過. 第2回西東京地区RA-LCAP症例検討会、東京、平成21年2月26日.
48. 要伸也：慢性腎臓病(CKD)の概念と食事療法. 多摩府中保健所 栄養管理講習会、府中、平成21年3月9日.
49. 藤田直己、平松佐紀子、濱井章、千々和京介、畑真珠、吉原堅、福岡利仁、軽部美穂、則竹敬子、要伸也、山田明：腹膜透析短期導入パス. 第4回多摩PD研究会、東京、平成21年3月14日.
50. 磯村杏耶：PR-3ANCA陽性を呈した細菌性心内膜炎に伴う糸球体腎炎. 第44回三多摩腎生検カンファランス、三鷹、平成21年3月25日
51. 要伸也：ガイドラインをふまえたCKD治療. Mitaka Executive Seminar, 東京、平成21年3月31日.

II 論文

1. Shibasaki H¹, Nakayama H^{1,a}, Furuta T¹, Kasuya Y¹, Tsuchiya M, Soejima A, Yamada A, Nagasawa T (¹Department of Medicinal Chemistry and Clinical Pharmacy, School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Sciences) : Simultaneous determination of prednisolone, prednisone, cortisol, and cortisone in plasma by GC-MS: Estimating unbound prednisolone concentration in patients with nephritic syndrome during oral prednisolone therapy. *Journal of Chromatography B*, 870, 164-169, 2008
2. Yoshihara K, Arimura Y, Kawashima S, Sudo M, Ikegaya N, Ohtsuka T, Kouji H, Fukuoka K, Karube M, Kaname S, Nakabayashi K, Yamada A: Clinical evaluation of capture ELISA for detection of PR3-ANCA. *Mod Rheumatol* 18s : 2008
3. Sudo M, Arimura Y, Hayakawa S, Karube M, Yoshihara K, Kaname S, Nakabayashi K, Yamada A: Relapse cases of MPO-ANCA associated vasculitis without MPO-ANCA. *Mod Rheumatol* 18s : 2008
4. Nakabayashi K, Kouji H, Yoshihara K, Arimura Y, Yamada A: Spontaneous Regression of Lymphoproliferative Disorder in a Patient Treated With Methotrexate for Rheumatoid Arthritis. *Mod Rheumatol* 18s : 2008
5. Aota N^a, Hirahara K^a, Kano Y^a, Fukuoka T^b, Yamada A^b, Shiohara T^a (Departments of^a Dermatology and^b Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan : Systemic Lupus Erythematosus Presenting with Kikuchi-Fujimoto's Disease as a Long-Term Sequela of Drug-Induced Hypersensitivity Syndrome. *Dermatology* 218:275-277, 2009
6. Joh K, Muso E, Shigematsu H, Nose M, Nagata M, Arimura Y, Yumura W, Wada T, Nitta K, Makino H, Taguma Y, Kaneoka H, Suzuki Y, Kobayashi M, Koyama A, Usui J, Hashimoto H, Ozaki S, Tomino

- Y, Yamagata K. : Renal pathology of ANCA-related vasculitis: proposal for standardization of pathological diagnosis in Japan. *Clin Exp Nephrol*. 12: 277-91, 2008.
7. Arimura Y: Anti-neutrophil cytoplasmic antibody(ANCA) associated asculitis. *International Medical News*. International Medical Society of Japan. 431: 8-11, 2008.
 8. Kumagai T, Ishibashi Y, Kawarazaki H, Kawarazaki W, Shimizu H, Kaname S, & Fujita T: Effects of nocturnal oxygen therapy on sleep apnea syndrome in PD patients. *Clin Nephrol* 70:332-339, 2008.
 9. Mimura I, Ishibashi Y, Tateishi R, Kume H, Ishikawa A, Kaname S, & Fujita F: Pegylated interferon alpha-2a monotherapy in a peritoneal dialysis patient with chronic hepatitis C. *Nephrol Dial Transplant Plus* 4: 233-235, 2008.
 10. Takemoto F, Ubara, Kaname S, Katori H, Sawa N, Hoshino J, Suwabe T, Higa Y, Nakanishi S, Nagata M, Ohashi K, & Takaichi K: Hyporeninemic hypoaldosteronism from secondary amyloidosis. *Kidney Int* 74:542, 2008.
 11. Hirahara H, Ishibashi Y, Kaname S, Kusano E, & Fujita T: Methylglyoxal induces peritoneal thickening by mesenchymal-like mesothelial cells in rats. *Nephrol Dial Transplant* 24: 437-447, 2009.
 12. 山田明：膠原病・血管炎と RAA 系. *腎と透析* Vol.64 No1 382-385 2008
 13. 山田明：慢性腎炎の治療. *ドクターサロン*. Vol.52：23-25、2008
 14. 小路仁、山田明：膠原病における異所性石灰化の病因、臨床的特徴とその治療. *腎と透析* Vol.66 No2：202-206、2009
 15. 有村義宏：ANCA 関連血管炎 膠原病診断のブレークスルー—早期診断・早期治療のポイント—臨床雑誌「内科」101(4)：641-648,2008
 16. 有村義宏：腎疾患 診断と治療の進歩 II.検査データの見方 5.自己抗体.日本内科学会雑誌 97(5):71-77,2008
 17. 有村義宏：血管炎の検査. *Vascular Lab* 5：322-325,2008
 18. 有村義宏, 軽部美穂：血管炎と悪性腫瘍. *リウマチ科* 40(1)：86-92,2008
 19. 有村義宏：肺血管炎の基礎と臨床 ウェゲナー肉芽腫症：病態と治療の最新情報. *呼吸器科* 14(4):275-282,2008
 20. 有村義宏：巻頭言 視点を変えると病気が見える. *腎と透析* 66(2):157-158,2009
 21. 有村義宏,和田隆志,原章規,吉原堅：顕微鏡的多発血管炎の寛解維持療法における再燃の危険因子に関する後ろ向きコホート研究. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 難治性血管炎に関する調査研究 平成 20 年度総括・分担研究報告書 122- 123, 2009.
 22. 有村義宏：膠原病診療の最近の進歩と今後の展望-血管炎症候群. *Medico* 39: 449-451, 2008.
 23. 有村義宏: ANCA 関連血管炎. *日本国際医学協会誌* 431: 3, 2008.
 24. 川嶋聡子, 有村義宏, 中林公正, 山田明 :MPO-ANCA 関連血管炎における糸球体内 MPO 陽性細胞および細胞外 MPO についての腎病理組織学的検討. *日腎会誌* 51: 56-67, 2009.
 25. 有村義宏：日本人の降圧療法を考える-わが国発のエビデンスからのメッセージ. *Pharma Medica* 26: 98, 2008.
 26. 尾崎承一, 中林公正, 有村義宏, 長澤浩平, 野島美久, 廣村桂樹：血管炎症候群の診療ガイドライン V.結節性多発動脈炎. *Circulation Journal* 72: 1289-1296, 2008.

27. 有村義宏, 川嶋聡子, 吉原堅 : ANCA 関連血管炎と RPGN. 日腎会誌 51: 88-93, 2009.
28. 要伸也 : 透析トラブル Q & A: 胸痛の原因と対策. 腎と透析 64 (5): 629-32, 2008
29. 要伸也 : 急性腎不全-AKI シラバス: 造影剤の予防法. 内科 102(1):103-108, 2008.
30. 要伸也 : 新しい腎機能マーカー. 検査と技術 36(7): 668-670, 2008.
31. 要伸也 : 日本人にとって最適な降圧療法とは? ~日本人のエビデンスを検証して~. Pharma Medica 26(6): 90,2009,
32. 齊藤督芸, 要伸也 : そこが知りたい糖尿病 Q & A. Q16 糖尿病患者の低蛋白血症 (ネフローゼ状態・栄養不足の場合) に対するの支援方法. ナーシングケア Q&A21 : 24-35、2008.
33. 窪田沙也花, 要伸也. Henderson-Hasselbalch の式からひも解く酸塩基平衡の調節メカニズム. 薬局 59(9)、2839-2845、2008.
34. 福岡利仁、大塚貴子、有村義宏、中林公正 : 腹部大動脈瘤破裂で死亡した多発性大動脈瘤・多臓器梗塞を認めた SLE・APS の一例. 脈管学、48 (5) : 482-483、2008.

III 著書

1. 山田明 : 急性腎不全. 腎毒性の発現を抑えるために造影剤の投与は、どのように行うのでしょうか?. 腎臓病の治療 2008-2009、富野康日己監修、柏原直樹、南学正臣編集、中外医学社、2008、p233-236.
2. 山田明 : 抗糸球体基底膜 (GBM) 抗体. 臨床検査ガイド 2009~2010、Medical Practice 編、文光堂、2009、p712-713.
3. 山田明 : 尿中アルブミン、尿中IV型コラーゲン. 臨床検査ガイド 2009~2010、Medical Practice 編、文光堂、2009、p959-962.
4. 山田明 : 薬物療法と食事療法. 血液浄化療法ハンドブック [改訂第 5 版]、透析療法合同専門委員会 企画・編集、協同医書出版社、2009、p281-296.
5. 山田明 : 全身性血管炎の診断と治療. 主要病態・主要疾患の論文集 2010 医療情報科学研究所編集、メディックメディア、2009、p1075-1085.
6. 有村義宏 (分担執筆) : 高尿素窒素血症. 抗好中球細胞質抗体他. 総計 30 項目. 医学大辞典 (第 2 版). 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨編集. 東京, 医学書院, 2009.

IV その他

1. 和田隆志、有村義宏、原章規、吉原堅 : 顕微鏡的多発血管炎の寛解維持療法における再燃の危険因子に関する後ろ向きコホート研究. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患 克服研究事業 難治性血管炎に関する調査研究 平成 20 年度 総括・分担研究報告書 122-123,2009
2. 山縣邦弘、槇野博史、有村義宏、新田孝作、武曾絵里、和田隆志、田熊淑男、小林正貴、堀越哲 : 急速進行性腎炎分科会分担研究報告書. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 進行性腎障害調査研究 平成 20 年度 総括・分担研究報告書 51-58,2009

第一内科学教室（神経内科）

I. 口演（学会等）

1. 西山和利, 岡野晴子, 河合拓也¹, 山田智美, 脊山英徳¹, 新田勇介¹, 栗田浩樹¹, 山口芳裕²（¹杏林大・脳外科, ²杏林大・救急科）：tPA療法実施にあたり適否の判断に苦慮した症例. 第1回首都圏脳卒中フォーラム, 東京, 平成20年4月15日.
2. 内堀歩, 長田純理, 宮崎泰, 小路仁¹, 千葉厚郎（¹杏林大・リウマチ膠原病内科）：小脳に限局した可逆性病変を3回繰り返したSLEの24歳女性例. 第20回日本神経免疫学会学術集会, 新潟, 平成20年4月17-18日.
3. 千葉厚郎：Wearing-off治療について. Expert Meeting In TAMA, 立川, 平成20年4月21日
4. 西山和利, 脊山英徳¹, 岡野晴子, 山田智美, 栗田浩樹¹, 山田深², 松田剛明³, 松本由美⁴, 岡島康友², 塩川芳昭¹, 千葉厚郎, 山口芳裕³（¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科, ⁴杏林大・看護部）：本邦における現状のtPA静注療法運用の問題点に関する検討. 第49回神経学会総会, 横浜, 平成20年5月15日-17日.
5. 大石知瑞子, 園生雅弘¹, 清水輝夫¹, 千葉厚郎（¹帝京大・医・神経内科）：外側前腕皮神経（LAC）の感覚神経伝導検査（SCS）における新たなpitfall. 第49回日本神経学会総会, 横浜, 平成20年5月15-17日.
6. 門馬博¹, 山田深¹, 石田幸平¹, 東條友紀子¹, 前田直¹, 松本由美², 栗田浩樹³, 西山和利, 岡島康友¹, 山口芳裕⁴（¹杏林大・リハビリテーション科, ²杏林大・看護部, ³杏林大・脳外科, ⁴杏林大・救急科）：入院後に症状が増悪したBranch Atheromatous Disease(BAD)症例の臨床経過. 第43回日本理学療法学会学術大会, 福岡, 平成20年5月15日-17日.
7. 東條友紀子¹, 門馬博¹, 山田深¹, 岡島康友¹, 栗田浩樹², 脊山英徳², 西山和利, 松本由美³, 山口芳裕⁴（¹杏林大・リハビリテーション科, ²杏林大・脳外科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科）：都市型脳卒中センターにおける脳卒中重症度とADL転帰の関係, 第43回日本理学療法学会学術大会, 福岡, 平成20年5月15日-17日
8. 西山和利：脳血管障害の最新の治療動向. 第139回秋元ゼミナール, 武蔵野市, 平成20年6月5日.
9. Yoshino M¹, Yamada S², Niina Y¹, Okazaki M¹, Shimotomai Y¹, Matsumoto Y¹, Kurita H³, Nishiyama K, Okajima Y², Shiokawa Y³, Yamaguchi Y⁴（¹杏林大・看護部, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・脳外科, ⁴杏林大・救急科）：Effectiveness of a systemic oral care program for acute stroke unit care. 9th Japanese and Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke(JKFC), Daegu, Korea, Jun 6-7, 2008
10. Tokisaki Y¹, Yamada S², Kuroda Y¹, Shimotomai Y¹, Matsumoto Y¹, Kurita H³, Nishiyama K, Okajima K², Shiokawa Y³ & Yamaguchi Y⁴（¹杏林大・看護部, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・脳外科, ⁴杏林大・救急科）：A variation study of the FIM for use in acute stroke care settings. 9th Japanese & Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke (JKFC), Daegu, Korea, Jun 6-7, 2008
11. 西山和利, 河合拓也¹, 岡野晴子, 栗田浩樹¹, 千葉厚郎（¹杏林大・脳外科）：亜急性期に神経症状の増悪を示し血腫被膜様化を伴った脳内出血の2例. 第185回神経学会関東地方会, 東京, 平成20年6月7日.

12. 西山和利：糖尿病患者における脳卒中の治療・管理. 第3回西東京糖尿病合併症予防フォーラム, 東京, 平成20年6月11日.
13. 西山和利：杏林大学における多職種参加型脳卒中センターの現状と課題. 第22回日本神経救急学会学術集会シンポジウム, 東京, 平成20年6月21日.
14. 西山和利, 脊山英徳¹, 岡野晴子, 栗田浩樹¹, 山田深², 松本由美³, 塩川芳昭, 岡島康友, 千葉厚郎, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科)：急性期脳梗塞に対する rt-PA 療法の現状と問題点～杏林大学病院脳卒中センターからの報告～. 第22回日本神経救急学会学術集会, 東京, 平成20年6月21日.
15. 西山和利：脳卒中の治療～最新の知見から～. 調布市脳卒中勉強会講演, 府中市, 平成20年6月24日.
16. 千葉厚郎：Wearing-off 現象の診断と薬物治療. コムタン錠発売1周年記念講演会, 立川, 平成20年7月11日.
17. 西山和利：最新の脳卒中診療に関する動向. Meet The Specialist 講演会, 東京, 平成20年7月22日.
18. Momma H¹, Yamada S¹, Ishita K¹, Tojo Y¹, Taku M¹, Maeda S¹, Son-nyu R¹, Matsumoto Y², Kurita H³, Nishiyama K, Okajima Y¹ & Yamaguchi Y⁴ (1 杏林大・リハビリテーション科, ² 杏林大・看護部, ³杏林大・脳外科, ⁴杏林大・救急科)：10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy. Makuhari, Chiba, Japan, Aug 29-Sep1, 2008
19. 岡村耕一¹, 西山和利, 岡野晴子, 山田深², 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (1 杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科)：心原性脳塞栓症における超急性期抗凝固療法の評価, 第27回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 仙台, 平成20年8月30日.
20. 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利, 山田深², 塩川芳昭¹ (1 杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科)：脳卒中センターにおける脳神経外科医と外科的治療, 第27回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 仙台, 平成20年8月30日.
21. 西山和利：脳卒中診療の動向～杏林大学脳卒中センターからの報告～. 東村山市医師会学術講演会. 東村山市, 平成20年9月4日.
22. 大石知瑞子, 長田純理, 宮崎泰, 千葉厚郎：当院における重症感染症の診断について. 第32回 Tokyo Infection Conference, 東京, 平成20年9月5日.
23. 大石知瑞子, 長田純理, 宮崎泰, 千葉厚郎：髄液 interferon- γ release assay を経時的に検討した結核性髄膜炎の33歳、男性例. 第186回日本神経学会関東地方会, 東京, 平成20年9月6日.
24. 塚本浩¹, 畑中裕己¹, 園生雅弘¹, 清水輝夫¹, 千葉厚郎 (1 帝京大・神経内科)：下肢優位に四肢近位部にも筋力低下を認めた抗 MAG 抗体陽性ニューロパチーの66歳男性例. 第186回日本神経学会関東地方会, 東京, 平成20年9月6日.
25. 西山和利：杏林大学における多職種参加型脳卒中センターの現状と課題～当地域での脳卒中診療連携を目指して～, 杏林大学脳卒中診療連携の会, 三鷹, 平成20年9月9日.
26. Oishi C, Sonoo M¹, Shimizu T¹, Chiba A (1Department of Neurology Teikyo University School of Medicine)：Normal values of the lateral antebrachial cutaneous nerve (LAC) sensory. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 55th Annual Meeting. Providence, Sep. 17-20, 2008.
27. Ohira M¹, Sonoo M², Oishi C, Kurokawa K³, Shimizu T², Suzuki N¹ (1Department of Neurology

Keio University School of Medicine, ²Department of Neurology Teikyo University School of Medicine, ³Department of Neurology Hiroshima City Asa Hospital) : Origin of the premotor potentials preceding apb and second lumbrical CMAPS. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 55th Annual Meeting. Providence, Sep. 17-20, 2008.

28. 斎藤明子, 内堀歩, 宮崎泰, 千葉厚郎 : RPLS 様の画像所見を呈した ADEM の 1 例. 第 28 回 Clinical Neurology Club, 東京, 平成 20 年 9 月 19 日.
29. Ishita K¹, Yamada S¹, Momma H¹, Okajima Y¹, Kurita H², Nishiyama K, Matsumoto Y³ & Yamaguchi Y⁴ (¹杏林大・リハビリテーション科, ²杏林大・脳外科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科) : Motor dysfunction and recovery in the upper limb following stroke. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008
30. Okano H, Nishiyama K, Kawai T¹, Udagawa M, Seyama H¹, Matsumoto Y², Yamada S³, Kurita H¹, Chiba A, Yamaguchi Y⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・看護部, ³杏林大・リハビリテーション科, ⁴杏林大・救急科) : Investigation on apoplexy-related drugs used at large stroke care center in Japan. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008.
31. Ushigome Y, Nishiyama K, Kawai T¹, Okano H, Takami M, Yamada S², Matsumoto Y³, Kurita H¹, Yamaguchi Y⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科) : Subacute encapsulation of intracranial hemorrhage with clinical deterioration. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008.
32. Yamada S, Nishiyama K, Okano H, Seyama H¹, Kawai T¹, Araoka C, Kurita H¹, Chiba A, Yamada S², Yamaguchi Y³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救命救急科) : Carotid intima-media thickness does not predict the development of intracranial atheromatous disease and perforator arteriosclerosis. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008.
33. Nishiyama K, Seyama H¹, Okano H, Kawai T¹, Matsumoto Y², Yamada S³, Kurita H¹, Chiba A, Yamaguchi Y⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・看護部, ³杏林大・リハビリテーション科, ⁴杏林大・救急科) : Investigation of initial dose regimen for cilostazol treatment in acute-stage cerebral infarction. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008.
34. Kurita H¹, Shiokawa Y¹, Saito I¹, Yamaguchi R¹, Seyama H¹, Nishiyama K, Yamada S², Matsumoto Y³ & Yamaguchi Y⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科) : Analysis of clinical outcome of aneurysmal subarachnoid hemorrhage: a single institution experience with 1268 patients (1994-2007). 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008
35. Yamada S¹, Momma H¹, Kurita H², Nishiyama K, Matsumoto Y³, Okajima Y¹ & Yamaguchi Y² (¹杏林大・リハビリテーション科, ²杏林大・脳外科, ³杏林大・看護部) : Prognostic prediction models for use in acute stroke rehabilitation. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008
36. Niina Y¹, Yamada S², Okazaki M¹, Matsumoto Y¹, Shimotomai Y¹, Hashimoto K¹, Kurita H³, Nishiyama K, Okajima Y² & Yamaguchi Y⁴ (¹杏林大・看護部, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・脳外科, ⁴杏林大・救急科) : A nurse-led dysphagia rehabilitation program in an acute stroke unit. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008
37. Tojyo Y¹, Yamada S¹, Kurita H², Nishiyama K, Matsumoto Y³, Okajima Y¹, Yamaguchi Y⁴ (¹杏林

- 大・リハビリテーション科, ²杏林大・脳外科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科) : Significance of ADL evaluation by the FIM among stroke patients who are transferred to a rehabilitation hospital. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008
38. Nishiyama K : Two Clinical Studies on Acute Brain Attack: 1)Cilostazol therapy on acute ischemic stroke, 2)Intracerebral hemorrhage with encapsulation-like change. Stroke Conference in Vienna, Wien, Austria, Sep 26,2008
39. 西山和利 : 「脳卒中診療の動向～杏林大学脳卒中センターからの報告～」, 野村病院院内研修講演会, 三鷹, 平成 20 年 9 月 29 日.
40. 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利, 山田深², 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科) : 杏林大学脳卒中センターにおける頸動脈狭窄症に対する治療, 第 67 回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 1 日-3 日.
41. 岡村耕一¹, 西山和利, 岡野晴子, 山田深², 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科) : 心原性脳塞栓症における超急性期抗凝固療法の評価. 第 67 回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 1 日-3 日.
42. 本田有子¹, 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利, 山田深², 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科) : 杏林大学病院脳卒中センターで施行した tPA 静注療法 89 例の解析, 第 67 回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 1 日-3 日.
43. 西山和利, 岡村耕一¹, 岡野晴子, 栗田浩樹¹, 山口芳裕² (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・救急科) : rt-PA 静注療法直後に心破裂を生じた心脳卒中の一例. 第 2 回首都圏脳卒中フォーラム. 東京, 平成 20 年 10 月 31 日.
44. 宮越睦¹, 池田隆徳¹, 三輪陽介¹, 榊桂¹, 石黒晴久¹, 塚田雄大¹, 阿部敦子¹, 米良尚晃¹, 柚須悟¹, 吉野秀朗¹, 西山和利, 栗田浩樹², 山口芳裕³ (¹杏林大・循環器内科, ²杏林大・脳外科, ³杏林大・救急科) : 脳卒中センター (SCU) に搬送された患者における心房細動による心原性脳塞栓の頻度. 第 25 回日本心電学会学術集会, 新潟, 平成 20 年 11 月 1 日-2 日.
45. 西山和利 : 神経・筋のサルコイドーシス病変. 第 28 回日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会総会, 招待教育講演, 仙台, 平成 20 年 11 月 7 日-8 日.
46. 大石知瑞子, 園生雅弘¹, 清水輝夫¹, 千葉厚郎 (¹帝京大・医・神経内科) : 外側前腕皮神経 (LAC) の感覚神経伝導検査 (SCS) における pitfall : 正中神経. 第 38 回日本臨床神経生理学学会学術大会, 神戸, 平成 20 年 11 月 12-14 日.
47. 大平雅之¹, 園生雅弘², 大石知瑞子, 黒川勝巳³, 清水輝夫², 鈴木則宏¹ (¹慶応義塾大・医・神経内科, ²帝京大・医・神経内科, ³広島県立安佐市民病院・神経内科) : 母子外転筋(APB)・第 2 虫様筋(2L)における premotor potential の起源 : 遠隔電場電位(FFP)の関与について. 第 38 回日本臨床神経生理学学会学術大会, 神戸, 平成 20 年 11 月 12-14 日.
48. 西山和利, 脊山英徳¹, 岡野晴子, 岡村耕一¹, 松本由美², 山田深³, 松田剛明⁴, 栗田浩樹¹, 千葉厚郎, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・看護部, ³杏林大・リハビリテーション科, ⁴杏林大・救急科) : 脳卒中急性期における頭痛に関する研究～特に椎骨脳底動脈系動脈解離に注目して～. 第 36 回日本頭痛学会総会, 東京, 平成 20 年 11 月 14 日-15 日.
49. 宮方基行, 平岩直也¹, 山田智美, 本田有子¹, 脊山英徳¹, 山田深², 栗田浩樹¹, 西山和利, 塩川

- 芳昭¹, 千葉厚郎, 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科): 口顔面失行を呈した脳梗塞の一例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
50. 田中雅貴, 西山和利, 岡村耕一¹, 岡野晴子, 松本由美², 山田深³, 栗田浩樹¹, 千葉厚郎, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・看護部, ³杏林大・リハビリテーション科, ⁴杏林大・救急科): ラクナ梗塞との鑑別に苦慮した高カルシウム血症の一例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
51. 石崎典彦, 山田智美, 本田有子¹, 鳥居正剛¹, 脊山英徳¹, 山田深², 松本由美³, 栗田浩樹¹, 西山和利, 千葉厚郎, 塩川芳昭¹, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科): 脳梗塞急性期にのみ alien hand syndrome を呈した1症例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
52. 浅原千歩, 岡村耕一¹, 西山和利, 岡野晴子, 山田深², 松本由美³, 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹, 千葉厚郎, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科): 心原性脳塞栓症における超急性期抗凝固療法の評価. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
53. 小田未来, 西山和利, 岡野晴子, 岡村耕一¹, 松本由美², 山田深³, 栗田浩樹¹, 千葉厚郎, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・看護部, ³杏林大・リハビリテーション科, ⁴杏林大・救急科): 右前大脳動脈梗塞により消去現象を伴わない左半側空間無視を呈した一例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
54. 三上大介, 西山和利, 岡村耕一¹, 岡野晴子, 松本由美², 山田深³, 栗田浩樹¹, 千葉厚郎, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・看護部, ³杏林大・リハビリテーション科, ⁴杏林大・救急科): 硬膜外麻酔施行中に突発完成型の発症をし, 脳塞栓症との鑑別に苦慮した reversible posterior leukoencephalopathy syndrome の一例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
55. 牛込悠紀子, 西山和利, 河合拓也¹, 岡野晴子, 山田深², 松本由美³, 栗田浩樹¹, 千葉厚郎, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科): 脳出血亜急性期に血腫被膜様化を示す症状の増悪を認めた特異な脳出血の2例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
56. 宮方基行, 平岩直也¹, 山田智美, 本田有子¹, 脊山英徳¹, 山田深², 栗田浩樹¹, 西山和利, 塩川芳昭¹, 千葉厚郎, 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科): 口顔面失行を呈した脳梗塞の一例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
57. 石崎典彦, 山田智美, 本田有子¹, 鳥居正剛¹, 脊山英徳¹, 山田深², 松本由美³, 栗田浩樹¹, 西山和利, 千葉厚郎, 塩川芳昭¹, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科): 脳梗塞急性期にのみ alien hand syndrome を呈した1症例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
58. 平岩直也¹, 脊山英徳¹, 山田智美, 本田有子¹, 西山和利, 栗田浩樹¹, 佐藤栄志¹, 塩川芳裕¹, 山口芳裕² (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・救急科): rt-PA 時代の経動脈的血栓溶解療法. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
59. 千葉厚郎: 小脳に限局性病変を3回繰り返した SLE の24歳女性例. 第2回多摩神経免疫研究会, 立川, 平成20年11月21日.

60. Kurita H¹, Shiokawa Y¹, Saito I¹, Yamaguchi R¹, Seyama H¹, Nishiyama K, Yamada S², Matsumoto Y³ & Yamaguchi Y⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科) : Analysis of clinical outcome of aneurysmal subarachnoid hemorrhage : a single institution experience with 1268 patients (1994-2007). The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference. Fukuoka, Japan, Nov 21-23, 2008.
61. Honda Y¹, Seyama H¹, Kurita H¹, Nishiyama K, Yamada S², Matsumoto Y³, Shiokawa Y¹ & Yamaguchi Y⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科) : Clinical analysis of intravenous tPA therapy for hyperacute ischemic stroke: 2-year experience with 89 cases. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference. Fukuoka, Japan , Nov 21-23, 2008.
62. Hashimoto K¹, Okazaki M¹, Niina Y¹, Matsumoto Y¹, Saito Y¹, Yamada S², Kurita H³, Nishiyama K, Okajima Y² & Yamaguchi Y⁴ (¹杏林大・看護部, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・脳外科, ⁴杏林大・救急科) : A nurse-led intervention for improving oral hygiene in patients following stroke. 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, Japan, 2008.11.21-23.
63. Kamiyama H¹, Yamada S¹, Momma H¹, Okajima Y¹, Kurita H², Nishiyama K, Matsumoto Y³ & Yamaguchi Y⁴ (¹杏林大・リハビリテーション科, ²杏林大・脳外科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科) : Motor function as predicting factors for locomotive abilities in patients with acute stroke. 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, Japan, 2008.11.21-23.
64. 岡野晴子, 西山和利, 山田智美, 脊山英徳¹, 千葉厚郎 (¹杏林大・脳外科) : 脳血管撮影時に脳出血を合併し後にhCG産生腫瘍と診断された43歳女性例. 第187回神経学会関東地方会, 東京, 平成20年11月29日.
65. 西山和利 : 内科医からみた脳卒中診療の動向～杏林大学病院からの報告～. 多摩市・稲城市医師会合同学術講演会, 多摩, 平成21年1月21日.
66. 西山和利 : 変革する脳梗塞治療の動向～超急性期血栓溶解療法から慢性期治療まで. 第10回福島高血圧合併症研究会, 郡山, 平成21年1月24日.
67. 西山和利 : 杏林大学脳卒中センターにおいてクロピドグレルを新規導入した110例の追跡調査～EBMに基づいた処方～, 武蔵野脳虚血セミナー, 調布, 平成21年2月23日.
68. 西山和利 : 講演「頸動脈病変～内科的治療」, 第5回多摩ストローク研究会, 立川, 平成21年2月26日.
69. 西山和利, 山田智美, 小林洋和, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・脳外科) : 平成20年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業「わが国における脳卒中再発予防のための急性期内科治療戦略の確立に関する研究」班会議, 吹田, 平成21年2月27日
70. 長田純理, 内堀歩, 宮崎泰, 千葉厚郎 : β サラセミアを伴い小脳萎縮を認めた21歳男性例. 第188回日本神経学会関東地方会, 東京, 平成21年3月7日.
71. 千葉厚郎 : 整形外科を訪れる可能性のある神経内科疾患について. 第25回松崎ゼミナール, 武蔵野, 平成21年3月11日.
72. 内堀歩, 千葉厚郎 : Guillain-Barré症候群におけるmannose-binding lectinの検討. 第21回日本神経免疫学会学術集会, 大阪, 平成21年3月12-13日.
73. 千葉厚郎, 内堀歩 : IgG抗asialoGM1抗体陽性例についての検討. 第21回日本神経免疫学会学術集

会, 大阪, 平成 21 年 3 月 12-13 日.

74. 喜多也寸志¹, 内堀歩, 千葉厚郎, 佐治直樹¹, 清水洋孝¹ (¹兵庫県立姫路循環器病センター・神経内科): 血清 IgM 抗 TPI 抗体が陽性を示し、IVIG 大量静注療法が奏功した急性小脳性運動失調症の成人例. 第 21 回日本神経免疫学会学術集会, 大阪, 平成 21 年 3 月 12-13 日.
75. 根本圭子¹, 加藤雅江¹, 栗田浩樹², 西山和利, 山田深³, 松本由美⁴, 新名由利子⁴, 山口芳裕⁵ (¹杏林大・医療福祉相談室, ²杏林大・脳外科, ³杏林大・リハビリテーション科, ⁴杏林大・看護部, ⁵杏林大・救急科): 脳卒中センターにおける自宅への退院支援に関する検討. 第 34 回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成 21 年 3 月 20 日-22 日.
76. 栗田浩樹¹, 山口竜一¹, 河合拓也¹, 脊山英徳¹, 西山和利, 山田深², 松本由美³, 山口芳裕⁴, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科): 救命救急・脳卒中センターにおける破裂 AVM の臨床像と急性期外科治療. 第 34 回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成 21 年 3 月 20 日-22 日.
77. 栗田浩樹¹, 脊山英徳¹, 西山和利, 岡野晴子, 岡村耕一¹, 山田深², 松本由美³, 加藤雅江⁴, 山口竜一¹, 河合拓也¹, 塩川芳昭¹, 山口芳裕⁵ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・医療福祉相談室, ⁵杏林大・救急科): Stroke Team approach による脳卒中診療の効果: 杏林大学病院の 2007 年の治療成績から. 第 34 回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成 21 年 3 月 20 日-22 日.
78. 西山和利, 岡村耕一¹, 岡野晴子, 栗田浩樹¹, 千葉厚郎, 山口芳裕², 藤岡保範³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・救急科, ³杏林大・病理学): rt-PA 静注療法と心破裂に関する臨床検討. 第 34 回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成 21 年 3 月 20 日-22 日.
79. 西山和利, 岡野晴子, 大石知瑞子, 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 山田深², 松田剛明³, 千葉厚郎, 松本由美⁴, 山口芳昭³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科, ⁴杏林大・看護部): 脳梗塞超急性期における rt-PA 静注療法非実施症例の実態に関する臨床研究. 第 34 回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成 21 年 3 月 20 日-22 日.
80. 加藤謙典, 西山和利, 岡村耕一¹, 田中雅樹¹, 岡野晴子, 山田深², 栗田浩樹¹, 千葉厚郎, 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科): ラクナ梗塞との鑑別に苦慮した高カルシウム血症の一例. 第 34 回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成 21 年 3 月 20 日-22 日.
81. 岡野晴子, 西山和利, 紅谷鮎美, 岡村耕一¹, 脊山英徳¹, 小林洋和, 山田深², 栗田浩樹¹, 千葉厚郎, 山口芳昭³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科): 脳梗塞超急性期における rt-PA 静注療法の効果発現時期に関する臨床研究. 第 34 回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成 21 年 3 月 20 日-22 日.
82. 伊藤華子, 西山和利, 岡村耕一¹, 岡野晴子, 三上大介, 松本由美², 栗田浩樹¹, 山田深³, 千葉厚郎, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・看護部, ³杏林大・リハビリテーション科, ⁴杏林大・救急科): 硬膜外麻酔施行中に突発完成型の発症をし, 脳塞栓症との鑑別に苦慮した RPLS の一例. 第 34 回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成 21 年 3 月 20 日-22 日.
83. 宮方基行, 西山和利, 岡野晴子, 岡村耕一¹, 山田深², 栗田浩樹¹, 松本由美³, 千葉厚郎, 山口芳裕⁴, 武田克彦⁵ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科, ⁵

国際医療福祉大学・神経内科) : 消去現象と半側空間無視は独立した症候であることを示唆する右前頭葉梗塞の一例. 第34回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成21年3月20日-22日.

84. 岡村耕一¹, 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹, 山田智美, 西山和利, 山田深², 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科) : 絞頸後に頸動脈解離から脳梗塞を発症した1症例の検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成21年3月20日-22日
85. 小林洋和, 西山和利, 脊山英徳¹, 野崎和博, 岡村耕一¹, 栗田浩樹¹, 山田深², 松本由美³, 千葉厚郎, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科) : 脳動脈解離病変の検出におけるMRI・MRA画像の有用性に関する臨床検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成21年3月20日-22日.
86. 野沢絵理, 小林洋和, 西山和利, 佐藤研隆¹, 栗田浩樹¹, 山田深², 千葉厚郎, 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科) : rt-PA 静注療法後の頭蓋内出血合併に関する検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成21年3月20日-22日.
87. 新名由利子¹, 山田深², 岡崎雅代¹, 松本由美¹, 栗田浩樹³, 西山和利, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・看護部, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・脳外科, ⁴杏林大・救急科) : 脳卒中ユニットにおける看護師を中心とした摂食機能療法 (第2報). 第34回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成21年3月20日-22日
88. 東條友紀子¹, 山田深¹, 門馬博¹, 神山裕司¹, 岡島康友¹, 栗田浩樹², 西山和利, 松本由美³, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・リハビリテーション科, ²杏林大・脳外科, ³杏林大・看護部, ⁴杏林大・救急科) : 後期高齢者における急性期脳卒中リハビリテーション. 第34回日本脳卒中学会総会, 松江, 平成21年3月20日-22日
89. 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利, 山田深², 佐藤栄志¹, 小西善史¹, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・リハビリテーション科, ³杏林大・救急科) : 杏林大学病院脳卒中センターにおけるCEAとCASの治療成績. 第38回日本脳卒中の外科学会, 松江, 平成21年3月20日

II. 論文

1. 脊山英徳, 栗田浩樹, 西山和利, 山田深, 塩川芳昭, 松本由美, 加藤雅江, 山口芳裕 : 杏林大学病院における大都市型 stroke unit の新規開設と今後の展望. *Neurosurg Emerg.* 13:15-20, 2008
2. 脊山英徳, 栗田浩樹, 西山和利, 山田深, 塩川芳昭, 松本由美, 加藤雅江, 山口芳裕 : 杏林大学病院における大都市型 Stroke Unit の新規開設における戦略—tPA 静注療法施行体制確立の観点から. *脳卒中の外科* 36: 470-474, 2008
3. 大石知瑞子, 岡野晴子, 上釜和也*, 小林啓一¹, 永根基雄¹, 千葉厚郎, 作田学 (¹杏林大・医・脳神経外科, *現 狭山神経内科病院・神経内科) : 遷延した経過をたどった brainstem variant of reversible posterior leukoencephalopathy syndrome の一例. *臨床神経* 48 : 737-741, 2008.
4. Tsaiweichao-Shozawa Y, Sonoo M¹, Shimizu T¹ (¹Department of Neurology Teikyo University School of Medicine) : Patterns of Nerve Conduction Abnormalities in Severe Carpal Tunnel Syndrome. *J Clin Neurophysiol* 25 : 281-286, 2008
5. 新名由利子, 山田深, 岡崎雅代, 松本由美, 齊藤友美, 西山和利, 栗田浩樹, 今福圭子, 岡島康友, 山口芳裕 : 脳卒中ユニットにおける看護師を中心とした摂食機能療法. *脳卒中* 31: 23-28, 2009.

III. 著書

1. 西山和利, 上坂和義, 今福一郎, 國本雅也: 進む都市部での脳卒中医療連携, Japan Medicine. 1264: 24-26, 2008.
2. 西山和利, 栗田浩樹, 山田深, 脊山英徳, 松本由実, 塩川芳昭: Fighting Vascular Events, 脳卒中治療の最前線—杏林大学脳卒中センターの役割. 東京. 日経メディカル東京版. 2008, p.1-4.
3. 西山和利: 末梢神経の超音波検査. 神経内科「Neurosonology」. 東京. 科学評論社. 69: 430-436, 2008.
4. 千葉厚郎: ギラン・バレー症候群の疾患概念と疫学・診断. 医学のあゆみ. 東京, 医歯薬出版, 2008. p. 125-128.
5. 千葉厚郎: 病因・病態 Update. 日本臨床. 2008. p. 1184-1189.
6. 西山和利: 診療科からみた歩行障害・内科: 脳血管障害 (梗塞, 出血). 「歩行障害ハンドブック」三木隆己, 嶋田裕之 (編集). 東京. 真興交易 (株) 医書出版部. 2009, p138-151.
7. 千葉厚郎: Fisher 症候群. 神経内科. 東京, 科学評論社, 2009. p. 45-50.
8. 千葉厚郎, 内堀歩: 神経内科からみた脳卒中. 分子脳血管病. 東京, 先端医学社, 2009. p. 70-75.

IV. その他

1. 西山和利: 第1回首都圏脳卒中フォーラム開催. 東京, 平成20年4月15日.
2. 千葉厚郎: 第9回多摩パーキンソン病・運動障害フォーラム開催. 立川, 平成21年2月13日.

第二内科学教室（循環器）

I 口 演

- 1) 池田隆徳：セレクトサイトペーシングの意義と実際。第 12 回セレクトサイトペーシングワークショップ、東京、平成 20 年 4 月 5 日
- 2) 池田隆徳：心房細動の Update：心房細動の興奮伝播からみた発症メカニズム。第 47 回日本生体医工学会、神戸、平成 20 年 5 月 8 日
- 3) 池田隆徳：CCU における静注用 III 群抗不整脈薬の使い方。第 2 回熊本不整脈フォーラム、熊本、平成 20 年 5 月 8 日
- 4) 芦原貴司、八尾武憲、原口 亮、中沢一雄、藤堂貴弘、難波経豊、池田隆徳、伊藤 誠、堀江 稔：ジト慢性心房細動に対するマルチチャンネル遮断薬の効果に関する in silico 研究。第 47 回日本生体医工学会大会、神戸、平成 20 年 5 月 9 日
- 5) 池田隆徳：心房細動の診かたと治療：実践できるポイントとコツを知る。第 31 回城南循環器カンファレンス、東京、平成 20 年 5 月 10 日
- 6) 塚田雄大、池田隆徳、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、清水尚志、坂田好美、吉野秀朗：Electrical Storm による不整脈死を薬物の総合作用により回避し得た拡張型心筋症の 1 例。第 553 回日本内科学会関東地方学会、東京、平成 20 年 5 月 10 日
- 7) Ikeda T, Yusu S, Nakamura K, Mera H, Abe A, Ishiguro H, Tsukada T, Sakaki K, Miwa Y, Miyakoshi M, Yoshino H: Effect of anti-cholinergic blockades in patients with Brugada syndrome relevant to high vagal tone. 29th HRS (Heart Rhythm Society), San Francisco, May 15, 2008
- 8) Sakaki K, Ikeda T, Miwa Y, Miyakoshi M, Ishiguro H, Tsukada T, Abe A, Mera H, Nakamura K, Yusu S, Yoshino H: Time-domain T-wave alternans determined on Holter electrocardiogram predicts cardiac mortality in a population undergoing risk assessment: A prospective study. 29th HRS (Heart Rhythm Society), San Francisco, May 15, 2008
- 9) Hohnloser SH, Ikeda T, Cohen RJ: Predictive accuracy of microvolt T-wave alternans testing in primary prevention patients with and without ICDs. 29th HRS (Heart Rhythm Society), San Francisco, 2008.5.15
- 10) Kumagai K, Roy D, Ikeda T: Management of atrial fibrillation. 29th HRS (Heart Rhythm Society), Stockholm, May 15, 2008
- 11) 吉野秀朗：重症急性冠症候群の診断と治療。実地医家のための急性冠症候群フォーラム、大田原、平成 20 年 5 月 15 日
- 12) 中里祐二、庭野慎一、丹野 郁、池田隆徳：心臓突然死：私ならこのようにして防ぐ。心臓突然死を考える会、東京、平成 20 年 5 月 26 日
- 13) 池田隆徳：ICD および CRT-D 手術の pitfall：3 症例の呈示。第 3 回 NIPPON Study Meeting（関東地区）、東京、平成 20 年 5 月 30 日
- 14) 三輪陽介、池田隆徳、榊 桂、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗：ホルター心電図で測定した Heart Rate Turbulence の有用性：日本人心筋梗塞患者における評価。第 23 回日本不整脈学会、横浜、平成 20 年 6 月 1 日
- 15) 右室心尖部肉柱過形成が心室頻拍の発現に関与したと考えられた不整脈源性右室心筋症の 2 例：組織ドブラ心エコーと心臓 MRI を用いての評価。第 23 回日本不整脈学会、横浜、平成 20 年 6 月 1 日

- 16) 中井俊子、大友健一郎、宮崎秀和、山川 健、丹野 郁、伊藤幸子、蜂谷 仁、池田隆徳：右室 Select Site Pacing の実際：生理的ペーシングの普及に向けて。第 23 回日本不整脈学会、横浜、平成 20 年 6 月 2 日
- 17) 塚田雄大、池田隆徳、柚須 悟、石黒晴久、阿部敦子、榊 桂、三輪陽介、宮越 睦、米良尚晃、中村健太郎、吉野秀朗：経静脈的心房 Screw-in Lead を使用した連続症例におけるリード移動と合併症の検討。第 23 回日本不整脈学会、横浜、平成 20 年 6 月 2 日
- 18) 池田隆徳：心臓突然死予防のための心電図の見方。第 23 回日本不整脈学会教育・研修セミナー「心臓ペースメーカー技師養成のためのセミナー」、横浜、平成 20 年 6 月 2 日
- 19) 池田隆徳：心房細動の診かたと治療：実践できるポイントとコツを知る。第 37 回岐阜心臓病研究会、岐阜、平成 20 年 6 月 5 日
- 20) 吉野秀朗：冠動脈疾患合併高血圧におけるノルバスクの有用性。ノルバスク 15 周年記念講演会、東京、平成 20 年 6 月 6 日
- 21) 池田隆徳：セレクトサイトペーシングの意義と実際。第 13 回セレクトサイトペーシングワークショップ、東京、平成 20 年 6 月 7 日
- 22) 南島俊徳、谷合誠一、石黒晴久、永井亘、坂田好美、吉野秀朗：骨髓線維症による貧血を伴う維持透析患者に併発した心肥大と心不全の一例。第 208 回日本循環器学会関東甲信越地方会、東京、平成 20 年 6 月 7 日
- 23) 池田隆徳：不整脈治療における III 群注射薬の使い方とその実際。アンカロン注発売 1 周年記念講演会、千葉、平成 20 年 6 月 14 日
- 24) 池田隆徳、坂田好美、四倉正之、吉野秀朗：日常臨床の循環器 Q & A。第 19 回府中医師会循環器勉強会、府中、平成 20 年 6 月 16 日
- 25) 吉野秀朗：日本における Herbesser の使用経験及び最近の CV 疾病推移とその治療法変遷。EBM Kick-Off Meeting、Jeju-Do、平成 20 年 6 月 20 日
- 26) 池田隆徳：心不全に伴う不整脈の薬物療法： β 遮断薬と ARB の比較。第 20 回日本心臓病学会教育セミナー「アドバンス・コース」、横浜、平成 20 年 6 月 22 日
- 27) 吉野秀朗：重症急性冠症候群の診断と治療。日野市循環器懇話会、日野、平成 20 年 6 月 23 日
- 28) 高見麻佑子、窪田博、高橋範子、遠藤英仁、戸成邦彦、藤木達雄、須藤憲一、宮越 睦、谷合誠一、永井亘、三輪陽介、榊 桂、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、米良尚晃、柚須 悟、池田隆徳、坂田好美、吉野秀朗：Vf で発症した Bland-White-Garand 症候群の一例。第 20 回多摩不整脈研究会、三鷹、平成 20 年 6 月 28 日
- 29) 池田隆徳： β 遮断薬の真のパラダイムソフト：心房細動の診かたと治療：実践できるノウハウを知る。第 2 回 MAINTATE 学術講演会、東京、平成 20 年 6 月 28 日
- 30) Ikeda T: Heart Failure and atrial fibrillation: Current concept of pharmacological therapy for atrial fibrillation in Japan. 2nd Asia Pacific Heart Rhythm Management Fellowship Program 2008, Kyoto, 平成 20 年 6 月 29 日
- 31) 吉野秀朗：冠動脈 CT が有用であった成人型 Bland-White-Garland 症候群の 1 例。第 67 回心臓血管放射線研究会、札幌、平成 20 年 7 月 5 日
- 32) 柚須 悟、池田隆徳、宮越 睦、三輪陽介、榊 桂、石黒晴久、阿部敦子、塚田雄大、米良尚晃、信太研二、清水尚志、吉野秀朗（シンポジウム）：急性冠症候群に合併した心室頻拍/細動に対してのニフェカラントの有用性。第 7 回ニフェカラント研究会、東京、平成 20 年 7 月 12 日
- 33) 池田隆徳：心房細動の診かたと治療：実践できるノウハウを知る。榊原記念病院定例講演会、調布、平成

20年7月14日

34) 池田隆徳：新時代の不整脈診療：心臓突然死をいかにして防ぐか。第5回狛江循環器セミナー、狛江、平成20年7月16日

35) 池田隆徳：不整脈管理におけるβ遮断薬の役割：実際的なノウハウを知る：第41回日本胸部外科学会九州地方会、熊本、平成20年7月24日

36) 池田隆徳：難治性不整脈管理におけるβ遮断薬の役割：内科医の立場から。第2回茨城県周術期循環管理セミナー、つくば、平成20年7月25日

37) 坂田好美：心血管エコーによる動脈硬化の評価。三鷹医師会学術講習、東京、平成20年7月29日

38) 池田隆徳：心房細動治療におけるβ遮断薬の魅力を探る：発作予防を含めて。北九州β-Blocker Meeting、北九州、平成20年8月1日

39) 池田隆徳：VTの実践的診断及び治療戦略：薬物療法の観点から。第2回Ventricular Tachycardia University、大阪、平成20年8月2日

40) 吉野秀朗：狭心症の診断と治療：最新の動向。三鷹市医師会循環器研究会、三鷹、平成20年8月6日

41) 池田隆徳：生理的ペーシング・セレクトサイトペーシング。南九州ペースメーカーアドバンスコース、熊本、平成20年8月9日

42) 池田隆徳：実地医家のための心房細動の診かたと治療。所沢循環器カンファレンス、所沢、平成20年8月20日

43) 池田隆徳：セレクトサイトペーシングの意義と実際。第14回セレクトサイトペーシングワークショップ、東京、平成20年8月30日

44) 池田隆徳：心室性不整脈管理において静注薬をうまく使いこなすには。信州周術期循環管理研究会、松本、平成20年9月5日

45) 池田隆徳：臨床心臓電気生理検査の適応と評価。第56回日本心臓病学会教育プログラム、東京、平成20年9月7日

46) 高昌秀安、菊池達郎、伊波 巧、永井 亘、信太研二、清水尚志、吉野秀朗：急性心筋梗塞に合併した左心不全における貧血と腎機能障害の関与。第56回日本心臓病学会、東京、平成20年9月8日

47) 西村 徹、谷合誠一、山崎 聡子、長江 厚、吉野秀朗：MI急性期のT1とBMIPP Dualシンチによる慢性期心イベントの予測。第56回日本心臓病学会、東京、平成20年9月8日

48) 池田隆徳：静注用β₁遮断薬の魅力を探る：内科医の立場から。第56回日本心臓病学会、東京、平成20年9月9日

49) 坂田好美、佐藤一樹、水野宜英、南島俊徳、古谷充史、田口浩樹、武本和也、吉野秀朗：リアルタイム経静脈的心筋コントラストエコー法による心筋viabilityの評価：遅延造影心MRIとの比較。第56回日本心臓病学会、東京、平成20年9月9日

50) 伊波 巧、吉野秀朗、永井 亘、菊池達郎、高昌秀安、清水尚志、坂田好美：第56回日本心臓病学会、東京、平成20年9月8日

51) 谷合誠一、永井 亘、信太研二、清水尚志、池田隆徳、吉野秀朗、似鳥俊明：大動脈弁置換術後の急性大動脈解離治療中に発生した上部消化管出血の一例。第56回日本心臓病学会、東京、平成20年9月10日

52) 池田隆徳：心房細動の診かたと治療：実践できるノウハウを知る。小石川医師会学術講演会、東京、平成20年9月10日

- 53) 池田隆徳：心房細動の診かたと治療：薬物療法のポイントとコツ。墨田区循環器学術講演会、東京、平成20年9月12日
- 54) 池田隆徳：心房細動の診かたと治療：実地医家が実践できる薬物療法のコツ。練馬区循環器学術講演会、東京、平成20年9月16日
- 55) 池田隆徳：心房細動治療におけるβ遮断薬の魅力を探る。第3回β遮断薬学術講演会、さいたま、平成20年9月17日
- 56) 池田隆徳：III群抗不整脈薬の使い方：実践的なノウハウを知る。仙台不整脈フォーラム、仙台、平成20年9月19日
- 57) 池田隆徳：心房細動に対する実際的な薬物療法のしかたを知る。第32回県央循環器疾患検討会、燕、平成20年9月25日
- 58) 池田隆徳：外来診療における心房細動の治療のしかた：実践できるノウハウを知る。第49回足利市心臓病勉強会、足利、平成20年9月26日
- 59) 池田隆徳：救急現場における静注用抗不整脈薬の使い方：ガイドラインに準じた使用方法を知る。千里・三島救命救急センター致死性不整脈合同勉強会、大阪、平成20年10月3日
- 60) 池田隆徳：心房細動の考え方と治療の実際：心房細動をどのように治療するか。第1627回最新医療セミナー、東京、平成20年10月5日
- 61) 池田隆徳：心房細動の薬物療法：実際的なノウハウを知る。第34回狛江・調布・府中・近隣薬剤師会合同勉強会、狛江、平成20年10月9日
- 62) 池田隆徳：重症心室性不整脈管理の現状と静注用β₁遮断薬を用いた最新の治療戦略。第34回日本蘇生学会、長崎、平成20年10月10日
- 63) 池田隆徳：セレクトサイトペーシングの意義と実際。第15回セレクトサイトペーシングワークショップ、東京、平成20年10月11日
- 64) 吉野秀朗：病態生理からみた狭心症の診断と治療。三鷹市医師会学術講演会、三鷹、平成20年6月16日
- 65) 池田隆徳：実際できる心房細動の診かたと治療。広島三次循環器学術講演会、三次、平成20年10月17日
- 66) 池田隆徳：心房細動に対する薬物療法のノウハウ。大阪β遮断薬学術講演会、大阪、平成20年10月18日
- 67) 池田隆徳：実際できる心房細動の診かたと治療。大田区循環器学術講演会、東京、平成20年10月20日
- 68) 池田隆徳：実地医家のための心房細動の治療のしかた：実践できるポイントとコツを知る。北海道医師会学術講演会、小樽、平成20年10月24日
- 69) 池田隆徳：実際できる心房細動の診かたと治療。中濃地区β遮断薬学術講演会、関、平成20年10月30日
- 70) 池田隆徳：外来で心房細動患者を診たらどう対応しますか：実践できるポイントとコツ。第26回伊勢崎佐波地区循環器勉強会、伊勢崎、平成20年10月31日
- 71) 宮越 睦、池田隆徳、三輪陽介、榊 桂、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、柚須 悟、吉野秀朗、西山和利、栗田浩樹、山口芳裕：脳卒中センター（SCU）に搬送された患者における心房細動による心原性脳塞栓の頻度。第25回日本心電学会、新潟、平成20年11月1日
- 72) 中村健太郎、瀬崎和典、鈴木文男、徳永裕之、笠岡祐二、村田将光、池田隆徳、吉野秀朗、速水紀幸、村

川裕二、野田 誠：大動脈弁無冠線尖からの通電により治癒した fast-slow 型房室結節リエントリー性頻拍の 1 例。第 25 回日本心電学会、新潟、平成 20 年 11 月 1 日

73) 原口 亮、芦原貴司、鈴木慎吾、難波経豊、藤堂貴弘、八尾武憲、村上慎吾、倉知嘉久、池田隆徳、中沢一雄：貫壁性再分極時間の差が頻脈性不整脈の興奮伝播ダイナミクスに与える影響について。第 25 回日本心電学会、新潟、平成 20 年 11 月 1 日

74) 三輪陽介、池田隆徳、榊 桂、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗：低心機能患者における予知指標としての Heart Rate Turbulence の有用性。第 25 回日本心電学会、新潟、平成 20 年 11 月 1 日

75) 藤堂貴弘、原口 亮、難波経豊、芦原貴司、八尾武憲、東 将浩、池田隆徳、中沢一雄：フィラメントの挙動からみたヒト心室形状モデルにおける興奮波の分裂現象に関する現象。第 25 回日本心電学会、新潟、平成 20 年 11 月 1 日

76) 難波経豊、藤堂貴弘、芦原貴司、原口 亮、大江 透、池田隆徳、中沢一雄：期外収縮による再分極完了前の電位再上昇が再分極過程に及ぼす影響。第 25 回日本心電学会、新潟、平成 20 年 11 月 1 日

77) 池田隆徳：アミオダロンの功罪：アンカロン注と他抗不整脈薬静注薬。Arrhythmia Management Discussion、新潟、平成 20 年 11 月 2 日

78) 阿部敦子、池田隆徳、石黒晴久、塚田雄大、宮越 睦、三輪陽介、榊 桂、米良尚晃、柚須 悟、吉野秀朗：若年者の特発性心室細動/多形性心室頻拍における J 波の意義：電気薬理学的な観点からの評価。第 25 回日本心電学会、新潟、平成 20 年 11 月 2 日

79) 谷口由紀子、笠岡祐二、中村健太郎、村田将光、瀬崎和典、鈴木文男、池田隆徳、吉野秀朗、速水紀幸、村川裕二、野田 誠：ステロイド投与により伝導障害が改善したものの心室細動がみられた心サルコイドーシスの 1 例。第 25 回日本心電学会、新潟、平成 20 年 11 月 2 日

80) 柚須 悟、池田隆徳、米良尚晃、石黒晴久、塚田雄大、三輪陽介、宮越 睦、榊 桂、阿部敦子、吉野秀朗：徐脈性不整脈に対するセレクトサイトペーシング‘RV Mid-Septal Pacing’：ペーシング指標のフォローアップ評価。第 25 回日本心電学会、新潟、平成 20 年 11 月 2 日

81) 池田隆徳：リズムを管理する：レートコントロール（心拍数調節）の適応と実際。第 25 回日本心電学会、新潟、平成 20 年 11 月 2 日

82) 池田隆徳：薬物療法：リズムコントロールとレートコントロールの狭間で。第 25 回日本心電学会、新潟、平成 20 年 11 月 2 日

83) 吉野秀朗：重症急性冠症候群の診断と治療。小田原内科医会学術講演会、小田原、平成 20 年 11 月 6 日

84) 池田隆徳：心房細動の診かたと治療：薬物療法のノウハウを知る。つくば β 遮断薬エキスパートミーティング、つくば、平成 20 年 11 月 7 日

85) 池田隆徳：セレクトサイトペーシングの意義と実際。第 16 回セレクトサイトペーシングワークショップ、東京、平成 20 年 11 月 8 日

86) Sakata K, Ito H, Wada H, Watanabe H, Sakuma T, Yamada S, Dohi K, Watanabe T, Yoshino H, Iwakura K, Lim Y-J, Ota T, Yoshikawa J, on behalf of The ACTMCE2 investigators: Diagnostic accuracy of myocardial perfusion on myocardial contrast echocardiography in patients with acute coronary syndrome: Results from the assessment of coronary heart disease with myocardial contrast echocardiography 2 (ACT-MCE2) multicenter trial. AHA (American Heart Association) 2008, New Orleans, November 11, 2008

- 87) 池田隆徳:不整脈治療における静注用β遮断薬の魅力を探る:危険性の高い心室性不整脈に焦点をあてて。太田地区循環管理セミナー、太田、平成20年11月13日
- 88) 池田隆徳:心房細動の診かたと治療:実地医家が実践できる薬物療法のコツ。栃木県県木不整脈セミナー、大田原、平成20年11月14日
- 89) 池田隆徳:新しい心電学的指標を用いての致死性不整脈による心臓突然死の予知。第37回杏林医学会、三鷹、平成20年11月15日
- 90) 池田隆徳:心房細動の診かたと治療:β遮断薬の魅力を探る。豊島区β遮断薬学術講演会、東京、平成20年11月17日
- 91) 西村 徹、坂田好美、四倉正之、吉野秀朗:日常臨床の循環器Q & A。第20回府中医師会循環器勉強会、府中、平成20年6月16日
- 92) 池田隆徳:薬物療法 VS カテーテルアブレーション:薬物療法の立場から。3rd Atrial Fibrillation League、東京、平成20年11月18日
- 93) 坂田好美:当院における循環器疾患診療の実際。三鷹医師会講演会、東京、平成20年11月18日
- 94) 池田隆徳:ペーシング治療の功罪を知る:今、注目されている心室中隔ペーシングとは。Rhythm Control Device 研究会2008、名古屋、平成20年11月19日
- 95) 小林義典、山下武志、山根禎一、平山悦之、池田隆徳:心房細動 Up to Date: AF 治療の心パラダイム講演会、東京、平成20年11月20日
- 96) 池田隆徳:心房細動の薬物療法:実際的なノウハウを知る。第3回杏林薬-薬連携フォーラム、三鷹、平成20年11月21日
- 97) 三輪陽介、池田隆徳、榊 桂、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗:低心機能患者における予知指標としての Heart Rate Turbulence の有用性。第6回八ヶ岳循環器カンファレンス、八王子、平成20年11月22日
- 98) 安部治彦、中井俊子、須賀 幾、中島 博、池田隆徳:下位心房中隔ペーシングの可能性。セレクトサイトペーシングセミナー、東京、平成20年11月23日
- 99) Ikeda T: Wavefront dynamics of rotor and mechanisms of maintenance/termination of atrial fibrillation. 1st APHRS (Asia-Pacific Heart Rhythm Society) & 4th APAFS (Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium), Singapore, November 27, 2008
- 100) Tsukada T, Ikeda T, Ishiguro H, Abe A, Miwa Y, Sakaki K, Miyakoshi M, Mera H, Yusu S, Yoshino H, Yamaguchi Y: Circadian Variation in the Occurrence of Out-of-Hospital Cardiopulmonary Arrest in a Japanese Population. 1st APHRS (Asia-Pacific Heart Rhythm Society) & 4th APAFS (Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium), Singapore, November 27, 2008
- 101) Ikeda T: Repolarization abnormalities and arrhythmic mortality risk beyond left ventricular ejection fraction. 1st APHRS (Asia-Pacific Heart Rhythm Society) & 4th APAFS (Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium), Singapore, November 28, 2008
- 102) Ikeda T: Risk Stratification for sudden death in patients with asymptomatic Brugada-type electrocardiograms. 1st APHRS (Asia-Pacific Heart Rhythm Society) & 4th APAFS (Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium), Singapore, November 28, 2008
- 103) Ikeda T: Antiarrhythmic drugs and wavefront dynamics of rotor during atrial fibrillation. 1st APHRS (Asia-Pacific

Heart Rhythm Society) & 4th APAFS (Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium), Singapore, November 29, 2008

- 104) 池田隆徳、吉岡公一郎、合屋雅彦、清水 渉:抗不整脈静注薬を用いた治療戦略。Arrhythmia Focus Meeting、東京、平成 20 年 12 月 1 日
- 105) 坂田好美:エビデンスに基づいた高血圧治療。JSH2009 講演会、東京、平成 20 年 12 月 23 日
- 106) 谷合誠一、永井 亘、坂田好美、池田隆徳、吉野秀朗、横山健一:心筋 MRI で経過観察した好酸球性心筋炎の 1 例。第 210 回日本循環器学会関東甲信越地方会、東京、平成 20 年 12 月 6 日
- 107) 池田隆徳:難治性不整脈治療における静注用抗不整脈薬/ β 遮断薬のパラダイムシフト。第 210 回日本循環器学会関東甲信越地方会、東京、平成 20 年 12 月 6 日
- 108) 池田隆徳:心房細動の診かたと治療:薬物療法のノウハウを知る。大分不整脈セミナー、大分、平成 20 年 12 月 12 日
- 109) 池田隆徳:生理的ペーシング・セレクトサイトペーシング。長崎ペースメーカーアドバンスコース、長崎、平成 20 年 12 月 13 日
- 110) Sakata K, Sato K, Mizuno Y, Taguchi H, Minamishima T, Takemoto K, Soga Y, Yoshino H: Usefulness of intravenous myocardial contrast echocardiography at rest to predict appearance of cardiac events in patients with coronary heart disease. Euroecho 2008, Lyon, Dec 13, 2008
- 111) 池田隆徳:心房細動治療における β 遮断薬の魅力を探る。平成 20 年度埼玉県内科医会学術講演会、さいたま、平成 20 年 12 月 15 日
- 112) 阿部敦子、池田隆徳、石黒晴久、塚田雄大、宮越 睦、榊 桂、三輪陽介、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗:進行性の不整脈原性右室心筋症に伴う心室細動によって心臓突然死きたした 1 例。第 21 回心臓性急死研究会、東京、平成 20 年 12 月 20 日
- 113) 坂田好美:エビデンスに基づいた高血圧治療。JSH2009 講演会、東京、平成 20 年 12 月 23 日
- 114) 塚田雄大、池田隆徳、星田京子、谷合誠一、石黒晴久、阿部敦子、三輪陽介、榊 桂、宮越 睦、米良尚晃、柚須 悟、坂田好美、吉野秀朗:ICD 術後に電極リードに付着した vegetation が認められ、治療方針の決定に苦慮した蘇生後脳症を伴う術後ファロー四徴症の 1 例。第 21 回臨床不整脈研究会、東京、2009 年 1 月 10 日
- 115) 池田隆徳:これでわかる心房細動の診かたと治療:実践できるノウハウを知る。武蔵野市循環器勉強会、武蔵野、2009 年 1 月 14 日
- 116) 池田隆徳:心房細動に対する実践的な治療:薬物による洞調律維持と塞栓予防のポイント。調布市医師会学術講演会、調布、2009 年 1 月 15 日
- 117) 池田隆徳:これでわかる心房細動の診かたと治療:実地医家が実践できる治療法。沖縄 β ブロッカー講演会、那覇、2009 年 1 月 16 日
- 118) 池田隆徳:静注用 β 遮断薬の魅力を探る:心室性不整脈に焦点をあてて。岐阜周術期 Short Acting β_1 ブロッカー研究会、岐阜、2009 年 1 月 17 日
- 119) 塚田雄大、池田隆徳、柚須 悟、星田京子、谷合誠一、石黒晴久、阿部敦子、三輪陽介、榊 桂、宮越 睦、米良尚晃、坂田好美、吉野秀朗:ICD 術後に右室の電極リードに付着する vegetation を指摘され、治療方針の決定に苦慮した術後ファロー四徴症の 1 例。第 19 回多摩不整脈研究会、立川、2009 年 1 月 17 日
- 120) 池田隆徳:日常臨床における不整脈の診かたと治療。第 2 回生活習慣病セミナー、武蔵野、2009 年 1 月 23 日

- 121) 池田隆徳：生理的および心室中隔ペーシングの有効性。How to セレクトサイトペーシング講習会、東京、2009年1月24日
- 122) 池田隆徳：心臓突然死：私ならこのようにして防ぐ。第8回千葉不整脈カンファレンス、千葉、2009年1月24日
- 123) 池田隆徳：心房細動の診かたと治療：薬物療法のノウハウを知る。名古屋β遮断薬学術講演会、名古屋、2009年1月31日
- 124) 池田隆徳：生理的ペーシング・セレクトサイトペーシング。いわき地区ペースメーカーアドバンスコース、いわき、2009年2月2日
- 125) 吉野秀朗：胸痛の鑑別。総合診療推進セミナー、三鷹、2009年2月9日
- 126) 吉野秀朗：プレホスピタルからの急性大動脈解離に関する最近の知見。第19回旭川CCU症例検討会、旭川、2009年2月10日
- 127) 池田隆徳：生理的および心室中隔ペーシングの有効性。How to セレクトサイトペーシング講習会、東京、2009年2月14日
- 128) 池田隆徳：病棟でよくみる不整脈と心不全：不整脈の診断と治療。第24回日本心臓病学会教育セミナー「ファンダメンタル・コース」、大阪、2009年2月15日
- 129) 福長一義、池田隆徳、四倉正之、吉野秀朗：日常臨床の循環器Q & A。第21回府中医師会循環器勉強会、府中、2009年2月16日
- 130) 坂田好美：心筋コントラストエコー法による心筋虚血の評価。杏林大学医学部同窓会新潟支部講演、新潟、2009年2月16日
- 131) 池田隆徳：洞調律維持療法と心拍数調節療法のポイント。第2回心房細動トータルマネジメントフォーラム、東京、2009年2月21日
- 132) 池田隆徳：心房細動の薬物療法：リズムとレートの間。東京β遮断薬学術講演会、東京、2009年2月22日
- 133) 池田隆徳、芦田和博、安村良男（パネルディスカッション）：β遮断薬の使用意義・適応・違い・使い分け。Opinion Leaders Academy in Tokyo 2009、東京、2009年2月22日
- 134) 池田隆徳：心房細動の治療戦略：薬物治療の立場から。三鷹市医師会循環器研究会、武蔵野、2009年2月25日
- 135) 池田隆徳：静注用β遮断薬の魅力を探る：心室性不整脈に焦点をあてて。第36回日本集中治療医学会教育セミナー、大阪、2009年2月26日
- 136) 池田隆徳：心房細動の診かたと治療：薬物療法のノウハウを知る。神戸β遮断薬学術講演会、神戸、2009年2月26日
- 137) 坂田好美：心筋コントラストエコー法による心筋虚血の評価。杏林大学医学部同窓会新潟支部講演会、新潟、2009年2月16日
- 138) 池田隆徳、星田京子、宮越 睦、榊 桂、三輪陽介、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、米良尚晃、柚須 悟、吉野秀明（シンポジウム）：Brugada症候群のリスク評価における心電図の自然変動と満腹テストの有用性。第19回体表心臓微小電位研究会、東京、2009年2月28日
- 139) 柚須 悟、池田隆徳、米良尚晃、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、三輪陽介、宮越睦、榊 桂、星田京子、吉野秀朗：徐脈性不整脈に対するセレクトサイトペーシング‘RV Mid-Septal Pacing’：ペーシング指標の

- フォローアップ評価。第1回植込みデバイス関連冬季大会、東京、2009年2月28日
- 140) 吉野秀明：重症心不全と補助循環。第19回日本経皮的心肺補助研究会、大阪、2009年2月28日
- 141) 池田隆徳：明日からの診療に実践できる心房細動の診かたと治療。不整脈について考える会、東京、2009年3月5日
- 142) 吉野秀明：重症心不全と補助循環。第19回日本経皮的心肺補助研究会、大阪、2009年2月28日
- 143) 池田隆徳：実地診療における心房細動のトータルケア：どこに重点をおくべきか。練馬医師会学術講演会、東京、2009年3月6日
- 144) 池田隆徳：これでわかる危険な不整脈の診かたと治療：心臓突然死を予防するためのノウハウを知る。平成21年度心電図講習会、東京、2009年3月7日
- 145) 池田隆徳：明日からの診療に実践できる心房細動の診かたと治療。The 1st β -blocker Clinical Seminar、仙台、2009年3月13日
- 146) 池田隆徳：明日からの診療に実践できる心房細動の診かたと治療。シベノール発売20周年学術講演会、2009年3月14日
- 147) 池田隆徳：日医生涯教育協力講座：心血管疾患診療のブラッシュアップ不整脈（心房細動）。日本医師会平成20年度社会保険指導者講習会、福井、2009年3月15日
- 148) 池田隆徳：救急医療における不整脈に対する静注薬の選び方・使い方。平成21年災害救急研究会、東京、2009年3月19日
- 149) 池田隆徳：不整脈診療において経口III群薬をどのように使いこなすか？第73回日本循環器学会、大阪、2009年3月20日
- 150) Yusu S, Ikeda T, Ishiguro H, Tsukada T, Miwa Y, Abe A, Sakaki K, Miyakoshi M, Mera H, Yoshino H: Physiological pacing site in the right ventricle: Alternative mid-septal pacing is superior compared to conventional apical pacing. 第73回日本循環器学会、大阪、2009年3月20日
- 151) Shizuta S, Ando K, Nobuyoshi M, Ikeda T, Yoshino H, Sato S, Hiramatsu S, Kazatani Y, Okajima K, Yamashiro K, Kajiya T, Kobayashi Y, Kato T, Fujii S, Mitsudo K, Inoue K, Ito H, Saeki A, Morimoto T, Kita T, Kimura T: Three-year outcome of the Prospective Evaluation of VENTricular Tachyarrhythmic events and Sudden Cardiac Death in patients with left ventricular dysfunction (PREVENT-SCD) study. 第73回日本循環器学会、大阪、2009年3月20日
- 152) Sakaki K, Ikeda T, Miwa Y, Miyakoshi M, Abe A, Ishiguro H, Tsukada T, Mera H, Yusu S, Yoshino H: Time-domain T-wave alternans measured from Holter electrocardiograms predicts cardiac mortality in patients with left ventricular dysfunction: A prospective study. 第73回日本循環器学会、大阪、2009年3月21日
- 153) 池田隆徳：知って得するこれからの心房細動治療：薬物療法—リズムとレートの狭間で。第73回日本循環器学会、大阪、2009年3月22日
- 154) 池田隆徳（ラウンドテーブルディスカッション）：Current risk stratification techniques for sudden cardiac death: Beyond LVEF. 第73回日本循環器学会、大阪、2009年3月22日
- 155) Abe A, Ikeda T, Yusu S, Ishiguro H, Tsukada T, Miwa Y, Sakaki K, Miyakoshi M, Mera H, Yoshino H: Pathophysiology of J wave in patients with idiopathic ventricular fibrillation: Repolarization abnormalities versus conduction disturbances. 第73回日本循環器学会、大阪、2009年3月22日
- 156) Miwa Y, Ikeda T, Sakaki K, Miyakoshi M, Abe A, Tsukada T, Ishiguro H, Mera H, Yusu S, Yoshino H: Heart rate turbulence as a predictor of cardiac mortality and arrhythmic events in patients with ischemic or nonischemic dilated

cardiomyopathy. 第73回日本循環器学会、大阪、2009年3月22日

157) Tsukada T, Ikeda T, Ishiguro H, Abe A, Miwa Y, Sakaki K, Miyakoshi M, Mera H, Yusu S, Yoshino H, Yamaguchi Y: Assessment of circadian variation in the occurrence of out-of-hospital cardiopulmonary arrest with a large number of Japanese patients. 第73回日本循環器学会、大阪、2009年3月22日

158) Kohshoh H, Nagai W, Inami T, Shida K, Shimizu H, Yoshino H: The effects of anemia and multivessel disease on heart failure complicated with acute myocardial infarction. 第73回日本循環器学会、大阪、2009年3月22日

159) 坂田好美：高血圧による拡張機能障害：心エコーによる拡張機能評価。三鷹医師会講演会、東京、2009年3月27日

160) 池田隆徳：セレクトサイトペーシングの意義と実際。How to セレクトサイトペーシング講習会、東京、2009年3月28日

II 論文

1) Ishiguro H, Ikeda T, Abe A, Tsukada T, Mera H, Nakamura K, Yusu S, Yoshino H: Antiarrhythmic effect of bisoprolol, a highly selective β_1 blocker in patients with paroxysmal atrial fibrillation. *Int Heart J* 49: 281-293, 2008) Koide Y, Yotsukura M, Ando H, Aoki S, Suzuki T, Sakata K, Otomo E, Yoshino H: Usefulness of P-wave dispersion in standard twelve-lead electrocardiography to predict transition from paroxysmal to persistent atrial fibrillation. *Am J Cardiol* 102: 573-577, 2008

3) Katoh T, Tanabe T, Ikeda T, Ishijima M, Itoh M, Iwanaga S, Kasao M, Kasamaki Y, Katoh R, Kamata H, Kubo Y, Sugi K, Takase B, Tanno K, Yoshioka K, Watanabe E, Yashima M: Statement for the optimal use of home electrocardiograph 2007. *J Arrhythmia* 24: 51-52, 2008

4) 三輪陽介、池田隆徳、榊 桂、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗：自律神経活動異常を反映する heart rate turbulence と heart rate variability の相関性に関する検討。心臓 40(Suppl.1): 15-18, 2008

5) 阿部敦子、池田隆徳、石黒晴久、塚田雄大、宮越 睦、榊 桂、三輪陽介、米良尚晃、柚須 悟、信太研二、清水尚志、佐藤英樹、友野康秀、吉野秀朗：失神発作をきたし、Brugada 症候群に類似した臨床経過を示した冠攣縮性狭心症の1例。心電図 28: S-4-20-S-4-27, 2008

6) 芦原貴司、八尾武憲、中澤優子、城 日加里、伊藤英樹、杉本喜久、伊藤 誠、堀江 稔、原口 亮、中沢一雄、難波経豊、池田隆徳：心房筋リモデリングを考慮したヒト心房細動 in silico モデルにおけるアミオダロンの短期作用と長期作用。Prog Med 28(Suppl.1): 562-567, 2008

7) 中村健太郎、池田隆徳、柚須 悟、三輪陽介、宮越 睦、榊 桂、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、米良尚晃、横山健一、似鳥俊明、吉野秀朗：心電図上のQRS幅延長と遅延造影MRIによって検出された心筋壊死深達度との関連性：前壁中隔心筋梗塞症例での評価。心電図 28: 216-223, 2008

8) 相澤義房、田邊晃久、青沼和隆、井上 博、小川 聡、奥村 謙、笠貫 宏、新 博次、池田隆徳、川村祐一郎、高瀬凡平、高田重男、井上智香子、小田代敬太、木村新平、久次米真吾、西尾由貴子、野呂真人、加藤貴雄、島本和明、清水昭彦、高柳 寛、筒井裕之、堀江 稔、矢野捷介、樗木晶子、庭野慎一、平尾見三、三田村秀雄、渡辺淳一、渡邊英一、羽尾和久、濱崎秀一、平松伸一、丸山 徹、馬渡耕史、宮内靖史：ホルター記録中の突然死について：ホルター記録中の突然死調査委員会の集計報告(第1報)。心電図 28: 243-250, 2008

9) 三輪陽介、池田隆徳、米良尚晃、榊 桂、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、中村健太郎、柚

- 須 悟、信太研二、清水尚志、吉野秀朗：難治性心室性不整脈に対する静注用超短時間作用型 β_1 遮断薬ランジオロールの効果。心臓 40(Suppl.3): 148-155, 2008
- 10) 戸田 直、芦原貴司、渡辺 淳、白土邦男、池田隆徳、中沢一雄：コンピュータシミュレーションを用いた心室細動の持続に関する機序の解析：心室細動の critical mass 仮説の解析。心電図 28: 263-272, 2008
- 11) 柚須 悟、池田隆徳、三輪陽介、塚田雄大、石黒晴久、米良尚晃、信太研二、清水尚志、吉野秀朗：2 枝ブロックに伴い発作性房室ブロックによって失神を来したと考えられた高齢者の 1 例。ICU と CCU 32: 65-74, 2008
- 12) 石黒晴久、池田隆徳、塚田雄大、阿部敦子、三輪陽介、榊 桂、宮越 睦、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、坂田好美、吉野秀朗：右室 mid-septal pacing を CRT-D 植え込み術に応用し、良好な心機能の改善が得られた拡張型心筋症の 2 例。心臓 40(Suppl.4): 114-118, 2008
- 13) 池田隆徳：交感神経活動の亢進によって出現する持続性心室頻拍の抑制にソタロールが著効した 1 例。Prog Med 28: 2037-3040, 2008
- 14) 池田隆徳：自律神経活動を考慮に入れた発作性心房細動に対する薬物療法。Ther Res 29: 45-57, 2008
- 15) 山下武志、小林義典、池田隆徳、山根禎一：本邦での心房細動診療スタンダード：J-RHYTHM試験の結果を受けて。内科101: 531-542, 2008
- 16) 池田隆徳：自律神経活動を考慮に入れた発作性心房細動に対する薬物療法。Ther Res 29: 45-57, 2008
- 17) 池田隆徳：エビデンスに基づく循環器薬の使い方：Brugada症候群に対する薬物療法。Medical Practice 25: 439-440, 2008
- 18) 池田隆徳：News & Trend：ブルガダ症候群の非侵襲的診断法—満腹テストによるチェック。治療90: 589-592, 2008
- 19) 池田隆徳：循環器救急：頻脈性不整脈。救急医学32: 456-457, 2008
- 20) 池田隆徳：不整脈：心臓突然死の予防：実地医家の役割。Medical Practice 25: 1009-1013, 2008
- 21) 池田隆徳：Focus on：ハイリスクのBrugada症候群患者を同定するための非侵襲的診断法。内科102: 125-133, 2008
- 22) 池田隆徳：Brugada症候群の非侵襲的診断法について。日本医事新報4396: 53-58, 2008
- 23) 池田隆徳：致死性不整脈をきたす疾患—診断と治療：非侵襲的検査による致死性不整脈の診断。Heart View 12: 15-23, 2008
- 24) 熊谷浩一郎、Denis Roy、池田隆徳：今後の心房細動治療を考える。診療と新薬57: 13-23, 2008
- 25) 池田隆徳：心電図マイルストーン—重要論文を解説する：Sudden cardiac arrest associated with early repolarization。心電図28: 305, 2008
- 26) 池田隆徳：新時代の不整脈診療：心臓突然死の実態とその対策—今、求められていることは。内科102: 420-423, 2008
- 27) 池田隆徳、中里祐二、庭野慎一、丹野 郁：心臓突然死：私ならこのようにして防ぐ。内科102: 557-568, 2008
- 28) 池田隆徳：不整脈診療ステップアップ：不整脈研究の最前線—心電図でみられるJ波とは？JIM 18: 768-771, 2008
- 29) 池田隆徳：健診時に見逃してはならない心電図所見。Medical Practice 25(9): 1691, 2008
- 30) 柚須 悟、池田隆徳：高齢者の心房細動：高齢者における心拍数調節療法の意義と使用すべき薬剤。老年医学 46: 1019-1024, 2008

31) 池田隆徳：Brugada 症候群—臨床と研究の最近の動向：Brugada 症候群の非侵襲的診断の進め方。医学のあゆみ 227: 1049-1053, 2008

III 著書

- 1) 池田隆徳（分担）：不整脈：発作性心房細動の治療戦略。Annual Review 2008 循環器（山口 徹、高本眞一、中澤 誠、小室一成編）、中外医学社、東京、2008, pp217-225
- 2) 池田隆徳（分担）：不整脈：上室頻拍。循環器疾患—最新の治療 2008～2009（堀 正二、永井良三編）、南江堂、東京、2008, pp313-318
- 3) 池田隆徳（分担）：不整脈：房室ブロック。循環器疾患治療ガイドライン—最新の指針（田邊晃久編）、総合医学社、東京、2008, pp157-162
- 4) 池田隆徳（分担）：心臓突然死・心肺蘇生術：心臓突然死。循環器疾患治療ガイドライン—最新の指針（田邊晃久編）、総合医学社、東京、2008, pp447-457
- 5) 池田隆徳（分担）：心臓再同期療法（両心室ペーシング）の適応と成果・筋ジストロフィーの心不全治療マニュアル：エビデンスと戦略（田村拓久編）、新星社、東京、2008, pp69-74
- 6) 池田隆徳（編集・分担）：不整脈の考え方：不整脈の起こる機序。不整脈診療 Skill Up マニュアル（池田隆徳編）、羊土社、東京、2008, pp14-18
- 7) 池田隆徳（編集・分担）：不整脈の治療法：薬物療法。不整脈診療 Skill Up マニュアル（池田隆徳編）、羊土社、東京、2008, pp67-72
- 8) 池田隆徳（編集・分担）：頻脈性不整脈（上室性）：心房細動。不整脈診療 Skill Up マニュアル（池田隆徳編）、羊土社、東京、2008, pp121-136
- 9) 池田隆徳（単著）：これでわかる危険な不整脈の診かたと治療—心臓突然死を予防するノウハウを知る、南江堂、東京、2008
- 10) 池田隆徳（分担）：循環器病気：不整脈、心臓ペースメーカーと植込み型除細動器、カテーテルアブレーションの適応と実際、こんなときに自動体外式除細動器（AED）を、心臓突然死の原因と予防、心臓病の人と運動。ホームメディカ家庭医学大事典＜新版＞、小学館、東京、2008, pp1331-1355, 1390-1391
- 11) 池田隆徳（編集・分担）：心電図のとり方と読み方の基本。研修医のための心電図のよみ方入門（池田隆徳編）、羊土社、東京、2008, pp353-361
- 12) 池田隆徳（編集・分担）：不整脈。研修医のための心電図のよみ方入門（池田隆徳編）、羊土社、東京、2008, pp371-378
- 13) 吉野秀朗（編集・分担）：循環器病：虚血性心疾患。ホームメディカ家庭医学大事典＜新版＞、小学館、東京、2008, pp1356-1371
- 14) 吉野秀朗（分担）：心筋 viability の評価 5. どう使い分けるか-各種診断方法による myocardial viability の評価とその比較。虚血性心疾患の画像診断（木村文子、他編）、永井書店、東京、2008, pp307-315.
- 15) 吉野秀朗（分担）：急性冠症候群（急性心筋梗塞）。心血管病薬物治療マニュアル（山口 徹監修）中山書店、東京、2008, pp2-13.
- 16) 吉野秀朗（分担）：急性冠症候群（不安定狭心症、非 ST 上昇型心筋梗塞）。心血管病薬物治療マニュアル（山口 徹監修）、中山書店、東京、2008, pp14-23.
- 17) 吉野秀朗（分担）：第 4 章 診断と検査の基本 1) 心電図検査の目的、適応と異常所見、結果の解釈。循

循環器系コア・カリキュラム テキスト（後藤英司、他編）、文光堂、東京、2008, pp128-135.

18) 吉野秀朗（分担）：第4章 診断と検査の基本 2) 心臓、大血管の画像診断—胸部 X 線写真と断層心エコー図。循環器系コア・カリキュラム テキスト（後藤英司、他編）、文光堂、東京、2008, pp136-153.

19) 吉野秀朗（分担）：安定狭心症。2008 今日の治療指針（山口徹、他編）、医学書院、東京、2008, pp 270-275

第二内科学教室（血液）

I. 口演

1. 三輪陽介, 高山信之, 佐藤範英, 横山明弘, 鈴木亮, 甫守正史, 吉野秀朗, 井野辺恵¹, 藤野節¹ (杏林大・医・病理) : 肺のびまん性小結節影で発症し, 急激な経過で死亡した lymphomatoid granulomatosis の 1 例. 第 161 回日本臨床血液例会, 埼玉, 平成 20 年 5 月 31 日
2. 鈴木亮, 高山信之, 横山明弘, 佐藤範英, 三輪陽介, 甫守正史, 吉野秀朗 : リンパ芽球性急性転化で発症した minor bcr-abl 陽性慢性骨髄性白血病. 第 70 回日本血液学会総会, 京都, 平成 20 年 10 月 10 日
3. 横山明弘 : 臍帯血移植後再発の Ph 陽性 ALL に対し, Dasatinib 及び, Nilotinib を使用した 1 例. 第 2 回 Tama Hematology Expert Meeting, 東京, 平成 20 年 11 月 20 日
4. 佐藤範英 : 著明な出血傾向にて死亡した高齢者 ITP の 2 例. 第 9 回多摩臨床血液研究会, 東京, 平成 20 年 11 月 27 日
5. 高山信之, 佐藤範英, 横山明弘, 鈴木亮, 甫守正史, 吉野秀朗 : 自家末梢血幹細胞移植後の血栓性微小血管障害に対し Rituximab が有効であった 1 例. 第 31 回日本造血細胞移植学会, 札幌, 平成 21 年 2 月 5 日

第三内科学教室（消化器内科）

I. 口演

1. 森秀明, 峯佳毅, 本田普久, 西川かおり, 塚田幾太郎, 高橋信一, 岸野智則¹, 小樽二世, 松下彌生² (¹杏林大・医・臨床検査医, ²東芝メディカルシステムズ): ワークショップ(II) 肝腫瘍性病変の Sonazoid 造影超音波「私の工夫」門脈腫瘍塞栓合併肝細胞癌に対する造影超音波検査の検討. 第 21 回日本腹部造影エコー・ドプラ診断研究会, 東京, 平成 20 年 4 月 12 日
2. 高橋信一: *H. pylori* 除菌療法の現状とその問題点. 第 15 回横浜 GI-Congress, 横浜, 平成 20 年 4 月 17 日.
3. 高橋信一: *H. pylori* 除菌療法の現状と将来. 上部消化管疾患学術講演会, 東京, 平成 20 年 4 月 18 日.
4. 高橋信一: ピロリ菌と NSAIDs - 新改定胃潰瘍診断ガイドラインよりの報告 -, 杏林大学医学部同窓会学術講演会, 東京, 平成 20 年 4 月 19 日.
5. 森秀明: 腹部超音波最近の話題. 杏林大学 OB 会, 所沢, 平成 20 年 4 月 23 日
6. 山口康晴, 中村健二, 土岐真朗, 青木圭, 高橋信一: 内視鏡止血術後再出血および 30-day mortality 減少をめざした高齢者出血性消化性潰瘍への挑戦. 第 94 回日本消化器病学会総会, 福岡, 平成 20 年 5 月 9 日.
7. 土岐真朗, 山口康晴, 村山隆夫, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 青木圭, 大倉康男¹, 甫守正史², 高橋信一 (¹杏林大・医・病理, ²杏林大・医・血液内科): 胃にびまん性の浸潤を来たし, 稀な内視鏡所見を呈した多発性骨髄腫の 1 例. 第 94 回日本消化器病学会総会, 福岡, 平成 20 年 5 月 9 日.
8. Yamaguchi Y, Nakamura K, Toki M, Aoki K, Takahashi S: Resection after of 15mm as dividing line for choosing strip biopsy or endoscopic submucosal dissection for mucosal gastric neoplasm. Digestive Disease Week 2008 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, San Diego, May18,2008.
9. Nakamura M¹, Matsui H², Serizawa H³, Takahashi S, Kamada N⁴, Hibi T⁴, Suzuki H⁴, Tsuchimoto K¹ (¹School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ.² Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ. ³ Department of Internal Medicine, Kitasato Univ., ⁴ Department of Internal Medicine, Keio Univ.): IL-10 and not deficiency suppresses gastric low-grade MALT lymphoma formation by *Helicobacter heilmannii* infection. Digestive Disease Week 2008 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, San Diego, May18,2008.
10. Nakamura K, Yamaguchi Y, Toki M, Aoki K, Takahashi S: A prospective randomized controlled trial of famotidine and omeprazole : prevention of bleeding after EMR and effect of EMR-induced ulcer healing. Digestive Disease Week 2008 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, San Diego, May20,2008.
11. Toki M, Yamaguchi Y, Nakamura K, Aoki K, Takahashi S: Predictive risk factor for rebleeding and thirty-day mortality after endoscopic hemostasis in elderly bleeding peptic ulcer patient.

Digestive Disease Week 2008 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, San Diego, May20,2008.

12. 森秀明, 西川かおり, 本田普久, 峯佳毅, 塚田幾太郎, 高橋信一, 岸野智則¹, 小樽二世², 嶋田都³, 吉川憲明³ (¹杏林大・医・臨床検査医, ²東京歯科大・千葉病院, ³フィリップスメディカルシステムズ): Pure Wave Transducerを用いた腹部超音波検査の検討. 日本超音波医学会第81回学術集会, 神戸, 平成20年5月24日.
13. 本田普久, 峯佳毅, 松下彌生¹, 矢野雅彦¹, 嶋田都², 塚田幾太郎, 岸野智則³, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一 (¹東芝メディカルシステムズ, ²フィリップスメディカルシステムズ, ³杏林大・医・臨床検査医): Sonazoidを用いたリアルタイム3D/4D造影超音波による肝腫瘍診断. 日本超音波医学会第81回学術集会, 神戸, 平成20年5月24日.
14. 西川かおり, 森秀明, 本田普久, 峯佳毅, 高橋信一, 岸野智則¹, 小樽二世², 松下彌生³, 矢野雅彦³, 嶋田都⁴ (¹杏林大・医・臨床検査医, ²東京歯科大・千葉病院, ³東芝メディカルシステムズ, ⁴フィリップスメディカルシステムズ): 肝腫瘍に対する造影手法(MFIとMZI)の検討. 日本超音波医学会第81回学術集会, 神戸, 平成20年5月24日.
15. 土岐真朗, 山口康晴, 大野亜希子, 倉田勇, 村山隆夫, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 青木圭, 勝見直也, 両角克朗, 高橋信一: 当院における上部消化管出血に対する内視鏡止血困難例の検討. 第75回日本消化器内視鏡学会総会, 横浜, 平成20年5月24日.
16. 比嘉晃二, 土岐真朗, 大野亜希子, 倉田勇, 村山隆夫, 畑英行, 川越圭, 田部井弘一, 蓮江智彦, 田内優, 中村健二, 青木圭, 三浦美貴, 勝見直也, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一: 当院における上部消化管異物の検討. 第75回日本消化器内視鏡学会総会, 横浜, 平成20年5月25日.
17. 中村健二, 山口康晴, 村山隆夫, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 土岐真朗, 青木圭, 高橋信一: 内視鏡止血術を要した低用量アスピリン内服患者における出血性潰瘍の検討. 第75回日本消化器内視鏡学会総会, 横浜, 平成20年5月26日.
18. 中村一久, 佐藤悦久, 奥山秀平, 松岡弘泰, 根津佐江子, 川村直弘, 森秀明, 高橋信一: 当科における肝硬変の成因別実態. 第44回日本肝臓学会総会, 松山, 平成20年6月5日.
19. 奥山秀平, 根津佐江子, 中村一久, 松岡弘泰, 佐藤悦久, 川村直弘, 森秀明, 田中篤¹, 高橋信一 (¹帝京大・医・内科): 原発性胆汁性肝硬変における抗核抗体核膜型陽性例の臨床的特徴の検討. 第44回日本肝臓学会総会, 松山, 平成20年6月5日.
20. 筒井朱美¹, 柴田啓志¹, 高口浩一², 梶原英二³, 北本幹也⁴, 甲嶋洋平⁵, 矢野充保⁶, 川村直弘, 石川達⁷, 西村大作⁸, 生駒明⁹, 小松眞史¹⁰, 矢倉道泰¹¹, 土屋薫¹², 泉並木¹² (¹きたじま田岡病院・内科, ²香川県立中央病院・内科, ³新日本八幡記念病院消化器科, ⁴県立広島病院消化器科, ⁵さいたま赤十字病院内科, ⁶徳島県立中央病院・消化器科, ⁷済生会新潟第二病院・消化器科, ⁸厚生連加茂病院, ⁹生駒外科医院, ¹⁰市立秋田総合病院, ¹¹独立行政法人国立病院機構東京病院・消化器科, ¹²武蔵野赤十字病院・

消化器科) : C 型慢性肝疾患に対する PSE (部分的脾動脈塞栓術) または脾摘による HCV-RNA 量の推移についての検討. 第 44 回日本肝臓学会総会, 松山, 平成 20 年 6 月 5 日.

21. 塚田幾太郎, 本田普久, 峯佳毅, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一: 当科における転移性肝癌に対する RFA の治療成績と予後. 第 37 回武蔵野消化器談話会, 東京, 平成 20 年 6 月 7 日.
22. 川村直弘 (教育講演 I) : 見過ごされている肝疾患. ~病診連携の重要性~. 第 2 回地域で行う肝臓病教室 -三鷹モデル-, 三鷹, 平成 20 年 6 月 13 日.
23. 田村亮¹, 中村正彦¹, 松井英則², 高橋哲史¹, 相川知宏², 古田隆久³, 中村真一⁴, 鈴木秀和⁵, 鈴木雅之⁶, 高橋信一, 土本寛一¹ (¹北里大・薬, ²北里大・北里生命科学研究所, ³浜松医科大・消化器内科, ⁴東京女子医科大・消化器内科, ⁵慶応義塾大・医・消化器内科, ⁶東京医療センター・消化器内科) (シンポジウム) : 胃MOLTリンパ腫形成を指標とした, *Helicobacter heilmanii* 感染マウスの3剤除菌治療の効果. 第14回日本ヘリコバクター学会, 神戸, 平成20年6月26日.
24. 村上和成¹, 小林寅喆², 加藤元嗣³, 加藤晴一⁴, 東健⁵, 高橋信一, 上村直実⁶, 勝山努⁷, 福田能啓⁸, 春間賢⁹, 那須勝¹⁰ (日本ヘリコバクター学会耐性菌サーベイランス委員会 : ¹大分大・医・消化器内科, ²東邦大・医・感染制御学, ³北海道大・大学院医学研究科光学医療診療部, ⁴東北厚生年金病院・小児科, ⁵神戸大・医・消化器内科, ⁶国立国際医療センター・内視鏡部, ⁷信州大・医・病態解析診断, ⁸兵庫医科大・臨床栄養部, ⁹川崎医科大・食道胃腸内科, ¹⁰大分中村病院) (ワークショップ) : わが国における薬剤耐性 *Helicobacter pylori* の現状 - 耐性菌サーベイランスの 5 年間集計報告-. 第14回日本ヘリコバクター学会, 神戸, 平成20年6月27日.
25. 川上浩平¹, 河合隆¹, 鈴木秀和², 正岡建洋², 永原章仁³, 大草敏史⁴, 伊藤慎芳⁵, 徳永健吾, 松久威史⁶, 鈴木雅之⁷, 加藤俊二⁸, 峯徹哉⁹, 上村直実¹¹, 高橋信一, 榊信廣¹²) (東京Hp研究会 : ¹東京医科大・内視鏡センター, ²慶応義塾大・医・消化器内科, ³順天堂大・医・消化器内科, ⁴東京慈恵医科大柏病院・消化器内科, ⁵四谷メディカルキューブ, ⁶日本医科大・多摩永山病院・消化器科, ⁷国立病院機構東京医療センター消化器科, ⁸日本医科大・第一外科, ⁹東海大・医・消化器内科, ¹⁰国立国際医療センター・内視鏡部, ¹¹東京都立荏原病院) (ワークショップ) : 3剤療法による *Helicobacter pylori* 除菌率の経年的推移-東京都内多施設共同調査結果から-. 第14回日本ヘリコバクター学会, 神戸, 平成20年6月27日.
26. 徳永健吾, 伊藤慎芳¹, 松久威史², 河合隆³, 川上浩平³, 鈴木雅之⁴, 加藤俊二⁵, 永原章仁⁶, 大草敏史⁷, 鈴木秀和⁸, 田代博一⁹, 鳥居明¹⁰, 峯徹哉¹¹, 榊信廣¹², 高橋信一 (東京Hp研究会 : ¹四谷メディカルキューブ, ²日本医科大・多摩永山病院・消化器科, ³東京医科大・内視鏡センター, ⁴独立行政法人国立病院機構東京医療センター・消化器科, ⁵日本医科大・第一外科, ⁶順天堂大・医・消化器内科, ⁷東京慈恵医科大柏病院・消化器内科, ⁸慶応義塾大・医・消化器内科, ⁹田代内科クリニック, ¹⁰鳥居内科クリニック, ¹¹東海大・医・消化器内科, ¹²東京都立荏原病院) (ワークショップ) : 二次除菌不成功

症例に対するPPI+AMPC+GFLXによる*H. pylori*三次除菌療法の検討-東京都内多施設共同調査結果から,第二報 -. 第14回日本ヘリコバクター学会, 神戸, 平成20年6月27日.

27. 徳永健吾, 伊藤慎芳¹, 松久威史², 河合 隆³, 川上浩平³, 鈴木雅之⁴, 加藤俊二⁵, 永原章仁⁶, 大草敏史⁷, 鈴木秀和⁸, 田代博一⁹, 鳥居明¹⁰, 榊信廣¹¹, 高橋信一 (東京 Hp 研究会: ¹ 四谷メディカルキューブ, ² 日本医科大・多摩永山病院・消化器科, ³ 東京医科大・内視鏡センター, ⁴ 東京医療センター・消化器科, ⁵ 日本医科大・第一外科, ⁶ 順天堂大・医・消化器内科, ⁷ 東京慈恵医科大・柏病院・消化器内科, ⁸ 慶応義塾大・医・消化器内科, ⁹ 田代内科クリニック, ¹⁰ 鳥居内科クリニック, ¹¹ 東京都立荏原病院) (シンポジウム): MNZ を含む二次除菌不成功症例に対する PPI+AMPC+GFLX による *H. pylori* 三次除菌療法の検討-東京都内多施設における共同調査結果から-. 第 14 回日本ヘリコバクター学会, 神戸, 平成 20 年 6 月 27 日.
28. 斎藤大祐, 奥山秀平, 中村一久, 松岡弘泰, 佐藤悦久, 根津佐江子, 川村直弘, 森 秀明, 高橋信一: HIV, HBV 共感染を呈した 3 症例. 第48回三多摩肝臓談話会, 武蔵野, 平成20年7月4日.
29. 大野亜希子, 田内優, 川越圭, 比嘉晃二, 土岐真朗, 中村健二, 青木圭, 山口康晴, 森秀明, 大倉康男¹, 高橋信一 (¹ 杏林大・医・病理学): CDDP+CPT-11 療法が著効し, 長期生存が可能であった胃小細胞癌の 1 例. 第 300 回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 平成 20 年 7 月 5 日.
30. 森秀明, 西川かおり, 本田普久, 峯佳毅, 塚田幾太郎, 小樽二世, 高橋信一, 岸野智則, 嶋田都: フィリップス社製 iU22 を用いた肝腫瘍の造影超音波診断. 第 2 回ソナゾイド研究会, 東京, 平成 20 年 7 月 12 日
31. 森秀明: 腹部疾患の超音波診断. 三鷹医師会超音波勉強会三鷹, 平成 20 年 7 月 16 日
32. 關里和, 本田普久, 塚田幾太郎, 小樽二世, 峯佳毅, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一, 岸野智則¹ (¹ 杏林大・医・臨床検査医): 高齢者における肝・胆道系疾患の超音波診断. 第 11 回日本高齢消化器病学会, 東京, 平成 20 年 7 月 19 日.
33. 土岐真朗, 山口康晴, 村山隆夫, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 中村一久, 青木圭, 原留弘樹³, 峯佳毅, 阿部展次¹, 大倉康男², 杉山政則¹, 跡見裕¹, 高橋信一 (¹ 杏林大・医・第一外科, ² 杏林大・医・病理, ³ 杏林大・医・放射線科医): 非特異的な画像所見を呈した膵尾部腫瘍の 1 例. 第 39 回日本膵臓学会大会, 横浜, 平成 20 年 7 月 31 日.
34. 田部井弘一, 土岐真朗, 村山隆夫, 川越圭, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中里徹矢¹, 中村健二, 高和正¹, 青木圭, 原留弘樹², 山口康晴, 阿部展次¹, 杉山政則¹, 跡見裕¹, 高橋信一 (¹ 杏林大・医・第一外科, ² 杏林大・医・放射線科医): 重症壊死性膵炎に伴う膵仮性嚢胞の胃穿破および脾梗塞を合併した 1 例. 第 39 回日本膵臓学会大会, 横浜, 平成 20 年 7 月 31 日.
35. 妹尾孝浩, 土岐真朗, 村山隆夫, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 鈴木裕¹, 林田真理, 青木圭, 原留弘樹², 山口康晴, 阿部展次¹, 大倉康男³, 杉山政則¹, 跡見裕¹, 高橋信一 (¹ 杏林大・医・第一外科, ² 杏林大・医・放射線科

医,³杏林大・医・病理):興味ある画像所見を呈した膵体部癌の1例.第39回日本膵臓学会大会,横浜,平成20年7月31日.

36. 高橋信一(特別講演):*Helicobacter pylori*除菌療法の問題点と将来像を総括する.潰瘍病態研究会第17回フォーラム,東京,平成20年8月2日.
37. 田中昭文,徳永健吾,菅野朝,高橋信一,河合隆¹,野口雅久²,林原絵美子²,加藤文美²,笹津備規²,(¹東京医科大・内視鏡センター,²東京薬科大・薬・病原微生物):*H. pylori*除菌療法におけるclarithromycin耐性の影響 - 糞便CAM耐性*H. pylori*検出法 -.潰瘍病態研究会第17回フォーラム,東京,平成20年8月2日.
38. 高橋信一(特別講演):ピロリ除菌の現状と最近のトピックス.第2回西東京市消化器科医会,武蔵野,平成20年9月11日.
39. 三浦みき,斎藤大祐,奥山秀平,中村一久,松岡弘泰,根津佐江子,佐藤悦久,川村直弘,森秀明,高橋信一:HIV,HBVの共感染を呈した3症例.第301回日本消化器病学会関東支部例会,東京,平成20年9月6日
40. 本田普久,關里和,塚田幾太郎,峯佳毅,西川かおり,森秀明,高橋信一,岸野智則¹(¹杏林大・医・臨床検査医):診断に苦慮した肝腫瘍の1例.第97回腹部エコー研究会,東京,平成20年9月6日.
41. 森秀明,西川かおり,本田普久,峯佳毅,塚田幾太郎,關里和,小樽二世,高橋信一,岸野智則:腹部領域におけるドプラ法の有用性の検討.第25回超音波ドプラ研究会,東京,平成20年9月13日
42. 森秀明:腹部疾患の超音波診断.三鷹医師会超音波勉強会,三鷹,平成20年9月17日
43. 高橋信一(市民公開講座):ピロリ菌を除菌して健康な胃を取り戻そう!日本消化器病学会関東支部第54回市民公開講座,調布,平成20年9月28日.
44. 林田真理,今瀬教人,桜庭彰人,山田雄二,池井洋子,小山元一,高橋信一:当院における小腸潰瘍性病変に関する検討.第1回日本カプセル内視鏡研究会学術集会,東京,平成20年10月1日.
45. 田中篤¹,高橋宏樹²,根津佐江子,菊池健太郎³,奥山秀平,宮川浩³,上野義之⁴,大平弘正⁵,錢谷幹男²,滝川一¹,Montali L.⁶,Invernizzi P.⁷(¹帝京大・医・内科,²東京慈恵医科大・消化器肝臓内科,³帝京大・溝口病院・第四内科,⁴東北大・医・消化器内科,⁵福島県立医大・第二内科,⁶Department of psychology, University of Milano-Bicocca,Milan,Italy,⁷Department of Internal Medicine, Istituto Clinico-Humanitas IRCCS, University of Milan):疲労のみを症状とする「無症候性」原発性胆汁性肝硬変患者が存在する.JDDW 2008,東京,平成20年10月1~4日.
46. 林田真理,大平和彦,桜庭彰人,山田雄二,今瀬教人,小山元一,高橋信一:当院における小腸腫瘍性疾患に対する小腸内視鏡の有用性の検討.JDDW 2008,東京,平成20年10月3日.
47. 潮靖子¹,斎藤大祐,戸張真紀¹,田原純子¹,秦弘恵¹,上垣佐登子¹,新井富生¹,紀健二¹(¹東京都老人医療センター・消化器科):直腸癌・胆管癌・胃癌に対してTS-1治療が奏効

した1例. JDDW 2008, 東京, 平成20年10月2日.

48. 土岐真朗, 山口康晴, 大野亜希子, 倉田勇, 村山隆夫, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田中優, 中村健二, 青木圭, 勝見直也, 両角克朗, 森秀明, 高橋信一: 当院における胆石性膵炎の臨床的特徴. JDDW 2008, 東京, 平成 20 年 10 月 3 日.
49. 高橋信一 (教育講演): ヘリコバクター感染症診療の実際. 日本内科学会生涯教育講演会, 名古屋, 平成 20 年 10 月 5 日.
50. 高橋信一: ピロリ菌と胃癌の考え方. 第 2 回武蔵野消化器・肝疾患医療連携懇話会, 武蔵野, 平成 20 年 10 月 7 日.
51. 松岡弘泰: 当科における肝硬変の現状 (非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) 症例を中心に). 第 12 回 Digestive Disease Conference, 三鷹, 平成 20 年 10 月 8 日.
52. 高野麻衣子¹, 森秀明, 西川かおり, 本田普久, 浦田毅¹, 司茂幸英¹, 岸野智則², 杉山政則³, 高橋信一, 渡邊卓² (¹杏林・医・検査部, ²杏林・医・臨床検査医, ³杏林・医・第一外科): 自己免疫性膵炎との鑑別が困難であった主膵管内発育型腺癌の 1 例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第 20 回学術集会, 東京, 平成 20 年 10 月 26 日.
53. 西川かおり: フィルムリーディングフォーラム again@お台場 2008 『ここまでわかる腹部超音波検査～読影のポイントと撮影のポイント』. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第 20 回学術集会, 東京, 平成 20 年 10 月 26 日.
54. 高橋信一 (特別講演): *H. pylori* 感染症の過去・現在・未来. 三郷市医師会学術講演会, 三郷, 平成 20 年 10 月 29 日.
55. 高橋信一: 日常診療におけるピロリの考え方. 第 2 回多摩胃考会, 調布, 平成 20 年 11 月 4 日.
56. 森秀明: 腹部疾患の超音波診断. 三鷹医師会超音波勉強会, 三鷹, 平成 20 年 11 月 19 日
57. 高橋信一 (特別講演): ピロリ除菌の総まとめ-新ガイドライン 2008 より- 鹿児島市内科医会学術講演会, 鹿児島, 平成 20 年 11 月 20 日.
鹿児島市医報 48(2):19-22,2009.
58. 浦田毅¹, 岸野智則², 森秀明, 高野麻衣子¹, 岡崎充宏¹, 司茂幸英¹, 西川かおり, 峯佳毅, 本田普久, 塚田幾太郎, 關里和, 大塚弘毅², 大西宏明², 高橋信一, 石山陽事^{3,3}, 渡邊卓² (¹杏林・医・検査部, ²杏林・医・臨床検査医, ³杏林・保・臨床工学科): 膵実質エコーレベルと内臓血流動態の関連の検討. 第 55 回日本臨床検査医学会学術集会, 名古屋, 平成 20 年 11 月 29 日.
59. 高橋信一: 実地診療における過敏性腸症候群. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 平成 20 年 11 月 27 日.
60. 田中篤¹, 高橋宏樹², 上野義之³, 奥山秀平, 菊池健太郎⁴, 根津佐江子, 大平弘正⁵, 銭谷幹男², 滝川一¹ (¹帝京大・医・内科, ²東京慈恵医科大・消化器・肝臓内科, ³東北大・医・消化器内科, ⁴帝京大学溝口病院・第四内科, ⁵福島県立医大・第二内科): 慢性肝疾患患者は自らの病気をどのように認識しているか～Illness perception questionnairesを用いた解析～. 第37

回日本肝臓学会東部会, 東京, 平成20年12月4日

61. 森秀明, 西川かおり, 本田普久: Sonazoid を用いた造影超音波検査による肝腫瘍診断. 第37回日本肝臓学会東部会, 東京, 平成20年12月4日
62. 高橋信一 (ランチョンセミナー): ピロリ菌除菌療法の最新知見-2008年学会ガイドラインから-. 第87回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成20年12月12日.
63. 森秀明: USスクリーニングの重要所見『肝臓』. 超音波スクリーニング研修講演会2008, 横浜, 平成20年12月13日
64. 川越圭, 田内優, 大野亜希子, 林田真理, 土岐真朗, 青木圭, 山口康晴, 高橋信一, 小林敬明¹, 杉山政則¹, 知念克也², 大倉康男² (¹杏林大・医・第一外科, ²杏林大・医・病理): 血便を契機に発見された小腸脂肪腫の1例. 第87回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成20年12月13日.
65. 高橋信一 (特別講演): *H. pylori* 感染症のすべて-ガイドラインによる診断治療の最前線- GI Forum in MORIOKA, 盛岡, 平成21年1月15日.
66. 森秀明: 腹部疾患の超音波診断. 三鷹医師会超音波勉強会, 三鷹, 平成21年1月21日
67. 徳永健吾: *H. pylori* 除菌困難例に対する三次除菌療法. 多摩Hp・肝炎研究会. 東京, 立川, 平成21年1月31日.
68. 本田普久, 関里和, 塚田幾太郎, 峯佳毅, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一: ソナゾイドを用いた造影超音波検査による肝腫瘍診断. 第3回 Digestive Disease Conference, 三鷹, 平成21年2月4日.
69. 倉田勇, 田内優, 大野亜希子, 川越圭, 内田康二, 畑英行, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 中村健二, 土岐真朗, 青木圭, 山口康晴, 高橋信一, 大倉康男¹, 倉田厚¹ (¹杏林大・医・病理): 歩行困難を契機に発見された食道小細胞癌の1例. 第5回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 平成21年2月12日.
70. 蓮江智彦, 山口康晴, 倉田勇, 大野亜希子, 内田康二, 川越圭, 畑英行, 比嘉晃二, 田内優, 土岐真朗, 中村健二, 青木圭, 高橋信一: 稀な内視鏡像を呈した溺水生存患者の胃多発裂傷の一例. 第5回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 平成21年2月12日.
71. 徳永健吾, 田中昭文, 菅野朝, 小山元一, 高橋信一: 腸結核による腸閉塞を合併した粟粒結核の一例. 第5回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 平成21年2月12日.
72. 桜庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 小山元一, 森秀明, 高橋信一, 森永圭吾¹, 塚原弥生¹ (¹杏林大・医・放射線科医): IVRが奏功した巨大な上行結腸動静脈奇形の1例. 第5回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 平成21年2月12日.
73. 高橋信一 (教育講演): *H. pylori* 除菌療法の最前線. 第5回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 平成21年2月13日.
74. 島村淳一, 比嘉晃二, 大野亜希子, 倉田勇, 村山隆夫, 畑英行, 川越圭, 田部井弘一, 蓮江智彦, 田内優, 土岐真朗, 中村健二, 青木圭, 山口康晴, 高橋信一: 当院における上部消化管異物の検討. 第5回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 平成21年2月13日.
75. 徳永健吾, 田中昭文, 菅野朝, 高橋信一: *H. pylori* 除菌療法が著効した Menetrier 病に

直腸癌を合併した 1 症例. 第 303 回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 平成 21 年 2 月 21 日.

76. 高橋信一: ピロリ菌除菌学会ガイドライン 2009. 稲城市・多摩市医師会合同学術講演会, 稲城, 平成 21 年 2 月 25 日.
77. 高橋信一: *H. pylori* 除菌療法の現状-東京 UGI 研究会からの報告-. 第 10 回東京 UGI 研究会, 東京, 平成 21 年 3 月 7 日.
78. 塚田幾太郎, 關里和, 本田普久, 峯佳毅, 西川かおり, 森 秀明, 高橋信一: 造影超音波検査を施行した肝膿瘍の 1 例. 第 26 回超音波ドプラ研究会, 東京, 平成 21 年 3 月 14 日.
79. 高橋信一: 胃潰瘍の診断・治療・ガイドラインとヘリコバクター ピロリ除菌療法ガイドラインについて, 味の素ファルマ講演会, 東京, 平成 21 年 3 月 18 日.
80. 森秀明: 腹部疾患の超音波診断. 三鷹医師会超音波勉強会, 三鷹, 平成 21 年 3 月 18 日
81. 森秀明: 肝臓の血流診断 カラードプラと造影超音波検査. 第 193 回多摩エコー研究会, 東京, 平成 21 年 3 月 19 日
82. 高橋信一: ピロリ菌と胃の病気 -診断法から治療まで-. 熊日健康フォーラム, 熊本, 平成 21 年 3 月 21 日.
83. 高橋信一 (特別講演): ピロリ除菌の実際-日本ヘリコバクター学会ガイドライン 2009 から- 第 19 回城南消化器疾患懇話会, 東京, 平成 21 年 3 月 27 日.

II. 論文

1. 中村一久, 佐藤悦久, 奥山秀平, 松岡弘泰, 根津佐江子, 川村直弘, 森秀明, 高橋信一: TS-1 投与にて著効が得られた縦隔リンパ節転移を伴った進行肝細胞癌の 1 例. 肝臓 49:218-223,2008.
2. Matsui H^{1,2}, Aikawa C¹, Sekiya Y², Takahashi S, Somay Y, Murayama^{1,2}, Nakamura M³(¹ Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ. ² Center for Basic Research, Kitasato institute, ³ Center for Clinical Pharmacy and Clinical Sciences, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato Univ.): Evaluation of Antibiotic Therapy for Eradication of “*Candidatus Helicobacter heilmannii*” Antimicrobial Agents and Chemotherapy 52:2988-2989,2008.
3. Kisino T¹, Watanabe K², Urata T², Takana M², Uemura Y³, Nishikawa K, Mine Y, Matumoto M, Ohtsuka K¹, Ohnishi H¹, Mori H, Takahashi S, Ishida H, Watanabe T (¹ Department of Laboratory Medicine, Kyorin Univ. School of Medicine, ² Department of Clinical Laboratory, Kyorin Univ. Hospital, ³ Department of Preventive Medicine, Kyorin Univ. School of Medicine) : Visceral fat thickness in overweight men correlates with alterations in serum fatty acid composition. Clinica Chimica Acta 398:57-62,2008.
4. 中村正彦¹, 松井英則², 高橋信一, 土本寛一¹ (¹ 北里大・薬学部, ² 北里大・北里生命科学研究所) : *Helicobacter heilmannii* 感染と胃粘膜障害, 特に胃 MOLT リンパ腫形成に対する VEGF 抗体の効果. 潰瘍 35:116-121,2008.

5. Nakamura M¹, Takahashi S, Matsui H², Murayama SY², Aikawa C², Sekiya Y², Nishikawa K, Matsumoto T, Yamada H², Tsuchimoto K¹(¹School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ.² Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ.): Microcirculatory arteration in low-grade gastric mucosa-associated lymphoma by *Helicobacter heilmannii* infection: Its relation to vascular endothelial growth factor and cyclooxygenase-2. J Gastroenterol Hepatol 23(suppl.2):s157-s160,2008.
6. 日本ヘリコバクター学会耐性菌サーベイランス委員会(小林寅哲, 村上和成, 加藤元嗣, 加藤晴一, 東健, 高橋信一, 上村直実, 勝山努, 福田能啓, 春間賢, 那須 勝): わが国における薬剤耐性 *Helicobacter pylori* の現状 平成 18 年度耐性菌サーベイランス集計および 5 年間の集計報告. 日本ヘリコバクター学会誌 10: 98-103,2009.
7. 高橋信一, 徳永健吾, 田中昭文: ヘリコバクター感染症診断の実際. 日内会誌 98:154-159, 2009.
8. 田中篤¹, 高橋宏樹², 根津佐江子, 上野義之³, 菊池健太郎⁴, 渋谷明隆⁵, 大平弘正⁶, 銭谷幹男², MontaliLorenzo⁷, InvernizziPietro⁸, 滝川一¹ (¹帝京大・医・内科, ²東京慈恵医科大・消化器肝臓内科, ³東北大・医・消化器内科, ⁴帝京大溝口病院・第四内科, ⁵北里大学病院・消化器内科, ⁶福島県立医科大・第二内科, ⁷Department of psychology, University of Milano-Bicocca, Milan, Italy, ⁸ Department of Internal Medicine, Istituto Clinico-Humanitas IRCCS, University of Milan): 日本人 PBC 患者における Fisk Fatigue Severity Score(FFSS)日本語版の妥当性の検証. 肝臓 50: 51-59, 2009.

III. 著書

1. 高橋信一: Q7 *H.pylori* 感染の除菌前診断はどれが適当でしょうか?. EBM に基づく胃潰瘍診療ガイドライン Q & A. 胃潰瘍ガイドラインの適応と評価に関する研究班編, 東京, じほう, 2008.p.14-15.
2. 高橋信一: Q8 *H.pylori* 感染の除菌前診断における注意事項は何でしょうか?. EBM に基づく胃潰瘍診療ガイドライン Q & A. 胃潰瘍ガイドラインの適応と評価に関する研究班編, 東京, じほう, 2008.p.16-17.
3. 高橋信一: Q28 ガイドラインにおいて *H.pylori* 除菌治療の適応でない場合とはどんなときでしょうか?. EBM に基づく胃潰瘍診療ガイドライン Q & A. 胃潰瘍ガイドラインの適応と評価に関する研究班編, 東京, じほう, 2008.p.48.
4. 森秀明: 腹部超音波検査のコツ. Medical Practice25: 710, 2008
5. 峯佳毅, 高橋信一: 腹痛. 消化器疾患 最新の治療. 菅野健太郎, 上西紀夫, 井廻道夫編, 東京, 南江堂, 2009.p.71-75.(2009.2.15)
6. 森秀明, 西川かおり, 本田普久, 峯佳毅, 塚田幾太郎, 關里和, 小樽二世, 高橋信一, 岸野智則¹, 嶋田都² (¹杏林・医・臨床検査医, ²フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ): フィリップス社製 iU-22 を用いた肝腫瘍の造影超音波診断. INNERVISIONR 23(10): 24-27, 2008
7. 森秀明: 腹部超音波フルコース. メジカルビュー社 (韓国版), 韓国, 2008

8. 森秀明：C. 臍 1. 臍の正常解剖（発生を含む）・超音波解剖. US スクリーニング. 竹原靖明編，東京，医学書院. 2008. p182-185.
9. 中村一久，佐藤悦久，斎藤大祐，奥山秀平，松岡弘泰，根津佐江子，川村直弘，森秀明，高橋信一：当科における肝硬変の成因別実態. 肝硬変の成因別実態 2008，東京，中外医学社，2008，p.121-127
10. 峯佳毅：病気になる 健康を知る「肝臓の病気」. 健康ライフ 6. 大日本印刷健康保険組合：3-6，2008.
11. 峯佳毅，森秀明，塚田幾太郎，本田普久，小樽二世，岸野智則¹，西川かおり，石田均，高橋信一（¹杏林・医・臨床検査医）：iU-22（Philips）を用いたソナゾイド造影超音波検査の経験. Rad Fan 6：26-28，2008
12. 本田普久，峯佳毅，松下彌生¹，嶋田都²，塚田幾太郎，岸野智則³，小樽二世⁴，西川かおり，森秀明，高橋信一（¹東芝メディカルシステムズ株式会社，²フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ，³杏林・医・臨床検査医，⁴小樽医院）：普及機でのソナゾイド造影超音波の試み. Rad Fan 6：84-85，2008
13. 塚田幾太郎，本田普久，峯佳毅，西川かおり，森秀明，高橋信一：当科における転移性肝癌に対するラジオ波焼灼療法の治療成績と予後. 多摩消化器シンポジウム誌 23:18-19，2009
14. 奥山秀平，根津佐江子，中村一久，松岡弘泰，佐藤悦久，川村直弘，森秀明，田中篤¹，高橋信一（¹帝京大・医・内科）：原発性胆汁性肝硬変における抗核抗体核膜型陽性例の臨床的特徴の検討. Medical Postgraduates 47: 24-26，2009.
15. 田中篤¹，根津佐江子，高橋宏樹²，菊池健太郎³，大平弘正⁴，滝川一¹（¹帝京大・医・内科，²東京慈恵医科大・消化器肝臓内科，³帝京大溝口病院・第四内科，⁴福島県立医科大学・第二内科）：日本人原発性胆汁性肝硬変患者の疲労症状. Medical Postgraduates 47：27-30，2009

IV. その他

1. 高橋信一（学会主催）：第 11 回日本高齢消化器病学会，東京，平成 20 年 7 月 19 日.
2. 高橋信一（翻訳）：均一化と*H. pylori* そしてマスケット銃士隊：適切な標準治療レジメンの選択. *Helicobacter* 日本語抄訳版9(3):26-27,2008.
3. 高橋信一（翻訳）：一般臨床における除菌困難な*Helicobacter pylori*に対するrifabutinを使用した3剤併用療法の効果について. *APT Digest* 11(4):37-39,2008.

第三内科学教室（糖尿病・内分泌・代謝内科）

I. 口演

1. 石田 均（特別講演）：膵β細胞を保護する糖尿病治療．糖尿病治療フォーラム松山，松山，平成20年4月17日．
2. 石田 均（受賞者講演・学会賞）：糖尿病性骨減少症の病態生理学的研究．第62回日本栄養・食糧学会，坂戸，平成20年5月2日．
3. 山口真哉，板垣英二，下山達宏，田中利明，小沼裕寿，半田桂子，森谷理恵，村嶋俊隆，飯沼 繭，吉元勝彦，石田 均：肥満2型糖尿病患者のコルチゾール分泌に関する検討．第81回日本内分泌学会学術総会，青森，平成20年5月16日-18日．
4. 櫻井拓也¹，北舘健太郎²，西岡 浩²，藤井 創²，久島達也³，安部 茂³，木崎節子¹，小笠原準悦¹，白土 健¹，井澤鉄也⁴，今泉和彦⁵，石田 均，大野秀樹¹（¹杏林大学医学部衛生公衆衛生，²（株）アミノアップ化学，³帝京大，⁴同志社大，⁵早稲田大）：ライチ由来新規低分子化ポリフェノール Oligonol は披露改善効果をもつ．第5回国際食品機能学会，名古屋，平成20年5月21日-23日．
5. 吉元勝彦，鈴木 清¹，飯沼 繭，村嶋俊隆，三橋順子，高橋和人，関 博之，勝田秀紀，田中利明，小澤幸彦，丸山雅弘，山口真哉，板垣英二，石田 均（1市立島田市民病院臨床検査科）：耐糖能障害の細分化とインスリン分泌能の病態—Proinsulin，とくに Intact Molecule 測定を用いた検討—．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
6. 小澤幸彦，勝田秀紀，田中利明，下山達宏，三代川可織，半田桂子，高橋和人，三橋順子，吉元勝彦，鈴木 清¹，石田 均（1市立島田市民病院臨床検査科）：2型糖尿病症例での Proinsulin Processing 機構の障害—グルカゴン負荷試験による PC3 活性低下の評価．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
7. 鈴木 清¹，三橋順子¹，榛葉孝弘¹，杉本智惟子¹，菊山宗嗣²，久野義和³，堀江 均³，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（1市立島田市民病院糖尿病代謝科，²東京メディカル COR（株），³三菱化学 BCL）：2型糖尿病に認められる高プロインスリン血症と動脈硬化との関連ならびにその背景因子について．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
8. 藤井仁美¹，貴田岡正史²，植木彬夫³，宮川高一¹，石田 均，井上 岳⁴，菅野一男⁵，高村 宏⁶，武居正郎⁷，中野忠澄⁸，西田賢司⁹，西村一弘¹⁰，堀口ハル子¹¹，近藤甲斐夫¹¹，伊藤眞一¹²，浦部康雄¹³，小柳貴子¹⁴，調進一郎¹⁵，大野 敦³，住友秀孝¹⁶，辻野元祥¹⁰，深野光司¹⁷，松尾美穂³，渡邊祐子¹，矢田眞理子¹³，和田幹子²（¹多摩みなみクリニック内科，²NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会，³東京医大八王子医療センター，⁴北里大学薬学部臨床薬学センター，⁵武蔵野赤十字病院，⁶高村内科クリニック，⁷武居医院，⁸東京都多摩北部医療センター，⁹都立府中病院，¹⁰緑風荘病院，¹¹近藤医院，¹²伊藤内科小児科クリニック，¹³公立昭和病院，¹⁴武蔵村山病院，¹⁵総合新川橋病院，¹⁶立川相互病院，¹⁷府中療育センター）：NPO 西東京臨床糖尿病研究会における糖尿病療養指導士（LCDE）認定について．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
9. 小林庸子¹，浅間 泉²，森小津恵²，今野里美²，北原敦子³，勝田秀紀，西田 進，山口真哉，吉元勝彦，石田 均（¹杏林大学医学部附属病院薬剤部，²杏林大学医学部附属病院看護部，³杏林大学

医学部付属病院栄養科)：糖尿病療養指導外来における薬剤師の役割 (第2報)．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．

10. 三代川可織，高橋和人，関博之，半田桂子，下山達宏，田中利明，勝田秀紀，山口真哉，吉元勝彦，永松信哉¹，石田均 (1 杏林大学医学部生化学)：脂肪細胞での Hypoxia が関与する細胞内機構の検討—MCP-1 分泌への影響について—．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
11. 高橋和人，三代川可織，関博之，半田桂子，下山達宏，田中利明，勝田秀紀，山口真哉，吉元勝彦，永松信哉¹，石田均 (1 杏林大学医学部生化学)：脂肪細胞の肥大化にともなう VEGF₁₂₀ 分泌の増加とその細胞内機構について—酸化ストレス及び PI3K 経路の関与—．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
12. 北原敦子¹，佐藤ミヨ子¹，小林庸子²，森小津恵³，浅間泉³，勝田秀紀，西田進，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田均 (1 杏林大学医学部付属病院栄養科，² 杏林大学医学部付属病院薬剤師，³ 杏林大学医学部付属病院看護部)：減量困難な肥満2型糖尿病患者の食習慣と食欲調節ホルモンとの関連性について (第2報)．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
13. 関博之，高橋和人，三代川可織，半田桂子，勝田秀紀，下山達宏，田中利明，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，永松信哉¹，石田均 (1 杏林大学医学部生化学)：Glucolipototoxicity による膵β細胞からの MCP-1 分泌の増加と細胞内情報伝達系の関与．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
14. 辻野元祥¹，西田賢司¹，戸塚康男²，横山淳一³，吉元勝彦，石田均，藤川真理子⁴，菅野一男⁵，春木純淑⁶，丸茂恒二⁷，片山隆司⁸，貴田岡正史⁹，江川正雄¹⁰，五十里一秋¹⁰，友松栄二¹⁰ (1 東京都立府中病院内科，² 調布東山病院内科，³ 東京慈恵会医科大学第三病院糖尿病代謝内分泌科，⁴ 江戸川区健康部，⁵ 武蔵野赤十字病院内分泌代謝科，⁶ 春木医院，⁷ 丸茂医院，⁸ かたやま内科クリニック，⁹ 公立昭和病院内分泌代謝科，¹⁰ 多摩府中保健所)：北多摩南部保健医療圏における糖尿病地域医療連携の取組み．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
15. 小澤幸彦，勝田秀紀，田中利明，下山達宏，三代川可織，半田桂子，高橋和人，三橋順子，吉元勝彦，鈴木清¹，石田均 (1 市立島田市民病院臨床検査科)：2型糖尿病症例での Proinsulin Processing 機構の障害—グルカゴン負荷試験による PC3 活性低下の評価—．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
16. 西田進，鈴木清¹，勝田秀紀，三橋順子，半田桂子，小沼裕寿，森谷理恵，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田均 (1 市立島田市民病院臨床検査科)：耐糖能障害判定のための空腹時 1.5-AG ならびに血糖値の同時測定の意義とその有用性．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
17. 勝田秀紀，鈴木清¹，北原敦子²，三橋順子，小沼裕寿，森谷理恵，村嶋俊隆，飯沼繭，西田進，山口真哉，吉元勝彦，石田均 (1 市立島田市民病院糖尿病代謝科，² 杏林大学医学部付属病院栄養科)：耐糖能障害例におけるメタボリック因子と食欲調節ホルモンの関連について．第51回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，平成20年5月22日-24日．
18. 森小津恵¹，高橋久子¹，小野田麻弥¹，今野里美¹，浅間泉¹，小林庸子²，下山達宏，田中利明，

- 半田桂子, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田 均 (1 杏林大学医学部付属病院看護部, 2 杏林大学医学部付属病院薬剤部): 当院におけるインスリン療法に関連した安全への取り組み—インシデントレポートの分析から—. 第 51 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 平成 20 年 5 月 22 日-24 日.
19. 三橋順子, 鈴木 清¹, 榛葉孝弘¹, 黒瀬 健², 杉本智惟子¹, 半田桂子, 勝田秀紀, 山口真哉, 西田 進, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田 均 (1 市立島田市民病院臨床検査科, 2 関西電力病院): 血中 BNP 濃度の生理学的意義に関する検討 (第一報) —心血管イベントの危険因子を中心に—. 第 51 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 平成 20 年 5 月 22 日-24 日.
 20. 石田 均 (特別講演): 膵β細胞の保護を考慮した糖尿病治療戦略. 第 2 回市川糖尿病研究会, 市川, 平成 20 年 6 月 20 日.
 21. 石田 均 (特別講演): 糖尿病と骨疾患. Eisai Lecture Meeting, 武蔵野, 平成 20 年 7 月 25 日.
 22. 石田 均 (教育講演): 糖尿病治療の新しい展開—インスリンも含めて—. 第 5 回西東京糖尿病薬剤研修会, 国立, 平成 20 年 7 月 27 日.
 23. 石田 均 (特別講演): 糖尿病の薬物療法のポイントと最近の話題. 第 20 回滋賀糖尿病療養指導研究会, 草津, 平成 20 年 9 月 13 日.
 24. 石田 均 (特別講演): インスリン合成/分泌機構と糖尿病での異常. 第 3 回静岡県糖尿病予防講演会, 静岡, 平成 20 年 9 月 18 日.
 25. 石田 均 (講演): 糖尿病・耐糖能異常について. 秋川流域 第 2 回市民健康フォーラム, あきる野, 平成 20 年 10 月 11 日.
 26. 勝田秀紀, 鈴木 清¹, 北原敦子², 三橋順子, 西田 進, 山口真哉, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田 均 (1 市立島田市民病院, 2 杏林大学医学部付属病院栄養科): 耐糖能障害例におけるメタボリック因子と食欲調節ホルモンの関連について. 第 29 回日本肥満学会, 大分, 平成 20 年 10 月 17 日-18 日.
 27. 石田 均 (特別講演): 糖尿病治療の将来展望—膵β細胞の保護を踏まえて—. 第 59 回兵庫県糖尿病懇話会, 神戸, 平成 20 年 11 月 1 日.
 28. 勝田秀紀 (症例報告): 心不全を契機に発見された TSH 産生下垂体腺腫の 1 例. 第 6 回多摩視床下部下垂体勉強会, 武蔵野, 平成 20 年 11 月 14 日.
 29. 炭谷由計, 飯沼 繭, 半田桂子, 信太暁子, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 高橋和人, 三代川可織, 下山達宏, 田中利明, 勝田秀紀, 西田 進, 山口真哉, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田 均: 大量の咯血を来した褐色細胞腫の一例. 第 36 回内分泌代謝研究会, 東京, 平成 20 年 12 月 13 日.
 30. 北原敦子¹, 佐藤ミヨ子¹, 柴田公子¹, 勝田秀紀, 高橋和人, 三代川可織, 西田 進, 山口真哉, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田 均 (1 杏林大学医学部付属病院栄養科): 肥満 2 型糖尿病と食欲調節ホルモンの関連性について (第 2 報). 第 12 回日本病態栄養学会, 京都, 平成 21 年 1 月 10 日-11 日.
 31. 炭谷由計, 小沼裕寿, 飯沼 繭, 村嶋俊隆, 半田桂子, 下山達宏, 田中利明, 山口真哉, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田 均: 速やかな経過で増殖網膜症を発症し先端巨大症を合併した肥満糖尿病の一例. 第 46 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 平成 21 年 1 月 24 日.
 32. 石田 均 (レクチャー): 糖尿病とレニン・アンジオテンシン系. 魚津・下新川地区 Mini Discussion Meeting, 魚津, 平成 21 年 2 月 10 日.
 33. 炭谷由計, 半田桂子, 三代川可織, 高橋和人, 下山達宏, 田中利明, 勝田秀紀, 牛川 憲司, 西田 進, 山口真哉, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田 均: ACTH 単独欠損症を合併した汎発性脱毛症の一例.

第 19 回臨床内分泌代謝 Update, 東京, 平成 21 年 3 月 13 日-14 日.

34. 石田 均 (講演): 膵 β 細胞を保護する糖尿病治療—新たな視点からの治療戦略—. 第 19 回臨床内分泌代謝 Update, 東京, 平成 21 年 3 月 13 日-14 日.
35. 石田 均 (講演): 糖尿病の新たな治療体系の意義—耐糖能異常の「境界型」は病気でないと言えるか?—. 日本薬学会第 129 回年会, 京都, 平成 21 年 3 月 26 日-28 日.
36. 吉元勝彦 (講演): 外来診療におけるインスリン導入 —特に BOT について—. 第 136 回秋元ゼミナール, 武蔵野, 平成 20 年 4 月 23 日.
37. 吉元勝彦 (講演): 糖尿病患者の脳卒中を予防するために. 第 3 回 西東京糖尿病合併症予防フォーラム, 調布, 平成 20 年 6 月 11 日.
38. 吉元勝彦 (講演): メタボリックシンドロームと 2 型糖尿病. 小平市医師会学術講演会, 小平, 平成 20 年 6 月 25 日.
39. 吉元勝彦 (講演): 日本人 2 型糖尿病の現状. 府中市医師会学術講演会, 三鷹, 平成 20 年 7 月 22 日.
40. 吉元勝彦 (講演): 糖尿病の概念と療養指導総論. 第 9 回 西東京糖尿病療養指導士養成講座, 立川, 平成 20 年 9 月 9 日.
41. 吉元勝彦 (講演): BOT —外来におけるインスリン導入—. 糖尿病フォーラム, 東京, 平成 20 年 11 月 5 日.

II. 論文

1. K.Takahashi, S.Yamaguchi, T.Shimoyama, H.Seki, K.Miyokawa, H.Katsuta, T.Tanaka, K.Yoshimoto, H.Ohno, S.Nagamatsu and H.Ishida. JNK- and I κ B-dependent pathways regulate MCP-1, but not adiponectin, release from artificially hypertrophied 3T3-L1 adipocytes preloaded with palmitate in vitro. *Am J Physiol* 294:E898-E909, 2008
2. M.Takizawa, K.Suzuki, T.Matsubayashi, M.Kikuyama, H.Suzuki, K.Takahashi, H.Katsuta, J.Mitsubishi, S.Nishida, S.Yamaguchi, K.Yoshimoto, E.Itagaki and H. Ishida. Increased bone resorption may play a crucial role in the occurrence of osteopenia in patients with type 2 diabetes: possible involvement of accelerated polyol pathway in its pathogenesis. *Diabetes Res Clin Pract* 82: 119-126, 2008
3. T.Kishino, K.Watanabe, T.Urata, M.Takano, T.Uemura, K.Nishikawa, Y.Mine, M.Matsumoto, K.Ohtsuka, H.Ohnishi, H.Mori, S. Takahashi, H.Ishida and T.Watanabe. Visceral fat thickness in overweight men correlates with alterations in serum fatty acid composition. *Clin Chim Acta* 398: 57-62, 2008
4. T.Sakurai, T.Izawa, T.Kizaki, J.Ogasawara, K.Shirato, K.Imaizumi, K.Takahashi, H.Ishida and H.Ohno. Exercise training decreases expression of inflammation-related adipokines through reduction of oxidative stress in rat white adipose tissue. *Biochem Biophys Res Commun* 379: 605-609, 2009
5. H.Seki, K.Takahashi, K.Miyokawa, K.Handa, H.Katsuta, S.Yamaguchi, K.Yoshimoto, E.Itagaki, S.Nagamatsu and H.Ishida. Enhanced release of monocyte chemoattractant protein-1 (MCP-1) by high glucose and free fatty acid and its underlying mechanism in MIN6 β cells. *J Kyorin Med Soc*, 39:31-36, 2008

Ⅲ. 著書

1. 石田 均. 合併症の診断と治療 急性合併症(意識障害・昏睡). 内科 101(1):69-73, 2008.
2. 吉元勝彦, 石田 均. 糖尿病の新しい治療, SU 薬. Modern Physician 28(2):144-147, 2008.
3. 吉元勝彦, 石田 均. 肥満と糖尿病の薬物療法 SU 薬の構造と使い分けは?. 肥満と糖尿病 8:199-201, 2009.
4. 勝田秀紀, 石田 均. 糖尿病治療における膵β細胞数の意義. 最新医学 64(2):185-191, 2009.
5. 西田 進, 石田 均. 糖尿病の病態. 膵臓移植. 出月康夫, 野澤眞澄監修. シュプリンガー・ジャパン, 東京, 2008, p9-26.
6. 篁 俊成, 荒木 勉, 石田 均, 土谷武嗣, 重度行弘(座談会). 糖尿病と循環器疾患を語る—北陸からの発信. Prog Med 28:2175-2181, 2008.
7. 半田桂子, 板垣英二, 村嶋俊隆, 飯沼 繭, 森谷理恵, 小沼裕寿, 三代川可織, 高橋和人, 下山達宏, 田中利明, 勝田秀紀, 西田 進, 山口真哉, 吉元勝彦, 石田 均. 腫瘍摘出後に高カルシウム血症と中枢性甲状腺機能亢進症を呈した Cushing 症候群の 2 症例. 日本内分泌学会雑誌 84 (suppl.):72-75, 2008.
8. 石田 均, 森川秋月, 佐野隆一, 田中 逸, 井上達秀, 岡本元純, 久保田稔, 伊藤千賀子, 四方賢一, 竹田晴生. (委員会報告): 医学書院「糖尿病ハンドブック第 2 版」に関する訴訟の経緯について. 糖尿病 52(3):260-265, 2009.
9. 板垣英二. 第 102 回医師国家試験問題解説書. 医師国家試験問題解説書編集委員会 編, 東京, 医学評論社: p443-444, p455, p488-489, 2008.
10. 板垣英二. 第 102 回医師国家試験問題解説. 国試対策問題編集委員会 編, 東京, メディックメディア: p421, p433, p434-435, p473-474, 2008.
11. 板垣英二. CBT こあかり リ・コ 2009 五肢択一形式篇, CBT こあかり リ・コ編集委員会 編, 東京, 医学評論社: p359-370, 2008.
12. 板垣英二. CBT こあかり リ・コ 2009 連問形式篇, CBT こあかり リ・コ編集委員会 編, 東京, 医学評論社: p137-140, 239-24, 2008.
13. 板垣英二. CBT こあかり オリエンテーション 第 3 版. 庄司進一, 松田重三 編, 東京, 医学評論社: p283-292, 2009.

内科学腫瘍科教室

I. 口演

1. 古瀬純司：膵・胆道癌の化学療法－エビデンスに基づく治療戦略－. 第1回西東京胆膵懇話会, 立川, 平成20年4月19日
2. 鈴木英一郎, 古瀬純司, 仲地耕平, 光永修一, 清水怜：肝内胆管癌全身化学療法例における予後因子の特徴と、それに基づく適応. 第44回日本肝癌研究会, 大阪, 平成20年5月22日
3. 古瀬純司：肝細胞癌の化学療法－分子標的薬をめぐって－. 第37回武蔵野消化器病談話会, 東京, 平成20年6月7日
4. 古瀬純司：がん化学療法－腫瘍内科の役割と現状－. 東京都病院薬剤師会, 八王子, 平成20年6月11日
5. 古瀬純司, 仲地耕平：5大がん オンコロジストからの提言：シームレスな医療のために. 肝細胞癌の臨床的特徴. 第13回日本緩和医療学術大会, 静岡, 平成20年7月5日
6. 古瀬純司：胆道・膵癌の化学療法－ASCO2008の動向を踏まえて－. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌, 平成20年7月16日
7. Kudo M, Furuse J, Okusaka T, Kaneko S, Ueshima K, Nakachi K, Ikeda M, Yamashita T: Phase I/II study of the efficacy and safety of S-1 in patients with advanced hepatocellular carcinoma. The 2nd International Liver Cancer Association, Chicago, 6-7 September, 2008
8. Okusaka T, Ikeda M, Furuse J, Nakachi K, Morizane C, Ueno H, Yamaura H, Inaba Y, Satake M, Arai Y: A phase II trial of hepatic arterial infusion chemotherapy with cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombosis. The 33rd ESMO (European Society for Medical Oncology) Congress, Stockholm, 12-16 September, 2008
9. 古瀬純司：胆道癌の診断と治療. 最前線 胆道癌に対する化学療法の現状と今後の展望. 第44回日本胆道学会学術集会, 名古屋, 平成20年9月20日
10. 清水怜, 古瀬純司, 池田公史：S-1承認により進行膵癌の治療はどう変わったか. 第50回日本消化器病学会, 東京, 平成20年10月1日
11. 古瀬純司：肝細胞癌における分子標的治療の展望. 第50回日本消化器病学会, 東京, 平成20年10月2日
12. 古瀬純司：膵・胆道癌の化学療法～最新の動向をふまえて～. 三重膵胆道癌化学療法講演会, 津, 平成20年10月4日
13. 古瀬純司：－アバスチンの現状と今後－大腸がんにおける分子標的治療薬の現状と展望. 三鷹アバスチン適正使用カンファレンス, 東京, 平成20年10月10日
14. 古瀬純司：膵癌の化学療法～集学的治療の位置付け～. Pancreato-Biliary Oncology Club in Hiroshima, 広島, 平成20年10月24日
15. 古瀬純司：膵・胆道癌の化学療法～最近の動向を踏まえて～. 第6回関東膵癌化学療法研究会, 東京, 平成20年11月12日
16. 古瀬純司：膵・胆道癌の化学療法－最新の動向－. 第10回消化器診療セミナー, 仙台, 平成20年11月14日

17. 古瀬純司：胆道癌の術後補助療法. 第12回多摩肝胆膵クラブ, 東京, 平成20年11月15日
18. 古瀬純司：肝・胆道・膵癌の化学療法-分子標的薬を中心に-. 大阪消化器癌・肝炎治療フォーラム, 大阪, 平成20年11月20日
19. 古瀬純司：難治性がんの克服に向けて創薬を考える. 医療現場のニーズと解決策：膵がん化学療法の現状と課題. 平成20年度厚生労働科学研究費補助金 政策創薬総合研究推進事業 第33回ヒューマンサイエンス総合研究セミナー, 東京, 平成20年1月21日
20. Furuse J: Pancreatobiliary Cancer Update-Prevention, Diagnosis and Treatment. Current view of multidisciplinary treatment of pancreatic cancer. Treatment strategy of chemotherapy for unresectable pancreatic cancer. The 14th Aichi International Cancer Symposium., Nagoya, 31 January, 2009
21. 古瀬純司：肝細胞癌における分子標的薬の位置づけと副作用マネジメント 肝細胞癌に対する治療の現状と今後の動向—期待される分子標的治療の実際—. 第23回日本がん看護学会学術集会, 宜野湾, 平成20年2月8日
22. 古瀬純司：膵・胆道癌の化学療法 -エビデンスとプラクティス-. 第3回消化器がん化学療法研究会, 名古屋, 平成20年2月20日
23. 古瀬純司：進行・再発胃癌の化学療法の現況～海外報告を含めて～. 第3回多摩エルプラットシンポジウム, 立川, 平成20年2月27日
24. 古瀬純司：最先端の癌外科治療 2009 update. Cancer Chemotherapy 分子標的薬を含めた癌化学療法の現状と進歩. Tokyo-bay Cancer Symposium in MAKUHARI, 千葉, 平成20年2月28日
25. 古瀬純司：肝細胞がんの化学療法—分子標的薬の動向. 第8回 OKAYAMA CANCER FORUM, 岡山, 平成20年3月6日
26. Furuse J: ESMO/JSMO joint symposium: Latest Advances in Chemo- and Biologic Therapy for Gastrointestinal Cancer. Hepatocellular carcinoma. The 7th Annual Meeting of Japanese Society of Medical Oncology, Nagoya, 20 March, 2009
27. Furuse J: Pancreatic Cancer - New insights from pathogenesis to treatment-. Therapeutic Strategies for Pancreatic Cancer. The International Pancreatic Research Forum 2009, Tokyo, 21 March, 2009
28. 古瀬純司：がん治療 update がん化学療法の最近の動向. 第9回杏林総合臨床研究会, 武蔵野, 平成20年3月26日
29. 古瀬純司：膵癌化学療法の最近の動向. 北海道医師会認定生涯教育講座. 北海道消化器がん治療講演会, 札幌, 平成20年3月27日

II. 論文

1. Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Purpose, use, and preparation of clinical practice guidelines for the management of biliary tract and ampullary carcinomas. J Hepatobiliary Pancreat Surg 15:2-6, 2008.
2. Miyakawa S, Ishihara S, Takada T, Miyazaki M, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Flowcharts for the management of biliary tract and ampullary carcinomas. J Hepatobiliary Pancreat Surg 15:7-14,

2008.

3. Miyazaki M, Takada T, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Chijiiwa K, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Risk factors for biliary tract and ampullary carcinomas and prophylactic surgery for these factors. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:15-24, 2008.
4. Nagino M, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Kondo S, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Yoshikawa T, Ohta T, Kimura F, Ohta T, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Preoperative biliary drainage for biliary tract and ampullary carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:25-30, 2008.
5. Tsukada K, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Diagnosis of biliary tract and ampullary carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:31-40, 2008.
6. Kondo S, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Yamamoto M, Kayahara M, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Hirano S, Amano H, Miura F. Guidelines for the management of biliary tract and ampullary carcinomas: surgical treatment. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:41-54, 2008.
7. Furuse J, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Saito H, Tsuyuguchi T, Hirata K, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Guidelines for chemotherapy of biliary tract and ampullary carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:55-62, 2008.
8. Saito H, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Tsuyuguchi T, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Radiation therapy and photodynamic therapy for biliary tract and ampullary carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:63-68, 2008.
9. Tsuyuguchi T, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Saito H, Suyama M, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Stenting and interventional radiology for obstructive jaundice in patients with unresectable biliary tract carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:69-73, 2008.
10. Furuse J, Ishii H, Nakachi K, Suzuki E, Shimizu S, Nakajima K. Phase I study of sorafenib in Japanese patients with hepatocellular carcinoma. *Cancer Sci* 99:159-165, 2008.
11. Okusaka T, Funakoshi A, Furuse J, Boku N, Yamao K, Ohkawa S, Saito H. A late phase II study of S-1 for metastatic pancreatic cancer. *Cancer Chemother Pharmacol* 61:615-621, 2008.
12. Thomas MB, O'Beirne JP, Furuse J, Chan AT, Abou-Alfa G, Johnson P. Systemic Therapy for Hepatocellular Carcinoma: Cytotoxic Chemotherapy, Targeted Therapy and Immunotherapy. *Ann Surg Oncol* 15:1008-1014, 2008.
13. Furuse J, Okusaka T, Boku N, Ohkawa S, Sawaki A, Masumoto T, Funakoshi A. S-1 monotherapy as first-line treatment in patients with advanced biliary tract cancer: a multicenter phase II study. *Cancer Chemother Pharmacol* 62:849-855, 2008.
14. Morizane C, Okusaka T, Furuse J, Ishii H, Ueno H, Ikeda M, Nakachi K, Najima M, Ogura T, Suzuki

- E. A phase II study of S-1 in gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer. *Cancer Chemother Pharmacol* 63:313-319, 2008.
15. Furuse J. Growth factors as therapeutic targets in HCC. *Crit Rev Oncol Hematol* 67:8-15, 2008.
 16. Furuse J. Postoperative adjuvant treatments for biliary tract cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:463-467, 2008.
 17. Ishii H, Furuse J, Kinoshita T, Konishi M, Nakagohri T, Takahashi S, Gotohda N, Nakachi K, Suzuki E, Yoshino M. Hepatectomy for Hepatocellular Carcinoma Patients Who Meet the Milan Criteria. *Hepato-Gastroenterology* 55:621-626, 2008.
 18. Okusaka T, Ito Y, Furuse J, Yamada S, Ishii H, Shibuya K, Ioka T, Shinchi H. Current status of chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic cancer in Japan. *Int J Clin Oncol* 13:127-131, 2008.
 19. Kim SR, Saito Y, Maekawa K, Sugiyama E, Kaniwa N, Ueno H, Okusaka T, Ikeda M, Morizane C, Yamamoto N, Yoshida T, Kamatani N, Furuse J, Ishii H, Saijo N, Ozawa S, Sawada J. Twenty novel genetic variations and haplotype structures of the DCK gene encoding human deoxycytidine kinase (dCK). *Drug Metab Pharmacokinet* 23:379-384, 2008.
 20. Sato Y, Laird NM, Nagashima K, Kato R, Hamano T, Yafune A, Kaniwa N, Saito Y, Sugiyama E, Kim SR, Furuse J, Ishii H, Ueno H, Okusaka T, Saijo N, Sawada JI, Yoshida T. A new statistical screening approach for finding pharmacokinetics-related genes in genome-wide studies. *Pharmacogenomics J* 9:137-146, 2009
 21. 古瀬純司：膵がんの診療と予後を考える。化学療法の適応と実際。臨床腫瘍プラクティス 4：139-144, 2008.
 22. 古瀬純司, 仲地耕平, 鈴木英一郎, 清水怜, 光永修一：肝細胞癌の治療戦略。トピックス 分子標的治療。消化器外科 31:1017-1023, 2008.
 23. 古瀬純司：肝内胆管癌-2008, up-to-date-化学療法による治療成績。肝胆膵 57:135-142, 2008.
 24. 古瀬純司：国際共同臨床試験。国際共同臨床試験の現状と課題。肝・胆道・膵がん。腫瘍内科 2:197-204, 2008.
 25. 古瀬純司：外科における adjuvant/neoadjuvant chemotherapy update。胆道癌に対する術前・術後補助療法。臨床外科 63:1737-1745, 2008.
 26. 古瀬純司：膵癌治療最前線 新たな抗癌薬により長期生存を目指す。膵癌に対する化学療法。外来化学療法の実際と工夫。内科 102:706-711, 2008.
 27. 古瀬純司：胆道癌診療ガイドラインを学ぶ—最新のエビデンスとコンセンサス。非手術的治療。胆道癌の化学療法に関するエビデンスとコンセンサス。外科 71:53-60, 2008.
 28. 古瀬純司：がん薬物療法学 - 基礎・臨床研究のアップデート-。IV。作用機序からみた抗悪性腫瘍薬の分類。殺細胞性抗悪性腫瘍薬。代謝拮抗薬（フッ化ピリミジン・非フッ化ピリミジン）。日本臨床 67 suppl11:224-230, 2009.
 29. 古瀬純司：ガイドラインに基づいた胆道癌の診断と治療。胆道癌に対する化学療法。コンセンサス癌治療 8:36-39, 2009.
 30. 古瀬純司：膵胆道領域の治療における私のこだわり：なぜそうするのか。進行膵癌に対する化学療法-エビデンスとプラクティス。胆と膵 30:155-160, 2009.

31. 古瀬純司：肝胆膵悪性腫瘍に対する分子標的治療の現状と展望．分子標的薬の現状と展望-EGFRを標的として．肝胆膵 58:345-351, 2009.
32. 古瀬純司：癌治療とバイオマーカー 肝癌におけるバイオマーカー．Biotherapy 23:119-127, 2009.

III. 著書

1. 古瀬純司編：胆道がん標準化学療法の実際 ガイドラインに基づいた実践のために．東京，金原出版，2008.
2. 古瀬純司：Sorafenib の分子作用機構と肝癌治療．癌の基礎から臨床へ ベンチからベッドサイドへ．牛島俊和，後藤典子，西尾和人編．東京，篠原出版新社，2008. p.111-117.
3. 古瀬純司：肝細胞癌／胆道癌／膵癌．肝・胆道・膵癌化学療法の最近の動向．エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2009．有吉寛監修．大阪，メディカルレビュー社，2008. p.239-247.
4. 仲地耕平，光永修一，鈴木英一郎，清水怜，古瀬純司：肝細胞癌／胆道癌／膵癌．肝細胞癌．近い将来承認が見込まれる regimen. Sorafenib. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2009．有吉寛監修．大阪，メディカルレビュー社，2008. p.248-249.
5. 鈴木英一郎，古瀬純司：肝細胞癌／胆道癌／膵癌．胆道癌．保険医療で可能な regimen. GEM. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2009．有吉寛監修．大阪，メディカルレビュー社，2008. p.250-251.
6. 光永修一，古瀬純司：肝細胞癌／胆道癌／膵癌．膵癌．保険医療で可能な regimen. GEM. エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2009．有吉寛監修．大阪，メディカルレビュー社，2008. p.252-253.
7. 光永修一，古瀬純司：肝細胞癌／胆道癌／膵癌．膵癌．近い将来承認が見込まれる regimen. GEM +erlotinib 療法．エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2009．有吉寛監修．大阪，メディカルレビュー社，2008. p.254-255.
8. 古瀬純司：肝がん治療の方向性～今後の治療法～ 分子標的治療（ソラフェニブ）．インフォームドコンセントのための図説シリーズ 肝がん．沖田極，幕内雅俊編．大阪，医薬ジャーナル社，2009. p.72-75.

IV. その他

1. 古瀬純司：消化器悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究．肝胆膵がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究. 厚生労働省がん研究補助金20指-3 分担研究報告書.
2. 古瀬純司：QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究．切除不能膵がんの病態に応じた化学放射線療法の開発．厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）分担研究報告書.
3. 古瀬純司：ウイルス肝炎による肝がんの再発防止メカニズムの解明に関する研究．肝転移を有する肝細胞がん患者の予後の検討．厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）分担研究報告書.

高齢医学教室
Geriatric Medicine

I. 口演

1. 大荷満生：脂質異常症合併PBCに対する食事脂肪制限の効果.第2回多摩脂質関連疾患研究会,立川,平成20年4月10日.
2. 大荷満生：メタボリック症候群の病態と生活指導.村田フォーラム,武蔵野,平成20年4月30日.
3. 鳥羽研二：後期高齢者制度における総合医について．老人の医療を考える会特別講演，東京，平成20年5月8日.
4. 鳥羽研二：後期高齢者医療とかかりつけ医の役割．第7回関東老年疾患セミナー，東京，平成20年5月15日.
5. 鳥羽研二：高齢者の転倒リスク評価と予防．第81回日本整形外科学会各術総会シンポジウム，札幌，平成20年5月22日.
6. 鳥羽研二：認知症の周辺症状（BPSD）治療の新たな evidence. 認知症シンポジウム2008，東京，平成20年5月24日.
7. 鳥羽研二：認知症の診断について．介護老人保健施設平成20年度認知症ケア研修会～認知症短期集中リハビリテーション研修（医師対象）～，東京，平成20年5月24日.
8. 鳥羽研二：非薬物性治療を含む認知症の治療について．介護老人保健施設平成20年度認知症ケア研修会～認知症短期集中リハビリテーション研修（医師対象）～，東京，平成20年5月24日.
9. 大荷満生：老いの周辺・医療の現場から.獨協大学オープンカレッジ,埼玉,平成20年5月24日.
10. 鳥羽研二：老年症候群と総合的機能評価．日本内科学会生涯教育講演会，横浜，平成20年5月25日.
11. 神崎恒一：4-Hydroxynonenal による MMP2 の活性化とこれに伴う内皮細胞アポトーシスの誘導．第9回関東心血管フォーラム，軽井沢，平成20年5月31日.
12. 神崎恒一：後期高齢者診療のポイント．第11回在宅療養計画検討会，東京，平成20年6月12日.
13. 鳥羽研二：「老年総合医の展望」日本老年医学会の立場から．第50回日本老年医学会学術集会，千葉，平成20年6月19-21日.
14. 鳥羽研二：地域医療を見据えた「物忘れセンター」の取り組み第50回日本老年医学会学術集会シンポジウム,千葉，平成20年6月19-21日.
15. 鳥羽研二：意欲の指標・認知症における意味．第50回日本老年医学会学術集会イブニングセミナー,千葉，平成20年6月19-21日.
16. 大荷満生,鈴木訓之,水川真二郎,鳥羽研二：高齢者における除脂肪体重の経年的変化.第50回日本老年医学会学術集会,千葉,平成20年6月19-21日
17. 神崎恒一,山田如子,木村紗矢香,永井久美子,田中克明,菊地令子,川島有実子,長谷川浩,鳥羽研二：高齢者の日常生活機能と男性ホルモンとの関係．第50回日本老年医学会学術集会,千葉，平成20年6月19-21日.
18. 神崎恒一：酸化ストレスを標的とした血管障害の治療に関する研究．第50回日本老年医学会,

千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.

19. 須藤紀子,塚原大輔,永井久美子,新村佳奈¹,原美津子¹,神崎恒一,鳥羽研二 (¹埼玉回生病院): 認知症高齢者における経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) の長期予後. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
20. 長谷川浩, 田中克明, 永井久美子, 清水昌彦, 小林義雄, 塚原大輔, 井上慎一郎,竹下実希,神崎恒一, 鳥羽研二: 中高年女性における脊柱矯正・柔軟体操の経年的効果. 第 50 回日本老年医学会学術集会, 千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
21. 中居龍平,浜達哉¹,山田思鶴¹,菊地令子,木村紗矢香,山田如子,小林義雄,田中克明,神崎恒一,鳥羽研二 (¹敬仁会・桔梗ヶ原病院): 認知症におけるアルツハイマー型認知症の危険因子の検討. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉市, 平成 20 年 6 月 19-20 日
22. 末光有美,大荷満生,鈴木訓之,水川真二郎,鳥羽研二: 高齢者における筋肉量・除脂肪体重の経年的変化. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
23. 井上慎一郎,神崎恒一,鳥羽研二,田村久子¹,古川綾子¹,中内やよい¹,中村哲郎 (¹介護老人保健施設ミレニウム桜台): 介護老人保健施設における「日常生活自立度」,「寝たきり度」評価の課題. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
24. 永井久美子,須藤紀子,塚原大輔,神崎恒一,鳥羽研二: 日本人高齢者における *Helicobacter pylori* 感染と認知機能障害との関連. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
25. 町田綾子,山田如子,木村紗矢香,守屋佑貴子,小林義雄,田中克明,神崎恒一,鳥羽研二: 意味性認知症患者の総合的機能評価と言語症状に関する検討. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
26. 山田如子,木村紗矢香,町田綾子,岩田安希子,守屋佑貴子,小林義雄,田中克明,中居龍平,神崎恒一,鳥羽研二: 認知症の介護負担は長期化でどう変化するか: 高齢者総合機能評価を用いた縦断解析. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
27. 木村紗矢香,山田如子,町田綾子,菊地令子,小林義雄,大河内二郎¹,松林公蔵²,西永正典³,神崎恒一,鳥羽研二 (¹介護老人保健施設竜間之郷, ²京都大・東南アジア研究所, ³高知大・医・老年病科): 多重転倒を予測する危険因子の検討. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
28. 江口泰¹,加藤祥子²,木村紗矢香,山田如子,田中克明,小林義雄,永井久美子,長谷川浩,神崎恒一,鳥羽研二 (¹東京薬科大・大学院・医療薬学専攻, ²杏林大学病院・薬剤部): 認知症患者に対する、家族の服薬支援の定量化と服薬コンプライアンスに対する影響の解析. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
29. 小川純人¹,秋下雅弘¹,山田思鶴²,浜達哉²,神崎恒一,大内尉義¹,鳥羽研二 (¹東京大・医学部附属病院・老年病科, ²介護老人保健施設まほろばの郷): 地域在住高齢者における転倒スコアと活力度指標および基本チェックリスト項目との関連性の検討. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
30. 山田思鶴¹,浜達哉¹,堰免雄一²,園原和樹,西谷弘美²,神崎恒一,鳥羽研二 (¹介護老人保健施設まほろばの郷, ²桔梗ヶ原病院): 転倒リスクに対するケアプラン立案の現状について. 第 50 回日本老年医学会学術集会,千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
31. 山田思鶴¹,浜達哉¹,堰免雄一²,園原和樹²,西谷弘美²,神崎恒一,鳥羽研二 (¹介護老人保健施設ま

- ほろぼの郷, ²桔梗ヶ原病院) : ケアプラン立案における転倒リスク評価の実態調査. 第 50 回日本老年医学会学術集会, 千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
32. 柴崎孝二 ¹, 山田思鶴 ², 園原和樹 ², 西谷弘美 ², 秋下雅弘 ¹, 大内尉義 ¹, 神崎恒一, 鳥羽研二 (¹ 東京大学老年病科, ² 介護老人保健施設まほろぼの郷) : 高齢者の排尿機能に対する運動教室の効果. 第 50 回日本老年医学会学術集会, 千葉, 平成 20 年 6 月 21 日.
 33. 川野靖仁 ¹, 臼沢英一郎 ¹, 山田思鶴 ¹, 園原和樹 ², 西谷弘美 ¹, 神崎恒一, 鳥羽研二 (¹ 介護老人保健施設まほろぼの郷, ² 桔梗ヶ原病院) 実際の食事を用いたビデオ嚥下造影による新しい食形態の試み. 第 50 回日本老年医学会学術集会, 千葉, 平成 20 年 6 月 19-21 日.
 34. 鳥羽研二 : 脳卒中とどう付き合うか : 慢性期診療・介護の視点から. 第 50 回日本老年医学会学術集会市民公開講座, 千葉, 平成 20 年 6 月 21 日.
 35. 鳥羽研二 : 高齢者総合的機能評価. 第 50 回日本老年医学会学術集会老年病専門研修会, 千葉, 平成 20 年 6 月 21 日.
 36. 大荷満生 : 筋肉減少症 (sarcopenia) の病態と治療. 第 9 回加圧トレーニングカンファレンス-特別講演-, 東京, 平成 20 年 6 月 22 日.
 37. 神崎恒一 : ガイドラインに基づいた動脈硬化性疾患の治療. 日本心臓病学会教育セミナー, 東京, 平成 20 年 6 月 22 日.
 38. 鳥羽研二 : 高齢社会を迎えた我が国における、介護福祉士・理学療法士の役割と社会的重要性. 信州リハビリテーション専門学校 学校説明会に伴う講演, 塩尻, 平成 20 年 6 月 28 日.
 39. 鳥羽研二 : 老化の臨床. 第 27 回東京 MRI 研究会, 東京, 平成 20 年 7 月 5 日
 40. 大荷満生 : 脂質異常症の病態と治療. 小金井市脂質異常症研究会, 小金井, 平成 20 年 7 月 9 日.
 41. 神崎恒一, 永井久美子, 鳥羽研二 : 脳皮質下虚血病変と脈波伝播速度との関連. 第 40 回日本動脈硬化学会, つくば, 平成 20 年 7 月 11 日.
 42. 大荷満生 : 脂質異常症の病態と治療-食事・生活指導を中心に-. 第 93 回実践栄養指導講習会, 東京, 平成 20 年 7 月 15 日.
 43. 鳥羽研二 : 認知症の早期発見と包括的治療. 内科懇話会, 東京, 平成 20 年 7 月 16 日.
 44. 鳥羽研二 : 高齢者の排尿障害の捉え方. 生活習慣病と排尿障害セミナー, 東京, 平成 20 年 7 月 18 日.
 45. 神崎恒一 : もの忘れセンターにおける転倒リスクの評価. 第 9 回老年疾患研究会, 岐阜, 平成 20 年 7 月 19 日.
 46. 大荷満生 : メタボリック症候群とどう向き合うか-食事・生活指導を中心に-. 調布市 医師会学術講演会, 小金井, 平成 20 年 7 月 22 日.
 47. 鳥羽研二 : 老年医学をどう学ぶか・どう生かすか. 2008 年老年医学サマーセミナー, 北佐久郡, 平成 20 年 7 月 31 日.
 48. 鳥羽研二 : 終末期医療について. 2008 年老年医学サマーセミナー, 北佐久郡, 平成 20 年 7 月 31 日.
 49. 鳥羽研二 : 気になりませんか? もの忘れ. 文京区区民公開講座, 東京, 平成 20 年 8 月 24 日.
 50. 鳥羽研二 : 認知症短期集中リハビリテーションの効果. 第 2 回老健医療研究会, 京都, 平成 20 年 8 月 27 日.
 51. 鳥羽研二 : 老年症候群と総合的機能評価. 日本内科学会生涯教育講演会, 松山, 平成 20 年 9 月

7日.

52. 大荷満生：高齢者の栄養学（基調講演）.日本臨床栄養学会認定栄養医研修会,東京,平成20年9月7日.
53. 鳥羽研二：認知症に対する包括的アプローチ. 中国地区 EBM 漢方フォーラム, 広島, 平成 20 年 9 月 20 日.
54. 大荷満生：コレステロールの合成と吸収からみた脂質異常症の病態と治療.脂質異常症フォーラム,旭川,平成20年9月27日.
55. 里村元,八反丸美喜子,佐藤道子,守屋佑貴子,井上慎一郎,小林義雄,長谷川浩,鳥羽研二：II型呼吸不全を契機に運動ニューロン疾患を指摘された非流暢性進行性失語の一例.第48回日本老年医学会関東甲信越地方会優秀演題賞,東京,平成20年9月27日.
56. 八反丸美喜子,竹下実希,塚原大輔,清水昌彦,須藤紀子,長谷川浩,神崎恒一,鳥羽研二：糖尿病性舞踏病の治療中にDrug induced hypersensitivity syndrome(DIHS)を発症した高齢者の一例. 第48回日本老年医学会関東甲信越地方会,東京,平成20年9月27日.
57. 神崎恒一：「高齢者の在宅医療」,「高齢者の緩和ケア」.平成20年度「後期高齢者診療に係る研修」(全日本病院協会),東京,平成20年9月28日.
58. 永井久美子：脳心血管イベント予測のための非侵襲的検査の有用性.第68回東京心臓の会,東京,平成20年10月4日.
59. 大荷満生：高齢者の栄養学（基調講演）.日本臨床栄養学会認定栄養医研修会,京都,平成20年10月5日.
60. 大荷満生,鳥羽研二,中島久実子¹,秦 葭哉²,(¹山梨学院短期大学食物栄養学科,²常盤大学大学院人間科学研究科)：高齢者における筋肉量の加齢変化と体脂肪の影響について.第30回日本臨床栄養学会総会,東京,平成20年10月10日.
61. 大荷満生,鳥羽研二,中島久実子¹,秦 葭哉²,(¹山梨学院短期大学食物栄養学科,²常盤大学大学院人間科学研究科)：肥満男性におけるメタボリック症候群の構成因子と腎機能の関係について.第30回日本臨床栄養学会総会,東京,平成20年10月10日.
62. 中島久実子¹,大荷満生,水川真二郎,幡 芳樹²,小笠原芳宏³,木下信一郎⁴,秦 葭哉⁵,(¹山梨学院短期大学食物栄養学科,²岡山大学医学部循環器科,³滝山病院内科,⁴木下内科クリニック,⁵常盤大学大学院人間科学研究科)：米胚芽由来ポリコサノールのコレステロール低下作用について.第30回日本臨床栄養学会総会,東京,平成20年10月10日.
63. 町田綾子,山田如子,木村紗矢香,小林義雄,神崎恒一,鳥羽研二：意味性認知症患者の言語症状の検討.第27回日本認知症学会学術集会,前橋,平成20年10月10-12日.
64. 山田如子,木村紗矢香,町田綾子,岩田安希子,守屋佑貴子,小林義雄,中居龍平,神崎恒一,鳥羽研二:認知症のタイプ別の介護負担について高齢者総合的機能評価を用いた比較検討.第27回日本認知症学会学術集会,群馬,平成20年10月10-12日.
65. 木村紗矢香,山田如子,町田綾子,岩田安希子,守屋佑貴子,菊地令子,小林義雄,長谷川浩,神崎恒一,鳥羽研二：もの忘れセンターにおける転倒スコアの有用性の検討.第27回日本認知症学会学術集会,前橋,平成20年10月10-12日.

66. 大荷満生：脂質異常症とその問題点-予防と生活習慣の改善-.市民公開講座（第二回市民健康フォーラム）「知って得するメタボリックシンドロームの話-脂質代謝異常症とその問題点. 予防と生活習慣の改善-.秋川,平成20年10月11日.
67. 長谷川浩：認知症について. 武蔵野市地区別ケース検討会, 武蔵野,平成20年10月15日
68. 鳥羽研二：老年症候群のなかの転倒の位置づけ 早期発見と予防. ボナロン錠 35mg 発売2周年記念講演会, 東京, 平成20年10月18日.
69. 神崎恒一:認知症の経過と様々な合併症. 平成20年度練馬区委託事業第2回家族介護者教室, 東京, 平成20年10月18日.
70. 塚原大輔：「認知症」とは.生活共同組合 多摩相互病院勉強会,八王子,平成20年10月21日.
71. 鳥羽研二：認知症、転倒、意欲、転ばぬ先の杖. 広島市中区医師会認知症研修会, 広島, 平成20年10月23日.
72. 大荷満生：神経膠腫術後にみられた高度高LDL血症の一例.第1回脂質異常症臨床懇話会,東京, 平成20年10月24日.
73. 鳥羽研二：介護予防のエビデンス. 第19回日本老年医学会東海地方会, 名古屋, 平成20年10月25日.
74. 鳥羽研二：認知症早期発見とケア. 第8回北海道シルバーヘルスフォーラム, 札幌, 平成20年10月31日.
75. 鳥羽研二：アルツハイマー型認知症についての最近の知見. 杉並医師会・地域福祉部委員会講演会, 東京, 平成20年11月4日.
76. 鳥羽研二：物忘れ予防といきいき長寿. 第7回未病フォーラム広島, 広島, 平成20年11月8日.
77. 鳥羽研二：後期高齢者医療の課題. 第40回医療近代化シンポジウム, 大阪, 平成20年11月9日.
78. 鳥羽研二：もの忘れの早期診断から進展予防まで. 新潟県介護老人保健施設協会 公開セミナー, 新潟, 平成20年11月12日.
79. 鳥羽研二：地域医療を見据えたもの忘れセンターの取り組み. 第4回加齢医学研究会, 名古屋, 平成20年11月29日.
80. 神崎恒一, 鳥羽研二：認知機能障害を有する高齢者のADL低下の要因. 第8回日本 Men's Health 医学会, 東京, 平成20年11月29-30日.
81. 神崎恒一, 鳥羽研二：高齢者の日常生活機能と男性ホルモン（シンポジウム）. 第8回日本 Men's Health 医学会, 東京, 平成20年11月29-30日.
82. 大荷満生：脂質異常症の病態と治療.多摩第四地区薬剤師研修会,八王子,平成20年11月30日.
83. 長谷川 浩：高齢者の救急. 第141回三鷹市医師会ゼミナール, 三鷹, 平成20年12月3日.
84. 鳥羽研二：認知症の医療とケア. 第7回市民講座, 東大和, 平成21年1月24日.
85. 鳥羽研二：慢性期医療における認知症の診療と看護. 第2回慢性期医療認定講座, 東京, 平成21年1月24日.
86. 鳥羽研二：認知症に対する介護・看護・医療. 第3回野崎クリニック勉強会, 東京, 平成21年2月10日.
87. 鳥羽研二：効率的転倒予測技術の開発と転倒予防介入による生活機能の持続的改善効果に関する縦断研究. 長寿科学総合研究成果発表会, 東京, 平成21年2月13日.

88. 須藤紀子：高齢者における急性期術後・治療後の回復期の医療管理. 第2回慢性期医療認定講座, 東京, 2009年2月14日.
89. 神崎恒一：生活機能を重視した認知症高齢者の地域連携. 石川県国保診療施設関係者研修会, 金沢, 平成21年2月20日.
90. 長谷川浩：地域の救急医療を考える. 老人の専門医療を考える会第31回全国シンポジウム, 東京, 平成21年2月21日.
91. 鳥羽研二：認知症高齢者のケアについて. 平成20年度認知症ケア研修会, 東京, 平成21年2月26日.
92. 小林義雄, 岩田安希子, 守屋佑貴子, 長谷川浩, 神崎恒一, 鳥羽研二: 脳血管性認知症に対するニセルゴリンの効果の検討, 第49回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成21年3月7日.
93. 田中政道, 須藤紀子, 金子光伸, 末光有美, 井上慎一郎, 鈴木訓之, 大荷満生, 鳥羽研二：非定型的肝腫瘍像を呈した高齢肝細胞癌の剖検例. 第49回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 平成21年3月7日.
94. 鳥羽研二：サクセスフルエイジング：運動の効用. 第145回日本体力医学会関東地方大会, 三鷹, 平成21年3月14日.
95. 塚原大輔：「認知症」「老化」とは. 特定医療法人財団 慈生会 野村病院勉強会, 三鷹, 平成21年3月19日.
96. 神崎恒一：在宅医療に必要な基礎知識～高齢者の病態と治療～. 平成20年度在宅医療支援のための医師研修会（日本医師会）, 東京, 平成21年3月20日.
97. 神崎恒一：「高齢者在宅医療」, 「高齢者の緩和ケア」. 老年病専門医研修会（日本老年医学会）, 東京, 平成21年3月29日.

II. 論文

1. Sonohara K, Kozaki K, Akishita M¹, Nagai K, Hasegawa H, Kuzuya M², Yokote K³ and Toba K, (¹Department of Geriatric Medicine, University of Tokyo Graduate School of Medicine, Tokyo, ² Department of Geriatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, and ³Department of Clinical Cell Biology and Medicine, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan): White matter lesions as a feature of cognitive impairment, low vitality and other symptoms of geriatric syndrome in the elderly. *Geriatr Gerontol Int* 8: 93–100, 2008.
2. Kizaki T¹, Izawa T², Sakurai T¹, Haga S³, Taniguchi N⁴, Tajiri H⁵, Watanabe K⁶, K. Day N⁷, Toba K⁸, and Ohno H¹ (¹Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, Kyorin University, School of Medicine, Mitaka, Japan, ² Department of Kinesiology, Graduate School of Science, Tokyo Metropolitan University, Hachioji, Japan, ³Institute of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan, ⁴ Department of Biochemistry, Osaka University Medical School, Suita, Japan, ⁵Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, The Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan, ⁶Watanabe Clinic, Shizuoka, Japan, ⁷ Department of Pediatrics, University of South Florida/All Children's Hospital, St Petersburg, FL, USA, and ⁸ Department of Geriatric Medicine, Kyorin University, School of Medicine, Mitaka, Japan: β_2 -Adrenergic rece

- ptor regulates Toll-like receptor-4-induced nuclear factor- κ B activation through β -arrestin 2. *IMMUNOLOGY* 124 ; 348–356, 2008.
3. Yu J, Eto M, Kozaki K, Akishita M, Okabe T, Ouchi Y: Raloxifene analogue LY117018 suppresses oxidative stress-induced endothelial cell apoptosis through activation of ERK1/2 signaling pathway. *Eur J Pharmacol.* 2008;589:32-6.
 4. Son BK, Akishita M, Iijima K, Kozaki K, Maemura K, Eto M, Ouchi Y: Adiponectin Antagonizes Stimulatory Effect of TNF α on Vascular Smooth Muscle Cell Calcification: Regulation of Gas6-Mediated Survival Pathway by AMP-Activated Protein Kinase. *Endocrinology.* 2008;49:1646-53.
 5. Kawashima Y, Akishita M, Hasegawa H, Kozaki K, Toba K: Stress-induced blood pressure elevation in subjects with mild cognitive impairment: effects of the dual-type calcium channel blocker, cilnidipine. *Geriatr Gerontol Int.* 2008;8:278-83.
 6. Mizukami K¹, Asada T¹, Kinoshita T², Tanaka K, Sonohara K, Nakai R³, Yamaguchi K⁴, Hanyu H⁵, Kanaya K⁶, Takao T⁷, Okada M⁸, Kudo S⁹, Kotoku H¹⁰, Iwakiri M¹¹, Kurita H¹², Miyamura T¹³, Kawasaki Y¹⁴, Omori K¹⁵, Shiozaki K¹⁶, Odawara T¹⁶, Suzuki T¹⁷, Yamada S¹⁸, Nakamura Y¹⁹ and Toba K (Department of Psychiatry, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba;²Kodama Clinic;³Kikyogahara Hospital;⁴Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo;⁵ Department of Geriatric Medicine, Tokyo Medical University;⁶ Geriatric Medicine, Hachioji Medical Center of Tokyo Medical University;⁷Hospital Bando;⁸Hitachi Umegaoka Hospital;⁹Hitachi Sakura Clinic;¹⁰Luria-mental Clinic;¹¹Ishizaki Hospital;¹²Kurita Hospital;¹³Health Care Center, University of Yamanashi;¹⁴Kyosai Hospital;¹⁵Gunma Prefectural Psychiatric Medical Center;¹⁶Psychiatric Center, Yokohama City University Medical Center;¹⁷Division of Geriatric Medicine, Nippon Medical School;¹⁸Geriatric Facilities Mahoroba-no-sato;¹⁹Nakamura Clinic, Japan: A randomized cross-over study of a traditional Japanese medicine (kanpo), yokukansan, in the treatment of the behavioural and psychological symptoms of dementia. *The International Journal of Neuropsychopharmacology* 12 : 191–199, 2009.
 7. Moriya Y, Kozaki K, Nagai K, Toba K: Attenuation of brain white matter hyperintensities after cerebral infarction. *AJNR Am J Neuroradiol.* 2009;30:E43.
 8. 鳥羽研二：介護予防のエビデンス. *日本内科学会雑誌* 97 : 2566(190) – 2574(198), 2008.
 9. 園原和樹, 鳥羽研二, 中居龍平, 小林義雄, 守屋佑貴子, 長谷川浩, 神崎恒一, 松田博史¹ (¹ 埼玉医科大学病院核医学診療科)：認知症高齢者の意欲低下に関連する脳血流分布. *日老医誌* 45 : 615–621, 2008.
 10. 菊地令子, 神崎恒一, 川島有実子, 岩田安希子, 長谷川浩, 井形昭弘¹, 鳥羽研二 (¹ あいち健康の森健康科学総合センター)：運動習慣を有する高齢女性における転倒リスク. *日老医誌* 45:526-531, 2008.
 11. 小川純人¹, 山田思鶴¹, 浜達哉¹, 神崎恒一, 秋下雅弘², 大内尉義², 鳥羽研二 (¹ 東京大・医学部付属病院・老年病科, ² 介護老人保健施設まほろばの郷)：骨粗鬆症予防に対する地域在住高齢者を対象とした転倒予防運動教室の効果に関する研究. *Osteoporosis Japan* 16:671-675, 2008.
 12. 秦 葭哉¹, 中島久実子², 大荷満生 (¹ 常盤大学大学院人間科学研究科, ² 山梨学院短期大学食物栄養学科)：高齢者の低栄養と骨格筋減少症. *New Diet Therapy* (日本臨床栄養協会誌) 24(1):43-49, 2008.

13. 大荷満生：sarcopenia(筋肉減少症).栄養・評価と治療 25(4):157-160,2008.
14. 大荷満生：高齢者における肥満と痩せの筋肉量・筋力.Geriatric Medicine 46(5):475-478, 2008.
15. 金子光伸,大荷満生,鈴木訓之,末光有美,水川真二郎,鳥羽研二,中島久実子¹,秦 葭哉²,(¹山梨学院短期大学食物栄養学科,²常盤大学大学院人間科学研究科)：高齢者の栄養評価における Knee-height による身長推定値の有用性に関する臨床研究.優秀論文賞受賞,日本臨床栄養学会雑誌 29(4):391-398, 2008.
16. 大荷満生,鳥羽研二,中島久実子¹,秦 葭哉²,(¹山梨学院短期大学食物栄養学科,²常盤大学大学院人間科学研究科)：高齢者の筋肉量の加齢変化に関する臨床研究.New Diet Therapy (日本臨床栄養協会誌) 24(1):43-49, 2008.
17. 鳥羽研二：老年症候群と総合的機能評価. 日本内科学会雑誌 98：101－106, 2009.
18. 鳥羽研二、菊地令子、岩田安希子、神崎恒一：臨床医に役立つ易転倒性発見のための「転倒スコア」. 日本医師会雑誌 137：2275－2279, 2009.

Ⅲ. 著書

1. 鳥羽研二：高齢者及びその家族を支えるための基本的な心構えと診察方法.高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム. 大内尉義監修. 愛知, 長寿科学振興財団, 2008. 17-20.
2. 鳥羽研二,野中博¹ (¹博賢会野中医院)：チーム医療の考え方と手順. 高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム. 大内尉義監修. 愛知,長寿科学振興財団, 2008. 25-28.
3. 鳥羽研二：高齢者の病態の一般的特徴. 高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム. 大内尉義監修. 愛知, 長寿科学振興財団, 2008. 29-32.
4. 鳥羽研二:要介護に至る疾患. 高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム. 大内尉義監修. 愛知, 長寿科学振興財団, 2008. 33-36.
5. 鳥羽研二：寝たきりと廃用症候群. 高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム. 大内尉義監修. 愛知, 長寿科学振興財団, 2008. 91-92.
6. 鳥羽研二：食欲低下と脱水. 高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム. 大内尉義監修. 愛知, 長寿科学振興財団, 2008. 97-102.
7. 鳥羽研二：浮腫. 高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム. 大内尉義監修. 愛知, 長寿科学振興財団, 2008. 103-106.
8. 鳥羽研二：高齢者の検査値の読み方. 高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム. 大内尉義監修. 愛知, 長寿科学振興財団, 2008. 117-122.
9. 鳥羽研二:包括的高齢者総合評価(CGA). 高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム. 大内尉義監修. 愛知, 長寿科学振興財団, 2008. 153-156.
10. 鳥羽研二：身体的機能評価. 高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム. 大内尉義監修. 愛知, 長寿科学振興財団, 2008. 157-160.

11. 鳥羽研二：精神心理機能評価．高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム．大内尉義監修．愛知，長寿科学振興財団，2008．161-168.
12. 鳥羽研二：社会状況の評価．高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム．大内尉義監修．愛知，長寿科学振興財団，2008．169-174
13. 鳥羽研二：認知症．高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム．大内尉義監修．愛知，長寿科学振興財団，2008．223-232
14. 鳥羽研二：水・電解質異常．高齢者を診療する医師のための研修カリキュラム．大内尉義監修．愛知，長寿科学振興財団，2008．295-298.
15. 鳥羽研二：高齢者及びその家族を支えるための基本的な心構えと診察方法．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．11-14.
16. 鳥羽研二、野中博¹（¹博腎会野中医院）：チーム医療の考え方と手順．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．18-21.
17. 鳥羽研二：高齢者の病態の一般的特徴．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．22-25.
18. 鳥羽研二：要介護に至る疾患．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．26-28.
19. 鳥羽研二：寝たきりと廃用症候群．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．70-71.
20. 鳥羽研二：食欲低下と脱水．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．75-78.
21. 鳥羽研二：浮腫．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．79-82.
22. 鳥羽研二：高齢者の検査値の読み方．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．91-95.
23. 鳥羽研二：包括的高齢者総合評価（CGA）．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．117-119.
24. 鳥羽研二：身体的機能評価．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．120-122.
25. 鳥羽研二：精神心理機能評価．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修．東京，同人社，2008．123-128.
26. 鳥羽研二：社会状況の評価．実地医家のため的高齢者診療ガイド．大内尉義編．日本医師会、日

- 本老年医学会、国立長寿医療センター監修。東京，同人社，2008。129-132.
27. 鳥羽研二：認知症。実地医家のための高齢者診療ガイド。大内尉義編。日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修。東京，同人社，2008。169-176.
28. 鳥羽研二：水・電解質異常。実地医家のための高齢者診療ガイド。大内尉義編。日本医師会、日本老年医学会、国立長寿医療センター監修。東京，同人社，2008。233-236.
29. 鳥羽研二：老年症候群。改定第3版「老年医学テキスト」。日本老年医学会編。東京，メジカルビュー社，2008。66-71.
30. 鳥羽研二：尿失禁。改定第3版「老年医学テキスト」。日本老年医学会編。東京，メジカルビュー社，2008。107-109
31. 鳥羽研二：脱水。改定第3版「老年医学テキスト」。日本老年医学会編。東京，メジカルビュー社，2008。121-124.
32. 鳥羽研二：浮腫。改定第3版「老年医学テキスト」。日本老年医学会編。東京，メジカルビュー社，2008。125-128.
33. 鳥羽研二：身体的機能評価。改定第3版「老年医学テキスト」。日本老年医学会編。東京，メジカルビュー社，2008。213-219.
34. 鳥羽研二：介護者、サービス利用、社会環境に関する総合的評価。改定第3版「老年医学テキスト」。日本老年医学会編。東京，メジカルビュー社，2008。224-226.
35. 鳥羽研二：身体抑制・薬物による鎮静。改定第3版「老年医学テキスト」。日本老年医学会編。東京，メジカルビュー社，2008。315-318.
36. 鳥羽研二,木村紗矢香,山田如子,小林義雄,長谷川浩,神崎恒一：認知症疾患患者のCGA。老年医学update2008-09。日本老年医学会雑誌編集委員会編。東京，メジカルビュー社，2008。10-17.
37. 鳥羽研二：転倒ハイリスク者の早期発見のための「転倒スコア」。転倒予防医学百科。武藤芳照編。東京，日本医事新報社，2008。208-210.
38. 鳥羽研二：高度の意欲低下でも測定可能なアパシー（意欲障害）の評価—Vitality Index。脳疾患によるアパシー（意欲障害）の臨床。小林祥泰編。東京，新興医学出版社，2008。19-25.
39. 大荷満生：高齢者医療におけるSarcopeniaの臨床的意義。老年医学update 2008-09。日本老年医学会雑誌編集委員会(編)。東京,メジカルビュー社，2008.172-178.
40. 神崎恒一：めまい。改定第3版「老年医学テキスト」。日本老年医学会編。東京，メジカルビュー社，2008。87-90.
41. 神崎恒一：高脂血症治療薬（スタチン）。高脂血症治療薬（フィブラート系・EPA）。循環器治療薬の選び方・使い方。池田隆徳（編）。東京，羊土社，2008.68-76.
42. 神崎恒一：寝たきり。老年医学の基礎と臨床I。大内尉義編。東京，ワールドプランニング，2008。224-226.
43. 神崎恒一,鳥羽研二：転倒・骨折と寝たきり。認知症テキストブック。日本認知症学会編。東京，

中外医学社, 2008. 93-95.

44. 神崎恒一,鳥羽研二: 転倒・骨折と寝たきり. 認知症テキストブック. 日本認知症学会編. 東京, 中外医学社, 2008.93-95.
45. 神崎恒一,鳥羽研二: 低栄養. 認知症テキストブック. 日本認知症学会編. 東京, 中外医学社, 2008. 95-96.
46. 神崎恒一,鳥羽研二: 褥瘡. 認知症テキストブック. 日本認知症学会編. 東京, 中外医学社, 2008. 96-102.
47. 神崎恒一: 特定健診・特定保健指導の実際. 後期高齢者に対する取り組み.東京,総合臨床,S7:1517-1522.2008.
48. 神崎恒一: 続 他科医に聞きたいちょっとしたことクローネー遺伝子について.東京, クリニシャン, 2008. 55:687-688.2008.
49. 神崎恒一: 後期高齢者に活かす老年症候群の診断・治療・ケア. 主要な老年症候群の診断、治療とケア 認知症の合併症としての老年症候群.東京, Geriatric Medicine,46:725-729.2008.
50. 神崎恒一: 脂質異常症のすべて メカニズムから栄養・食事療法まで.背景因子別脂質異常症高齢者.東京, 臨床栄養,2008.504-508.
51. 神崎恒一: 高齢者医療と介護 最新エビデンス. 転倒予防 運動習慣の長期効果 運動による転倒予防.東京, 医学のあゆみ,2008.185-189.
52. 須藤紀子: 逆流性食道炎 実地医家のための高齢者診療ガイド.大内尉義編著. 東京, 同人社, 2008. 237-241.
53. 長谷川浩,鳥羽研二: 高齢者の薬物動態. 認知症テキストブック. 日本認知症学会編. 東京, 中外医学社, 2008.164-165.
54. 長谷川浩,鳥羽研二: 高齢者における薬物療法の注意点: 有害事象を含む. 認知症テキストブック. 日本認知症学会編. 東京, 中外医学社, 2008. 165-167.
55. 長谷川浩: 腎・泌尿器系の加齢変化. 大内尉義編、浦上克哉監修. 東京, ワールドプランニング, 2008.127-131.
56. 清水昌彦,長谷川浩,鳥羽研二: 脱水. 老年医学の基礎と臨床 I. 大内尉義編、浦上克哉監修. 東京, ワールドプランニング, 2008. 203-207.
57. 菊地令子,神崎恒一,中村哲郎,鳥羽研二: 転倒と筋肉・骨. リスク評価による転倒予防戦略.東京, Clinical Calcium,18:784-787.2008.
58. 鳥羽研二: 高齢者の薬物療法のポイントEBMの限界と非薬物療法との比較.高齢者薬物療法の基本と課題.鳥羽研二編監修.東京, Modern Physician,2008.3-5.
59. 神崎恒一: 高齢者の薬物療法のポイントEBMの限界と非薬物療法との比較. 高齢者の服薬管理に影響を与える要素と服薬支援の有効性.鳥羽研二編監修.東京, Modern Physician,2008.13-16.
60. 岩田安希子: 高齢者の薬物療法のポイントEBMの限界と非薬物療法との比較. 転倒を起こしや

すい薬剤.鳥羽研二編監修.東京, Modern Physician,2008.65-67.

61. 木村紗矢香, 鳥羽研二: 認知症疾患患者の総合的機能評価. 東京, 老年精神医学雑誌, 19:735-739. 2008.
62. 鳥羽研二: 第2章老年症候群主要な症状とおこりやすい問題. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論. 佐々木英忠編. 東京, 医学書院, 2009. 22-61.
63. 鳥羽研二: 循環器系の疾患. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論. 佐々木英忠編. 東京, 医学書院, 2009. 119-128.
64. 鳥羽研二: 内分泌・代謝系の疾患. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論. 佐々木英忠編. 東京, 医学書院, 2009. 155-162.
65. 鳥羽研二: 腎・泌尿器系の疾患. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論. 佐々木英忠編. 東京, 医学書院, 2009. 174-182.

IV. その他

1. 鳥羽研二: 効率的転倒予測技術の開発と転倒予防介入による生活機能の持続的改善効果に関する縦断研究. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業) 総括分担研究報告書.
2. 鳥羽研二: 効率的転倒予測技術の開発と転倒予防介入による生活機能の持続的改善効果に関する縦断研究. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業) 総合研究報告書.
3. 鳥羽研二: 認知症の包括的ケア提供体制の確立に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業) 分担研究報告書.
4. 鳥羽研二: 高齢者包括的・全人的医療に関わる標準的医療システムの開発に関する研究. 長寿医療研究委託事業 分担研究報告書.
5. 鳥羽研二: 療養病床、老人保健施設における急性期医療の引継ぎ構造とスタッフ・デベロップメントに関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業) 分担研究報告書.
6. 神崎恒一: 効率的転倒予測技術の開発と転倒予防介入による生活機能の持続的改善効果に関する縦断研究. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業) 分担研究報告書.
7. 神崎 恒一: アミノ酸トランスポーターを標的とする血管障害に対する新規治療戦略. 平成20年度文部科学省科学研究費補助金基盤C.
8. 神崎 恒一: 脳皮質下虚血病変と認知機能・老年症候群に関する横断的・縦断的研究平成19～20年度財団法人慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団.
9. 神崎 恒一: 活力度指標の信頼性、妥当性および、活力度指標と加齢、運動との関連性に関する検討. 2008年度三井住友海上福祉財団賞高齢者福祉部門授賞.
10. 小林義雄, 菊地令子, 山田如子, 木村紗矢香, 神崎恒一, 鳥羽研二: 認知症高齢者の転倒の特徴と予防に関する研究. 財団法人千代田健康開発事業団社会厚生事業助成金(医学研究助成) 研究報告書.

精神神経科学教室

I 口演

1. 古賀良彦：脳波判読の実際．第 104 回日本精神神経学会学術総会，東京，平成 20 年 5 月 29 日．
2. 中島亨：精神疾患で見られる概日リズム異常について．第 104 回日本精神神経学会学術総会，東京，平成 21 年 5 月 29-31 日．
3. 鬼頭伸輔，鄭址旭¹，小林哲生¹，古賀良彦（¹京都大・院・工学研究科）：Fiber tractography による統合失調症の前頭葉白質線維の検討．第 104 回日本精神神経学会学術総会，東京，平成 20 年 5 月 29-31 日．
4. 鬼頭伸輔，藤田憲一，古賀良彦：治療抵抗性うつ病への低頻度経頭蓋磁気刺激による局所脳血流の変化と治療反応性．第 104 回日本精神神経学会学術総会，東京，平成 20 年 5 月 29-31 日．
5. 池田暁史：境界パーソナリティ障害の発達論的理解．第 104 回日本精神神経学会学術総会精神医学研修コース「Mentalization Based Treatment (MBT) 入門—境界例の新しい治療アプローチを学ぶ—」，東京，平成 20 年 5 月 30 日．
6. 池田暁史，鬼頭伸輔，鄭址旭¹，小林哲生¹，古賀良彦（¹京都大・院・工学研究科）：双極性障害における白質異常—拡散テンソル画像を用いた線維追跡法—．第 104 回日本精神神経学会学術総会，東京，平成 20 年 5 月 30 日．
7. 品川麻由子，田中伸一郎，古賀良彦：カプグラ症候群を呈した双極性障害の 1 女性例．第 104 回日本精神神経学会学術総会，東京，平成 20 年 5 月 29-31 日．
8. 古賀良彦：食品による脳のアンチエイジング効果の総合的評価法．第 8 回日本抗加齢医学会総会，東京，平成 20 年 6 月 6 日．
9. 中島亨，田中伸一郎，山寺博史，古賀良彦：精神刺激薬がアクチグラフ（A.M.I.社）ゼロクロスモードで見たナルコレプシー患者の 1 例での活動量に及ぼす影響について．第 11 回日本薬物脳波学会，東京，平成 21 年 6 月 20-21 日．
10. 田中伸一郎：「抗うつ薬の離脱症状」に苦しんだ 40 歳女性～その後の経過．第 12 回統合失調症臨床研究会，名古屋，平成 20 年 6 月 21-22 日．
11. 古賀良彦：経頭蓋磁気刺激の精神疾患への臨床応用．第 25 回日本脳電磁図トポグラフィ研究会，木更津，平成 20 年 6 月 27 日．
12. 鬼頭伸輔：低頻度経頭蓋磁気刺激によるうつ病の治療と局所脳血流の変化．第 25 回日本脳電磁図トポグラフィ研究会，木更津，平成 20 年 6 月 27-28 日．
13. 田中伸一郎：Pseudoneurotic schizophrenia 再考．井之頭病院研究基金発表会，東京，平成 20 年 7 月 18 日．
14. 池田暁史：境界パーソナリティ障害の発達論．日本心理臨床学会第 27 回大会心理臨床ワークショップ「境界例の心理臨床—最新の動向を学ぶ—」，つくば，平成 20 年 9 月 4 日．
15. Nakajima T : Polysomnography in operational diagnosed depression. 2nd WFSBP Asia-Pacific Congress. Toyama. Sept. 11-13, 2008.
16. 田中伸一郎，津田均¹（¹名大・院・精神健康医学）：「死んで楽になりたい」と訴え続けた一女性例—治療者が患者に向ける思惑（intention）からの考察—．日本精神病理・精神療法学会第 31 回大会，

東京，平成 20 年 10 月 2-3 日．

17. 石井久史，岡安美紀生，鬼頭伸輔，長谷川崇，田中伸一郎，古賀良彦：Cotard 症候群を再発した老年期うつ病の 1 例．第 84 回東京精神医学会，東京，平成 20 年 10 月 25 日．
18. 池田暁史：メンタライゼーション—その概念と発展—．日本精神分析学会第 54 回大会教育研修セミナー「症例を通して学ぶ，メンタライゼーション」，福岡，平成 20 年 10 月 31 日．
19. 池田暁史：こころの検索機能．日本精神分析学会第 54 回大会，福岡，平成 20 年 11 月 1 日．
20. Koga Y : Scientific evaluation of anti-stress effects of foods. 18th BCOJ Ann. Meet. Tokyo, Nov. 6, 2008.
21. 中島亨，田中伸一郎，品川麻由子，山寺博史，古賀良彦：2 相性の睡眠覚醒パターンを示した特発性過眠症の 1 例における活動期開始時刻と活動量の関係．第 38 回日本臨床神経生理学学会学術大会，神戸，平成 20 年 11 月 12-14 日．
22. 鬼頭伸輔，長谷川崇，岡安美紀生，藤田憲一，古賀良彦：経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療効果に関する検討．第 38 回日本臨床神経生理学学会学術大会，神戸，平成 20 年 11 月 12-14 日．
23. 鬼頭伸輔：経頭蓋磁気刺激のうつ病治療への臨床応用—うつ病の病態生理に基づいた刺激条件の設定は可能か？—．第 38 回日本臨床神経生理学学会学術大会，神戸，平成 20 年 11 月 12-14 日．
24. 田中伸一郎，中島亨，品川麻由子，山寺博史，古賀良彦：大うつ病性障害患者における活動期—非活動期移行期の行動量数値解析．第 38 回日本臨床神経生理学学会学術大会，神戸，平成 20 年 11 月 12-14 日．
25. 小長井大輔，品川麻由子，中林毅，田中伸一郎，古賀良彦：20 代に精神症状を呈し事例化した Wilson 病の 1 例．第 37 回杏林医学会総会，三鷹，平成 20 年 11 月 15 日．
26. 中島亨：睡眠薬使用上の問題点 (シンポジウム「睡眠薬の過去・現在・未来」)．第 25 回不眠研究会，東京，平成 20 年 12 月 6 日．
27. 長谷川崇，鬼頭伸輔，中島亨，岡安美紀生，山寺博史，古賀良彦：反復経頭蓋磁気刺激がうつ病の睡眠構築へ及ぼす影響．第 4 回関東睡眠懇話会，東京，平成 21 年 1 月 25 日．
28. 中島亨，田中伸一郎，長谷川崇，山寺博史，古賀良彦：行動ロガーでなければ観察できない病態について．第 4 回関東睡眠懇話会，東京，平成 21 年 1 月 25 日．
29. 池田暁史：研修をうけること、精神療法家になること．日本精神分析的精神医学会第 7 回大会ミニシンポジウム「精神医学における精神分析的精神療法の研修」，東京，平成 21 年 3 月 20 日．

II 論文

1. 古賀良彦：快適睡眠のための工夫—香りによる快眠法．ねむりと医療 2 : 45-46, 2009.
2. 山寺博史：処方へのヒント 睡眠薬の使い方半減期を考慮した薬剤選択を．日経メディカル 11:159-161, 2008.
3. 山寺博史：巻頭言 私的老年精神医学今昔．老年精医誌 19 : 506-507, 2008.
4. 中島亨：行動ロガーの臨床応用．睡眠医療 3 : 245-248, 2009.
5. Kito S, Koga Y : Changes in regional cerebral blood flow after low-frequency transcranial magnetic stimulation in treatment-resistant depression. Clin Neurophysiol 199 : e77, 2008.
6. Kito S, Nakajima T, Koga Y : Amnesia due to left hippocampal hemorrhage. Psychogeriatr 20 : 643-644, 2008.

7. Kito S, Fujita K, Koga Y : Regional cerebral blood flow changes after low-frequency transcranial magnetic stimulation of the right dorsolateral prefrontal cortex in treatment-resistant depression. *Neuropsychobiology* 58 : 29-36, 2008.
8. 鬼頭伸輔, 小林哲生¹, 古賀良彦 (¹京都大・院・工学研究科) : Diffusion tensorimaging による統合失調症患者の白質病変の研究. *臨脳波* 51 : 97-101, 2009.
9. 田中伸一郎 : Pseudoneurotic schizophrenia 再考－Reconsideration of the term and concept of Pseudoneurotic schizophrenia. 平成 19 年度井之頭病院研究紀要 : 27-33, 2008.

III 著書

1. 古賀良彦 : 第 5 章 記憶・学習と脳機能改善 第 4 節アラキドン酸と脳機能. 第 9 章 脳機能の分析・評価法 第 3 節脳波と事象関連電位. *脳と栄養ハンドブック*. 古賀良彦, 高田明和編. 東京, (株)サイエンスフォーラム, 2008. 145-148, 309-316.
2. 山寺博史 : アルコールによるてんかん発作と鑑別は? 薬物惹起性けいれん発作とは? ベンゾジアゼピン系抗てんかん薬とバルビツール酸系抗てんかん薬の使い方は? てんかん診療のクリニカルクエスチョン. 松浦雅人編. 東京, 診断と治療社, 2008. 147-149, 149-150, 177-179.
3. 山寺博史 : 第 31 章 睡眠薬学 第 4 節 その他の睡眠障害治療薬. *睡眠学*. 日本睡眠学会編. 東京, 朝倉書店, 2009. 681-685.
4. 中島亨 : 加齢と概日リズム. *老年医学テキスト*. 日本老年医学会編. 東京, メジカルビュー社, 2008, 323-324.
5. 中島亨 : 第 31 章 睡眠薬学 第 2 節 精神刺激薬. *睡眠学*. 日本睡眠学会編. 東京, 朝倉書店, 2009, 651-657.
6. 中島亨 : 統合失調症と睡眠及び夢研究. *専門医のための精神科臨床リュミエール* 8. 内山真編. 東京, 中山書店, 2009, 175-178.

小児科学教室

I. 口演

1. Harada S, Eto T, Bessho F, Morikawa T, Saito R, Kaji M, Nakagawa T, Kanagawa A, Hanawa Y (Joint Committee to Protect Children from Tobacco Hazards, The Japanese Society of Child Health, Japan Pediatric Society, Japan Pediatric Association): Pediatricians' Roles in Lowering Smoking Rates in Japanese Minors. Pediatric Academic Societies & Asian Society for pediatric Research 2008, Honolulu, Hawaii, May.2-6, 2008.
2. 山本明日香, 坂井武士, 瀧浦俊彦, 高木永, 吉野浩, 別所文雄: 化学療法に合併した腸管気腫 性嚢胞症の1例. 第559回日本小児科学会東京都地方会講話会, 東京, 平成20年5月10日.
3. 中村由紀子, 三輪真美, 別所文雄: てんかん治療中に合併した薬疹の症例検討. 第50回日本小児神経学会総会, 東京, 平成20年5月29日.
4. 楊國昌: 免疫抑制薬の糸球体上皮保護機序と抗タンパク尿作用. 第51回日本腎臓学会学術総会 (ランチョンセミナー), 福岡, 平成20年5月31日.
5. 伊藤紀子, 倉山亮太, 関根裕司, 福原大介, 中條綾, 清水マリ子, 楊國昌: 薬物中毒を契機に指摘された原因不明の巣状糸球体硬化症の3歳男児例. 第43回日本小児腎臓病学会学術集会, 福岡, 平成20年6月14日.
6. 倉山亮太, 伊藤紀子, 関根裕司, 福原大介, 中條綾, 清水マリ子, 楊國昌, 金井好克¹ (¹大阪大・医・薬理学生体システム薬理学): 急速進行性半月体形成性腎炎の半月体形成過程に関わる mTOR1 刺激伝達系とアミノ酸トランスポーター (LAT2) のクロストーク. 第43回日本小児腎臓病学会学術集会, 福岡, 平成20年6月14日.
7. Sekine Y, Fukuhara D, Kanai Y¹, Nishibori Y, Nagata M², Yan K(¹Department of Toxicology and Pharmacology, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Pathology, Institute of Clinical, University of Tsukuba): 43th Japanese Society of Pediatric Nephrology Meeting, Fukuoka, June. 14, 2008.
8. 長谷川康子, 青木奈穂, 清水マリ子: 一過性溶血性貧血を呈した4歳女児例. 第92回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成20年6月20日.
9. 坂井武士, 保崎明: 当院における川崎病の入院症例における検討. 第92回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成20年6月20日.
10. Oka A, Takahashi H, Masaki H, Suzuki K, Tamura M: Periventricular white matter lesion by intrauterine exposure to lipopolysaccharides in rats: a model of periventricular leukomalacia due to chorioamnionitis. 35th Annual Meeting of the Fetal and Neonatal Physiology Society, Maastricht, June24, 2008.
11. 楊國昌: 糖質ステロイドを主とする免疫抑制薬のポドサイト保護作用. 第4回IgA腎症カクテル療法研究会シンポジウム, 東京, 平成20年6月28日.
12. 別所文雄: 小児がんの疫学的問題点. 第59回佐賀ブルートアーベント, 佐賀市, 平成20年7月18日.

13. 楊國昌：小胞体ストレスとタンパク尿のクロストークに関わる免疫抑制薬の作用．第2回腎炎免疫療法懇話会，名古屋，平成20年7月25日．
14. 楊國昌：小胞体ストレスとタンパク尿のクロストークに関わる免疫抑制薬作用．広島小児腎疾患カンファランス，広島，平成20年8月22日．
15. Yan K: Protective role of immunosuppressants on defective nephrin biogenesis.10th Asian Congress of Pediatric Nephrology, Bangkok, Aug.30, 2008.
16. Oka A.: Inflammatory mechanisms of white matter injury in immature brains: A rat model of chorioamnionitis induces lesions similar to periventricular leukomalacia. The 3rd Germany-Japan Neuropediatric Symposium, Munich, Sep. 5, 2008.
17. 別所文雄：医療機関における虐待の発見と対応の基礎～児童虐待を中心に医療機関の地域連携を考える～．平成20年度「医療従事者向け虐待対応研修会」，川崎市，平成20年9月5日．
18. 岡明：脳室周囲白質軟化症の病態と診断 第27回米子セミナー，米子，平成20年9月15日．
19. 楊國昌：小胞体ストレスとタンパク尿のクロストークに関わる免疫抑制薬作用．第11回山形・腎と免疫研究会，山形，平成20年10月18日．
20. 楊國昌：抗タンパク尿薬としての免疫抑制薬の作用機序．第3回弘前小児腎疾患フォーラム，弘前市，平成20年10月24日．
21. 長谷川康子，弦間友紀，吉野浩：亀背、歩行障害を呈した結核性脊椎炎の一例．第93回多摩小児科臨床懇話会，三鷹，平成20年10月24日．
22. 新津麻子：平成17～19年度におけるシナジス投与の検討．第93回多摩小児科臨床懇話会，三鷹，平成20年10月24日．
23. Nishibori Y, Jamshid K¹, Karl T² and Yan K(¹Department of Medicine, Division of Cardiovascular Medicine, Vanderbilt University School of Medicine, ²Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Division of Matrix Biology, Karolinska Institute): Palmitoylation is crucial for plasma membrane assembly of nephrin 41st Annual Meeting & Scientific Exposition American Society of Nephrology, Philadelphia, USA, Nov.5～9, 2008.
24. Ito N, Xiao Z¹, Patrakka J¹, Nukui M¹, Tryggvason K¹ and Yan K(¹Division of Matrix Biology, Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Karolinska Institute, Stockholm, Sweden): The Role of Glycosylation in the Plasma Membrane Assembly of Novel Slit Diaphragm Protein Crumbs Homolog 2. 41st Annual Meeting & Scientific Exposition American Society of Nephrology, Philadelphia, Nov.4-9, 2008.
25. 別所文雄：児童虐待 現状とそれに対する取り組み．足立区医師会小児科医会設立20周年記念学術講演会，東京，平成20年11月26日．
26. 楊國昌：外来診療で見逃してはいけない小児疾患．府中医師会講演，東京，平成20年11月28日．
27. 中村由紀子，小松祐美子，島崎真希子，三輪真美，長谷川典子，松田博雄，別所文雄：Landau-Kleffner 症候群が疑われる1例．第35回多摩てんかん懇話会，東京，平成20年

12月13日.

28. 島崎真希子, 中村由紀子, 清水マリ子, 保崎明, 別所文雄: 平成20年における虐待入院症例の検討. 第94回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 平成21年2月27日.
29. 清水マリ子, 五月女友美子¹, 松山健¹, 稲岡差峰幸², 岡島康友³, 順毛直哉⁴, 長島正治⁴, 前田基晴⁵ (¹公立福生病院小児科, ²同皮膚科, ³同リハビリテーション科, ⁴杏林大・医・皮膚科学, ⁵まえだこどもクリニック): 若年性皮膚筋炎の2歳男児例. 第16回多摩小児感染免疫研究会, 武蔵野市, 平成21年2月28日.
30. 長谷川康子, 弦間友紀, 吉野浩, 楊國昌, 別所文雄: 縦隔腫瘍を疑われた結核性脊椎炎の3歳男児例. 第16回多摩小児感染・免疫研究会. 武蔵野市, 平成21年2月28日.

II. 論文

1. Saito Y, Toyoshima M, Oka A, Zhuo L, Moriwaki SI, Yamamoto O, Kanzaki S, Hanaki KI, Ninomiya H, Nanba E, Kondo A, Maegaki Y, Ohno K: Mental retardation, spasticity, basal ganglia calcification, cerebral white matter lesions, multiple endocrine defects, telangiectasia and atrophic skin: A new syndrome? *Brain Dev* 30:221-225,2008.
2. Takano K, Shimono M, Shiota N, Kato A, Tomioka S, Oka A, Ohno K, Sathou H: Infantile neuronal ceroid lipofuscinosis: The first reported case in Japan diagnosed by palmitoyl-protein thioesterase enzyme activity deficiency. *Brain Dev* 30:370-373,2008.
3. 水口浩, 星野英紀, 阿部裕一, 長澤哲郎, 岡明, 久保田雅也: 小児 Guillain-Barre 症候群の早期診断における電気生理学的検査の有用性について *脳と発達* 40:460-464, 2008.
4. 小泉沢, 内山健太郎, 篠田裕子, 露崎悠, 吉田知広, 細谷要介, 洲鎌盛一, 高山ジョン一郎, 金子正英, 岡明: 周期熱を伴った Vici 症候群の1例 *日本小児科学会雑誌* 112:713-718, 2008.
5. 長澤哲郎, 岡明: けいれん群発型 HHV-6 脳症の概念と位置づけ *日本小児科学会雑誌* 112:448-457, 2008.
6. 岡明: 発達性協調運動障害 *小児科臨床* 61:2552-2556, 2008
7. 岡明: 環境汚染(水銀、ダイオキシン、ポリ塩化ビフェニール)による脳障害 *周産期医学* 38:705-708, 2008.
8. 岡明: 未熟な脳はどのように成長・発達するのか? *Neonatal Care* 21:10-15, 2008.
9. 岡明: Discordant Twin の神経予後 *産婦人科の実際* 58:73-79, 2009.
10. 岡明: 神経・筋疾患の臨床遺伝学 *小児科診療* 72:113-116, 2009.
11. 楊國昌: 免疫抑制薬の糸球体上皮保護機序と抗蛋白尿作用. *Nephrology Frontier*7:85-92,2008.
12. 楊國昌: 免疫抑制薬の障害ポドサイト救済作用. *医学のあゆみ* 226:554-559, 2008.
13. 楊國昌: ネフリンと免疫抑制薬. *腎と透析* 64:990-993, 2008.
14. Shimizu M, Khoshnoodi J¹, Akimoto Y², Kawakami H², Hirano H², Higashihara E³, Hosoyamada M⁴, Sekine Y, Kurayama R, Kurayama H⁵, Joh K⁵, Hirabayashi J⁶, Kasai K⁷, Tryggvason K⁸, Ito R, Yan K (¹Department of Medicine, Vanderbilt University School of Medicine, ²Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, ⁴Department of Pharmacotherapeutics, Kyoritsu University of Pharmacy, ⁵National Hospital Organization Chiba-East National

Hospital, ⁶Research Center for Medical Glycoscience, National Institute of Advanced Science and Technology, ⁷Biological Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University, ⁸Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Division of Matrix Biology, Karolinska Institute): Expression of galectin-1 as a new component of slit diaphragm is altered in minimal change nephritic syndrome. Lab Invest 89: 178-195, 2009.

15. Shimizu M, Khoshnoodi J, Akimoto Y, Kawakami H, Hirano H, Higashihara E, Hosoyamada M, Sekine Y, Kurayama R, Kurayama H, Joh K, Hirabayashi J, Kasai K, Tryggvason K, Ito N, Yan K : Expression of galectin-1, a new component of slit diaphragm, is altered in minimal change nephrotic syndrome. Lab Invest. 89: 178-195, 2009.
16. 中村由紀子, 保崎明, 松田博雄, 別所文雄 : 多彩な視覚障害を認めた多発性硬化症の1例. 小児科臨床 61(2) : 295-299, 2008.
17. 中村由紀子, 伊藤紀子, 西堀由紀野, 別所文雄 : Drug-induced hypersensitivity syndrome の1例. 小児科 49(10) : 1289-1290, 2008.
18. Saito H¹, Takahashi S¹, Nagata M², Tsuchiya T¹, Mugishima H¹, Yan K, Kondo Y¹, Matsuyama T¹, Sekine T³, Igarashi T³ (¹Department of Pediatrics, Nihon University School of Medicine, ²Department of Molecular Pathology, Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, ³Department of Pediatrics, Tokyo University Faculty of Medicine): glomerular charge selective protein-sieving function. Pediatr Nephrol 24:609-612, 2008.

III. 著書

1. 岡明 (分担執筆) : てんかんの神経科学. 有馬正高編, 小児神経学、東京, 診断と治療社, 2008. p. 345-349.
2. 岡明 (分担執筆) : 不随意運動. 大野耕策, 前垣義弘, 編. 診療実践小児神経科. 東京, 診断と治療社, 2008. p. 258-263.
3. 岡明 (分担執筆) : 痙攣が頓挫したかどうか判断に困る場合にはどうしたらよいか? まだ立てない、歩けない乳幼児の小脳失調をうまく診察・判断する方法は?. 真部淳, 上村克徳編. 小児科研修の素朴な疑問に答えます. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2008. p. 44-47.
4. 岡明 (分担執筆) : 髄膜炎. てんかん. 脳性麻痺. 斎藤理恵子, 早坂素子, 西海真理, 編. 小児看護ポケットナビ. 東京, 中山書店, 2008. p. 176-185.
5. 岡明 (編集、分担執筆) : 小児てんかんの最新治療. 東京, 中山書店, 2008.
6. 岡明 (分担執筆) : 熱性痙攣、てんかん発作・痙攣重積状態、急性脳症、脳炎・髄膜炎、片頭痛 五十嵐隆, 編. 目で見る小児救急. 東京, 文光堂, 2009. p. 167-175.
7. 別所文雄 : 血液成分, A 幼小児~青年・成人. からだの年齢事典. 鈴木隆雄, 衛藤隆編. 東京, 朝倉書店, 2008年. 38-41.
8. 別所文雄 : 白血病患児の小児期を超えてのケア. キャリーオーバーと成育医療—小児慢性疾患患者の日常生活改善のために—. II キャリーオーバーが問題となる主な疾患. 松下竹次 監修, 駒松仁子編. 東京, ヘルス出版, 2008. p. 52-57.

9. 清水マリ子, 松山健¹ (¹ 公立福生病院小児科) : 腎疾患児の予防接種. 小児科臨床ピクシス④予防接種. 五十嵐隆編. 東京, 中山書店, 2008. 64-65.
10. Morimoto A, Kobayashi R, Maeda M, Asami K, Bessho F, Imashuku S, Japan LCH StudyGroup: Impact of reactivation on the sequelae of multi-system Langerhans cell histiocytosis patients. *Pediatr Blood & Cancer* 50(4):931-932, 2008.
11. 富澤大輔, 木下明俊, 田渕健, 井田孔明, 太田節雄, 清水知賀子, 小池和俊, 高橋浩之, 黒澤秀光, 気賀沢寿人, 別所文雄, 月本一郎, 花田良二, 土田昌宏 : 乳児期発症の急性骨髄性白血病の治療成績の検討. -東京小児がん研究グループ(TCCSG)13次および14次研究より-. 日小血会誌 22:14-20, 2008.
12. Ohnishi H, Yoshino H, Yoneyama R, Ishii M, Watanabe T, Bessho F: Faggot formation in mature neutrophils and metamyelocytes in acute myeloid leukemia without maturation. *Pediatr Hematol Oncol.* 2008 Apr-May;25(3):165-70.
13. Kosaka Y, Yagasaki H, Sano K, Kobayashi R, Ayukawa H, Kaneko T, Yabe H, Tsuchida M, Mugishima H, Ohara A, Morimoto A, Otsuka Y, Ohga S, Bessho F, Nakahata T, Tsukimoto I, Kojima S; Japan Childhood Aplastic Anemia Study Group.: Prospective multicenter trial comparing repeated immunosuppressive therapy with stem-cell transplantation from an alternative donor as second-line treatment for children with severe and very severe aplastic anemia. *Blood.* 2008 Feb 1;111(3):1054-9. Epub 2007 Nov 7.
14. Ohnishi¹ H, Hosoi² K, Yoshino² H, Sugiura² M, Matsushima¹ S, Watanabe¹ T, Bessho² F: A novel JAK2 splicing mutation in neonatal myeloproliferative disorder accompanying congenital anomalies. *Br J Haematol* 365-2141.2009.
15. 別所文雄 : 21世紀の小児科グランドデザインと進歩する小児医療. 1. 21世紀の小児科グランドデザイン. 少子化対策. 小児科診療 71(11):1815-1821, 2008.
16. 別所文雄 : [知っておきたい画像所見]血液疾患. 医事新報 Junior 12 No.478:1-8, 2008.
17. 別所文雄 : 血液標本の見方. 日小血会誌 22(5/6):331-339, 2008.
18. 別所文雄 : 臨床に役立つ貧血治療の実際. 総論 : 貧血の診断の進め方. 小児科診療 72(2):223-230, 2008.

IV. その他

1. 岡明 : アンケート形式による任意発達フォローアップ用紙作成に関する検討 厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「母乳のダイオキシン類汚染の実態研究と乳幼児の発達への影響に関する研究」平成19年度研究報告書 2008. p. 73-81.
2. 岡明 : 劇症型亜急性硬化性全脳炎に関する臨床的検討 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服事業「プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究」平成19年度研究報告書 2008. P. 187-190.
3. 伊藤裕司, 岡明 : 双胎間輸血症候群におけるレーザー治療後の神経後遺症に関する研究 厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業「科学的根拠に基づく胎児治療法の臨床応用に関する研究」 2008. p. 20-23.

4. 別所文雄：悪性新生物の登録・評価・情報提供に関する研究．白血病患者および神経芽腫患者の分散の状況の検討に関する研究．厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業 平成 20 年度総括・分担研究報告書 研究代表者 藤本純一郎 平成 21 年 3 月．
5. 別所文雄，五十嵐隆監修：思春期医学臨床テキスト．日本小児科学会編．診断と治療社，2008．
6. 中村由紀子：平成 20 年度三鷹市通級指導学級における指導の開始・終了等の判断及びシステムに関する調査研究報告．東京都教育委員会 平成 20 年度特別支援教育に関する調査研究 「通級指導学級での指導の開始・終了判定システムの構築に関する調査研究」 平成 21 年 3 月 三鷹市教育委員会 教育支援運営委員会教育支援学級支援等検討部会通級制分科会．

外科学教室（消化器・一般外科）

I. 口演（学会等）

1. 竹内弘久, 杉山政則, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕:抗凝固・血小板薬内服患者における鼠径・大腿ヘルニア治療の工夫.第6回日本ヘルニア研究会,東京,平成20年4月12日.
2. Matsuoka H, Masaki T, Takei K, Sato K, Ueki H, Kobayashi T, Koyama Y, Sugiyama M, Atomi Y. Impact of intraoperative radiotherapy on postoperative evacuation following ultra-low anterior resection. 54th. Ann. Meet. of International College of Surgeons, Japan section. Tokyo, May 6, 2008
3. 竹内弘久、乾俊哉、岡野晴子、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕:PEG(Introducer 法)と異時多発早期胃癌に対して EMR を同時行った1例.第94回日本消化器病学会総会,福岡,平成20年5月9日.
4. 正木忠彦:外科医からみたインフリキシマブ治療の有用性—再手術・QOL・医療経済の観点から. 第3回 Biologics Forum on IBD, 福岡, 平成20年5月10日.
5. 跡見裕:食と健康. 緑茶と健康フォーラム、大阪市、平成20年5月13日.
6. 杉山政則、鈴木裕、阿部展次、植木ひさよ、松岡弘芳、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕: Liver hanging maneuver と中肝静脈肝外剥離を併用した肝左葉切除術. 第108回日本外科学会定期学術集会、長崎、平成20年5月15日.
7. 正木忠彦、松岡弘芳、佐藤和典、植木ひさよ、武井宏一、杉山政則、跡見裕:局在を考慮した新しい直腸癌リンパ節転移分類の有用性. 第108回日本外科学会定期学術集会、長崎、平成20年5月15日—17日.
8. 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕:内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)症例における多重癌の検討.第108回日本外科学会定期学術集会,長崎,平成19年5月15日-17日.
9. 阿部展次、竹内弘久、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕:NOTES(natural orifice transluminal endoscopic surgery)としての経胃内視鏡的胆嚢摘出術. 第108回日本外科学会定期学術集会、長崎、平成20年5月17日.
10. 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、山口高史、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕:膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の診療アルゴリズムと治療戦略 全国調査の解析より. 第108回日本外科学会定期学術集会、長崎、平成20年5月15日.
11. 長友亜津子、阿部展次、松岡弘芳、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、大倉康男¹、藤岡保範¹、跡見裕(¹杏林大・医・病理学教室):胃癌の間膜内癌細胞に関する臨床病理学的検討. 第108回日本外科学会総会、長崎、平成20年5月15日

12. 木暮道夫、太田重久、井手博子、佐竹亮介、長谷川浩、杉山政則：認知症を有する高齢者の手術適応。第 108 回日本外科学会定期学術集会、長崎、平成 20 年 5 月 17 日。
13. Mori T, Abe N, Sugiyama M, Atomi Y: Laparoscopic lymphatic-basin dissection as an additional treatment to endoscopic submucosal dissection in early gastric cancer. SSAT (DDW), San Diego, May 19, 2005.
14. Mori T, Suzuki Y, Sugiyama M, Atomi Y: Hepatolithiasis in Japan: Epidemiology update and a cohort study in 473 patients. AGA (DDW), San Diego, May 20, 2008.
15. 跡見裕:興味ある症例. 多摩エコー研究会、東京、平成 20 年 2 月 21 日
16. 竹内弘久、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕:経皮的内視鏡胃瘻造設術(Introducer 法)後初回チューブ交換の工夫.第 75 回日本消化器内視鏡学会総会,横浜,平成 20 年 5 月 25 日.
17. 阿部展次、跡見裕：ESD 後局所遺残に対する胃全層部分切除：ESD 技術と腹腔鏡下手技の融合。第 75 回日本消化器内視鏡学会総会、横浜、平成 20 年 5 月 26 日。
18. 木暮道夫、太田重久、杉山政則、井手博子、高橋淳子、佐竹亮介、別府正彦、長谷川浩：高齢者緩和医療と PEG のかわり。第 75 回日本消化器内視鏡学会総会、横浜、平成 20 年 5 月 26 日。
19. 杉山政則、鈴木裕、植木ひさよ、山口高史、阿部展次、松岡弘芳、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：膵管ホルダーを用いた膵管空腸粘膜吻合。第 20 回日本肝胆膵外科学会学術集会、山形、平成 20 年 5 月 29 日。
20. 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、山口高史、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の診療アルゴリズムと治療戦略—全国調査の解析より—。第 20 回日本肝胆膵外科学会総会、山形、平成 20 年 5 月 29 日。
21. 阿部展次、竹内弘久、森俊幸、杉山政則、跡見裕：より低侵襲な新規手術の開発：腹腔鏡下手術と NOTES の橋渡し—経腹壁的胆嚢摘出術—。第 20 回日本肝胆膵外科学会、山形、平成 20 年 5 月 30 日。
22. 杉山政則：膵疾患の最新の診断と治療—最新の知見。第 12 回日本消化器病学会関東支部教育講演会、横浜、平成 20 年 6 月 8 日。
23. 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕:早期胃癌 EMR 適応拡大病変に対する機能温存療法 ESD の妥当性(絶対適応病変と比較して).第 33 回日本外科学系連合学会.浦安,平成 20 年 6 月 13 日.
24. 跡見裕:膵診療の現況. 小石川フォーラム、東京、平成 20 年 6 月 21 日。
25. Matsuoka H, Masaki T, Takei K, Sato K, Ueki H, Kobayashi T, Koyama Y, Sugiyama M, Atomi Y. Postoperative evacuatory disorder following low anterior resection for rectal cancer. 3rd. Ann Meet. of Colorectal Disease Symposium in Tokyo. Tokyo, June 21, 2008

26. 阿部展次、竹内弘久、杉山政則、跡見裕：腹壁 1 ポートを付加した経胃内視鏡的胆嚢摘出術の実験的検討. 第 33 回日本外科系連合学会学術集会、千葉、平成 19 年 6 月 22 日.
27. 松岡 弘芳、正木 忠彦、武井 宏一、佐藤 和典、植木 ひさよ、小林 敬明、小山 洋伸、杉山 政則、跡見 裕：当科における大腸 mp 癌の臨床病理学的検討. 第 69 回 大腸癌研究会、横浜、平成 20 年 7 月 4 日
28. 木暮道夫、太田重久、井手博子、杉山政則、佐竹亮介、長谷川浩：高齢者がん患者における緩和ケアの外科的介入について. 第 63 回日本消化器外科学会総会、札幌、平成 20 年 7 月 16 日.
29. 杉山政則、鈴木裕、阿部展次、植木ひさよ、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：円錐形ホルダーを用いた膵管空腸粘膜吻合. 第 63 回日本消化器外科学会総会、札幌、平成 20 年 7 月 17 日.
30. 森俊幸、鈴木裕、杉山政則、跡見裕：肝内結石症 2006 年度全国疫学調査.第 63 回日本消化器外科学会総会、札幌、平成 20 年 7 月 17 日.
31. 正木忠彦、高山誠、松岡弘芳、植木ひさよ、佐藤和典、武井宏一、杉山政則、戸成綾子、楠田順子、跡見裕：下部直腸癌における術中照射治療の中間解析—術後排尿障害の軽減にむけて. 第 63 回日本消化器外科学会総会、札幌、平成 20 年 7 月 16 日—18 日.
32. 柳田 修、長尾 玄、杉山政則、跡見 裕：食道癌手術での安全かつ簡便な胸腔内胃管再建と吻合. 第 63 回日本消化器外科学会総会、札幌、平成 20 年 7 月 17-19 日.
33. 阿部展次、竹内弘久、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：早期胃癌に対する新しい戦略：ESD+腹腔鏡下リンパ節郭清術—現状と将来展望—. 第 63 回日本消化器外科学会総会、札幌、平成 20 年 7 月 17 日.
34. 松岡弘芳、正木忠彦、小林敬明、佐藤和典、杉山政則、跡見裕：肛門括約筋温存手術例における術後排便機能の臨床生理学的検討. 第 63 回 日本消化器外科学会総会、札幌、平成 20 年 7 月 16-18 日
35. 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕:ESD の治療成績からみた早期胃癌に対する内視鏡治療の妥当性.第 63 回日本消化器外科学会総会,札幌,平成 20 年 7 月 17 日.
36. 鈴木裕、森俊幸、山口高史、阿部展次、柳田修、正木忠彦、杉山政則、跡見裕：肝内結石症の長期予後因子に関するコホート研究. 第 63 回日本消化器外科学会総会、札幌、平成 20 年 7 月 17 日.
37. 鈴木裕、山口高史、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：高齢者急性胆管炎に対する内視鏡的胆道ドレナージの有用性. 第 11 回日本高齢消化器病学会、東京、平成 20 年 7 月 19 日.

38. 鈴木裕、杉山政則、乾和郎¹、五十嵐良典²、大原弘隆³、田妻進⁴、辻忠男⁵、宮川宏之⁶、跡見裕（¹藤田保健衛生大学第2教育病院・消化器内科、²東邦大学医療センター大森病院・消化器内科、³名古屋市立大学大学院医学研究科・消化器・代謝内科学、⁴広島大学・総合診療科、⁵さいたま市立病院・消化器内科、⁶札幌厚生病院・第2消化器科）：膵石症治療に関する多施設症例調査。第39回日本膵臓学会大会、横浜、平成20年7月30日。
39. 阿部展次、鈴木裕、杉山政則、跡見裕：膵頭十二指腸切除術後の有茎肝門索—肝鎌状間膜による腫瘍血管被覆。第39回日本膵臓学会大会、横浜、平成20年7月31日。
40. Matsuoka H, Masaki T, Takei K, Sato K, Ueki H, Sugiyama M, Atomi Y: Impact of intraoperative radiotherapy on postoperative evacuation following ultra-low anterior resection. 13th. Ann Meet of Colorectal and Anal Function. Tokyo, Aug 2, 2008
41. 跡見裕：膵がんの診断と治療。老年病研究会、前橋市、平成20年8月5日
42. 橋本佳和、森俊幸、小嶋幸一郎、小林敬明、鈴木裕、竹内弘久、長尾玄、阿部展次、柳田修、正木忠彦、杉山政則、跡見裕：腹腔鏡下修復術を行った横隔膜ヘルニアの一例。第21回日本内視鏡外科学会総会、横浜、平成20年9月2日。
43. 森俊幸、阿部展次、杉山政則、跡見裕：内視鏡的切除適応外病変に対する全胃温存を目指した先行ESD+腹腔鏡下リンパ節郭清術の意義。第21回日本内視鏡外科学会総会、横浜、平成20年9月2日。
44. 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：早期胃癌EMR適応拡大病変におけるESDの妥当性について。第21回日本内視鏡外科学会総会、横浜、平成20年9月2日。
45. Mori T, Atomi Y: Internal drainage of retrogastric pseudocysts by intragastric surgery technique. 11th WCES, Yokohama, 3 Sep, 2008.
46. 阿部展次、竹内弘久、森俊幸、杉山政則、跡見裕：腹壁経由軟性内視鏡アシスト下に行う経胃内視鏡的胆嚢摘出術。第21回日本内視鏡外科学会総会、横浜、平成20年9月3日。
47. Mori T, Kimura T, Konishi F: Endoscopic Surgical Skill Qualification System in Japan. ELSA 2008, Yokohama, 5 Sep, 2008.
48. Mori T, Abe N, Sugiyama M, Atomi Y: Laparoscopic lymphatic-basin dissection as an additional treatment to endoscopic submucosal dissection in early gastric cancer. 11th WCES, Yokohama, 5 Sep, 2008.
49. Takeuchi T, Abe N, Yanagida O, Msaki T, Mori T, Sugiyama M, Atomi Y: Validity of ESD expanded criteria for EMR in early gastric cancer. 11th WCES 2008. Yokohama, Sept 5, 2008
50. 阿部展次：胃腫瘍に対するhybrid NOTESとしての腹腔鏡補助下内視鏡的胃全層切除術。第2回NOTES研究会、横浜、平成20年9月6日。
51. 松岡弘芳、正木忠彦、小林敬明、佐藤和典、杉山政則、跡見裕：肛門括約筋温存手術例術後

長期排便機能の臨床生理学的検討. 大腸肛門機能障害研究会、東京 2008年9月6日

52. Matsuoka H, Masaki T, Sugiyama M, Atomi Y: Defecography in the evaluation of constipation. Shanghai Changhai Colorectal Cancer Week, Shanghai, Republic of China. Sep19-22,2008.
53. 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：超高齢総胆管結石症例に対する内視鏡的乳頭切開術の有用性. 第44回日本胆道学会学術集会、名古屋、平成20年9月19日.
54. Masaki T: Chemo-radiotherapy in advanced rectal cancer. Shanghai Colorectal Cancer Week, Shanghai, Sep 19-22, 2008.
55. 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：腹腔鏡下胆嚢摘出術中に発見された総胆管結石に対する治療方針. 第44回日本胆道学会学術集会、名古屋、平成20年9月20日.
56. 竹内弘久、大倉康男、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、藤岡保範、杉山政則、跡見裕:胃癌におけるD2-40免疫染色を用いたリンパ管侵襲評価の検討.第13回日本病理外科学会学術集会,横浜,平成20年9月27日.
57. 鈴木裕、中里徹矢、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：膵胆管合流異常におけるMDCTの有用性. 第31回日本膵・胆管合流異常研究会、京都、平成20年9月27日.
58. 木暮道夫、太田重久、井手博子、佐竹亮介、長谷川浩、高橋淳子、別府正彦、杉山政則：消化管瘻不适当症例の検討. 第76回日本消化器内視鏡学会総会、東京、平成20年10月3日.
59. 阿部展次、杉山政則、跡見裕：軟性内視鏡を用いた胆嚢摘出術—NOTES胆摘と経腹壁の胆摘— 第76回日本消化器内視鏡学会総会、東京、平成20年10月3日
60. 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕:高齢者早期胃癌ESDにおける術後肺炎の対策-全身麻酔下ESDの有用性-.JDDW2008,東京,平成20年10月1日-4日.
61. 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：若年者膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）症例の検討 全国調査症例との比較. 第50回日本消化器病学会大会、東京、平成20年10月3日.
62. 松岡弘芳、正木忠彦、武井宏一、植木ひさよ、小山洋伸、小林敬明、佐藤和典、杉山政則、跡見 裕：陰部神経吻合による新肛門再建術 A cadaveric study. 第63回 日本大腸肛門病学会学術集会、東京 平成20年10月17・18日.
63. 跡見裕:膵臓病の臨床 現状と将来展望. パリエット発売10年記念講演会、静岡、平成20年11月1日

64. 正木忠彦, 松岡弘芳, 佐藤和典, 武井宏一, 植木ひさよ, 杉山政則, 跡見裕: 下部直腸進行癌に対する術中照射併用・自律神経完全温存の試み. 第 63 回日本大腸肛門病学会学術集会, 福岡, 平成 20 年 11 月 6 日-7 日.
65. 柳田 修, 阿部展次, 竹内弘久, 森 俊幸, 杉山政則, 跡見 裕: 当科に於ける LADG 新規導入時のポイントと出血危険因子の検討. 第 38 回胃外科・術後障害研究会, 東京, 平成 20 年 11 月 6-7 日.
66. 跡見裕: わが国の医療を考える. 第 82 回丙辰会総会, 仙台市, 平成 20 年 11 月 8 日.
67. 木暮道夫, 太田重久, 井手博子, 佐竹亮介, 設楽雅人, 杉山政則: 手術の承諾に 1 年を要した高齢者の胆嚢内隆起性病変の 1 切除例. 第 70 回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成 20 年 11 月 27 日.
68. 鈴木裕, 杉山政則, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕: 長期成績から見た分枝膵管型 IPMN の手術適応 腺癌の危険因子は予後不良因子になりうるか? 第 69 回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成 20 年 11 月 27 日.
69. 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: 肥満手術実施に対する準備と初期症例における術式. 第 70 回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成 20 年 11 月 28 日.
70. 杉山政則, 鈴木裕, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 跡見裕: 膵管ホルダーを用いた膵管空腸粘膜吻合. 第 70 回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成 20 年 11 月 29 日.
71. Abe N, Takeuchi H, Mori T, Sugiyama M, Atomi Y: Single-port endoscopic cholecystectomy: a new minimally invasive surgery. The 25th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Bangkok, Thailand, Nov 1-3, 2008
72. Takeuchi T, Abe N, Yanagida O, Msaki T, Mori T, Sugiyama M, Atomi Y: The results of endoscopic submucosal dissection (ESD) for early gastric cancer. The 25th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. Bangkok, Nov, 1-3, 2008
73. Masaki T: Tumor Budding in Colorectal Cancer. 15th Seoul International Cancer Symposium, Seoul, Dec 5, 2008.
74. 竹内弘久, 杉山政則, 鈴木英智, 阿部展次, 柳田修, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 跡見裕: Introducer 法 PEG における新型チューブを使用したチューブ交換の工夫-Introducer 法の欠点を克服するために-. 第 87 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成 20 年 12 月 12 日
75. 正木忠彦: 進行直腸癌の治療. 大和市外科医会, 大和, 平成 21 年 1 月 13 日.
76. 松岡弘芳, 正木忠彦, 武井宏一, 植木ひさよ, 小山洋伸, 小林敬明, 佐藤和典, 杉山政則, 跡見 裕, 戸成 綾子, 高山 誠: 局所進行下部直腸癌自律神経温存術中照射の術後排便機能に関する検討. 第 70 回 大腸癌研究会, 東京 平成 21 年 1 月 16 日.
77. 正木忠彦: クロウン病治療の現状と展望. 第 8 回千葉レミケードセミナー, 千葉, 平成 21

年 1 月 31 日.

78. 杉山政則:膵切除断端の病変と外科治療方針. 第 20 年度後期日本消化器外科学会教育集会、横浜、平成 21 年 2 月 14 日.
79. 阿部展次、竹内弘久、柳田 修、森俊幸、杉山政則、跡見裕: 早期胃癌と胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡補助下内視鏡的胃全層部分切除術. 第 81 回日本胃癌学会総会、東京、平成 21 年 3 月 5 日.
80. 杉山政則: 膵嚢胞性腫瘍. 第 2 回神戸肝胆膵研究会、神戸、平成 21 年 3 月 6 日.
81. 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕: 高齢者早期胃癌に対する全身麻酔下 ESD の有用性. 第 81 回日本胃癌学会総会附設 ESD 研究会、横浜、平成 21 年 3 月 6 日.
82. Aoki H, Way L, Corvera C¹ (¹Department of Surgery, University of California, San Francisco): Bilobar Totally Laparoscopic Segmental Resection of Hepatocellular Carcinoma. AHPBA, Miami, March 12-15, 2009.
83. Suzuki Y, Sugiyama M, ¹Inui K, ²Igarashi Y, ³Ohara H, ⁴Tazuma S, ⁵Tsuji T, ⁶Miyagawa H, Atomi Y (¹ Department of Internal Medicine, Fujita Health University, Second Teaching Hospital, ² Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Toho University, School of Medicine, ³ Department of Gastroenterology and Metabolism, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, ⁴ Department of General Medicine and Clinical Pharmacotherapy, Graduate School of Biomedical Sciences Hiroshima University, ⁵ Department of Gastroenterology, Saitama Municipal Hospital, ⁶ Department of Gastroenterology, Sapporo Kosei Hospital): Management of pancreatolithiasis – A Japanese multicenter study. The international pancreatic research forum 2009 (IPRF2009), Tokyo, March 28, 2009.
84. 竹内弘久、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕: 早期胃癌 ESD 後出血例の検討について. 第 8 回世田谷医師会医学会、東京、平成 20 年 12 月 2 日.
85. 竹内弘久、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕: 一見容易に思える病変に対するアプローチの工夫. 第 18EGMR 研究会、東京、平成 20 年 7 月 11 日.
86. 竹内弘久、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕: 会の概要、会の目的今後の活動内容について、アンケート調査報告. 第 1 回 PEG 地域連携研究会、東京、平成 21 年 2 月 13 日.

II. 論文

1. Sugiyama M, Suzuki Y, Abe N, Ueki H, Masaki T, Mori T, Atomi Y: Pancreatic duct

- holder for facilitating duct-to-mucosa pancreatojejunostomy after pancreatoduodenectomy. *Am J Surg* 197:e18-20, 2009
2. Sugiyama M, Suzuki Y, Abe N, Masaki T, Mori T, Atomi Y: Modified liver hanging maneuver with extraparenchymal isolation of the middle hepatic vein in left hepatectomy. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 16:156-9, 2009
 3. 杉山政則、鈴木裕、阿部展次、山口高史、水野英彰、森俊幸、跡見裕：超高齢者の胆管結石に対する内視鏡的乳頭切開術。 *消化器内視鏡* 20:1682-1687, 2008
 4. 森俊幸、鈴木裕、阿部展次、杉山政則、跡見裕：腹腔鏡下腓尾側切除術。 *臨床外科* 63(6):803-809,2008
 5. 森俊幸、跡見裕、東原英二¹ (¹杏林大・医・泌尿器科学)：杏林大学内視鏡外科手術室。 *日鏡外会誌* 13(6):780-782,2008
 6. 森俊幸、跡見裕：【内視鏡外科手術の現況と今後の展望】消化器領域における内視鏡外科手術(4)肝胆膵。 *日本医師会雑誌* 137(9):1859-1863,2008.
 7. 森俊幸、鈴木裕、阿部展次、杉山政則、跡見裕：IPMN, MCN に対する腹腔鏡下膵体尾部切除術。 *胆と膵* 29(12):1341-1346,2008
 8. 森俊幸 跡見裕：内視鏡外科の基本手技。 *外科治療* 100:434-445,2009
 9. 黒川良望 金平永二 瀧口修司 寺地敏郎 内藤剛 森俊幸 吉田和彦 梅澤昭子：内視鏡外科の教育システム。 *外科治療* 100:460-464,2009
 10. 正木忠彦、松岡弘芳、佐藤和典、武井宏一、植木ひさよ、小林敬明、小山洋伸、杉山政則、跡見裕：インフリキシマブによる Crohn 病治療の有用性—再手術・患者満足度・医療経済の観点から—。 *日臨外会誌* 69: 3061-3068, 2008.
 11. 柳田 修、森 俊幸、跡見 裕：食道疾患の臨床 update -GERD に対する外科治療。 *臨床消化器内科* 23 : 918-925, 2008.
 12. 阿部展次、杉山政則、跡見裕：臨床医学の展望 2009—肝・胆道・膵外科学。 *日本医事新報* 4430:77-87, 2009.
 13. 阿部展次、竹内弘久、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、杉山政則、跡見裕：ESD 後局所遺残に対する腹腔鏡補助下内視鏡的胃全層部分切除。 *臨床消化器内科* 24:257-262, 2008.
 14. 阿部展次、杉山政則、鈴木 裕、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：膵癌切除例における予後規定因子。 *臨床外科* 64:31-35, 2008.
 15. 阿部展次、杉山政則、鈴木 裕、柳田 修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：各種治療成績からみた十二指腸乳頭部癌の治療方針。 *臨床外科* 63:1551-1555, 2008.
 16. Abe N, Mori T, Takeuchi H, Ueki H, Yanagida O, Masaki T, Sugiyama M, Atomi Y: Successful treatment of early stage gastric cancer by laparoscopy-assisted endoscopic full-thickness resection with lymphadenectomy. *Gastrointest Endosc* 68: 1220-1224, 2008.

17. Abe N, Sugiyama M, Suzuki Y, Yamaguchi T, Mori T, Atomi Y: Preoperative endoscopic pancreatic stenting: a novel prophylactic measure against pancreatic fistula after distal pancreatectomy. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:373-376, 2008.
18. Abe N, Takeuchi H, Ueki H, Matsuoka H, Yanagida O, Masaki T, Mori T, Sugiyama M, Atomi Y: Cholecystectomy by a combined transgastric and transparietal approach using two flexible endoscopes. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 16:25-30, 2009.
19. Abe N, Sugiyama M, Suzuki Y, Yanagida O, Masaki T, Mori T, Atomi Y: Falciform ligament in pancreatoduodenectomy for protection of skeletonized and divided vessels. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 16:184-188, 2009.
20. 松岡弘芳、丹波光子、正木忠彦、武井宏一、佐藤和典、植木ひさよ、小林敬明、小山洋伸、杉山政則、跡見裕：【便失禁の診断と治療】当科における便失禁の治療戦略. *消化器科* 46: 640-643, 2008.
21. 武井宏一、杉山政則、長尾玄、跡見裕、高橋陽子、中村貴枝子：消化器外科領域における SSI 対策 SSI の概略と発生要因. *実践手術看護* 2; 52-57, 2008.
22. Rabl C, Palazzo F, Aoki H, Campos GM¹ (¹Department of Surgery, University of California, San Francisco): Initial laparoscopic access using an optical trocar without pneumoperitoneum is safe and effective in the morbidly obese. *Surgical Innovation* 15(2):126-31. Jun 2008
23. 佐藤和典、杉山政則、森秀明、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：【周産期臨床検査のポイント】各種病態に必要な検査 一般合併症の超音波診断. *周産期医学* 38: 増刊 271-283, 2008.
24. 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：【IPMN、膵嚢胞発癌をめぐる諸問題】IPMN の分類（主膵管型、分枝膵管型）日本と世界の認識を含めて. *肝・胆・膵* 56: 813-818, 2008.
25. 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：【膵切除術の術式選択と手術手技】IPMN に対する膵切除術 幽門輪温存膵頭十二指腸切除術. *消化器外科* 31: 1073-1080, 2008
26. 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：【膵嚢胞性疾患を診る】膵嚢胞性疾患の治療. *消化器内視鏡* 20: 1003-1009, 2008.
27. 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：【がんの切除範囲を考える 診断法とその妥当性】肝外胆管癌の進展度診断と至適切除範囲を考える. *臨床外科* 63: 1207-1214, 2008.
28. 鈴木裕、杉山政則、山口高史、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：IPMN の予後規定因子. *消化器科* 46: 352-357, 2008.

29. 鈴木裕、杉山政則、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：【IPMNにおける「国際ガイドライン」の検証】 IPMN の治療戦略—全国調査より. 胆と膵 30: 209-213, 2008.
30. 鈴木裕、杉山政則、山口高史、阿部展次、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕：【乳頭括約筋機能から治療を見直す】 乳頭括約筋機能異常からみた胆嚢摘出術の適応. 胆と膵 29: 829-832, 2008.
31. 鈴木裕、杉山政則、山口高史、阿部展次、中村健二¹、柳田修、正木忠彦、森俊幸、跡見裕（¹杏林大・医・第三内科）：【スキルアップ ERCP】 ERCP の適応と役割. 消化器内視鏡 20: 1752-1759, 2008.
32. 鈴木裕、杉山政則、乾和郎¹、五十嵐良典²、大原弘隆³、田妻進⁴、辻忠男⁵、宮川宏之⁶、跡見裕（¹藤田保健衛生大学第2教育病院・消化器内科、²東邦大学医療センター大森病院・消化器内科、³名古屋市立大学大学院医学研究科・消化器・代謝内科学、⁴広島大学・総合診療科、⁵さいたま市立病院・消化器内科、⁶札幌厚生病院・第2消化器科）：膵石症治療に関する多施設症例調査. 膵臓 24: 25-33, 2009.
33. 長尾玄、武井宏一、杉山政則、跡見裕、高橋陽子、中村貴枝子：SSI の危険因子と対策の実際 消化器外科領域における SSI 対策. 実践手術看護 2: 55-59, 2008.
34. 山口高史、鈴木裕、阿部展次、森秀明、杉山政則、跡見裕：【胆道癌外科診療を支えるエキスパートテクニック】 体外式超音波のコツ. 臨床外科 63: 595-600, 2008.
35. 山口高史、鈴木裕、阿部展次、杉山政則、跡見裕：【消化器救急】 疾患別にみた消化器救急診療 胆石、急性胆嚢炎. 救急医学 32: 590-592, 2008.
36. 中村貴枝子¹、武井宏一、長尾玄、杉山政則、跡見裕、高橋陽子（¹杏林大学医学部付属病院・手術部）：消化器外科領域における SSI 対策 SSI サーベイランスの活用. 実践手術看護 2: 59-64, 2009.

III. 著書（電子メディアを含む）

1. 杉山政則、鈴木裕、跡見裕：IPMNとMCNの鑑別と手術適応について教えてください. 消化器癌の外科治療 2.肝・胆・膵. 上西紀夫、中尾昭公編. 東京、中外医学社、2008. p. 224-227.
2. Mori T, Abe N, Sugiyama M, Atomi Y: Surgical Treatment of Cystic Tumors of the Pancreas in Beger, Matsuno, Cameron (edts) Disease of the Pancreas Current Surgical Therapy, Berlin, Springer-Verlag, 2008, p849-872.
3. 森 俊幸、跡見 裕 木村泰三：技術認定を目指す 審査基準 共通項目 松本純夫編 動画でわかる腹腔鏡下胆嚢摘出術 基本から技術認定まで. 中山書店、東京、2008, p152-159.
4. 森俊幸、寺島裕夫、跡見裕：消化器内視鏡下手術シリーズ-標準手技を学ぶ 8 腹腔鏡下膵臓摘出術 監修 木村泰三. へるす出版、東京、2008, p1-70.
5. Mori T,Suzuki Y, Sugiyama M, Atomi Y: Choledocholithiasis in Bland, Buchler, Csendes, et al, (edts) General Surgery, London, Springer, 2009, p1061-1074.

6. 森俊幸 杉山政則 跡見裕:胆嚢摘出術 Digestive Surgery Now 4 胆膵外科標準手術 杉山政則担当編集 Medical View、東京、2009、p8-28
7. 阿部展次、杉山政則、跡見裕:画像診断. 専門医のための消化器外科学レビュー2007. 跡見 裕、門田守人、炭山嘉伸 監修. 総合医学社、東京、2008、p,267-271.
8. 松岡弘芳、正木忠彦、杉山政則、跡見 裕、丹波光子:ナーシングケアQ&A 第23巻 消化器外来で必要な検査・処置・治療Q&A 齊田芳久編 東京 総合医学社 2008,p22-27.

IV. その他（報告書、監修、翻訳、学会主催等）

1. 正木忠彦:進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術の根治性に関する比較研究. 厚生労働科学研究費補助金 進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の確立に関する研究 (H18-がん臨床 - 一般 - 013) 平成 20 年度分担研究報告書, 平成 21 年 3 月.
2. 正木忠彦:再発高危険群の大腸がんに対する術後補助療法確立に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 再発高危険群の大腸がんに対する術後補助療法確立に関する研究 (H19-がん臨床 - 一般 - 021) 平成 20 年度総括研究報告書, 平成 21 年 3 月.

外科学教室（呼吸器・甲状腺外科）

I. 口演

1. 輿石義彦, 中里陽子, 吉田勤, 増井一夫, 呉屋朝幸: 肺癌根治手術後合併症と肥満. 日本成人病学会, 東京, 平成 20 年 1 月 12・13 日
2. 武井秀史, 苅田真, 橘啓盛, 増井一夫, 河内利賢, 中里陽子, 長島鎮, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 胸腔内に穿破した縦隔奇形腫の 2 例. 第 78 回城西外科研究会, 調布, 平成 20 年 2 月 21 日.
3. 野上博司: がん治療戦略における漢方製剤. 杏林東洋医学研究会第三回初級講座, 三鷹, 平成 21 年 3 月 12 日
4. 河内利賢, 渡辺俊一, 鈴木健司, 浅村尚生. 肺内神経鞘腫の 1 例. 第 151 回日本肺癌学会関東支部会, 東京, 2008 年 3 月 15 日.
5. R. Garland¹, H. Tsukada, F. Herth², A. Majid¹, C. Reddy¹, A. Ernst¹ (1 Interventional Pulmonology, Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School, Boston, MA² Department of Pulmonary Medicine, Thoraxklinik, Heidelberg, Germany): Bronchoscopy Related Repair Costs in an Active Interventional Pulmonology Program. WBC2008, March 30 - April 2nd, Tokyo
6. 田中良太, 吉田 勤¹, 中里宜正¹ (¹群馬県立がんセンター・呼吸器外科): 胸腔鏡補助下手術に対応したフュージョン手術器具 (NT 剥離鑷子) の開発. 第 62 回手術手技研究会, 東京, ポスターセッション, 平成 20 年 5 月 10 日.
7. 藤田敦, 須田一晴, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 当科における胸腔鏡補助下手術の開胸移行例の検討. 第 62 回手術手技研究会, 東京, 平成 20 年 5 月 10 日.
8. 呉屋朝幸: 外科系専門医に与えられるべき incentive を考える. 第 108 回日本外科学会定期学術集会, 長崎, 特別企画 (5), 平成 20 年 5 月 17 日.
9. 中里宜正, 田中良太¹, 堀越浩幸², 飯島美砂³, 呉屋朝幸 (¹群馬県がんセ 呼吸器外科, ²群馬県がんセ 放射線診断部, ³群馬県がんセ 病院 病理部): 術前 MRI が診断に有用であった肺硬化性血管腫の 1 例. 第 25 回日本呼吸器外科学会, 宇都宮, 平成 20 年 5 月 29 日.
10. 田中穂積, 清水誠一郎², 呉屋朝幸³ (¹公立昭和病院・外科, ²公立昭和病院・病理診断科, ³杏林大・医・外科): 横隔膜上に発生した多胞性中皮嚢胞の 1 例. 第 25 回日本呼吸器外科学会総会, 宇都宮, 平成 20 年 5 月 29 日
11. 関恵理奈, 青山克彦¹, 植田守¹, 田川公平¹, 浅沼晃三¹, 芳賀孝之² (¹東埼玉病院呼吸器外科, ²東埼玉病院検査科): 当院で経験した肺外結核の 4 症例. 第 25 回日本呼吸器外科学会総会. 宇都宮. 2008 年 5 月 29-30 日.
12. 呉屋朝幸: これだけはやってはいけない肺葉切除術. 第 25 回日本呼吸器外科学会総会イブニングセミナー, 宇都宮, 平成 20 年 5 月 29 日.
13. 武井秀史: 肺癌の診断から再発治療まで ー骨転移治療の最新知見も含めてー. 第 25 回日本呼吸器外科学会総会 (アフタヌーンセミナー), 宇都宮, 平成 20 年 5 月 29 日.
14. 田中良太, 中里宜正¹, 関 恵理奈¹, 呉屋朝幸 (¹群馬県立がんセンター・呼吸器外科): MRI 装置の最新技術を利用した術前診断とその臨床応用の可能性. 第 25 回日本呼吸器外科学会総会, 宇都宮, 一般口演, 平成 20 年 5 月 30 日.

15. 田中良太, 中里宜正¹, 関 恵理奈¹, 呉屋朝幸² (¹群馬県立がんセンター・呼吸器外科, ²杏林大学外科): 新しい自動縫合器(カーブドカッター)を用いた肺部分切除術. 第25回日本呼吸器外科学会総会, 宇都宮, 一般口演, 平成20年5月30日.
16. 柴田英克¹, 森毅¹, 呉屋朝幸², 高浪巖³, 鈴木隆⁴, 堀尾裕俊⁵, 梶政洋⁶, 野守裕明¹ (熊本大学呼吸器外科¹, 杏林大学外科², 帝京大学医学部外科³, 昭和大学藤が丘病院胸部心臓血管外科⁴, 都立駒込病院呼吸器外科⁵, 東京都済生会中央病院呼吸器外科⁶): 肺腺癌における Acetate PET の有用性の検討: 多施設共同研究 第25回日本呼吸器外科学会総会, 宇都宮, 平成20年5月29-31日
17. 田中穂積¹, 清水誠一郎², 呉屋朝幸³ (¹公立昭和病院・外科, ²公立昭和病院・病理診断科, ³杏林大・医・外科): 同一肺葉内に同時に認めた三多重発癌の1例. 第25回日本呼吸器外科学会総会, 宇都宮, 平成20年5月30日
18. 呉屋朝幸: 優れた呼吸器外科医の育成をめざして. 第25回日本呼吸器外科学会総会, 宇都宮, 平成20年5月30日.
19. 武井秀史, 吉田勤, 橘啓盛, 苅田真, 増井一夫, 中里陽子, 古屋敷剛, 輿石義彦, 呉屋朝幸: Vessel Sealing System(LigaSure TM)を用いた縦隔リンパ節郭清の工夫. 第25回日本呼吸器外科学会総会, 宇都宮, 平成20年5月30日.
20. 都島由紀雄, 渡邊俊一¹, 浅村尚生¹ (¹国立がんセンター中央病院・呼吸器外科): Inflammatory Myofibroblastic Tumor (IMT)切除例の検討. 第146回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 横浜, 平成20年6月7日.
21. 輿石義彦, 中里陽子, 武井秀史, 長島鎮, 古屋敷剛, 苅田真, 橘啓盛, 吉田勤, 呉屋朝幸: 自然気胸の標準的治療を探る: 治療後再発率からの検討. 第33回日本外科系連合学会学術集会, 浦安, 平成20年6月12日
22. 田中良太 (群馬県立がんセンター・呼吸器外科): 肺がんの発がんから診断・治療まで一肺がんの生物学的な多様性にどう対応するべきか!?. 群馬県臨床衛生検査技師会病理細胞診研究班例会, 群馬, 平成20年6月12日.
23. 古屋敷剛, 吉田勤, 増井一夫, 武井秀史, 長島 鎮, 苅田 真, 橘 啓盛, 中里陽子, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 当施設における気道病変に対するレーザー治療の検討. 第33回日本外科系連合学会学術集会, 千葉県, 2008年6月12日
24. 吉野麗子¹, 中里宜正, 田中良太², 飯島美砂², 湊浩一¹ (¹群馬県がんセ 呼吸器内科, ²群馬県がんセ呼吸器外科): 当院における超音波気管支鏡ガイド下経気管支針吸引生検(EBUS-TBNA)と迅速細胞診併用の検討. 第31回日本呼内視鏡学会総会, 大阪, 平成20年6月13日
25. 喜多秀文, 白石裕治¹, 葛城直哉¹, 砥石政幸¹, 恩田貴人¹ (¹複十字病院呼吸器外科): Urtraflex ステンント挿入後気管分岐部が再狭窄した症例に対し Dumon Y ステンントを挿入した1例. 第31回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 大阪, 平成20年6月13日
26. 長島鎮, 吉田勤, 橘啓盛, 増井一夫, 苅田真, 中里陽子, 古屋敷剛, 武井秀史, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 当科における EBUS-TBNA の現況. 第33回日本外科系連合学会学術集会, 浦安, 平成20年6月12-13日.
27. 田中良太: 肺腺癌の臨床像—小型肺癌のMRI画像—. 第34回肺癌診断会および画像診断セミナー, 日光, 平成20年6月28日.

28. 田中穂積,三木健司,小林薫,吉敷智和,遠藤大昌,竹中芳治,小林隆,森田恒治,照屋正則:突発性食道破裂の3例.第63回日本消化器外科学会総会,札幌,平成20年7月16日
29. 呉屋朝幸(特別講演):日本の肺癌治療成績は向上したかー1994年および1999年外科切除例の肺癌全国登録dataから検討.第41回日本胸部外科学会九州地方会,熊本,平成20年7月24日.
30. 柴田英克、大場康臣¹、小林広典¹、森毅¹、野守裕明¹(¹熊本大学呼吸器外科):肺野小型病変の切除におけるリピオドールマーキングの有用性の検討 第31会気管支内視鏡学会九州地方会、嬉野市、平成20年8月23日
31. 橘啓盛、武井秀史、河内利賢、苅田真、増井一夫、中里陽子、古屋敷剛、長島鎮、輿石義彦、呉屋朝幸:当院における若年者気胸(30歳以下)術後再発の現状.第12回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会,東京,平成20年9月5日.
32. 柴田英克、大場康臣¹、小林広典¹、森毅¹、野守裕明¹(¹熊本大学呼吸器外科):肺野小型病変の切除におけるリピオドールマーキングの有用性の検討.第18会九州内視鏡下外科手術研究会、熊本市、平成20年9月5日
33. 中里宜正,田中良太¹,吉田勤¹,堀越浩幸²,飯島美砂³,呉屋朝幸(¹群馬県がんセ呼吸器外科,²群馬県がんセ放射線診断部,³群馬県がんセ病院病理部):自然気胸を初発とした肺癌に対する胸腔鏡下癒着術の一例.第12回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会,三鷹・東京,平成20年9月5日.
34. 松脇りえ,武井秀史,橘啓盛,増井一夫,苅田真,中里陽子,古屋敷剛,長島鎮,輿石義彦,呉屋朝幸:特発性血気胸に対する胸腔鏡手術,第77回城西外科研究会,調布,平成20年9月13日.
35. 南優子¹,坂下信吾²,中里宜正,野口雅之¹(¹筑波大人間総合研究科,²筑波大病理部):多発か?転移か?複数の腫瘍を有する肺腺癌の鑑別に有効な診断方法は?.第13回日本外科病理学術集会,東京,平成20年9月27日.
36. 吉田勤,輿石義彦,橘啓盛,増井一夫,苅田真,中里陽子,古屋敷剛,田中良太¹,武井秀史,長島鎮,呉屋朝幸(¹群馬県立がんセンター呼吸器外科):PACSシステムを利用した肺癌患者におけるCT画素値の解析.第61回日本胸部外科学会定期学術集会,福岡,平成20年10月12日-15日
37. 中里陽子、古屋敷剛、吉田勤、増井一夫、輿石義彦、松本裕文、菅間博、坂本穆彦、呉屋朝幸:コロイドの粘液変性を示す濾胞腺腫の1例.第41回日本甲状腺外科学会、東京、平成20年10月16-17日
38. Ishii A¹, Kano J¹, Minami Y¹, Kobayashi H¹, Nakazato Y, Noguchi M¹ (¹Dept. Path., Grad. Sch. Comprehensive Human Sci., Univ. Tsubata): Comparison of the expression profiles between small lung adenocarcinomas showing favorable and unfavorable prognoses. 67th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Nagoya, Oct 28, 2008.
39. Tsukada H, Ernst A¹, Gangadharan S¹, Ashiku S¹, Garland R¹, Litmanovich D², DeCamp MM¹(¹Chest Disease Center, Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School², Radiology, Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School):EXPERIMENTAL TRACHEAL REPLACEMENT WITH A SILICON STENTED FRESH AORTIC ALLOGRAFT.Chest 2008, Philadelphia, October 25-30, 2008.
40. 都島由紀雄,渡邊俊一¹,栢木直文²,蔦幸治²,浅村尚生¹,(¹国立がんセンター中央病院・呼吸器外科,²同臨床検査部病理):中枢型と末梢型原発性肺扁平上皮癌は臨床的に異なる疾患か?第49回日本肺癌学会総会,小倉,一般演題(示説),平成20年11月3日.

41. 呉屋朝幸：肺腺癌の診断－日常診療のノウハウ－. 第10回青梅呼吸器勉強会, 青梅, 平成20年11月6日.
42. 橘啓盛, 河内利賢, 増井一夫, 苅田真, 中里陽子, 古屋敷剛, 武井秀史, 長島鎮, 輿石義彦, 呉屋朝幸：小細胞肺癌切除例の検討. 第49回日本肺癌学会総会, 北九州, 平成20年11月13日.
43. 田中良太, 堀越浩幸², 吉田 勤¹, 中里宜正¹, 鈴木邦明³, 佐藤浩二³, 飯島美砂⁴, 湊 浩一³(群馬県立がんセンター・¹呼吸器外科, ²放射線診断部, ³呼吸器内科, ⁴病理部)：MRI 拡散強調画像による小型肺腺癌の特性評価. 第49回日本肺癌学会総会, 小倉, 一般演題(口演), 平成20年11月13日.
44. 柴田英克、大場康臣¹、吉本健太郎¹、小林宏典¹、池田公英¹、岩谷和法¹、森毅¹、野守裕明¹、呉屋朝幸、高浪巖²、小泉潔³、鈴木隆⁴、梶政洋⁵、堀尾裕俊⁶(¹熊本大学呼吸器外科、²帝京大学医学部外科、³日本医科大学呼吸器外科、⁴昭和大学藤が丘病院胸部心臓外科、⁵済生会中央病院呼吸器外科、⁶都立駒込病院呼吸器外科)：肺腺癌のPET 画像におけるFDG と Acetate の集積の特徴. 第49回日本肺癌学会総会、北九州市、平成20年11月13-14日
45. 河内利賢, 中里陽子, 橘 啓盛, 増井一夫, 苅田 真, 武井秀史, 輿石義彦, 呉屋朝幸. 非小細胞肺癌手術症例における開胸時洗浄細胞診(PLC)の臨床的意義. 第49回日本肺癌学会総会, 小倉, 2008年11月13-14日.
46. 橘啓盛, 河内利賢, 増井一夫, 苅田真, 中里陽子, 古屋敷剛, 武井秀史, 長島鎮, 輿石義彦, 呉屋朝幸, 小細胞肺癌切除例の検討, 第49回日本肺癌学会総会, 小倉, 2008年11月13-14日.
47. 田中穂積, 天野雅子¹, 鈴木道明¹, 青木茂行², 呉屋朝幸(¹公立昭和病院・外科, ²公立昭和病院・呼吸器科)：術後遠隔転移を来した肺原発多形癌の2手術例. 第49回日本肺癌学会総会, 北九州, 平成20年11月13日
48. 吉田勤, 中里宜正¹, 飯島美砂², 田中良太¹(¹群馬県立がんセンター呼吸器外科, ²群馬県立がんセンター病理部)：転移性縦隔腫瘍との鑑別が困難であった縦隔血管腫の1例. 第49回日本肺癌学会総会, 北九州, 平成20年11月13日-14日
49. 中里宜正, 南優子¹, 小林弘美¹, 穴見洋一¹, 野口雅之¹, 蔦幸治², 呉屋朝幸(¹筑波大人間総合研究科, ²国立がんセンター中央病院 臨床検査部)：核グレード(腫大)を利用した小型肺腺癌の悪性度評価. 第49回日本肺癌学会総会, 小倉, 平成20年11月14日.
50. 小林弘美, 南優子¹, 穴見洋一¹, 近藤譲¹, 中里宜正, 野口雅之¹, 林真一郎², 蔦幸治³(¹筑波大人間総合研究科, ²国立がんセンター中央病院 臨床検査部, ³佐賀大学医学部呼吸器内科)：肺腺癌におけるGA733family 遺伝子の発現. 第49回日本肺癌学会総会, 小倉, 平成20年11月14日.
51. Nakazato Y, Tsuchida S³, Iijima M¹, Yoshida T², Tanaka R², Goya T, and Kojima M¹(¹Division of Diagnostic Pathology, ²Division of Thoracic Surgery, ³Department of Clinical Laboratory Gunma Prefectural Cancer Center, Gunma, Japan)：Nuclear Morphometry Using NanoZoomerOR Digital Pathology for Cytologic Diagnosis in Non-Keratinized Squamous Cell Carcinoma of the Lung. 第15回 日本-タイ国際細胞診ワークショップ・ジョイントカンファレンス, 東京, 平成20年11月15日.
52. 都島由紀雄¹, 蔦幸治², 澁木康雄², 三浦幸子², 喜納千尋², 栃木直文², 前島亜希子², 笹島ゆう子²(¹国立がんセンター中央病院・呼吸器外科, ²同臨床検査部病理)：肺神経内分泌腫瘍の組織診及び細胞診におけるhASH1の有用性の検討. 第47回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 一般演題(示説), 平成20年11月15日.
53. 関恵理奈, 青山克彦¹, 植田守¹, 田川公平¹, 浅沼晃三¹, 芳賀孝之²(¹東埼玉病院呼吸器外科, ²東埼玉

病院検査科):肺癌術後断端にサルコイド反応を認めた1症例. 第70回日本臨床外科学会総会. 東京. 2008年11月27-29日.

54. 武井秀史, 橘啓盛, 増井一夫, 苅田真, 中里陽子, 古屋敷剛, 長島鎮, 輿石義彦, 呉屋朝幸: Vessel Sealing System (LigaSure TM)を用いた肺癌手術の工夫. 第70回日本臨床外科学会総会, 横浜, 平成20年11月27日.

55. 柴田英克¹、大場康臣¹、小林広典¹、森毅¹、野守裕明¹、呉屋朝幸(熊本大学医学部附属病院呼吸器外科¹): 全麻手術後、声帯直下に発生した膜様癒痕狭窄が自然消退した1例 第70回日本臨床外科学会総会、東京、平成20年11月27-29日

56. 中里陽子、武井秀史、橘 啓成、苅田 真、増井一夫、古屋敷 剛、長島鎮、輿石義彦、呉屋朝幸: 女性外科医が長く仕事を続けられるためには何が必要か?. 第70回日本臨床外科学会、東京、平成20年11月27-29日

57. 喜多秀文¹、輿石義彦²、砥石正幸¹、増井一夫、苅田真、橘啓盛、中里陽子、古屋敷剛、長島鎮、武井秀史、須田一晴、藤田敦、渡辺健一³、呉屋朝幸(¹複十字病院呼吸器外科、²長岡中央総合病院呼吸器外科、³相模原共同病院呼吸器外科): 原発性肺癌手術における周術期IL-6の変動からみたVATSの有用性の検討. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成20年11月29日

58. Litmanovich D¹, Tsukada H, Ernst A², Decamp MM², Garland R², Boiselle P¹(¹Radiology, Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School, ²Chest Disease Center, Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School): Tracheal Replacement Graft in an Animal Model: Preliminary MDCT findings. RSNA2008, Chicago, Nov. 30-Dec. 5, 2008.

59. 増井一夫, 武井秀史, 橘啓盛, 河内利賢, 苅田真, 中里陽子, 古屋敷剛, 長島鎮, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 術前診断が困難だった右肺門 Casleman's disease の一例. 第8回世田谷区医師会医学会, 東京, 平成20年12月6日

60. Goya T: Lung cancer in Japan. 中日肺癌学術交流研究会, 中国(昆明), 平成20年12月9日.

61. Takei H: Management of small size lung adenocarcinoma. 中日肺癌学術交流研究会, 中国(昆明), 平成20年12月9日.

62. 河内利賢, 増井一夫, 中里陽子, 橘啓盛, 苅田真, 武井秀史, 長島鎮, 輿石義彦, 呉屋朝幸. 女性に発生した肺門原発肺癌(腺癌)の一例. 呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 平成20年12月13日

63. 増井一夫, 輿石義彦, 橘啓盛, 河内利賢, 苅田真, 中里陽子, 武井秀史, 長島鎮, 呉屋朝幸: 繰り返し気胸を発症したランゲルハンス細胞組織球症の一例. 第811回外科集談会, 東京, 平成20年12月20日

64. 田中良太: 剥離鉗子とセッションを融合した新しい器具の開発と応用. 第18回日本呼吸器外科医会, 福島, 口演, 平成21年2月7日.

65. 藤田敦, 須田一晴: 当科における胸腔鏡補助下肺葉切除術の開胸移行例の検討. 第11回長岡肺癌研究会, 長岡, 平成21年2月18日.

66. 田中良太: 肺がんの診断と治療. 平成20年度第3回肺がん検診細胞診従事者講習会, 群馬, 平成21年3月6日.

67. 橘啓盛, 長島鎮, 河内利賢, 苅田真, 増井一夫, 中里陽子, 武井秀史, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 気管支分岐異常を伴い不全分葉部に発生した肺癌に対し区域切除を施行した1例. 第149回日本胸部外科学会関東

甲信越地方会, 東京, 平成 21 年 3 月 14 日.

II. 論文

1. Ikehara M, Saito H, Yamada K, Oshita F, Noda K, Nakayama H, Masui K, Kameda Y, Komase Y, Miyazawa T: Prognosis of small adenocarcinoma of the lung based on thin-section computed tomography and pathological preparations. *J Comput Assist Tomogr* 32: 426-431, 2008.
2. Tanaka R, Horikoshi H¹, Nakazato Y², Seki E², Minato K³, Iijima M⁴, Kojima M⁴ & Goya T⁵ (Departments of ¹Diagnostic Radiology, ²Thoracic Surgery, ³Chemotherapy, ⁴Pathology, and ⁵Department of Surgery, Institute of Medical Sciences, Kyorin University). Magnetic Resonance Imaging in Peripheral Lung Adenocarcinoma: Correlation With Histopathologic Features. *J Thorac Imaging* 24:4-9, 2009.
3. 田中良太, 堀越浩幸², 吉田 勤¹, 中里宜正¹, 鈴木邦明³, 佐藤浩二³, 飯島美砂⁴, 呉屋朝幸⁵, 湊 浩一³ (群馬県立がんセンター・¹呼吸器外科,²放射線診断部,³呼吸器内科,⁴病理部,⁵杏林大学外科): 肺野末梢の小型肺腺癌に対する MRI 拡散強調画像による悪性度の評価. *肺癌* 49(1): 17-24, 2009.
4. 斉藤光徳、青野哲也、岡田洋次郎: 巨大甲状腺濾胞癌の 1 切除例. *日臨外会誌* 69: 2774 - 2777, 2008
5. 斉藤光徳、青野哲也、岡田洋次郎ほか: 急速に発育進行した巨大乳腺間質肉腫の 1 例. *日臨外会誌* 69: 3079 - 3083, 2008
6. Fujita A, Kameda Y¹, Goya T(¹Kanagawa Cancer Center): Clinicopathology of stromal invasion in lung adenocarcinoma. *Pathology International* 59: 1-6, 2009.
7. Tsukada H, Matsuda S¹, Inoue H², Ikada Y³, Osada H².(¹ Gunze Ltd Research and Development Center. ² St. Marianna University School of Medicine, ³ Nara Medical College): Comparison of bioabsorbable materials for use in artificial tracheal grafts. *Interact Cardiovasc Thorac Surg* 8(2):225-9. Epub 2008 Nov 4. 2009.
8. Tsukada H, Inoue H¹, Osada H¹.(¹St. Marianna University School of Medicine): Re-epithelialization after laser therapy of a stenotic artificial tracheal graft: a pilot experimental study. *Surg Today* 38(7):672-4. Epub 2008 Jul 9, 2008.
9. Nakazato Y, Tanaka R¹, Iijima M², Kojima M², Yoshizumi M³, Kato M³, Kimura H⁴, Kozawa K³, and Goya T (Division of ¹Thoracic Surgery, and ²Division of Diagnostic Pathology, Gunma Prefectural Cancer Center, Japan, ³Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, Gunma, Japan, ⁴Infectious Disease Surveillance Center, National Institute of Infectious Diseases, Tokyo, Japan). Differential diagnosis of primary versus metastatic pulmonary adenocarcinomas using gene mutation analyses: a case report. *J Thorac Oncol*. 3(8):931-4, 2008.
10. Kawachi R, Takei H, Furuyashiki G, Koshi-Ishi Y, Goya T. A malignant peripheral nerve sheath tumor of the mediastinum in a patient with neurofibromatosis type 1: report of a case. *Surg Today* 38:945-7, 2008.
11. Kawachi R, Watanabe S, Suzuki K, Asamura H. Clinical application of costal coaptation pins made of hydroxyapatite and poly-L-lactide composite for posterolateral thoracotomy. *Eur J Cardiothorac Surg* 34(3):510-3, 2008.
12. Kawachi R, Takei H, Koshi-Ishi Y, Goya T. Novel method for bulla detection with video-assisted thoracoscopic surgery in patients with spontaneous pneumothorax. *Eur J Cardiothorac Surg* 34:212-3, 2008.
13. Kawaguchi T, Watanabe S, Kawachi R, Suzuki K, Asamura H. The impact of residual tumor morphology on

prognosis, recurrence, and fistula formation after lung cancer resection. *J Thorac Oncol* 3:599-603, 2008.

14. 河内利賢, 浅村尚生. 【肺癌 診療最前線 がん対策基本法で何が変わった】 外科治療 標準的外科治療. *Modern Physician*. 28: 856-861, 2008.

15. Tsushima Y, Tateishi U¹, Uno T⁴, Takeuchi M⁴, Terauchi T³, Goya T⁵, Edmund E.Kim⁶ (Departments of ¹Thoracic Surgery, ²Diagnostic Radiology, ³Cancer Screening, National Cancer Center Hospital, Japan. ⁴Division of Biostatistics, Kitazato University Graduate School, Japan. ⁵Department of Thoracic Surgery, Kyorin University Hospital, Japan. ⁶Division of Diagnostic Imaging, University of Texas, MD Anderson Cancer Center, USA.). Diagnostic performance of PET/CT in differentiation of malignant and benign non-solid solitary pulmonary nodules. *Ann Nucl Med* 22:571-577, 2009.

16. Seki E, Aoyama K, Ueda M, Haga T¹, Nakazato Y², Iijima M³, Kojima M³ & Tanaka R² (Division of Thoracic Surgery, and ¹Division of Diagnostic Pathology, Higashisaitama Hospital, ²Division of Thoracic Surgery, and ³Division of Diagnostic Pathology, Gunma Prefectural Cancer Center): Mucinous Adenocarcinoma of the Thymus: A Case Report. *Journal of Thoracic Oncology* 3:935-937, 2008.

17. 武井秀史, 呉屋朝幸: 2004年版 WHO 新病理分類と病期分類について. *Mebio* 25: 26-34, 2008.

18. 武井秀史, 呉屋朝幸: 中皮腫治療の現状. *臨床検査* 52: 1033-1038, 2008.

III. 著書

1. 河内利賢, 浅村尚生. 【知っておきたい肺癌手術の代表的術式】 肺葉切除と系統的リンパ節郭清(標準術式). *呼吸器ケア* 第6巻3号, 大阪, MC メディカ出版, 2008年, Page304-308.

2. 河内利賢, 浅村尚生. 【肺癌 基礎・臨床研究のアップデート】 臨床研究 治療 外科治療 肺癌の手術適応(解説/特集). *日本臨床* 66巻増刊号6 肺癌, 日本臨床社, 大阪, 2008, Page393-397(2008.08)

3. 河内利賢, 浅村尚生. 【呼吸器疾患診療マニュアル】 呼吸器疾患の治療 縦隔腫瘍. *日本医師会雑誌* 特別号第137巻特別号(2) 2008年10月15日発行. 日本医師会, 東京, 2008p.S260-S262.

4. 河内利賢, 呉屋朝幸. 【呼吸器症候群(第2版) その他の呼吸器疾患を含めて】 胸膜疾患 気胸. 別冊 *日本臨床* 呼吸器症候群 III, No.10. 日本臨床社, 大阪, 2009 p.348-351.

5. Asamura H, Kawachi R. SURGERY FOR SMALL LUNG CANCER: Indication and outcome. 2009年3月8日発行, *ロンドン informa healthcare*, 2009, p.170-176.

6. 都島由紀雄, 浅村尚生: 肺癌手術療法. 内科. 東京, 南江堂, 2009, 237-240

7. 都島由紀雄, 渡邊俊一: 中枢型肺腫瘍に対する外科治療の現状と問題点. 外科治療. 大阪, 永井書店, 2009, p303-306

8. 都島由紀雄, 浅村尚生: 肺がんの病期分類. *インフォームド・コンセントのための図説シリーズ* 肺癌. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2009, p.50-53

外科学教室（乳腺外科）

I. 口演

1. 井本滋：現在（いま）、リンパ節郭清を考える. 第 62 回手術手技研究会, 東京, 平成 20 年 5 月 10 日.
2. 井本滋：乳癌外科治療の今とこれから. 第 108 回日本外科学会定期学術集会, 長崎, 平成 20 年 5 月 15 日.
3. 井本滋：乳癌における低侵襲治療の現状. 第 33 回日本外科系連合学会, 幕張, 平成 20 年 6 月 12 日.
4. Sakemura N, Nakatsura T, Wada N, Imoto S: Response to primary systemic chemotherapy and survival in patients with triple negative breast cancer. Second JCA-AACR Special Joint Conference, The Latest Advances in Breast Cancer Research, Awaji island, July 14 -16, 2008.
5. Sakemura N, Nakatsura T, Wada N, Shimada T, Imoto S: Response to primary systemic chemotherapy and prognosis in triple negative breast cancer. 2008 ASCO Breast Cancer Symposium, Washington, Sep. 5-7, 2008.
6. 伊東大樹, 井本滋, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 田崎英里, 酒村智子：乳房内局所再発の 1 例. 第 10 回 SNNS 研究会 秋田, 平成 20 年 9 月 20 日.
7. 伊美建太郎, 井本滋, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 田崎英里, 酒村智子, 呉屋朝幸: 乳癌骨転移症例における ICTP モニタリングの意義に関する検討. 第 16 回日本乳癌学会学術総会, 大阪, 平成 20 年 9 月 26-27 日.
8. 酒村智子, 和田徳昭¹, 嶋田俊之¹, 石原幹也¹, 山内稚佐子², 藤井誠志², 長谷部孝裕³, 井本滋（国立がんセ・東・¹乳腺科, ²同病理, 国立がんセ・中央・³病理）：Triple Negative 乳癌の術前化学療法と予後. 第 16 回日本乳癌学会総会, 大阪, 平成 20 年 9 月 26-27 日.
9. 伊坂泰嗣, 田崎英里, 伊美建太郎, 伊東大樹, 酒村智子, 菅間博¹, 呉屋朝幸, 井本滋（¹杏林大・医・病理）：トリプルネガティブ乳がん 145 例の検討. 第 16 回日本乳癌学会学術総会, 大阪, 平成 20 年 9 月 26-27 日.
10. 酒村智子, 西村美子¹, 黒沼俊光¹, 井本滋, 土原昌巳¹, 林恵美子¹, 白川博文¹, 齊藤由実¹, 堀江和峰¹, 下村真菜美¹, 吉川聡明¹, 榎田光宏¹, 中面哲也¹（国立がんセ・東・¹がん治療開発）：大腸癌肝転移および乳癌患者における術前化学療法による抗腫瘍免疫反応. 第 67 回日本癌学会総会, 名古屋, 平成 20 年 10 月 28-30 日.
11. 伊坂泰嗣, 田崎英里, 伊美建太郎, 伊東大樹, 酒村智子, 井本滋：当院におけるセンチネルリンパ節生検の現状. 第 3 回武蔵野乳腺研究会, 川越, 平成 20 年 10 月 18 日.
12. 酒村智子, 井本滋, 嶋田俊之¹, 和田徳昭¹（国立がんセ・東・¹乳腺科）：非浸潤性乳管癌における乳房温存手術の可能性. 第 46 回日本癌治療学会, 名古屋, 平成 20 年 10 月 30 日-11 月 1 日.
13. 井本滋, 和田徳昭¹（国立がんセ・東・¹乳腺科）：早期乳癌における非郭清と非切除治療の現状と課題. 第 46 回日本癌治療学会, 名古屋, 平成 20 年 10 月 30 日-11 月 1 日.

14. 伊美建太郎, 井本滋, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 田崎英里, 酒村智子, 菅間博¹, (杏林大・医・¹病理) : 腋窩に発生した pleomorphic sarcoma の 1 例. 第 70 回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成 20 年 11 月 27-29 日.
15. Imoto S, Wada N, Sakemura N, Murata Y, Hasebe T: Feasibility study on radiofrequency ablation therapy followed by partial mastectomy for stage I breast cancer patients. 31th Annual San Antonio Breast Cancer Symposium. San Antonio, Dec. 13, 2008.
16. 伊坂泰嗣, 田崎英里, 伊美建太郎, 伊東大樹, 酒村智子, 藤原正親¹, 菅間博¹, 井本滋 (杏林大・医・病理) : 筋上皮成分が胸壁転移をきたした乳腺悪性Adenomyoepitheliomaの1例. 第5回日本乳癌学会関東地方会, 大宮, 平成20年12月13日.
17. 伊東大樹:HR, HER-2 陽性に基づく症例検討. 多摩乳癌懇話会, 立川, 平成 21 年 3 月 7 日.

II. 論文

1. 菅間博¹, 中山英里, 宍戸-原由紀子¹ (¹杏林大・医・病理) : 癌前駆病変としての乳管内増殖性病変-WHO分類の立場からの解説-. 診断病理 25:57-63, 2008.
2. 酒村智子, 井本滋: 乳癌の予後予測因子—The Nottingham prognostic index : 臨床外科 64:11-14, 2009.
3. 井本滋, 伊東大樹, 伊美建太郎, 伊坂泰嗣, 中山英里, 酒村智子: 乳癌におけるセンチネルリンパ節同定法. 手術 62 : 413-415, 2008.
4. 井本滋, 伊東大樹, 伊美建太郎, 伊坂泰嗣, 中山英里, 酒村智子: 乳癌治療における SNNS の問題点. 外科 70 : 396-399, 2008.
5. 野村久祥¹, 川上英泰¹, 永井茂¹, 篠原高雄¹, 井本滋, 伊坂泰嗣 (¹杏林大・医・薬剤) : 乳がん FEC 療法, AC 療法における悪心・嘔吐の予測因子に関する研究. 癌と化学療法 35 : 941-946, 2008.
6. 霞富士雄¹, 野口昌邦², 井本滋, 尾浦正二³ (¹順天堂大・医・乳腺, ²金沢大・医・乳腺, ³和歌山大・医・第一外科) : 乳癌診療の現況と今後の展望. 日医会誌 137: 641-656, 2008.
7. 長谷部孝裕¹, 井本滋 (¹国立がんセ・中央・病理) : リンパ節転移癌診断. 病理と臨床 26 : 1066-1072, 2008.
8. Kurosumi M, Takatsuka Y, Watanabe T, Imoto S, Inaji H, Tsuda H, Akiyama F, Sakamoto G, Ikeda T, Noguchi S: Histopathological assessment of anastrozole and tamoxifen as preoperative (neoadjuvant) treatment in postmenopausal Japanese women with hormone receptor-positive breast cancer in the PROACT trial. J Cancer Res Clin Oncol 134:715-722, 2008.
9. Wada N, Imoto S: Clinical evidence of breast cancer micrometastases in the era of sentinel node biopsy. Int J Clin Oncol 13:24-32, 2008.
10. Tanaka K, Imoto S, Wada N, Sakemura N, Hasebe T: Invasive apocrine carcinoma of the breast: clinicopathologic features of 57 cases. Breast J 14:164-168, 2008.
11. Hasebe T, Yamauchi C, Iwasaki M, Ishii GI, Wada N, Imoto S: Grading system for lymph vessel tumor emboli for prediction of the outcome of invasive ductal carcinoma of the

breast. Hum Pathol 39:427-436, 2008.

12. Tokuda Y, Tajima T, Narabayashi M, Takeyama K, Watanabe T, Fukutomi T, Chou T, Sano M, Igarashi T, Sasaki Y, Ogura M, Miura S, Okamoto S, Ogita M, Kasai M, Kobayashi T, Fukuda H, Takashima S, Tobinai K; Autologous Bone Marrow Transplantation Study Group; Breast Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG): Phase III study to evaluate the use of high-dose chemotherapy as consolidation of treatment for high-risk postoperative breast cancer: Japan Clinical Oncology Group study, JCOG 9208. Cancer Sci 99:145-151, 2008.

13. Hasebe T, Imoto S, Yokose T, Ishii G, Iwasaki M, Wada N: Histopathologic factors significantly associated with initial organ-specific metastasis by invasive ductal carcinoma of the breast: a prospective study. Hum Pathol 39: 681-693, 2008.

14. Hara E, Matsuoka Y, Hakamata Y, Nagamine M, Inagaki M, Imoto S, Murakami K, Kim Y, Uchitomi Y. Hippocampal and amygdalar volumes in breast cancer survivors with posttraumatic stress disorder. J Neuropsychiatry Clin Neurosci. 20:302-308, 2008.

15. Imoto S, Wada N, Sakemura N, Hasebe T, Murata Y: Feasibility study on radiofrequency ablation followed by partial mastectomy for stage I breast cancer patients. Breast 18:130-134, 2009.

III. 著書

1. 井本 滋: センチネルリンパ節生検. これからの乳癌診療, 福田 護, 池田 正, 佐伯 俊昭, 鹿間 直人編. 東京, 金原出版, 2008. p. 31-34.

IV. その他

1. 井本滋: 乳がんに対する機能温存療法の開発 (分担研究報告). 厚生労働省科学研究費補助金第3次対がん総合戦略研究事業「QOLの向上をめざしたがん治療法の開発研究」に関する研究 平成20年度総括・分担研究報告書 p. 16-17.

小児外科学教室

I. 口演

1. 吉田史子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、渡辺佳子：低出生体重児の限局性腸管穿孔ならびに壊死性腸炎穿孔の検討.第45回日本小児外科学会学術集会、つくば、平成20年5月28日
2. 浮山越史、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、渡辺佳子、吉田史子：胆道閉鎖症と鑑別が困難であった黄疸症例における門脈/動脈面積比. 第45回日本小児外科学会学術集会、つくば、平成20年5月29日
3. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、吉田史子：腫瘍性病変との鑑別を要した陰嚢腫瘍の3例. 第45回日本小児外科学会学術集会、つくば、平成20年5月29日
4. 日本小児外科学会小児救急検討委員会：脇坂宗親、黒田達夫、浮山越史、清水法男、轟友光、西島英治、上野滋：「小児救急医療に関するアンケート」結果報告. 第45回日本小児外科学会学術集会、つくば、平成20年5月30日
5. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、吉田史子：気管軟化症患者における気管カニューレ抜管事故の経験. 第102回東京小児外科学研究会、東京、平成20年6月10日
6. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、吉田史子：ラウンドテーブルディスカッション「膣欠損症に対する手術」Frank法で治療した機能性子宮を有する下部膣欠損症の2例.第33回日本外科系連合学会学術集会、千葉、平成20年6月12日.
7. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、吉田史子：ワークショップ「小児包茎の診療について」小児包茎系に対する包皮外板環状切開術.第17回日本小児泌尿器科学会総会、高松、平成20年7月17日
8. 浮山越史、伊藤泰雄、葦澤融司、渡辺佳子、吉田史子：経尿道的尿管瘤切開術後の膀胱尿管逆流が自然軽快した1例.第17回日本小児泌尿器科学会総会、高松、平成20年7月17日
9. 吉田史子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、渡辺佳子：小児外傷性脾損傷の診療における超音波検査の位置づけ. 第22回日本小児救急医学会、奈良、平成20年6月20日
10. 小児救急医学会教育研修委員会：村田佑二、山田至康、有吉孝一、浮山越史、白石裕子、日沼千尋、土岐篤史、神園淳司、植田育也、黒田達夫、荒木尚、我那覇仁、上村克徳：シンポジウム「小児救急医教育をめぐる諸問題について」当学会における教育研修目標作成にむけて. 第22回日本小児救急医学会、奈良、平成20年6月20日
11. 日本小児外科学会小児救急検討委員会：上野滋、平川均、檜友也、猪口貞樹、黒田達夫、脇坂宗親、浮山越史、清水法男、轟友光、西島英治：シンポジウム「小児医療グランドデザインの中における小児3次救急の問題点とその対策—小児3次救急を誰がどのように担っていくか？」小児3次救急における小児外科医の役割—中核病院での診療実績と学会アンケート結果から. 第22回日本小児救急医学会、奈良、平成20年6月20日
12. Watanabe Y, Ito Y, Nirasawa Y, Ukiyama E, Yoshida F: Circumcision of the outer layer for true phimosis in children. 41st Pacific Association of Pediatric Surgeons Annual Meeting, Grand Teton U.S.A., July 2, 2008,
13. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、吉田史子：ワークショップ「小児包茎の診療について」小児包茎系に対する包皮外板環状切開術.第17回日本小児泌尿器科学会総会、高松、平成20年7月

17日

14. 吉田史子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、渡辺佳子、牧野篤司：虫垂炎との鑑別を要したメッケル憩室捻転による壊死の1例。第43回日本小児外科学会関東甲信越地方会、横浜、平成20年10月25日
15. 牧野篤司、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、渡辺佳子、吉田史子：舌根部正中頸嚢胞の3例。第43回日本小児外科学会関東甲信越地方会、横浜、平成20年10月25日
16. 葦澤融司、吉田史子、伊藤泰雄、浮山越史、渡辺佳子、牧野篤司：術中の肝損傷による出血から心停止をおこし救命できなかった先天性十二指腸閉鎖症の1例。第45回日本腹部救急医学会総会、東京、平成21年3月12日
17. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、吉田史子、牧野篤司：急性腹症で発症し高度の貧血を伴った後腹膜リンパ管腫の1例、第45回日本腹部救急医学会総会、東京、平成21年3月12日
18. 伊藤泰雄（特別講演）：小児救急における外科疾患診療のコツ。第2回九州沖縄小児救急医学研究会、北九州市、平成20年8月23日

II. 論文

1. 伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、渡辺佳子、吉田史子：第42回日本腹部救急医学会総会会長講演：小児外科における腹部救急診療。日腹部救急医学会誌 28：525-529,2008
2. 葦澤融司：腹部打撲。チャイルドヘルス 11:498-500,2008
3. 葦澤融司、伊藤泰雄、浮山越史、渡辺佳子、吉田史子、牧野篤司：乳幼児の外鼠径ヘルニア。臨床外科 63:1333-1336, 2008
4. 葦澤融司、伊藤泰雄、浮山越史、渡辺佳子、吉田史子、牧野篤司、野村優子、杉浦正俊：染色体異常を伴った外科症例の倫理的諸問題。小児外科 40：1121-1125,2008
5. 葦澤融司、伊藤泰雄、浮山越史、渡辺佳子、吉田史子、牧野篤司：外傷性脾仮性嚢胞に対する経皮経胃嚢胞ドレナージ術。小児外科 40：1372-1374,2008
6. 葦澤融司：胃食道逆流症。小児科臨床 62：241-243,2009
7. 伊藤泰雄：小児科救急。M.P. (Medical Practice) 25 (増刊号)：990-997、2008
8. Yasuo Ito: Surgical education and postgraduate training in Japan. World J Surg. 32:2134-2137、2008
9. 伊藤泰雄：鼠径ヘルニア嵌頓。救急・集注治療 20：1587-1591、2008
10. 伊藤泰雄：小児救急における小児外科医の役割—総合的小児救急医療体制の構築に向けて。日本小児科学会雑誌 113：12-17、2009
11. 浮山越史、荒木尚：小児救急医療の教育・研修目標、外傷・頭部外傷。日本小児救急医学会雑誌 7：244-250, 2008
12. 浮山越史：外傷総論。救急・集中治療 20: 1613-1617, 2008

III. 著書

1. 葦澤融司（分担執筆）：消化管出血。小児科臨床ピクシス 小児救急医療。五十嵐 隆、羽鳥文麿編。中山書店 東京 2008, p84-85
2. 葦澤融司（分担執筆）腹部外傷。小児科臨床ピクシス 小児救急医療。五十嵐 隆、羽鳥文麿編。中

山書店 東京 2008,p194-195

3. 伊藤泰雄（分担執筆）：幼小児の鼠径ヘルニア手術。ナースのための術前・術後マニュアル（跡見 裕 編集） 照林社、東京、2008, p 175-176
4. 伊藤泰雄（分担執筆）：鼠径ヘルニア、臍ヘルニア。今日の治療指針 （山口 徹、北原光夫、福井 次矢 編集）医学書院、東京、2009, p 1010-1011
5. 浮山越史（分担執筆）：子どものヘルニアについて。新版 家庭医学大事典、服部光男、岡島重孝編。東京、小学館、2008, p1602-1605

救急医学教室

I. 口演

1. 宮内洋, 島崎修次, 関谷恭介, 梅垣修, 山口芳裕: 小児3次救急医療での患者動態について. 第111回日本小児科学会学術集会, 東京, 平成20年4月25日.
2. Koizumi T, Tanaka H¹, Shimazaki S, Yamaguchi Y (¹Kokushikan University): The Protective Effect of Lecithinized SOD (PC-SOD) During The Early Phase of Burn Care in Rat Models. American Burn Association 40th Annual Meeting, Chicago, April 29 - May 2, 2008.
3. 井上孝隆, 宮内洋, 後藤英昭, 山口芳裕: 外傷性血気胸症例の検討. 第22回日本外傷学会, 那覇, 平成20年5月30日.
4. 島崎修次: メディカルコントロール体制の充実強化. 第11回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成20年6月7日.
5. 皆川邦朋¹, 岩井一正¹, 平川淳一¹, 林光俊², 山口芳裕 (¹光生会平川病院, ²杏林大・医・整形外科): 精神疾患に伴う身体的合併症に対するリハビリテーション. 第11回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 東京, 平成20年6月8日.
6. 大畑徹也^{1,2}, 星亨², 今給黎直明², 山岸賢一郎², 高鳥尚子², 山崎隆志² (¹杏林大・医・救急医学, ²東大和病院整形外科): 手指骨骨折に対する Hoffmann2 micro 創外固定の使用経験. 第34回日本骨折治療学会, 福岡, 平成20年6月27日.
7. 青木大¹, 田中秀治¹, 今川理映子¹, 明石優美^{1,2}, 島崎修次^{1,2,3} (¹日本スキンバンクネットワーク, ²杏林大学病院臓器組織移植センター, ³杏林大・医・救急医学): 日本スキンバンクネットワークの活動と今後の展望. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 名古屋, 平成20年6月28日.
8. 明石優美^{1,2}, 田中秀治¹, 青木大¹, 今川理映子¹, 島崎修次^{1,2,3} (¹日本スキンバンクネットワーク, ²杏林大学病院臓器組織移植センター, ³杏林大・医・救急医学): Human parvovirus (HP) B19 陽性ドナーの同種皮膚と Allograft の保存状況. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 名古屋, 平成20年6月28日.
9. 後藤英昭, 島崎修次, 山口芳裕: 当院における熱傷患者動態. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 名古屋, 平成20年6月29日.
10. 大浦紀彦¹, 後藤英昭, 小泉健雄, 岡崎睦¹, 多久嶋亮彦¹, 波利井清紀¹ (¹杏林大・医・形成外科): 広範囲熱傷患者における手指の治療戦略. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 名古屋, 平成20年6月29日.
11. 山口芳裕: AEDを使用した心肺蘇生とトリアージ. 三鷹医師会学術講演会, 三鷹, 平成20年7月24日.
12. 岡野友貴¹, 田中秀治¹, 青木大¹, 今川理映子¹, 明石優美^{1,2}, 島崎修次^{1,2,3} (¹日本スキンバンクネットワーク, ²杏林大学病院臓器組織移植センター, ³杏林大・医・救急医学): 日本スキンバンクネットワークの活動報告と現況について. 第7回日本組織移植学会総会・学術集会, 札幌, 平成20年8月23日.
13. 今川理映子¹, 田中秀治¹, 青木大¹, 明石優美^{1,2}, 岡野友貴¹, 島崎修次^{1,2,3} (¹日本スキンバンクネットワーク, ²杏林大学病院臓器組織移植センター, ³杏林大・医・救急医学): 組織移植認定コーディネーターを取得して. 第7回日本組織移植学会総会・学術集会, 札幌, 平成20年8月23日.
14. 青木大¹, 田中秀治¹, 今川理映子¹, 明石優美^{1,2}, 岡野友貴¹, 島崎修次^{1,2,3} (¹日本スキンバンクネットワーク, ²杏林大学病院臓器組織移植センター, ³杏林大・医・救急医学): 情報の分析からみたコーディ

ネーションとバンク運営. 第7回日本組織移植学会総会・学術集会, 札幌, 平成20年8月23日.

15. 明石優美^{1,2}, 田中秀治¹, 青木大¹, 今川理映子¹, 岡野友貴¹, 島崎修次^{1,2,3} (¹日本スキンバンクネットワーク, ²杏林大学病院臓器組織移植センター, ³杏林大・医・救急医学): Human parvovirusB19 陽性ドナーの同種皮膚取り扱いの検討. 第7回日本組織移植学会総会・学術集会, 札幌, 平成20年8月23日.
16. 田中秀治^{1,2}, 青木大², 今川理映子², 明石優美^{2,3}, 岡野友貴², 島崎修次^{2,3,4} (¹国士舘大学院・救急救命システムコース, ²日本スキンバンクネットワーク, ³杏林大学病院臓器組織移植センター, ⁴杏林大・医・救急医学): 免疫寛容誘導と凍結保存同種皮膚移植の今後の可能性. 第7回日本組織移植学会総会・学術集会, 札幌, 平成20年8月23日.
17. Koizumi T, Goto H, Kaita Y, Tarui T, Yamaguchi Y : Prediction of Blood Transfusion Requirements Based on the Area of Collected Skin as a Standard Criterion for Burn Surgery. The 14th Congress of the International Society for Burn Injuries, Montreal, Sept. 9, 2008.
18. 大畑徹也¹, 森脇孝博¹, 皆川邦朋², 丸野秀人¹, 小寺正純¹, 山口芳裕, 里見和彦¹ (¹杏林大・医・整形外科, ²光生会平川病院): 救命救急センターにおけるガス壊疽の治療成績. 第57回東日本整形災害外科学会, 東京, 平成20年9月12日.
19. 玉田尚, 糟谷洋平¹, 田口敦子¹, 田中健介¹, 萬知子¹, 巖康秀¹ (¹杏林大・医・麻酔科): 術中より洞性頻脈を呈し術後に甲状腺クリーゼと診断された一例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第48回合同学術集会, 東京, 平成20年9月20日.
20. Tarui T, Uno S, Goto H, Matsuda T, Shimazaki S, Yamaguchi Y : Optimal evaluation of injury severity for multiple trauma. The American Association for the Surgery of Trauma Sixty - Seventh Meeting - Third Joint Meeting with the Japanese Association of Acute Medicine, Maui, Sept. 25, 2008.
21. Nakae H¹, Shimazu T¹, Miyauchi H, Morozumi J², Ohta S², Yamaguchi Y, Kitano M³, Ikeuchi H⁴, Kishikawa M⁵, Ueyama M⁶, Yukioka T², Sugimoto H¹ (¹大阪大学救急医学, ²東京医大・救急医学, ³済生会神奈川県病院救急部, ⁴大阪府立急性期総合医療センター救命救急センター, ⁵福岡県済生会福岡総合病院救急部, ⁶社会保険中京病院救急科): Does Splenic Preservation Treatment (Embolization, Splenorrhaphy, Partial Splenectomy) Improve Immunologic functions and Long - Term Prognosis of Splenic Injury? The American Association for the Surgery of Trauma Sixty - Seventh Meeting - Third Joint Meeting with the Japanese Association of Acute Medicine, Maui, Sept. 24, 2008.
22. 明石優美^{1,2}, 青木大², 今川理映子², 岡野友貴², 田中秀治², 島崎修次^{1,2,3}, 山口芳裕^{1,3} (¹杏林大学病院臓器組織移植センター, ²日本スキンバンクネットワーク, ³杏林大・医・救急医学): 院内における臓器・組織提供の関わりとその検討. 第44回日本移植学会総会, 大阪, 平成20年9月21日.
23. 小泉健雄, 山口芳裕 : 救命センターにおける Palliative Care の重要性. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 札幌, 平成20年10月13日.
24. 山口芳裕 : 救急医療の経営学—包括医療時代の原価管理—. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 札幌, 平成20年10月13日.
25. 皆川邦朋¹, 岩井一正¹, 平川淳一¹, 山口芳裕 (¹光生会平川病院): 精神科患者に対する急性期病院との連携—身体的リハビリテーションを中心に—. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 札幌, 平成20年10月13日.
26. 玉田尚, 山口芳裕 : 当院高度救命救急センターに収容された自殺企図症例の検討. 第36回日本救急医学

会総会・学術集会，札幌，平成20年10月13日。

27. 宮国泰彦，山口芳裕，島崎修次，後藤英昭，宮内洋：当救命救急センターで経験した特発性脾破裂の検討。第36回日本救急医学会総会・学術集会，札幌，平成20年10月13日。
28. 庄司高裕，山口芳裕，島崎修次，後藤英昭，小泉健雄，濱中訓生：体温異常における凝固能異常およびエネルギー代謝—偶発性低体温症の疫学的調査を通して—。第36回日本救急医学会総会・学術集会，札幌，平成20年10月13日。
29. 相川直樹¹，池田寿昭²，石坂彰敏³，遠藤重厚⁴，篠崎正博⁵，島崎修次，杉本壽⁶，妙中信之⁷，平澤博之⁸，山本保博⁹（¹慶應義塾大・医・救急医学，²東京医科大学八王子医療センター・特定集中治療部，³慶應義塾大・医・呼吸器内科，⁴岩手医科大・医・救急医学，⁵和歌山県立医大・救急集中治療部，⁶大阪大学大学院医学系研究科・救急医学，⁷宝塚市立病院，⁸千葉大学大学院医学研究院・救急集中治療医学，⁹日本医大・救急医学（現：東京臨海病院）：急性肺障害に対する好中球エラスターゼ阻害剤（シベレスタット）の有効性と安全性—市販後臨床試験成績を踏まえて—。第36回日本救急医学会総会・学術集会，札幌，平成20年10月13日。
30. 樽井武彦，後藤英昭，松田剛明，島崎修次，山口芳裕：重症度評価を利用した重症度別の敗血症治療戦略の提案—Sepsis registry を治療成績の向上につなげるために。第36回日本救急医学会総会・学術集会，札幌，平成20年10月14日。
31. 和田貴子^{1,2}，岡本博照³，山内亮子¹，深澤政富¹（¹杏林大・保・救急救命学，²杏林大・医・救急医学，³杏林大・医・衛生学公衆衛生学）：「救急隊員の労務管理と健康について」第16回全国救急隊員シンポジウムでのアンケート結果を踏まえ，労務管理について。第36回日本救急医学会総会・学術集会，札幌，平成20年10月14日。
32. 山口芳裕（代理発表 後藤英昭）：首脳対応。第36回日本救急医学会総会・学術集会，札幌，平成20年10月15日。
33. 宮内洋，関谷恭介，島崎修次，山口芳裕：救命センターにおいて3次対応された小児救急医療について。第36回日本救急医学会総会・学術集会，札幌，平成20年10月15日。
34. 八木橋巖，山口芳裕，井上孝隆，庄司高裕，宮内洋，山田賢治，後藤英昭，樽井武彦，松田剛明，島崎修次：特異的拮抗薬の持続投与により救命し得た塩酸モルヒネの大量内服の1症例。第36回日本救急医学会総会・学術集会，札幌，平成20年10月15日。
35. 濱中訓生，八木橋巖，小泉健雄，後藤英昭，島崎修次，山口芳裕：早期の血液浄化により救命し得たサリチル酸中毒の一例。第36回日本救急医学会総会・学術集会，札幌，平成20年10月15日。
36. 山口芳裕：NBC（生物化学テロ）救護の実態。平成20年度工学院大学創立記念日シンポジウム，新宿，平成20年10月31日。
37. 島崎修次：日本の救急医療の崩壊と再生。財団法人医療関連サービス振興会 月例セミナー第162回，東京，平成20年11月26日。（講演録 島崎修次：月例セミナー講演録 第162回（平成20年11月26日）「日本の救急医療の崩壊と再生」。振興会通信 97：2-25，2009.）
38. 宮国泰彦 他：敗血症を伴い全身管理を必要とした薬剤性無顆粒球症の一例。第59回日本救急医学会関東地方会，東京，平成21年2月7日。
39. 庄司高裕，松田岳人，宮内洋，後藤英昭，島崎修次，山口芳裕：硫化水素中毒に対する当院の対応。第14回日本集団災害医学会総会・学術集会，神戸，平成21年2月13日。

40. 山口芳裕：NBC 災害対応。広尾病院公開講座災害研修（第7回）NBC 災害対応，渋谷，平成21年2月19日。
41. 玉田尚，山口芳裕：当院高度救命救急センターに収容された急性薬物中毒症例の検討。第36回日本集中治療医学会学術集会，大阪，平成21年2月26日。
42. 濱中訓生，庄司高裕，小泉健雄，後藤英昭，島崎修次，山口芳裕：体温異常における凝固能異常およびエネルギー代謝異常—高体温急性期の疫学的調査を通して—。第36回日本集中治療医学会学術集会，大阪，平成21年2月27日。

II. 論文

1. 三宅康史¹，有賀徹¹，井上健一郎²，奥寺敬³，北原孝雄⁴，島崎修次，鶴田良介⁵，前川剛志⁵，横田裕行⁶（¹昭和大・医・救急医学，²井上病院，³富山大・医・救急災害医学，⁴北里大・医・救急医学，⁵山口大・医・高度救命救急センター，⁶日本医大・高度救命救急センター）：熱中症の実態調査—Heatstroke STUDY 2006 最終報告—。日本救急医学会雑誌 19（6）：309-321，2008。
2. 宮内洋，島崎修次，山口芳裕：病院医療の崩壊と救急医療 実態報告 高度救命救急センター3次部門における小児救急医療の現状と問題点について。日本救急医学会雑誌 19（6）：345-349，2008。
3. 山田賢治¹，関谷繁樹¹，佐野浩志¹，山口芳裕（¹赤心堂病院整形外科）：虫様筋が原因と考えられた両側手根管症候群の1例 症例報告と超音波による解析。日本手の外科学会雑誌 24（6）：972-979，2008。
4. 玉田尚，小泉健雄，山口芳裕：鈍的腹部外傷受傷後約2週間を経て発症した中結腸動脈損傷に伴う腸間膜内出血の1例。日本腹部救急医学会雑誌 28（7）：957-960，2008。
5. 庄司高裕，井上孝隆，大畑徹也，小泉健雄，後藤英昭，島崎修次，山口芳裕：肛門周囲膿瘍に続発・進展した広範囲ガス壊疽の臨床経験。日本救急医学会関東地方会雑誌 29：160-162，2008。
6. 松崎志穂里，小泉健雄，井上孝隆，松田岳人，樽井武彦，後藤英昭，島崎修次，山口芳裕：甲状腺クリーゼによる急性肺水腫に対する経皮的心肺補助（PCPS）の使用経験。日本救急医学会関東地方会雑誌 29：22-24，2008。
7. Hagiwara A¹，Miyachi H，Shimazaki S（¹Departments of Traumatology and Critical Care Medicine National Defense Medical College）：Predictors of Vascular and Gastrointestinal Complications in Severe Acute Pancreatitis. Pancreatology 8：211-218，2008。
8. Kushimoto S¹，Gando S²，Saitoh D³，Ogura H⁴，Mayumi T⁵，Koseki K⁶，Ikeda T⁷，Ishikura H⁸，Iba T⁹，Ueyama M¹⁰，Eguchi Y¹¹，Otomo Y¹²，Okamoto K¹³，Endo S¹⁴，Shimazaki S；（The Japanese Association for Acute Medicine Disseminated Intravascular Coagulation（JAAM DIC）Study Group）（¹Department of Emergency and Critical Care Medicine，Nippon Medical School，²Division of Acute and Critical Care Medicine，Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine，Hokkaido University Graduate School of Medicine，³Division of Traumatology，National Defense Medical College Research Institute，National Defense Medical College，⁴Department of Traumatology and Acute Critical Care Medicine，Osaka University Medical School，⁵Department of Emergency and Critical Care Medicine，Nagoya University Graduate School of Medicine，⁶Emergency and Critical Care Medicine，Kawaguchi Municipal Medical Center，⁷Department of Critical Care and Emergency Medicine，Tokyo Medical University Hachioji Medical Center，⁸Department of Emergency and Critical Care Medicine，Faculty of Medicine，Fukuoka University，⁹Department of Emergency Medicine，Juntendo University，¹⁰Department

of Traumatology, Critical Care Medicine and Burn Center, Social Insurance Chukyo Hospital, ¹¹Critical and Intensive Care Medicine, Shiga University of Medical Science, ¹²Department of Acute Critical Care and Disaster Medicine, Tokyo Medical and Dental University Graduate School of Medicine, ¹³Department of Surgery 1, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, ¹⁴Department of Critical Care Medicine, School of Medicine, Iwate Medical University) : Clinical course and outcome of disseminated intravascular coagulation diagnosed by Japanese Association for Acute Medicine criteria. *Thromb Haemost* 100 : 1099-1105, 2008.

9. Koizumi T, Goto H, Tanaka H¹, Yamaguchi Y, Shimazaki S (¹Department of Sports Medicine, Kokushikan University) : Lecithinized Superoxide Dismutase Suppresses Free Radical Substrates During the Early Phase of Burn Care in Rats. *Journal of Burn Care & Research* 30 (2) : 321-328, 2009.

Ⅲ. 著書

1. 山田賢治, 山口芳裕 : 第7章外因性救急 頸椎(髄)損傷. *小児科臨床ピクシス1 小児救急医療*. 五十嵐隆, 羽鳥文磨編. 東京, 中山書店, 2008. p. 190-191.
2. 田中秀治¹, 石井正三², 島崎修次, 山本保博³ (¹ 国士舘大学院救命システム, ² 日本医師会, ³ 東京臨海病院・日本医科大学) 企画編集 : 改訂 映像で学ぶ ALS トレーニング (救急蘇生法の指針 2005 対応版) 心肺蘇生法, 気管挿管, 静脈路確保・薬剤投与. 日本医師会監修. 東京, へるす出版, 2008.
3. 宮内洋, 島崎修次, 山口芳裕 : 熱傷における循環管理. *臨牀看護* 34 (6) : 813-821, 2008.
4. 海田賢彦, 山口芳裕 : 熱傷時の呼吸管理—X線写真の見方を含めて—. *臨牀看護* 34 (6) : 822-830, 2008.
5. 後藤英昭, 山口芳裕 : 熱傷が及ぼす各臓器への影響. *臨牀看護* 34 (6) : 831-838, 2008.
6. 梅垣修 : 熱傷患者の呼吸管理のポイント. *臨牀看護* 34 (6) : 848-852, 2008.
7. 樽井武彦, 山口芳裕 : 熱傷治療とチーム医療. *臨牀看護* 34 (6) : 923-930, 2008.
8. 青木大¹, 田中秀治¹, 今川理映子¹, 明石優美^{1,2}, 島崎修次^{1,2,3} (¹ 日本スキンバンクネットワーク, ² 杏林大学病院臓器組織移植センター, ³ 杏林大・医・救急医学) : スキンバンクの活動. *臨牀看護* 34 (6) : 938-948, 2008.
9. 武田多一¹, 島崎修次 (¹ 三重大学医学部付属病院救急部) : 救急室の体制と機器・備品. *Medical Practice 臨時増刊号 新・図解救急・応急処置ガイド 救急・応急時に必ず役立つ基本手技と処置のすべて* 25 (臨時増刊号). *Medical Practice* 編集委員会, 和田攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内尉義編. 東京, 文光堂, 2008. p.1047-1051.
10. 福島秀起, 山口芳裕 : 胸部外傷に特異な病態 皮下気腫・縦隔気腫. *救急医学* 32 (8) : 941-944, 2008.
11. 山口芳裕 : ベスト・パートナー. *てあて通巻* 49号 13 (4) : 1, 2008.
12. 八木橋巖, 島崎修次, 山口芳裕 : 気管切開. *外科 増刊* 70 (12) : 1429-1433, 2008.
13. 松田岳人, 山口芳裕 : ARDS・ALI. *救急医学* 32 (13) : 1807-1810, 2008.
14. 海田賢彦, 島崎修次 : 外傷・熱傷. *クリティカルケアにおける栄養管理*. 平澤博之編. 東京, 克誠堂出版, 2009. p.149-156.
15. 島崎修次 (編集代表者) : 標準救急医学 第4版. 日本救急医学会監修. 相川直樹, 浅井康文, 有賀徹, 島崎修次, 杉本壽, 前川剛志, 山本保博, 行岡哲男, 横田順一郎編. 東京, 医学書院, 2009.
16. 山口芳裕 : 多臓器不全. 標準救急医学 第4版. 日本救急医学会監修. 相川直樹, 浅井康文, 有賀徹, 島

17. 皆川邦朋（現：光生会平川病院）：骨折の牽引療法．標準救急医学 第4版．日本救急医学会監修．相川直樹，浅井康文，有賀徹，島崎修次，杉本壽，前川剛志，山本保博，行岡哲男，横田順一郎編．東京，医学書院，2009． p.138-140.

IV. その他

1. 島崎修次（監修）：特集 救急車を呼ぶタイミングは。成人，高齢者．よみうり健康ブック ら・さんて 5：3-6，2009.
2. 島崎修次（財団法人日本救急医療財団理事長）：北海道洞爺湖サミット救急医療体制確保事業について．北海道洞爺湖サミット救急医療体制確保委託事業実施報告書．財団法人日本救急医療財団 p.5-6. 2009年2月.
3. 山口芳裕：各部署からの報告②（6）第2本部の救急医療体制について．北海道洞爺湖サミット救急医療体制確保委託事業実施報告書．財団法人日本救急医療財団 p.54-60. 2009年2月.
4. 山口芳裕：北海道洞爺湖サミット救急医療チーム報告会『第2本部の救急医療体制について』．北海道洞爺湖サミット救急医療体制確保委託事業実施報告書．財団法人日本救急医療財団 p.102-105. 2009年2月.
5. 災害時における消防と医療の連携に関する検討会（山口芳裕：災害時における消防と医療の連携に関する検討会構成員）：災害時における消防と医療の連携に関する検討会 報告書．総務省消防庁 2009年3月.
6. 山口芳裕，島崎修次，萩野剛二郎¹，大屋英稔²，桐岡茂³，岡井貴之³（¹電気通信大学電気通信学部システム工学科，²湘南工科大学工学部電気電子工学科，³（株）CAEソリューションズ）：平成20年度消防防災科学技術研究推進制度研究課題「心肺蘇生中の心電図解析に基づく抽出波形の早期認知システムの臨床応用・実用化に向けた検証」実施報告書．2009年3月.

脳神経外科学教室

I. 口演

1. 野田茂穂 1、2、川口渉 3、佐々原渉 4、横田秀夫 1、深作和明 1、3、高木周 1、6、姫野龍太郎 1、6、松本洋一郎 6 (1 理研、2 信州大学、3 東京大学大学院、4 岡山大学、5 碑文谷病院、6 東京大学) :血管内治療への血流解析システムの適用.RIKEN SYMPSUIM Computational Biomechanics 生体力学シミュレーション研究、和光、2008年3月12日.
2. 山村直人 1、深和和明 1、2、Cristian TEODOSIU 1、姫野龍太郎 1 (1 理研、2 碑文谷病院) :脳血管内治療のためのリアルタイムシュミレータの開発.RIKEN SYMPSIUM Computational Biomechanics 生体力学シミュレーション研究、和光、2008年3月12日.
3. 世良俊博 1、横田秀夫 1、深作和明 1、野田茂穂 1、上杉健太郎 2、八木直人 2、姫野龍太郎 1 (1 理研、2 高輝度光科学研究センター) :気管支・冠循環の高分解能動態解析システムの開発.RIKEN SYMPSIUM Computational Biomechanics 生体力学シミュレーション研究、和光、2008年3月12日.
4. 横田秀夫 1、覚正信徳 1、金森雄輝 1、荒木由里子 1、中村佐紀子 1、深作和明 1、姫野龍太郎 1 (1 理研) :生体力学シミュレーションのための人体モデル構築.RIKEN SYMPSIUM Computational Biomechanics 生体力学シミュレーション研究、和光、2008年3月12日.
5. 脊山英徳 : 杏林大学病院脳卒中センターでの新しい試み. 城山病院カンファレンス、大阪、2008年3月19日.
6. 檜山孝美 1、田中英俊 3、大久保信治 1、小林博雄 1、工藤 忠 1、遠藤慎一 2、奥野 4、塩川芳昭 (1 石岡循環器科脳神経外科病院・脳神経外科、2 石岡循環器科脳神経外科病院心臓血管外科、3 慈恵医科大学柏病院脳神経外科、4 慈恵医科大学病院脳神経外科):頸動脈狭窄病変におけるプラーク内血管新生とその臨床像について. 第33回日本脳卒中学会総会、京都、2008年3月20日.
7. 野口明男 1、桑原 渉 1、高木英美 1、齋藤亜紀子 1、鈴木綾乃 1、和知布美子 1 (1.白河病院脳神経外科) :虚血性脳血管障害患者における経胸壁心エコーの実際. 第37回日本脳卒中の外科学会、京都、2008年3月20日.
8. 脊山英徳 : 杏林大学病院脳卒中センター 脳卒中診療について. サノフィ・アペンティス (株) 社内研修会、東京、2008年3月27日.
9. 伊藤宣行 (阿伎留医療センター) : 認知症の画像診断の現状~MRI、SPECT を中心に~.第1回あきる野市認知症医療連携セミナー、あきる野、平成20年3月26日.
10. 野末恭子、永根基雄、宮崎 寛、栗田浩樹、甫守正史 1、塩川芳昭 (1 杏林大学血液内科) :放射線併用 temozolomide 療法により高度の汎血球減少をきたした膠芽腫の1例. 第34回ニューロオンコロジーの会、2008年4月5日.
11. 横矢重臣、山口竜一、栗田浩樹、永根基雄、塩川芳昭 : 診断に苦慮した小脳髄芽腫の1例. 第54回三多摩神経疾患懇話会、2008年4月5日.
12. 塩川芳昭:Paterinal approach の基本と応用.若手のための微小脳神経外科解剖セミナー、福岡、2008年4月13日.
13. 栗田浩樹、山口竜一、塩川芳昭 : 破裂脳動静脈奇形の急性期手術のポイント. 第17回脳神経外科手

術と機器学会、長崎、2008年4月11-12日。

14. 木崎直人 1、加藤理絵 1、有賀俊之 1、吉田聖子 1、渡邊 卓 2、小林啓一、宮崎 寛、栗田浩樹、永根基雄、塩川芳昭 (杏林大学 1 中央検査部、2 臨床検査医学) :杏林大学における術中 monitoring の現状 Current status of intraoperative for neurosurgery:Kyorin university experience. 第 17 回脳神経外科手術と機器学会、長崎、2008年4月11-12日。
15. 加藤理絵 1、木崎直人 1、有賀俊之 1、吉田聖子 1、渡邊 卓 2、小林啓一、宮崎 寛、栗田浩樹、永根基雄、塩川芳昭 (杏林大学 1 中央検査部、2 臨床検査医学) :片側顔面痙攣 (HFS) における術前・術後の誘発筋電図所見。第 17 回脳神経外科手術と機器学会、長崎、2008年4月11日-12日。
16. 山口竜一、栗田浩樹、小林啓一、熊切 敦、平岩直也、塩川芳昭 :術中ナビゲーションが有効であった海綿状血管腫の 1 例。第 17 回脳神経外科手術と機器学会、長崎、2008年4月11-12日。
17. 佐藤栄志:脳血管内治療について一特に脳動脈瘤塞栓術、頸動脈ステント留置術における抗血小板剤について。サノフィ・アベンティス (株) 社内研修会、東京、2008年4月16日。
18. Konishi Y: Endovascular Treatment of Intracranial Aneurysms: using new coils Clinical and experimental study.the 8th Meeting of the Asian-Australasian Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology、Taiwan、2008.4.
19. 大久保信治 1、小林博雄 1、工藤 忠 1、檜山孝美 1、中村歩希 1(1 石岡循環器科脳神経外科病院):Indocyanine green を用いた術中蛍光血管撮影。第 16 回院内学会石岡、2008年4月17日。
20. 中村歩希 1、檜山孝美 1、大久保信治 1、工藤忠 1、小林博雄 1、田中俊英 1(1 石岡循環器科脳神経外科病院):頭蓋外後下小脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血の一例。第 105 回日本脳神経外科学会関東支部会、東京、2008年4月19日。
21. 小林啓一、永根基雄 : 症例抄録。第 9 回多摩脳腫瘍研究会、東京、2008年5月。
22. 塩川芳昭:術中合併症の回避と対策 I 脳動脈瘤.第 28 回日本脳神経外科コンgres総会、横浜、2008年5月9日。
23. 西山和利 1、2、脊山英徳、岡野晴子 1、2、山田智美 1、2、栗田浩樹、山田 深 1、3、松田剛明、松本由美 4、岡島康友、塩川芳昭、千葉厚郎 1、2、山口芳裕 1、5、(杏林大学 1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション科、4 看護部、5 救命救急科) :本邦における現状の tPA 静注療法の運用の問題点に関する検討.第 49 回日本神経学会総会、2008年5月15-17日。
24. 塩川芳昭 : 脳血管障害.東大専門医勉強会、文京区、2008年5月16日。
25. 永根基雄:膠芽腫に対する temozolomide 療法におけるMGMT解析法の検討.第 26 回日本脳腫瘍病理学会、東京、2008年5月23日。
26. 小林啓一、永根基雄、林基高、栗田浩樹、須永茂樹 1、清水弘之 1、新井信隆 2、水谷俊雄 3、藤岡保範 4、塩川芳昭 (1 東京都立神経病院脳神経外科、2 財団法人東京都医学研究機構東京都神経科学総合研究所神経発達再生研究分野、3 東京都立神経病院病理部、4 杏林大学病理学教室) 難治性てんかんに対する外科的治療後に発症した膠芽腫の一例。第 26 回脳腫瘍病理学会、東京、平成 20 年 5 月 23-24 日。
27. 小林啓一:難治性てんかんに対する外科的治療後に発症した膠芽腫の一例.第 26 回日本脳腫瘍病理学会、東京、2008年5月24日。
28. 栗田浩樹 : 講演 チーム医療と地域医療連携 : 脳卒中診療の向上をめざして。調布脳卒中セミナー、

東京、2008年5月29日。

29. 新名由利子、栗田浩樹：講演 脳卒中患者に対する摂食嚥下療法:Stroke unit における看護介入の効果. 調布脳卒中セミナー、調布、2008年5月29日.
30. 伊藤宣行(阿伎留医療センター):座長 アテローム血栓症と抗血小板療法、西多摩脳卒中セミナー、立川、平成20年5月30日.
31. 山田 深、岡島康友、西川順治、團志朗、栗田浩樹、塩川芳昭:Brain Surgery and Rehabilitation unit (BSRU)構築の試み. 第45回日本リハビリテーション医学会学術大会、横浜、2008年6月4-6日.
32. Kurita H、 Shiokawa Y : Symposium update of surgical technique on ruptured cerebral arteriovenous malformations.The 9th Japanese &Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke (JKFC)、Korea.Jun.6-7、2008.
33. Tokisaki Y, Yamada S、 Kuroda Y; Shimotomai Y, MatsumotoY, Kurita H、 Nishiyama K、 Okajima K、 Shiokawa Y、 Yamaguchi Y: A variation study of the FIM for use in acute stroke care settings. The 6th Japanese &Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke (JKFC)、Korea、 Jun.6-7、2008.
34. Yoshino M、 Yamada S、 Niina Y、 Okazaki M、 Shimotomai Y; Matsumoto Y、 Kurita H、 Nishiyama K、 Okajima K、 Shiokawa Y、 Yamaguchi Y : Effectiveness of a systematic oral care program for acute stroke care. The 6th Japanese&Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke (JKFC)Korea、 Jun.6-7、2008.
35. 河合拓也、西山和利 1,2、河合拓也、岡野晴子 1,2、栗田浩樹、千葉厚郎 2 (杏林大学 1脳卒中センター、2神経内科):亜急性期に神経学的所見の増悪を示し血腫被膜化が疑われた脳内出血の2例.第185回 日本神経学会関東地方会、東京、2008年6月7日.
36. 西山和利 1,2、脊山英徳、岡野晴子 1,2、栗田浩樹、千葉厚郎 1,2 (杏林大学 1脳卒中センター、2神経内科):亜急性期に神経学的所見の増悪を示し血腫被膜化が疑われた脳内出血の2例. 第185回日本神経学会関東地方会、東京、2008年6月7日中村歩希、工藤 忠、大久保信治、檜山孝美、小林博雄(石岡循環器科脳神経外科病院):下垂足を呈した腰椎疾患の検討.第23回日本脊髄外科学会、宮城、2008年6月12日.
37. 竹内昌孝 1、小西善史、長田貴洋 1、松前光紀 1、石黒朋子 2、梅本朋幸 2 (1 東海大学脳神経外科、2 葛西循環器脳神経外科) 頸部内頸動脈ステント留置術における遅発吐網膜虚血性眼症の1例. 日本頸部血管内治療学会、長崎、平成20年6月13-14日.
38. 佐藤栄志、小西善史、塩川芳昭、脊山英徳、河合拓也、西山和利 1、栗田浩樹 (1 Stroke Center Kyorin univ) :Progressing stroke を呈し、緊急頸動脈ステント留置術と局所血栓溶解療法が有効であった内頸動脈狭窄症の1例 Emergency carotid stenting and local intra-arterial fibrinolysis for MC occlusion due to floating plaque from carotid arterial stenotic lesion. 第7回日本頸部脳血管治療学会、長崎、2008年6月13日-14日.
39. 竹内昌孝 1、小西善史、長田貴洋 1 富永二郎 1 松前光紀 1、石黒朋子 2、梅本朋幸 2 (1 東海大学脳神経外科、2 葛西循環器脳神経外科): 頸部内頸動脈ステント留置術における遅発吐網膜虚血性眼症の1例. 第7回日本頸部脳血管治療学会、長崎、2008年6月13日-14日.
40. 大島幸亮 1、寺田友昭 1、檜山孝美 1、小林博雄 1、大久保信治 1、工藤 忠 1、遠藤慎一 2(石岡循環

器科脳神経外科病院 1 脳神経外科、2 心臓血管外科、3 和歌山労災病院脳神経外科):総頸動脈主幹部狭窄に対するステント術の 1 例遠位塞栓予防について. 第 7 回頸部脳血管治療学会、長崎、2008 年 6 月 14 日.

41. 塩川芳昭: 脳卒中の予防と治療 最近の話題. 第 13 回もしもし医学セミナー、東京、2008 年 6 月 14 日.
42. 脊山英徳: 脳卒中診療 tPA 療法と脳卒中の外科を中心に杏林大学病院救命救急センター勉強会、三鷹、2008 年 6 月 17 日.
43. 塩川芳昭: 学術講演 脳動脈瘤の治療選択. 第 12 回埼玉脳血管障害の外科学会懇談会、さいたま市、2008 年 6 月 18 日.
44. 伊藤宣行 (阿伎留医療センター): エダラボン Ederavone 投与の現状と今後の課題点、第 2 回脳卒中セミナー、日野、平成 20 年 6 月 20 日.
45. 小林啓一、永根基雄、横矢重臣、湯山隆次 1、水谷徹 1、塩川芳昭 (1 都立府中病院脳神経外科): 治療に難渋している播種性再発髄芽腫の 1 例. 東京脳腫瘍治療懇話会、東京、2008 年 6 月 20 日.
46. 小林啓一: 治療に難渋している播種性再発髄芽腫の 1 例. 東京脳腫瘍治療懇話会、新宿、2008 年 6 月 20 日.
47. 佐藤栄志、小西善史、小松原弘一郎 1、原 貴行 1、水谷 徹 1 (1 府中病院脳神経外科): 脳血管内治療と直達手術を行った巨大血栓化椎骨動脈瘤の 1 例. 第 18 回東京脳血管内治療研究会プログラム、東京、2008 年 6 月 21 日.
48. 西山和利 1、2、脊山英徳、岡野晴子 1、2、栗田浩樹、山田 深 1、3、松本由美 1、4、塩川芳昭、岡島康友 3、千葉厚郎 2、山口芳裕 1、5 (杏林大学 1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション科、4 看護部、5 救命救急科): 急性期脳梗塞に対する rt-PA 療法の現状と問題点—杏林大学脳卒中センターからの報告. 第 22 回日本神経救急学会学術集会、東京、2008 年 6 月 21 日
49. 西山和利 1、2、脊山英徳、岡野晴子 1、2、栗田浩樹、山田 深 1、3、松本由美 4、塩川芳昭、岡島康友、千葉厚郎、山口芳裕 1、5 (杏林大学 1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション科、4 看護部、5 救命救急科): 急性期脳梗塞に対する rt-PA 療法の現状と問題点—杏林大学脳卒中センターからの報告. 第 22 回日本神経救急学会学術集会、東京、2008 年 6 月 21 日.
50. 脊山英徳: 脳卒中診療類動脈超音波を中心として. 杏林大学病院生理検査部勉強会、三鷹、2008 年 6 月 26 日.
51. 大久保信治 1、小林博雄 1、工藤忠 1、檜山孝美 1、中村歩希 1(石岡循環器科脳神経外科病院 1 脳神経外科、2 心臓血管外科): Indocyanine green を用いた術中蛍光血管撮影. Hot Rod Meeting、府中、2008 年 6 月 27 日.
52. 奥野憲司 1、遠藤慎一 3、檜山孝美 2、大久保信治 2、小林博雄 2、工藤 忠 2(1 東京慈恵会医科大学救急医学、石岡循環器科脳神経外科病院 2 脳神経外科、3 心臓血管外科): 刃物により気管断裂、甲状腺断裂、外傷性類動脈内膜損傷を来した 1 症例. Neurosurgery Hot Rod Meeting、府中、2008 年 6 月 27 日.
53. 中村歩希 1、檜山孝美 1、大久保信治 1、遠藤慎一 1、工藤 忠 1、小林博雄 1、奥野憲司 1、田中俊英 1(1 石岡循環器科脳神経外科病院): 腰部脊柱管狭窄症に対する低侵襲な手術手技. 第 10 回茨城手術手技研究会、茨城、2008 年 6 月 28 日.

54. 中村歩希 1、檜山孝美 1、大久保信治 1、工藤 忠 1、小林博雄 1(1 石岡循環器科脳神経外科病院) : DFDDの使用経験. 第 23 回湘南脊髄外科研究会、神奈川、2008 年 7 月
55. 佐藤栄志、小西善史、脊山英徳、塩川芳昭:Framing から Finishing まで GDC 360° で行った破裂脳動脈瘤内塞栓術 Intra-aneurysmal coiling for ruptured aneurysm using of GDC-360. 第 5 回日本脳神経血管内治療学会関東地方会、東京、2008 年 7 月 5 日.
56. 塩川芳昭 : 特別講演 治療困難な動脈瘤への対応. 第 11 回 Microsurgery 蘊奥倶楽部、大阪、2008 年 7 月 12 日.
57. 伊藤宣行 (阿伎留医療センター) : 脳神経外科概説、多摩臨床研究会、昭島、平成 20 年 7 月 18 日.
58. 塩川芳昭 : シンポジウム 医療マネジメントとリーダーシップ 診療科責任者として. 第 11 回日本病院脳神経外科学会、札幌、2008 年 7 月 19 日.
59. 脊山英徳、栗田浩樹、塩川芳昭 : 類動脈内膜剥離術における術中 monitoring と両像診断. 第 8 回日本脳神経外科術中画像研究会、大阪、2008 年 7 月 26 日.
60. 脊山英徳 : 脳卒中の外科治療. 杏林大学病院 2-3B 病棟勉強会、三鷹、2008 年 7 月 31 日.
61. 栗田浩樹 : 講演 脳卒中センターにおけるチーム医療について一脳神経外科医の立場から. ノバルティスファーマ学術講演会、東京、2008 年 8 月 18 日.
62. Momma H, Yamada S, Ishita K, Tojo Y, Taku M, Maeda S, Son-nyu R, Matsumoto Y, Kurita H, Nishiyama K, Okajima Y, Yamaguchi Y: Rehabilitation outcomes in elderly patients with stroke. 10th International Congress of the Asian Confederation for physical therapy, Makuhari, Aug.29-Sep.1,2008.
63. 塩川芳昭 : ディベート 前交通動脈瘤は手術か血管内治療か?. 第 27 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD、仙台、2008 年 8 月 30 日.
64. 脊山英徳、栗田浩樹、西山和利 1、2、山田 深 3、塩川芳昭 (杏林大学 1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション科) : 脳卒中センターにおける脳神経外科医と外科的治療. 第 27 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD、仙台、2008 年 8 月 30 日.
65. 岡村耕一、西山和利、岡野晴子、山田深、栗田浩樹、塩川芳昭 : 心源性脳塞栓症における超急性期抗凝因療法の評価. 第 27 回 Mt Fuji Workshop on CVD、仙台、2008 年 8 月 30 日.
66. 永根基雄、清水早紀、森英治 1、片岡六郎 1、塩川芳昭 (1 キリンファーマ株式会社探索研究所) : ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤併用による TRAIL-R2 モノクローナル抗体誘導 glioma 細胞傷害の相乗的増強効果、第 9 回日本分子脳神経外科学会、京都、2008 年 8 月 31 日.
67. 脊山英徳:tPA 静注療法後の NIHSS の検査方法について. 杏林大学病院救命救急センター勉強会、三鷹、2008 年 9 月 2 日.
68. 猿田一彦 1、坪川民治 1、幸田俊一郎 1、高室 暁 1、城下博夫 1 (1 埼玉循環器・呼吸器病センター) : 喀血で発症した多発脳腫瘍の一例. 第 106 回日本脳神経外科学会関東支部学術集会、墨田区、2008 年 9 月 6 日.
69. 栗田浩樹 : 特別講演 AVMの外科治療戦略. 第 100 回日本脳神経外科学会九州支部会、福岡、2008 年 9 月 6 日.
70. 佐藤研隆、池田俊貴、永根基雄、塩川芳昭、藤岡保範 1 (1 杏林大学 病理学教室) : 非典型的な Meningioma の一例. 第 106 回日本脳神経外科学会関東支部学術集会、墨田区、2008 年 9 月 6 日.

71. 塩川芳昭：脳卒中の外科治療 最近の話題.第6回脳卒中治療研究会、長崎、2008年9月18日.
72. 塩川芳昭:特別講演 杏林大学脳卒中センター設立の経緯. 第3回富士・玄海ストロークフォーラム、福岡市、2008年9月19日.
73. Kurita H, Shiokawa Y, Saito I, Yamaguchi Y, Seyama H, Nishiyama K, Yamada S, Matsumoto Y, Yamaguchi Y : Analysis of clinical outcome of aneurismal subarachnoid hemorrhage: a single institution experience with 1268 patients. The 6th World Stroke Congress, Austria .Sep.24-27,2008.
74. Nishiyama K, Seyama H, Okano H, Kawai T, Matsumoto Y, Yamada S, Kurita H, Chiba A, Yamaguchi Y : Investigation of initial dose regimen for cilostazol treatment in acute-stage cerebral infarction. The 6th World Stroke Congress, Austria ,Sep.24-27,2008.
75. Ushigome Y, Nishiyama K, Kawai T, Okano H, Takami M, Matsumoto Y, Yamada S, Kurita H, Yamaguchi Y: Subacute encapsulation of intracranial hemorrhage with clinical deterioration. The 6th World Stroke Congress, Austria ,Sep.24-27,2008.
76. Okano H, Nishiyama K, Kawai T, Udagawa M, Seyama H, Matsumoto Y, Yamada S, Kurita H, Chiba A, Yamaguchi Y: Investigation on apoplexy-related drugs used at large stroke care center in Japan. The 6th World Stroke Congress, Austria ,Sep.24-27,2008.
77. Yamada S, Nishiyama K, Okano H, Seyama H, Arakawa C, Kawai T, Kurita H, Chiba A, Yamada S, Yamaguchi Y : Carotid intima-media thickness does not predict the development of intracranial atherosclerotic disease and perforator arteriosclerosis. The 6th World Stroke Congress , Austria ,Sep.24-27,2008.
78. Niina Y , Yamada S, Okazaki M, Matsumoto Y , Saito Y, Kurita H, Nishiyama K, Okajima Y, Yamaguchi Y: A nurse-led dysphagia rehabilitation program in an acute stroke unit. The 6th World Stroke Congress, Austria ,Sep.24-27,2008.
79. Hashimoto K, Okazaki M, Niina Y, Matsumoto Y, Saito Y, Yamada S, Kurita H, Nishiyama K, Okajima Y, Yamaguchi Y: A nurse-led intervention for improving oral hygiene in patients following stroke. The 6th World Stroke Congress, Austria ,Sep.24-27,2008.
80. Yamada S, Momma H, Kurita H, Nishiyama K, Matsumoto Y, Okajima Y, Yamaguchi Y: Prognostic prediction models for use in acute stroke rehabilitation. The 6th World Stroke Congress, Austria , Sep.24-27,2008.
81. Tojyo Y, Yamada S, Kurita H, Nishiyama K, Matsumoto Y, Okajima Y, Yamaguchi Y: Significance of ADL evaluation by the FIM among stroke patients who are transferred to a rehabilitation hospital. The 6th World Stroke Congress, Austria ,Sep.24-27,2008.
82. Ishita K, Yamada S, Momma H, Okajima Y, Kurita H, Nishiyama K, Matsumoto Y, Yamaguchi Y : Motor dysfunction and recovery in the upper limb following stroke. The 6th World Stroke Congress, Austria, Sep.24-27,2008.
83. Nishiyama K1, Seyama H, Okano H1, Kawai T, Matsumoto Y1, Yamada S1, Kurita H, Chiba A1, Yamaguchi Y1 (1Stroke Center Kyorin Univ) Investigation of initial dose regimen for cilostazol treatment in acute-stage cerebral infarction. The 6th World Stroke Congress , Austria, Sep.24-27,2008.

84. Yamada S1, Nishiyama K1, Okano H1, Seyama H, Kawai T, Arakawa C1, Kurita H, Chiba A1, Yamada S1, Yamaguchi Y1 (1Stroke Center Kyorin univ) :Carotid intima-media thickness does not predict the development of intracranial atheromatous disease and perforator arteriosclerosis. The 6th World Stroke Congress, Austria, Sep.24-27,2008.
85. Ushigome Y1, Nishiyama K1, Kawai T,Okano H1 ,Takami M1,Yamada S1 ,Matsumoto Y1,Kurita H,Yhmaguchi Y1 (1Stroke Center Kyorin univ) :Subacute Encapsulation of Intracranial Hemorrhage with Clinical Deterioration.The 6th World Stroke Congress,Austria, Sep.24-27,2008.
86. Okano H1 , Nishiyama K1 ,Kawai T, Udagawa M1, Seyama H, Matsumoto Y1, Yamada S1, Kurita H, Chiba A1, Yamaguchi Y1(1Stroke Center Kyorin univ):Investigation on apoplexy-related drugs used at large stroke care center in Japan. The 6th World Stroke Congress, Austria,Sep.24-27,2008.
87. 中村歩希 1、檜山孝美 1、大久保信治 1、工藤 忠 1、小林博雄 1(1 石岡循環器科脳神経外科病院):Indocyanine green (ICG)による videoangiography を用いた手術治療の検討. 第 67 回日本脳神経外科総会、岩手、2008 年 10 月 1-3 日.
88. 永根基雄, 小林啓一, 清水早紀, 水谷徹 1, 塩川芳昭 (1 府中病院脳神経外科) : 膠芽腫に対する temozolomide 療法における予測因子MGMTの解析法の検討.岩手, 2008 年 10 月 1-3 日
89. 小西善史、塩川芳昭、深作和明 1、竹内昌孝 2、新井紀大 3、高倉葉子 3、尾棹敦 3 (1 碑文谷病院・理研、2 東海大学脳神経外科、3 東京農工大学) : 脳動脈瘤の分岐部血流評価 In vitro study Divergence department bloodstream evaluation of the cerebralaneurysm In vitro study. 第 67 回脳神経外科総会、岩手、2008 年 10 月 1-3 日.
90. 塩川芳昭 : 社会への発信 予防医学における脳神経外科医の役割.第 67 回日本脳神経外科学会総会、盛岡、2008 年 10 月 1 日.
91. 塩川芳昭:Coil 塞栓術後の再発動脈瘤の手術. 第 67 回日本脳神経外科学会総会、盛岡、2008 年 10 月 1 日.
92. 塩貝敏之 : 経頭蓋 Color Duplex Sonography 探触子固定装置 (Sonopod) を用いた椎骨・脳底動脈の連続モニタリング. 第 67 回日本脳神経外科学会総会、盛岡、2008 年 10 月 1 日.
93. 深作和明 : 離脱式コイルの離脱部付近の構造の検討. 第 67 回日本脳神経外科学会総会、盛岡、2008 年 10 月 1 日.
94. 永山和樹 : 消化器癌からの脳転移病変に対する定位放射線治療. 第 67 回日本脳神経外科学会総会、盛岡、2008 年 10 月 1 日.
95. 鳥居正剛 : 受療満足度の観点からみた未破裂脳動脈瘤治療適応の個別的決定に関する因子の検討. 第 67 回日本脳神経外科学会総会、盛岡、2008 年 10 月 1 日.
96. 栗田浩樹, 山口竜一, 佐藤栄志, 小西善史, 宮崎 寛, 塩川芳昭:Coil 塞栓術の併用により破裂脳動脈瘤の治療成績は向上した:clip first 施設での 14 年間 1268 例の治療経験より. 第 67 回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 2008 年 10 月 1-3 日.
97. 栗田浩樹, 山口竜一, 池田俊貴, 塩川芳昭 : 破裂 AVM に対する急性期手術. 第 67 回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 2008 年 10 月 1-3 日.
98. 山田 深, 栗田浩樹, 永根基雄, 塩川芳昭 : 多職種連携診療体制(Brain Surgery and Rehabilitation

- unit: BSRU)構築の試み. 第 67 回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 2008 年 10 月 1-3 日.
99. 大野晋吾 1、永山和樹、深作和明 1、奈良一成 1、小西善史 (1 碑文谷病院脳神経外科): 頭蓋内血腫を伴った破裂脳動脈瘤に対する脳血管内手術と開頭血腫除去術の併用の有効性. 第 67 回日本脳神経外科学会総会、盛岡、2008 年 10 月 1-3 日.
 100. 脊山英徳: 杏林大学脳卒中センターにおける頸動脈狭窄症に対する治療. 第 67 回脳神経外科総会、岩手、2008 年 10 月 1 日-3 日.
 101. 山口竜一、栗田浩樹、池田俊貴、宮崎 寛、塩川芳昭: 当院における神経内視鏡下血腫除去術の治療戦略. 第 67 回日本脳神経外科学会総会、盛岡、2008 年 10 月 1-3 日.
 102. 岡村耕一、脊山英徳、栗田浩樹、西山和利、山田 深、塩川芳昭、山口芳裕: 心源性脳梗塞における超急性期抗凝因療法の評価. 第 67 回日本脳神経外科学会総会.盛岡、2008 年 10 月 1-3 日.
 103. 本田有子、脊山英徳、栗田浩樹、西山和利 1、2、山田深 1、3、塩川芳昭、山口芳裕 1、4 (杏林大学 1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション医学、4 救命救急医学): 杏林大学脳卒中センターで施行した tPA 静注療法 89 例の治療成績. 第 67 回日本脳神経外科学会総会、盛岡、2008 年 10 月 1-3 日.
 104. 小林啓一: 杏林大学における転移性脳腫瘍治療の現況. 第 67 回日本脳神経外科学会、盛岡、2008 年 10 月 2 日.
 105. 栗田浩樹: 講演 脳卒中センターにおけるチーム医療と地域医療連携: 脳神経外科医の立場から. 第 140 回秋元ゼミナール, 東京, 2008 年 10 月 7 日.
 106. 麻生有二: マレーシアでの遠隔医療の報告—国際協力としての遠隔医療 日本遠隔医療学会、岐阜、2008 年 10 月 11 日.
 107. 小林啓一、永根基雄、永山和樹、塩川芳昭: 杏林大学病院における転移性脳腫瘍治療の現況. 第 10 回多摩脳腫瘍研究会、三鷹市、2008 年 10 月 11 日.
 108. 小林啓一、永根基雄、永山和樹、塩川芳昭: 杏林大学病院における転移性脳腫瘍治療の現況. 第 10 回多摩脳腫瘍研究会、2008 年 10 月 11 日.
 109. 塩川芳昭: 特別講演 脳卒中の外科治療最近の話題. Fighting Vilsular Events in Gift 2008、岐阜市、2008 年 10 月 15 日.
 110. 橋本和巳、竹内杏奈、菊池道代、清水仁美、松本由美、栗田浩樹: 軽症脳梗塞患者の再発予防のための生活習慣・退院指導に関する実態調査. 脳梗塞地域診療連携研究会, 武蔵野市, 2008 年 10 月 16 日.
 111. 塩川芳昭: モーニングセミナー 脳動脈瘤手術の基本. 第 18 回福光太郎記念比叡山脳神経外科カンファランス、大阪、2008 年 10 月 18 日.
 112. 小林啓一: 術中モニタリング及び術中蛍光診断を併用したナビゲーション下神経膠腫摘出術～摘出率向上をめざして. 第 13 回日本脳腫瘍の外科学会、守口市、2008 年 10 月 20 日.
 113. 栗田浩樹、山口竜一、塩川芳昭: 髄膜腫手術における静脈温存手技. 第 13 回日本脳腫瘍の外科学会、大阪、2008 年 10 月 20-21 日.
 114. 栗田浩樹: シンポジウム tPA 療法と SU 診療体制. 第 11 回日本栓子検出と治療学会、倉敷、2008 年 10 月 31 日-11 月 1 日.
 115. 門間 博 1、山田 深 1、3、東條友紀子 1、石田幸平 1、松本由美 4、脊山英徳、栗田浩樹、西

- 山和利 1、2、岡島康友、山口芳裕 1、5 (杏林大学 1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション科、4 看護部、5 救命救急科) : 脳卒中ユニット導入に伴う病棟 ADL 介助量の構造変化. 第 11 回日本栓子と治療学会、倉敷、2008 年 10 月 31 日-11 月 1 日.
116. 栗田浩樹 : 講演 脳卒中ってどんな病気? その種類と危険因子. 小金井市市民公開講座, 東京, 2008 年 11 月 8 日.
117. 深作和明 1、3、根来億 2、小西善史、野田茂穂 1、姫野龍太郎 1、奈良一成 3、福井一裕 4、大野晋吾 3、塩川芳昭 (1 理化学研究所、2 藤田保健衛生大学脳神経外科、3 碑文谷病院脳神経外科、4 福井脳神経外科) : 脳動脈瘤ブレブ部分の流れの特徴とその血管撮影所見についての一考察. 第 24 回日本脳神経血管内治療学会. 名古屋市、2008 年 11 月 13 日.
118. 大島幸亮 1、寺田友昭 3、檜山孝美 1、小林博雄 1、大久保信治 1、工藤 忠 1、遠藤慎一 2(石岡循環器科脳神経外科病院 1 脳神経外科、2 心臓血管外科、3 和歌山労災病院脳神経外科): 仮性又は完全内頸動脈閉塞例に対する CAS 時における IVUS の有川性. 第 24 回日本脳神経血管内治療学会総会(優秀ポスター賞:新しい技術テクニカルノート)、2008 年 11 月 13-15 日.
119. 三上大介 1、西山和利 1、2、岡村耕一、岡野晴子 1、2、松本由美 1、3、山田 深 1、4、栗田浩樹、千葉厚郎 2、山口芳裕 1、5 (1 脳卒中センター、2 神経内科、3 看護部、4 リハビリテーション医学、5 救命救急医学) : 硬膜外麻酔施行中に突発完成型の発症をし、脳塞栓症との鑑別に苦慮した reversible posterior leukoencephal syndrome の一例、第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
120. 西山和利 1、2、脊山英徳、岡野晴子 1、2、岡村耕一、松本由美 4、山田 深 1、3、松田剛明 5、栗田浩樹、山口芳裕 1、5 (杏林大学 1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション科、4 看護部、5 救命救急科) 脳卒中急性期における頭痛に関する研究一特に椎骨脳底動脈解離に注目して. 第 36 回日本頭痛学会総会、東京、2008 年 11 月 14-15 日.
121. 小西善史、佐藤栄志、塩川芳昭、竹内昌孝 1、深作和明 2、大野晋吾 2、豊山弘之 3、島田篤 4 (1 東海大学脳神経外科、2 碑文谷病院、3 志田記念病院、4 白河病院) : 脳動脈瘤におけるコイル瘤内塞栓術一最近のコイルの使川経験. 第 24 回日本脳神経血管内治療学会、名古屋市、2008 年 11 月 15 日.
122. 梅本朋幸 1、竹内昌孝 3、石黒朋子 2、小西善史、小山誠剛 2、柴田憲男 2、畑 明宏 1、阿波根朝光 2 (1 葛西循環器脳神経外科病院循環器科、2 脳神経外科、3 東海大学脳神経外科) : 大動脈弁狭窄症を合併した高齢女性に対して頸動脈ステント留置術を行い、術後 3 日目に心肺停止となった 1 例. 第 24 回日本脳神経血管内治療学会、名古屋市、2008 年 11 月 15 日.
123. 石黒朋子 1、竹内昌孝 3、梅本朋幸 2、久保田俊介 1、村岡頼憲 1、小山誠剛 1、柴田憲男 1、阿波根朝光 1、小西善史 (1 葛西循環器脳神経外科病院循環器科、2 脳神経外科、3 東海大学脳神経外科) : 急性期ステント留置術を施行した内頸動脈解離の 1 例. 第 24 回日本脳神経血管内治療学会、名古屋市、2008 年 11 月 15 日.
124. 佐藤栄志、小西善史、脊山英徳、栗田浩樹、塩川芳昭 : 直達術後前交通動脈瘤に対するコイル塞栓術による再治療一不完全クリッピング術・クリッピング術後再発例の場合. 第 24 回日本脳神経血管内治療学会、名古屋市、2008 年 11 月 15 日.
125. 佐藤栄志、小西善史、脊山英徳、栗田浩樹、塩川芳昭 : 脳動脈瘤に対する直達手術と血管内治

療の併用治療. 第 24 回日本脳神経血管内治療学会, 名古屋市, 2008 年 11 月 15 日

126. 深作和明 1、根来眞 2、小西善史、大野晋吾 3、永山和樹 3、横田秀夫 1、奈良一成 3、姫野龍太郎 1、塩川芳昭 (1 理化学研究所、2 藤田保健衛生大学脳神経外科、3 碑文谷病院脳神経外科) : 脳動脈瘤治療における高解像度 MRA の有用性. 第 24 回日本脳神経血管内治療学会. 名古屋, 2008 年 11 月 15 日.
127. 栗田浩樹 : 講演 杏林大学脳卒中センターの活動について. 杉並医師会医療連携研究会, 三鷹, 2008 年 11 月 15 日.
128. 浅原千歩 1、岡村耕一、西山和利 1,2、岡野晴子 1,2、山田深 1,4、松本由美 1,3、栗田浩樹、塩川芳昭、千葉厚郎 2、山口芳裕 1, 4 (1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション医学、4 救命救急医学) : 心原性脳塞栓症における超急性期抗凝因療法の評価. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
129. 小田未来 1、西山和利 1,2、岡野晴子 1,2、岡村耕一、松本由美 1,3、山田深 1,4、栗田浩樹、千葉厚郎 2、山口芳裕 1,4 (1 脳卒中センター、2 神経内科、3 看護部、4 リハビリテーション医学、5 救命救急医学) : 右前大脳動脈梗塞により消去現象を伴わない左半側空間無視を呈した一例. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
130. 島田 篤 1、野口明男 1、佐藤栄志、小西善史、塩川芳昭 (1 白河病院脳神経外科) : 超急性期塞栓性内頸動脈閉塞症に対する局所線溶療法一保存的療法群との比較・検討. 第 24 回日本脳神経血管内治療学会、名古屋市、2008 年 11 月 15 日.
131. 牛込悠紀子 1、西山和利 1,2、河合拓也、岡野晴子 1,2、松本由美 1,3、栗田浩樹、千葉厚郎 2、山口芳裕 1,5 (杏林大学 1 脳卒中センター、2 神経内科、3 看護部、4 リハビリテーション医学、5 救命救急医学) : 脳出血亜急性期に血腫被膜様化を示す症状の憎悪を認めた特異な脳出血の 2 例. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
132. 田中雅樹、西山和利 1,2、岡村耕一、岡野晴子 1,2、松本由美 1,3、山田 深 1,4、栗田浩樹、千葉厚郎 2、山口芳裕 1,5 (1 脳卒中センター、2 神経内科、3 看護部、4 リハビリテーション医学、5 救命救急医学) : ラクナ梗塞との鑑別に苦慮した高カルシウム血症の一例. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
133. 石崎典彦 1、山田智美 1、2、本田有子、鳥居正剛、脊山英徳、山田 深 1、3、松本由美 1、4、栗田浩樹、西山和利 1,2、千葉厚郎 2、塩川芳昭、山口芳裕 1,4 (1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション医学、4 救命救急医学) : 脳梗塞急性期にのみ alien hand syndrome を呈した 1 症例・第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
134. 石崎典彦 1、山田智美 1,2、本田有子、鳥居正剛、脊山英徳、山田 深 1,3、松本由美 1,4、栗田浩樹、西山和利 1,2、千葉厚郎 2、塩川芳昭、山口芳裕 1,4 (1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション医学、4 救命救急医学) : 脳梗塞急性期にのみ alien hand syndrome を呈した 1 症例. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
135. 佐藤研隆、永根基雄、藤岡保範 1、塩川芳昭 (1 杏林大学 病理学教室) : 右前大動脈梗塞により消去現象を伴わない左半側空間無視を呈した一例. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
136. 宮方基行 1、平岩直也、山田智美 1,2、本田有子、脊山英徳、山田深 1,2、栗田浩樹、西山和利

- 1、2、塩川芳昭、千葉厚郎 3、山口芳裕 1、4 (1脳卒中センター、2神経内科、3リハビリテーション医学、4救命救急医学) : 口顔面失行を呈した脳梗塞の一例. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
137. 平岩直也、脊山英徳、山田智美 1、本田有子、西山和利 1、栗田浩樹、佐藤栄志、塩川芳昭、山口芳裕 1 (1 杏林大学 脳卒中センター) : rt-PA 時代の経動脈的血栓溶解法. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
138. 李政動、宮崎寛、山口竜一、手塚彩子 1、谷垣伸治 1、塩川芳昭 (1 杏林大学 産婦人科学) : 脳出血により植物状態となった母体より帝王切開術にて拳児を得た一例. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、2008 年 11 月 15 日.
139. 大島幸亮 1、寺田友昭 3、檜山孝美 1、小林博雄 1、大久保信治 1、工藤 忠 1、遠藤慎一 2(石岡循環器科脳神経外科病院 1 脳神経外科、1 心臓血管外科、3 和歌山労災病院脳神経外科): 頸部内頸動脈仮性および完全閉塞例に対する血行再建術. 第 9 回茨城脳神経血管内治療カンファレンス、つくば、2008 年 11 月 22 日.
140. Koga M1、Toyoda KI、Naganuma M1、Kario K2、Nakagawa J3、Furui E4、Shiokawa Y、Hasegawa Y5、Okuda S6、Yamagami H7、Kimura K8、Okada Y9、Minematsu KI : Nationwide Survey for Hyperacute Blood Pressure Lowering in patients with Intracerebral Hemorrhage in Japan. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference. Fukuoka、Nov.22.2008.
141. Nagane M、Shimizu M、Mori E1、Kataoka S1、Shiokawa Y (1Discovery Research Laboratories、Kirin Pharma Company; Limited : Combined treatment with histone deacetylase inhibitors enhances cytotoxic activity of anti-DR5/TRAIL-R2 monoclonal antibodies in human glioma cells. 13th Annual : Meeting of Society of Neuro-Oncology, Las Vegas, Nov20-23,2008.
142. Kurita H、Shiokawa Y、Saito I、Yamaguchi R、Seyama H、Nishiyama K、Yamada S、Matsumoto Y、Yamaguchi Y: Analysis of clinical outcome of aneurismal subarachnoid hemorrhage: a single institution experience with 1268 patients. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka. Nov21-23,2008.
143. Hashimoto K、Okazaki M、Niina Y、Matsumoto Y、Saito Yamada S、Kurita H、Nishiyama K、Okajima Y、Yamaguchi Y: A nurse-led intervention for improving oral hygiene in patients following stroke. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, Nov.21-23, 2008.
144. Kamiyama H、Yamada S、Momma H、Okajima Y; Kurita H、Nishiyama K、Yamada S、Matsumoto Y、Yamaguchi Y : Motor function as predicting factors for locomotive abilities in patients with acute stroke. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, Nov.21-23,2008.
145. Honda Y、Seyama H、Kurita H、Nishiyama K1、Yamada S2、Matsumoto Y3、Shiokawa Y、Yamaguchi Y4(1Department of Neurosurgery and Stroke Center、2Department of Neurology and Stroke Center、3Department of Nursing and Stroke Center、4Department of Emergency Medicine and Stroke Center、Kyorin university Hospital): Clinical analysis of intravenous tPA therapy for Hyperacute ischemic stroke: 2-year experience with 89 Cases. The

4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference.Fukuoka,Nov.22、2008.

146. Nozue K、Kurita H、Shiokawa Y : Distal Trans-sylvian Key Hole Approach for Supratentorial Aneurysms. The 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference.Fukuoka、Nov 25、2008.
147. 山口竜一、栗田浩樹、小林啓一、河合拓也、林 基高、塩川芳昭 : 当院における神経内視鏡下脳内血腫除去術の治療戦略. 第 15 回日本神経内視鏡学会、東京、2008 年 11 月 21-22 日.
148. 岡野晴子 1、西山和利 1、山田智美 1、脊山英徳、千葉厚郎 1 (1 杏林大学脳卒中センター) : 脳血管撮影時に脳出血を合併し後に CG 産生腫瘍と診断された 43 歳女性例. 第 187 回神経学会関東地方会、2008 年 11 月 29 日.
149. 永根基雄、小林啓一、清水早紀、水谷徹 1、Andreas Waha²、塩川芳昭 (1 府中病院脳神経外科、²Universitätsklinikum Bonn) : MGMT 解析による temozolomide 療法効果の検討 06-methylguanine-DNA methyltransferase testings for temozolomide efficacy on glioblastoma. 第 26 回日本脳腫瘍学会、松山、2008 年 12 月 1 日.
150. 小林啓一 : 中枢神経系リンパ腫に対する大量 MTX 療法単独による初期治療の検討. 第 26 回日本脳腫瘍学会、松山市、2008 年 12 月 1 日.
151. 永根基雄、小林啓一、清水早紀、塩川芳昭 : 低悪性度乏突起膠腫系腫瘍に対する化学療法単独による初期治療の検討. 第 26 回日本脳腫瘍学会、松山、2008 年 12 月 1 日.
152. 小林啓一、永根基雄、塩川芳昭 : 中枢神経系リンパ腫に対する大量 MTX 療法単独による初期治療の検討. 第 36 回ニューロ・オンコロジーの会、新宿区、2008 年 12 月 6 日.
153. 横矢重臣、永根基雄、小林啓一、塩川芳昭 : 再発悪性神経膠腫に対する carboplatin/etoposide の併用療法. 第 36 回ニューロ・オンコロジーの会、新宿区、2008 年 12 月 6 日.
154. 野口明男 : 脳卒中考える 死亡率高く重い後遺症. ふくしま健康ライフ講演会、福島県棚倉町、2008 年 12 月 7 日.
155. 檜山孝美、大島幸亮 1、大久保信治 1、工藤 忠 1、小林博雄 1、工藤 忠 1、田中俊英 2、塩川芳昭 (1 石岡循環器科脳神経外科、² 東京慈恵会医科大学付属柏病院) : 脳溝經由の最小限の皮質切開で摘出した左側脳室三角部髄膜腫の 1 例. 第 107 回日本脳神経外科学会関東支部会、東京、2008 年 12 月 13 日.
156. 門脇親房 : 脳室拡大 : 側脳室サイズとシネ MR による側脳室の一心拍内動的変化からみた診断とシャント適応. JSHCSF 第一回学術集会. 2008 年 12 月 13 日.
157. 平岩直也、山口竜一、鳥居正剛、栗田浩樹、塩川芳昭 : 静脈性梗塞で発症した完全血栓化 AVM の一例 Complete thrombosed Aeterio-venous Malformation due to venous infarction : A case report. 関東地方会、2008 年 12 月 13 日.
158. 檜山孝美 1、大久保信治 1、小林博雄 1、工藤 忠 1、田中俊英 2、塩川芳昭 (1 石岡循環器科脳神経外科病院脳神経外科、² 慈恵医科大学柏病院) : Gerstman 症候群で発症した左側脳室三角部髄膜腫の 1 例. 第 107 回日本脳神経外科学会関東支部会、東京、2008 年 12 月 13 日 大島幸亮 1、寺田友昭 2、檜山孝美 3 (1 川崎市立多摩病院脳神経外科、² 紆口歌山労災病院脳神経外科、³ 石岡循環器科脳神経外科病院脳神経外科) : 未破裂 P2-P3 broad neck aneurysm に対し、治療を行った 1 例. 第 35 回近畿脳血管内ワークショップ、伊勢、2008 年 1 月 12 日

159. 栗田浩樹、山口竜一、佐藤栄志、小西善史、脊山英徳、塩川芳昭:杏林大学におけるくも膜下出血の急性期治療システムと治療予後の変遷. 第 14 回脳神経外科救急学会、さいたま、2009 年 1 月 16-17 日.
160. 塩川芳昭:特別講演くも膜下出血の予防と治療.第 23 回藤田保健衛生大学脳神経外科市民公開講座、名古屋市、2009 年 1 月 25 日.
161. 永根基雄:再発膠芽腫に対する temozolomide 療法効果とMGMT解析法の検討.第 4 回脳腫瘍の基礎シンポジウム、東京、平成 21 年 1 月 31 日.
162. 深作和明 1、小西善史、新井紀夫 2、鷹崎悠一 2、高倉葉子 3、奈良一成 3、塩川芳昭 (1 理化学研究所、2 東京農業大学、3 碑文谷病院) 動脈瘤への流れとカテーテルの影響の解析—安全な血管内治療を目指して.第 38 回日本神経放射線学会、水戸市、2009 年 2 月 4 日.
163. 深作和明 1、根来眞 2、小西善史、奈良一成 3、長谷部隆博 3、大野晋吾 3、永山和樹 3、野田茂穂 1、塩川芳昭 (1 理化学研究所、2 藤田保健衛生大学、3 碑文谷病院) :Subtracted TOF MRA の試み.第 38 回日本神経放射線学会、水戸市、2009 年 2 月 4 日.
164. 萬 知子 1、塩川芳昭、安田博之 1、玉田 尚 2、鶴沢康二 1 (杏林大学 1 麻酔科、2 救急医学科) : 中心静脈穿刺資格制度と穿刺時エコー使用推奨による合併症軽減策—杏林大学医学部附属病院での取り組み.第 36 回日本集中治療医学会、大阪、2009 年 2 月 26-28 日.
165. 脊山英徳:杏林大学脳卒中センターにおける脳卒中急性期治療.脳神経外科連携講演会、世田谷区、2009 年 3 月 13 日.
166. 脊山英徳、栗田浩樹、西山和利 1、山田深 2、佐藤栄志、小西義史、塩川芳昭、山口芳裕 3 (杏林大学 1 リハビリテーション科、2 神経内科、3 救命救急科) : 杏林大学病院脳卒中センターにおける CEA と CAS の治療成績.第 34 回日本脳卒中学会、松江、2009 年 3 月 20 日.
167. 小松原弘一郎 1、水谷 徹 1、小西善史、佐藤栄志、塩川芳昭 (1 都立府中病院) : 大動脈炎症候群に起因した頸動脈狭窄病変に CAS を行った一例. 第 37 回日本脳卒中の外科学会、京都、2008 年 3 月 20 日.
168. 野口明男、島田 篤:虚血性脳卒中に対する抗血小板剤 2 剤併用療法の実用性.第 34 回日本脳卒中学会、松江、2009 年 3 月 21 日.
169. 栗田浩樹、脊山英徳、西山和利 1、岡野晴子 1、岡村耕一、山田深 1、松本由美 1、加藤雅江 1、山口竜一、河合拓也、塩川芳昭、山口芳裕 1 (1 杏林大学 脳卒中センター) :Stroke Team approach による脳卒中診療の効果 : 杏林大学病院の 2007 年の治療成績から.第 34 回脳卒中学会、松江、2009 年 3 月 20-22 日.
170. 栗田浩樹、山口竜一、河合拓也、脊山英徳、西山和利 1、山田深 1、松本由美 1、山口芳裕 1、塩川芳昭 (1 杏林大学 脳卒中センター) : 救命救急・脳卒中センターにおける破裂 AV] V [の臨床像と急性期外科治療.第 34 回日本脳卒中学会、松江、2009 年 3 月 20-22 日.
171. 島田 篤 1、野口明男 1、佐藤栄志、小西善史、塩川芳昭 (1 白河病院脳神経外科) 超急性期塞栓性内頸動脈閉塞症に対する局所線溶療法—保存的療法群との比較・検討—Local intraarterial thrombolysis for acute occlusion of internal carotid arteries.第 34 回脳卒中学会、松江、2009 年 3 月 20-22 日.
172. 小西善史:動脈瘤への流れとカテーテルの影響の解析—安全な血管内治療を目指して.第 34 回日

本脳卒中学会、松江、2009年3月21日。

173. 塩川芳昭:コイル塞栓術後の再発動脈瘤の手術.第34回脳卒中学会、松江、2009年3月21日
174. 岡村耕一:絞頸後に類動脈解離から脳梗塞を発症した1症例の検討.第34回日本脳卒中学会総会、松江、2009年3月21日。
175. 脊山英徳、笹森寛生、栗田浩樹、山田深 1、西山和利 2、塩川芳昭、山口芳裕 3 (杏林大学 1 リハビリテーション科、2 神経内科、3 救命救急科) : 重症広範囲脳梗塞に対する内減圧術. 第34回日本脳卒中学会、松江、2009年3月22日。
176. 鳥居正剛、山口竜一、栗田浩樹、塩川芳昭、斎藤勇 1、田村晃 1、河野拓司 2、岡部慎一 3 (1 富士脳障害研究所附属病院、2 ブレインピア南太田、3 聖麗メモリアル病院) : 患者満足度の観点からみた未破裂脳動脈瘤治療適応の個別的決定に関する因子の検討. 第34回日本脳卒中学会、松江、2009年3月22日。
177. 栗田浩樹、鳥居正剛、佐藤栄志、平岩直也、塩川芳昭:直達術で治療した高齢者の硬膜動静脈奇形の1例. 第22回日本老年脳神経外科学会、広島、2009年3月27日。

II. 論文

1. 野末恭子、池田俊貴、栗田浩樹、永根基雄、藤岡保範 1、塩川芳昭 (1 杏林大学病理学教室) :術前にethesioneuroblastomaとの鑑別が困難であったsmall cell carcinonla neuronedovercrine typeの一例.Neuro-Oncology17 (1) :56-59、2007.
2. 笹森寛生 1、小林啓一、永根基雄、熊切 敦 3、藤岡保範 2、塩川芳昭 (1 城山病院、2 杏林大学病理学、3 富士脳障害研究所病院) :ステロイド療法を施行した後頭葉 Lymphomatoid granulomatosisの一例.Neuro-Oncology17 (2) :31-36、2007.
3. 町野 朔 1、武下 浩 2、竹内一夫、坂部武史 3、松本美志也 3、石田和慶 3、村川敏介 2、松本治彦 2、佐藤栄志 (1 上智大学大学院、2 宇部フロンティア大学、3 山口大学大学院) :小児脳死判定基準の再検討平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金による厚生労働科学特別研究事業「移植医療の法的・社会的基盤に関する研究」平成 18 年度総括・分担研究報告書、2007.
4. 斎藤勇 :脳動脈瘤の外科的治療法 脳動脈瘤手術の歴史.Clinical Neuroscience 月刊臨床神経科学 vol.26No.12:1348-1351、2008.
5. 塩川芳昭:国立循環器病センターにスタッフを派遣させていただいた立場から. 国立循環器病センター脳神経外科年報、2008.
6. Iizuka Y1、 Suzuki M 1、 Komura S1、 Shimoji K1. Tsutsumi Y2、 KonishiY、Kaneko K3 (1Division of Neuroradiology、 Department of Radiology、 Juntendo univ、 2Department of Radiology、 National Center for Child Health and Development、3Department of Pediatric、 Juntendo urayasu Hospital) Hydrovenous Disorder in vein of Galen AneurysmaI Dilatation: Special Focus on lonsilar Prolapse.The Neuroradiology Journal 21: 57-64、2008.
7. Iizuka Y1、 Suzuki M1、 Yoshimura N1、 Ohno S2、 Konishi Y (1Department of Radiology Juntendo univ、2Department of Neurosurgery、 Hachioji Medical Center、 lkyo Medical Univ、 3Department of Neurosurgery、 Kyorin univ) :Paravertebral Arteriovenous Fistulas Presenting Acute Epidural Hematoma Associated with Paraplegia.The Neuroradiology Journal 21: 93-99、

2008.

8. Osao A1、 Gulbahar W1、 Takakura Y1、 Arai N1、 Konishi Y、 Fukasaku K2、 Kikuchi N1 (1Tokyo univ of Agriculture and Technology、 2 Himonya Hospital) :Numerical Study on Flow-Adeaptive Stents. Advanced Materials Research.Advanced Materials Research、 vols.33-37: 1037-1042、2008.
9. Gulbahar W、 KoboriT、Takakura Y、 AraiN、KonishiY、and Fukasaku K Numerical Simulation of Flows in a Pipe with an Aneurysmal Sac: Effects of Aneurysmal Models and Stents.Advanced Materials Reseach、 vols.33-37:1031-1036、2008.
10. 門脇親房 1 (1 エビノ苑) :Book&JournalReview.MR CSF flow examination as a non-invasive method of determining shunt-independent hydrocephalus in children with implanted ventriculoperitoneal shunt.Preliminary results.小児の脳神経 vol133No.5: 212-218.2008.
11. 永根基雄:Central Nervous System Tumor 脳腫瘍グリオーマ III悪性グリオーマ治療における薬剤耐性機構の最近の知見-temozolomide 耐性・分子標的薬・脳腫瘍幹細胞. 癌と化学療法 vol.35 June: 918-925,2008.
12. Nagane M, Nozue K, Shimizu S, Waha A1, Miyazaki H, Kurita H, Homori M2, Fujioka Y3 , Shiokawa Y(1Department of Neuropathology, University of Bonn, 2Department of Hematology, 3Department of PathologyKyorin University) : Prolonged and severe thrombocytopenia with pancytopenia induced by radiation-combined temozolomide therapy in a patient with newly diagnosed glioblastoma-analysis of O 6-methylguanine-DNA methyltransferase status. Journal of Neuro-Oncology, Springer US, 27.11.2008, vol. 92, no. 2, pp. 227-232.
13. Kurita H : The protective effect of 21-aminosteroid U-74389G against the apoptosis of oligodendrocytes induced by radiation in the adult rat brain.,JAPAN BRAIN FOUNDATION2005 ・ 2006 年度研究報告.2008年2月29日.
14. 野北一樹 1、山田深 1、栗田浩樹 (1 杏林大学リハビリテーション室) 脳腫瘍患者に対する理学療法介入-ADL 変化と転帰について-. 日本私立医科大学理学療法学会誌 25 : 65-68、2008.
15. 栗田浩樹、塩川芳昭: VI疾患別各論<脳疾患>7.脳動静脈奇形. 神経疾患最新の治療 2009-2011、2008.
16. 栗田浩樹 : 若年性脳卒中と血管異常 若年者の脳出血-脳動静脈奇形を中心に分子脳血管病 vol.7 No.2: 39-43、2008.
17. 栗田浩樹、脊山英徳、山口竜一、西山和利 1、岡野晴子 1,2、山田 深 1,3、松本由美 1,5、加藤雅江 1,6、山口芳裕 1,4、塩川芳昭 (杏林大学 1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション科、4 救急医学、5 看護部、6 医療相談室) 脳卒中センター開設が大学病院の脳卒中診療をどのように変えたか-杏林大学の経験.第 26 回 The Mt Fuji Workshop on CVD プロシーディング:76-79.にゅーろん社、東京、2008.
18. 谷川緑野 1、杉村敏秀 1、日野 健 1、泉 直人 1、三井宣幸 1、橋本政明 1、上山博康 2 (1 網走脳神経外科病院、2 旭川赤十字病院) : もやもや病に対する前大脳動脈、中大脳動脈への直接血行再建とその効果. 脳卒中の外科 36vo15:386-394、2008.
19. 寺尾 亨 1、井出勝久 1、谷口 真 1、中内 淳 1、磯尾綾子 1、高橋 宏 1、山崎隆史 1 (1 都立神経病院脳神経外科) : 胸郭出口症候群の診断と治療方針-頸椎疾患との鑑別のための補助診断につい

ての検討-NEUROLOGICALSURGERY.脳神経外科 vol.36 N0.7:615-623 JUL 2008.

20. Kobayashi K, Ohnishi A, Promsk J, Shimizu S, Kanai Y, Shiokawa Y, Nagane M : Enhanced tumor growth elicited by l-type amino acid transporter 1 in human malignant glioma gells. Neurosurgery vol62:493-498, 2008.
21. 小林啓一、永根基雄、塩川芳昭：初発悪性神経膠腫に対する術後放射線併用 PAV 変法療法 Modified PAV (mPAV) therapy for newly-diagnosed malignant gliomas. Neuro-Oncology17 (1) 2007: 33-35、2008.
22. 脊山英徳、塩川芳昭：急性期血行再建療法の新展開 血栓溶解療法の新たな展開 静注療法および局所線溶解療法の併用療法. 分子脳血管病 vol.7N0.3: 40-45、2008.
23. 脊山英徳、栗田浩樹、西山和利、山田 深、塩川芳昭、松本由美、加藤雅江、山口芳裕：杏林大学病院における大都市型 stroke unit の新規開設と今後の展望 Neurisurg Emerg13:15-20、2008.
24. 脊山英徳、栗田浩樹、西山和利 1、山田 深 1、3、塩川芳昭、松本由美 1、5、加藤雅江 1、6、山口芳裕 1、4 (杏林大学 1 脳卒中センター、2 神経内科、3 リハビリテーション科、4 救急医学、5 看護部、6 医療相談室) :杏林大学病院における大都市型 stroke unit の新規開設と今後の展望-t-PA 静注療法施行体制確立の観点から-脳卒中の外科 36:470-474.2008.
25. Yamaguchi R, Kurita H, Seyama H, Yamada S, Nishiyama K, Matsumoto Y, Shimotomai Y, Momma H, Yamaguchi Y, Shiokawa Y: Treatment of ruptured anterior chroidal artery aneurysms: 12-year experience with 20 cases. J Stroke Cerebrovasc Dis (Suppl)17: S88、2008(Abstr).
26. 山口竜一、塩川芳昭：神経疾患治療ノート出血性脳血管障害-くも膜下出血 Clinical Neuroscience. 月刊臨床神経科学 vol.26、2008.
27. Stuer CI, Ikeda T2, Stoffel MI, Luippold G3, Sakowitz O4, Scaller C2, Mwiyer BI (111chnical univ of Munich, 2Univ of Bonn, 3Univ of Tbingen, 4Univ of Heidelberg) Norepineohrine and cerebral blood flow regulation in patients with arteriovenous malformations. Neurosurgery Vo162 (N06) :1-7,2008.
28. 池田俊貴、塩川芳昭：脳動脈瘤の外科的治療法 一般的な脳動脈瘤手術，術中管理，手術成績：テント下. Clinical Neuroscience 月刊臨床神経科学 vol.26N0.12:1358-1360,2008.
29. 岡村耕一、卯田 健 1、井上 亨 1、中溝 玲 1、平田陽子 1、安森弘太郎 2、矢坂正弘 3、岡田 靖 3 (独立行政法人九州医療センター 1 脳神経外科、2 放射線科、3 脳血管内科・臨床研究部) :内頸動脈偽閉塞症 (Atheromatous Pseudo-Occlusion) に対する治療戦略と転帰. 脳神経外科ジャーナル vol17N0.11: 852-863、2008.
30. 岡村耕一、塩川芳昭：脳卒中の臨床・セミナー/ベッドサイドの問題点と臨床-未破裂脳動脈瘤に対する対応.M.R12 vol25N0.12:2226-2228、2008 .
31. 塩川芳昭、栗田浩樹、藤井清孝 1、集計参加施設 (1 北里大学脳神経外科) : 急性期破裂脳動脈瘤の治療選択の現状 (第一報) 2005 年前向き集計. 脳卒中の外科 37:1~6、2009.
32. 塩川芳昭、栗田浩樹、斎藤 勇、藤井清孝 1 (1 北里大学脳神経外科) : 急性期破裂脳動脈瘤の治療選択の現状 (第二報) 2005 年前向き集計と 1994 年前向き集計との比較. 脳卒中の外科 37:7~11、2009.
33. 永根基雄：グリオーマの新しい治療薬 temozolomide (TMZ, テモダール) の最近の話題 MGMT と

temozolomide (TMZ) .脳 21vol.12N0.1: 38-43,2009.

34. 丸山啓介:THERAPEUTIC NOTES 脳動静脈奇形.CURRENT INSIGHTS IN Neurological Science vol17N0.1: 6-11 2009.

Ⅲ.その他

1. 斎藤 勇:脳ドックのガイドライン 2008 [改訂・第3版] .
2. 塩川芳昭:序文 NS NOW 1 基本的テント上脳動脈瘤手術安全に手術するノウハウはこれだ. 1. メジカルビュー社、東京、2008.
3. 塩川芳昭:前交通動脈瘤シルビウス裂からの接近 NS NOW1 基本的テント上脳動脈瘤手術 安全に手術するノウハウはこれだ. 新井一、大畑建治、塩川芳昭、寺本明編集. メジカルビュー社、東京、2008.
4. 塩川芳昭:神経内視鏡手術技術認定から応用まで. NS NOW2. 新井一、大畑建治、塩川芳昭、寺本明編集. メジカルビュー社、東京、2008.
5. 塩川芳昭:JAPAN BRAIN FOUNDATION 2005 ・ 2006 年度研究報告. 第 22 回スパズムシンポジウム. 平成 20 年 2 月 29 日.
6. 塩川芳昭:私のこだわり My Operative Note 外科医自身が作成、保管する手術記録ー手術トレーニングの効率向上のために. 脳神経外科速報 4 2008vol.18: 440-442.
7. 塩川芳昭:若年性脳卒中と血管異常序. 分子脳血管病 4 2008vol.7 №.2: 137. 先端医学社、東京、2008.
8. 塩川芳昭、富田博樹 1、小林貴明 2、木村勝彦 3、東郷清児 4 (1 武蔵野赤十字病院、2 武蔵野陽和会病院、3 サンククリニック三鷹、4 武蔵野ホームケアクリニック):座談会 Stroke Prevention Program 脳卒中地域連携の現状・将来展望-北多摩南部脳卒中 Network 研究会活動を通して-.Nikkei Medical 2008 6.
9. 塩川芳昭:ラジオ番組 くも膜下出血の診断と治療ラジオ対談「杏林シンポジアー脳卒中診療の進歩」. 平成 20 年 6 月 13 日.
10. 塩川芳昭、藤ヶ崎浩人 1、大桃丈友 2、神崎恒一 3 (1 武蔵野赤十字病院、2 桐光会調布病院、3 杏林大学 高齢医学):座談会 Stroke Prevention Program エリア座談会 (多摩) 脳卒中治療における抗血小板薬の可能性-プレタールの多面的作用を中心として.Nikkei Medical 2008 7.
11. 塩川芳昭:7 章脳血管障害§1 脳血管障害総論. 脳神経外科学 I 改訂 10 版:433-448、金芳堂、京都、2008.
12. 塩川芳昭:7 章脳血管障害§2 脳動脈瘤 1 破裂脳動脈瘤 A 破裂動脈瘤の疫学と自然史. 脳神経外科学 I 改訂 10 版:449-450、金芳堂、京都、2008.
13. 塩川芳昭:7 章脳血管障害§2 脳動脈瘤 1 破裂脳動脈瘤 H 部位別動脈瘤. 脳神経外科学 I 改訂 10 版:511-524、金芳堂、京都、2008.
14. 塩川芳昭:7 章脳血管障害§2 脳動脈瘤 1 破裂脳動脈瘤 I 特殊な脳動脈瘤 3) 真菌性動脈瘤. 脳神経外科学 I 改訂 10 版:554-555、金芳堂、京都、2008.
15. 塩川芳昭:7 章脳血管障害§7 閉塞性脳血管障害. 脳神経外科学 I 改訂 10 版:723-824、金芳堂、京都、2008.
16. 塩川芳昭:編集委員. NS NOW3 テント上髄膜腫 アプローチから摘出まで. 新井一、大畑建治、

塩川芳昭、寺本明編集. メジカルビュー社、東京、2008.

17. 塩川芳昭：トピックス②手術記録の重要性 OPE NURSING vol.23: 82-83. メディカ出版、大阪、2008.
18. 塩川芳昭：取材記事 シリーズ怖い脳卒中（8）くも膜下、脳内出血手術. 釧路新聞 4面.2008年6月16日.
19. 塩川芳昭：取材記事 シリーズ怖い脳卒中（8）くも膜下、脳内出血手術. 十勝新聞 20面.2008年7月21日.
20. 塩川芳昭：取材記事 シリーズ怖い脳卒中（8）くも膜下、脳内出血手術. 岩手日日 4面.2008年8月4日.
21. 塩川芳昭：取材記事 シリーズ怖い脳卒中（8）くも膜下、脳内出血手術. 北羽新報 5面.2008年6月25日.
22. 塩川芳昭：取材記事 シリーズ怖い脳卒中（8）くも膜下、脳内出血手術. 上毛新聞 14面.2008年8月21日.
23. 塩川芳昭：取材記事 シリーズ怖い脳卒中（8）くも膜下、脳内出血手術. 神戸新聞 22面.2008年6月27日.
24. 塩川芳昭、栗田浩樹、西山和利 1、脊山英徳、山田 深 2、松本由美 3（1 杏林大学 神経内科、リハビリテーション科、3 看護部）：座談会 脳卒中治療の最前線—杏林大学脳卒中センターの役割. 日経メディカル. 平成 20年 10月.
25. 塩川芳昭： 3 外科治療の選択 脳神経外科エキスパート 脳動脈瘤:22-26.中外医学社、東京、2008.
26. 塩川芳昭：脳神経外科医のための脊椎外科 必須手法と合併症回避のコツ. NS NOW4. 新井一、大畑建治、塩川芳昭、寺本明編集. メジカルビュー社、東京、2008.
27. 武下浩 2、竹内一夫、坂部武史 1、下知恒毅 2、加藤浩子 2、村川敏介 2、石田和慶 1、河野理恵 4、宮坂勝之 5、阪井裕一 6、佐藤栄志（1 山口大学 麻酔 蘇生 疼痛管理学分野、2 宇部フロンティア大学、3 有馬温泉病院、4 目白大学人間社会学部、5 長野県立こども病院、6 国立成育医療センター）：再生・移植医療の現状と将来に向けての国際比較 小児における脳死判定基準に関する研究、平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金（先端的基板開発研究事業）.
28. 野口明男：みんなで考えよう脳卒中 高血圧を治しリスク軽減 棚倉町の町中央公民館で 7 日に開かれた第 2 回「ふくしま健康ライフ」の概要を紹介する. 読売新聞、2008 年 12 月 17 日.
29. 野口明男：みんなで考えよう脳卒中 高血圧を治しリスク軽減 棚倉町の町中央公民館で 7 日に開かれた第 2 回「ふくしま健康ライフ」の概要を紹介する. 読売新聞、2008 年 12 月 17 日..

心臓血管外科学教室

口演

- 1.高橋範子、細井 温、高橋直子、今村健太郎、布川雅雄、須藤憲一：妊娠に合併した下肢深部静脈血栓症症例に関する臨床的検討。第 36 回日本血管外科学会総会、東京、平成 20 年 4 月 16 日。
- 2.布川雅雄、高橋直子、高橋範子、今村健太郎、遠藤英仁、細井 温、須藤憲一： 感染性腹部大動脈瘤の手術術式—in-site 再建法による治療成績。第 36 回日本血管外科学会総会、東京、平成 20 年 4 月 16 日。
- 3.稲葉雄亮、井本 滋¹、伊東大樹¹、伊美建太郎¹、木村奈津子¹、呉屋朝幸¹ (¹杏林大学外科)：乳癌骨転移症例における鎮痛剤の使用に関する臨床病理学的検討。第 108 回日本外科学会定期学術集会、長崎、平成 20 年 5 月 17 日、
- 4.木内善太郎、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、遠藤英仁、土屋博司、須藤憲一：梅毒生胸部下行大動脈瘤の一例。第 146 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、 横浜、平成 20 年 6 月 7 日。
- 5.水谷顕人、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、遠藤英仁、土屋博司、須藤憲一、中村健太郎¹、坂田好美¹、吉野秀朗¹ (¹杏林大学循環器内科)：感染性心内膜炎に対する僧帽弁輪形成を伴う 2 弁置換術の一例。第 146 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、横浜、平成 20 年 6 月 7 日。
- 6.Kunihiko Tonari, Akihiko Sekiguchi¹, Tetsuhiro Takaoka¹, Kenichi Sudo, Hiroshi Kubota, Tatsuo Hujiki, Hidehito Endo, Hiroshi Tsuchiya ¹ Cardiovascular Surgery, National Center for Child Health and Development, Japan Experience of Pacemaker Implantation Five Cases for Neonatal Congenital Complete Atrioventricular Block. The 2nd Asia-Pacific Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, Jeju, Korea, May27~30, 2008.
- 7.Hiroshi Kubota: Fibrin Glue for Heart Surgery(Symposium). International Society for Invasive Cardiothoracic Surgery. 13 June , 2008, Boston
- 8.高橋直子、布川雅雄、高橋範子、今村健太郎、細井 温、須藤憲一：維持透析患者における中心静脈狭窄に対する経皮的血管形成術」に関する検討。第 28 回日本静脈学会総会、箱根、平成 20 年 6 月 12 日。
- 9.高見麻佑子、窪田 博、高橋範子、遠藤英仁、戸成邦彦、藤木達雄、須藤憲一、宮越 睦¹、谷合誠一¹、永井 亘¹、三輪陽介¹、榊 桂¹、阿部敦子¹、石黒晴久¹、塚田雄大¹、米良尚晃¹、柚須 悟¹、池田隆徳¹、坂田好美¹、吉野秀朗¹ (¹杏林大学循環器内科)：Vf で発症した Bland-White-Garland 症候群の一例。第 20 回多摩不整脈研究会、三鷹、平成 20 年 6 月 28 日。
- 10.窪田 博、戸成邦彦、遠藤英仁、土屋博司、須藤憲一：広範囲弁輪膿瘍を伴う人工弁心内膜炎に対して弁輪パッチ形成、ステントレス生体弁置換を行った 1 例。第 26 回東京胸部外科懇話会、東京、平成 20 年 7 月 21 日。

- 11.池添 亨、松延修一郎¹、小山洋伸¹、長尾 玄¹、阿部展次¹、柳田 修¹、森 俊幸¹、杉山政則¹、跡見 裕¹ (¹杏林大学消化器外科)：壊死性胃穿孔に緊急手術を施行した1例.第810回外科集談会、東京、平成20年9月13日.
- 12.高橋直子、布川雅雄、高橋範子、今村健太郎、細井 温、須藤憲一：末梢塞栓症、深部静脈血栓症を併発した多発動脈瘤の1例. 第138回血管外科症例検討会、平成20年10月11日、三鷹.
- 13.細井 温、小野塚温子¹、宮田哲郎²、重松 宏¹ (¹東京医科大学外科学第二講座、²東京大学血管外科)：近赤外分光法の静脈疾患に対する還流機能評価法としての有用性と意義. 第15回医用近赤外線分光法研究会、東京、平成20年10月26日.
- 14.布川雅雄、高橋直子、高橋範子、土屋博司、今村健太郎、細井 温、須藤憲一：下脘十二指腸動脈瘤破裂の1例. 第6回多摩血管外科学会、立川、平成20年11月1日.
- 15.Kunihiko Tonari, Effect of Adenosine for Pulmonary Hypertension Crisis -Experiment of twelve pigs. 10th Annual Conference of the Pediatric Cardiac Society of India, Cochin, Kerala, India, 8th Nov 2008.
- 16.Hiroshi Tsuchiya, Videoassisted thoracoscopic left ventricular tumor resection via superior approach in 3 cases. The International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery、Okinawa、November, 15.
- 17.Hiroshi Kubota, EPICARDIAL ELECTRICAL ISOLATION OF THE RIGHT APPENDAGE ON THE BEATING HEART USING AN INFRARED COAGULATOR. The International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery、Okinawa, November, 15, 2008.
- 18.土屋博司、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、須藤憲一：心房細動に対する外科的治療成績の検討.第21多摩不整脈研究会、立川、平成21年1月24日.
- 19.島村淳一、窪田 博、戸成邦彦、藤木達雄、遠藤英仁、土屋博司、須藤憲一、信太研二¹、高昌秀安¹、南島俊徳¹、伊波 巧¹、吉野秀朗¹ (¹杏林大 循環器内科)：LMT閉塞をきたした急性I型解離の一救命例. 第6回多摩心臓外科学会、立川、平成21年1月31日.
- 20.池添 亨、布川雅雄、高橋直子、高橋範子、今村健太郎、細井 温、須藤憲一：内臓動脈破裂の2例. 第18回東京血管外科画像診断治療研究会、東京、平成21年2月27日.

論文

1. 窪田 博、布川雅雄、戸成邦彦、細井 温、今村健太郎、高橋範子、高橋直子、藤木達雄、遠藤英仁、土屋博司、須藤憲一：Fallot四徴症根治術後の遺残短絡、三尖弁閉鎖不全、心房細動に対する手術. 胸部外科 62 : 2, 112~116, 2009.

著書

1. 窪田 博：大動脈瘤、解離性大動脈瘤、大動脈炎症候群、大動脈縮窄症.新版 ホームメヂカ 家庭医学大字典、小学館、東京、2008.

整形外科教室

[口演]

1. Satomi K: Spinal Cord Evoked Potentials on spinal disorders: Fundamental studies and clinical use. The 25th Spring Congress, The Korean Society of Spine Surgery, Seoul, April 4, 2008.
2. Satomi K: Level diagnostic neurology on cervical myelopathy. The 25th Spring Congress, The Korean Society of Spine Surgery, Seoul, April 4, 2008.
3. 田島崇, 森井健司, 望月一男, 里見和彦, 藤岡保範¹, 菊地文史² (¹杏林大・医・病理, ²日立総合病院病理科): 脂肪性軟部腫瘍における LRP および PPAR γ の発現-免疫組織化学的検討-: 第6回関東骨軟部腫瘍の基礎を語る会, 東京, 平成20年4月12日.
4. 里見和彦 (会長講演): 頸部脊髄症の病巣高位診断. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成20年4月24-26日.
5. 市村正一, 長谷川雅一, 宝亀登, 相川大介, 高橋雅人, 佐野秀仁, 里見和彦, 朝妻孝仁¹ (¹防衛医科大・整形外科) (パネルディスカッション): 骨粗鬆症性椎体骨折後の麻痺に対する脊椎短縮術. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成20年4月24-26日.
6. 長谷川雅一, 市村正一, 五十嵐一峰, 滝徳宗, 佐野秀仁, 相川大介, 高橋雅人, 里見和彦: 骨粗鬆症性椎体骨折に対するコルセット療法の効果に関する前向き研究-硬性フレームコルセットと軟性コルセットの比較-. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成20年4月24-26日.
7. 高橋雅人, 五十嵐一峰, 市村正一, 長谷川雅一, 相川大介, 佐野秀仁, 里見和彦 (パネルディスカッション): 神経学的諸腱に基づいた頸髄症手術例の検討. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成20年4月24-26日.
8. 高橋雅人, 市村正一, 長谷川雅一, 相川大介, 佐野秀仁, 里見和彦 (パネルディスカッション): 腰椎椎間板ヘルニアに伴う排尿障害の予後. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成20年4月24-26日.
9. 宝亀登, 河合大, 長谷川雅一, 相川大介, 高橋雅人, 市村正一, 里見和彦: 頸椎椎間板ヘルニアに対するレーザー減圧術の成績と問題点. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成20年4月24-26日.
10. 相川大介, 市村正一, 佐野秀仁, 五十嵐一峰, 宝亀登, 高橋雅人, 長谷川雅一, 里見和彦: 腰部脊柱管狭窄症に対する棘突起縦割侵入法による術後成績<従来法との比較及び術後 alignment>. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成20年4月24-26日.
11. 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 相川大介, 市村正一, 里見和彦: 10年以上経過した椎弓スペーサーを用いた片開き式脊柱官拡大術術後成績と頸椎柱配列. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成20年4月24-26日.
12. 滝徳宗, 太田道紀, 高橋雅人, 里見和彦 (パネルディスカッション): 脊髄誘発電位による頸髄症の障害高位診断. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成20年4月24-26日.
13. 五十嵐一峰, 渋谷賢¹, 佐野秀仁, 高橋雅人, 里見和彦, 大木紫¹ (¹杏林大・医・生理学): リーチング運動を用いた頸髄症の新しい検査法. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京, 平成20年4月24-26日.
14. 松山幸弘¹, 四宮謙一¹, 安藤宗治¹, 川端茂徳¹, 小島宗紀¹, 斎藤貴徳¹, 滝徳宗, 谷口慎一郎¹,

- 山本直也¹，谷俊一¹（¹脊椎脊髄病学会モニタリング委員会）：術中脊髄モニタリングの実態-脊椎脊髄病学会モニタリング委員会による他施設調査．第37回日本脊椎脊髄病学会，東京，平成20年4月24-26日．
15. 林光俊：スポーツドクター オリンピック5度目の挑戦．第46回全日本医師テニス大会（ちば）スポーツ医学研修会，東金，平成20年5月5日．
 16. 市村正一，宝亀登，高倉基，長谷川雅一，里見和彦，中川智之¹（¹双樹記念病院）：脊椎疾患におけるRI脳槽シンチグラム所見の検討．第81回日本整形外科学会，札幌，平成20年5月22-25日．
 17. 小谷明弘，里見和彦：骨関節感染症ガイドラインの概要（抗菌薬について）．第81回日本整形外科学会，札幌，平成20年5月22-25日．
 18. 星亨，今給黎直明，山岸賢一郎，里見和彦，丸野秀人，大畑徹也：脛骨感染性偽関節における再建術の治療成績．第81回日本整形外科学会，札幌，平成20年5月22-25日．
 19. Morii T, Mochizuki K, Kotera M, Imakiire N, Moriwaki T, Satomi K: D-Dimer value in the perioperative period of musculoskeletal tumor. 第81回日本整形外科学会，札幌，平成20年5月22-25日．
 20. 小寺正純，森脇孝博，里見和彦：人工股関節置換術後の深部静脈血栓症と肺塞栓症について-D-dimer値，FMC値を中心に．第81回日本整形外科学会，札幌，平成20年5月22-25日．
 21. 佐々木茂，小谷明弘，里見和彦：膝後外側支持機構損傷に対する手術療法の経験．第81回日本整形外科学会，札幌，平成20年5月22-25日．
 22. Takahashi M, Vattanajun A, Umeda T, Isa K, Isa T, Satomi K: Massive reorganization of the corticospinal tract might be responsible for the restoration of motor paralysis. 第81回日本整形外科学会，札幌，平成20年5月22-25日．
 23. 五十嵐一峰，渋谷賢¹，佐野秀仁，高橋雅人，里見和彦，大木紫¹（¹杏林大・医・生理学）：リーチング運動を用いた頸髄症の新しい評価法．第81回日本整形外科学会，札幌，平成20年5月22-25日．
 24. 皆川邦朋¹，岩井一正¹，平川淳一¹，林光俊，山口芳裕²（¹平川病院，²杏林大・医・救急医学）：精神疾患に伴う身体合併症に対するリハビリテーション．第11回日本臨床救急医学会総会，東京，平成21年6月8日．
 25. 藤野節^{1,3}，松本裕文¹，長谷川淳，田島崇，森井健司，本谷啓太²，中村卓郎³，望月一男，藤岡保範¹（¹杏林大・医・病理学，²杏林大・医・放射線科，³癌研究会癌研究所発がん研究部）：未報告型のEWS-ATF1キメラ遺伝子を有する高齢者明細胞肉腫の1例．第41回日本骨軟部腫瘍研究会（Bone Tumor Club），東京，平成20年6月14日．
 26. 西川洋平，山本重吉，小林裕明：大腿骨頸部偽関節症例の検討．第105回茨城整形外科集団会，水戸市，平成20年6月15日．
 27. 長谷川雅一，宝亀登，高橋雅人，小川潤，市村正一，里見和彦：高齢者頸部脊髄症の脊柱管後方拡大術の治療成績～壮年層との比較～．第20回多摩脊椎脊髄カンファレンス，立川，平成20年6月19日．
 28. 正岡利紀¹，山本謙吾¹，石井良章，飯田寛和¹，松野丈夫¹，里見和彦，豊島良太¹，鳥巢岳彦¹，宮岡英世¹，勝呂徹¹，早乙女紘一¹，四宮謙一¹，河原和夫¹，今給黎篤弘¹（¹日本整形外科学会学術

- 研究プロジェクト)：手術室環境と人工関節置換術後感染発症の関与—日整会学術研究プロジェクト調査より. 第31回日本骨関節感染症学会, 水戸, 平成20年6月27日.
29. 星亨, 今給黎直明, 山岸賢一郎, 大畑徹也: 大腿骨頸部・転子部不顕性骨折の検討. 第34回日本骨折治療学会, 福岡, 平成20年6月26-28日.
 30. 佐々木茂, 小谷明弘, 井上功三朗, 里見和彦: 膝後外側回旋不安定性を伴う腓骨頭剥離骨(arcuate sign)の1例. 第34回日本骨折治療学会, 福岡, 平成20年6月26-28日.
 31. 高山拓人, 平野純, 小寺正純, 森脇孝博, 里見和彦: Multi Fixation Hip Nail Systemを用いた大腿骨転子部骨折の治療経験. 第34回日本骨折治療学会, 福岡, 平成20年6月26-28日.
 32. 丸野秀人, 高橋雅人, 北野牧子, 佐々木茂, 小寺正純, 里見和彦: 距骨頭部骨折を伴った閉鎖性距骨完全脱臼の1例. 第34回日本骨折治療学会, 福岡, 平成20年6月26-28日.
 33. 大畑徹也, 星亨, 今給黎直明, 山岸賢一郎: 手指骨骨折に対するHoffmann II micro 創外固定の使用経験. 第34回日本骨折治療学会, 福岡, 平成20年6月26-28日.
 34. 村上元昭¹, 山崎隆志¹, 小久保吉恭¹, 星亨, 佐藤茂¹ (¹武蔵野赤十字病院・整形外科): 小児上腕骨外顆骨折に対する手術例の検討. 第34回日本骨折治療学会, 福岡, 平成20年6月27-28日.
 35. 山本重吉: 骨粗鬆症. 小山記念病院市民公開講座, 鹿嶋市, 平成20年6月28日.
 36. 佐々木茂: 膝後外側支持機構損傷の診断と治療方針. 第23回三鷹整形外科医師会, 松崎ゼミナール. 武蔵野. 平成20年7月2日.
 37. 林光俊: ナショナルチーム男子バレーボール選手の棘下筋萎縮—超音波計測を主として—いわゆるペッコリ病について—. 第34回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 東京, 平成20年7月4-5日.
 38. 林光俊: オリンピックのチームドクター—整形外科医の活動の光と陰—. 第34回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 東京, 平成20年7月4-5日.
 39. 浅見泰宏: ヒト足趾骨の趾節骨癒合と足趾骨折に関する臨床的研究. 三鷹市整形外科懇話会, 武蔵野, 平成20年7月9日.
 40. 市村正一: 脊椎疾患におけるRI 脳槽シンチグラム所見の検討. 三鷹市整形外科懇話会, 三鷹, 平成20年7月9日.
 41. 里見和彦: 腰痛診断のピットホール. 多摩整形外科懇話会, 立川, 平成20年7月10日.
 42. 里見和彦: 腰椎椎間板ヘルニア診療の動向. 埼玉西部脊椎疾患セミナー, 川越, 平成20年7月12日.
 43. 森井健司, 望月一男, 田島崇, 里見和彦: ハイドロキシアパタイト製中空ピンにおける孤立性骨嚢腫の治療成績. 第41回日整会骨軟部腫瘍学術集会, 浜松, 平成20年7月17-18日.
 44. 今給黎直明, 藤野節¹, 森井健司, 本谷啓太², 望月一男, 里見和彦, 藤岡保範¹ (¹杏林大・医・病理, ²杏林大・医・放射線医学) 膝色素性絨毛結節性滑膜炎再発後に発生した膝軟部腫瘍. 第41回日整会骨軟部腫瘍学術集会, 浜松, 平成20年7月17-18日.
 45. 田島崇, 森井健司, 望月一男, 里見和彦, 藤岡保範¹, 菊地文史², 松峯昭彦³ (¹杏林大・医・病理, ²日立総合病院病理科, ³三重大学医学部整形外科): 脂肪性軟部腫瘍におけるLRP およびPPAR γ の発現とその意義. 第41回日整会骨軟部腫瘍学術集会, 浜松, 平成20年7月17-18日.
 46. 矢部寛樹¹, 矢部啓夫¹, 森岡秀夫¹, 南雲剛司¹, 鈴木禎寿¹, 穴澤卯圭¹, 森井健司, 渡辺逸央¹, 臼井宏¹, 戸山芳昭¹ (¹慶應義塾大・医・整形): Ewing 肉腫ファミリー腫瘍の臨床的検討. 第41

回日整会骨軟部腫瘍学術集会, 浜松, 平成 20 年 7 月 17-18 日.

47. 竹内克仁¹, 矢部啓夫¹, 鈴木禎寿¹, 森井健司, 堀内圭輔¹, 中山ロバート¹, 戸山芳昭¹, 森岡秀夫¹ (慶應義塾大・医・整形): 転移抑制の試みとしてのメトロノーム化学療法—骨肉腫を中心として—. 第 41 回日整会骨軟部腫瘍学術集会, 浜松, 平成 20 年 7 月 17-18 日.
48. 吉山昌¹, 森井健司, 矢部啓夫¹, 鈴木禎寿¹, 堀内圭輔¹, 中山ロバート¹, 戸山芳昭¹, 森岡秀夫¹ (慶應義塾大・医・整形): 転移抑制剤としてのビスフォスフォネート—抗血管新生作用を中心に—. 第 41 回日整会骨軟部腫瘍学術集会, 浜松, 平成 20 年 7 月 17-18 日.
49. 藤野節¹, 知念克也¹, 森井健司, 本谷啓太², 弦間友紀³, 吉野浩³, 別府文雄³, 望月一男, 藤岡保範¹ (杏林大・医・病院病理学, ²杏林大学・医・放射線科, ³杏林大学・医・小児科): 神経芽腫の治療後 5 年の経過で発症した小児骨肉腫の 1 例. 第 41 回日整会骨軟部腫瘍学術集会, 浜松, 平成 20 年 7 月 17-18 日.
50. 平野和彦¹, 菊池文史¹, 藤原正親¹, 菅間博¹, 栗原秀一¹, 恒吉正澄¹, 稲田成作, 森井健司, 望月一男, 大沢文子², 本谷啓太², 藤原保範¹ (杏林大・医・病院病理学, ²杏林大・医・放射線科): 腹壁軟部腫瘍の 1 例. 第 41 回日整会骨軟部腫瘍学術集会, 浜松, 平成 20 年 7 月 17-18 日.
51. 市村正一: 骨代謝マーカーからみた骨質の評価. 第 8 回北海道整形外科オステオポロシスセミナー, 札幌, 平成 20 年 7 月 19 日.
52. 林光俊, 里見和彦, 石井良章: スポーツ選手のアキレス腱断裂に対する保存療法—三次元 MRI による経時的経過を含めて—. 第 21 回日本臨床整形外科学会学術集会, 福井, 平成 20 年 7 月 20-21 日.
53. 星亨: 橈骨遠位端骨折に対する Plate による治療法. 第 28 回 JABO 研修会, 東京, 平成 20 年 8 月 24 日.
54. 佐々木茂, 小谷明弘, 里見和彦: 人工膝関節置換術における computer navigation の有用性 (従来群と navigation 併用群の術後 X 線像比較). 第 57 回東日本整形災害外科学会, 東京, 平成 20 年 9 月 12-13 日.
55. 長谷川雅一, 高橋雅人, 相川大介, 佐野秀仁, 市村正一, 里見和彦: 腰椎椎間板ヘルニアに対する MED の短期成績とラーニングカーブ. 第 57 回東日本整形災害外科学会, 東京, 平成 20 年 9 月 12-13 日.
56. 長谷川雅一, 市村正一, 高橋雅人, 黒崎祥一, 工藤文孝, 里見和彦: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する保存療法—コルセットを用いた多施設前向きコホート研究—. 第 57 回東日本整形災害外科学会, 東京, 平成 20 年 9 月 12-13 日.
57. 森脇孝博, 小寺正純, 井上功三朗, 里見和彦: 人工股関節全置換術後の非手術側の画像変化. 第 57 回東日本整形災害外科学会, 東京, 平成 20 年 9 月 12-13 日.
58. 丸野秀人, 工藤文孝, 高山拓人, 平野純, 内倉長造, 里見和彦: 舟状骨偽関節の治療経験. 第 57 回東日本整形災害外科学会, 東京, 平成 20 年 9 月 12-13 日.
59. 大畑徹也, 森脇孝博, 皆川邦朋¹, 丸野秀人, 小寺正純, 山口芳裕¹, 里見和彦, (¹平川病院, ²杏林大・医・救急医学): 救命センターにおけるガス壊疽の治療成績. 第 57 回東日本整形災害外科学会, 東京, 平成 20 年 9 月 12-13 日.
60. 佐野秀仁, 市村正一, 高橋雅人, 長谷川雅一, 相川大介, 里見和彦: 外側型腰椎椎間板ヘルニア手術例の検討. 第 57 回東日本整形災害外科学会, 東京, 平成 20 年 9 月 12-13 日.
61. 田島崇, 森井健司, 望月一男, 里見和彦: 四肢の転移性骨腫瘍に対する外科的治療: 第 57 回東日本

整形災害外科学会, 東京, 平成 20 年 9 月 12-13 日.

62. 坂倉健吾, 佐々木茂, 小谷明弘, 里見和彦: 外傷性肩関節前方不安定症に対する鏡視下 Bankart 修復術の経験. 第 57 回東日本整形災害外科学会, 東京, 平成 20 年 9 月 12-13 日.
63. 稲田成作, 井上智雄, 山本靖紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 里見和彦: PS 型 TKA 後の膝屈曲角度に影響する因子. 第 57 回東日本整形災害外科学会, 東京, 平成 20 年 9 月 12-13 日.
64. 里見和彦: 脊髄誘発電位の基礎と臨床. 第 20 回徳大脊椎外科カンファレンス, 徳島, 平成 20 年 9 月 13 日.
65. 丸野秀人: Ilizarov 創外固定 pin 刺入部 MRSA 感染に対し LZD を使用した 1 例. 整形外科感染症フォーラム, 東京, 平成 20 年 9 月 18 日.
66. 市村正一: 骨質と骨折予防の観点に基づく骨粗鬆症治療. 運動器/骨・関節フォーラム, 名古屋, 平成 20 年 9 月 20 日.
67. Morii T. Perioperative D-dimer levels in patients with musculoskeletal tumor. 7th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society, Beijing China, sep. 26-28, 2008.
68. Tajima T, Morii T, Mochizuki K, Fujioka Y¹, Satomi K, Matsumine A² (1 Department of Orthopaedic Pathology, Kyorin University Faculty of Medicine, 2 Department of Orthopaedic Surgery, Mie University Faculty of Medicine): SIGNIFICANCE OF THE EXPRESSION OF LRP AND PPAR- γ IN LIPOMATOUS SOFT TISSUE TUMORS: 7th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society, Beijing China, sep. 26-28, 2008.
69. Sato Y, Kotani A, Sasaki S, Imakiire N, Satomi K: Three-dimensional evaluation for Knee joint morphology in Japanese-Assumption of cutting surface of femur and tibia in TKA. The 21st Annual Congress of the International Society for Technology in Arthroplasty., Korea Oct 1-4, 2008.
70. 望月一男: 悪性骨・軟部腫瘍に対する最近の治療戦略. 第 23 回山陽骨・軟部腫瘍研究会, 広島, 平成 20 年 10 月 4 日.
71. 里見和彦: 頰椎損傷の診断と治療. 損害保険料率算出機構研修会, 熱海, 平成 20 年 10 月 7 日.
72. 里見和彦: 腰痛診断の留意点. 第 21 回群馬整形外科講演会, 高崎, 平成 20 年 10 月 11 日.
73. 佐々木紗映¹, 西入洋一¹, 皆川邦朋¹, 岩井一正¹, 林光俊, 平川淳一¹ (1 平川病院): 身体損傷を伴った精神疾患患者受け入れ状況. 第 16 回日本精神科救急医学会, 京都, 平成 20 年 10 月 14-16 日.
74. 奥出聡¹, 佐々木紗映¹, 皆川邦朋¹, 岩井一正¹, 林光俊, 平川淳一¹ (1 平川病院): 精神疾患患者の自殺企図による外傷に対する理学療法 (第 2 報). 第 16 回日本精神科救急医学会, 京都, 平成 20 年 10 月 14-16 日.
75. 長谷川淳, 高橋雅人, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一, 里見和彦: Klippel-Feil 症候群の 1 例. 第 21 回多摩脊椎脊髄カンファレンス, 立川, 平成 20 年 10 月 16 日.
76. 池上健¹, 町田正文¹, 宝亀登 (1 村山医療センター): O-C2 固定術後に C2 椎弓根スクリューが脱転した 1 例. 多摩脊椎脊髄カンファレンス, 立川, 平成 20 年 10 月 16 日.
77. 加藤裕幸¹, 町田正文¹, 宝亀登 (1 村山医療センター): 19 歳男性に発症した OPLL の 1 例. 第 21 回多摩脊椎脊髄カンファレンス, 立川, 平成 20 年 10 月 16 日.
78. 金子慎二郎¹, 町田正文¹, 宝亀登 (1 村山医療センター): 前方から発生し後方筋層内に波及した脊

- 椎カリエスの1例. 第21回多摩脊椎脊髄カンファレンス, 立川, 平成20年10月16日.
79. 井上智雄: ucOCの測定経験. 第2回Bone Clinicalセミナー, 甲府, 平成20年10月16日.
80. 星亨: 救急外来を訪れる整形外科外傷患者の注意点. 第28回救急症例検討会, 東大和, 平成20年10月20日.
81. 林光俊: 北京オリンピックに参加して-スポーツドクターの立場より-. 三鷹医師会医師会学術講演会, 三鷹, 平成20年10月22日.
82. 森井健司, 望月一男, 大塚弘毅¹, 大西宏明¹, 里見和彦 (杏林大・医・臨床検査医学): 骨肉腫細胞株におけるビスフォスフォネートの抗腫瘍効果に対する耐性モデル. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 京都, 平成20年10月23-24日.
83. 丸野秀人, 市村正一, 大畑徹也, 内倉長造, 里見和彦: ウサギ骨延長モデルにおけるPTH間欠投与の仮骨への影響. 第2報. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 京都, 平成20年10月23-24日.
84. 田島崇, 森井健司, 望月一男, 里見和彦, 藤岡保範¹, 松峯昭彦², 村田博昭³, 延藤博朗⁴ (杏林大・医・病理, ²三重大学医学部整形外科, ³京都府立医科大学大学院医学研究科運動器機能再生外科学, ⁴県立広島病院整形外科): 軟部腫瘍におけるLRPおよびPPAR γ の発現とその意義: 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 京都, 平成20年10月23-24日.
85. 五十嵐一峰, 渋谷賢¹, 佐野秀仁, 高橋雅人, 里見和彦, 大木紫¹ (杏林大・医・生理学): 頸髄症患者におけるリーチング運動の経時的変化: 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 京都, 平成20年10月23-24日.
86. 林光俊: 北京オリンピックにおけるスポーツドクターの役目. 静岡県掛川市小笠医師会スポーツ医学研修会, 掛川, 平成20年10月29日.
87. 長谷川雅一, 市村正一, 高橋雅人, 相川大介, 佐野秀仁, 里見和彦: 骨粗鬆症性椎体骨折に対するコルセットを用いた前向き研究. 第10回日本骨粗鬆症学会, 大阪, 平成20年10月30-11月1日.
88. 竹内拓海, 市村正一, 相川大介, 長谷川雅一, 高橋雅人, 里見和彦: 膠原病に合併した胸髄クモ膜下血腫の1例. 第43回日本脊髄障害医学会, 札幌, 平成20年11月6-7日.
89. 佐藤行紀, 小谷明弘, 井上功三朗, 佐々木茂, 今給黎直明, 里見和彦: 3次元画像を用いた膝蓋骨の骨棘形成に関する検討. 第36回日本関節病学会, 神戸, 平成20年11月7-8日.
90. 藤野節¹, 堀田綾子¹, 田島崇, 森井健司, 本谷啓太², 大沢文子², 望月一男, 藤岡保範²) (杏林大・医・病理学, ²杏林大・医・放射線科): 骨形成不全症の11歳女児に発症した右大腿骨腫瘍. 第42回日本骨・軟部腫瘍研究会 (Bone Tumor Club), 福岡, 平成20年11月8日.
91. 林光俊: ナショナルオリンピックに参加して-ナショナルチームドクターの立場より-. 埼玉県さいたま市大宮医師会, 大宮, 平成20年11月12日.
92. 五十嵐一峰, 渋谷賢¹, 佐野秀仁, 高橋雅人, 里見和彦, 大木紫¹ (杏林大・医・生理学): リーチング運動を用いた頸髄症の上肢近位筋の運動機能評価. 日本臨床神経生理学会, 神戸, 平成20年11月12-14日.
93. 青柳貴之, 森井健司, 望月一男, 田島崇, 里見和彦: Dysplasia Epiphysealis Hemimelicaの1例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
94. 大柁英昭, 小寺正純, 森脇孝博, 里見和彦: 若年性特発性関節炎 (JIA) と思われた小児膝関節水腫の一例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.

95. 大森雅夫, 佐々木茂, 小谷明弘, 里見和彦: 特発性大腿骨内顆骨壊死に対し骨軟骨移植術(モザイク形成術)と高位脛骨骨切り術を併用した一例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
96. 佐藤俊輔, 高橋雅人, 市村正一, 里見和彦: 自然消滅した胸椎椎間板ヘルニアの1例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
97. 竹内拓海, 市村正一, 相川大介, 長谷川雅一, 高橋雅人, 里見和彦: 膠原病に合併した胸髄クモ膜下血腫の一例. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
98. 小谷明弘, 里見和彦: 膝関節鏡視下レーザー手術の経験. 第29回日本レーザー医学会, 東京, 平成20年11月15-16日.
99. 森井健司: 骨軟部腫瘍専門外来で学んだこと. 第3回西多摩痛みのセミナー, 東京, 平成20年11月20日.
100. 市村正一: 骨質と骨折予防の観点に基づく骨粗鬆症治療. 運動器/骨・関節フォーラム, 仙台, 平成20年11月22日.
101. 長谷川雅一, 市村正一, 高橋雅人, 相川大介, 佐野秀仁, 里見和彦: 腰椎椎間板ヘルニアに対するMEDの短期治療成績とラーニングカーブ. 第11回日本内視鏡低侵襲脊椎外科学会, 神戸, 平成20年11月22日.
102. 小寺正純, 森脇孝博, 里見和彦: 発育性股関節形成不全症(DDH)の経過. 第35回日本股関節学会, 大阪, 平成20年12月6日.
103. 森脇孝博, 小寺正純, 井上功三朗, 里見和彦, 高橋陽子¹ (¹杏林大学病院・医療安全管理室): 人工股関節全置換術におけるSSIサーベイランスの取り組み. 第35回日本股関節学会学術集会, 大阪, 平成20年12月6日.
104. Igarashi K, Shibuya S¹, Sano H, Takahashi M, Satomi K, Ohki Y¹ (¹Department of Integrative Physiology, Kyorin University School of Medicine) Functional Assessments of Proximal Arm Muscles by Target-reaching Movements in Patients with Cervical Myelopathy: Cervical spine research society, 36th annual meeting, Texas. Dec,4-6, 2008.
105. 大柁英昭, 小寺正純, 森脇孝博, 里見和彦: 診断に難渋した小児膝関節水腫の一例. 第19回日本小児整形外科学会学術集会, 東京, 平成20年12月11-12日.
106. 青柳貴之, 森井健司, 望月一男, 田島崇, 里見和彦: Dyaplasia epiphysealis hemimeliaの1例. 第19回日本小児整形外科学会, 東京, 平成20年12月11-12日.
107. 市村正一: 骨粗鬆症治療薬の選択と安全な使い方. 第200回大阪臨床整形外科医会研修会, 大阪, 平成20年12月13日.
108. 松山幸弘¹, 四宮謙一¹, 滝徳宗, 里見和彦, (¹脊椎脊髄病学会): 術中脊髄モニタリングの実態, 特に麻痺例を中心に-脊椎脊髄病学会モニタリング委員会による他施設調査. 平成20年度脊柱靭帯骨化症に関する調査研究第2回班会議, 東京, 平成20年12月13日.
109. 山本重吉: 骨粗鬆症予防講座. 骨粗鬆症予防講座, 鹿嶋市, 平成21年1月16日.
110. 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 市村正一: 頸髄症に対する上司近位筋の術中モニタリング. 第31回脊髄機能診断研究会, 東京, 平成21年2月7日.
111. 松山幸弘¹, 四宮謙一¹, 滝徳宗, 里見和彦 (¹脊椎脊髄病学会): 術中脊髄モニタリングの実態, 特に麻痺例を中心に: 脊椎脊髄病学会モニタリング委員会による多施設調査. 第31回脊髄機能診断研

- 究会，東京，平成 21 年 2 月 7 日。
112. 市村正一：骨粗鬆症性椎体圧迫骨折の最近の知見. 第 23 回日本ペインクリニック学会東京地方会，三鷹，平成 21 年 2 月 14 日。
113. 佐藤行紀，小谷明弘，佐々木茂，今給黎直明，里見和彦：日本人膝関節の形態に関する 3 元的評価. 第 39 回日本人工関節学会，東京，平成 21 年 2 月 14-15 日。
114. 井上功三朗，小寺正純，森脇孝博，望月一男：小児化膿性股関節炎の検討. 第 19 回関東小児整形外科研究会，東京，平成 21 年 2 月 14 日。
115. 藤野節¹，堀田綾子¹，藤岡保範¹，田島崇，森井健司，望月一男，本谷啓太²，大沢文子²（¹杏林大・医・病院病理学，²杏林大学・医・放射線科）：散発性の骨形成不全症を背景に生じた右大腿骨過形成性仮骨の 1 例. 第 19 回関東小児整形外科研究会，東京，平成 21 年 2 月 14 日。
116. 里見和彦：腰部脊柱管狭窄症の診断サポートツールと治療. 愛媛腰痛フォーラム 2009，松山，平成 21 年 2 月 28 日。
117. 林光俊：北京オリンピックにおけるスポーツ障害とリハビリテーション. 第 42 回日本リハビリテーション医学会関東地方会学術集会，東京，平成 21 年 3 月 7 日。
118. 井上智雄：低カルボキシル化オステオカルシンの測定経験. 第 35 回山梨総合医学会，甲府，平成 21 年 3 月 8 日。
119. 市村正一，里見和彦（シンポジウム）：頰椎症性脊髄症診療ガイドラインの活用と問題点. 第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日。
120. 森井健司，望月一男，田島崇，里見和彦：骨移植を伴わない単純搔爬術を行った内軟骨腫の治療成績. 第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日。
121. 佐々木茂，小谷明弘，里見和彦：膝後外側支持機構損傷の診断と治療. 第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日。
122. 今給黎直明，小谷明弘，藪並英夫，佐藤行紀，佐々木茂，里見和彦：吸収糸を用いた鏡視下半月板縫合術の術後成績. 第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日。
123. 高峰文成，渡辺弘樹，田島崇：80 歳以上の大腿骨近位部骨折例の既存疾患について. 第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日。
124. 山岸賢一郎，星亨，今給黎直明：異なる損傷型で再受傷した脛骨近位骨端線損傷の 1 例. 第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日。
125. 長谷川雅一，市村正一，高橋雅人，滝徳宗，山本靖紀，里見和彦：前向き研究による骨粗鬆症性椎体骨折に対するコルセットの治療成績と QOL 評価. 第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日。
126. 森脇孝博，小寺正純，井上功三朗，里見和彦：当院における人工股関節置換術後の VTE への取り組み. 第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日。
127. 山本靖紀，高島康夫：90 歳以上の超高齢者に対する大腿骨近位部骨折の手術成績. 第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日。
128. 佐野秀仁，高橋雅人，長谷川雅一，市村正一，里見和彦：外側型腰椎椎間板ヘルニアの手術例の検討. 第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日。
129. 滝徳宗，坂倉健吾，安部学：橈骨遠位端骨折に対する Y 字型背側プレートの使用経験. 第 49 回

関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日．

130. 井上功三朗，工藤文孝：当院における高齢者大腿骨近位部骨折患者の自宅復帰に関係する要因．第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日．
131. 稲田成作，井上智雄，山本靖紀，小谷明弘，佐々木茂，里見和彦：人工膝関節置換術の術後屈曲角度に影響する因子．第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日．
132. 長谷川淳，高橋雅人，長谷川雅一，佐野秀仁，市村正一，里見和彦：Klippel-Feil 症候群に合併した歯突起後方から頭蓋内斜台部の偽腫瘍の 1 例．第 49 回関東整形災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日．
133. 佐藤俊輔，高橋雅人，市村正一，長谷川雅一，佐野秀仁，里見和彦：自然消失した胸椎椎間板ヘルニアの 1 例．第 49 回関東整形外科災害外科学会，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日．
134. 里見和彦：腰痛診療のピットフォール．九州・沖縄 腰部脊柱管狭窄症研究会 2009，福岡，平成 21 年 3 月 28 日．
135. 田島崇，森井健司，望月一男，里見和彦，岡崎睦¹，辻直子¹，藤野節²，平野和彦²，藤岡保範²（¹杏林大・医・形成外科，²杏林大・医・病理）：42-year-old female, Clear Cell Sarcoma of the left knee. 第 21 回骨軟部肉腫外科研究会，東京，平成 21 年 3 月 28 日．

[論文]

1. 里見和彦：頸椎椎間板ヘルニアに対す Smith-Robinson 氏法ならびに椎体垂全摘出法-手術手技と留意点．脊椎脊髄 21 (8) : 825-830, 2008.
2. Matsunaga S, Nakamura K, Seichi A, Satomi K, et al: Radiographic predictors for the development of myelopathy in patients with ossification of the posterior longitudinal ligament, A multicenter cohort study, Spine 33: 1648-2650, 2008.
3. Ueda T, Naka N, Araki N, Ishii T, Tsuchiya H, Yoshikawa H, Mochizuki K, Tsuboyama T, Toguchida J, Ozaki T, Murata H, Kudawara I, Tanaka K, Iwamoto Y, Yazawa Y, Kushida K, Otsuka T, and Sato K: Validation of radiographic response evaluation criteria of preoperative chemotherapy for bone and soft-tissue sarcomas: Japanese Orthopaedic Association Committee on Musculoskeletal Tumors Cooperative Study. J Orthop Sci 13: 304-312, 2008.
4. Ichimura S, Hasegawa M, Satomi K, Asazuma T¹（¹National Defense Medical College）: Spinal shortening osteotomy for the paraplegia after osteoporotic vertebral fracture. 日脊会誌 19: 652-655, 2008.
5. 市村正一，長谷川雅一，里見和彦：椎体形成術の適応と問題点．Geriatr Med 46: 891-896, 2008.
6. 市村正一，長谷川雅一：SERM とビスフォスフォネート製剤の使い分け．Prog Med 28: 961-966, 2008.
7. 市村正一：低カルボキシル化オステオカルシン（ucoC）．骨粗鬆症治療 8: 65-69, 2009.
8. Morii T, Mochizuki K, Kotera M, Imakiire N, Moriwaki T, Satomi K: Perioperative D-dimer levels in patients with musculoskeletal tumors. The Open Orthopaedics Journal 2: 130-132, 2008.
9. Morii T, Mochizuki K, Sano H, Fujino T¹, Harasawa A², Satomi K（¹杏林大・医・病院病理学，²杏林大・医・放射線科）：Occult myofibroblastic sarcoma detected on FDG-PET performed for

- cancer screening. *Annals of Nuclear Medicine* 22:811-815 2008.
10. Morii T, Yabe H¹, Morioka H¹, Suzuki Y¹, Anazawa U¹, Toyama Y¹ (慶應義塾大・医・整形) : Curettage and allograft reconstruction for giant cell tumours. *J Orthop Surg* 16:75-9, 2008.
 11. Morii T, Yoshiyama A¹, Morioka H¹, Anazawa U¹, Mochizuki K, Yabe H¹ (慶應義塾大・医・整形) : Clinical significance of magnetic resonance imaging in the preoperative differential diagnosis of calcifying aponeurotic fibroma. *J Orthop Sci* 13:180-186, 2008.
 12. Morii T, Yabe H¹, Morioka H¹, Anazawa U¹, Suzuki Y¹, Toyama Y¹ (慶應義塾大・医・整形) : Clinical Significance of Additional Wide Resection for Unplanned Resection of High Grade Soft Tissue Sarcoma. *The Open Orthopaedics Journal* 2: 126-129, 2008.
 13. Morii T, Mochizuki K, Takushima A¹, Okazaki M¹, Satomi K (杏林大・医・形成外科学) : Soft tissue reconstruction using vascularized tissue transplantation following resection of musculoskeletal sarcoma -Evaluation of oncological and functional outcomes in 55 cases-. *Ann Plast Surg* 62: 252-257, 2009.
 14. Kishino T¹, Morii T, Mochizuki K, Sudo E², Hirano K³, Okazaki M², Ohtsuka K¹, Ohnishi H¹, Kurihara S⁴, Tsuneyoshi M⁴, Fujioka Y³, Watanabe T¹. (杏林大・医・臨床検査医学, 杏林大・医・臨床検査室, 杏林大・医・病院病理学, 九州大学・医・解剖病理) : Unusual sonographic appearance of synovial sarcoma of the anterior abdominal wall. *J Clin Ultrasound* 37:233-235, 2009.
 15. Morii T, Susa M¹, Nakayama R¹, Kishi K², Morioka H¹, Yabe H¹ (慶應義塾大・医・整形, 慶應義塾大・医・形成) : Reconstruction modality based on the spare part concept for massive soft tissue defects following oncological hemipelvectomy. *J Orthop Sci* 14:192-197, 2009.
 16. 林光俊, 石井良章 : 予防としてのスポーツ医学アキレス腱断裂-発症メカニズムとその予防・再発予防-. *臨スポーツ医学臨時増刊号* 25 : 143-147, 2008.
 17. 星亨, 佐々木浩之, 山岸賢一郎, 小久保吉恭¹, 山崎隆志¹, 佐藤茂¹ (武蔵野赤十字病院・整形外科) : 下腿骨開放骨折に対する Hybrid 創外固定器の有用性. *骨折* 30 : 481-484. 2008.
 18. 早川恵司¹, 山崎隆志¹, 星亨 (武蔵野赤十字病院・整形外科) : 膀胱直腸障害のみで発症した腰椎術後血腫の1例. *整形外科* 60 : 29- 31. 2009.
 19. 平野純, 内倉長造, 工藤文孝, 高山拓人, 丸野秀人, 里見和彦 : 手指骨折に対する Ilizarov minifixator の使用経験. *東日本整災誌* 20: 193-196, 2008.
 20. Takahashi M, Igarashi K, Ichimura S, Hasegawa M, Aikawa D, Sano H, Satomi K: Neurological findings and operative results in cervical spondylotic myelopathy. *日脊会誌* 19: 516-519, 2008.
 21. 高橋雅人, 市村正一, 長谷川雅一, 相川大介, 里見和彦 : 腰椎椎間板ヘルニアに伴う馬尾症候群-早期手術の有用性と予後不良因子. *日脊障医誌* 21: 100-101, 2008.
 22. 高橋雅人, 伊佐正, 里見和彦 ; 臨床医が基礎研究に従事するメリットとデメリット. *日整会誌* 82: 417-419, 2008.
 23. 宝亀登, 里見和彦, 河合大 : 腰椎椎間板ヘルニアに対するレーザー治療. *レーザ加工学会誌* 15: 6-9, 2008.

24. 大畑徹也, 星亨, 今給黎直明, 山岸賢一郎, 高鳥尚子¹, 山崎隆志¹ (¹ 武蔵野赤十字病院整形外科): 手指骨骨折に対する Hoffmann II micro 創外固定の使用経験. 骨折 31: 181-184, 2009.
25. 大畑徹也, 小谷明弘, 今給黎直明, 里見和彦: ロッキング様症状を呈した中高年の棚障害の1例. 膝 33: 400-402, 2008.
26. Taki N, Satoimi K, Ohta M, Takahashi M, Ichimura S: Pathogenic level diagnosis of cervical myelopathy using spinal cord evoked Potentials. 日脊会誌 19: 560-564, 2008.
27. Tajima T, Mochizuki K, Koyama S, Miyamoto T, Satomi K, Kikuchi F: CASE 1: 38-Year-Old Male, Chondrosarcoma of the Right Scapula. MODERN SURGICAL CHALLENGES FOR MUSCULOSKELETAL SARCOMA, 15: 2-15, 2008.
28. 藪並英夫, 森井健司, 田島崇, 望月一男, 里見和彦, 菊池文史¹ (¹ 杏林大・医・病院病理学): 骨腫瘍と鑑別を要した慢性化膿性骨髄炎3例. 東日本整災誌 20: 1-7, 2008.
29. 佐藤行紀, 小谷明弘, 今給黎直明, 佐々木茂, 里見和彦: 日本人膝関節の形態に関する三次元的評価-人工膝関節全置換術における大腿骨側の骨切り面を想定して. 別冊整形外 53: 159-162, 2008.
30. 五十嵐一峰, 渋谷賢¹, 佐野秀仁, 高橋雅人, 里見和彦, 大木紫¹ (¹ 杏林大・医・生理学): 頸髄圧迫病変におけるリーチング運動を用いた上肢近位筋運動の評価法. 脊髄機能診断学 30: 134-141, 2008.
31. 坂倉健吾, 森井健司, 望月一男, 里見和彦, 菊池文史¹ (¹ 杏林大・医・病理): 腸骨に発生した孤立性骨嚢腫の2例. 関東整災誌 40: 49-53, 2009.
32. 西川洋平, 今給黎直明, 森井健司, 望月一男, 里見和彦, 菊池文史¹ (¹ 杏林大・医・病理学): 小児足関節に発生した滑膜性骨軟骨腫症の1例. 関東整災誌 39: 66-71, 2008.
33. 渡辺完, 市村正一, 高橋雅人, 相川大介, 長谷川雅一, 里見和彦: 早期に自然消失した特発性脊髄硬膜外血腫の1例. 日脊障医誌 21: 90-91, 2008
34. 渡辺完, 市村正一, 相川大介, 高橋雅人, 長谷川雅一, 里見和彦: 特発性脊髄硬膜外血腫7例の検討. 関東整災誌 40: 32-36, 2009.
35. 長谷川淳, 市村正一, 宝亀登, 相川大介, 高橋雅人, 長谷川雅一, 里見和彦: 硬膜外血腫を伴った腰椎黄色靭帯内血腫の1例. 関東整災誌 40: 37-40, 2009.

[著書]

1. 市村正一: 骨密度測定法. 最新整形外科学大系 10 胸腰椎・腰椎・仙椎. 戸山芳昭編. 東京, 丸善, 2008. p. 237-239.
2. 市村正一: 骨量測定. 最新整形外科学大系 2 運動器の診断学. 戸山芳昭編. 東京, 丸善, 2008. p. 181-187.

[その他]

1. 里見和彦 (分担研究者), 五十嵐一峰, 市村正一, 大木紫¹, 渋谷賢¹ (¹ 杏林大・医・生理学): リーチング運動を用いた上肢近位筋運動の新しい解析法. 脊柱靭帯骨化症に関する調査研究. 厚生労働科学研究費補助金, 難治性疾患克服研究事業-脊柱靭帯骨化症に関する研究調査, 平成19年度 総括・分担研究報告書, 136-139, 2008.

2. 里見和彦：第 37 回日本脊椎脊髄病学会主催，東京，平成 20 年 4 月 24-26 日.
3. 里見和彦，石名田洋一，望月一男，伊藤芳毅，川上紀明（座談会）：ICD 改訂と整形外科医療. 臨整外 43: 581-589, 2008.
4. 望月一男：第 19 回関東小児整形外科研究会主催，東京，平成 21 年 2 月 14 日.
5. 里見和彦：第 49 回関東整形災害外科学会主催，東京，平成 21 年 3 月 20-21 日.

皮膚科学教室

□ 演

1. Kano Y, Hirahara K, Asano Y, Mitsuyama Y, Takahashi R, Shiohara T: Association between drug and human herpesvirus in drug-induced hypersensitivity syndrome/drug rash with eosinophilia and systemic symptoms. 3rd International Drug Hypersensitivity Meeting, Paris, Apr.12th, 2008.
2. Shiohara T, Kano Y, Takahashi R. Update on regulators: regulatory T cells in DIHS/DRESS and SJS/TEN. 3rd International Drug Hypersensitivity Meeting, Paris, Apr. 12th, 2008.
3. Mitsuyama Y, Kano Y, Hirahara K, Mizukawa Y, Shiohara T: Usefulness of monitoring of cytokine expression to evaluate therapeutic efficacy of plasmapheresis in patients with toxic epidermal necrolysis. 3rd International Drug Hypersensitivity Meeting, Paris, Apr.11-13th, 2008.
4. Takahashi R, Shiohara T: Trafficking receptor expression on regulatory T cells in severe drug eruption. 3rd International Drug Hypersensitivity Meeting. Paris, April 11-13th, 2008.
5. 塩原哲夫 他: ランチョンセミナー アトピー性皮膚炎 (AD) の患者アンケート調査報告. 第 107 回日本皮膚科学会総会, 京都, 平成 20 年 4 月 18 日.
6. 平原和久, 狩野葉子: 重症薬疹診断ガイドラインのポイント. 第 107 回日本皮膚科学会総会, 京都, 平成 20 年 4 月 19 日.
7. 狩野葉子: 教育講演 皮膚科医が知っておくべき特徴的な薬疹, 最近の話題を中心に 分子標的療法ではどのような皮膚病変に注意すべきか? 第 107 回日本皮膚科学会総会, 京都, 平成 20 年 4 月 20 日.
8. 井手麻衣子, 井上桐子, 早川和人, 塩原哲夫: 溶連菌性膿痂疹とアトピー性皮膚炎 (AD) の関連 - 教室例の解析. 第 107 回日本皮膚科学会総会, 京都, 平成 20 年 4 月 18-20 日.
9. 塩原哲夫: 薬疹とウイルス感染. 第 20 回鹿児島地区皮膚疾患病態治療研究会, 鹿児島, 平成 20 年 4 月 27 日.
10. Shiohara T, Mizukawa Y: Invited Communications. Regulatory effects of IgE on innate immune responses. 5th Georg Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis, Kyoto, May 12th, 2008.
11. Kurata M, Hayakawa K, Shiohara T: Atopic dermatitis is closely related with non-bullous impetigo caused by group A streptococcus (GAS). 5th Georg Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis, Kyoto, May 12th, 2008.
12. Aota N, Fukuhara M, Hirahara K, Kano Y, Shiohara T: Autoimmune diseases as sequelae of drug-induced hypersensitivity syndrome. 2nd International Conference on Cutaneous Lupus Erythematosus, Kyoto, May 12th, 2008.
13. Shiraiishi Y, Kano Y, Inoue K, Asano M, Inaoka M, Hirahara K, Shiohara T: Relation between cytomegalovirus reactivation and dermatomyositis. 2nd International Conference on Cutaneous Lupus Erythematosus, Kyoto, May 13th, 2008.
14. Takahashi R¹, Kimishima M, Yamazaki Y, Shiohara T, (¹Div. of Flow Cytometry Kyorin Univ): The

timing of dysfunction of regulatory T cells determines the pattern and outcome of T cell-mediated severe drug eruptions. *International Investigative Dermatology* 2008, Kyoto, May 17th, 2008.

15. Mizukawa Y, Yamazaki Y, Shiohara T: IgE preferentially protects female mice against hapten-induced immunopathology. *International Investigative Dermatology* 2008, Kyoto, May 17th, 2008.
16. 塩原哲夫: 招聘講演 感染症と薬剤アレルギー. 第 20 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 東京, 平成 20 年 6 月 12 日.
17. 水川良子: ウイルス感染とアレルギー: AD と自然免疫異常. 第 20 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 東京, 平成 20 年 6 月 13 日.
18. 平原和久: 運動負荷にて軽快したコリン性蕁麻疹の 1 例. 多摩皮膚科専門医会例会, 武蔵野, 平成 20 年 6 月 14 日.
19. 早川 順: 難治のため複数の医療機関を受診した蕁麻疹の 1 例. 多摩皮膚科専門医会例会, 武蔵野, 平成 20 年 6 月 14 日.
20. 福田知雄, 浅野祐介: 外用光線力学療法 of 乳房外パジェット病 (癌) に対する適応を考える. 第 18 回日本光線力学学会, 名古屋, 平成 20 年 6 月 15 日.
21. 浅野祐介, 倉田麻衣子, 堀江千穂, 平原和久, 福田知雄: 赤色 LED(light-emitting diode)を用いた光線力学療法の経験 パルスダイレーザーを用いた光線力学療法と比較して. 第 18 回日本光線力学学会, 名古屋, 平成 20 年 6 月 15 日.
22. 塩原哲夫: 皮膚の乾燥は何をもたらすのか. 広島皮膚科医会, 広島, 平成 20 年 6 月 18 日.
23. Kano Y, Asano Y, Hirahara T, Shiohara T: Autoimmune diseases occurring after drug-induced hypersensitivity syndrome. 6th International Conference on HHV-6 & 7, Baltimore, June 21st, 2008.
24. 石田正, 平原和久, 福田知雄, 早川和人: 糖尿病患者に生じた *Staphylococcus haemolyticus* による癰の 1 例. 第 818 回日本皮膚科学会東京地方会 (城西地区), 東京, 平成 20 年 6 月 21 日.
25. 堀江千穂, 水川良子, 早川 順, 塩原哲夫: 発汗異常が示唆された扁平苔癬の 1 例. 第 818 回日本皮膚科学会東京地方会 (城西地区), 東京, 平成 20 年 6 月 21 日.
26. 塩原哲夫: 薬疹とウイルス感染. 第 81 回兵庫県皮膚科医会総会, 神戸, 平成 20 年 6 月 28 日.
27. 塩原哲夫: 皮膚の乾燥は何をもたらすのか. 大宮皮膚科医会, さいたま, 平成 20 年 6 月 30 日.
28. 塩原哲夫: 何が薬疹の多様性をもたらすのか? 第 10 回長崎アレルギー炎症研究会, 長崎, 平成 20 年 7 月 9 日.
29. 五味方樹, 浅野祐介, 平原和久, 水川良子, 塩原哲夫: RA の治療後に生じた皮膚サルコイド反応と帯状疱疹. 第 819 回日本皮膚科学会合同臨床東京地方会, 東京, 平成 20 年 7 月 12 日.
30. 平原和久, 早川 順, 塩原哲夫: 炎症性皮膚疾患における発汗障害検出の試み - 発汗試験の感度の向上を目指して -. 第 16 回日本発汗学会総会, 東京, 平成 20 年 9 月 5 日.
31. 早川 順, 平原和久, 塩原哲夫: 発汗障害を伴ったサルコイドーシス. 第 16 回日本発汗学会総会, 東京, 平成 20 年 9 月 5 日.
32. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎に汗は善玉か悪玉か? 第 16 回日本発汗学会 市民公開講座, 東京, 平成 20 年 9 月 6 日.

33. 塩原哲夫：薬疹を見逃さないために 第 53 回関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会，東京，平成 20 年 9 月 7 日。
34. 福田知雄，五味方樹：爪白癬を合併したケルスス禿瘡の 2 例－1996 年～2008 年の本邦報告例の統計的観察－。第 52 回日本医真菌学会総会，長崎，平成 20 年 9 月 10-11 日。
35. 塩原哲夫：急性発疹症：ウイルスか薬剤か。第 38 回日本小児科学会セミナー，名古屋，平成 20 年 9 月 14 日。
36. 田坂佳名子，堀江千穂，狩野葉子：多彩な臨床像を呈した帯状疱疹。第 820 回日本皮膚科学会東京地方会（城西地区），東京，平成 20 年 9 月 20 日。
37. 堀江千穂，稲岡峰幸，井上桐子，平原和久，塩原哲夫：帯状疱疹後に発症し、著明な好酸球浸潤を伴った薬剤性過敏症候群の一例。第 59 回日本皮膚科学会中部支部学術大会，名古屋，平成 20 年 10 月 12 日。
38. 稲岡峰幸，堀江千穂，井上桐子，平原和久，塩原哲夫：帯状疱疹後に発症し、肉芽腫反応を伴った薬剤性過敏症候群の一例。第 59 回日本皮膚科学会中部支部学術大会，名古屋，平成 20 年 10 月 12 日。
39. 井上桐子，平原和久，早川 順，塩原哲夫：帯状疱疹後の発汗障害。第 59 回日本皮膚科学会中部支部学術大会，名古屋，平成 20 年 10 月 12 日。
40. Inoue K, Sato Y, Hirahara K, Hayakawa J, Shiohara T: Pre- and postherpetic disturbance of sweating: hyper- and hypohidrosis caused by herpes zoster in a patient. The 10th China-Japan Joint Meeting of Dermatology 20th Anniversary, Hangzhou, Nov 2nd, 2008.
41. 堀江千穂，水川良子，塩原哲夫：苔癬型組織反応と発汗異常。第 38 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会，大阪，平成 20 年 11 月 8 日。
42. 五味方樹，水川良子，塩原哲夫：RA 患者に対する白血球除去療法後に生じた免疫再構築症候群。第 38 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会，大阪，平成 20 年 11 月 8 日。
43. 満山陽子：シンポジウム 重症薬疹 2008 重症薬疹の治療としての血漿交換－中毒性表皮壊死症に対する血漿交換療法－。第 38 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会，大阪，平成 20 年 11 月 9 日。
44. 水川良子：シンポジウム アトピー性皮膚炎研究の New Face 2008 自然免疫と肥満細胞の接点：IgE 依存性反応と自然免疫の関わり。第 38 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会，大阪，平成 20 年 11 月 9 日。
45. 田坂佳名子，狩野葉子，塩原哲夫：帯状疱疹に関連して出現した多形紅斑の 3 例。第 38 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会，大阪，平成 20 年 11 月 9 日。
46. 佐藤洋平，稲岡峰幸，平原和久，塩原哲夫：間擦疹型薬疹の臨床を呈した非色素沈着性多発性固定薬疹の 1 例。第 821 回日本皮膚科学会東京地方会（城西地区），東京，平成 20 年 11 月 15 日。
47. 早川 順，平原和久，水川良子，塩原哲夫：発汗障害を伴ったサルコイドーシス。第 37 回杏林医学会総会，三鷹，平成 20 年 11 月 15 日。
48. 塩原哲夫：重症薬疹をもたらす誘因。第 131 回静岡県皮膚科医会，静岡，平成 20 年 11 月 15 日。

49. 岡崎亜希: 蜂窩織炎の病変部に生じる紫斑. 多摩皮膚科専門医会例会, 武蔵野. 平成 20 年 11 月 22 日.
50. 狩野葉子 (教育講演): 日常診療における薬疹とウイルス性発疹症の見分け方. 第 24 回日本臨床皮膚科医会三支部合同学術大会, 東京, 平成 20 年 11 月 30 日.
51. 平原和久: アトピー性皮膚炎における発汗障害検出の試み. 第 4 回 TAP (Tokyo scientific forum for Atopic Dermatitis and Psoriasis), 東京, 平成 20 年 12 月 13 日.
52. 何川宇啓, 平原和久, 塩原哲夫: MTX 治療中の RA 患者に発症した lymphomatoid granulomatosis (LYG) の 1 例. 第 823 回日本皮膚科学会東京地方会 (城西地区), 東京, 平成 21 年 1 月 17 日.
53. 岡崎亜希, 水川良子, 狩野葉子, 塩原哲夫: 診断に苦慮したアロマテラピーによる接触皮膚炎. 第 823 回日本皮膚科学会東京地方会 (城西地区), 東京, 平成 21 年 1 月 17 日.
54. 石田 正, 早川 順, 塩原哲夫, 横山琢磨¹, 後藤 元¹(¹杏林大・医・呼吸器内科): 特異な臨床像を呈し, 急速な経過で死に至った皮膚筋炎の 1 例. 第 823 回日本皮膚科学会東京地方会 (城西地区), 東京, 平成 21 年 1 月 17 日.
55. 塩原哲夫: 薬疹を見逃さないために. 札幌市皮膚科医会, 札幌, 平成 21 年 1 月 27 日.
56. 塩原哲夫: 重症薬疹にどのように対応するか. 第 5 回大阪皮膚アレルギーネットワーク, 大阪, 平成 21 年 1 月 31 日.
57. 福田知雄, 五味方樹, 何川宇啓, 浅野祐介: 外用光線力学療法 of 乳房外パジェット病 (癌) に対する適応ーパルス色素レーザーと赤色 LED の比較ー. 第 27 回日本臨床皮膚外科学会学術大会, 名古屋, 平成 21 年 2 月 8 日.
58. 早川 順: 知っているようで見逃されている皮膚疾患ーコリン性蕁麻疹ー. 多摩皮膚科専門医会例会, 武蔵野, 平成 21 年 2 月 14 日.
59. 何川宇啓: LED (light emitting diode) を用いた基底細胞癌に対する光線力学療法. 多摩皮膚科専門医会例会, 武蔵野, 平成 21 年 2 月 14 日.
60. 福田知雄: 乳房外 Paget 病に対する非侵襲的治療のアプローチ. 多摩皮膚科専門医会例会, 武蔵野, 平成 21 年 2 月 14 日.
61. 堀江千穂, 浅野祐介, 平原和久, 狩野葉子, 塩原哲夫: 単純疱疹ウイルスと水痘帯状疱疹ウイルスの関与が示唆された多形紅斑. 第 72 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 平成 21 年 2 月 21 日.
62. 倉田麻衣子, 岡崎亜希, 早川和人: 同時期に A 群溶連菌と HSV が検出された外陰・肛囲皮膚炎の 2 例. 第 72 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 平成 21 年 2 月 22 日.
63. 岡崎亜希, 早川和人, 倉田麻衣子, 平原和久, 塩原哲夫: 下肢蜂窩織炎のリスクファクター: 教室例の prospective な検討. 第 72 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 平成 21 年 2 月 22 日.
64. 塩原哲夫: ヘルペスウイルスと薬剤性過敏症症候群. 第 24 回東海ヘルペス群ウイルス感染症研究会, 名古屋, 平成 21 年 3 月 14 日.
塩原哲夫: 科学シンポジウム. アトピー性皮膚炎におけるアレルギー炎症はいかにして生じるか. 第 12 回日本獣医皮膚科学会, 東京, 平成 21 年 3 月 15 日.

論 文

1. Aota N, Shiohara T: Viral connection between drug rashes and autoimmune diseases: How autoimmune responses are generated after resolution of drug rashes. *Autoimmune Rev* 2009 Feb 23 Epub
2. 塩原哲夫: 一般公開講座. アトピー性皮膚炎における汗は悪玉か善玉か. *発汗学* 15(2): 83-85, 2008.
3. 塩原哲夫: 内科医に役立つ皮膚科の知識 薬疹の診かた. *内科* 101(3): 559-562, 2008.
4. 何川宇啓, 浅野祐介, 福田知雄, 狩野葉子, 塩原哲夫: サイトメガロウイルスによる消化管出血をきたした薬剤性過敏症症候群の1例. *臨皮* 62(4): 278-281, 2008.
5. 浅野祐介, 狩野葉子: 薬剤がもたらす皮膚病変(3) 抗リウマチ薬により生じる皮膚病変. *医薬ジャーナル* 44(4): 5-10, 2008.
6. 塩原哲夫: 内科医に役立つ皮膚科の知識 薬疹の検査法. *内科* 101(4): 761-764, 2008.
7. 塩原哲夫, 下条直樹¹, 岡本美寿² (¹千葉大・医・小児科,²千葉大・医・耳鼻科): アレルギー疾患の代替医療. Q&A でわかるアレルギー疾患 4(4): 363-373, 2008.
8. 塩原哲夫, 堀川達弥¹, 池澤善郎² (¹神戸大・医・皮膚科,²横浜市大・医・皮膚科): 薬物アレルギー. 特にアレルギー性薬疹の臨床最前線. Q&A でわかるアレルギー疾患 4(1): 41-64, 2008.
9. 塩原哲夫: 薬疹の新しい展開 序. *炎症と免疫* 16(4): 404-406, 2008.
10. Naito T^{1,2}, Shiohara T, Hibi T³, Suematsu M², Ishikawa H¹(¹Depart. of Microbiology & Immunology, Keio Univ., ²Depart. of Biochemistry & Integrative Medical Biology, Keio Univ, ³Depart of Internal Medicine, Keio Univ.): ROR γ t is dispensable for the development of intestinal mucosal T cells. *Mucosal Immunol* 1(3): 198-207, 2008.
11. Sakuma K, Kano Y, Fukuhara M, Shiohara T: Syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone associated with limbic encephalitis in a patient with drug-induced hypersensitivity syndrome. *Clin Exp Dermatol* 33(3): 287-290, 2008.
12. 平原和久: 薬剤がもたらす皮膚病変(4) 非ステロイド抗炎症薬(NSAIDs)による皮膚病変. *医薬ジャーナル* 44(5): 5-9, 2008.
13. 塩原哲夫: 非ステロイド外用剤とアトピー性皮膚炎. *日本小児皮膚科学会雑誌* 27(1): 1-2, 5-9, 2008.
14. 平原和久: 知らないとはずかしい皮膚疾患③ 顔面の紅斑と腫脹 麻疹. *Visual Dermatology* 7(6): 627-628, 2008.
15. 早川 順: 知らないとはずかしい皮膚疾患③ 顔面の紅斑、下腿の萎縮性局面 皮膚筋炎. *Visual Dermatology* 7(6): 629-630, 2008.
16. 水川良子: 知らないとはずかしい皮膚疾患③ 頬部の掻痒性紅斑 好酸球性膿疱性毛包炎. *Visual Dermatology* 7(6): 633-634, 2008.
17. 福田知雄: 知らないとはずかしい皮膚疾患③ 指背の小結節 指趾粘液囊腫. *Visual Dermatology* 7(6): 649-650, 2008.

18. 狩野葉子: 知らないとはずかしい皮膚疾患③ 列序性に分布する発疹 線状苔癬. *Visual Dermatology* 7(6): 657-658, 2008.
19. 浅野祐介, 塩原哲夫: 知らないとはずかしい皮膚疾患③ 下腿の難治性紅斑局面 頑癬. *Visual Dermatology* 7(6): 663-664, 2008.
20. 早川和人: 知らないとはずかしい皮膚疾患③ 足底の皮下結節 traumatic epidermal cyst. *Visual Dermatology* 7(6): 665-666, 2008.
21. Mizukawa Y, Yamazaki Y, Shiohara T: In vivo dynamics of intraepidermal CD8+ T cells and CD4+ T cells during the evolution of fixed drug eruption. *Br J Dermatol* 158(6):1230-1238, 2008.
22. 塩原哲夫: 書評. スキンケアを科学する. *内科* 102(6): 1340, 2008.
23. 平原和久: スティーブンス・ジョンソン症候群と向き合う SJS 研究最前線 Stevens-Johnson 症候群の検査. *Visual Dermatology* 7(7): 754-756, 2008.
24. 塩原哲夫: スティーブンス・ジョンソン症候群と向き合う SJS 研究最前線 Stevens-Johnson 症候群の発症メカニズム. *Visual Dermatology* 7(7): 762-765, 2008.
25. 狩野葉子: スティーブンス・ジョンソン症候群と向き合う 行政・患者サイドからみた SJS 薬事・食品衛生審議会(副作用・感染等被害判定部会)から. *Visual Dermatology* 7(7): 790, 2008.
26. 塩原哲夫: ディベート アトピー性皮膚炎患者は学校でシャワーを浴びる必要はない. *Visual Dermatology* 7(7): 816-819, 2008.
27. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎と抗ウイルス自然免疫. *アレルギー・免疫* 15(8): 1074-1080, 2008.
28. 福田知雄: 皮膚科の PDT 光線力学的療法 基底細胞癌②. *Visual Dermatology* 7(8): 870-871, 2008.
29. 福田知雄: 皮膚科の PDT 光線力学的療法 乳房外 Paget 病①. *Visual Dermatology* 7(8): 872-873, 2008.
30. 福田知雄, 塩原哲夫: Dermatological View PDT の今後に期待すること. *Visual Dermatology* 7(8): 906-910, 2008.
31. 井手麻衣子, 満山陽子, 平原和久, 早川和人, 塩原哲夫: デング熱の 2 例. *臨皮* 62(9): 663-666, 2008.
32. 早川 順: 羅針盤 汗は善玉か、悪玉か?. *Visual Dermatology* 7(9): 955, 2008.
33. 早川 順: 総論 汗を理解するのに必要な基礎知識. *Visual Dermatology* 7(9): 958-963, 2008.
34. 平原和久, 早川 順: 汗と関連がある意外な皮膚病 サルコイドーシス. *Visual Dermatology* 7(9): 990-991, 2008.
35. 早川和人: 汗と関連がある意外な皮膚病 扁平苔癬. *Visual Dermatology* 7(9): 992-993, 2008.
36. 早川 順: 汗と関連がある意外な皮膚病 皮脂欠乏性湿疹. *Visual Dermatology* 7(9): 994-995, 2008.
37. 早川和人: 汗と関連がある意外な皮膚病 遠心性丘疹性紅斑. *Visual Dermatology* 7(9): 996-997, 2008.
38. 満山陽子, 塩原哲夫: 汗と関連がある意外な皮膚病 環状紅斑. *Visual Dermatology* 7(9): 998-999, 2008.
39. 青田典子, 水川良子, 早川 順: 汗と関連がある意外な皮膚病 汗孔角化症. *Visual Dermatology*

- 7(9): 1000-1001, 2008.
40. 早川 順: 汗で良くなる?悪くなる?皮膚病 アトピー性皮膚炎 (入浴習慣変更により改善). *Visual Dermatology* 7(9): 1004-1005, 2008.
 41. 早川 順: 汗で良くなる?悪くなる?皮膚病 減汗性コリン性蕁麻疹. *Visual Dermatology* 7(9): 1008-1009, 2008.
 42. 水川良子: 汗の低下を来す意外な原因 ウイルス感染後の発汗障害. *Visual Dermatology* 7(9): 1016-1017, 2008.
 43. 井上桐子, 平原和久, 早川 順: 汗の低下を来す意外な原因 帯状疱疹後の発汗障害. *Visual Dermatology* 7(9): 1018-1019, 2008.
 44. 狩野葉子: コラム 薬剤と発汗. *Visual Dermatology* 7(9): 1020, 2008.
 45. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるタクロリムス軟膏の作用機序. *Allergia Trends* 10(3): 14-17, 2008.
 46. 塩原哲夫: 薬剤アレルギーの発症要因としての感染症. *臨床免疫・アレルギー科* 50(5): 581-588, 2008.
 47. Kano Y, Hirahara K, Asano Y, Shiohara T: HLA-B allele associations with certain drugs are not confirmed in Japanese patients with severe cutaneous drug reactions. *Acta Derm Venereol* 88(6): 616-618, 2008.
 48. 塩原哲夫: 羅針盤 同じように見えて同じでない. *Visual Dermatology* 7(12): 1291, 2008.
 49. 満山陽子, 塩原哲夫: 同じ病気でもこんなに違う! ブフェキサマク接触皮膚炎. *Visual Dermatology* 7(12): 1294-1299, 2008.
 50. 早川 順, 稲岡峰幸: 同じ病気でもこんなに違う! 水銀皮膚炎. *Visual Dermatology* 7(12): 1300-1307, 2008.
 51. 狩野葉子: 同じ病気でもこんなに違う! シイタケ皮膚炎. *Visual Dermatology* 7(12): 1308-1314, 2008.
 52. 水川良子: 同じ病気でもこんなに違う! 固定薬疹. *Visual Dermatology* 7(12): 1338-1345, 2008.
 53. 早川和人: 同じ病気でもこんなに違う! 丹毒. *Visual Dermatology* 7(12): 1346-1353, 2008.
 54. 平原和久: 同じ病気でもこんなに違う! 麻疹. *Visual Dermatology* 7(12): 1354-1360, 2008.
 55. 塩原哲夫: 同じ病気でもこんなに違う! : 総論 一原因が同じでも結果が違う理由一. *Visual Dermatology* 7(12): 1368-1373, 2008.
 56. 狩野葉子: 薬剤がもたらす皮膚病変(11) 抗がん剤による皮膚病変. *医薬ジャーナル* 44(12): 5-8, 2008.
 57. 平原和久, 早川 順, 塩原哲夫: 炎症性皮膚疾患における発汗障害検出の試み 一発汗試験の感度の向上を目指して一. *発汗学* 15(2): 68-70, 2008.
 58. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎における汗は悪玉か善玉か. *発汗学* 15(2): 83-85, 2008.
 59. 白石由佳, 五味方樹, 満山陽子, 平原和久, 水川良子, 塩原哲夫: 蜂窩織炎後に続発したアナフィラクトイド紫斑の1例. *臨皮* 62(12): 898-901, 2008.
 60. 塩原哲夫: 綜説 感染症と薬剤アレルギー. *アレルギー* 57(12): 1270-1274, 2008.

61. 平原和久, 狩野葉子: 重症薬疹診断ガイドラインのポイント. 日皮会誌 118(13): 2674-2677, 2008.
62. 狩野葉子: 分子標的療法ではどのような皮膚病変に注意すべきか?. 日皮会誌 118(13): 2812-2815, 2008.
63. 満山陽子, 白石由佳, 平原和久, 塩原哲夫: 多彩な臨床像を呈するブフェキサマクによる接触皮膚炎の検討. 臨皮 62(13): 959-962, 2008.
64. 堀江千穂, 浅野祐介, 水川良子, 塩原哲夫: 星状神経節ブロック後に生じた慢性苔癬状粒糠疹の 1 例 発汗異常に関する考察を加えて. 臨皮 62(13): 984-987, 2008.
65. 狩野葉子: 重症薬疹研究の今後の方向—薬剤性過敏症症候群を中心に—. J Environ Dermatol Cutan Allergol 3(1): 7-10, 2009.
66. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎と発汗 —発汗はアトピーに良いか悪いか?. 医学の歩み 228(1): 31-37, 2009.
67. Mizukawa Y, Shiohara T: Fixed drug eruption: a prototypic disorder mediated by effector memory T cells. Curr Allergy Asthma Rep 9(1): 71-77, 2009.
68. 水川良子: 全身性疾患 : 膠原病・血管炎 DLE +サルコイドーシス. Visual Dermatology 8(1): 42-43, 2009.
69. 塩原哲夫: ケブネル現象とリコール現象ならびに類縁現象の関係 —何がその多様性を生み出すか—. Visual Dermatology 8(1): 72-77, 2009.
70. 石田 正, 平原和久, 早川和人, 塩原哲夫, 橋本 隆 ¹(¹久留米大・医・皮膚科): 当初 Stevens-Johnson 症候群を疑った linear IgA/IgG bullous dermatosis の 1 例. 臨皮 63(1): 29-32, 2009.
71. 福田知雄: 爪下グロムス腫瘍に対するトレパン使用のくり抜き手術. 日皮会誌 119(2): 183-188, 2009.
72. 平原和久, 狩野葉子: 菌血症と尿路感染が先行した急性汎発性発疹性膿疱症(AGEP)の 1 例. アレルギーの臨床 29(3): 246-249, 2009.
73. 水川良子: 疥癬 (ステロイド外用・内服後に診断された例) . Visual Dermatology 8(3): 270-271, 2009.
74. Aota N, Hirahara K, Kano Y, Fukuoka T, Yamada A, Shiohara T: Systemic lupus erythematosus presenting with Kikuchi-Fujimoto's disease as a long-term sequela of drug-induced hypersensitivity syndrome. A possible role of Epstein-Barr virus reactivation. Dermatology 218(3): 275-277, 2009.

著 書

1. Shiohara T, Mizukawa Y, Takahashi R¹, Kano Y (¹Div. of Flow Cytometry, Kyorin Univ Sch Med): Pathomechanisms of lichen planus autoimmunity elicited by cross-reactive T cells. In: Dermatologic Immunity. Nickoloff BJ, Nestle FO (Eds). Basel, Karger, 2008. vol. 10, p. 206-226.
2. 塩原哲夫 (分担執筆) : 薬疹. 今日の診療のために. ガイドライン外来診療 2008. 泉孝英編. 東京, 日本メディカル開発, 2008. p.279-286.
3. Shiohara T, Kano Y : Lichen planus. Dermatology. 2nd.ed. Bologna JL, Jorizzo JL, Rapini RP, eds. London, Mosby, 2008. p.159-170.

4. Shiohara T, Kano Y : Lichen striatus. *Dermatology*. 2nd.ed. Bologna JL, Jorizzo JL, Rapini RP, eds. London, Mosby, 2008. p.170-172.
5. Shiohara T, Kano Y : Lichen nitidus. *Dermatology*. 2nd.ed. Bologna JL, Jorizzo JL, Rapini RP, eds. London, Mosby, 2008. p.172-174.
6. Shiohara T, Kano Y : Graft-versus-host disease. *Dermatology*. 2nd.ed. Bologna JL, Jorizzo JL, Rapini RP, eds. London, Mosby, 2008. p.174-178.
7. Shiohara T, Kano Y : Erythema dyschromicum perstans. *Dermatology*. 2nd.ed. Bologna JL, Jorizzo JL, Rapini RP, eds. London, Mosby, 2008. p.178-179.
8. Shiohara T, Kano Y : Keratosis lichenoides chronica. *Dermatology*. 2nd.ed. Bologna JL, Jorizzo JL, Rapini RP, eds. London, Mosby, 2008. p.179.
9. Shiohara T, Kano Y : Summertime actinic lichenoid eruption. *Dermatology*. 2nd.ed. Bologna JL, Jorizzo JL, Rapini RP, eds. London, Mosby, 2008. p.180
10. 狩野葉子: Sweet病の第一選択薬は？ EBM皮膚疾患の治療. 宮地良樹, 幸野 健編. 東京, 中外医学社, 2008. p.94-97.
11. 福田知雄: 私のくふう～爪を削る, ドリルで穴を開ける～. 皮膚科サブスペシャリティシリーズ 1冊でわかる皮膚真菌症. 望月 隆編. 東京, 文光堂, 2008. p.112.
12. 平原和久: 薬剤性過敏症症候群 対症療法のみで軽快した DIHS. 薬疹のすべて. 池澤善郎, 相原道子編. 東京, 南江堂, 2008. p.144-148.
13. 平原和久: 急性汎発性発疹性膿疱症 予防的に投与された抗菌薬による AGEP. 薬疹のすべて. 池澤善郎, 相原道子編. 東京, 南江堂, 2008. p.157-160.
14. 浅野祐介, 水川良子, 塩原哲夫: ハーブブレンド剤摂取による汎発性モルフェア様強皮症. いわゆる健康食品・サプリメントによる健康被害症例集. 日本医師会監修. 東京, 同文書院, 2008. p.108-109.
15. 塩原哲夫: 薬疹とウイルス感染. 皮膚病診療カラーアトラス大系 I. 鈴木啓之, 神崎保編. 東京, 講談社, 2008. p.176-177.
16. 塩原哲夫 (分担執筆) : 薬疹と薬剤アレルギー. 医学のすべて. 池澤善郎, 相原道子編. 東京, 南江堂, 2008. p.10-21.
17. 塩原哲夫 (分担執筆) : リンパ球刺激試験. 医学のすべて. 池澤善郎, 相原道子編. 東京, 南江堂, 2008. p.53-58.
18. 塩原哲夫 (分担執筆) : 非ステロイド系抗炎症外用剤. (1)どんな適応があるの? その功罪は? 現場の疑問に答える皮膚病治療薬 Q&A. 宮地良樹, 大谷道輝編. 東京, 中外医学社, 2008. p.57-58.
19. 塩原哲夫 (分担執筆) : DIHS におけるステロイド全身投与の選択とタイミングについて教えてください. 皮膚科診療 こんなときどうする Q&A. 渡辺晋一編. 東京, 中外医学社, 2008. p.28-29.
20. 塩原哲夫: IVIGの適応を教えてください. 皮膚科診療 こんなときどうする Q&A. 渡辺晋一編. 東京, 中外医学社, 2008. p.227-229.

21. 塩原哲夫（分担執筆）：薬疹の検査はどこまで信用できますか？ 皮膚科診療 こんなときどうする Q&A. 渡辺晋一編. 東京, 中外医学社, 2008. p.30-39.
22. 塩原哲夫（分担執筆）：皮疹. 感染症内科. クリニカルスタンダード. 前崎繁文編. 東京, 文光堂, 2008. p.30-32.
23. 塩原哲夫（分担執筆）：小児の入浴・シャワーで留意することは？ 皮膚科医からひとこと. 小児の皮膚トラブル FAQ. 末廣豊, 宮地良樹編. 東京, 診断と治療社, 2008. p.55-56.
24. 塩原哲夫（分担執筆）：貨幣状湿疹、自家感作性皮膚炎. 皮膚疾患最新の治療 2009-2010. 瀧川雅浩, 渡辺晋一編. 東京, 南江堂, 2009. p.40.
25. 塩原哲夫（編集）：正しいステロイド剤の使い方. 2. 外用剤. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2009. p.1-87.
26. 塩原哲夫（分担執筆）：伝染性単核球症ではなぜ薬疹が起りやすい？ うつる皮膚病最前線. 宮地良樹編. 東京, メディカルレビュー社, 2009. p.74.
27. 塩原哲夫（分担執筆）：DIHS の顔面病変. 顔の皮膚病最前線. 宮地良樹編. 東京, メディカルレビュー社, 2009. p. 92-95.
28. 狩野葉子: DIHS と HHV-6, -7, CMV. 皮膚科診療最前線シリーズ うつる皮膚病最前線. 宮地良樹編. 東京, メディカルレビュー社, 2009. p. 60-61.

その他

1. 塩原哲夫, 大谷道輝¹, 中川秀巳² (¹東京逓信病院薬剤部, ²慈恵医大・皮膚科): 小児アトピー性皮膚炎治療の外用薬指導の実際. *Be With* 6(2):1-5.
2. 塩原哲夫: 質疑応答. 薬剤添加リンパ球刺激試験の意義・方法等. 日本医事新報 4383. P.90-91.
3. 福田知雄: 身近な皮膚疾患～白癬～. 秋元ゼミナール, 吉祥寺, 平成 20 年 4 月 1 日.
4. 福田知雄: 覚えておきたい皮膚真菌症. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 平成 20 年 4 月 15 日.
5. 塩原哲夫: 薬剤添加リンパ球刺激試験の意義・方法等(Q&A). 日本医事新報 4383 号: 90-91, 2008.
6. 早川和人: Quiz この患者をどう診断するか 皮膚結節性多発動脈炎. *Clinician* No. 571: 52-53, 98-100, 2008.
7. 平原和久: 症例呈示 薬疹かと思ったら, 実は線状 IgA 皮膚症だった!. 皮膚アレルギーの旅, 7(2): 8-9, 2008.
8. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるタクロリムス軟膏の作用機序. *Allergia Trends*. 10(3):16-17, 2008.
9. 塩原哲夫, 他: 座談会 アレルギー疾患に対する代替医療. Q&A でわかるアレルギー疾患 4(4): 363-378, 2008.
10. 狩野葉子: ウイルス感染と皮膚疾患—新しい視点—. 第 4 回南多摩皮膚科研究会, 八王子, 平成 20 年 5 月 10 日.
11. 塩原哲夫: 薬疹を見逃さないために. 多摩地区調剤薬局講演会, 三鷹, 平成 20 年 5 月 24 日.
12. 塩原哲夫: 皮膚の乾燥は何をもたらすのか～乾燥性皮膚疾患に対する知識～. 栃木県小児科医学会学術講演会, 宇都宮, 平成 20 年 5 月 31 日.

13. 塩原哲夫, 他: 座談会 ステロイドの使い方. 皮膚アレルギーの旅 7(3): 1-6, 2008.
14. 狩野葉子: 日常診療で見逃しやすい薬疹の臨床とその病態. 第3回房総皮膚科セミナー, 木更津, 平成20年7月11日.
15. 塩原哲夫, 他: 対談 “アトピー性皮膚炎・蕁麻疹のEBMとガイドライン～抗ヒスタミン薬治療の観点を中心に～” メディカル・トリビューン 平成20年7月11日.
16. 早川 順: 症例呈示 薬疹かと思ったら, 実はヒトパルボウイルス B19 感染症だった!. 皮膚アレルギーの旅 7(3): 8-9, 2008.
17. 狩野葉子: 日常診療で見逃しやすい薬疹の臨床とその病態. 調布医師会学術講演会, 調布, 平成20年9月9日.
18. 塩原哲夫: 21世紀を迎えて皮膚科研究は何が起こっているか 研究は臨床に役立っているか. ラジオ NIKKEI, 平成20年9月11日.
19. 塩原哲夫: ダメ皮膚科医が研究を通して皮膚科に目覚めるまで. 第8回皮膚疾患治療セミナー, 名古屋, 平成20年9月13日.
20. 福田知雄: 真菌検査若手セミナー 皮膚真菌症の基礎～KOH法～. 名古屋, 平成20年9月13日.
21. 田坂佳名子: とびひをどうやって治してますか?—アトピー性皮膚炎患児の伝染性膿痂疹入院治療例. 第3回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成20年10月4日.
22. 稲岡峰幸: アトピー性皮膚炎コントロール不良例のその後—合併症～教育入院まで. 第3回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成20年10月4日.
23. 福田知雄: I. 光線力学療法 (photodynamic therapy : PDT), II. だまされやすい KOH 所見とは ～皮膚真菌症の基礎①～. 第3回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成20年10月4日.
24. 水川良子: 固定薬疹を中心として. 広島皮膚科集談会, 広島, 平成20年10月4日.
25. 塩原哲夫: 皮膚の乾燥は何をもたらすのか. 高知スキンケア研究会, 高知, 平成20年10月24日.
26. 塩原哲夫: 誤った服薬指導が乾燥性皮膚疾患を作り出す? 中小病院実務研究会, 東京, 平成20年10月28日.
27. 塩原哲夫: アトピー疾患について. 大塚製薬講演会, 東京, 平成20年11月21日.
28. 塩原哲夫: 皮膚の乾燥は皮膚科医が作り出した? 香川スキンケア研究会, 高松, 平成20年12月5日.
29. 塩原哲夫: 帯状疱疹の常識・非常識. 栃木県記念講演会, 宇都宮, 平成20年12月6日.
30. 塩原哲夫: マウス接触皮膚炎モデルにおける単回ハプテン塗布による自然免疫の誘導と、それに対する IgE の抑制作用. アレルギーモデル研究会, 東京, 平成20年12月19日.
31. 狩野葉子: 症例呈示 薬疹かと思ったら, 実は Toxic shock syndrome の頓挫例だった!. 皮膚アレルギーの旅 7(4): 8-9, 2008.
32. 狩野葉子: 体温の基礎知識 体温のメカニズム～感染防御因子としての汗, あせも～. チャイルドヘルス 11(12): 835-837, 2008.
30. 狩野葉子: 重症薬疹の早期診断. ラジオ NIKKEI, 平成21年2月10日.

31. 水川良子: 皮膚病変から学ぶアレルギーの鑑別 Gloves and socks syndrome. 皮膚アレルギーフロンティア 7(1): 61-63, 2009.
32. 青田典子: 帯状疱疹の怖い合併症—眼窩先端部症候群の症例を通して知ったこと. 第4回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成21年3月4日.
33. 田坂佳名子: 帯状疱疹は多形紅斑の原因となる. 第4回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成21年3月4日.
34. 井上桐子: 帯状疱疹は発汗障害をもたらす. 第4回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成21年3月4日.
35. 倉田麻衣子: 帯状疱疹と単純疱疹の密接な関係. 第4回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 平成21年3月4日.
36. 福田知雄: 外用抗真菌剤の使い方—皆が間違える落とし穴. 第4回皮膚合同カンファレンス, 吉祥寺, 平成21年3月4日.

形成外科学教室

I. 口演

1. 多久嶋亮彦: Reconstruction of maxillectomy defects with free flap – Comparison of immediate and delayed reconstruction: a retrospective analysis of 51 cases. 第 51 回日本形成外科学会学術集会, 学術奨励賞授賞式. 名古屋, 平成 20 年 4 月 10 日.
2. 岡崎睦, 平野浩一, 多久嶋亮彦, 宮本慎平, 白石知大, 海老原敏, 波利井清紀, 中川雅裕¹, 成田圭吾(¹ 静岡がんセンター形成外科)(シンポジウム): 喉頭・下咽頭癌に対する喉頭機能を温存した下咽頭・喉頭部分切除後の再建. 第 51 回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋, 平成 20 年 4 月 9-11 日.
3. 大浦紀彦, 木下幹雄, 大坪里織, 岡崎睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 杏林大学病院における難治性潰瘍の治療戦略. 第 51 回形成外科学会総会・学術集会, 名古屋, 平成 20 年 4 月 10 日.
4. 尾崎峰, 加地展之, 栗田昌和, 成島三長, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 当科における動静脈奇形(AVM)の治療方針: 特に小児期早期手術の是非について. 第 51 回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋, 平成 20 年 4 月 11 日.
5. 飯田匠子, 佐藤英, 小林よう, 波利井清紀: 顔面炎症後色素沈着に対する治療経験. 第 51 回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋, 平成 20 年 4 月 9-11 日.
6. 木下幹雄, 大浦紀彦, 大坪里織, 多久嶋亮彦, 岡崎睦, 波利井清紀: 褥瘡手術の pretreatment としての陰圧閉鎖療法の有用性. 第 51 回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋, 平成 20 年 4 月 9-11 日.
7. 成田圭吾, 中川雅裕¹, 赤澤聡¹, 松村崇², 川人龍夫³, 鬼塚哲郎⁴, 田沼明⁵, 神田亨⁵(¹ 静岡県立静岡がんセンター・形成外科, ² 順天堂大学付属病院・形成外科, ³ 焼津市民病院・形成外科, ⁴ 静岡県立静岡がんセンター・頭頸科, ⁵ 静岡県立静岡がんセンター・リハビリテーション科): 中咽頭上側壁再建手術と術後機能. 第 51 回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋, 平成 20 年 4 月 9-11 日.
8. 栗田昌和, 白石知大, 多久嶋亮彦, 尾崎峰, 岡崎睦, 波利井清紀: 麻痺性兔眼に対する側頭筋移行術による眼瞼運動変化の評価 FEMAS-1 による分析. 第 51 回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋, 平成 20 年 4 月 9-11 日.
9. 白石知大, 岡崎睦, 多久嶋亮彦, 大浦紀彦, 波利井清紀: Angular branch を用いた遊離肩甲骨弁による放射線下顎骨壊死に対する再建. 第 51 回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋, 平成 20 年 4 月 9-11 日.
10. 栗田昌和, 尾崎峰, 加地展之, 多久嶋亮彦, 波利井清紀, 藤野節: 各種硬化剤注入による筋組織への影響. 第 5 回血管腫・血管奇形研究会, 名古屋, 平成 20 年 4 月 11-12 日.
11. 木下幹雄, 大浦紀彦: 外科的治療と被覆材の選択. 第 8 回南埼玉地区 Wound Care 研究会, さいたま, 平成 20 年 4 月 19 日.
12. 多久嶋亮彦, 栗田昌和, 白石知大, 木下幹雄, 尾崎峰, 波利井清紀: 異常共同運動に対する選択的神経・筋切除術とビデオ分析による定量的評価. 第 31 回顔面神経麻痺研究会, 東京, 平成 20 年 5 月 29 日.
13. 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 白石知大, 木下幹雄, 尾崎峰, 波利井清紀: 顔面神経麻痺治療のための新

デバイス開発. 第 31 回顔面神経麻痺研究会, 東京, 平成 20 年 5 月 29-30 日.

14. Ohura N, Shibata M¹, Harii K (¹Dept of Biomedical Engineering, University of Tokyo) Capillary vessels have a higher structural tolerance than other microcirculatory vessels for external perpendicular force as the major cause of pressure ulcers. Third Congress of the World Union of Wound Healing Societies, Tronto, June, 4-8, 2008.
15. 木下幹雄, 大浦紀彦, 波利井清紀: 褥瘡における局所治療の選択. 第 1 回褥瘡学会関東甲信越地方会, 宇都宮, 平成 20 年 6 月 7 日.
16. 多久嶋亮彦, 岡崎睦, 大浦紀彦, 波利井清紀: 陳旧性顔面神経麻痺に対するわれわれの治療法と評価方法. 第 32 回日本頭頸部癌学会・第 29 回頭頸部手術手技研究会, 東京, 平成 20 年 6 月 11 日.
17. 成田圭吾, 中川雅裕¹, 赤澤聡¹, 松村崇², 川人龍夫³, 飯田拓也⁴(¹静岡県立静岡がんセンター・形成外科, ²順天堂大学付属病院・形成外科, ³焼津市民病院・形成外科, ⁴東京大学附属病院・形成外科): 表面温度測定による遊離空腸移植後の血流評価. 第 32 回日本頭頸部癌学会, 東京, 平成 20 年 6 月 12-13 日.
18. 大浦紀彦, 木下幹雄, 大坪里織, 岡崎睦, 多久嶋亮彦, 小澤仁美, 萬知子, 波利井清紀: 第 5 回日本臨床高気圧酸素学会, 佐賀, 平成 20 年 6 月 14 日.
19. 木下幹雄, 大浦紀彦, 波利井清紀: 褥瘡の局所治療. 杏林大学院内セミナー, 三鷹, 平成 20 年 6 月 19 日.
20. 大浦紀彦, 後藤英昭¹, 小泉建雄¹, 大坪里織, 宇野重起¹, 岡崎睦, 城間敏子², 多久嶋亮彦, 波利井清紀(¹杏林大学・救急医学・熱傷センター, ²杏林大学・リハビリテーション科)(パネル): 広範囲熱傷における手指熱傷の治療戦略. 第 34 回日本熱傷学会総会・学術集会, 名古屋, 平成 20 年 6 月 28 日.
21. 小林よう, 大浦紀彦, 大森見布江, 岡崎睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 熱傷後肛門部瘢痕拘縮に対し拡張化腹直筋皮弁による再建が有用であった一例. 第 34 回熱傷学会総会, 名古屋, 平成 20 年 6 月 27~28 日.
22. 大浦紀彦: フットケアのすすめ. 社会保険中央病院 皮膚排泄ケア認定看護師フォローアップセミナー, 千葉, 平成 20 年 7 月 12 日.
23. 大浦紀彦: 最新の褥瘡治療. 褥瘡ケアセミナー, 東京, 平成 20 年 7 月 19 日.
24. 大浦紀彦: 創感染とその治療. 創傷セミナー, 東京, 平成 20 年 7 月 25 日.
25. 大浦紀彦: critical colonization. 大きく変わる褥瘡ケア最新の知識. 照林社主催褥瘡教育セミナー, 東京, 平成 20 年 8 月 24 日.
26. 大浦紀彦(ワークショップ): 陰圧閉鎖療法を用いた急性創傷・慢性創傷の治療. 第 10 回日本褥瘡学会, 神戸, 平成 20 年 8 月 29 日.
27. 大浦紀彦(ワークショップ): Deep tissue injury をどのように考えるか. 第 10 回日本褥瘡学会, 神戸, 平成 20 年 8 月 30 日.
28. 多久嶋亮彦(特別講演): 腫瘍切除後・外傷後の四肢再建と四肢リンパ浮腫の治療. 第 13 回多摩骨軟部腫瘍研究会, 東京, 平成 20 年 8 月 30 日.
29. 大浦紀彦: 創傷治療 創傷被覆材と外用剤の使い方. 上尾医師会学術講演会, 上尾市, 平成 20 年 9 月 5 日.

30. 大浦紀彦:「フットケア最前線」血行再建できない下肢をいかに救済するか. 第4回創傷治癒を考える会 (科研製薬), 金沢, 平成 20 年 9 月 27 日.
31. 尾崎峰, 栗田昌和, 加地展之, 多久嶋亮彦, 波利井清紀, 藤野節:血管腫硬化剤注入による正常骨格筋への影響1:組織学的検討. 第 17 回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 平成 20 年 10 月 2 日.
32. 栗田昌和, 尾崎峰, 加地展之, 松永恵里奈, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:血管腫硬化剤注入による正常骨格筋への影響 2:生理学的検討. 第 17 回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京, 平成 20 年 10 月 2-3 日.
33. Ozaki M, Sato S, Kurita M, Shiraishi T, Omori M, Takushima A, Harii K. : Traction therapy for the condylar fracture using the internal bone distraction device. 7th Asian Pacific Craniofacial Association conference, Taipei, Oct 6, 2008.
34. 飯田匠子, 佐藤英, 小林よう, 栗田昌和, 尾崎峰, 百澤明¹, 吉村浩太郎², 波利井清紀(¹埼玉医科大学総合医療センター・形成外科・美容外科, ²東京大学・医・形成外科・美容外科):当科における‘シミ’治療のアルゴリズム—‘シミ’治療の標準化—. 第 31 回日本美容外科学会総会, 広島, 平成 20 年 10 月 11-12 日.
35. 多久嶋亮彦, 岡崎睦, 波利井清紀:腫瘍切除後の顔面神経麻痺の二次再建. 第 26 回日本顎顔面外科学会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 16 日.
36. 尾崎峰, 多久嶋亮彦, 辻直子, 波利井清紀 : 陳旧性顔面神経不全麻痺に対する SurgiWire™を用いた鼻唇溝修正術. 第 26 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 17 日.
37. 栗田昌和, 岡崎睦, 尾崎峰, 松永恵里奈, 佐藤英, 白石知大, 木下幹雄, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:頬骨骨折観血的整復固定術の術後アンケート調査. 第 26 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 16-17 日.
38. 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 村岡慶裕, 白石知大, 木下幹雄, 尾崎峰, 波利井清紀:顔面神経麻痺治療のための新デバイス開発. 第 26 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 16-17 日.
39. 白石知大, 多久嶋亮彦, 岡崎睦, 波利井清紀:顔面神経麻痺患者に対する上眼瞼形成術. 第 26 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 16-17 日.
40. 多久嶋亮彦(特別講演):陳旧性顔面神経麻痺に対する total facial reanimation. 第 22 回神戸形成外科集談会, 神戸, 平成 20 年 10 月 25 日.
41. 多久嶋亮彦, 桜井裕之, 波利井清紀, 野崎幹弘:血管茎に基づく皮弁の分類. 第 35 回日本マイクロサージャリー学会, 新潟, 平成 20 年 11 月 14 日.
42. 岡崎睦, 平野浩一, 白石知大, 成田圭吾, 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 海老原敏, 波利井清紀, 中川雅裕¹ (¹ 静岡がんセンター形成外科):下咽頭・喉頭部分切除術後に遊離組織移植を用いて再建を行った症例の、術後嚥下機能についての考察 —興味深い経過をたどった 3 症例から—. 第 35 回日本マイクロサージャリー学会, 新潟, 平成 20 年 11 月 14-15 日.
43. 栗田昌和, 白石知大, 多久嶋亮彦, 岡崎睦, 木下幹雄, 尾崎峰, 成田圭吾, 波利井清紀:遊離皮弁移植後の血流変化と影響をあたえる因子. 第 35 回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 新潟, 平成 20 年 11 月 14-15 日.

44. 白石知大, 岡崎睦, 平野浩一, 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 海老原敏, 波利井清紀: 遅発性動脈血栓による粘膜の完全壊死を認めたが、順調に経過した空腸パッチ移植の1例. 第35回マイクロサージャリー学会学術集会, 新潟, 平成20年11月14-15日.
45. 大浦紀彦: 末梢動脈疾患の診断と治療. ～下肢救済に対する取組みと今後の展望～ フットケアセミナー, 東京, 平成20年11月14日.
46. 木下幹雄, 大浦紀彦: 地域連携により救肢しえた症例. 第2回多摩地区フットケア研究会, 三鷹, 平成20年11月22日.
47. 木下幹雄, 大浦紀彦, 波利井清紀: 臨床における Short-contact トレチノイン療法の有用性. 第38回創傷治癒学会, 東京, 平成20年12月5日.
48. 木下幹雄, 大浦紀彦, 波利井清紀: フットケア・下肢救済外来における難治性潰瘍の検討. 第1回創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 平成21年1月16日.
49. 尾崎峰, 佐藤英, 大森見布江, 成田圭吾, 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 下顎関節突起骨折に対する内固定型延長器を用いた牽引術の検討. 第1回創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 平成21年1月17日.
50. 栗田昌和, 市岡滋, 田中夕香理, 梅川浩平, 大島淑夫, 木下幹雄, 大浦紀彦, 波利井清紀: 褥瘡患者全身評価における Orthopedic POSSUM の有用性および妥当性の統計学的な検討. 第1回日本創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 平成21年1月16-17日.
51. 上西昭子, 佐々木京子¹, 上野紫穂¹, 三枝紀子², 内田源太郎³, 朝戸裕貴⁴, 波利井清紀(¹堀ノ内病院・形成外科, ²埼玉医大・総合医療センター・形成外科, ³東大・医・形成外科, ⁴獨協医大・形成外科): A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の家族内感染に起因した壊死性筋膜炎の1例. 第1回日本創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 平成21年1月16-17日.
52. 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 村岡慶裕, 白石知大, 尾崎 峰, 波利井清紀: 顔面神経麻痺治療を目的とした埋め込み型随意筋電誘発機能的筋刺激装置の開発. 東京大学医学部形成外科学教室第20回同門学術集会, 東京, 平成21年1月31日.
53. Okazaki M, Ueda K¹, Sasaki K², Shiraishi T, Kurita M, Harii K (¹Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, Fukushima Medical University, ² Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, Horinouchi Hospital): Expanded subcutaneous-pedicled island forehead flap for forehead reconstruction. The 9th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Okinawa, Feb.21-23, 2009.
54. 木下幹雄, 大浦紀彦, 波利井清紀: フットケア・下肢救済外来における難治性潰瘍の検討. 第7回フットケア学会, 横浜, 平成21年2月27日.
55. 大浦紀彦: 褥瘡ケアセミナーin 仙台 最新の褥瘡対策. 褥瘡講演 (モルテン), 仙台, 平成20年11月29日.
56. 大浦紀彦: Critical Limbs Symposium 透析患者の足を救え、命を救え! 形成外科的見地からの Limb salvage. 鎌倉ライブデモンストレーション, 横浜, 平成20年12月19日.
57. 大浦紀彦, 丹波光子, 竹内弘久, 中村健二, 神山貴子, 北原敦子, 種山小栗, 佐藤ミヨ子, 石田均, 齊藤英昭: 杏林大学病院におけるNST活動の現状. 第24回日本静脈経腸栄養学会 (ポスター), 鹿児島, 平成21年1月29日.
58. 丹波光子, 大浦紀彦, 竹内弘久, 森小津恵, 高橋陽子, 種山小栗, 北原敦子, 神山貴子, 齊藤英昭:

皮膚欠損患者におけるエンジョイプロテインの使用経験. 第24回日本静脈経腸栄養学会(ポスター), 鹿児島, 平成21年1月29日

59. 大浦紀彦, 世界の医療団の人道援助. 国際協力と医療に関するシンポジウム 世界銀行, 東京, 平成21年1月31日.
60. 大浦紀彦:最新の褥瘡治療. 東京医科大学褥瘡講演会, 東京, 平成21年2月10日.
61. 大浦紀彦:創傷外科・熱傷治療 東京大学褥瘡講演会, 東京, 平成21年2月18日.
62. 大浦紀彦:最新の褥瘡治療. 第2回中埼創傷治療研究会, 埼玉, 平成21年3月7日.
63. 小林よう, 佐藤英, 飯田匠子, 岡崎睦¹, 多久嶋亮彦, 波利井清紀(¹東京医科歯科大・形成外科):眼瞼結膜に限局したアミロイドーシスに対し、炭酸ガスレーザーで治療した一例. 第257回形成外科学会東京地方会, 東京, 平成21年3月7日.
64. 木下幹雄:新しい褥瘡の概念 Deep Tissue Injury とは. 日本褥瘡学会関東甲信越地方会第6回東京支部フォーラム, 東京, 平成21年3月14日.

II 論文

1. 波利井清紀:陳旧性顔面神経麻痺の手術治療. 都耳鼻会報 125:70-74, 2008.
2. Kiyonori H, Kawashima M: A Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled, Two-Dose Comparative Study of Botulinum Toxin Type A for Treating Glabellar Lines in Japanese Subject. *Aesth Plast Surg* 32:724-730, 2008.
3. Miyamoto S, Takushima A, Okazaki M, Shiraishi T, Minabe T, Harii K: Free Pectoral Skin Flap in the Rat Based on the Long Thoracic Vessels. A New Flap Model for Experimental Study and Microsurgical Training. *Annals of Plastic Surgery* 61(2):209-214, 2008.
4. Miyamoto S, Okazaki M, Ohura N, Shiraishi T, Takushima A, Harii K: Comparative Study of Different Combinations of Microvascular Anastomoses in a Rat Model: End-to-End, End-to-Side, and Flow-Through Anastomosis. *Plastic and Reconstructive Surgery* 122(2):449-455, 2008.
5. Miyamoto S, Takushima A, Okazaki M, Ohura N, Minabe T, Harii K: Relationship between Microvascular Arterial Anastomotic Type and Area of Free Flap Survival: Comparison of End-to-End, End-to-Side, and Retrograde Arterial Anastomosis. *Plastic and Reconstructive Surgery* 121(6):1901-1908, 2008.
6. Miyamoto S, Okazaki M, Takushima A, Shiraishi T, Omori M, Harii K: Versatility of A Posterior-wall-first Anastomotic Technique Using A short-Thread Double-Needle Microsuture For Atherosclerotic Arterial anastomosis. *Microsurgery* 28:505-508, 2008.
7. 多久嶋亮彦, 波利井清紀:神経採取のための切開とアプローチ法. *PEPARS* 23:116-120, 2008.
8. 多久嶋亮彦, 岡崎睦, 波利井清紀:顔面非対称の治療 - 軟部組織再建の治療法について -. *形成外科* 51(11):1281-1290, 2008.
9. 多久嶋亮彦, 波利井清紀:顔面神経麻痺治療における face-lifting の役割 -異常共同運動の治療を中心に-. *形成外科* 52(1):59-67, 2009.
10. 多久嶋亮彦, 波利井清紀:先天性顔面神経麻痺の外科的治療. *JOHNS*. 25(1):105-108, 2009.
11. 岡崎睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:浅・深腸骨回旋動静脈を茎とする血管柄付き遊離腸骨移植. *形成外科* 51:401-409, 2008.

12. 岡崎睦, 辻直子:乳房インプラント法による乳癌切除後の乳房再建. 医学のあゆみ 224: 638-640, 2008.
13. Okazaki M, Asato H, Okochi M, Suga H, Kinoshita M: Shortcut vascular augmented long rectus abdominis musculocutaneous flap transfer using intercostal perforator for complex oro-pharyngo-cutaneous defects. Plast Reconstr Surg, 121: 220e-221e. 2008.
14. Okazaki M, Asato H, Sarukawa S, Okochi M, Suga H: Ninety-degree transposed free jejunal patch transfer for hypopharyngeal reconstruction following partial hypopharyngectomy. Plast Reconstr Surg 122: 143e-144e, 2008.
15. 大浦紀彦, 市岡滋:手術前の創面の整備. 特集;褥瘡手術治療の適応と皮弁の選択. 形成外科 51:1129-1136, 2008.
16. 大浦紀彦, 木下幹雄:褥瘡発生のメカニズムおよび基礎疾患. 外科系医師のための「創傷外科」update 形成外科 51 増:S154-S161, 2008.
17. 大浦紀彦:褥瘡に対する半固形化栄養剤の有用性 難病と在宅ケア 14:43-47, 2008.
18. 大浦紀彦:創傷ケアの古典から最先端まで. PEPARS 26:25-33, 2009.
19. 大浦紀彦, 波利井清紀:慢性創傷. 特集;創傷治療. 治療 91:237-242, 2009.
20. Ozaki M, Takushima A, Momosawa A, Kurita M, Harii K: Temporary suspension of acute facial paralysis using the S-S Cable Suture. Ann Plast Surg, 61: 61-67, 2008.
21. 成田圭吾, 中川雅裕¹, 赤澤聡¹, 松村崇², 川人龍夫³, 鬼塚哲郎⁴, 海老原充⁴, 飯田善幸⁴, 上條朋之⁴, 田沼明⁵, 神田亨⁵, 山下亜依子⁶(¹静岡県立静岡がんセンター・形成外科, ²順天堂大学付属病院・形成外科, ³焼津市民病院・形成外科, ⁴静岡県立静岡がんセンター・頭頸科, ⁵静岡県立静岡がんセンター・リハビリテーション科, ⁶静岡県立静岡がんセンター・栄養科):中咽頭再建術後の嚥下機能. 耳鼻と臨床:中咽頭再建術後の嚥下機能. 耳鼻と臨床 54(補2):S189-S198,2008.
22. 栗田昌和, 尾崎峰, 大森見布江, 岡崎睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:手術用顕微鏡の光源によって熱傷をきたした1例. 日本マイクロ会誌 21:83-86,2008.
23. 栗田昌和, 多久嶋亮彦, 白石知大, 木下幹雄, 尾崎峰, 波利井清紀:顔面神経麻痺治療のための新デバイスのシミュレーション. Facial N Res Jpn 28:155-157,2008.
24. Kurita M, Okazaki M, Ozaki M, Miyamoto S, Takushima A, Harii K: Thermal effect of illumination on microsurgical transfer of free flaps: Experimental study and clinical implications. Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg. 42(2): 58-66,2008.
25. Kurita M, Aiba-Kojima E, Shigeura T, Matsumoto D, Suga H, Inoue K, Eto H, Kato H, Aoi N, Yoshimura K.: Differential effects of three preparations of human serum on expansion of various types of human cells. Plast Reconstr Surg..Aug; 122(2):438-48, 2008
26. Yoshimura K, Sato K, Aoi N, Kurita M, Suga H, Inoue K, Eto H, Hirohi T, Harii K: .Ectopic fibrogenesis induced by transplantation of adipose-derived progenitor cell suspension immediately after lipoinjection. Transplantation. 85(12):1868-1869. 2008.
27. Momosawa A, Kurita M, Ozaki M, Miyamoto S, Kurachi I, Watanabe R, Harii K.:Transconjunctival orbital fat repositioning for tear trough deformity in young Asians. Aesthetic Surgery Journal. 28(3): 265-71, 2008.

28. 白石知大, 朴修三¹ (1 静岡県立こども病院): 臍欠損に対する造臍術について. 形成外科 51: 539-546, 2008.
29. 白石知大, 多久嶋亮彦, 栗田昌和, 木下幹夫, 尾崎 峰, 波利井清紀: 異常共同運動に対する手術前後の定量的評価. Facial Nerv Res 28:23-25, 2008.

Ⅲ. 著書(電子メディアを含む)

1. 多久嶋亮彦, 波利井清紀: Hemifacial microsomia 3) 軟部組織の再建. 形成外科 ADVANCE シリーズ I-5, 東京, 克誠堂出版, 2008. p 166-174.
2. 平野浩一: II. 腫瘍の疾患を深く学ぼう 頭頸部腫瘍. 講義録 腫瘍学, 東京, メディカルビュー社, 2008. p89-95
3. 大浦紀彦: 褥瘡回診はどんなふうにおこなわれるの? 現場の疑問に答える褥瘡診療(宮地良樹, 真田弘美編集), 東京, 中外医学社, 2008. p31-34.
4. 大浦紀彦, 柳下和慶: 高気圧酸素療法: Hypervaric Oxygen Therapy (HBOT). 足の創傷をいかに治すか-糖尿病フットケア・Limb Salvage へのチーム医療-東京, 克誠堂出版, pp167-172, 2009.
5. 市岡滋, 大浦紀彦(編集企画): 特集/足・下腿難治性潰瘍 PEPARS 26 2009.

Ⅳ. その他(報告書、監修、翻訳、学会主催等)

1. 多久嶋亮彦: 顔面神経麻痺治療のための新デバイス開発. 研究成果報告書. 平成 20 年度科学研究費補助金(基盤 B)
2. 多久嶋亮彦: 標準的下顎再建方法. 研究成果報告書. 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)中塚班、分担研究者
3. 多久嶋亮彦: がん切除後の顔面形態の再建. 研究成果報告書. 厚生労働省がん研究助成金木股班、分担研究者
4. 岡崎睦: 炎症後色素沈着の機序の解明と低瘢痕創傷治癒に関する基礎的研究. 研究成果報告書. 平成 20 年度科学研究費補助金(基盤 B)
5. 大浦紀彦: 微小循環可視化モデルを用いた褥瘡発生機序の解明. 研究成果報告書. 研究成果(基盤 C)
6. 大浦紀彦(主催): 第 2 回多摩地区フットケアミーティング. 杏林大学・大学院講堂, 三鷹, 平成 20 年 11 月 22 日.
7. 尾崎峰: 下顎関節突起骨折におけるボツリヌス菌の毒素の利用. 研究成果報告書. 平成 20 年度科学研究費補助金若手研究(B)
8. 木下幹雄: Regenerative flap 開発. 研究成果報告書. 平成 20 年度科学研究費補助金(若手 B)
9. 白石知大: 末梢神経静脈吻合による、神経再生と骨格筋の再支配に関する研究. 研究成果報告書. 平成 20 年度科学研究費補助金(若手 B)
10. 佐藤英: 血管柄分枝部の構造が穿通枝皮弁の血行に与える影響についての研究. 研究成果報告書. 平成 20 年度科学研究費補助金(若手 B)

泌尿器科学教室

口演

1. 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 進行性前立腺癌における CellSearch の臨床応用. 第 96 回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 平成 20 年 4 月 25 日.
2. 林建二郎, 榎本香織, 小田金哲広, 村田憲彦, 板谷直, 野村昌史, 原秀彦, 多武保光宏, 藤森雅博, 野田治久, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院における経会陰式前立腺生検の検討. 第 96 回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 平成 20 年 4 月 25 日.
3. 桶川隆嗣(シンポジウム): 診断の難しい尿管疾患. 第 96 回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 平成 20 年 4 月 26 日.
4. 金城真実, 喜多かおる¹, 関口由紀¹, 東原英二(¹横浜元町女性医療クリニック LUNA): 女性過活動膀胱患者における抗ムスカリン薬の有効性に対する検討—抗ムスカリン薬 4 剤比較—. 第 96 回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 平成 20 年 4 月 26 日.
5. 榎本香織, 村田憲彦, 小田金哲広, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 藤森雅博, 野田治久, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 前立腺肥大症における塩酸タムスロシンによる睡眠の質の改善効果の検討. 第 96 回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 平成 20 年 4 月 27 日.
6. 宍戸俊英, 榎本香織, 林建二郎, 村田憲彦, 板谷直, 小田金哲広, 多武保光宏, 渡辺和吉, 野田治久, 藤森雅博, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院におけるホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP)と TUR-P の比較検討. 第 96 回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 平成 20 年 4 月 27 日.
7. 多武保光宏, 榎本香織, 村田憲彦, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 藤森雅博, 野田治久, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当科における男性更年期外来の臨床的検討. 第 96 回日本泌尿器科学会総会, 横浜, 平成 20 年 4 月 27 日.
8. 奴田原紀久雄, 桶川隆嗣, 宍戸俊英, 東原英二: 常染色体優性多発性嚢胞腎におけるアンジオテンシン II 受容体拮抗薬の腎機能に対する効果. 第 51 回日本腎臓学会総会, 福岡, 平成 20 年 5 月 31 日.
9. 金城真実, 嘉村康邦¹, 関口由紀², 東原英二(¹四谷メディカルキューブ, ²横浜元町女性医療クリニック LUNA): 女性泌尿器科外来における頻尿患者のうちわけ. 第 10 回日本女性骨盤底医学会, 岡山, 平成 20 年 6 月 7 日.
10. 小田金哲広, 板谷直, 榎本香織, 村田憲彦, 林建二郎, 多武保光宏, 野田治久, 藤森雅博, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 膀胱鏡で抜去困難であった膀胱尿道異物の 1 例. 第 594 回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成 20 年 6 月 19 日.
11. 林建二郎, 小田金哲広, 板谷直, 榎本香織, 村田憲彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 集学的治療にて奏功した性腺外胚細胞腫瘍の 1 例. 第 595 回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成 20 年 7 月 10 日.
12. 宍戸俊英, 榎本香織, 小田金哲広, 村田憲彦, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 両側腎瘻造設を余儀なくされた短腸症候群に合併した両

- 側腎尿管結石の1例. 第95回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 平成20年7月11日.
13. 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二(シンポジウム): 進行性前立腺癌における CellSearch System の臨床応用. 第17回日本がん転移学会, 鹿児島, 平成20年7月24-25日.
 14. 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 腎癌に対する経腹膜的到達法と後腹膜的到達法での腎摘除術の比較検討. 第21回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 平成20年9月3日.
 15. Okegawa T, Nutahara K, Higashihara E (Symposium): Comparison of transperitoneal and retroperitoneal laparoscopic nephrectomy for renal cell carcinoma: A single-center experience of 100 cases. 11th World Congress of Endoscopic Surgery (WCES), Yokohama, Sept 5, 2008.
 16. Nutahara K, Tanbo M, Shishido T, Okegawa T, Higashihara E: Ureteroscopic treatment of renal and upper ureteral stones. 2008 Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia. Yokohama, Sept 5, 2008.
 17. 金城真実, 嘉村康邦¹, 関口由紀², 東原英二(¹四谷メディカルキューブ, ²横浜元町女性医療クリニック LUNA): 女性泌尿器科外来受診患者の性機能調査. 日本性機能学会 第19回学術総会, 秋田, 平成20年9月5日.
 18. 奴田原紀久雄, 東原英二: 常染色体優性多発性嚢胞腎におけるイコサペント酸の腎機能と腎容積への影響. 第16回嚢胞性腎疾患研究会, 東京, 平成20年9月6日.
 19. 桶川隆嗣: 杏林大学における前立腺癌研究のトピックス. 新潟泌尿器科研究検討会, 新潟, 平成20年9月6日.
 20. 鈴木敦, 村田明弘, 榎本香織, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 金城真実, 渡辺和吉, 野田治久, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: キング健康調査票を用いた前立腺肥大症患者に対する α 1遮断薬の臨床効果の検討(第二報). 第15回日本排尿機能学会, 東京, 平成20年9月12日.
 21. 金城真実, 関口由紀¹, 東原英二(¹横浜元町女性医療クリニック LUNA): 未治療女性過活動膀胱患者に対するイミダフェナシンの効果発現時期と有効性に関する検討. 第15回日本排尿機能学会, 東京, 平成20年9月13日.
 22. 桶川隆嗣, 榎本香織, 宍戸俊英, 奴田原紀久雄, 東原英二: 前立腺肥大症における塩酸タムスロシンによる睡眠の質の改善効果(第2報). 第15回日本排尿機能学会, 東京, 平成20年9月13日.
 23. 桶川隆嗣, 榎本香織, 小田金哲広, 村田憲彦, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 宍戸俊英, 奴田原紀久雄, 東原英二(パネルディスカッション): 前立腺癌—高密度焦点式超音波療法の位置づけ—. 第73回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成20年9月19日.
 24. 桶川隆嗣, 榎本香織, 村田憲彦, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 奴田原紀久雄, 東原英二: 再燃前立腺癌に対する抗アンドロゲン剤交替療法の有用性(第2報). 第73回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成20年9月19日.
 25. 宍戸俊英, 榎本香織, 小田金哲広, 村田憲彦, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 野田治久, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二(パネルディスカッション): 難治性感染症—治療に苦慮した常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)嚢胞内感染の1例—. 第73回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成20年9月19日.

26. 林建二郎, 榎本香織, 小田金哲広, 村田憲彦, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院における前立腺再生検についての検討. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成 20 年 9 月 19 日.
27. 奴田原紀久雄(教育講演): 尿路結石の治療—新しいガイドラインをふまえて. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.
28. 奴田原紀久雄(市民公開講座): 前立腺がん検診; 三鷹市の経験. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.
29. 宍戸俊英, 榎本香織, 小田金哲広, 村田憲彦, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 野田治久, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 尿路上皮病変の診断における Narrow Band Image (NBI)の有用性についての検討. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.
30. 多武保光宏, 榎本香織, 村田憲彦, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二(パネルディスカッション): 尿路結石—エンドウロロジー—. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.
31. 多武保光宏, 榎本香織, 村田憲彦, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 中部・下部尿管結石におけるナフトピジルによる排石効果の前向き無作為化比較試験. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.
32. 村田憲彦, 榎本香織, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当院におけるホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP)と経尿道的前立腺切除術(TUR-P)の比較検討. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.
33. 榎本香織, 村田憲彦, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 前立腺肥大症における塩酸タムスロシンによる睡眠の質の改善効果(第 2 報). 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.
34. 鈴木敦, 三浦一郎, 村田明弘, 浅妻直樹¹, 町並陸生²(¹河北総合病院内科, ²河北総合病院病理): 精索悪性リンパ腫の一例. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.
35. 金城真実(パネルディスカッション): 頻尿, 尿失禁の改善しない症例. 第 73 回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.
36. Kinjo M, Sekiguchi Y¹, Higashihara E (Yokohama Motomachi Women's clinic LUNA): Effectiveness and safety of imidafenacin in Japanese female untreated overactive bladder patients. ICS 2008. Cairo, Oct. 20-24, 2008.
37. 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 内分泌抵抗性前立腺癌における循環癌細胞と癌関連遺伝子メチル化との関連性. 第 46 回日本癌治療学会総会, 名古屋, 平成 20 年 10 月 31 日.
38. 桶川隆嗣: 前立腺癌における CellSearch System の臨床応用. 第 24 回 Japan Immunology Seminar, 東京, 平成 20 年 11 月 8 日.

39. 桶川隆嗣, 板谷直, 村田憲彦, 小田金哲広, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 奴田原紀久雄, 東原英二:腎盂移行部狭窄に対する腹腔鏡下腎盂形成術の治療成績. 第22回 Endourology・ESWL 学会, 大阪, 平成20年11月12日.
40. 宍戸俊英, 榎本香織, 小田金哲広, 村田憲彦, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 野田治久, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:尿路上皮病変に対する Narrow Band Image (NBI)を用いた光力学的診断の臨床経験. 第22回 Endourology・ESWL 学会, 大阪, 平成20年11月12日.
41. 板谷直, 村田憲彦, 小田金哲広, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:当院における STORZ 社製 MODULITH SLX-F2 を用いた ESWL の治療成績. 第22回 Endourology・ESWL 学会, 大阪, 平成20年11月12日.
42. 奴田原紀久雄(ワークショップ):尿路結石治療の現状と展望. 第22回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 大阪, 平成20年11月13日.
43. 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:I-125 シード線源を用いた前立腺永久挿入密封小線源治療時の術者の被爆. 第22回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 大阪, 平成20年11月13日.
44. 多武保光宏, 榎本香織, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:ESWL 治療効果における結石 CT 値測定の有用性. 第22回 Endourology・ESWL 学会, 大阪, 平成20年11月13日.
45. 原秀彦, 榎本香織, 林建二郎, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:当院における限局性前立腺癌に対する高密度焦点式超音波治療(HIFU)の治療成績. 第22回 Endourology・ESWL 学会, 大阪, 平成20年11月13日.
46. 村田憲彦, 榎本香織, 板谷直, 小田金哲広, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:当院に施行したホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP)とTUR-Pの比較検討. 第22回 Endourology・ESWL 学会, 大阪, 平成20年11月13日.
47. 林建二郎, 榎本香織, 小田金哲広, 板谷直, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 戸成綾子¹, 高山誠¹(¹杏林大・医・放射線科):当院における前立腺癌密封小線源永久挿入療法の治療成績. 第22回 Endourology・ESWL 学会, 大阪, 平成20年11月12日.
48. 小田金哲広, 林建二郎, 原秀彦, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 野田治久¹, 近藤幸尋²(¹多摩北部医療センター泌尿器科, ²日本医科大・泌尿器科):当院における腹腔鏡下前立腺全摘除術の初期経験. 第22回 Endourology・ESWL 学会, 大阪, 平成20年11月12日.
49. 桶川隆嗣:ハルナールによる夜間頻尿と睡眠障害に対する臨床効果. ハルナール発売15周年記念講演会, 東京, 平成20年11月18日.
50. 榎本香織, 小田金哲広, 村田憲彦, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:尿膜管膿瘍と鑑別が困難であった回盲部膿瘍の一例. 第97回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 平成20年11月28日.
51. 加藤司顯(講演):前立腺癌の診断と治療. 新宿区区民公開講座, 東京, 平成20年11月29日.

日.

52. 榎本香織, 村田憲彦, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:尿膜管膿瘍と鑑別が困難であった回盲部膿瘍の1例. 第596回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成20年12月4日.
53. 桶川隆嗣:尿路上皮癌の臨床研究. 第6回尿路上皮癌勉強会, 東京, 平成21年1月16日.
54. 村田憲彦, 榎本香織, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:Xp11.2/TFE3転座RCCの1例. 第597回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成21年1月22日.
55. 村田憲彦, 榎本香織, 小田金哲広, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:Xp11.2/TFE3転座RCCの一例. 第98回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 平成21年1月30日.
56. Kinjo M, Sekiguchi Y¹, Yoshimura Y², Higashihara E^(1Yokohama City University School of Medicine, ²Yotsuya medical cube): Sexual function of Japanese female patients with lower urinary tract symptoms. ISSWSH 2009 Annual meeting. Florence, Feb. 12-15, 2009.
57. 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:内分泌抵抗性骨転移前立腺癌における循環癌細胞と血清DNA中の癌関連遺伝子メチル化との関連性. 第18回泌尿器科分子・細胞研究会, 鹿児島, 平成21年2月14日.
58. 桶川隆嗣:多摩前立腺骨転移研究会におけるゾレドロン酸使用成績の現状報告. 第3回多摩前立腺骨転移研究会, 東京, 平成21年2月27日.
59. 小田金哲広, 榎本香織, 村田憲彦, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:腎下極に発生した動脈瘤の一例. 第99回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 平成21年3月13日.
60. 桶川隆嗣:PSA 低値の内分泌抵抗性前立腺癌における治療評価. 東京北部泌尿器科癌研究会, 東京, 平成21年3月26日.

論文

1. Higashihara E, Nutahara K, Horie S¹, Muto S¹, Hosoya T², Hanaoka K², Tuchiya K³, Kamura K⁴, Takaichi K⁵, Ubara Y⁵, Itomura M⁶ & Hamazaki T⁶ (1Department of Urology, Teikyo University School of Medicine, 2Department of Nephrology, Jikei Medical University, 3Department of Nephrology, Tokyo Women Medical University, 4Division of Urology, Chiba-East Hospital, 5Division of Nephrology, Toranomon Hospital, 6Department of Clinical Sciences, Institute of Natural Medicine, University of Toyama) : The effect of eicosapentaenoic acid on renal function and volume in patients with ADPKD. *Nephrol Dial Transplant*. 23(9): 2847-2852, 2008.
2. Okegawa T, Nutahara K & Higashihara E : Immunomagnetic quantification of circulating tumor cells as a prognostic factor of androgen deprivation responsiveness in patients with hormone naive metastatic prostate cancer. *J Urol* 180(4):1342-7, 2008.
3. Okegawa T, Noda H, Horie S¹, Nutahara K & Higashihara E^(1Teikyo University School of Medicine) : Comparison of transperitoneal and retroperitoneal laparoscopic nephrectomy for

- renal cell carcinoma: a single-center experience of 100 cases. *Int J Urol* 15(11):957-60, 2008.
4. Hara H, Kobayashi A¹, Narumi K¹, Kondoh A¹, Yoshida K¹, Nishimoto T¹, Ohashi M², Higashihara E, Ohnami S², Yoshida T² & Aoki K¹ (¹Section for Studies on Host-Immune Response, National Cancer Center Research Institute, ²Genetics Division, National Cancer Center Research Institute) : Intratumoral interferon-alpha gene transfer enhances tumor immunity after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Cancer Immunol Immunother.* 2008 Nov 8.
 5. 森俊幸¹, 跡見裕¹, 東原英二(¹杏林大・医・外科)(総説):連載:内視鏡外科手術室訪問(第2回) 杏林大学内視鏡外科手術室. *日内視鏡外会誌* 13(6): 780-782, 2008.
 6. 東原英二(総説):血尿がある女性患者の婦人科紹介基準(Q&A). *医事新報* 4382:95-96, 2008.
 7. 奴田原紀久雄, 東原英二(総説):尿管鏡および周辺機器の進歩. *Jpn J Endourol ESWL* 21: 95-101, 2008
 8. 奴田原紀久雄, 東原英二, 上山裕¹, 栗原浩司¹, 堀江重郎¹(¹帝京大・医・泌尿器科):ホルミウムレーザー砕石装置 Odyssey 30 を用いた尿路結石の治療成績. *Jpn J Endourol ESWL* 21: 203-208, 2008.
 9. 奴田原紀久雄:尿路結石治療の現状. *腎臓* 31:20-24, 2008.
 10. 奴田原紀久雄, 東原英二(総説):日常臨床に活かす診療ガイドライン 泌尿器疾患 尿路結石症診療ガイドライン(2002, 2005 改訂版). *診断と治療* 96(9): 1931-1940, 2008.
 11. 奴田原紀久雄, 東原英二(総説):CKD 予防のための血圧コントロールガイド 常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD). *腎と透析* 65(2): 262-265, 2008.
 12. 田中正利¹, 桶川隆嗣, 酒井英樹², 田丸俊三¹, 吉田正貴³, 今井常夫⁴(¹福岡大・泌尿器,²長崎大・泌尿器,³熊本大・泌尿器,⁴名古屋大・乳腺内分泌外科):泌尿器科腹腔鏡手術ガイドライン 副腎腫瘍に対する腹腔鏡下副腎摘除術. *Jpn J Endourol ESWL* 21(1)3-14, 2008.
 13. 桶川隆嗣:リンパ節廓清術を検証するーリンパ節転移の分子診断とその臨床応用、*Urol View* 6(3):90-95, 2008.
 14. 桶川隆嗣:腎血管高血圧. *腎と透析* 65(2):245-250, 2008.
 15. 桶川隆嗣:再燃前立腺癌に対する抗アンドロゲン剤交替療法の有用性. *泌外* 21(8): 1079-1083, 2008.
 16. 桶川隆嗣, 東原英二(総説):泌尿器科領域における内視鏡外科手術. *日医師会誌* 137(9): 1869-1873, 2008.
 17. 多武保光宏, 奴田原紀久雄, 東原英二:尿路結石の治療ーTULー. *泌外* 21(増刊): 333-335, 2008.
 18. 多武保光宏, 東原英二(総説):【外科医に必要ながん化学療法の知識】がん化学療法の実際 泌尿器系がん 前立腺癌の化学療法. *外科治療(増刊)* 98:702-708, 2008.
 19. 金城真実, 関口由紀¹, 東原英二(¹横浜元町女性医療クリニックLUNA):女性過活動膀胱患者における抗ムスカリン薬の有効性に対する検討. *日女性骨盤底医会誌* 5(1):103-104, 2008.
 20. Okegawa T, Nutahara K & Higashihara E : Prognostic significance of circulating tumor cells in

patients with hormone refractory prostate cancer. J Urol 181(3): 1091-7, 2009.

著書

1. 東原英二(総説):泌尿器科領域の歩み. 多発性嚢胞腎(社団法人日本腎臓学会創立 50 周年記念誌)2008, p83
2. 奴田原紀久雄:外科的治療の選択 (2)PNL a.PNL の基本. 尿路結石症のすべて. 日本尿路結石症学会編集. 東京, 医学書院, 2008. p.77-78.
3. 奴田原紀久雄:外科的治療の選択 (2)PNL b.PNL 装置. 尿路結石症のすべて. 日本尿路結石症学会編集. 東京, 医学書院, 2008. p.79.
4. 桶川隆嗣:尿路感染症. メディカルサイエンス微生物検査学. 大学検査科学専攻微生物学教員懇談会編. 東京, 近代出版, 2008. p.280-284.
5. 加藤司顕, 桶川隆嗣, 東原英二:II 術前・術後のポイント 副腎の手術. ナースのための術前・術後マニュアル. 出月康夫監修, 跡見裕編集. 東京, 照林社, 2008. p.211-214.
6. 東原英二:嚢胞性腎疾患. 新臨床内科学 第 9 版. 高久史麿, 尾形悦郎, 黒川清, 矢崎義雄監修. 東京, 医学書院, 2009. p.1055-1057.
7. 多武保光宏, 東原英二:腎の腫瘍. 新臨床内科学 第 9 版. 高久史麿, 尾形悦郎, 黒川清, 矢崎義雄監修. 東京, 医学書院, 2009. p.1057-1059.
8. 小島美保, 東原英二:嚢胞性腎疾患. 新臨床内科学 第 9 版. 高久史麿, 尾形悦郎, 黒川清, 矢崎義雄監修. 東京, 医学書院, 2009. p.1059.
9. 奴田原紀久雄, 東原英二:尿路結石に対する泌尿器科的治療の最前線. Annual Review 2009 腎臓. 御手洗哲也, 東原英二, 秋澤忠男他編集. 東京, 中外医学社, 2009. p.232-238.

その他

1. 東原英二(監修):前立腺肥大症. 暮らしの千恵. 横浜, 神奈川新聞社, 2008. 342 号 p. 26-27.
2. 東原英二(随筆):「患者様」と呼ばない提案. 日本医事新報 4398:78-79, 2008.

眼科学教室

I 口演

1. 小林 泉, 野田英一郎, 井上 真, 永本敏之: 眼窩頭蓋底外傷の1例. 第49回東京多摩地区眼科集談会, 三鷹, 平成20年4月5日.
2. 藤森重人, 浜由起子, 鈴木由美, 野田英一郎, 平形明人: 経線弱視の治療経過について. 第49回東京多摩地区眼科集談会, 三鷹, 平成20年4月5日.
3. 平形明人: 黄斑分離様変化に対する硝子体手術. 第12回順天堂浦安網膜セミナー, 浦安, 平成20年4月10日.
4. 平形明人: ウイルス感染: 急性網膜壊死の外科的治療. 第112回日本眼科学会総会, 横浜, 平成20年4月17-20日.
5. 平形明人: 双眼倒像眼底検査のコツ. 第112回日本眼科学会総会, 横浜, 平成20年4月17-20日.
6. 井上 真: 眼科手術機器の原理と実際-硝子体手術装置. 第112回日本眼科学会総会, 横浜, 平成20年4月17-20日.
7. 慶野 博: サブスペシャリティーサンデー9、後眼部疾患 ぶどう膜炎診療の進歩、抗TNF- α 抗体インフリキシマブによるベーチェット病治療の新たな展開. 第112回日本眼科学会総会, 横浜, 平成20年4月17-20日.
8. 慶野 博, 渡辺交世, 瀧和歌子, 早川るり子, 岡田アナベルあやめ: 最近の杏林アイセンターにおける強膜炎の臨床像. 第112回日本眼科学会総会, 横浜, 平成20年4月17-20日.
9. 田中伸茂, Satchin Panda¹ (¹ソーク研究所): RGS16の網膜内発現パターン. 第112回日本眼科学会総会, 東京, 2008年4月17-20日.
10. 山本亜希子, 杉谷篤彦, 廣田和成, 岡田アナベルあやめ, 樋田哲夫: 新生血管黄斑証に対する硝子体内薬剤投与後の一過性眼圧上昇. 第112回日本眼科学会総会, 横浜, 平成20年4月17-20日.
11. 井上 真: 脈絡膜剥離を伴う網膜剥離への小切開硝子体手術. 第33回RETINAの会, 横浜, 平成20年4月18日.
12. Hatori M, Zhu Q, Yelamanchili SV, Piamonte V, Tanaka N, Panda S: The role of arrestin-melanopsin interaction in melanopsin function. ARVO, Fort Lauderdale, Apr. 27- May 1, 2008.
13. Tanaka N, Panda S: The expression pattern of RGS16 in mouse retina. ARVO, Fort Lauderdale, Apr. 27- May 1, 2008.
14. Panda S, Piamonte V, Steffy BM, Wiltshire T, Tanaka N, Gill S, Tarantino L: Novel point mutation in the mouse Nrl gene causes developmental reprogramming of the retina. ARVO, Fort Lauderdale, Apr. 27- May 1, 2008.
15. Keino H, Niikura T, Wada Y, Okada AA.: Therapeutic effect of the IL-12/IL-23 inhibitor STA5326 in experimental autoimmune uveoretinitis. ARVO, Fort Lauderdale, Apr 27-30, 2008.
16. Ninomiya Y, Hirakata A, Hiraoka T, Kunita D, Inoue M, Oshitari K, Sugitani A, Futagami S, Miki D, Hida T: Clinical features of endophthalmitis after cataract surgery evaluated by incision types. ARVO, Fort Lauderdale, May 1-4, 2008.

17. Miyazawa A, Inoue M, Hirota K, Sano RY, Hirakata A, Hida T, Nishiyama K, Yoshino H: Higher incidence of carotid stenosis in patients with central retinal artery occlusion. ARVO, Fort Lauderdale, May 1-4, 2008.
18. 井上 真, 平形明人: 内境界膜剥離が有効であった近視性網膜分離の1例. 第6回東京黄斑疾患研究会, 東京, 平成20年5月17日.
19. 平形明人: 糖尿病網膜症に対する硝子体手術の戦略. 第2回愛宕眼科手術フォーラム, 東京, 平成20年5月19日.
20. Okada AA: "Uveitis in Japan" at the Macula Conference, Department of Ophthalmology, Massachusetts Eye and Ear Infirmary, Harvard Medical School, Boston, Jun 2, 2008.
21. Keino H, Niikura T, Wada Y, Okada AA: Therapeutic effect of the IL-12/IL-23 inhibitor STA5326 in experimental autoimmune uveoretinitis. Meeting of the Federation of Clinical Immunology Societies, Boston, Jun 5-9, 2008.
22. 平形明人: 網膜剥離. 第7回硝子体手術ビデオセミナー「硝子体手術のTips&Pitfalls」—学会では言えない本音を語ります—. 第7回硝子体手術ビデオセミナー, 東京, 平成20年6月8日.
23. 永本敏之: 教育セミナー1 眼科手術教育の理想と現実・「白内障手術指導医の育成」. 第47回日本白内障学会・第23回日本眼内レンズ屈折手術学会, 東京, 平成20年6月20-22日.
24. 永本敏之: 教育セミナー4 白内障の診方・「成熟・過熟・膨潤白内障の診方」. 第47回日本白内障学会・第23回日本眼内レンズ屈折手術学会, 東京, 平成20年6月20-22日.
25. 井上 真: 眼底疾患からみた適応上の問題点と可能性. シンポジウム4「多焦点眼内レンズの導入法」. 第47回日本白内障学会・第23回日本眼内レンズ屈折手術学会, 東京, 平成20年6月20-22日.
26. 井上 真: ここで差がつく! 白内障手術のQuality Management. 同時手術のQuality Management. 第31回JSCRS イブニングセミナー, 東京, 平成20年6月20-22日.
27. 中野敦雄, 渡辺交世, 並木 泉, 永本敏之: infusion misdirection syndrome の発生と前房深度. 第23回日本眼内レンズ屈折手術学会, 東京, 平成20年6月20-22日.
28. 渡辺交世: 教育セミナー1・白内障の診方「スリットランプを使った前・後囊下白内障の術前診断」. 第47回日本白内障学会・第23回日本眼内レンズ屈折手術学会, 東京, 平成20年6月20-22日.
29. 岡田アナベルあやめ: ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎に対するインフリキシマブの効果. レミケード効能追加1周年記念講演会, 東京, 平成20年6月21日.
30. Okada AA: "Teaching practical ophthalmic skills to medical students," Educational Subspecialty Day, World Ophthalmology Congress, Hong Kong, Jun 28-Jul 2, 2008.
31. Okada AA: "Challenging retinal cases," World Ophthalmology Congress, Hong Kong, Jun 28-Jul 2, 2008.
32. Tsuchiya M, Hirota K, Inoue M, Hirakata A: The intraoperative view of vitreous surgery through the aspherical intraocular lens. World Ophthalmology Congress 2008. Hong Kong, Jun 28-Jul 2, 2008.
33. Hirota K, Inoue M, Miyazawa A, Sano RY, Hirakata A, Hida T, Nishiyama K, Yoshino H: Higher incidence of carotid stenosis in patients with central retinal artery occlusion. World Ophthalmology Congress 2008. Hong Kong, Jun 28-Jul 2, 2008.

34. 永本敏之：小児眼内レンズの適応・術式・成績．第64回日本弱視斜視学会・第33回日本小児眼科学会総会，東京，平成20年7月4-5日．
35. 岡田アナベルあやめ：免疫抑制薬一本邦の使用．第42回日本眼炎症学会，福岡，平成20年7月4日-6日．
36. 渡辺交世，佐藤康彦，慶野 博，宮藤昭彦，川上速人，岡田アナベルあやめ：実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎における眼内high mobility group box (HMBG)-1の発現．第42回日本眼炎症学会，福岡，平成20年7月4日．
37. 永本敏之：小瞳孔白内障手術攻略法．第119回神奈川県眼科集談会，横浜，平成20年7月10日．
38. 平岡智之：網膜硝子体．都内大学眼科レジデント講習会，東京，平成20年7月12日．
39. 山光智子，奥田恵美，井上 真：高度遠視眼を合併した白内障に対して白内障トリプル手術を行った一例．第46回北日本眼科学会，盛岡，平成20年7月12日-13日．
40. 松崎 淳，谷内修太郎，井上 真，平形明人：網膜前出血にYAGレーザーが有効であった一例．第46回北日本眼科学会，盛岡，平成20年7月12日-13日．
41. 山光智子，篠田 肇，川村亮介，木村肇二郎，井上 真：小切開硝子体手術，空気タンポナーデを使用した黄斑円孔手術．第46回北日本眼科学会，盛岡，平成20年7月12日-13日．
42. 井上 真：硝子体黄斑牽引症候群で網膜下液は吸引すべきか？第3回信濃町研究会，東京，平成20年7月30日．
43. 平形明人：硝子体手術に使用するシリコンオイルについて．C3F8ガス，SF6ガスシリコンオイルインスタレーションコース，東京，平成20年8月9日．
44. 井上 真：多焦点眼内レンズのOCT所見．第10回Japan Macula Club，蒲郡，平成20年8月24日．
45. 渡辺敏樹，気賀沢一輝：視神経に発症した血管芽腫と思われる一例．第24回真鶴セミナー，熱海，平成20年8月30-31日．
46. Okada AA: Treatment of cystoid macular edema in uveitis. 7th International Symposium on Uveitis, International Uveitis Study Group, Lake Constance, Sep 10, 2008.
47. Okada AA, Keino H, Watanabe T, Taki W: Short-term results on the use of infliximab for refractory uveitis in Behcet's disease. 7th International Symposium on Uveitis, International Uveitis Study Group. Lake Constance, Sep 9-12, 2008.
48. 気賀沢一輝：プライマリ・ケアと専門医療における医師と患者．第9回ロービジョン学会学術総会，東京，平成20年9月19-21日．
49. 井上 真：黄斑部疾患に対する極小切開硝子体手術．倉敷眼科コロシウム，倉敷，2008年9月27日．
50. 井上 真：「専門施設に紹介するのは，どのタイミング？」，「糖尿病網膜症，黄斑浮腫が良くなる」第23回千葉県眼科手術懇話会，市川，平成20年10月4日．
51. 岡田アナベルあやめ：硝子体注射の注意点．マクジェン新発売記念講演in Tokyo，東京，平成20年10月5日．
52. 井上 真：小切開硝子体手術の適応と限界．第2回網膜硝子体疾患検討会．札幌，平成20年10月11日．
53. 渡辺敏樹¹，気賀沢一輝，平形明人（¹ワタナベ眼科）：高齢男性に発症した特発性頭蓋内圧亢進症によるとと思われるうっ血乳頭の1例．第46回日本神経眼科学会総会，新潟，平成20年10月11-12日．

54. 壺内鉄郎¹, 気賀沢一輝, 若倉雅登² (¹独立行政法人・国立病院機構 水戸医療センター 眼科, ² 済安堂 井上眼科病院): 白内障手術をきっかけに発祥したセネストパチーの治療経過について. 第46回日本神経眼科学会総会, 新潟, 平成20年10月11-12日.
55. 高木峰夫^{1, 9}, 田中恵子², 若倉雅登^{3, 9}, 鈴木利根^{4, 9}, 石川均^{5, 9}, 大久保真司^{6, 9}, 気賀沢一輝⁹, 栗本拓治^{7, 9}, 敷島敬悟⁹, 橋本雅人⁹, 大出尚郎⁹, 中馬秀樹⁹, 清澤源弘⁹, 酒井 勉⁹, 西澤正豊⁸, 阿部春樹¹, (¹新潟大, ²金沢医大, ³井上眼科病院, ⁴獨協医大・越谷, ⁵北里大, ⁶金沢大, ⁷兵庫医大, ⁸新潟大, ⁹Japan anti-aquaporin-4antibody-positive optic neuritis study group): 抗アクアポリン-4抗体陽性視神経炎に関する多施設研究第二報: 視神経脊髄型MSの視機能との比較. 第46回日本神経眼科学会総会, 新潟, 平成20年10月11-12日.
56. 平形明人: 黄斑疾患の病態総論. 平成20年度卒業後研修会, 東京, 平成20年10月18日.
57. 平形明人: 黄斑疾患に対する極小切開硝子体手術最前線. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23-26日.
58. 岡田アナベルあやめ: VEGF標的治療の現状と未来. (シンポジウム): 眼感染症・炎症性疾患に対する新治療, 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23日.
59. 堀江大介, 稲見達也, 栗原 崇, 吉野 啓: 視神経部分低形成の7例. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23日-26日.
60. 田中恵津子, 西脇友紀¹, 尾形真樹, 新井千賀子, 小田浩一², 平形明人 (¹もり眼科医院 ²東京女子大): ロービジョン患者の単眼/両眼条件での読書検査結果の差異に関する検討. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23-26日.
61. 二宮夕子, 小川 学, 井上 真, 平形明人: 硝子体黄斑牽引症候群に網膜血管腫様増殖を合併した1例. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23-26日.
62. 廣田和成, 三木大二郎, 平岡智之, 川真田悦子, 平形明人: 裂孔原生網膜剥離に対する水晶体温存硝子体手術後の屈折変化. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23-26日.
63. 小林 泉, 小川 学, 平岡智之, 三木大二郎, 永本敏之, 平形明人: 手術関連の脈絡膜出血例の検討. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23-26日.
64. 谷内修太郎, 井上 真, 太田一郎¹, 三宅謙作¹, 平形明人 (¹眼科三宅病院): Miyake-Apple Viewを用いた小切開硝子体手術における強膜創の観察. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23-26日.
65. 井上 真, 平形明人, 村上悦男¹ (¹(株) マニー): MVR 刃先端形状のトロッカーカニューラを用いた23G小切開硝子体手術. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23-26日.
66. 渡邊敏樹¹, 気賀沢一輝, 高木峰夫², 田中恵子³, 平形明人 (¹ワタナベ眼科, ²新潟大・医・眼科, ³金沢医大・神経内科): 視神経炎を繰り返す抗アクアポリン4抗体が陽性であった多発性硬化症の2症例. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23-26日.
67. 生野恭司¹, 大野京子², 平形明人 (¹大阪大学・眼科, ²東京医歯大・眼科): Bevacizumab 硝子体腔注射の使用実態調査. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23-26日.
68. 小川 学, 谷内修太郎, 廣田和成, 二神 創, 杉谷篤彦, 平岡智之, 井上 真, 三木大二郎, 平形明人: 高度近視眼に合併する牽引黄斑剥離再発例の摘出黄斑上膜の組織学的検討. 第62回日本臨床眼科学会, 東京, 平成20年10月23-26日.

69. 谷内修太郎, 小川 学, 廣田和成, 杉谷篤彦, 平岡智之, 井上 真, 三木大二郎, 平形明人: 強度近視に伴う牽引性黄斑剥離に対する内境界膜剥離の影響. 第 62 回日本臨床眼科学会, 東京, 平成 20 年 10 月 23-26 日.
70. 中島史絵, 慶野 博, 渡辺交世, 瀧和歌子, 早川るり子, 杉谷篤彦, 岡田アナベルあやめ: 杏林アイセンターにおけるぶどう膜炎, 強膜炎患者の臨床統計. 第 62 回日本臨床眼科学会, 東京, 平成 20 年 10 月 23-26 日.
71. 井上 真: MVR 刃先端形状のトロッカーカニューラを用いた 23G 小切開硝子体手術. 第 62 回日本臨床眼科学会. 東京, 平成 20 年 10 月 23-26 日.
72. 井上 真: インストラクションコース IC23. 「初心者・中級者のための増殖膜処理」-MIVS の増殖膜処理-. 第 62 回日本臨床眼科学会, 東京, 平成 20 年 10 月 23-26 日.
73. 井上 真: インストラクションコース IC39. 「屈折・調節をマスターによろ-マルチフォーカル IOL の検査-」マルチフォーカル IOL 挿入眼の眼底検査と硝子体手術. 第 62 回日本臨床眼科学会, 東京, 平成 20 年 10 月 23-26 日.
74. 気賀沢一輝: 眼科における心のケアの 4 つの段階. 第 62 回日本臨床眼科学会総会, 東京, 平成 20 年 10 月 23-26 日.
75. 渡辺敏樹¹気賀沢一輝, 高木峰夫²田中恵子³, 平形明人 (¹ワタナベ眼科, ²新潟大, ³金沢医大神経内科): 視神経炎を繰り返す抗アクアポリン 4 抗体が陽性であった多発性硬化症の 2 症例. 第 62 回日本臨床眼科学会総会, 東京, 平成 20 年 10 月 23-26 日.
76. 山添克弥¹, 横田怜二¹, 横山恭典¹, 佐藤大介¹, 井上 亮¹, 江本宜暢¹, 堀田順子¹, 堀田一樹¹ (¹亀田総合病院・眼科): 神経線維腫症 1 型に網膜色素変性症を合併した姉弟例. 第 62 回日本臨床眼科学会, 東京, 平成 20 年 10 月 23-26 日.
77. Inoue M: Day surgery for vitreous diseases. The 25th Congress of the Pan-pacific Surgical Association-Japan Chapter, Bangkok, Nov 1-3, 2008.
78. Taniuchi S, Inoue M, Hirakata A: 23-gauge bimanual vitrectomy. The 25th Congress of the Pan-pacific Surgical Association-Japan Chapter, Bangkok, Nov 1-3, 2008.
79. Nakashima C, Inoue M, Hirakata A: Wide-field endoillumination for vitreous surgery. The 25th Congress of the Pan-pacific Surgical Association-Japan Chapter, Bangkok, Nov 1-3, 2008.
80. Okada AA: "Masquerading Infections," Uveitis Subspecialty Day, Annual Meeting of the American Academy of Ophthalmology, Atlanta, Nov 8, 2008.
81. 山本亜希子, 杉谷篤彦, 田中伸茂, 谷内修太郎, 岡田アナベルあやめ: 血管新生黄斑症に対する抗腫瘍壊死因子- α 療法. 第 10 回西東京眼科フォーラム, 吉祥寺, 平成 20 年 11 月 12 日.
82. 吉野 啓: 当科における緑内障手術治療. 第 10 回西東京眼科フォーラム, 吉祥寺, 平成 20 年 11 月 12 日.
83. 三木大二郎: 網膜硝子体手術の変遷, 平成 20 年 11 月 14 日 東静岡眼科医会, 三島, 平成 20 年 11 月 14 日.
84. 三木大二郎: 糖尿病と目-手遅れになる前に-西多摩医師会市民健康講座, 羽村, 平成 20 年 11 月 15 日.
85. 井上 真: 黄斑浮腫の治療. 平成 20 年度東京都眼科医会卒後研修研究会. 黄斑疾患コース. 東京,

2008年11月15日.

86. 平形明人：乳頭ピット黄斑症候群の治療の変遷. 第1回樋田メモリアル網膜ラウンジ, 東京, 平成20年11月22日.
87. 二宮夕子, 平形明人, 中山真紀子, 井上 真, 田中伸茂：乳頭ピット黄斑症候群における赤外光と自発蛍光の意義. 第47回日本網膜硝子体学会総会, 京都, 平成20年11月28-30日.
88. 平形明人：眼内タンポナーデ物質再考！. 第47回日本網膜硝子体学会総会, 京都, 平成20年11月28-30日.
89. Hirakata A, Inoue M, McCuen B, Hida T: Vitrectomy without laser photocoagulation and gas tamponade for optic disc pit maculopathy. The 3rd Congress of the Asian Pacific Vitreo-Retinal Society, Pusan, Dec 5-6, 2008.
90. Inoue M: A clue of wound construction in micro incision vitrectomy surgery. 23-gauge cannula system with microvitroretinal blade trocar. The 3rd Congress of the Asian Pacific Vitreo-Retinal Society, Pusan, Dec 5-6, 2008.
91. 平形明人：術後眼内炎に対する硝子体手術. 第32回日本眼科手術学会総会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
92. 永本敏之：教育セミナー白内障手術-リカバリーの基本・「最後の核片処理以降の後囊破損」. 第32回日本眼科手術学会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
93. 永本敏之：JSOS スキルトランスファー「後囊破損処理」. 第32回日本眼科手術学会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
94. 永本敏之：シンポジウムみんなで考えよう眼科手術の諸問題・「手術教育をどうするか」. 第32回日本眼科手術学会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
95. 永本敏之：ビデオ展示「先天白内障に対する眼内レンズ挿入術」. 第32回日本眼科手術学会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
96. 三木大二郎, 塚原逸郎, 清川正敏, 稲用和也, 平岡智之, 廣田和弘：硝子体手術. 第32回日本眼科手術学会総会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
97. 井上 真:インストラクションコース「経結膜小切開硝子体手術」第2回各論編「25G 網膜剥離手術」. 第32回日本眼科手術学会総会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
98. 井上 真：増殖糖尿病網膜症における小切開硝子体手術. 硝子体手術徹底討論；20G から 23, 25G 時代へ. 第32回日本眼科手術学会総会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
99. 加藤 聡, 緒方奈保子, 三木大二郎, 森隆三郎, 川島秀俊, 安藤伸朗：網膜光凝固術の適応と限界. 第32回日本眼科手術学会総会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
100. 平岡智之（スキルトランスファー）：硝子体. 第32回日本眼科手術学会総会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
101. 中野敦雄, 渡辺交世, 並木 泉, 永本敏之：強角膜切開白内障手術 2.4mm と 3.0 mm の自己閉鎖率. 第32回日本眼科手術学会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
102. 中山真紀子, 宮澤颯子, 井上 真, 平形明人：黄斑疾患の小切開硝子体手術における術後視力の比較. 第32回日本眼科手術学会総会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
103. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子, 吉野真未, 川村亮介, 井上 真：回折型多焦点眼内レンズ挿入後に

- 網膜硝子体疾患治療を要した3例. 第32回日本眼科手術学会総会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
104. 井上 真: MVR トロッカーを用いた23Gワンステップカニューラシステム. ビデオ展示7 網膜・硝子体分野. 第32回日本眼科手術学会総会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
105. 井上 真: MIVSは終わりが肝心. 第32回日本手術学会 共催セミナー, 神戸, 平成21年1月23-25日.
106. 井上 真: MIVS 創口のvitreous wickと低眼圧. 第2回MIVSワークショップ, 神戸, 平成21年1月25日.
107. 吉野 啓: シンポジウム6 緑内障—血管新生緑内障に対する抗VEGF療法の応用— 抗VEGF抗体を用いた緑内障治療戦略. 第32回日本眼科手術学会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
108. 井上 亮, 横山恭典, 堀田順子, 堀田一樹: 巨大視神経乳頭と裂孔原性網膜剥離を伴ったNoonan症候群の一例. 第32回日本眼科手術学会, 神戸市, 平成21年1月23-25日.
109. 渡辺交世: ビデオ展示「ぶどう膜欠損症の白内障手術」. 第32回日本眼科手術学会, 神戸, 平成21年1月23-25日.
110. 三木大二郎: 網膜剥離の治療—強膜バックリング Vs 硝子体手術—. 第3回多摩眼科勉強会, 立川, 平成21年1月30日.
111. 平形明人: 黄斑分離症の治療と病理. 第2回TMD眼科研究会, 東京, 平成21年1月31日.
112. 岡田アナベルあやめ: 眼炎症に対する生物学的製剤療法. 東京眼炎症フォーラム, 東京, 平成21年2月5日.
113. 井之川宗右, 工藤かんな, 永本敏之: 杏林アイセンターにおけるアカントアメーバ角膜炎の治療成績. 第33回角膜カンファレンス, 大阪, 平成21年2月19-21日.
114. 井之川宗右, 田聖 花¹, 島崎 潤¹ (¹東京歯大・市川) (イブニングセミナー): 全層角膜移植術中に発生した稀な合併症の1例. 第33回角膜カンファレンス, 大阪, 平成21年2月19-21日.
115. 井上 真: 黄斑疾患の診断と治療. 府中市眼科医学会学術講習会. 東京, 平成21年2月19日.
116. 平形明人: 眼内炎の硝子体手術. 第151回岡山県眼科医会生涯教育講座, 岡山, 平成21年2月22日.
117. 平形明人: 乳頭ピット黄斑症候群の治療の変遷. 第14回MEC学術研究会, 名古屋, 平成21年2月28日.
118. 平形明人: 黄斑分離様変化に対する硝子体手術. 第3回東北眼科フォーラム, 仙台, 平成21年3月7-8日.
119. 岡田アナベルあやめ: ベーチェット病に対するレミケード治療. 千葉, 平成21年3月12日.
120. 岡田アナベルあやめ: ぶどう膜炎の新時代. 第69回中央眼科集談会, 東京, 平成21年3月27日.
121. 平形明人: 加齢に伴う眼底の病気. 第2095回東京江戸川ロータリークラブ, 東京, 平成21年3月30日.

II 論文

1. 平形明人, 大野京子¹, 生野恭司² (¹東京医歯大・眼科, ²大阪大学・眼科): 強度近視眼底研究における現時点での理解と問題点. 日本強度近視眼底研究会, 日眼会誌 112: 127-135, 2008.
2. 平形明人: 網膜硝子体疾患治療における長期滞留ガス. 日眼会誌 112: 3-6, 2008.
3. 永本敏之: 先天白内障手術の注意事項. IOL&RS 22: 423-425, 2008.

4. 永本敏之：白色白内障・私の攻略法. IOL&RS 22:448-449, 2008.
5. Tano Y on behalf of the Ophthalmic PDT Study Group (including Okada AA): Guidelines for PDT in Japan. *Ophthalmology* 115:585, 2008.
6. Kobayashi I, Inoue M, Okada AA, Keino H, Wakabayashi T, Hirakata A: Vitreous surgery for macular hole in patients with Vogt-Koyanagi-Harada disease. *Clin Exp Ophthalmol* 36:861-864, 2008.
7. Keino H, Sato Y, Watanabe T, Niikura T, Wada Y, Okada AA: Therapeutic effect of potent IL-12/IL-23 inhibitor, STA5326 in experimental autoimmune uveoretinitis. *Arthritis Res Ther* 10:R122, 2008.
8. Keino H, Usui Y, Oh-I K, Usui M, Goto H: Correlation between cerebrospinal fluid cell count and cerebrospinal fluid level of chemokine, monokine induced by interferon-gamma in Vogt-Koyanagi-Harada disease. *Acta Ophthalmol* in press
9. Okada AA, Keino H, Watanabe T, Taki W, Hayakawa R: Recurrence of acute anterior inflammation after intravitreal injection of bevacizumab in uveitis. *Jpn J Ophthalmol* 53:182-184, 2009.
10. 岡田アナベルあやめ：ぶどう膜炎検査の正しい使い方. *あたらしい眼科* 25:1471-1472, 2008.
11. Iwasaki T, Matsuno K, Yamamoto M, Kawahata D, Keino H: Penicillium endophthalmitis in necrotizing scleritis treated with topical corticosteroid and cyclosporin A. *Jpn J Ophthalmol* 52:506-8. 2008.
12. Sugita S, Horie S, Nakamura O, Futagami Y, Takase H, Keino H, Aburatani H, Katunuma N, Ishidoh K, Yamamoto Y, Mochizuki M: Retinal pigment epithelium-derived CTLA-2alpha induces TGFbeta-producing T regulatory cells. *J Immunol* 181:7525-36, 2008.
13. 慶野 博：ベーチェット病のぶどう膜網膜炎. *成人病と生活習慣病* 38: 354-355, 2008.
14. 慶野 博：全身性エリテマトーデスの眼底病変. *成人病と生活習慣病* 38: 478-479, 2008.
15. Iwase T, Tanaka N, Sugiyama K: Postoperative refraction changes in phacoemulsification cataract surgery with implantation of different types of intraocular lens. *Eur J Ophthalmol* 18:371-376, 2008.
16. Hatori M, Le H, Vollmers C, Keding SR, Tanaka N, Schmedt C, Jegla T, Panda S: Inducible ablation of melanopsin-expressing retinal ganglion cells reveals their central role in non-image forming visual responses. *PLoS ONE* 3: e2451, 1-10, 2008.
17. Lin B, Koizumi A, Tanaka N, Panda S, Masland RH: Restoration of visual function in retinal degeneration mice by ectopic expression of melanopsin. *Proc Natl Acad Sci USA* 105: 16009-16014, 2008.
18. 渡辺交世, 中野敦雄, 並木 泉, 永本敏之：ぶどう膜欠損症における白内障手術, *眼科手術*, 21: 519-523, 2008.
19. 中島史絵, 渡辺交世, 慶野 博, 岡田アナベルあやめ：視神経網膜炎を発症したネコひっかき病の1例. *あたらしい眼科* 25:1163-1166, 2008.
20. 坂本泰二, 樋田哲夫, 田野保雄, 根木昭, 竹内忍, 石橋達朗, 井上幸次, 大黒伸行, 岡田アナベルあやめ：眼科領域におけるシリコーンオイル使用状況全国調査結果. *日眼会誌*112:790-800, 2008.
21. 五月女典久, 平形明人, 井上 真, 樋田哲夫：乳頭小窩黄斑症に類似した網膜分離を呈した硝子体

- 黄斑牽引症候群の1例. あたらしい眼科 25:109-113, 2008.
22. 江本宜暢¹, 平形明人, 三木大二郎, 川真田悦子, 岡田アナベルあやめ, 樋田哲夫, 知念克也², 安藤伸朗³ (¹ 亀田総合病院・眼科, ² 杏林大・医・病理学, ³ 済生会新潟第二病院・眼科): Penicillium 感染による白内障術後眼内炎の1例. 眼臨紀 1:122-127, 2008.
 23. 二宮夕子, 平形明人, 平岡智之, 國田大輔, 井上 真, 忍足浩¹, 杉谷篤彦, 二神創, 三木大二郎, 樋田哲夫 (¹ 忍足眼科): 白内障術後眼内炎における背景因子からみた臨床像の検討. 日眼会誌 112:525-530, 2008.
 24. 忍足直子¹, 平形明人, 堀江大介, 井上 真, 樋田哲夫, 吉野秀朗² (¹ 忍足眼科, ² 杏林大・医・第2内科): 網膜中心動脈閉塞症における全身合併症の検討. あたらしい眼科 25:109-113, 2008.
 25. 浜由起子, 平形明人, 柳沼重晴¹, 杉谷篤彦, 井上 真, 前田利根², 樋田哲夫 (¹ 海谷眼科, ² オリソピア眼科病院): Bevacizumab 硝子体内投与が有効であった若年増殖糖尿病網膜症の1例. 眼科 50:461-466, 2008.
 26. Nishina S, Suzuki Y, Azuma N: Exudative retinal detachment following cataract surgery in Hallermann-Streiff syndrome. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 246:453-455, 2008.
 27. Taki W¹, Ohira A¹, Hirakata A (¹Wakaba Eye Hospital): Macular edema from distant branch retinal vein occlusion subsiding after vitrectomy. Jpn J Ophthalmol 53:184-186, 2008.
 28. Futagami S, Inoue M, Hirakata A: Removal of internal limiting membrane for recurrent myopic traction maculopathy. Clin Exp Ophthalmol 36:782-785, 2008.
 29. 高橋寛二, 岡田アナベルあやめ: AMD: どこまで治療できる. 日眼会誌 113:121, 2009.
 30. 岡田アナベルあやめ: 硝子体内注射. 眼科手術 22:62-64, 2009.
 31. Inoue M, Hirakata A, Iizuka N, Futagami S, Hida T: Tractional macular detachment associated with optic disc astrocytic hamartoma. Acta Ophthalmol 187:239-240, 2009.
 32. Nakajima T, Suzuki K, Yoshida K, Ishida S, Inoue M: Soft-shell technique to maintain view of fundus following hemorrhage during vitrectomy in patient with neovascular glaucoma. Retinal Cases & Brief Reports 2:148-150, 2008.
 33. Sato EA, Shinoda K, Inoue M, Ohtake Y, Kimura I: Reduced choroidal blood flow can induce visual field defect in open angle glaucoma patients without intraocular pressure elevation following encircling scleral buckling. Retina 28:493-7, 2008.
 34. Torii H, Miyata H, Sugisaka E, Ichikawa Y, Shinoda K, Inoue M: Bilateral endophthalmitis in patient with bacterial meningitis caused by Streptococcus pneumoniae. Ophthalmologica 222:357-359, 2008.
 35. Kawamura R, Inoue M, Shinoda K, Bissen-Miyajima H: Intraoperative findings during vitreous surgery after implantation of diffractive multifocal intraocular lens. J Cat Ref Surg 34:1048-1049, 2008.
 36. Chen CJ, Satofuka S, Inoue M, Ishida S, Shinoda K, Tsubota K: Suprachoroidal hemorrhage caused by breakage of 25-gauge cannula. Ophthalmic Laser Surgery Imaging 39:323-324, 2008.
 37. Ikebe T, Takaki Y, Kishi D, Kono H, Shinoda K, Inoue M, Nakatsuka K: Visual Perception of Luxated Intraocular Lens by Patient. Br J Ophthalmol 92:1563-1564, 2008

38. Inoue M, Shinoda K, Ishida S: Vitrectomy combined with glial tissue removal at the optic pit in a patient with optic disc pit maculopathy: a case report. *Journal of Medical Case Reports* 2:103, 2008.
39. 吉野 啓：線維柱帯切除術—輪部基底と円蓋部基底。眼科手術 21：167—171, 2008.
40. 高橋清喜, 稲見達也, 栗原 崇, 吉野 啓：診断に苦慮した plateau iris 症候群の一症例。眼臨紀 1：653—656, 2008.
41. 栗原 崇, 稲見達也, 吉野 啓：Plateau iris 症候群の長期経過。眼科臨床紀要 1:678—681, 2008.
42. 気賀沢一輝：長期経過を観察し得た眼科領域ネセストパチーの 1 例。神眼 25：358-364, 2008.
43. 岩川雅哉¹, 成田 信², 堀田一樹¹ (¹亀田総合病院・眼科, ²亀田総合病院・病理科)：小眼球症を合併した眼窩脂肪腫の 1 例。眼臨紀 1：33-36, 2008.
44. 佐生亜希子¹, 石垣純子¹ (¹亀田総合病院・眼科)：脈絡膜悪性黒色腫。臨眼 62：1425, 2008.

Ⅲ著書

1. 平形明人：術後合併症とその対処法—眼内炎—。今日から実践！小切開硝子体手術。門之園一明編。東京，メジカルビュー，2008。p.112-117.
2. 平形明人：糖尿病患者の眼底検査は，定期健康診断時のみでよいですか？。そこが知りたい糖尿病ケア Q&A—臨床現場からの質問に答えます—。東京，総合医学社，2008。p.24-25.
3. 平形明人：5. 乳頭ピット黄斑症候群。眼科プラクティス 21 眼底画像所見を読み解く。田野保雄他編。東京，文光堂，2008。p.298-305.
4. 平形明人：患者さんから浴びせられる眼科疾患 100 の質問。坪田一男編。東京，メディカルレビュー，2008。p.144-147.
5. 平形明人：乳頭ピット黄斑症候群。臨床眼科網膜硝子体診療 update。寺崎浩子編。東京，医学書院，2008。p.348-353
6. 平形明人：小児眼底疾患。今日の治療指針私はこう治療している。山口徹編。東京，医学書院，2009。p.1076.
7. 平形明人：高局部裂孔にレーザー凝固は必要か？—。眼科プラクティス眼科 26 レーザー治療。田野保雄編。東京，文光堂，2009。p.175-177.
8. Dick AD, Okada AA, Forrester JV: Practical Approach to Management of Posterior Segment Intraocular Inflammation. Taylor & Francis, New York, 2008.
9. 岡田アナベルあやめ：免疫抑制薬：その上手な使い方。薬物療法：眼科診療のコツと落とし穴 樋田哲夫，江口秀一郎編。東京，中山書店，2008。p.79.
10. 三木大二郎：裂孔原性網膜剥離の強膜バックル手術。眼科診療のコツと落とし穴 2。樋田哲夫，江口秀一郎編。東京，中山書店，2008。p.52-53
11. 三木大二郎：網膜裂孔の検出法。眼科診療のコツと落とし穴 1。樋田哲夫，江口秀一郎編，東京，中山書店，2008。p.120-121
12. 三木大二郎：レーザーによる 2 段階網膜剥離手術。眼科プラクティス 26—眼科レーザー治療。田野保雄編。東京，文光堂，2008。p.184-186
13. 井上 真：極小切開で直そう—黄斑円孔—。【ここまできた！網膜疾患治療】 眼科インストラクシ

- ョンコース 15. 白神史雄編. 東京, メジカルビュー社, 2008. p. 80-85.
14. 井上 真: アトピー白内障と網膜剥離. 【小児眼科診療】7. 眼底疾患 6) 小児網膜剥離. 眼科プラクティス 20 巻. 東京, 文光堂, 2008. p. 230-233.
 15. 井上 真: 2. 用意する手術機械・器具. 今日から実践! 小切開硝子体手術. 東京, メジカルビュー社, 2008. p. 14-19.
 16. 井上 真: 硝子体切除. 3. 25G 硝子体手術の操作. 今日から実践! 小切開硝子体手術. 東京, メジカルビュー社, 2008. p. 24-27.
 17. 井上 真: 周辺部処理. 3. 25G 硝子体手術の操作. 今日から実践! 小切開硝子体手術. 東京, メジカルビュー社, 2008. p. 40-45.
 18. 井上 真: 1. 非接触型 wide field viewing system. 手術顕微鏡の特徴. 周辺部処理. 3. 25G 硝子体手術の操作. 今日から実践! 小切開硝子体手術. 東京, メジカルビュー社, 2008. p. 164-167.
 19. 井上 真: 25G 硝子体手術のコツと落とし穴. 眼科診療のコツと落とし穴 2. 手術-後眼部眼窩付属器. 東京, 中山書店, 2008. p. 34-35.
 20. 井上 真: トリアムシノロンの tenonn 嚢下投与による高眼圧症と眼瞼下垂. 眼科診療のコツと落とし穴 4. 薬物療法. 東京, 中山書店, 2008. 106-107.
 21. 井上 真: 手術のタイミング 硝子体手術. 眼科診療のスキルアップ. 白内障・小児・ぶどう膜炎編. 眼科インストラクションコース 18. 東京, メジカルビュー社, 2008. p. 196-201.
 22. 井上 真: [眼窩疾患アトラス] 水晶体 白内障術後眼内炎. 眼科 50(10). 東京, 金原出版, 2008. P. 1352
 23. 慶野 博: ステロイド療法 眼科診療のコツと落とし穴 4 巻 薬物療法. 樋田哲夫, 江口秀一郎編. 東京, 中山書店, 2008. p. 64-65.
 24. 慶野 博: 眼炎症 小児眼科診療 眼科プラクティス 20 巻 樋田哲夫編. 文光堂, 2008. p. 170-177.
 25. 慶野 博, 岡田アナベルあやめ: ぶどう膜炎 眼科プラクティス 26 眼科レーザー治療. 田野保雄編. 東京, 文光堂, 2008. p. 95-99.
 26. Streilein JS, Keino H: CD8+ T regulatory cells in eye derived tolerance. In: Jiang S (Eds): Regulatory T cells and Clinical application. New York, Springer, 2008. p. 473-488.
 27. 井上 真: [家庭の医学] 第7章 目の病気. 東京, 小学館, 2009. p. 1089-1112.
 28. 井上 真: [極小切開硝子体手術] 極小切開硝子体手術 (特集) 黄斑部以外. あたらしい眼科 25(10). 東京, メディカル葵出版, 2008. p. 1367-1371.
 29. 井上 真: [網膜硝子体診療 update] 手術治療 update (特集). 小切開手術(25G). 臨床眼科 62. 東京, 医学書院, 2008. p. 143-149.
 30. 井上 真: 6. 眼底検査. 研修で学ぶべき検査技術と知識. 眼科検査と, その手順 (機能検査). 研修医ノート. 東京, 診断と治療社, 2009. p. 120-124.
 31. 井上 真: 予防的全周光凝固の是非. 眼科プラクティス 26 巻. 東京, 文光堂 2009. p. 165.
 32. 井上 真: 2) 双眼倒像鏡レーザー. 外科的網膜治療に用いるレーザー. 2. 外科的網膜治療眼科プラクティス 26 巻. 東京, 文光堂, 2009. p. 158-161.
 33. 井上 真: 眼底 (網膜脈絡膜) 疾患 56 「55 歳男性です. 近視でも乱視でもないのに, この頃, 物が歪んで見えるときがあります. どうしてでしょうか?」. 眼科疾患 100 の質問. 東京, メディカルレビュー社, 2009. p. 140-141.

34. 井上 真：眼底（網膜脈絡膜）疾患 57「黄斑前膜は手術をすれば元通りになりますか？」. 眼科疾患 100 の質問. 東京, メディカルレビュー社, 2009. p.142-143.

IVその他

1. 平形明人：厚生労働省 科学研究費補助金. 感覚器障害研究事業分担研究. 平成 20 年度. 脈絡膜上経網膜電気刺激（STS）法による人工視覚システムの臨床応用.
2. 井上 真. Dialogue with Vitreoretinal Experts 2. 2008 年 5 月
3. 井上 真. 油断大敵「目の胃潰瘍」夕刊フジ 2008 年 10 月
4. 慶野 博：文部科学省 科学研究費補助金. 若手研究 B 平成 20 年度. 神経ペプチド誘導制御性 T 細胞による実験的自己免疫性ぶどう膜網膜炎の抑制機構の解明.
5. 気賀沢一輝：第 37 回日本慢性疼痛学会. 最新精神医学 71：301-304, 2008.

耳鼻咽喉科学教室

I. 口演(学会等)

1. Kohno N(Presidential Lecture): Combination chemotherapy for solid tumor. 15th World Congress for Broncho-Esophagology, Tokyo, April 1, 2008.
2. Karaho T, Nakajima J, Kitagawa Y, Shiotani A: Mano-VideoEndoscopic evaluation of Dysphagia. 15th World Congress for Broncho-Esophagology, Tokyo, April 1, 2008.
3. Kogashiwa Y, Yamauchi K, Morita M, Takei Y, Kohno N: Three cases of relapsing polychondritis. 15th World Congress for Broncho-Esophagology, Tokyo, April 1, 2008.
4. Nagai K, Kogashiwa Y, Tanabe S, Nakagawa H, Tsutsumi T, Tsubosaka T, Nagafuji H, Matsuda T, Kanaya T, Yamauchi K, Morita M, Takei Y, Kohno N: Assessment of head and neck disease by FICE. 15th World Congress for Broncho-Esophagology, Tokyo, April 1, 2008.
5. Takei Y, Kanaya T, Kokashiwa Y, Morita M, Kohno N, Nagai K, Tsutsumi T, Tsubosaka T, Nagafuji H, Matsuda T (Symposium): The pathogenesis and management of deep neck abscess. 15th World Congress for Broncho-Esophagology, Tokyo, April 2, 2008.
6. Nagafuji H, Kohno N, Yamauchi K, Kogashiwa Y, Matsuda T, Tubosaka T: Sentinel Node Concept for Head and Neck Cancer. The 12th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara, April 3-5, 2008.
7. 唐帆健造: 嚥下障害患者に対する対応. 第9回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 東京, 平成20年4月12日.
8. 佐藤哲也: AIDSを合併した下咽頭癌症例. 第9回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 東京, 平成20年4月12日.
9. 中村健大, 永藤裕, 松田雄大, 壺坂俊仁, 小柏靖直, 守田雅弘, 武井泰彦, 甲能直幸: 咽後膿瘍について. 第9回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 東京, 平成20年4月12日.
10. 守田雅弘: 耳管機能障害の最新の治療. 第25回阪神勤務医耳鼻咽喉科研究会, 尼崎, 平成20年4月15日.
11. 甲能直幸: 進行頭頸部癌に対する Nedaplatin/TS-1(day1投与)併用第I相試験. 第7回頭頸部腫瘍フォーラム, 東京, 平成20年5月9日.
12. 壺坂俊仁: 下咽頭進行癌と思われた AIDS 症例. 第7回頭頸部腫瘍フォーラム, 東京, 平成20年5月9日.
13. 甲能直幸(ランチョンセミナー): 外来で行う癌化学療法. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪, 平成20年5月15-17日.
14. 守田雅弘, 佐藤哲也, 中村健大, 壺坂俊仁, 堤知子, 松田雄大, 永藤裕, 長井恵一, 金谷毅夫, 山内宏一, 小柏靖直, 武井泰彦, 甲能直幸: 耳管開放症の手術; 自家脂肪の耳管内粘膜下注入移植術. 第119回日本耳鼻咽喉科学会総会, 大阪, 平成20年5月15-17日.
15. 永藤裕, 小柏靖直, 壺坂俊仁, 松田雄大, 守田雅弘, 武井泰彦, 甲能直幸: 口腔. 咽頭癌における Sentinel node navigation surgery の検討. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪, 平成20年5月15-17日.

16. 松田雄大, 池田哲也, 堤知子, 壺坂俊仁, 永藤裕, 長井恵一, 小柏靖直, 金谷毅夫, 山内宏一, 田鍋志保, 守田雅弘, 武井泰彦, 甲能直幸: Epstein-Barr ウィルスの感染維持について 第3報. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪, 平成20年5月15-17日.
17. 守田雅弘, 堤知子, 松田雄大, 壺坂俊仁, 永藤裕, 長井恵一, 小柏靖直, 金谷毅夫, 山内宏一, 武井泰彦, 甲能直幸: 耳管開放症の手術; 自家脂肪の耳管内粘膜下注入移植術. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪, 平成20年5月15-17日.
18. 小柏靖直, 武井泰彦, 松田雄大, 壺坂俊仁, 永藤裕, 堤知子, 長井恵一, 金谷毅夫, 田鍋志保, 山内宏一, 守田雅弘, 甲能直幸: 当院におけるめまい救急診療の現状と、効率的なめまい診療システムについて. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪, 平成20年5月15-17日.
19. 池田哲也, 松田雄大, 甲能直幸: 当院における口腔扁平苔乾癬の臨床的および病理組織学的検討. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪, 平成20年5月15-17日.
20. 中島純子, 唐帆健浩, 北川洋子, 佐藤泰則: 神経筋疾患患者の嚥下障害に対する舌接触補助床の効果. 第117回日本補綴歯科学会, 名古屋, 平成20年6月8日 (第117回日本補綴歯科学会学術大会課題口演コンペティション優秀賞受賞).
21. 甲能直幸: あなたの睡眠は大丈夫? 睡眠時無呼吸症候群が引き起こす疾患. 杏林大学公開講演会, 東京, 平成20年6月14日.
22. 甲能直幸 (特別講演): 頭頸部癌治療についてー早期癌に対するセンチネルリンパ節検索の有用性と進行癌に対する化学療法の役割ー. 第247回筑後耳鼻科カンファレンス, 福岡, 平成20年6月17日.
23. 相馬啓子, 國弘幸伸, 武井泰彦, 伊藤まり, 安藤麗子: 交通事故後に発症しためまい症例の検討. 第70回耳鼻咽喉科臨床学会, 長崎, 平成20年6月27-28日.
24. 本村朋子, 國弘幸伸, 相馬啓子, 武井泰彦: 外リンパ瘻の術前術後の自覚的視性垂直位(SVV). 第70回耳鼻咽喉科臨床学会, 長崎, 平成20年6月27-28日.
25. 甲能直幸 (特別講演): 頭頸部癌に対する化学療法の役割. 第43回頭頸部癌治療カンファレンス, 東京, 平成20年7月4日.
26. 中村健大, 守田雅弘: 耳管機能障害に対する人工耳管の開発. 第2回東京・埼玉5大学頭頸部外科研究会, 東京, 平成20年7月12日.
27. 佐藤哲也, 唐帆健浩, 中村健大, 壺坂俊仁, 永藤裕, 松田雄大, 堤知子, 長井恵一, 小柏靖直, 金谷毅夫, 山内宏一, 守田雅弘, 武井泰彦, 甲能直幸: 杏林大学病院における嚥下診療体制の確立. 社団法人日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会例会第181回学術講演会, 東京, 平成20年7月26日.
28. 中村健大, 永藤裕, 壺坂俊人, 小柏靖直, 守田雅弘, 武井泰彦, 甲能直幸: 成人咽後腫瘍の2症例. 第38回日本耳鼻咽喉科感染症研究会, 第32回日本医用エアロゾル研究会, 島根, 平成20年9月5-6日.
29. 守田雅弘: 耳管機能病変および小児中耳炎: 病態と治療. 小児気管支喘息フォーラム, 立川, 平成20年9月6日.
30. 松田雄大, 池田哲也, 甲能直幸: EB ウィルスの感染維持について~第4報. 第21回日本口腔咽頭科学会, 鹿児島, 平成20年9月11日.

31. 佐藤哲也、小柏靖直、松田雄大、壺坂俊仁、唐帆健浩、守田雅弘、武井泰彦、甲能直幸：皮膚筋炎に上咽頭癌が合併した1例．第21回日本口腔・咽頭科学会総会，鹿児島，平成20年9月11日．
32. 甲能直幸、永藤裕、松田雄大、小柏靖直、唐帆健浩(シンポジウム)：耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域のSNNS. 第10回 Sentinel Node Navigation Surgery 研究会学術集会, 秋田, 平成20年9月19日-20日．
33. 永藤裕、唐帆健浩、中村健大、小柏靖直、甲能直幸：当院での口腔・咽頭癌における SNNS の現状. 第10回 Sentinel Node Navigation Surgery 研究会学術集会, 秋田, 平成20年9月19日-20日．
34. 金谷毅夫、黄川田徹、甲能直幸、吉井徹哉：鼻閉に対する手術、特に下鼻甲介の取り扱いについての一考察．第47回日本鼻科学会総会ならびに学術講演会名古屋, 平成20年9月26-27日．
35. 甲能直幸(特別講演)：センチネルノードナビゲーションサージェリーについて. 第5回秋田頭頸部腫瘍セミナー, 秋田, 平成20年10月11日．
36. 松田雄大、守田雅弘、堤知子、長井恵一、壺坂俊仁、武井泰彦、甲能直幸：耳管開放症における重症度分類と保存および手術治療選択についての検討. 第18回日本耳科学会, 神戸, 平成20年10月16日．
37. 守田雅弘、堤知子、壺坂俊仁、松田雄大、長井恵一、武井泰彦、甲能直幸：耳管機能障害に対する人工耳管手術．第18回日本耳科学会, 神戸, 平成20年10月18日．
38. 堤知子、守田雅弘、松田雄大、壺坂俊仁、武井泰彦、甲能直幸：耳管開放症における耳管機能検査の有用性の検討．第18回日本耳科学会, 神戸, 平成20年10月18日．
39. 佐藤哲也：杏林大学病院における嚥下診療体制の確立．第10回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 東京, 平成20年10月25日．
40. 中村健大、壺坂俊仁、金谷毅夫、唐帆健浩、守田雅弘、武井泰彦、甲能直幸：眼球運動障害を認めた前頭洞嚢胞の1例．第10回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 東京, 平成20年10月25日．
41. 武井泰彦：めまいの臨床統計．第10回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 東京, 平成20年10月25日．
42. 武井泰彦、守田雅弘、甲能直幸：当科における心因性めまい症例の検討．第67回めまい平衡医学会, 秋田, 平成20年10月29日-31日．
43. 小柏靖直、永藤裕、松田雄大、壺坂俊仁、堤知子、長井恵一、金谷毅夫、丸山毅、唐帆健浩、甲能直幸：進行頭頸部扁平上皮癌に対するTS-1+Nedaplatin 併用療法 臨床第I相試験．第46回日本癌治療学会総会, 名古屋, 平成20年10月31日．
44. Kohno N(Opening Adress): The 25th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Bangkok, November 1-3, 2008.
45. Kohno N(Symposium): Orbital Complications due to the posterior group of sinuses diseases. The 25th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Bangkok, November 1-3, 2008.
46. Sato T, Kogashiwa Y, Karaho T, Morita M, Takei Y, Kohno N: Case report of dermatomyositis complicated by nasopharyngeal carcinoma. The 25th Congress of Pan-Pacific Surgical

Association Japan Chapter, Bangkok, November 1-3, 2008.

47. Nakamura T, Nagafuji H, Sato T, Tsubosaka T, Matsuda T, Tsutsumi T, Kogashiwa Y, Nagai K, Kanaya K, Morita M, Takei Y, Kohno N: Sentinel Lymph Node Concept for Head and Neck Cancer. The 25th Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Bangkok, November 1-3, 2008.
48. 甲能直幸(特別講演): 気管食道科学会の過去、現在、未来. 第60回気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 熊本, 平成20年11月6-7日.
49. 唐帆健浩、中島純子、佐藤哲也、甲能直幸第: 咽頭期嚥下障害に対する舌接触補助床の適応と限界. 第60回気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 熊本, 平成20年11月6-7日.
50. 永藤裕: 咽頭・喉頭癌に対するS-1放射線同時併用療法. 第60回気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 熊本, 平成20年11月6-7日.
51. 佐藤哲也、壺坂俊仁、永藤裕、松田雄大、唐帆健浩、守田雅弘、甲能直幸: 下咽頭進行癌が疑われたAIDS関連悪性リンパ腫の1症例. 第60回気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 熊本, 平成20年11月6-7日.
52. 中村健大、永藤裕、松田雄大、小柏靖直、唐帆健浩、守田雅弘、甲能直幸: 救命しえなかった咽後腫瘍の1症例. 第60回気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 熊本, 平成20年11月6-7日.
53. 甲能直幸: 頭頸部癌治療における機能温存. 化学療法. 日本耳鼻咽喉科学会第22回専門医講習会, 東京, 平成20年11月15-16日.
54. Kohno N: Sentinel Lymphnodes Navigation Surgery related to Neck Dissection. Seminars in Xian, Xian, December 5-6, 2008.
55. Kohno N: Posterior Nasal Nerve Neurectomy of Allergic Rhinitis to avoid postoperative Dry Eye. Seminars in Xian, Xian, December 5-6, 2008.
56. Kohno N: Function Preserved Surgery of Progressive Head and Neck Cancer. Seminars in Xian, Xian, December 5-6, 2008.
57. 守田雅弘: 耳管機能障害の手術治療. 第8回世田谷区医師会医学会, 東京, 平成20年12月6日.
58. 守田雅弘(特別講演): 鼻アレルギーとその周辺疾患. 耳鼻咽喉科医会理事会講演会, 東京, 平成20年12月6日.
59. 守田雅弘、松田雄大、壺坂俊仁、堤知子、武井泰彦、甲能直幸: 耳管開放症に対する脂肪注入術の手術手技. 第19回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 名古屋, 平成21年1月29-30日.
60. 佐藤哲也、唐帆健浩、中山剛志、穠村美津子、宅美貴子、青池いずみ、新名由利子、中村健大、壺坂俊仁、永藤裕、松田雄大、堤知子、長井恵一、小柏靖直、金谷毅夫、守田雅弘、武井泰彦、甲能直幸: 杏林大学病院における嚥下診療体制の確立. 第32回日本嚥下医学会総会, 大阪, 平成21年2月6日.
61. Takehirro Karaho, Junko Nakajima, Youko Kitagawa, Tetsuya Sato Naoyuki Konoh: ManoVideoEndoscopic evaluation of Dysphagia. 17th Annual Dysphagia Research Society Meeting, New Orleans, March 7, 2009.
62. 唐帆健浩、佐藤哲也、長井恵一、甲能直幸: 脳卒中後の嚥下障害に対する再介入で経口摂取可能となった一例. 第21回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 前橋, 平成21年3月26-27日.

63. 長井恵一, 唐帆健浩, 甲能直幸: 呼吸不全に対して行った緊急気管切開後に生じた気管狭窄症の一例. 第21回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 前橋, 平成21年3月26-27日.

II. 論文

1. 甲能直幸: 外来で行う癌化学療法. 日本耳鼻咽喉科学会会報: pp. 247-248, 平成20年4月20日発行.
2. 唐帆健浩, 中島純子, 北川洋子, 塩谷彰浩, 甲能直幸: 嚥下圧・内視鏡検査の有用性. 耳鼻と臨床 54: S146-S151, 2008.
3. 小柏靖直, 山内宏一, 丸山毅, 松田雄大, 永藤裕, 大山和一郎, 廣島屋孝, 甲能直幸: 頭頸部癌に対する cetuximab の使用経験. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 80: 725-728, 2008.
4. 中川秀樹, 永竿万貴, 甲能直幸, 楠山敏行, 福田宏之, 小川郁: 単純ヘルペスウイルス感染による咽喉頭病変, 日本気管食道科学会会報 59: 347-353, 2008.
5. 甲能直幸: 気管食道科学会の過去、現在、そして未来. 日本気管食道科学会会報. 60: 55-58, 2009.

III. 著書

1. Kohno N (Editor. Forewords.): 15th World Congress for Bronchology and 15th World Congress for Bronchoesophagology. Bologna, Medimond, 2008. p.VII-VIII.
2. Kohno N (Presidential Lecture.): Basic Principles of Combination Chemotherapy for Solid Tumor. 15th World Congress for Bronchology and 15th World Congress for Bronchoesophagology. Bologna, Medimond, 2008. p.1-9.
3. 甲能直幸: 頭頸部領域の肉腫. 今日の耳鼻咽喉科. 頭頸部外科治療方針. 森山寛, 岸本誠司, 小林俊光, 川内秀之編. 東京, 医学書院, 2008. p. 485.
4. 守田雅弘: 耳管開放症. 今日の耳鼻咽喉科, 頭頸部外科治療方針. 森山寛, 岸本誠司, 小林俊光, 川内秀之編. 東京, 医学書院, 2008. p. 158-160.
5. 武井泰彦, 金谷毅夫, 甲能直幸, 守田雅弘, 山内宏一, 田鍋志保, 小柏靖直, 長井恵一, 堤知子, 壺坂俊仁, 永藤裕, 松田雄大, 池田哲也: 深頸部腫瘍の病態と治療方針. 日本気管食道科学会. 専門医通信., 平成20年7月. p. 10-14.
6. 甲能直幸: 下咽頭がん. 新版家庭医学大辞典. 東京, 小学館ホームメディカ, 2008年. P. 485.
7. 武井泰彦: メニエール病. 新版家庭医学大辞典. 東京, 小学館ホームメディカ, 2008年. P. 1132-1135
8. 小柏靖直, 松村優子, 甲能直幸: 手術・処置に役立つ臨床解剖. 舌腫瘍手術のための臨床解剖(解説/特集). JOHNS 24: 2008. p435-438.
9. 唐帆健浩, 甲能直幸: 耳鼻咽喉科疾患患者とのインフォームドコンセント: 喉頭手術. すぐに役立つ外来耳鼻咽喉科疾患診療のコツ. 肥塚泉編集. 東京, 全日本病院出版会, 2008. p. 337-341.
10. 守田雅弘: 耳管機能検査. すぐに役立つ外来耳鼻咽喉科疾患診療のコツ. 肥塚泉編. 東京, 全日本病院出版会, 2008. p. 39-44
11. 甲能直幸: 総論一頭頸部腫瘍. 耳鼻咽喉科看護の知識と実際. 森山寛監修. 大阪, メディカ出版,

2009. p194-195.

12. 甲能直幸：上顎洞癌. 耳鼻咽喉科看護の知識と実際. 森山寛監修. 大阪, メディカ出版, 2009. p. 207-217.
13. 唐帆健浩, 甲能直幸：中・下咽頭腫瘍. 耳鼻咽喉科看護の知識と実際. 森山寛監修. 大阪, メディカ出版, 2009. p234-249.
14. 永原國彦, 西條茂, 富田吉信, 西川邦男, 長谷川泰久, 林隆一, 松浦一登, 門田伸也, 吉野邦俊, 北野博也, 北村守正, 舘田勝, 平野滋, 力丸文秀, 岸本誠司, 鎌田信悦, 甲能直幸, 早川和重, 藤井正人, 海老原敏, 吉田雅博：頭頸部癌診療ガイドライン. 日本頭頸部外科学会編. 東京, 金原出版, 2009.

IV. その他

1. 甲能直幸：病院の実力. 機能残す治療重視. 頭頸部がん. 読売新聞(多摩版). 読売新聞. 東京. 平成21年1月11日.
2. 甲能直幸：花粉症対策. 杏林大学新聞. 杏林大学新聞編集委員会. 東京, 広報・企画室, 2009.

産婦人科学教室

口演

1. 鈴木雅代, 谷垣伸治, 井上慶子, 松尾典子, 橋本玲子, 伊藤路奈, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利: 当院周産期センターにおける双胎妊娠増加の影響. 第 60 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 平成 20 年 4 月 12-15 日.
2. 伊野塚喜代乃, 安藤索, 松本浩範, 岩下光利: 子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓療法の影響に及ぼす影響. 第 60 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 平成 20 年 4 月 12-15 日.
3. 松島実穂, 矢島正純, 澁谷裕美, 鈴木雅代, 松本浩範, 安藤索, 岩下光利: 極めて稀な子宮の嚢胞状 (液状化) 腫瘍の検討. 第 60 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 平成 20 年 4 月 12-15 日.
4. 澁谷裕美, 酒井啓治, 岩下光利: 妊婦腹水中 Insulin-like growth factor binding proteins は IGF-I による子宮内膜症の増殖を抑制する. 第 60 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 平成 20 年 4 月 12-15 日.
5. 松尾典子, 谷垣伸治, 井上慶子, 橋本玲子, 伊藤路奈, 矢島正純, 岩下光利: 出生前診断における高速度 MRI の有用性. 第 60 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 平成 20 年 4 月 12-15 日.
6. 伊藤路奈, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: 胎盤由来ステロイドホルモンは脱落膜由来 Insulin-like growth factor binding proteins (IGF) binding protein-1 を修飾し IGF の作用を調節する. 第 60 回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 平成 20 年 4 月 12-15 日.
7. 澁谷裕美, 酒井啓治, 岩下光利: 妊婦腹水中 Insulin-like growth factor binding proteins は IGF-I による子宮内膜症の増殖を抑制する. 第 81 回日本内分泌学会学術総会, 青森, 平成 20 年 5 月 16-18 日.
8. 酒井啓治, 和地祐一, 岩下光利: 胎盤由来ステロイドホルモンは脱落膜由来 Insulin-like growth factor binding protein-1 (IGFBP-1) の重合を促進し IGF の作用を調節する. 第 81 回日本内分泌学会学術総会, 青森, 平成 20 年 5 月 16-18 日.
9. 松本浩範, 酒井啓治, 岩下光利: 子宮内膜の脱落膜化における IGFBP-1 とインテグリンの相互作用について. 第 81 回日本内分泌学会学術総会, 青森, 平成 20 年 5 月 16-18 日.
10. 松島実穂, 矢島正純, 手塚彩子, 松本浩範, 岩下光利: 尿閉を主訴とした高齢卵巣巨大筋腫の 1 例. 第 346 回日産婦東京地方部会例会, 東京, 平成 20 年 5 月 17 日.
11. Hashimoto R, Sakai K, & Iwashita M (poster): Tumor Necrosis Factor-alpha (TNF - alpha) Inhibits Insulin-like Growth Factor-I (IGF-I) Activities in Human Trophoblast Cell Cultures Through IGF-I/Insulin Hybrid Receptors. 15th FAOPS 2008, Nagoya, May 20-24, 2008.
12. Sakai K, Wachi Y, Ito R, & Iwashita M (poster): Physiological Significances of Transglutamination of IGFBP-1 on Trophoblast Cell Migration and Proliferation. 15th FAOPS 2008, Nagoya, May 20-24, 2008.
13. 網脇智法, 和地祐一, 谷垣伸治, 伊野塚喜代乃, 松島実穂, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利: 癒着胎盤が疑われる帝王切開術の工夫. 第 359 回四水会, 東京, 平成 20 年 7 月 2 日.
14. 伊野塚喜代乃, 谷垣伸治, 澁谷裕美, 和地祐一, 伊藤路奈, 鈴木雅代, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利: 胎児鏡下レーザー凝固術適応外であった一絨毛膜二羊膜双胎の 4 症例の転機. 第 44 回日

本周産期・新生児医学会学術集会，横浜，平成 20 年 7 月 13-15 日。

15. 谷垣伸治，和地祐一，伊野塚喜代乃，澁谷裕美，伊藤路奈，鈴木雅代，酒井啓治，橋口和生，岩下光利：前置癒着胎盤を疑う症例に対するプロとコール作成と苦悩。第 44 回日本周産期・新生児医学会学術集会，横浜，平成 20 年 7 月 13-15 日。

16. 松本浩範，矢島正純，澁谷裕美，松尾典子，岩下光利，坂本穆彦¹（¹杏林大・医・病理）：漿膜破綻を来した子宮体部 myxofibrosarcoma の 1 例。第 44 回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会，名古屋，平成 20 年 7 月 17-19 日。

17. 岩下光利：妊娠とインスリン様成長因子。岡山県医師会産婦人科専門医会，岡山，平成 20 年 7 月 20 日。

18. 谷垣伸治：杏林大学病院における産科健診ルーチン検査（セミオープンシステム、34 週以降の紹介），頸管長測定法。第 3 回北多摩産婦人科医療連携懇話会，三鷹，平成 20 年 7 月 31 日。

19. 鈴木雅代，安藤索，和地祐一，山井礼子，岩下光利，嘉治真彦¹（佐々総合病院・産婦人科）：当院における適切な卵巣刺激を選択するための卵巣予備能の評価と検討。第 26 回日本受精着床学会学術講演会，福岡市，平成 20 年 8 月 28, 29 日。

20. 上原一郎，谷垣伸治，上原彩子，井上慶子，橋本玲子，酒井啓治，橋口和生，岩下光利：低フィブリノーゲン血症合併妊娠の一例。第 347 回日本産婦人科学会東京地方部会例会，東京，平成 20 年 9 月 20 日。

21. 和地祐一，安藤索，鈴木雅代，岩下光利：35 歳以上の ART 患者における適切な卵巣刺激法と卵巣予備能の検討。第 53 回日本生殖医学会学術講演会，神戸，平成 20 年 10 月 23, 24 日。

22. 上原彩子，谷垣伸治，井上慶子，松島実穂，橋本玲子，酒井啓治，橋口和生，岩下光利：中大脳動脈最高血流速度（MCA-PSV）計測を併用し、周産期管理した胎盤肥厚像を認めた 2 症例。日本超音波医学会第 20 回関東甲信越地方部会，東京，平成 20 年 10 月 25 日。

23. 酒井啓治：絨毛細胞における Insulin-like growth factor (IGF)系の役割。第 16 回日本胎盤学会学術集会，浜松，平成 20 年 11 月 13, 14 日。

24. 李政勲¹，宮崎寛¹，山口竜一¹，上原彩子，谷垣伸治，塩川芳昭¹（¹杏林大・医・脳外科）：脳出血により植物状態となった母体より帝王切開術にて拳児を得た一例。第 37 回杏林医学会総会，三鷹，平成 20 年 11 月 15 日。

25. 金春姫¹，安西尚彦¹，木村徹¹，福富俊之¹，酒井啓治，岩下光利，塩川芳昭¹（¹杏林大・医・薬理学）：ヒト胎盤絨毛由来 BeWo 細胞における L 型アミノ酸輸送特性。第 37 回杏林医学会総会，三鷹，平成 20 年 11 月 15 日。

26. 安藤索（シンポジウム）：新しい排卵誘発法，インスリン抵抗性改善等による PCOS 女性に対する排卵誘発法。第 116 回日本産婦人科学会関東連合東京地方部会学術集会，宇都宮，平成 20 年 11 月 29, 30 日。

27. 真山麗子，橋本玲子，谷垣伸治，上原彩子，酒井啓治，橋口和生，岩下光利：発症経過の異なる RPLS の 2 症例。第 116 回日本産婦人科学会関東連合東京地方部会学術集会，宇都宮，平成 20 年 11 月 29, 30 日。

28. 伊野塚喜代乃，矢島正純，和地祐一，安藤索，岩下光利：術後早期に脳転移をきたした子宮体部小細胞癌の一例。第 116 回日本産婦人科学会関東連合東京地方部会学術集会，宇都宮，平成 20 年

11月29,30日.

29. 網脇智法, 矢島正純, 松島実穂, 澁谷裕美, 松本浩範, 岩下光利: Atypical polypoid adenomyomaに複雑型子宮内膜異型増殖症を合併した1症例. 第116回日本産婦人科学会関東連合東京地方部会学術集会, 宇都宮, 平成20年11月29,30日.
30. 真山麗子, 谷垣伸治, 上原彩子, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利: 出血点の検索に難渋した外陰血腫. 第360回四水会, 東京, 平成20年12月3日.
31. 網脇智法, 矢島正純, 澁谷裕美, 松本浩範, 安藤素, 岩下光利: 卵巣癌肉腫の一例. 第348回日本産婦人科学会東京地方部会例会. 東京, 平成20年12月20日.
32. 橋本玲子, 谷垣伸治, 上原彩子, 岩下光利, 小林智恵, 保崎明¹, 野村優子¹, 杉浦正俊¹, 大木寛生¹ (¹杏林大・医・小児科): 胎児診断された左心室瘤の一例. 第15回日本胎児心臓病研究会, さいたま, 平成21年2月13,14日.
33. 松澤由記子, 谷垣伸治, 上原一郎, 上原彩子, 澁谷裕美, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利: 一絨毛二羊膜性双胎の一児にlimb-body wall complexを認めた一例. 第349回日産婦東京地方部会例会, 東京, 平成21年2月21日.
34. 岩下光利: 月経異常へのアプローチ. 日本内分泌学会第19回臨床内分泌代謝Update, 東京, 平成21年3月14日.
35. 岩下光利 (特別講演): 周産期医療における助産師の役割. 広島母性衛生学会, 広島, 平成21年3月7日.

論文

1. 岩下光利: 産婦人科ホルモン療法マニュアル, III. 腫瘍・類腫瘍, 3. 子宮内膜症. 産と婦 75 増刊号:61-166, 2008.
2. 伊野塚喜代乃, 澁谷裕美, 松本浩範, 安藤素, 矢島正純, 岩下光利: 円錐切除後に子宮口閉鎖をきたし子宮摘出となった一例, 日産婦東京会誌 57:52-54, 2008.
3. 小林佑介¹, 谷垣伸治, 高橋香織¹, 菅原かな¹, 石川光也¹, 佐藤健二¹, 小川真里子¹, 中川博之¹, 吉田丈児¹, 高松潔¹ (¹東京歯科大・市川総合病院・産婦人科): Retained Placenta に対し臍帯静脈への生理的食塩水注入療法が有用であった一症例. 日産婦千葉会誌 1:27-30, 2008.
4. 高橋香織¹, 谷垣伸治, 小林佑介¹, 菅原かな¹, 佐藤健二¹, 石川光也¹, 小川真理子¹, 中川博之¹, 兼子智¹, 吉田丈児¹, 高松潔¹ (¹東京歯科大・市川総合病院・産婦人科): 不妊スクリーニング検査の Pit fall. 日産婦千葉会誌 1:13-16, 2008.
5. 岩下光利: 子宮内膜における Leukemia inhibitory factor (LIF)の生理学的意義. 産婦人科の実際 57:203-210, 2008.
6. 安藤素, 岩下光利: 不妊症と多嚢胞性卵巣症候群. 総合臨牀 74:512-515, 2008.
7. Kabir-Salmani M, Fukuda N. M⁴, Kanai-Azuma M³, Ahmed N¹, Shiokawa S, Akimoto Y¹, Sakai K, Nagamori S², Kanai Y¹, Sugihara K⁵, & Iwashita M (¹Dept. of Anatomy, Pharmacology and Toxicology, Kyorin Univ. School of Med., ²Dept. of General Medicine, Kyorin Univ. School of Med., ³Molecular and Cellular Research Center, Faculty of Medicine, Shahid Beheshti Medical Univ., and Dept. of Medical Genetics, National Institute of Genetic Engineering and Biotechnology, ⁴Tumor Microenvironment Program,

Cancer Research Center, Burnham Institute for Medical Research, ⁵Dept of Ob/Gyn, Hamamatsu Univ. School of Med.): The Membrane-Spanning Domain of CD98 Heavy Chain Promotes $\alpha v \beta 3$ Integrin Signals in Human Extravillous Trophoblasts. *Mol Endocrinol* 22:707-715, 2008.

8. 松島実穂, 谷垣伸治, 伊野塚喜代乃, 橋本玲子, 伊藤路奈, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利: 前置胎盤を伴った子宮奇形合併妊娠の1例. *日産婦東京会誌* 57:200-203, 2008.

9. Matsumoto H, Sakai K, & Iwashita M: Insulin-like growth factor binding protein-1 induces decidualization of human endometrial stromal cells via $\alpha 5 \beta 1$ integrin. *Mol Hum Reprod* 14, 485-489, 2008.

10. 松島実穂, 矢島正純, 手塚彩子, 松本浩範, 岩下光利: 尿閉を主訴とした巨大卵巣腫瘍の1例. *日産婦東京会誌* 57: 406-408, 2008.

11. 松島実穂, 谷垣伸治, 伊野塚喜代乃, 橋本玲子, 伊藤路奈, 鈴木雅代, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利: 感染が予後に影響したと考えられる妊娠22週前破水の2症例. *産婦人科の実際* 57:1485-1489, 2008.

12. Shimizu Y, Kabir-Salmani M^{1,2}, Azadbakht M³, Sugihara K⁴, Sakai K, & Iwashita M (¹Cellular and Molecular Biology Research Center, Shahid Beheshti Medical Univ., ²Dept. of Genetic Medicine, National Institute for Genetic Engineering, ³Dept. of Biology, Razi Univ., ⁴Dept of Ob/Gyn, Hamamatsu Univ. School of Med.): Expression and localization of galectin-9 in the human uterine dome. *Endocr J* 55:879-887. 2008.

13. 上原一朗, 谷垣伸治, 上原彩子, 井上慶子, 橋本玲子, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利: 低フィブリノーゲン血症合併妊娠の1例. *日産婦東京会誌* 57:481-484, 2008.

14. 谷垣伸治, 岩下光利: 胎児の発育. *周産期医学* 38 増刊号:109-113, 2009.

15. 岩下光利, 平松祐司¹ (¹岡山大学・医・産婦人科): 分娩時 大量出血への対応. *日本周産期・新生児学会雑誌* 44 別冊: 982-984, 2009.

16. 岩下光利: 着床のメカニズム, 着床関連因子 (2), LIF. *HORM FRONT GYNECOL* 16:30-34, 2009.

17. 谷垣伸治, 和地祐一, 松島実穂, 網脇智法, 伊野塚喜代乃, 澁谷裕美, 伊藤路奈, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利: 癒着胎盤に対する帝王切開術. *産と婦* 76 増刊号:61-66, 2009.

18. 網脇智法, 矢島正純, 澁谷裕美, 松本浩範, 安藤素, 岩下光利: 卵巣癌肉腫の1症例. *日産婦東京会誌* 58:45-48, 2009.

著書

1. 安藤素: II. 婦人科手術②: 腔式手術, 卵管鏡下手術. ここが聞きたい 産婦人科手術・処置とトラブル対処法. 倉智博久編. 東京, 医学書院, 2008. p.102-105.

2. 岩下光利: IV 病態, 21. メタボリックシンドロームと PCOS. キーワードでわかる! メタボリックシンドローム. 片山茂裕編. 東京, 中外医学社, 2008. p.265-266.

その他

1. 第3回北多摩病診連携懇話会, 三鷹, 平成20年7月31日.

2. 第4回多摩産婦人科臨床腫瘍研究会, 武蔵野, 平成20年10月9日.

3. 第139回日本生殖医学会関東地方部会, 三鷹, 平成21年2月14日.

4. 第1回多摩生殖医療研究会学術講演会，立川，平成21年3月5日.

放射線医学教室

口演 (学会等)

1. 立石秀勝, 土屋一洋, 吉田真衣子, 今井昌康, 五明美穂, 小柳正道, 似鳥俊明: MDCT を用いた表在性脳腫瘍における CT perfusion と CTA からの脳表面像の連続撮像, 第 67 回日本医学放射線学会学術集会, 横浜, 平成 20 年 4 月 4-6 日.
2. 土屋一洋, 立石秀勝, 吉田真衣子, 今井昌康, 似鳥俊明, 木村徳典¹, 池戸雅人¹, 竹本周平¹ (¹東芝メディカルシステムズ): TOF 法 MRA と FSBB 法の組み合わせによる hybrid MRA の初期臨床応用. 第 67 回日本医学放射線学会学術集会, 横浜, 平成 20 年 4 月 4-6 日.
3. 吉田真衣子, 土屋一洋, 立石秀勝, 五明美穂, 今井昌康, 似鳥俊明: 頸部から頭蓋内の CTA-高いヨードデリバリーレートと生食フラッシュが与える影響について. 第 67 回日本医学放射線学会学術集会, 横浜, 平成 20 年 4 月 4-6 日.
4. Iwamoto K, Masuda Y, Uozumi K, Morinaga K & Nitatori T: Three Cases of Transcatheter Arterial Embolization of the Pancreaticoduodenal Artery Aneurysm with Stenosis of the Celiac Artery . ISIR & JSAIR 2008. 軽井沢, 平成20年5月13-17日.
5. 稲岡祥幸: 奇静脈血管腫の 1 例. 第 36 回胸部研究会東京部会, 東京, 平成 20 年 5 月 19 日.
6. Tsuchiya K, Tateishi H, Yoshida M, Nitatori T & Suzuki Y¹: (¹Philips Medical Systems): Susceptibility-weighted scanning of the brain using a PRESTO sequence in combination with parallel imaging. The 46th Annual Meeting of the American Society of Neuroradiology, New Orleans, June 2-5, 2008.
7. Tsuchiya K, Tateishi H, Yoshida M, Koyanagi M & Nitatori T: Brain surface imaging in combination with perfusion imaging of superficial tumors with multidetector CT. The 46th Annual Meeting of the American Society of Neuroradiology, New Orleans, June 2-5, 2008.
8. Tsuchiya K, Tateishi H, Honya K, Yoshida M, Gomyo M & Nitatori T: CT angiography covering both cervical and cerebral arteries using a reduced dose and higher concentration of contrast material on a 16-detector row system. The 46th Annual Meeting of the American Society of Neuroradiology, New Orleans, June 2-5, 2008.
9. 似鳥俊明: 心臓の CT, MRI 診断-基礎から最新情報まで- 第 40 回川越・入間画像診断法研究会特別講演, 川越, 平成 20 年 7 月 9 日.
10. 横山健一, 鈴木清寿, 似鳥俊明, 谷合誠一¹, 坂田好美¹, 吉野秀朗¹ (¹杏林大・医・循環器内科): 好酸球性心筋炎の一例 第 1 回 SCMR Japan Chapter 研究会, 東京, 平成 20 年 8 月 9 日.
11. Nitatori T: Invitation to Cardiac MRI & CT, Special lecture of MRI Symposium in Taiwan, Aug 15, 2008.
12. 土屋一洋, 立石秀勝, 吉田真衣子, 今井昌康, 似鳥俊明, 木村徳典¹, 池戸雅人¹, 竹本周平¹ (¹東芝メディカルシステムズ): TOF 法と FSBB 法の組み合わせによる hybrid MRA: モヤモヤ病での有用性の検討. 第 36 回日本磁気共鳴医学会大会, 旭川, 平成 20 年 9 月 11-13 日.
13. 横山健一, 鈴木清寿, 依光美佐子, 今井昌康, 本谷啓太, 似鳥俊明, 久原重英¹ (¹東芝メデ

ィカルシステムズ)：拡張型心筋症における 3D 遅延造影 MRI 多時相撮像の有用性の検討。第 36 回日本磁気共鳴医学会大会，旭川，平成 20 年 9 月 11-13 日。

- 1 4 . Tsuchiya K, Imai M, Tateishi H, Honya K, Yoshida M & Nitatori T: CT angiography covering both cervical and cerebral arteries on a 16-detector row system: modification of contrast dose and injection rate by patient weight. The 33rd European Society of Neuroradiology Annual Meeting, Cracow, September 18-21, 2008.
- 1 5 . Tsuchiya K, Tateishi H, Honya K, Yoshida M, Gomyo M & Nitatori T: CT angiography covering both cervical and cerebral arteries using a reduced dose and higher concentration on a 16-detector row system: effect of a higher iodine delivery rate and a saline flush. The 33rd European Society of Neuroradiology Annual Meeting, Cracow, September 18-21, 2008.
- 1 6 . 森下恵美子，本田 聡¹，角田博子¹，河守次郎²，関口建次²，濱岡 剛³，中村清吾³，(¹聖路加病院・放射線科，²聖路加病院・放射線腫瘍科，³聖路加病院・乳腺外科)：乳癌の眼転移の診断における画像的評価。第 16 回日本乳癌学会学術総会，大阪，平成 20 年 9 月 26-27 日。
- 1 7 . 岩元香保里：UAEの国内外の動向。第44回日本放射線学会秋季大会。郡山，平成20年10月22-25日。
- 1 8 . 今井昌康，原留弘樹，似鳥俊明：横隔膜腫瘍と鑑別が困難であった，淡明細胞型肝内胆管細胞癌の 1 例。第 44 回日本医学放射線学会秋期臨床大会，郡山，平成 20 年 10 月 22-24 日。
- 1 9 . 本谷啓太：MDCT における冠静脈の評価。第 44 回日本放射線学会秋季大会。郡山，平成 20 年 10 月 22-25 日。
- 2 0 . Yokoyama K, Nitatori T, Honya K, Suzuki S, Imai M, Yorimitsu M : Imaging of cardiac vein anatomy on multidetector CT. RSNA 94th Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, Nov.29-Dec.6, 2008.
- 2 1 . Tonari A , Nako Y , Harii K, Takayama M : Effect of breast augmentation after breast conserving surgical therapy for breast cancer on radiation dose – Silicone prosthesis and changes in radiation dose- RSNA 94th Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, Nov.30-Dec.5, 2008.
- 2 2 . Tsuchiya K, Kobayashi K, Nitatori T, Kimura T¹, Ikedo M¹ & Takemoto S¹ (¹Toshiba Medical Systems): Hybrid MRA of the brain combining time-of-flight and black-blood sequences: initial experience in major trunk stenocclusive diseases. RSNA 94th Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, November 30-December 5, 2008.
- 2 3 . Tsuchiya K, Tateishi H, Honya K, Yoshida M, Imai M & Nitatori T: Demonstration of spinal neurogenic tumors by diffusion neurography. RSNA 94th Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, November 30-December 5, 2008.
- 2 4 . 今井昌康，土屋一洋，似鳥俊明：高濃度造影剤の体重別投与量設定による頭部から頸部の CTA。第 38 回日本神経放射線学会，水戸，平成 21 年 2 月 4-6 日。
- 2 5 . 本谷啓太：読影医が求める MR 画像のポイント-骨軟部領域-。東芝磁気共鳴塾 2009。東京，平成 21 年 2 月 7 日。
- 2 6 . 横山健一：シンポジウム ルーチン心臓 MRI の現状と問題点。第 15 回 Tokyo Heart Imaging Club，東京，平成 21 年 3 月 28 日。

論文

1. Tsuchiya K, Honya K, Yoshida M & Nitatori T: Demonstration of spinal cord and nerve root abnormalities by diffusion neurography. J Comput Assist Tomogr 32: 286-290, 2008.
2. 土屋一洋：頭蓋内感染症の画像診断-知っておくべき検査法の選択とその所見-. 断層映像法研究会雑誌 35: 113-121, 2008.
3. 土屋一洋：CNS ループスの画像診断. 日獨医報 53:390-398, 2008.
4. Tsuchiya K, Honya K, Yoshida M, Gomyo M & Nitatori T: Cerebral CT angiography using a reduced dose of contrast material at high iodine concentration in combination with a saline flush. Clin Radiol 63: 1332-1335, 2008.
5. Tsuchiya, K Fujikawa A, Honya K, Nitatori T & Suzuki Y¹ (¹Philips Medical Systems): Diffusion tensor tractography of the lower spinal cord. Neuroradiology 53: 221-225, 2008.
6. 横山健一, 鈴木清寿, 依光美佐子, 似鳥俊明：循環器専門医に必要な知識（診断編）CT と MRI の進歩② MRI で何がわかるか. Heart View 12: 124-129, 2008.
7. 横山健一, 依光美佐子, 鈴木清寿, 本谷啓太, 今井昌康, 似鳥俊明：心臓 MRI の基本的撮像法と読影の実際. 臨床画像 24: 106-117, 2008.
8. 横山健一, 似鳥俊明：心筋遅延造影 MRI 画像診断. 29:228-238, 2009.
9. Tonari A, Kusuda J, Nako Y, et al :Evaluation of the Effectiveness of Radiation Treatment Methods for Treatment of Early-Stage Esophageal Cancer. J Kyorin Med Soc 38 : 69-74, 2008.
10. Tonari A , Nako Y, Maruyama Y, Ikeda I, Ikezaki H, Kusuda J, Harii K, Takayama M : Effect of breast augmentation after breast conserving surgical therapy for breast cancer on radiation dose – Silicone prosthesis and changes in radiation dose-. J Jpn Soc Ther Radiol Oncol 20 : 155-161. 2008.
11. 鈴木清寿, 原留弘樹, 似鳥俊明:腎臓 MRI/MRA 検査のノウハウ. 成人病と生活習慣病 38 : 772-778, 2008.

著書

1. 高山 誠：肺がんの治療法-どうして骨転移の病巣に放射線治療をするんですか？, 肺がんケアQ&A (加藤治文 監修、平野隆、坪井正博 編), 東京, 総合医学社, 2008. p 96 - 97.
2. 土屋一洋 (共編著):完全攻略 ちょっとハイレベルな頭部疾患のMRI 診断. 東京, 秀潤社, 2008.
3. 土屋一洋：脳膿瘍・神経梅毒・Parry-Romberg 症候群・下垂体膿瘍・先天性トキソプラズマ感染症・インフルエンザ脳症・急性小脳炎・細胞内小器官と白質脳症・その他の代謝性疾患・急性硬膜下血腫. 完全攻略 ちょっとハイレベルな頭部疾患のMRI 診断. 前原忠行、土屋一洋編, 東京, 秀潤社, 2008, pp. 212-213, 216-217, 226-227, 244-245, 261-262, 266-267, 270-271, 290-291, 302-303, 370-371.
4. 土屋一洋 (編著)：血管イメージング 頭部・頸部, 東京, 羊土社, 2008.
5. 土屋一洋：神経血管圧迫・頭蓋内腫瘍性病変, 血管イメージング 頭部・頸部, 土屋一洋編, 東京, 羊土社, 2008. p. 137-147, 148-155.

その他

1. 似鳥俊明：序説“加齢”の画像診断 -加齢性変化と高齢者疾患の特徴を考える-：画像診断 29, 119, 2009.
2. 土屋一洋（学会主催）：第 28 回神経放射線ワークショップ，東京，平成 20 年 6 月 26-28 日.
3. 戸成綾子（院内講演会）：放射線従事者教育訓練，三鷹，2008 年 12 月 9 日.
4. 似鳥俊明 学会（研究会主催）：第 8 回子宮筋腫塞栓療法研究会．淡路島，平成 20 年 9 月 6 日.

麻酔科学教室

< I 口演 >

1. 飯島毅彦：輸液と循環血流量. 第1回 FRACTA, 東京, 平成20年4月20日
2. 飯島毅彦: 上気道閉塞のメカニズムとモニタリングー歯科麻酔の困難性. 第19回日本臨床モニター学会, 東京, 平成20年4月26日
3. 飯田高史, 中澤春政, 糟谷洋平, 山科元範, 飯島毅彦, 巖康秀: 多量出血症例における術後呼吸機能に影響を及ぼす因子の検討. 第55回日本麻酔科学会総会, 横浜, 平成20年6月12日
4. 小澤寛子, 玉田尚, 小谷真理子, 村上隆文, 安田博之, 巖康秀: レミフェンタニル採用前後における麻酔管理の変化ー症例検討ー. 第55回日本麻酔科学会総会, 横浜, 平成20年6月12日
5. 長谷川綾子, 森山久美, 田口敦子, 田中健介, 窪田靖志, 巖康秀: レミフェンタニル採用前後における麻酔管理の変化ーアンケート調査による検討ー. 第55回日本麻酔科学会総会, 横浜, 平成20年6月12日
6. 大橋夕樹, 五明義就, 光田将憲, 吉松貴史, 萬知子, 巖康秀: 脳外科覚醒下手術の麻酔におけるフェンタニルとレミフェンタニルの比較. 第55回日本麻酔科学会総会, 横浜, 平成20年6月13日
7. Moriyama K, Yoshimatsu T, Kubota Y, Yorozu T, Iijima T, Iwao Y : Automatic Behavioral Analysis of Neuropathic Pain in Rat with HomeCageScanTM. The 3rd Asian Pain Symposium, 福岡, 平成20年7月18日
8. 田口敦子, 光田将憲, 巖康秀, 飯島毅彦: 全前脳胞症患者の麻酔経験. 第14回日本小児麻酔学会, 東京, 平成20年8月29日
9. 神山智幾, 木下尚之, 中澤春政, 石川剛史, 光田将憲, 萬知子, 巖康秀: Bland-white-garland 症候群の麻酔経験. 第48回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 東京, 平成20年9月20日
10. 玉田尚, 糟谷洋平, 田口敦子, 田中健介, 萬知子, 巖康秀: 術中より洞性頻脈を呈し術後に甲状腺クリーゼと診断された一例. 第48回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 東京, 平成20年9月20日
11. 三谷晴子, 楠元恭子, 飯田高史, 窪田靖志, 小谷真理子, 飯島毅彦, 巖康秀: ロクロニウムの持続投与について作用時間が著名に延長した2症例. 第48回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 東京, 平成20年9月20日
12. 渡辺邦太郎, 森山久美, 鶴澤康二, 五明義就, 安田博之, 飯島毅彦, 巖康秀: 四肢麻痺を呈した頸部化膿性脊椎炎の一症例. 第48回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 東京, 平成20年9月20日
13. 飯田高史, 中澤春政, 五明義就, 窪田靖志, 安田博之, 飯島毅彦, 萬知子, 巖康秀: 巨大肺嚢瘍切除後に再膨張性肺水腫をきたした一例. 第28回日本臨床麻酔学会, 京都, 平成20年11月21日
14. 中澤春政, 飯島毅彦, 飯田高史, 吉松貴史, 田中健介, 光田将憲, 萬知子, 巖康秀: 輸血後呼吸障害にかかわる因子の統計的な検討. 第28回日本臨床麻酔学会, 京都, 平成20年11月21日
15. 萬知子: 杏林大学病院におけるオキシコンチン®錠の使用状況. 第12回緩和ケア学術講演会, 三鷹, 平成21年1月16日

16. 三谷晴子, 田口敦子, 森山久美, 窪田靖志, 萬知子, 飯島毅彦, 巖康秀: 未治療の喘息患者の緊急手術において迅速導入後の気管挿管時に気管支痙攣をおこした症例. 多摩麻酔懇話会第 20 回大会, 東京, 平成 21 年 2 月 21 日
17. 萬知子, 塩川芳昭, 安田博之, 玉田尚, 鶴澤康二: 中心静脈穿刺資格制度と穿刺時エコー使用推奨による合併症軽減策—杏林大学医学部付属病院での取り組み. 第 36 回日本集中治療医学会学術集会, 大阪, 平成 21 年 2 月 26 日
18. Iijima T, Tanaka K, Matsubara S, Kawakami H, Mishima T, Suga K, Akagawa K, Iwao Y: Calcium loading capacity and morphological changes in mitochondria in an ischemic preconditioned model. Keystone Symposia “Mitochondrial dynamics and Physiology, Whistler, Mar.24,2009
19. 萬知子: 緩和ケア—薬物療法の基本と神経因性疼痛. 第 9 回 杏林総合臨床研究会, 武蔵野, 平成 21 年 3 月 26 日

< II 論文 >

1. Iijima T, Tanaka K, Matsubara S, Kawakami H, Mishima T, Suga K, Akagawa K, Iwao Y: Calcium loading capacity and morphological changes in mitochondria in an ischemic preconditioned model. *Neurosci Lett*, 448(3):268-272, 2008.
2. Tanaka K, Iijima T, Mishima T, Suga K, Akagawa K, Iwao Y: Ca⁺⁺ buffering capacity of mitochondria after oxygen-glucose deprivation in hippocampal neurons. *Neurochemical Research*, 34(2):221-226, 2008.
3. 飯島毅彦: 低侵襲化が進む血行動態評価—色素希釈法でのモニタリング. *Circulation up-to-date*, 3(3):69-78, 2008.
4. Kotake Y, Matsumoto M, Yorozu T, Takeda J: Recurrent ST-segment elevation on ECG and ventricular tachycardia during neurosurgical anesthesia. *Journal of Anesthesia*, 23: 115-118, 2009.
5. 森山久美: ラット坐骨神経結紮モデルを用いた神経因性疼痛における行動学的評価モデル. 杏林医学会雑誌, 39(1):21-30, 2008.

< III 著書 >

1. 飯島毅彦 編: 周術期の輸液. 東京, 克誠堂出版, 2008.
2. 萬知子: カルシウムとマグネシウム. In 周術期の輸液. 飯島毅彦 編集. 東京, 克誠堂出版, 2008. p. 104-121
3. 萬知子: 内頸動脈閉塞症、高安病. In 合併症患者の麻酔スタンダード. 武田純三 監修. 東京, 克誠堂出版, 2008. p. 65-73
4. 萬知子: 覚醒. In 麻酔看護のポイント 360. 武田純三 編. 大阪, メディカ出版, 2009. p. 108-119

< IV その他 >

会長: 巖康秀 (学会主催): 第 14 回日本小児麻酔学会, 東京, 平成 20 年 8 月 29-30 日

臨床検査医学教室

口演

1. 森秀明¹，峯佳毅¹，本田普久¹，西川かおり¹，塚田幾太郎¹，高橋信一¹，岸野智則，小樽二世²，松下彌生³（¹杏林大・医・第三内科，²東京歯科大学千葉病院，³東芝メディカルシステムズ株式会社）：門脈腫瘍塞栓合併肝細胞癌に対する造影超音波検査の検討．第21回日本腹部造影エコー・ドプラ診断研究会，東京，平成20年4月12日．
2. 森秀明¹，西川かおり¹，本田普久¹，峯佳毅¹，塚田幾太郎¹，高橋信一¹，岸野智則，小樽二世²，嶋田都³，吉川憲明³（¹杏林大・医・第三内科，²東京歯科大学千葉病院，³フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ）：Pure Wave Transducerを用いた腹部超音波検査の検討．日本超音波医学会，第81回学術集会，神戸，平成20年5月24日．
3. 本田普久¹，峯佳毅¹，松下彌生²，矢野雅彦²，嶋田都³，塚田幾太郎¹，岸野智則，西川かおり¹，森秀明¹，高橋信一¹（¹杏林大・医・第三内科，²東芝メディカルシステムズ，³フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ）：Sonazoidを用いたリアルタイム3D/4D造影超音波による肝腫瘍診断．日本超音波医学会，第81回学術集会，神戸，平成20年5月24日．
4. 西川かおり¹，森秀明¹，本田普久¹，峯佳毅¹，高橋信一¹，岸野智則，小樽二世²，松下彌生³，矢野雅彦³，嶋田都⁴（¹杏林大・医・第三内科，²東京歯科大学千葉病院，³東芝メディカルシステムズ株式会社，⁴フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ）：肝腫瘍に対する造影手法（MFIとMVI）の検討．日本超音波医学会，第81回学術集会，神戸，平成20年5月24日．
5. 司茂幸英：心電図波形計測について．東京都臨床検査技師会生理機能研修会，東京，平成20年6月15日．
6. 關里和¹，本田普久¹，塚田幾太郎¹，小樽二世¹，峯佳毅¹，西川かおり¹，森秀明¹，高橋信一¹，岸野智則（¹杏林大・医・第三内科）：高齢者における肝・胆道系疾患の超音波診断．第11回日本高齢消化器病学会，東京，平成20年7月19日．
7. 本田普久¹，關里和¹，塚田幾太郎¹，峯佳毅¹，西川かおり¹，森秀明¹，高橋信一¹，岸野智則（¹杏林大・医・第三内科）：診断に苦慮した肝腫瘍の1例．第97回腹部エコー研究会，東京，平成20年9月6日．
8. 森秀明¹，西川かおり¹，本田普久¹，峯佳毅¹，塚田幾太郎¹，關里和¹，小樽二世¹，高橋信一

¹, 岸野智則 (¹杏林大・医・第三内科) : 腹部領域におけるドプラ法の有用性の検討. 第 25 回超音波ドプラ研究会, 東京, 平成 20 年 9 月 13 日.

9. 森井健司¹, 望月一男¹, 大塚弘毅, 大西宏明, 里見和彦¹ (¹杏林大学整形) : 骨肉腫細胞株におけるビスフォスフォネートの抗腫瘍効果に対する耐性発現モデル. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 京都, 平成20年10月24日.
10. 高野麻衣子¹, 森秀明², 西川かおり², 本田普久², 浦田毅¹, 司茂幸英¹, 岸野智則, 杉山政則, 高橋信一², 渡邊卓 (¹杏林大・医・付属病院・検査部, ²杏林大・医・第三内科) : 自己免疫性膵炎との鑑別が困難であった主膵管内発育型腺癌の一例. 日本超音波医学会, 関東甲信越地方会第 20 回学術集会, 東京, 平成 20 年 10 月 26 日.
11. 大塚弘毅, 大西宏明, 呉屋朝幸¹, 渡邊卓 (杏林大学医学部外科¹) : Side population(SP)法による肺癌幹細胞研究(抗癌剤耐性克服をめざして), 第49回日本肺癌学会総会, 北九州, 平成20年11月14日.
12. 宮城博幸, 梶原正弘¹, 大西宏明, 山口芳弘², 渡邊卓 (¹杏林大・医・法医学, ²杏林大・医・救急医学) : LC-MS-MS を用いた新しい精神神経疾患作用薬 2 種類 (商品名ジェイゾロフト・エビリファイ) の分析測定に関する検討. 第 55 回日本臨床検査医学会, 名古屋, 平成 20 年 11 月 27 日.
13. 浦田毅, 岸野智則, 森秀明², 高野麻衣子, 岡崎充宏, 司茂幸英, 西川かおり¹, 峯佳毅¹, 本田普久¹, 塚田幾太郎¹, 関里和¹, 大塚弘毅, 大西宏明, 高橋信一¹, 石山陽事², 渡邊卓 (¹杏林大・医・第三内科, ²杏林大・保・臨床工学科) : 膵実質エコーレベルと内臓血流動態の関連の検討. 第 55 回日本臨床検査医学会学術集会, 名古屋, 平成 20 年 11 月 29 日.
14. 浦田毅, 岸野智則, 森秀明¹, 高野麻衣子, 岡崎充宏, 司茂幸英, 西川かおり¹, 峯佳毅¹, 本田普久¹, 塚田幾太郎¹, 関里和¹, 大塚弘毅, 大西宏明, 高橋信一¹, 石山陽事², 渡邊卓 (¹杏林大学医学部第三内科, ²同保健学部臨床工学科) : 膵実質エコーレベルと内臓血流動態の関連の検討, 第55回日本臨床検査医学会学術集会, 名古屋, 平成20年11月29日.
15. 大塚弘毅, 大西宏明, 小倉航, 千葉美佐紀, 松島早月, 岸野智則, 呉屋朝幸¹, 渡邊卓 (¹杏林大学医学部外科) : Side population(SP)法による肺癌幹細胞研究(抗癌剤耐性克服をめざして), 第55回日本臨床検査医学会学術集会, 名古屋, 平成20年11月30日.
16. 荒木光二, 田口晴彦¹, 米谷正太, 牧野博, 澤田範子, 岡崎充宏, 司茂幸英, 江上照夫, 大西宏明², 渡邊卓² (¹杏林大・保・免疫学) : 杏林大学病院で分離された小児由来肺炎球菌の薬剤感受性及び遺伝子解析による検討. 第 55 回日本臨床検査医学会, 名古屋, 平成 20 年 11 月

30 日.

論文

1. Ohnishi H, Yoshino H, Yoneyama R, Ishii M, Watanabe T, Bessho F: Faggot formation in mature neutrophils and metamyelocytes in acute myeloid leukemia without maturation. *Pediatr Hematol Oncol* 25:165-170, 2008
2. Kawai J, Ohara-Imaizumi M, Nakamichi Y, Okamura T, Akimoto Y, Matsushima S, Aoyagi K, Kawakami H, Watababe T, Watada H, Kawamori R, Nagamatsu S: Insulin exocytosis in Goto-Kakizaki rat β -cells subjected to long-term glinide or sulfonylurea treatment. *Biochem J* 412:93-101, 2008
3. Kishino T, Watanabe K, Urata T, Takano M, Uemura T, Nishikawa K, Mine Y, Matsumoto M, Ohtsuka K, Ohnishi H, Mori H, Takahashi S, Ishida H, Watanabe T: Visceral fat thickness in overweight men correlates with alterations in serum fatty acid composition. *Clin Chim Acta* 398:57-62, 2008
4. Ohnishi H, Hosoi K, Yoshino H, Sugiura M, Matsushima S, Watanabe T, Bessho F: A novel JAK2 splicing mutation in neonatal myeloproliferative disorder accompanying congenital anomalies. *Br J Haematol* :Mar 20 [epub ahead of print], 2009
5. 大塚弘毅: 【アスベストと中皮腫】 中皮腫の病態 臨床検査 52: 968-972, 2008
6. 大塚弘毅: ダウン症に合併した縦隔原発型胚細胞腫瘍の一例 日本呼吸器外科学会雑誌22: 686-690, 2008

著書

1. 大西宏明: 脳腫瘍 小児科研修医ノート, 五十嵐隆, 渡辺博, 田原卓浩, 東京, 株式会社診断と治療社, 2009, P. 273 - 274
2. 峯佳毅, 森秀明, 塚田幾太郎, 本田普久, 小樽二世, 岸野智則, 西川かおり, 石田均, 高橋信一: 【ソナゾイドを用いた肝腫瘍の造影超音波検査】 iU-22 (Philips) を用いたソナゾイド造影超音波検査の経験。 *Rad Fan* 6 : 26-28, 2008.
3. 本田普久, 峯佳毅, 松下彌生, 嶋田 都, 塚田幾太郎, 小樽二世, 岸野智則, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一: 【造影超音波法の工夫】 普及機でのソナゾイド造影超音波の試み。 *Rad Fan* 6 : 84-85, 2008.

4. 森秀明，西川かおり，本田普久，峯佳毅，塚田幾太郎，關里和，小樽二世，高橋信一，岸野智則，嶋田都： 【ソナゾイド造影超音波検査の進歩】 ソナゾイド造影超音波検査の診断 フィリップス社製 iU22 を用いた肝腫瘍の造影超音波診断。INNERVISION 23 : 24-27, 2008.
5. 司茂幸英：生理機能検査感染管理マニュアル。各論：心電図。医学検査。司茂幸秀，鈴木政子，並木薫，大久典子，東京，日本臨床検査技師会，2008，p. 1014-1017.

総合医療学教室

I. 口演

1. 小林 治、河合 伸：本施設における感染症病棟の運用に関する報告. 第82回日本感染症学会総会, 松江, 平成20年4月17日.
2. 河合 伸：重症肺炎の病態と治療戦略. 香川急性肺傷害セミナー, 高松, 平成20年5月16日.
3. 小林 治：病院におけるICT活動と抗菌療法. ファイザー講演会, 東京, 平成20年5月16日.
4. 稲富雄人：鳥インフルエンザセミナー. 北京日本人会講演会, 北京, 平成20年5月19日.
5. 小林 治：市中肺炎と院内肺炎；ガイドラインからみた抗菌療法. 大阪府病院薬剤師会講演会, 大阪, 平成20年6月4日.
6. Kobayashi O, Noto M, Sakurai T and Iwamoto A : T-705 a novel anti-influenza virus compound – the safety, tolerability and pharmacokinetics in human. The 13 th international conference of infectious disease, Kuala Lumpur, June 21, 2008.
7. 山本実：脂質異常症の管理法. 小金井市高脂血症予防教室, 小金井, 平成20年6月27日.
8. 稲富雄人：レバノンにおける戦争がもたらした在留邦人への精神的影響. 第12回日本渡航医学会学術集会, 岡山, 平成20年7月18-19日.
9. 小林 治：ウイルス感染症に伴う急性肺傷害とその制御. 第16回RTI（呼吸器疾患・感染症）研究会, 東京, 平成20年8月23日.
10. 濱田正吾¹、武田克章¹、岩渕研哉¹、橋本咲子¹、吉井 忍¹、隅倉房子¹、難波 眞¹、小室勝利¹、
玉木一弘（¹介護老人保健施設「菜の花」）：ノロウイルス・インフルエンザゼロへ向けた取り組み
—疫学的アプローチと環境整備を中心に—. 全国介護老人保健施設大会, 京都, 平成20年8月28日.
11. 高橋秀行¹、難波 眞¹、森谷尊文¹、玉木一弘（¹介護老人保健施設「菜の花」）：摂食・嚥下機能
向上の取り組み. 全国介護老人保健施設大会, 京都, 平成20年8月28日.
12. 田中祐基¹、高田 実¹、橋本咲子¹、前久保 明子¹、吉井 忍¹、隅倉房子¹、大橋一之¹、難波 眞¹、
玉木一弘（¹介護老人保健施設「菜の花」）：腹臥位療法. 全国介護老人保健施設大会, 京都, 平
成20年8月28日.
13. 岩堀公基¹、永見明生¹、刑部優美¹、刑部東治¹、佐藤秀昭、藤本真人²（¹J A東京厚生連健康管
理センター, ²独立行政法人産業技術総合研究所）：地域健康診査におけるeGFRの検討, 第49回日
本人間ドック学会学術大会, 徳島, 平成20年9月12日.
14. 永見明生¹、佐藤秀昭、原島敬一郎²、林潤一、山本実、刑部優美¹、刑部東治¹、岩堀公基¹（¹J
A東京厚生連健康管理センター, ²社団法人労働保険協会）：第49回日本人間ドック学会学術大会,
徳島, 平成20年9月12日.
15. 河合 伸：重症肺炎の病態と治療戦略. 旭川学術講演会, 旭川, 平成20年9月19日.
16. 河合 伸：呼吸器感染症の最近の話題. 県央・県西地区感染症フォーラム, 厚木, 平成20年9月
26日.
17. 小林 治（特別講演）：新型インフルエンザについて（臨床編）第17回SMO研究会, 東京, 平
成20年9月27日.
18. 古閑比斗志：横浜検疫所平成20年度新型インフルエンザ対策総合措置訓練の報告. 平成20
年度厚生労働省科学研究費補助金事業 新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究

会 第4回研究会, 東京, 平成20年9月30日.

- 1 9. 小林 治: 院内感染防止 - 微量採血用穿刺機器と真空採血管 医療現場での対応 -. 世田谷区医師会医療安全講習会, 東京, 平成20年10月3日.
- 2 0. 西川典子¹, 菊池正夫¹, 柏崎一男², 佐藤秀昭 (¹国家公務員共済組合連合会立川病院健康医学センター, ²同内科): :地域健診における慢性腎臓病 (CKD) の指標 (eGFR) を用いた検討, 第57回共済医学会, 横浜, 平成20年10月18日.
- 2 1. 小林 治: 肺結核症とその制御. 森本病院感染防止講演会, 東京, 平成20年10月23日.
- 2 2. 小林 治: 新型インフルエンザの現状と対策. 蘇州森茂診療所医療講演会, 蘇州, 平成20年10月27日.
- 2 3. 小林 治: 新型インフルエンザの病態と対策. 三鷹市医師会講演会, 三鷹, 平成20年10月28日.
- 2 4. 野村幸史: 脳卒中診療体制構築に向けた取り組み - 北多摩南部医療圏における実際 -. 葛飾区救急連絡協議会講演, 東京, 平成20年11月7日.
- 2 5. 稲富雄人: 新型インフルエンザ講演. 全国日本人懇親会講演会, 北京, 平成20年11月10日.
- 2 6. 玉木一弘: 看護がつなぐ地域医療. 日本看護サミット とうきょう'08 分科会シンポジウム, 東京, 平成20年11月11日.
- 2 7. 河合 伸: インフルエンザの診断・治療をめぐって. 杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
- 2 8. 小林 治: インフルエンザと新型インフルエンザの病態と対策. 感染・医療事故防止セミナー 2008, 広島, 平成20年11月15日.
- 2 9. 小林 治 (教育講演): 新型インフルエンザの発症とその制御; 新型インフルエンザ・パンデミックに備えて 第56回三多摩腎疾患治療医会講演会, 東京, 平成20年11月16日.
- 3 0. 稲富雄人: 新型インフルエンザセミナー. 北京日本商会講演会, 北京, 平成20年11月17日.
- 3 1. 蒔田隆二, 杉木考章¹, 向後正幸¹, 宮崎正二郎¹, 糟谷忍¹ (¹谷津保険病院): 臍部の皮疹及び軽度肝機能障害を呈した1例. 第19回習志野市医師会病診連携症例検討会, 習志野市, 平成20年11月19日.
- 3 2. 小林 治: 歯科治療と院内感染対策; インフルエンザを中心に. 東京都西多摩小児歯科医師会懇話会講習会. 東京, 平成20年11月22日.
- 3 3. 佐藤秀昭: 一般健診からみたCKD, 心血管病のリスクファクター, 第3回西東京BHR Society, 八王子, 平成20年11月25日.
- 3 4. 渡辺圭一¹, 原島敬一郎³, 桑井太郎, 久米雅彦², 徳植純也², 石田信彦^{1,2}, 林潤一 (医療法人社団和風会多摩リハビリテーション学院¹, 医療法人社団和風会メディカルフィットネスクリニック武蔵境², 社団法人労働保険協会³): 血液レオロジーに及ぼす抗凝固剤の影響. 第2回日本血流血管学会, 水戸市, 平成20年11月29日.
- 3 5. 小林 治: 新型インフルエンザの病態と治療. 調布市医師会講演会, 東京, 平成20年12月9日.
- 3 6. 玉木一弘: 介護が必要な状態で退院! 本当に家へ帰れるの?. 東京都福祉保健局シンポジウム「いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けるために」, 東京, 平成20年12月14日.
- 3 7. 稲富雄人: 鳥・新型インフルエンザセミナー. 天津日本人会講演会, 天津, 平成20年12月15日.
- 3 8. 稲富雄人: 新型インフルエンザセミナー. 北京日本人学校講演会, 北京, 平成20年12月16日.

39. 河合 伸：キノロン系抗菌薬を知る。第3回広島抗菌薬フォーラム，広島，平成21年1月22日。
40. 山本実：脂質異常症の管理法。小金井市高脂血症予防教室，小金井，平成21年1月23日。
41. 小林 治：呼吸器内科領域におけるバイオフィーム感染症；biofilm・QSS・好中球（シンポジウム）。第42回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会，大阪，平成20年1月23日。
42. 稲富雄人：新型インフルエンザセミナー。北京報道関係者説明会，北京，平成21年1月23日。
43. 小林 治：季節性インフルエンザとH5インフルエンザ；病態・治療・感染制御。榊原記念病院感染対策講習会，東京，平成20年1月26日。
44. 古閑比斗志：新型インフルエンザ対策。神奈川県横浜市水上警察署「新型インフルエンザ対策」講演会，横浜，平成21年1月27日。
45. 小林 治：季節性インフルエンザとH5インフルエンザ；病態とその治療。東久留米医師会学術講演会，東京，平成20年2月6日。
46. 古閑比斗志：新型インフルエンザ対策。聖隷横浜病院「新型インフルエンザ対策」講演会，横浜，平成21年2月9日。
47. 古閑比斗志：シンポジウム「東アジア東南アジアにおける海外勤務者の健康管理ー特に新型インフルエンザ等の感染症への対応」。海外勤務者健康管理全国協議会 第6回海外勤務者健康管理研究会，東京，平成21年2月14日。
48. 玉木一弘：足腰が弱っても自宅で暮らしたい！ひとりでも大丈夫？。東京都福祉保健局シンポジウム「いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けるために」，武蔵野市，平成20年2月14日。
49. 河合 伸：ICTからみた感染症治療の問題点ー抗菌薬の適正使用も含めてー。国立病院機構災害医療センター 院内感染対策講演会，東京，平成21年2月24日。
50. 古閑比斗志：横浜検疫所の業務及び新型インフルエンザ発生時の対応について。船舶けい留施設運営会 平成20年度第2回定例会，横浜，平成21年2月25日。
51. 稲富雄人：新型インフルエンザセミナー。大連日本人会講演会，大連，平成21年2月26日。
52. 稲富雄人：新型インフルエンザセミナー。瀋陽日本人会講演会，瀋陽，平成21年3月17日。
53. 稲富雄人：新型インフルエンザセミナー。北京留学生委員会講演会，北京，平成21年3月21日。
54. 稲富雄人：新型インフルエンザセミナー。青島日本商会講演会，青島，平成21年3月31日。

II. 論文

1. 河合 伸：高齢者肺炎、基礎と背景因子3「高齢者肺炎の宿主要因」。治療学 42: 1211-1213, 2008.
2. 小林 治：慢性緑膿菌気道感染症に関わるbiofilm・QSS・好中球。Bacterial adherence & biofilm 21, 21-31, 2008.
3. 西 圭史¹、金井隆安¹、永井 茂¹、篠原高雄¹、小林 治、河合 伸（¹杏林大付属病院・薬剤部）：PK-PD理論に基づいたアミノグリコシド系抗菌薬回数別臨床効果と副作用の検討。日化療会誌 56, 625-630, 2008.
4. 玉木一弘：かかりつけ医診療所における介護予防活動の試み。THE BONES 22:535-539, 2008.

III. 著書

1. 河合 伸：敗血症性呼吸促進症候群。KEY WORD 感染症 第2版。山口恵三，戸塚恭一 編。東

京, 先端医学社, 2008.p110-111.

2. 小林 治: BPI-ANCA. KEY WORD感染症 第2版. 山口恵三, 戸塚恭一編. 東京, 先端医学社, 2008. p256-257.
3. 小林 治: SARS流行から学ぶ企業の危機管理. 産業保険ハンドブックVI 職場の感染症対策. 和田 攻 監修. 東京, 産業医学振興財団, 2008. p 66-72.
4. 井原裕宣: C型肝炎の医療経済. そこが知りたいC型肝炎のベスト治療. 銭谷幹男, 八橋 弘, 柴田 実 編. 東京, 医学書院, 2009. p.161-163.
5. 玉木一弘 編: かかりつけ医機能ハンドブック,東京, 東京都医師会,2009.

IV. その他 (報告書、監修、翻訳、学会主催等)

1. 玉木一弘他共著: かかりつけ医認知症対応力向上研修テキスト. 国立長寿医療センター,2008年5月.
2. 玉木一弘他共著: 医認知症サポート医フォローアップ研修テキスト. 東京都福祉保健局編 2009年3月.

リハビリテーション医学教室

口演

1. 西山和利¹, 脊山英徳², 岡野晴子¹, 山田智美¹, 栗田浩樹², 山田 深, 松田剛明³, 松本由美⁴, 岡島康友, 塩川芳昭², 千葉厚郎¹, 山口芳裕² (¹ 杏林大・神経内科, ² 杏林大・脳外科, ³ 杏林大・救急医学, ⁴ 杏林大学病院・脳卒中センター) : 本邦における現状の tPA 静注療法運用の問題点に関する検討, 第 49 回神経学会総会, 横浜, 平成 20 年 5 月 15-17 日.
2. 山田 深, 岡島康友, 西川順治, 團 志朗, 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹ (¹ 杏林大・脳外科) : Brain Surgery & Rehabilitation Unit (BSRU)構築の試み, 第 45 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 横浜, 20 年 6 月 4-6 日.
3. Tokisaki Y, Yamada S, Kuroda Y, Shimotomai Y, Matsumoto Y, Kurita H, Nishiyama K, Okajima Y, Shiokawa Y, Yamaguchi Y: A variation study of the FIM for use in acute stroke care settings. 9th Japanese & Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke (JKFC), Daegu, Jun 6-7, 2008.
4. Yoshino M, Yamada S, Niina Y, Okazaki M, Shimotomai Y, Matsumoto Y, Kurita H, Nishiyama K, Okajima Y, Shiokawa Y, Yamaguchi Y: Effectiveness of a systematic oral care program for acute stroke care. 9th Japanese & Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke (JKFC), Daegu, Jun 6-7, 2008.
5. 西山和利¹, 脊山英徳², 岡野晴子¹, 栗田浩樹², 山田 深, 松本由美³, 塩川芳昭², 岡島康友, 千葉厚郎¹, 山口芳裕 (¹ 杏林大・神経内科, ² 杏林大・脳外科, ³ 杏林大学病院・脳卒中センター, ⁴ 杏林大・救急医学) : 急性期脳梗塞に対する rt-PA 療法の現状と問題点～杏林大学病院脳卒中センターからの報告～, 第 22 回日本神経救急学会学術集会, 東京, 平成 20 年 6 月 21 日.
6. 岡村耕一¹, 西山和利², 岡野晴子², 山田 深, 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・救急医学) : 心原性脳塞栓症における超急性期抗凝固療法の評価, 第 27 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 仙台, 平成 20 年 8 月 30 日.
7. 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利², 山田 深, 塩川芳昭¹ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・救急医学) : 脳卒中センターにおける脳神経外科医と外科的治療, 第 27 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 仙台, 平成 20 年 8 月 30 日.
8. 高橋秀寿 : 脳性麻痺児に対する痙縮抑制の試みー機能的脊髄後根切除術および痙縮抑制装具の効果についてー, 日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医生涯教育研修会 (中国四国地方会), 岩見沢, 平成 20 年度 8 月 2 日.
9. 山田 深 (シンポジウム) : 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士制度と E-大学>E 大学システムと学修方法, 第 14 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会, 千葉, 平成 20 年 9 月 13 日.
10. 岡島康友 (特別講演) : 採血事故による末梢神経損傷, 第 6 回日本臨床衛生検査技

会研修会. 東京、H20年9月21日.

11. Kurita H, Shiokawa Y, Yamaguchi R, Seyama H, Nishiyama K, Yamada S, Matsumoto Y, Shimotomai Y, Niina Y, Yamaguchi Y: Analysis of clinical outcome of aneurismal subarachnoid hemorrhage: a single institution experience with 1268 patients. 6th World Stroke Congress, Vienna, Sep 24-27, 2008.
12. Isiyama K, Seama H, Okano H, Kawai T, Matsumoto Y, Yamada S, Kurita H, Chiba A, Yamaguchi Y: Investigation of initial dose regimen for cilostazol treatment in acute-stage cerebral infarction. 6th World Stroke Congress, Vienna, Sep 24-27, 2008.
13. Nishiyama K, Kawai T, Okano H, Takami M, Matsumoto Y, Yamada S, Kurita H, Yamaguchi Y: Subacute encapsulation of intracranial hemorrhage with clinical deterioration. 6th World Stroke Congress, Vienna, Sep 24-27, 2008.
14. kano H, Nishiyama K, Kawai T, Udagawa M, Seyama H, Matsumoto Y, Yamada S, Kurita H, Chiba A, Yamaguchi Y: Investigation on apoplexy-related drugs used at large stroke care center in Japan. 6th World Stroke Congress, Vienna, Sep 24-27, 2008.
15. Yamada S, Nishiyama K, Okano H, Seyama H, Arakawa C, Kawai T, Kurita H, Chiba A, Yamada S, Yamaguchi Y: Carotid intima-media thickness dose not predict the development of intracranial atheromatous disease and perforator arteriosclerosis. 6th World Stroke Congress, Vienna, Sep 24-27, 2008.
16. Niina Y, Yamada S, Okazaki M, Matsumoto Y, Saito Y, Kurita H, Nishiyama K, Okajima Y, Yamaguchi Y: A nurse-led dysphagia rehabilitation program in an acute stroke unit. 6th World Stroke Congress, Vienna, Sep 24-27, 2008.
17. Hashimoto K, Okazaki M, Niina Y, Matsumoto Y, Saito Y, Yamada S, Kurita H, Nishiyama K, Okajima Y, Yamaguchi Y: A nurse-led intervention for improving oral hygiene in patients following stroke. 6th World Stroke Congress, Vienna, Sep 24-27, 2008.
18. Yamada S, Momma H, Kurita H, Nishiyama K, Matsumoto Y, Okajima Y, Yamaguchi Y: Prognostic prediction models for use in acute stroke rehabilitation. 6th World Stroke Congress, Vienna, Sep 24-27, 2008.
19. 高橋秀寿: 神経筋の基礎知識, 第11回臨床筋電図・電気診断学入門講習会, 東京, 平成20年10月4-5日.
20. 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利², 山田 深, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・神経内科, ³杏林大・救急医学): 杏林大学脳卒中センターにおける頸動脈狭窄症に対する治療, 第67回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 平成20年10月1-3日.
21. 本田有子¹, 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利², 山田 深, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹杏林大・脳外科, ²杏林大・神経内科, ³杏林大・救急医学): 杏林大学病院脳卒中センターで施行した tPA 静注

療法 89 例の解析, 第 67 回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 1-3 日.

22. 岡村耕一¹, 西山和利², 岡野晴子², 山田 深, 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・救急医学) : 心原性脳塞栓症における超急性期抗凝固療法の評価, 第 67 回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 1-3 日.
23. 山田 深, 岡島康友, 西川順治, 團 志朗, 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹ (¹ 杏林大・脳外科) : Brain Surgery & Rehabilitation Unit (BSRU)構築の試み, 第 67 回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 1-3 日.
24. 笹森寛生¹, 脊山英徳¹, 山田深, 栗田浩樹¹, 内堀 歩², 宮崎 泰², 西山和利², 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・救急医学) : 脳血管撮影で特徴的な所見を示した脳底動脈解離の 2 例. 第 67 回日本脳神経外科学会総会, 盛岡, 平成 20 年 10 月 1-3 日.
25. 高橋秀寿, 長田麻衣子¹, 小宗 陽子¹ (¹ 国立成育医療センター) : ADL 評価法講習会, 平成 20 年度 PT・OT 空知支部合同研修会, 滝川, 平成 20 年 11 月 9 日.
26. 高橋秀寿, 小宗 陽子¹, 眞藤幸江¹ (¹ 国立成育医療センター) : 神経芽細胞腫により対麻痺を来した小児のリハビリテーション, 第 43 回日本脊髄障害医学会, 札幌, 平成 20 年 11 月 6-7 日.
27. 西山和利¹, 脊山英徳², 岡野晴子¹, 岡村耕一², 松本由美³, 山田 深, 松田剛明⁴, 栗田浩樹², 千葉厚郎¹, 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大・神経内科, ² 杏林大・脳外科, ³ 杏林大学病院・脳卒中センター, ⁴ 杏林大・救急医学) : 脳卒中急性期における頭痛に関する研究～特に椎骨脳底動脈系動脈解離に注目して～. 第 36 回日本頭痛学会総会, 東京, 平成 20 年 11 月 14-15 日.
28. 官方基行¹, 平岩直也², 山田智美³, 本田有子², 脊山英徳², 山田 深, 栗田浩樹², 西山和利³, 塩川芳昭², 千葉厚郎³, 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・脳外科, ³ 杏林大・神経内科, ⁴ 杏林大・救急医学) : 口顔面失行を呈した脳梗塞の一例, 第 37 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 20 年 11 月 15 日.
29. 田中雅貴¹, 西山和利², 岡村耕一¹, 岡野晴子², 松本由美³, 山田 深, 栗田浩樹¹, 千葉厚郎², 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大病院・脳卒中センター, ⁴ 杏林大・救急医学) : ラクナ梗塞との鑑別に苦慮した高カルシウム血症の一例, 第 37 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 20 年 11 月 15 日.
30. 石崎典彦¹, 山田智美², 本田有子³, 鳥居正剛³, 脊山英徳³, 山田 深, 松本由美¹, 栗田浩樹³, 西山和利², 千葉厚郎², 塩川芳昭³, 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・脳外科, ⁴ 杏林大・救急医学) : 脳梗塞急性期にのみ alien hand syndrome を呈した 1 症例, 第 37 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 20 年 11 月 15 日.
31. 浅原千歩¹, 岡村耕一², 西山和利³, 岡野晴子³, 山田 深, 松本由美¹, 栗田浩樹², 塩川芳昭², 千葉厚郎³, 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・脳外科, ³ 杏林大・神経内科, ⁴ 杏林大・救急医学) : 心原性脳塞栓症における超急性期抗凝固療法の評価, 第 37 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 20 年 11 月 15 日.

32. 小田未来¹, 西山和利², 岡野晴子², 岡村耕一³, 松本由美¹, 山田 深, 栗田浩樹³, 千葉厚郎², 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・脳外科, ⁴ 杏林大・救急医学) : 右前大脳動脈梗塞により消去現象を伴わない左半側空間無視を呈した一例, 第 37 回杏林医学学会総会, 三鷹, 平成 20 年 11 月 15 日.
33. 三上大介¹, 西山和利², 岡村耕一³, 岡野晴子², 松本由美¹, 山田 深, 栗田浩樹³, 千葉厚郎², 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・脳外科, ⁴ 杏林大・救急医学) : 硬膜外麻酔施行中に突発完成型の発症をし, 脳塞栓症との鑑別に苦慮した reversible posterior leukoencephalopathy syndrome の一例, 第 37 回杏林医学学会総会, 三鷹, 平成 20 年 11 月 15 日.
34. 牛込悠紀子¹, 西山和利², 河合拓也³, 岡野晴子², 山田 深, 松本由美¹, 栗田浩樹³, 千葉厚郎², 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・脳外科, ⁴ 杏林大・救急医学) : 脳出血亜急性期に血腫被膜様化を示す症状の増悪を認めた特異な脳出血の 2 例, 第 37 回杏林医学学会総会, 三鷹, 平成 20 年 11 月 15 日.
35. Kurita H, Shiokawa Y, Saito I, Yamaguchi R, Seyama H, Nishiyama K, Yamada S, Matsumoto Y, Yamaguchi Y: Analysis of clinical outcome of aneurismal subarachnoid hemorrhage: a single institution experience with 1268 patients. 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, Nov 21-23, 2008.
36. Honda Y, Seyama H, Kurita H, Nishiyama K, Yamada S, Matsumoto Y, Shiokawa Y, Yamaguchi Y: Analysis of clinical outcome of aneurismal subarachnoid hemorrhage: a single institution experience with 1268 patients. 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, Nov 21-23, 2008.
37. Hashimoto K, Okazaki M, Niina Y, Matsumoto Y, Saito Y, Yamada S, Kurita H, Nishiyama K, Okajima Y, Yamaguchi Y: A nurse-led intervention for improving oral hygiene in patients following stroke. 4th Korean-Japanese Joint Stroke Conference, Fukuoka, Japan, Nov 21-23, 2008.
38. 新名由利子¹, 松本由美¹, 山田 深, 栗田浩樹², 西山和利³, 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・脳外科, ³ 杏林大・神経内科, ⁴ 杏林大・救急医学) : Stroke Care Unit の有用性 脳卒中ユニットにおける超急性期からの看護師による摂食嚥下機能療法の取り組み, 第 14 回日本脳神経外科救急学会, さいたま, 平成 21 年 1 月 16-17 日.
39. Takahashi H, Iguchi Y: A new insole to control the spasticity for the children with cerebral palsy. 3rd International Cerebral Palsy Conference, Sydney Australia. February 18-21, 2009.
40. 新名由利子¹, 山田 深, 岡崎雅代¹, 松本由美¹, 栗田浩樹², 西山和利³, 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・脳外科, ³ 杏林大・神経内科, ⁴ 杏林大・救急医学) : 脳卒中ユニットにおける看護師を中心とした摂食機能療法 (第 2 報), 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
41. 岡村耕一¹, 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹, 山田智美², 西山和利², 山田 深, 山口芳裕³ (¹ 杏林大病院・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・救急医学) : 絞頸後に頸動脈解離から脳梗塞を発症した 1 症

例の検討, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.

42. 伊藤華子¹, 西山和利², 岡村耕一³, 岡野晴子², 三上大介¹, 栗田浩樹³, 山田 深, 松本由美¹, 千葉厚郎², 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・脳外科, ⁴ 杏林大・救急医学) : : 硬膜外麻酔施行中に突発完成型の発症をし脳塞栓症との鑑別に苦慮した RPLS の一例, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
43. 加藤謙典¹, 西山和利², 岡村耕一³, 田中雅貴³, 岡野晴子², 山田 深, 栗田浩樹³, 千葉厚郎², 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・脳外科, ⁴ 杏林大・救急医学) : ラクナ梗塞との鑑別に苦慮した高カルシウム血症の一例, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
44. 野沢絵理¹, 小林洋和¹, 西山和利², 佐藤研隆³, 栗田浩樹³, 山田 深, 千葉厚郎², 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・脳外科, ⁴ 杏林大・救急医学) : rt-PA 静注療法後の頭蓋内出血合併に関する検討, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
45. 宮方基行¹, 西山和利², 岡野晴子², 岡村耕一³, 山田 深, 栗田浩樹³, 松本由美¹, 千葉厚郎², 山口芳裕⁴, 武田克彦² (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・脳外科, ⁴ 杏林大・救急医学) : 消去現象と半側空間無視は独立した症候であることを示唆する右前頭葉梗塞の一例, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
46. 岡野晴子¹, 西山和利¹, 紅谷鮎美², 岡村耕一³, 脊山英徳³, 小林洋和¹, 山田 深, 栗田浩樹³, 千葉厚郎¹, 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大・神経内科, ² 杏林大病院・脳卒中センター, ³ 杏林大学病院・脳外科, ⁴ 杏林大・救急医学) : 脳梗塞超急性期における rt-PA 静注療法の効果発現時期に関する臨床研究, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
47. 栗田浩樹¹, 脊山英徳¹, 西山和利², 岡野晴子², 岡村耕一¹, 山田 深, 松本由美³, 山口竜一¹, 塩川芳昭¹, 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大病院・脳卒中センター, ⁴ 杏林大・救急医学) : Stroke Team approach による脳卒中診療の効果: 杏林大学病院の 2007 年の治療成績から, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
48. 脊山英徳¹, 笹森寛生¹, 栗田浩樹¹, 山田 深, 西山和利², 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・救急医学) : 重症広範囲脳梗塞に対する内減圧術, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
49. 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利², 山田 深, 佐藤栄志¹, 小西善史¹, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大・救急医学) : 杏林大学病院脳卒中センターにおける CEA と CAS の治療成績, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
50. 栗田浩樹¹, 山口竜一¹, 河合拓也¹, 脊山英徳¹, 西山和利², 山田 深, 松本由美³, 山口芳裕⁴, 塩川芳昭¹ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大病院・脳卒中センター, ⁴ 杏林大・救急医学) : 救命救急・脳卒中センターにおける破裂 AVM の臨床像と急性期外科治療, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.

51. 西山和利, 岡野晴子, 大石知瑞子, 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 山田 深, 松田剛明⁴, 松本由美³, 千葉厚郎¹, 山口芳裕³ (¹ 杏林大・神経内科, ² 杏林大・脳外科, ³ 杏林大学病院・脳卒中センター, ⁴ 杏林大・救急医学) : 脳梗塞超急性期における rt-PA 静注療法非実施症例の実態に関する臨床研究, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
52. 根本圭子¹, 加藤雅江¹, 栗田浩樹², 西山和利³, 山田 深, 松本由美⁴, 新名由利子⁴, 山口芳裕⁵ (¹ 杏林大病院・医療連携室, ² 杏林大・脳外科, ³ 杏林大病院・神経内科, ⁴ 杏林大病院・脳卒中センター, ⁵ 杏林大・救急医学) : 脳卒中センターにおける自宅への退院支援に関する検討, 第 34 回日本脳卒中学会, 松江, 平成 21 年 3 月 20-21 日.
53. 岡島康友 (特別講演) : 脳卒中地域連携とリハビリテーション. 第 2 回城脳卒中コンソーシアム. 名古屋, 平成 21 年 3 月 26 日.

論文

1. 山田 深: 「仮の要介護状態」とその対応. 総合リハビリテーション 16: 749-754, 2008.
2. 山田 深: 後期高齢者はリハのメインターゲット: リハ医療に必要な挑戦. 臨床リハビリテーション 17: 1134-1140, 2008.
3. 山田 深: Stroke Unit の 10 年 -杏林大学医学部附属病院脳卒中センターの取り組み. 総合リハビリテーション 36: 1165-1168, 2008.
4. 山田 深: COPD と運動-包括的呼吸リハビリテーションにおける位置づけ-レジスタンストレーニングの効果と進め方 臨床スポーツ医学 25: 1277-1284, 2008.
5. Uchikawa K, Takahashi H, Hase K, Masakado Y, Liu M: Strenuous exercise-induced alterations of muscle fiber cross-sectional area and fiber-type distribution in steroid myopathy rats. Am J Phys Med Rehabil 87: 126-133, 2008.
6. 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利², 山田深, 塩川芳昭¹, 松本由美³, 加藤雅江⁴, 山口芳裕⁵ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大学病院・脳卒中センター, ⁴ 杏林大病院・医療連携室, ⁵ 杏林大・救急医学) : 杏林大学病院における大都市型 stroke unit の新規開設と今後の展望. Neurosurg Emerg 13: 15-20, 2008.
7. 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利², 山田深, 塩川芳昭², 松本由美³, 加藤雅江⁴, 山口芳裕⁵ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大学病院・脳卒中センター, ⁴ 杏林大病院・医療連携室, ⁵ 杏林大・救急医学) : 杏林大学病院における大都市型 Stroke Unit の新規開設における戦略-tPA 静注療法施行体制確立の観点から. 脳卒中の外科 36: 470-474, 2008.
8. 高橋秀寿, 関 勝¹ (¹ 神奈川県立保健福祉大・リハ学科) : 運動障害からみた呼吸障害-脊柱側弯症-. 呼吸リハビリテーションの実践. 臨床リハ. 別冊 Vol. #: 146-152, 2008.
9. 高橋秀寿, 小宗陽子¹, 関 勝² (¹ 国立成育医療センター・リハ科, ² 神奈川県立保健福祉大・リハ学科) : NICU をめぐる現状と課題. 臨床リハ 17: 526-533, 2008.

10. 高橋秀寿：小児における摂食・嚥下障害の評価とリハビリ。日本医事新報。No. 4395, 64-69, 2008.
11. 岡島康友：医学-医療の現状と展望－医用工学の応用。月刊カレントセラピー27: 73, 2009.
12. Yamada S, Liu M, Fujimoto M, Hase K, Tsuji T, Fujiwara T, Okajima Y: Development of a screening tool to identify quasi-in-need-of-care state (QUINOCS) in the community based on the short version of the Functional Independence Measure (FIM^{TR}). Disabil Rehabil 31: 381-386, 2009.
13. 新名由利子¹, 山田 深, 岡崎雅代¹, 松本由実¹, 下斗米友美¹, 西山和利², 栗田浩樹³, 今福圭子, 岡島康友, 山口芳裕⁴ (¹ 杏林大病院・脳卒中センター, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大学病院・脳外科, ⁴ 杏林大・救急医学)：脳卒中ユニットにおける看護師を中心とした摂食機能療法。脳卒中 31; 23-28, 2009.

著書

1. 岡島康友：電気診断。越智隆弘・里宇明元編集，最新整形外科学大系ーリハビリテーション。中山書店，東京 2008. pp. 173-179.
2. 山田深：巧緻性訓練。越智隆弘・里宇明元編集，最新整形外科学大系ーリハビリテーション。中山書店，東京，2008, pp.211-212.
3. 阿部玲音、高橋 秀寿：概論 脊椎・脊髄疾患診療のポイントリハビリテーション, 整形外科専門医になるための診療スタンダード 1, 脊椎・脊髄, 千葉一裕, 松本守雄編, 東京. 羊土社. 2008. pp. 42-51.
5. 岡島康友：電気診断。疼痛の評価。物理療法。バイオフィードバック療法。牽引療法。疼痛性疾患。千野直一編集，現代リハビリテーション医学. 改訂第3版. 金原書店、東京 2009. pp. 95-101. 138-143. 237-251. 472-477.
6. 高橋秀寿：老化と障害。社会的不利の評価。千野直一編集，現代リハビリテーション医学. 改訂第3版. 金原書店、2009. pp. 477-483. 216-217.
7. 山田深：FIM採点支援ツールとFIM短縮版。千野直一編集，現代リハビリテーション医学. 改訂第3版. 金原書店、東京，2009, pp. 214-216.

その他

1. 岡島康友：神経生理学。日本臨床検査同学院通信 33 : 85, 2008.
2. 岡島康友：研修施設紹介「大学病院」。臨床リハビリテーション 17 : 900-904, 2008.
3. 栗田浩樹¹, 西山和利², 山田 深, 脊山英徳¹, 松本由実³, 塩川芳昭¹ (¹ 杏林大・脳外科, ² 杏林大・神経内科, ³ 杏林大病院・脳卒中センター)：Fighting Vascular Events, 脳卒中治療の最前線-杏林大学脳卒中センターの役割。日経メディカル東京版, pp. 1-4, 2008.
4. 山田深 (文献紹介. 英文抄録)：脳卒中後の摂食嚥下障害に対する治療：ランダム化比較試験の系統的レビュー。日本摂食嚥下リハ会誌 12: 153, 2008.
5. 岡島友康：リハビリテーションと地域連携 (特別講演)。第2回多摩地域下肢救済フットケア研究会。

東京,平成 20 年 11 月 22 日.

6. 岡島康友、穉村美津子¹ (¹ 杏林大病院・リハ室) : 三次救急病院における脳外傷リハの実態—青壮年高次脳機能障害者の問題—. 第 2 回北多摩南部高次脳機能障害者支援研究会. 東京、平成 21 年 1 月 21 日.

リハビリテーション室

口演

1. 中山剛志: ディサースリアにおける呼吸機能訓練. 第 5 回ディサースリア治療セミナー in 神戸, 神戸, 平成 20 年 5 月 3 日.
2. 門馬博, 山田深², 石田幸平, 東條友紀子, 前田直, 松本由美¹, 栗田浩樹¹, 西山和利¹, 岡島康友², 山口芳裕¹ (¹ 杏林大・医・脳卒中センター, ² 杏林大・医・リハ医学) : 入院後に症状が増悪した Branch Atheromatous Disease (BAD) 症例の臨床経過. 第 43 回日本理学療法学会, 福岡, 平成 20 年 5 月 16 日.
3. 東條友紀子, 門馬博, 山田深², 岡島康友², 栗田浩樹¹, 脊山英徳¹, 西山和利¹, 松本由美¹, 山口芳裕¹ (¹ 杏林大・医・脳卒中センター, ² 杏林大・医・リハ医学) : 都市型脳卒中センターにおける脳卒中重症度と ADL 転帰の関係. 第 43 回日本理学療法学会, 福岡, 平成 20 年 5 月 16 日.
4. 古舘康司¹, 中山剛志 (¹ 洞爺温泉病院・リハビリ科) : 嚥下障害の重症度を規定する要因とその精度. 第 9 回日本言語聴覚学会, 宇都宮, 平成 20 年 6 月 21 日.
5. 古舘康司¹, 中山剛志 (¹ 洞爺温泉病院・リハビリ科) : 嚥下障害の重症度を規定する要因とその精度. 第 9 回日本言語聴覚学会, 宇都宮, 平成 20 年 6 月 21 日.
6. 高倉祐樹¹, 中山剛志 (¹ 網走脳外リハ病院・リハビリ科) : 顔面神経再建術後症例に対する CI 療法の試み. 第 9 回日本言語聴覚学会, 宇都宮, 平成 20 年 6 月 21 日.
7. 高倉祐樹¹, 中山剛志 (¹ 網走脳外リハ病院・リハビリ科) : 顔面神経再建術後症例に対する CI 療法の試み. 第 9 回日本言語聴覚学会, 宇都宮, 平成 20 年 6 月 21 日.
8. 若松千裕¹, 中山剛志, 進藤順哉¹ (¹ 旭川リハビリ病院・リハビリ科) : 輪状咽頭筋切断術・喉頭挙上術後、嚥下訓練実施により経口摂取が可能となった Wallenberg 症候群の 1 例. 第 14 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会, 千葉, 平成 20 年 9 月 13 日.
9. 若松千裕¹, 中山剛志, 進藤順哉¹ (¹ 旭川リハビリ病院リハビリ科) : 輪状咽頭筋切断術・喉頭挙上術後、嚥下訓練実施により経口摂取が可能となった Wallenberg 症候群の 1 例. 第 14 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会, 千葉, 平成 20 年 9 月 13 日.
10. 中山剛志: 摂食・嚥下のリスクマネージメント. 三鷹の森リハビリテーション研修会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.
11. 西垣有希子, 山田深¹, 境哲生, 竹田紘崇, 五十嵐達夫, 野北一樹, 岡島康友¹ (¹ 杏林大・医・リハ医学) : 四肢麻痺を呈した神経ペーチェット病患者に対する長期理学療法の経験. 第 26 回日本私立医科大学理学療法学会, 北海道, 平成 20 年 10 月 12 日.
12. 門馬博, 山田深², 東條友紀子, 石田幸平, 松本由美¹, 齊藤友美¹, 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利¹, 岡島康友², 山口芳裕¹ (¹ 杏林大・医・脳卒中センター, ² 杏林大・医・リハ医学) : 脳卒中ユニット導入

に伴う病棟 ADL 介助量の構造変化. 第 11 回 日本栓子検出と治療学会大会 (Embolus2008), 倉敷, 平成 20 年 10 月 31 日.

13. 門馬博, 菅原憲一¹, 樋口貴広², 今中國泰² (¹ 神奈川保福大・保福・リハビリ, ² 首都大・大学院・人間健康科学研究科・HPS 学域) : 手関節屈曲伸展反復動作の運動イメージの想起中の脳活動に関する経頭蓋磁気刺激 (TMS) による検討. 日本スポーツ心理学会第 35 回記念大会, 名古屋. 平成 20 年 11 月 16 日.

14. 佐藤哲也¹, 唐帆健浩¹, 中山剛志, 穂村美津子, 宅美貴子, 青池いずみ (¹ 杏林大・医・耳鼻咽喉科学) : 杏林大学病院における摂食嚥下診療体制の確立. 第 32 回日本嚥下医学会学術講演会, 大阪, 平成 21 年 2 月 6 日.

15. 東條友紀子, 山田深³, 門馬博, 神山裕司, 岡島康友², 栗田浩樹¹, 西山和利¹, 松本由美¹, 山口芳裕¹ (¹ 杏林大・医・脳卒中センター, ² 杏林大・医・リハ医学, ³ 慶應大月が瀬リハセンター・リハ科・医・リハ医学) : 後期高齢者における急性期脳卒中リハビリテーション. 第 34 回日本脳卒中学会総会, 島根, 平成 21 年 3 月 22 日.

16. 神山裕司, 山田深³, 門馬博, 東條友紀子, 岡島康友², 栗田浩樹¹, 西山和利¹, 松本由美¹, 山口芳裕¹ (¹ 杏林大・医・脳卒中センター, ² 杏林大・医・リハ医学, ³ 慶應大月が瀬リハセンター・リハ科・医・リハ医学) : 後期高齢者における急性期脳卒中リハビリテーション. 第 34 回日本脳卒中学会総会, 島根, 平成 21 年 3 月 22 日.

17. Momma H, Yamada S, Ishita K, Tojo Y, Taku M, Matsumoto Y, Kurita H, Nishiyama K, Okajima Y, Yamaguchi Y : Rehabilitation outcomes in elderly patients with stroke. 10th International Congress of the Asian Confederation for Physical Therapy, Chiba, Aug 27-Sep 1, 2008

18. Ishita K, Yamada S, Momma H, Okajima Y, Kurita H, Nishiyama K, Matsumoto Y, Yamaguchi Y : Motor dysfunction and recovery in the upper limb following stroke. World Stroke Congress (6th), Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008

19. Tojyo Y, Yamada S, Kurita H, Nishiyama K, Matsumoto Y, Okajima Y, Yamaguchi Y: Significance of ADL evaluation by the FIM among stroke patients who are transferred to a rehabilitation hospital. 6th World Stroke Congress, Vienna, Austria, Sep 24-27, 2008

20. Kamiyama H, Yamada S, Momma H, Tojo Y, Okajima Y, Kurita H, Nishiyama K, Matsumoto Y, Yamaguchi Y: Motor function predicting factors for locomotive abilities in patients with acute stroke. The 4th Korean - Japanese joint Stroke Conference, Fukuoka, Japan, Nov 21-23, 2008

その他

1. 中山剛志: 標準ディサースリア検査. 北海道医療大学大学院実技研修会 (文部科学省大学院教育改革支援プログラム「言語聴覚士卒後研修プログラムを含む大学院」事業), 札幌, 平成 20 年 8 月 30 日.

2. 西田悠一郎: バイタルサインの見方. 三鷹の森リハビリテーション研修会, 東京, 平成 20 年 9 月 20 日.

医学教育学教室

口演

1. 富田泰彦、赤木美智男、佐藤澄子¹、高城靖志¹（¹杏林大・病・職員教育室）：接遇・コミュニケーションに関する病院職員向け講習会のニーズと問題点、第40回医学教育学会、東京、平成20年7月25-26日
2. 赤木美智男、大学小児科へのアンケート調査結果、第8回小児医学教育研究会、東京、平成20年10月25日

その他

1. 赤木美智男：第8回小児医学教育研究会 主催、東京、平成20年10月25日
2. 赤木美智男：全国自治体病院協議会 第68回新臨床研修指導医養成講習会 チーフタスクフォース 平成21年2月13-15日
3. 富田泰彦：全国自治体病院協議会 第68回新臨床研修指導医養成講習会 タスクフォース、平成21年2月13-15日

解剖学教室（I）

I. 口演

1. 白石尚基, 上原明仁: 経穴局所解剖デジタルアトラスの作成. 一安全な刺鍼のために一. 第 57 回 (社) 全日本鍼灸学会学術大会, 京都, 平成 20 年 5 月 31 日- 6 月 1 日.
2. 白石尚基: ペインクリニックにおける安全な鍼灸治療のための臨床解剖学教材とデータベースの作成. 日本ペインクリニック学会第 42 回大会, 福岡, 平成 20 年 7 月 18 日-20 日.
3. 松村讓兒: シンポジウム「我が国の人体解剖学教育を検証する」. 人体解剖学実習の現状? 杏林大学医における方針と学生の反応. 第 40 回日本医学教育学会, 東京, 平成 20 年 7 月 25 日.
4. 白石尚基: 安全な刺鍼のための経穴局所解剖学. 第 26 回杏林東洋医学研究会, 東京, 平成 20 年 9 月 18 日.
5. 朝本俊司¹, 矢崎貴仁¹, 土居浩², 白石尚基 (¹ 国際医療福祉大・三田病院・脳外, ² 東京保健医療・荏原病院・脳外): 非定型的な経過をたどった spinal perimedullary AVF. 第 43 回日本脊髄障害医学会, 札幌, 平成 20 年 11 月 6 日.
6. 白石尚基: スポーツ医学臨床での安全な鍼灸治療に対するデジタル解剖学アトラスの作成. 第 19 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 幕張, 平成 20 年 11 月 1 日-2 日.
7. 白石尚基: 解剖学実習中における実習室内化学物質の計測. 第 56 回日本職業・災害医学会学術大会, 東京, 平成 20 年 11 月 8 日.
8. 灰塚嘉典, 松井利康¹, 松村讓兒, 小林靖¹ (¹ 防衛医大・解剖学): 舌下神経核に分布するコリン作動性大型終末「C-terminal」の起始細胞の同定. 日本解剖学会関東支部第 96 回学術集会. つくば, 平成 20 年 11 月 22 日.
9. 白石尚基, 白石陽治¹, 白石美治¹ (¹ 白石整形外科医院): 越婢加朮湯が奏功した RS3PE 症候群の 1 例. 第 23 回日本臨床リウマチ学会, 横浜, 平成 20 年 11 月 29-30 日.
10. 白石尚基: 漢方基礎理論 2. 痛みに漢方. 杏林漢方勉強会, 三鷹, 平成 21 年 1 月 15 日.
11. 白石尚基, 上原明仁: スポーツ現場における、安全な経穴刺鍼刺激のための鍼灸臨床解剖学データベース作成と閲覧用ソフトウェアの作成. 第 145 回日本体力医学会関東地方会, 三鷹, 平成 21 年 3 月 14 日.
12. 白石尚基, 松村讓兒, 上原明仁: 「WHO standard acupuncture point locations」で併記された経穴 6 穴に関する臨床解剖学的考察. 第 114 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 岡山, 平成 21 年 3 月 28-30 日.
13. 天野カオリ, 森山浩志¹, 島田和幸², 松村讓兒 (¹ 昭和大・医・解剖, ² 鹿児島大院・医歯学研・神経病学・人体解剖分野): ヒト胎児の筋線維解析一骨格筋と鰓弓筋の比較一. 第 114 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 岡山, 平成 21 年 3 月 28-30 日.
14. 白石尚基: 解剖学実習中における実習室内化学物質の計測. 第 79 回日本衛生学会学術総会, 東京, 平成 21 年 3 月 31 日.

II. 論文

1. 白石尚基, 松村讓兒, 上原明仁: 両側足底方形筋の欠如例の検討. 形態科学 12: 37-42, 2008.

Ⅲ. 著書

1. 松村讓兒（監修）：病気がみえる 3. 糖尿病・代謝・内分泌. 東京, メディックメディア, 2008.
2. 松村讓兒：イラスト解剖学 第6版. 東京, 中外医学社, 2009.
3. 松村讓兒：イラストでまなぶ解剖学 第2版. 東京, 医学書院, 2009.

Ⅳ. その他

1. 白石尚基, 上原明仁：安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第4回目（巨骨・結節間溝）. 医道の日本 775：170-175, 2008.
4. 白石尚基, 上原明仁：安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第5回目（肩外俞）. 医道の日本 776：145-149, 2008.
5. 松村讓兒（監修）：見て切って貼って分かる解剖生理. 循環器①. 東京, 医学芸術社, ナーシングカレッジ 4：31-37, 2008.
6. 松村讓兒（監修）：見て切って貼って分かる解剖生理. 循環器②. 東京, 医学芸術社, ナーシングカレッジ 5：31-37, 2008.
7. 松村讓兒（監修）：見て切って貼って分かる解剖生理. 循環器③. 東京, 医学芸術社, ナーシングカレッジ 6：31-37, 2008.
8. 松村讓兒（監修）：循環器系；血液および血管の構造, 血圧調節の仕組み. 東京, へるす出版, 臨床看護 6：986-995, 2008.
9. 白石尚基, 上原明仁：安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第6回目（肩井）. 医道の日本 777：129-135, 2008.
10. 松村讓兒（監修）：見て切って貼って分かる解剖生理. 呼吸器①. 東京, 医学芸術社, ナーシングカレッジ 7：31-37, 2008.
11. 白石尚基, 上原明仁：安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第7回目（肩貞）. 医道の日本 778：150-155, 2008.
12. 松村讓兒（監修）：見て切って貼って分かる解剖生理. 呼吸器②. 東京, 医学芸術社, ナーシングカレッジ 8：31-37, 2008.
13. 白石尚基, 上原明仁：安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第8回目（膏肓）. 医道の日本 779：176-181, 2008.
14. 松村讓兒（監修）：見て切って貼って分かる解剖生理. 腎・泌尿器. 東京, 医学芸術社, ナーシングカレッジ 9：31-37, 2008.
15. 白石尚基, 上原明仁：安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第9回目（迎香）. 医道の日本 780：176-179, 2008.
16. 松村讓兒（監修）：見て切って貼って分かる解剖生理. 内分泌. 東京, 医学芸術社, ナーシングカレッジ 10：31-37, 2008.
17. 松村讓兒（日本語版監修）：赤尾秀子訳イラストでみる人体の不思議. 第2版. 東京, ランダムハウス講談社, 2008.
18. 白石尚基, 上原明仁：安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第10回目（中衝）. 医道の日本 781：

170-173, 2008.

19. 松村讓兒 (監修) : 見て切って貼って分かる解剖生理. リンパ系と免疫. 東京, 医学芸術社, ナーシングカレッジ 11 : 31-37, 2008.
20. 白石尚基, 上原明仁 : 安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第 11 回目 (労宮). 医道の日本 782 : 146-152, 2008.
21. 白石尚基, 上原明仁 : 安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学第 12 回目 (禾膠) (L I 19). 医道の日本 783 : 183-187, 2008.
22. 白石尚基, 上原明仁 : 安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学第 13 回目 (水溝) (G V 26). 医道の日本 784 : 179-186, 2009.
23. 白石尚基, 上原明仁 : 安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学第 14 回目 (環跳) (G B 30). 医道の日本 785 : 173-181, 2009.
24. 白石尚基, 上原明仁 : 安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学第 15 回目 (環跳その 2) (G B 30). 医道の日本 786 : 180-188, 2009.
25. 松村讓兒 (執筆) : 医学書院医学大辞典 第 2 版. 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨 (総編集), 東京, 医学書院, 2009.
26. 天野カオリ : 平成 20 年度文部科学省科学研究費. 若手研究 B : 損傷歯髄細胞の膜修復機構—象牙芽細胞への分化誘導への検討—.

解剖学教室 (顕微解剖学)

I. 口演

1. Akimoto Y (Invited speaker) : O-GlcNAc modification of nucleocytoplasmic proteins and diabetic complications. 5th Asian Pacific Congress of Anatomy, Tehran, May 16-19, 2008.
2. Matoba S¹, Hiramatsu R¹, Kanai-Azuma M, Tsunekawa N¹, Harikae K¹, Kawakami H, Kurohmaru M¹, Kanai Y¹ (¹Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo): Establishment of SOX9 activation in pre-Sertoli cells requires high glucose metabolism during mouse testis formation. 41st Annual Meeting for the Japanese Society of Developmental Biologists, Tokushima, May 28-30, 2008.
3. Hara K¹, Kanai-Azuma M, Tsunekawa N¹, Watanabe Y¹, Miura Y¹, Uemura M¹, Kurohmaru M¹, kanaiY¹ (¹Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo): Aberrant primordial germ cells migration in the embryos with defective gastrulation. 41st Annual Meeting for the Japanese Society of Developmental Biologists, Tokushima, May 28-30, 2008.
4. 三浦勇太郎¹, 上村麻美¹, 永田工¹, 原健士朗¹, 恒川直樹¹, 九郎丸正道¹, 金井正美, 金井克晃¹ (¹東京大・農・獣医解剖) : マウス肝臓の後期発生における Sox17 のハプロ不全. 第15回肝細胞研究会, 静岡, 平成20年6月27~28日.
5. 金井正美 : イメージングテクニックの入門とその応用 : in situ ハイブリダイゼーション法 ホールマウント in situ ハイブリダイゼーション. 第33回組織細胞化学講習会, 神戸, 平成20年8月6~8日.
6. Matoba S¹, Kanai-Azuma M, Hiramatsu R¹, Tsunekawa N¹, Harikae K¹, Kawakami H, Kurohmaru M¹, Kanai Y¹ (¹Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo): Establishment of testis-specific SOX9 activation requires high-glucose metabolism in mouse sex differentiation. International Symposium for Gonad and Brain Sex Differentiation, Fukuoka, September 14-16, 2008.
7. Kanai-Azuma M: Haploinsufficiency of Sox17 results in neonatal hepatitis in C57BL6 mice. 2nd International SOX Meeting, Awajishima, September 16-19, 2008.
8. Matoba S¹, Kanai-Azuma M, Hiramatsu R¹, Tsunekawa N¹, Harikae K¹, Kawakami H, Kurohmaru M¹, Kanai Y¹ (¹Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo): Establishment of testis-specific SOX9-ECM positive feedback loop requires high-glucose metabolism in mouse sex differentiation. 2nd International SOX Meeting, Awajishima, September 16-19, 2008.

9. Hara K¹, Kanai-Azuma M, Uemura M¹, Shitara H¹, Taya C¹, Kawakami H, Abe K¹, Kurohmaru M¹, Yonekawa H¹, Tsunekawa N¹, Kanai Y¹ (¹Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo): Impaired PGC migration toward hindgut in the Sox17 null embryos. 2nd International SOX Meeting, Awajishima, September 16-19, 2008.
10. 木村徹¹, 金井正美, 川上速人, 金井好克², 安西尚彦¹, 櫻井裕之¹ (¹杏林大・医・薬理, ²大阪大・医・生体システム薬理): アミノ酸トランスポーターCAT5 のクローニングとカベオリンによる機能調節. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
11. 関根祐司¹, 西堀由紀野¹, 宮東昭彦, 秋元義弘, 楊國昌¹ (¹杏林大・医・小児科): 糸球体ポドサイトに発現するNa⁺非依存性 system L アミノ酸トランスポーター3 (LAT3) の糸球体基底膜の分化発生に対する役割について. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
12. 安西尚彦¹, 金井正美, 楊國昌², 木村徹¹, 福富俊之¹ (杏林大・医・¹薬理, ²小児科): (平成20年度杏林大学医学部共同研究プロジェクト中間報告) 腎尿酸輸送を促進する乳酸輸送体 SMCT1/2 の結合タンパク質の解明. 第37回杏林医学会総会, 三鷹, 平成20年11月15日.
13. 古川清¹, 秋元義弘, 池北雅彦², 川上速人, 喜多村憲章² (¹長岡技大・工・糖鎖生命工学, ²東京理科大・理工): マウス腎細胞膜からの GlcNAc-結合タンパク質の単離. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学大会合同大会, 神戸, 平成20年12月9~12日.
14. 小川裕子¹, 金井正美, 秋元義弘, 川上速人, 三浦ゆり², 戸田年総², 遠藤玉夫², 矢ノ下良平¹ (¹星薬大・医薬研, ²東京都老人研): ヒト唾液に存在する2種類のナノサイズ膜小胞の性状解析. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学大会合同大会, 神戸, 平成20年12月9~12日.
15. 刑部慶太郎¹, 山口まり¹, 森本理代¹, 秋元義弘, 帯刀章子¹ (¹帝京大・大学院薬学・生理化学): レチノイン酸によるラット胎仔皮膚の食道粘膜への化生誘導 --- TG2 (トランスグルタミナーゼ2)/Gh の役割検討. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学大会合同大会, 神戸, 平成20年12月9~12日.
16. Li Y¹, Kanai-Azuma M, Tanaka H¹, Hatano R¹, Nagamori S¹, Kanai Y¹ (¹Division of Bio-system Pharmacology, Department of Pharmacology, Osaka University School of Medicine): L-type amino acid transporter 1 (LAT1) operates in developing organs in a spatiotemporally regulated manner. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学大会合同大会, 神戸, 平成20年12月9~12日.

17. 田代文¹, 金井正美, 宮崎竜志¹, 加藤雅博¹, 宮崎早月¹, 豊田秀一¹, 倭英司¹, 宮崎純一¹ (¹大阪大学大学院・医・幹細胞制御学): 新規 maternal effect 遺伝子 Ces5 のノックアウトマウスの解析. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学大会合同会議, 神戸, 平成20年12月9~12日.
18. 秋元義弘, 岡村匡史¹, 近藤由美², 渡部智美², 今泉美佳³, 永松信哉³, 渡邊卓⁴, 澤田元⁵, 川上速人 (¹国立国際医療センター研究所, ²日本電子データム・国際技術研修センター, 杏林大・医・³生化学, ⁴臨床検査医学, ⁵横浜市立大・医・第一解剖): 新規ヒト2型糖尿病モデル動物 (LEA-DP/Sendai ラット) の角膜における基底膜の形態変化: 免疫組織化学的検討. 第114回日本解剖学会総会・学術集会, 岡山, 平成21年3月28~30日.
19. 金井正美, 三浦雄太郎¹, 上村麻美¹, 原健士朗¹, 金井克晃¹, 川上速人 (¹東京大・農・獣医解剖): Sox17 ヘテロマウスにおける急性肝炎. 第114回日本解剖学会総会・学術集会, 岡山, 平成21年3月28~30日.

II. 論文

1. Akimoto Y, Sawada H¹, Ohara-Imaizumi M², Nagamatsu S², Kawakami H (¹Department of Anatomy, Yokohama City University School of Medicine, ²Department of Biochemistry, Kyorin University School of Medicine): Change in long-spacing collagen in Descemet's membrane of diabetic Goto-Kakizaki rats and its suppression by antidiabetic agents. *Exp Diabetes Res* 2008: Article ID 818341, 8 pages, 2008.
2. Matoba S¹, Hiramatsu R¹, Kanai-Azuma M, Tsunekawa N¹, Harikae K¹, Kawakami H, Kurohmaru M¹, Kanai Y¹ (¹Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo): Establishment of testis-specific SOX9 activation requires high-glucose metabolism in mouse sex differentiation. *Develop Biol* 324: 76-87, 2008.
3. Ogawa Y¹, Kanai-Azuma M, Akimoto Y, Kawakami H, Yanoshita R¹ (¹Institute of Medicinal Chemistry, Hoshi University): Exosome-like vesicles with dipeptidyl peptidase IV in human saliva. *Biol Pharm Bull* 31: 1059-1062, 2008.
4. Ogawa Y¹, Kanai-Azuma M, Akimoto Y, Kawakami H, Yanoshita R¹ (¹Institute of Medicinal Chemistry, Hoshi University): Exosome-like vesicles in *Gloydius blomhoffii blomhoffii* venom. *Toxicon* 51: 984-993, 2008.
5. Mizukami T¹, Kanai Y¹, Fujisawa M¹, Kanai-Azuma M, Kurohmaru M¹, Hayashi Y² (Departments of ¹Veterinary Anatomy & ²Global Animal Resource Science, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo): Five azacytidine, a DNA methyltransferase inhibitor, specifically inhibits testicular cord formation and Sertoli cell

differentiation in vitro. Mol Reprod Develop 75: 1002-1010, 2008.

6. Shimizu M¹, Khoshnoodi J², Akimoto Y, Kawakami H, Hirano H, Higashihara E³, Hosoyamada M⁴, Sekine Y¹, Kurayama R¹, Kurayama H⁵, Joh K⁵, Hirabayashi J⁶, Kasai K⁷, Tryggvason K⁸, Ito N¹, Yan K¹ (Departments of ¹Pediatrics & ³Urology, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Medicine, Vanderbilt University School of Medicine, ⁴Department of Pharmacotherapeutics, Kyoritsu University of Pharmacy, ⁵National Hospital Organization Chiba-East National Hospital, ⁶Research Center for Medical Glycoscience, National Institute of Advanced Science and Technology, ⁷Biological Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University, ⁸Division of Matrix Biology, Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Karolinska Institute): Expression of galectin-1, a new component of slit diaphragm, is altered in minimal change nephritic syndrome. Lab Invest 89: 178 - 195, 2009.
7. Hiramatsu R¹, Matoba S¹, Kanai-Azuma M, Tsunekawa N¹, Katoh-Fukui Y², Kurohmaru M¹, Morohashi K³, Wilhelm D⁴, Koopman P⁴, Kanai Y¹ (¹Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo, ²Department of Aging Intervention, National Institute for Longevity Sciences, National Center for Geriatrics and Gerontology, ³Department of Molecular Biology, Graduate School of Medicine, Kyushu University, ⁴Institute for Molecular Bioscience, The University of Queensland): A critical time window of *Sry* action in gonadal sex determination in mice. Development 136: 129-138, 2009.

III. 著書

1. 川上速人:形態学的手法. 癌浸潤過程の電子顕微鏡的解析法. がん転移研究の実験手法. 済木育夫, 愛甲 孝 編, 京都, 金芳堂, 2008. p.324-329.
2. 秋元義弘, Hart GW¹, 川上速人 (¹Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine) : 【新時代の糖尿病学 病因・診断・治療研究の進歩】 糖尿病に起因する合併症 慢性合併症 細小血管症 発症の主な危険因子 ヘキソサミン代謝の亢進. 日本臨床 66 増刊 9 新時代の糖尿病学 (4).大阪, 日本臨床社, 2008. p.94-98
3. 金井正美, 川上速人, 原健士朗¹, 金井克晃¹ (¹東京大・院農・獣医解剖) : *in situ* ハイブリダイゼーション法 ホールマウント *in situ* ハイブリダイゼーション. 日本組織化学会編, 組織細胞化学 2008. 東京, 学際企画, 2008. p.51-58.

統合生理学教室

I. 口演

1. 五十嵐一峰¹、渋谷賢、佐野秀仁¹、高橋雅人¹、里見和彦¹、大木紫 (¹杏林大学・医・整形外科学、²順天堂大学・医・神経生理学) : リーチング運動を用いた頸髄症の新しい検査法. 第37回脊椎脊髄病学会、東京、平成20年4月24-26日
2. 大木紫、渋谷賢、関口浩文^{1,2}、門田宏^{1,3}、竹内成生¹、中島八十一¹ (¹国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所・感覚障害部、²早稲田大・科健機構、³芝浦工大院・工・機能制御) : ヒトの視覚誘導性 switching 運動と一次視覚野、第2回 Motor Control 研究会、名古屋、平成20年5月31日
3. Yagi J: In vivo patch-clamp recordings of rat DRG neurons. The Spring Pain Conference 2008, Grand Cayman, Apr. 26th - May 3, 2008
4. 大木紫、渋谷賢、関口浩文¹、門田宏¹、竹内成生¹、中島八十一¹ (¹国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所) : 一次視覚野抑制中のヒトの到達・修正運動、第31回日本神経科学学会大会、東京、平成20年7月10日
5. Hirai N, Sasaki H¹, Naitoh K & Hongo T (Tokyo Metropolitan Inst for Neurosci): Process of evolving motor skills in tool-using in monkeys. 第31回日本神経科学学会大会、東京、平成20年7月11日
6. Yagi J, Kobayashi K¹ & Hirai N (¹Dept Anat National Defense Med College): Classification of Cutaneous DRG neurons by In Vivo Patch Clamp Recording. The 3rd Asian Pain Symposium, Fukuoka, Jul. 18-19, 2008.
7. 八木淳一、小林靖¹、平井直樹 (¹防衛医、解剖) : 麻酔下全動物標本による「骨格筋 DRG ニューロン」のホールセルパッチクランプ記録. 第30回日本疼痛学会、福岡、平成20年7月19-20日
8. Yagi J, Kobayashi Y¹ & Hirai N (¹Dept Anat, National Defense Med College): In vivo patch clamp recording from musculoskeletal DRG neurons in rats. 12th World congress on pain, Glasgow, Aug. 17-22, 2008.
9. 大木紫、渋谷賢、関口浩文^{1,2}、門田宏^{1,3}、竹内成生¹、中島八十一¹ (¹国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所・感覚障害部、²早稲田大・科健機構、³芝浦工大院・工・機能制御、³芝浦工大院・工・機能制御) : 一次視覚野抑制による腕の到達運動と switching 運動の変化、第24回随意運動の調節機構とその病態生理研究会、仙台、平成20年9月27日
10. 五十嵐一峰¹、渋谷賢、佐野秀仁¹、高橋雅人¹、里見和彦¹、大木紫 (¹杏林大学・医・整形外科学、²順天堂大学・医・神経生理学) 頸髄症患者におけるリーチング運動の経時的変化. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会、京都、平成20年10月23-24日
11. 八木淳一 : 虚血性筋肉痛における酸感受性イオンチャンネル3 (ASIC3) の役割. 第37回杏林医学会総会、三鷹、平成20年11月15日
12. 大木紫、八木淳一、高橋雅人¹、渋谷賢、里見和彦¹ (¹杏林大学・医・整形外科学教室):

脊髄内の感覚運動機能統合と障害時の機能回復の解析、第 37 回杏林医学会、三鷹、平成 20 年 11 月 15 日、

13. Ohki Y, Shibuya S, Sekiguchi H^{1,2}, Kadota H^{1,3}, Takeuchi S¹, Nakajima Y¹⁽¹⁾ 国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所・感覚障害部、²早稲田大・科健機構、³芝浦工大院・工・機能制御) : Target-reaching and switching movements during suppression of the visual cortex in humans, *Neuroscience*, Washington DC, Nov. 16, 2008.
14. 五十嵐一峰¹、渋谷賢、佐野秀仁¹、高橋雅人¹、里見和彦¹、大木紫 (1 杏林大学・医・整形外科学、² 順天堂大学・医・神経生理学) : リーチング運動を用いた頸髄症の上肢近位筋の運動機能評価. 臨床神経生理学学会第 38 回大会、神戸、平成 20 年 11 月 12-14 日
15. 渋谷賢 (2008) Effects of distractor stimuli on human switching movements by target shift. 第 35 回日本スポーツ心理学会. 名古屋、平成 20 年 11 月 14-16 日
16. Igarashi K¹, Shibuya S, Sano H¹, Takahashi M¹, Satomi K¹ & Ohki Y (1 杏林大学・医・整形外科学、² 順天堂大学・医・神経生理学) : Functional assessments of proximal arm muscles by target-reaching movements in patients with cervical myelopathy. *Cervical Spine Research Society 36th Annual Meeting*, Austin, Dec 4-6, 2008.
17. 渋谷賢、五十嵐一峰¹、佐野秀仁¹、高橋雅人¹、高橋俊光¹、里見和彦¹、大木紫 (1 杏林大学・医・整形外科学、² 順天堂大学・医・神経生理学) : 腕の到達運動に伴う空間的注意のダイナミックな変化. 日本基礎心理学会第 27 回大会、仙台、平成 20 年 12 月 6-7 日

II. 論文

1. 五十嵐一峰¹、渋谷賢、佐野秀仁¹、高橋雅人¹、里見和彦¹、大木紫 (1 杏林大学・医・整形外科学) : 頸髄圧迫病変患者におけるリーチング運動を用いた上肢近位筋運動の評価法. *脊髄機能診断学*, 30 : 134-141, 2008.

細胞生理学教室

I. 口演

1. 小藤 剛史¹、藤原 智徳、真田 ますみ、赤川 公朗 (1 杏林大・医・共研 RI 部門) : HPC-1/syntaxin 1A ノックアウトマウスにおける HPA-axis の障害. 第 51 回日本神経化学学会大会、富山、平成 20 年 9 月 11-13 日.
2. 須賀 圭、齋藤 綾子、富山 貴美¹、森 啓¹、赤川 公朗 (1 大阪市立大・医・脳神経科学) : β アミロイド前駆体蛋白質のプロセッシングに及ぼす効果は 2 つのシntaxin 5 アイソフォーム間で異なる. 第 51 回日本神経化学学会大会、富山、平成 20 年 9 月 11-13 日.
3. Kobayashi T,^{1,2} Kai N¹, Kobayashi K¹, Fujiwara T, Akagawa K, Onda M³, Pastan I⁴, KOBAYASHI K^{1,2}(¹Department of Molecular Genetics, Institute of Biomedical Sciences, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima, Japan, ²Core Research for Evolutional Science and Technology, Japan Science and Technology Cooperation, Kawaguchi, Japan, Laboratory of Molecular Biology, ³Laboratory of Molecular Biology, Center for Cancer Research, National Cancer Institute, National Institutes of Health, Bethesda, USA, ⁴Division of Basic Sciences, National Cancer Institute, National Institutes of Health, Bethesda, USA): Functional analysis of the striatopallidal neural pathway by conditional transmission silencing. Society for Neuroscience. Washington, DC, Nov.15-19,2008.
4. 藤原 智徳、小藤 剛史¹、三嶋 竜弥、赤川 公朗 (1 杏林大・医・共研 RI 部門) : HPC-1/syntaxin1A ノックアウトマウスの培養海馬神経細胞に対する 5HT シグナルの影響. 第 85 回日本生理学会大会、東京、平成 21 年 3 月 25-27 日.

II. 論文

1. Kobayashi T^{1,2}, Kai N¹, Kobayashi K¹, Fujiwara T, Akagawa K, Onda M³, Kobayashi K^{1,2} (¹Department of Molecular Genetics, Institute of Biomedical Sciences, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima, Japan, ²Core Research for Evolutional Science and Technology, Japan Science and Technology Cooperation, Kawaguchi, Japan, ³Laboratory of Molecular Biology, Center for Cancer Research, National Cancer Institute, National Institutes of Health, Bethesda, USA) : Transient silencing of synaptic transmitter release from specific neuronal types by recombinant tetanus toxin light chain fused to antibody variable region. *Neurosci Methods* .175(1): 125-132,2008.
2. Iijima T¹, Tanaka K¹, Matsubara S², Kawakami H², Mishima T, Suga K, Akagawa K, Iwao K¹ (¹Department of Anesthesiology, Kyorin University, School of Medicine, Japan, ²Anatomy, Kyorin University, School of Medicine, Japan): Calcium loading capacity and morphological changes in mitochondria in an ischemic preconditioned model. *Neurosci Lett*. 448(3):268-272,2008.
3. Tanaka K¹, Iijima T¹, Mishima T, Suga K, Akagawa K, Iwao Y¹(¹Department of Anesthesiology, Kyorin University, School of Medicine, Japan): Ca²⁺ Buffering Capacity of Mitochondria After

生化学教室(1)

I. 口演 (学会等)

1. 田原義和, 宍道暢子, 林雄太郎, 西川幸希¹, 藤吉好則¹ (¹京都大院・理・生物物理): Na⁺/K⁺-ATPase オリゴマーの電子顕微鏡観察 (ポスター発表). 生体エネルギー研究会第 34 回討論会, 東京, 平成 20 年 11 月 7-8 日.
2. 林雄太郎, 田原義和, 宍道暢子, 竹中均: 可溶化Na⁺/K⁺-ATPaseのオリゴマー構造変換と安定な四量体の単離. 生体エネルギー研究会第 34 回討論会, 東京, 平成 20 年 11 月 7 日.
3. Kanagawa M¹, Matsumoto K¹, Tahara Y, Hayashi Y & Yamaguchi Y¹ (¹RIKEN ASI): Structural analysis of oligosaccharides attached to beta-subunit of Na⁺/K⁺-ATPase. 2008 Meeting of the Society for Glycobiology. Texas, Nov. 12-15, 2008.
4. 川崎一則¹, 小林恵美子¹, 加藤智樹¹, 田原義和, 林雄太郎, 青山一弘² (¹産業技術総合研究所、²日本FEI): Na⁺/K⁺-ATPaseフリーズ・フラクチャー・レプリカのSTEMおよびSTEMトモグラフィによる解析 (ポスター発表). 生物物理学会第 46 回年会, 福岡, 平成 20 年 12 月 5 日.
5. 金川真由美¹, 松本加奈¹, 田原義和, 林雄太郎, 山口芳樹¹ (¹理研・基幹研): Na⁺/K⁺-ATPase のβサブユニットに存在する糖鎖の構造解析 (一般口頭発表). 第 31 回日本分子生物学会年会 第 81 回日本生化学会大会, 神戸, 平成 20 年 12 月 9 日.
6. 金川真由美¹, 松本加奈¹, 田原義和, 林雄太郎, 山口芳樹¹ (¹理研・基幹研): Na⁺/K⁺-ATPase のβサブユニットに存在する糖鎖の構造解析 (ポスター発表). 第 31 回日本分子生物学会年会 第 81 回日本生化学会大会, 神戸, 平成 20 年 12 月 9 日.
7. 菅田晴夫: カイコの Na⁺/K⁺-ATPase. 第 31 回日本分子生物学会年会 第 81 回日本生化学会合同大会, 神戸, 平成 20 年 12 月 10 日.

II. 論文

1. Mimura K¹, Tahara Y, Shinji N, Tokuda E, Takenaka H & Hayashi Y (¹Dept. of Environmental Security System, Faculty of Risk and Crisis Management, Chiba Inst. Sci.): Isolation of Stable (αβ)₄-Tetraprotomer from Na⁺/K⁺-ATPase Solubilized in the Presence of Short-Chain Fatty Acids. *Biochemistry* 47: 6039-6051, 2008.

生化学教室(2)

I 口演

1. 今泉美佳 : インスリン開口放出機構におけるアクチン細胞骨格の役割. 第1回『微小領域の形作り』研究会 伊香保、4月24-25日 2008
2. 永松信哉, 今泉美佳 (シンポジウム): インスリン分泌機構はどこまで解明されたのか(シンポジウム-20) 第51回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、5月22-24日、2008
3. 今泉美佳, 青柳共太, 中道洋子, 西脇知世乃, 永松信哉 : 膵 β 細胞における細胞膜直下 Ca^{2+} 上昇とインスリン顆粒開口放出の関係. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、5月22-24日、2008
4. 青柳共太, 今泉美佳, 西脇知世乃, 中道洋子, 金子和真¹, 植木浩二郎¹, 門脇孝¹, 永松信哉 (¹ 東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科) : ホスファチジルイノシトール 3-キナーゼによるインスリン分泌制御機構の可視化解析. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会、東京、5月22-24日、2008
5. 今泉美佳 : インスリン開口放出のリアルタイム可視化解析 生理学研究会『病態と細胞外プリン治療標的としての可能性を探る』岡崎、9月4-5日、2008
6. 今泉美佳, 永松信哉 : インスリン顆粒の細胞内 trafficking. 第43回糖尿病学の進歩 松本、2月20-21日 2009
7. 今泉美佳 : 膵 β 細胞からのインスリン開口放出の可視化解析. 第11回 神奈川糖尿病フォーラム 横浜、2月26日 2009
8. 永松信哉 (大学院特別講義) : インスリン開口放出と糖尿病. 第22回新潟分子病態・再生医学セミナー、新潟、平成21年2月13日
9. 永松信哉 (特別講演) : 糖尿病におけるインスリン分泌不全. 軽症糖尿病検討会、鹿児島、平成21年3月10日

II 論文

1. 永松信哉. 【新時代の糖尿病学 病因・診断・治療研究の進歩】糖尿病基礎研究の進歩 糖代謝とその調節機序 膵の発生と膵 β 細胞の機能 インスリン分泌における膵 β 細胞の分子生物学 2 相性インスリン分泌の分子機構. 日本臨床 66:174-181 (2008).
2. Kawai J, Ohara-Imaizumi M, Nakamichi Y, Okamura T, Akimoto Y, Matsushima S, Aoyagi K, Kawakami H, Watanabe T, Watada H, Kawamori R & Nagamatsu S : Insulin exocytosis in Goto-Kakizaki rat beta-cells subjected to long-term glinide or sulfonylurea treatment. *Biochem J* 412 : 93-101. 2008
3. Okamoto M, Ohara-Imaizumi M, Kubota N, Hashimoto S, Eto K, Kanno T, Kubota T, Wakui M, Nagai R, Noda M, Nagamatsu S & Kadowaki T : Adiponectin induces insulin secretion in vitro and in vivo at a low glucose concentration. *Diabetologia* 51 827-835. 2008

4. Takahashi K, Yamaguchi S, Shimoyama T, Seki H, Katsuta H, Miyokawa K, Tanaka T, Yoshimoto K, Ohno H, Nagamatsu S & Ishida H. JNK- and I κ B-dependent pathways regulate MCP-1, not adiponectin, release from artificially hypertrophied 3T3-L1 adipocytes preloaded with palmitate in vitro. *Am J Physiol Endocrinol Metab* 294 : E898-909, 2008.
5. Akimoto Y, Sawada H, Ohara-Imaizumi M, Nagamatsu S & Kawakami H. Change in long-spacing collagen in descemet's membrane of diabetic Goto-Kakizaki rats and its suppression by antidiabetic agents. *Exp Diabetes Res* 2008 : 81834,2008

III 著書

1. 青柳共太 & 永松信哉. インスリン分泌機構-エバネッセント顕微鏡で見えるもの. *Diabetes J.* 36: 85-93, 2008.
2. 永松信哉 【新時代の糖尿病学 病因・診断・治療研究の進歩】 糖尿病基礎研究の進歩 糖代謝とその調節機序 膵の発生と膵 β 細胞の機能 インスリン分泌における膵 β 細胞の分子生物学 2相性インスリン分泌の分子機構(解説/特集)日本臨床66巻増刊3 新時代の糖尿病学 2008, p174-181.
3. Nagamatsu S & Ohara-Imaizumi M : Imaging Exocytosis of Single Insulin Secretory Granules With TIRF Microscopy. *Methods in Mol Biol* 440 : 259-268, 2008
4. Nagamatsu S and Ohara-Imaizumi M. Mechanism of insulin exocytosis analyzed by imaging techniques. *Pancreatic beta cell in health and disease*(eds; Seino S.and G.I.) Japan , Springer 2008, p177-194.

IV その他

1. 永松信哉 (座談会):インスリン第一相、第二相分泌のメカニズムと食後高血糖 (食後血糖のグローバルガイドラインとナテグリニド)EASD2008座談会、ローマ、2008年9月8日

薬理学教室

I. 口 演

1. Anzai N, Shin H, Miyao K, Endou H : Interaction of the multivalent PDZ domain protein PDZK1 with novel liver-specific organic anion transporter 7, *Experimental Biology* 2008, San Diego, 平成 20 年 4 月 8 日
2. Srivastava S, Anzai N, Yamanishi A, Ganapathy V, Endou H : Identification of the multivalent PDZ domain protein PDZK1 as a binding partner of sodium-coupled monocarboxylate cotransporter 2 by yeast two-hybrid assay, *Experimental Biology* 2008, San Diego, 平成 20 年 4 月 8 日
3. 櫻井裕之 : GDNF ドグマへの挑戦、岡山大学腎内分泌代謝内科セミナー、岡山、平成 20 年 4 月 24 日
4. 安西尚彦 : ヒト有機酸トランスポーターOAT7 とマルチバレント PDZ タンパク質 PDZK1 の相互作用、第 81 回日本内分泌学会学術総会、青森、平成 20 年 5 月 17 日
5. 佐藤正延^{1,2)}、俣田秀章^{1,2)}、福士剛純^{1,2)}、Yan Li²⁾、白坂善之^{1,2)}、安西尚彦、玉井郁巳^{1,2)} (¹⁾ 金沢大学院・薬、²⁾ 東京理大・薬) : 尿酸調節における OAT2 の役割、第 23 回日本薬剤学会年会、札幌、平成 20 年 5 月 20 日-22 日
6. 山道寛子¹⁾、伊藤晃成¹⁾、高田龍平¹⁾、安西尚彦、金井好克²⁾、鈴木洋史¹⁾ (¹⁾ 東大病院薬剤部、²⁾ 阪大院・医・生体システム薬理学) : 脱ユビキチン化酵素 USP14 による BSEP の翻訳後調節機構の解析、第 23 回日本薬剤学会年会、札幌、平成 20 年 5 月 20 日-22 日
7. 池淵祐樹¹⁾、高田龍平¹⁾、伊藤晃成¹⁾、吉門崇¹⁾、安西尚彦、金井好克²⁾、鈴木洋史¹⁾ (¹⁾ 東大病院薬剤部、²⁾ 阪大院・医・生体システム薬理学) : MDR3/ABCB4 の共役因子 RACK1 による発現制御、第 23 回日本薬剤学会年会、札幌、平成 20 年 5 月 20 日-22 日
8. 安西尚彦 : 腎尿酸輸送の分子機序 : 最近の話題、福岡大学医学部研究推進部主催研究会、福岡、平成 20 年 5 月 29 日
9. 安西尚彦、小藤理絵、宮崎博喜、寺田智祐¹⁾、福富俊之、木村 徹、金井好克、乾 賢一¹⁾、遠藤 仁 (¹⁾ 京都大学病院薬剤部) : SUMO 化結合酵素 Ubc9 とヒトペプチドトランスポーターPEPT2 との結合の解析、第 51 回日本腎臓学会学術総会、福岡、平成 20 年 5 月 31 日
10. 安西尚彦、小藤理絵、宮崎博喜、福富俊之、木村 徹、櫻井裕之、遠藤 仁 : Yeast Two-hybrid 法を用いたヒトペプチドトランスポーターPEPT1 結合蛋白質の同定、第 51 回日本腎臓学会学術総会、福岡、平成 20 年 5 月 31 日
11. 安西尚彦 : ヒト有機酸トランスポーターOAT7 (OAT7) とマルチバレント PDZ タンパク質 PDZK1 の相互作用、第 44 回日本肝臓学会学術総会、松山、平成 20 年 6 月 6 日
12. 福富俊之、安西尚彦、Ho Jung Shin、宮尾和洋、遠藤 仁、金井好克、櫻井裕之 : ヒト有機酸トランスポーターOAT7 (OAT7) とマルチバレント PDZ タンパク質 PDZK1 の相互作用、第 3 回トランスポーター研究会年会 ワークショップ 1、京都、平成 20 年 6 月 7 日
13. 橘 敬祐¹⁾、安西尚彦、稲田大彦¹⁾、山崎大典¹⁾、石本憲司¹⁾、田中十志也²⁾、酒井寿郎²⁾、児玉龍彦²⁾、土井健史¹⁾ (¹⁾ 大阪大学大学院薬学研究科、²⁾ 東京大学先端科学技術研究融合教育センター) : 薬物トランスポーターと腎障害 : 最近の話題、第 3 回トランスポーター研究会年会 シンポジウム、京都、

平成 20 年 6 月 8 日

14. 安西尚彦、Sophapun Ekaratanawong、中田隆博¹、福富俊之、宮尾和洋、小林 靖¹、遠藤 仁¹ (防衛医大・解剖第二) : 酵母 Two-hybrid 法を用いたカルニチントランスポーターCT1 のラット脳における結合タンパク質の同定、日本ビタミン学会第 60 回大会、仙台、平成 20 年 6 月 14 日
15. 安西尚彦、Suparat Khamdang、Sunena Srivastava、金井好克、遠藤 仁 : ヒト有機アニオントランスポーターと造影剤 Iodipamide の相互作用、第 35 回日本トキシコロジー学会学術年会、東京、平成 20 年 6 月 27 日
16. 櫻井裕之 : Challenge the dogma of “GDNF does it all for the ureteric bud”、熊本大学グローバルCOEリエゾンラボ研究会、熊本、平成 20 年 7 月 16 日
17. 波多野亮¹、平田 拓、安西尚彦、松原光伸²、武藤重明³、永森收志¹、遠藤 仁、金井好克¹ (¹大阪大学大学院医学系研究科、²東北大学大学院医学系研究科、³自治医科大学医学部腎臓内科) : 新規腎特異的プロスタグランジン輸送体 OAT-PG の同定と生理機能の検討、生理学研究所研究会「上皮膜輸送制御の分子機構：体内環境恒常性維持機構解明を目指して」、岡崎、平成 20 年 7 月 16 日
18. 安西尚彦 : ヒト腎臓の経細胞性尿酸輸送分子機序：新規尿酸トランスポーター分子 URATv1、生理学研究所研究会「上皮膜輸送制御の分子機構：体内環境恒常性維持機構解明を目指して」、岡崎、平成 20 年 7 月 17 日
19. 山道寛子¹、伊藤晃成¹、高田龍平¹、安西尚彦、金井好克²、鈴木洋史¹ (¹東大病院薬剤部、²阪大院・医・生体システム薬理学) : BSEP 相互作用因子としての脱ユビキチン化酵素の同定、第 5 回東日本胆汁酸研究会、東京、平成 20 年 7 月 19 日
20. Matsuo H¹, Anzai N, Chiba T¹, Ichida K², Kimura T, Nakayama A¹, Nakanishi K¹, Domoto H³, Kikuchi Y³, Hisatome I⁴, Oda T³, Nishiyama J³, Endou H, Sakurai H, Shinomiya N¹. (¹防衛医大・生体制御、²東京薬科大・病態生理、³防衛医大・腎臓内科、⁴鳥取大学大学院医学研究科) : Renal hypouricemia caused by mutations in a renal urate transporter GLUT9 encoded by SLC2A9. Gordon Research Conference Membrane Transport Protein, Il Ciocco, Italy, 平成 20 年 7 月 20-25 日
21. 安西尚彦、木村 徹 : 新たな PDZ 蛋白質と Na⁺依存性乳酸輸送体 SMCTs の結合による腎尿酸輸送への影響、財団法人ソルトサイエンス研究財団、第 20 回平成 17 年度助成研究発表会、東京、平成 20 年 7 月 29 日
22. Anzai N, Jin CJ, Ichida K¹, Kimura T, Jutabha P, Babu E, Srivastava S, Endou H, Sakurai H. (¹東京薬科大・病態生理) : Functional characterization of SLC2A9 as a renal basolateral voltage-driven urate transporter 1 (URATv1). Transporters 2008, Murten, Switzerland, 平成 20 年 8 月 27-30 日
23. Matsuo H¹, Anzai N, Chiba T¹, Ichida K², Kimura T, Nakayama A¹, Nakanishi K¹, Domoto H³, Kikuchi Y³, Hisatome I⁴, Oda T³, Nishiyama J³, Endou H, Sakurai H, Shinomiya N¹. (¹防衛医大・生体制御、²東京薬科大・病態生理、³防衛医大・腎臓内科、⁴鳥取大学大学院医学研究科) : Renal hypouricemia caused by mutations in a renal urate transporter GLUT9/SLC2A9. Transporters 2008, Murten, Switzerland, 平成 20 年 8 月 27-30 日
24. 安西尚彦、松尾洋孝¹、市田公美²、千葉俊周¹、木村 徹、金 春姫、中山昌喜¹、堂本英治³、菊池

- 勇一⁴、中西和子¹、Promsuk Jutabha⁵、北村健一郎⁶、久留一郎⁷、尾田高史⁴、西山純一郎⁸、内田俊也⁹、四ノ宮成祥¹、遠藤 仁、櫻井裕之 (1防衛医大・生体制御、2東京薬科大・病態生理、3自衛隊呉病院、4防衛医大腎臓内科、5 (株) 富士バイオメディックス、6熊本大学大学院医学薬学研究部腎臓内科、7鳥取大学大学院医学系研究科再生医療学、8自衛隊横須賀病院、9帝京大学医学部内科) : ヒト腎臓尿酸輸送の分子機構 : 血管側への尿酸排出トランスポーターURATv1 の同定、第 14 回分子腎臓研究会、東京、平成 20 年 9 月 6 日
25. 安西尚彦 : ヒト腎臓尿酸輸送機構 : 経細胞性輸送を担う尿酸トランスポーター、富山大学薬学部薬物生理学研究室特別セミナー、富山、平成 20 年 9 月 11 日
26. 安西尚彦 : 新規尿酸トランスポーターURATv1 と血清尿酸値異常、金沢大学大学院自然科学研究科膜輸送体研究会 2008 特別セミナー、金沢、平成 20 年 9 月 12 日
27. 安西尚彦、金 春姫、市田公美¹、木村 徹、Jutabha Promsuk²、Babu Ellappan、遠藤 仁、櫻井裕之 (1 東薬大・病態生理、2 (株) 富士バイオメディックス) : SLC2A9 遺伝子産物は、腎尿管基底側膜の電位依存性尿酸トランスポーターURATv1 である、日本人類遺伝学会第 53 回大会、東京、平成 20 年 9 月 28 日
28. 木村 徹、Yuewei Li¹、金井正美²、安西尚彦、川上速人²、櫻井裕之、金井好克¹ (1大阪大院・医・生体システム薬理学、2杏林大・医・解剖) : アミノ酸トランスポーターCAT5 の機能解析、第 119 回日本薬理学会関東部会、東京、平成 20 年 10 月 4 日
29. 金 春姫、安西尚彦、何 新¹、木村 徹、福富俊之、酒井啓治²、岩下光利²、遠藤 仁、櫻井裕之 (1天津中医薬大・中薬、2杏林大・医・産婦人科) : ヒト胎盤絨毛癌由来 BeWo 細胞における L 型アミノ酸輸送特性の検討、第 119 回日本薬理学会関東部会、東京、平成 20 年 10 月 4 日
30. 安西尚彦 : Na⁺依存性中性アミノ酸トランスポーターBOAT1 (SLC6A19)の結合タンパク質の同定、第 16 回日本消化器病関連学会週間 JDDW2008 ワークショップ W20 : 栄養素吸収輸送システムに関する研究の進歩、東京、平成 20 年 10 月 4 日
31. 安西尚彦、遠藤 仁 : 腎尿酸トランスポーターと血清尿酸値異常、第 23 回日本薬物動態学会年会 シンポジウム 1 : 腎におけるトランスポーター・チャネル研究の基礎と臨床、熊本、平成 20 年 10 月 30 日
32. 金 春姫、安西尚彦、何 新¹、木村 徹、福富俊之、櫻井裕之 (1天津中医薬大・中薬) : ヒト胎盤絨毛癌由来 BeWo 細胞における L 型アミノ酸輸送特性、トランスポーターワークショップ IN 福岡、福岡、平成 20 年 11 月 2 日
33. 木村 徹、安西尚彦、Jutabha Promsuk、Babu Ellappan、市田公美¹、北村健一郎²、久留一郎³、遠藤 仁、櫻井裕之 (1東京薬科大・病態生理、2熊本大院・腎臓内科、3鳥取大院・再生医療) : 新規尿酸トランスポーターURATv1 (SLC2A9)の機能解析と腎性低尿酸血症、トランスポーターワークショップ IN 福岡、福岡、平成 20 年 11 月 2 日
34. Kim S¹, Lee CH¹, Kang CM¹, Anzai N, Endou H, Kim G-H¹ (1 Department of Internal Medicine, Hanyang University College of Medicine, Seoul, Korea) : Effect of Losartan Administration on Urate Transporters in Rat Kidney. American Society of Nephrology Renal Week 2008, Philadelphia, 平成 20 年 11 月 7 日
35. Jin CJ, Anzai N, Babu E, Fukutomi T, Srivastava S, Endou H, Sakurai H: Functional

36. Anzai N, Jin CJ, Ichida K¹, Kimura T, Jutabha P, Endou H, Sakurai H (1 東京薬科大・病態生理) : The Expression of Organic Anion Transporter Oat5 in Rat Kidneys is Gender-dependent. American Society of Nephrology Renal Week 2008, Philadelphia, 平成 20 年 11 月 7 日
37. 福富俊之、安西尚彦、木村 徹、櫻井裕之 : 尿酸トランスポーターURAT1 と PDZ ドメインタンパク質 PDZK1 との相互作用のリン酸化による動的制御の可能性、トランスポーターワークショップ IN 鶴岡、鶴岡、平成 20 年 11 月 15 日
38. 塚田 愛、安西尚彦、三浦大作、何 新、遠藤 仁 : ヒト尿酸トランスポーターURAT1 によるオロト酸輸送、トランスポーターワークショップ IN 鶴岡、鶴岡、平成 20 年 11 月 15 日
39. Srivastava Sunena、安西尚彦、市田公美¹、Jutabha Promsuk、木村 徹、宮尾和洋、土岐昭依、遠藤 仁、櫻井裕之 (1 東京薬科大・病態生理) : ヒト血清尿酸値を直接制御する電位依存性尿酸排出トランスポーターURATv1 (SLC2A9)、トランスポーターワークショップ IN 鶴岡、鶴岡、平成 20 年 11 月 15 日
40. 金 春姫、安西尚彦、木村 徹、福富俊之、酒井啓治¹、岩下光利¹、櫻井裕之 (1 杏林大・医・産婦人科) : ヒト胎盤絨毛癌由来 BeWo 細胞ににおける L 型アミノ酸輸送特性、第 37 回杏林医学会総会、三鷹、平成 20 年 11 月 15 日
41. 木村 徹、金井正美¹、川上速人¹、金井好克、安西尚彦、櫻井裕之 (1 杏林大・医・解剖) : アミノ酸トランスポーターCAT5 のクローニングとカベオリンによる機能調節、第 37 回杏林医学会総会、三鷹、平成 20 年 11 月 15 日
42. 安西尚彦、金井正美¹、楊 國昌²、木村 徹、福富俊之 (1 杏林大・医・解剖、² 杏林大・医・小児科) : 腎尿酸輸送を促進する乳酸輸送体 SMCT1/2 の結合タンパク質の解明、第 37 回杏林医学会総会平成 20 年度杏林大学医学部共同研究プロジェクト中間報告、三鷹、平成 20 年 11 月 15 日
43. 安西尚彦 : ヒト有機酸トランスポーター 4 (hOAT4) は低親和性のパラアミノ馬尿酸 (PAH) トランスポーターである、第 17 回杏林医学会総会、三鷹、平成 20 年 11 月 15 日
44. 安西尚彦 : 臨床の疑問から始まる基礎研究の進展～新規尿酸トランスポーターURATv1 同定を例に～、Young Research Forum、福岡、平成 20 年 11 月 19 日
45. 安西尚彦、木村 徹、福富俊之、小藤理絵、何 新¹、櫻井裕之、遠藤 仁 (1 天津中医薬大・中薬) : 痛風患者から同定された腎臓尿酸トランスポーターURAT1(SLC22A12) 遺伝子変異における尿酸輸送活性の解析、第 6 回日本予防医学会学術総会、新宿、平成 20 年 11 月 30 日
46. 安西尚彦、市田公美¹、Jutabha Promsuk、木村 徹、Babu Ellappan、金 春姫、Srivastava Sunena、北村健一郎、久留一郎、遠藤 仁、櫻井裕之 (1 東京薬科大・病態生理、² 熊本大院・腎臓内科、³ 鳥取大院・再生医療学) : 新規尿酸トランスポーターURATv1 (SLC2A9) の輸送特性と腎性低尿酸血症に見られた遺伝子変異、第 29 回日本臨床薬理学会年会、新宿、平成 20 年 12 月 4 日
47. Srivastava S, Anzai N, Ichida K¹, Jutabha P, Kimura T, Endou H, Sakurai H (1 東京薬科大・病態生理) : Plasma urate level is directly regulated by a voltage-driven urate efflux transporter, URATv1 (SLC2A9), in humans. トランスポーター研究会第二回関東部会、文京区、平成 20 年 12

月 6 日

48. 山道寛子¹、伊藤晃成¹、高田龍平¹、安西尚彦、金井好克²、鈴木洋史¹ (¹東大病院薬剤部、²阪大院・医・生体システム薬理学) : BSEP/ABCB11 の細胞内局在制御に関わる相互作用因子の同定、トランスポーター研究会第二回関東部会、文京区、平成 20 年 12 月 6 日
49. 金 春姫、安西尚彦、何 新¹、木村 徹、福富俊之、櫻井裕之 (¹天津中医薬大・中薬) : ヒト胎盤絨毛癌由来 BeWo 細胞に見られる L 型アミノ酸輸送特性、トランスポーター研究会第二回関東部会、文京区、平成 20 年 12 月 6 日
50. 池淵祐樹¹、高田龍平¹、伊藤晃成¹、吉門崇¹、安西尚彦、金井好克²、鈴木洋史¹ (¹東大病院薬剤部、²阪大院・医・生体システム薬理) : MDR3/ABCB4 相互作用蛋白質の同定と機能解析、トランスポーター研究会第二回関東部会、文京区、平成 20 年 12 月 6 日
51. 塚田 愛、安西尚彦、三浦大作、何 新¹、櫻井裕之、遠藤 仁 (¹天津中医薬大・中薬) : ヒト尿酸トランスポーターURAT1 によるオロト酸輸送、トランスポーター研究会第二回関東部会、文京区、平成 20 年 12 月 6 日
52. Anzai N, Ichida K¹, Jutabha P, Kimura T, Babu E, Jin CJ, Srivastava S, Endou H, Sakurai H (¹東京薬科大・病態生理) : Plasma urate level is directly regulated by a voltage-driven urate efflux transporter, URATv1 (SLC2A9), in humans. BMB2008 第 31 回日本分子生物学会年会第 81 回日本生化学会大会合同大会、神戸、平成 20 年 12 月 10 日
53. Kimura T, Kanai-Azuma M¹, Li Y², Anzai N, Kawakami H¹, Endou H, Sakurai H, Kanai Y² (¹杏林大・医・解剖、²大阪大院・医・生体システム薬理学) : Cloning and Characterization of Cationic Amino Acid Transporter 5. 48th The American Society for Cell Biology Annual Meeting, San Francisco, Dec 16, 2008.
54. 櫻井裕之 : The research life both in USA and Japan. Department of Physiology, Faculty of Science, Mahidol University, Special Seminar, Bangkok、平成 21 年 1 月 8 日
55. 安西尚彦 : The current progress of renal urate transport. Department of Physiology, Faculty of Science, Mahidol University, Special Seminar, Bangkok、平成 21 年 1 月 8 日
56. 佐藤正延¹、Li-Tain Yeh²、安西尚彦、玉井郁巳¹ (¹金沢大学医薬保健研究・薬学系、²金 Andrea Bioscience Inc., San Diego) : 新規非核酸逆転写酵素阻害薬 RDEA806 による尿酸値低下作用機構、第 42 回日本痛風・核酸代謝学会総会、新宿、平成 21 年 2 月 20 日
57. 安西尚彦、市田公美¹、木村 徹、北村健一郎²、久留一郎³、遠藤 仁、櫻井裕之 (¹東京薬科大・病態生理、²熊本大院・腎臓内科、³鳥取大院・再生医療学) : 新規尿酸トランスポーターURATv1 (SLC2A9) 遺伝子変異と腎性低尿酸血症、第 42 回日本痛風・核酸代謝学会総会、新宿、平成 21 年 2 月 20 日
58. 安西尚彦、Promsuk Jutabha、木村 徹、遠藤 仁、櫻井裕之 : 新規尿酸排出トランスポーター URATv1 の尿酸輸送特性の解析、第 42 回日本痛風・核酸代謝学会総会、新宿、平成 21 年 2 月 20 日
59. 大房 健¹、山縣 彰¹、加国雅和²、安西尚彦 (¹東和環境科学株式会社プロフェニックス、²株式会社フェニックスバイオ) : 高尿酸血症を示すヒト肝細胞キメラマウス腎臓のプロテオーム解析、第 42 回日本痛風・核酸代謝学会総会、新宿、平成 21 年 2 月 20 日
60. 浦野和子¹、谷口敦夫¹、関田千恵子¹、安西尚彦、遠藤 仁、鎌谷直之¹、山中 寿¹、(¹東京女子

61. 安西尚彦、金 春姫、Promsuk Jutabha、Ellappan Babu、Sunena Srivastava、福富俊之、遠藤 仁、櫻井裕之：新規尿酸排出トランスポーターURATv1 (SLC2A9)の輸送特性：尿酸降下薬との相互作用、第 82 回日本薬理学会年会、横浜、平成 21 年 3 月 16 日
62. Sunena Srivastava、安西尚彦、宮内正二¹、三浦大作²、福富俊之、Vadivel Ganapathy³、金井好克、櫻井裕之（¹松山大・薬・薬剤学、¹兵庫医療大・薬・医療薬学、³Georgia 医科大学・生化分生）：酵母 Two-hybrid 法による Na⁺共役モノカルボン酸トランスポーターSMCT1/2 結合タンパク質 PDZK1 の同定、第 82 回日本薬理学会年会、横浜、平成 21 年 3 月 16 日
63. 三浦大作¹、安西尚彦、塚田 愛、木村 徹、福富俊之、清宮健一¹、櫻井裕之、遠藤 仁（¹兵庫医療大・薬・医療薬学）：ヒト尿酸トランスポーターURAT1 はオロト酸を輸送する、第 82 回日本薬理学会年会、横浜、平成 21 年 3 月 16 日
64. 木村 徹、安西尚彦、市田公美¹、Promsuk Jutabha、北村健一郎²、久留一郎³、遠藤 仁、櫻井裕之（¹東京薬科大・病態生理、²熊本大院・腎臓内科、³鳥取大院・再生医療）：新規尿酸排出トランスポーターURATv1(SLC2A9)の分子同定と腎性低尿酸血症、第 82 回日本薬理学会年会、横浜、平成 21 年 3 月 17 日
65. 金 春姫、安西尚彦、何 新¹、酒井啓治²、岩下光利²、遠藤 仁、櫻井裕之（¹天津中医薬大・中薬、²杏林大・医・産婦人科）：ヒト胎盤絨毛癌由来 BeWo 細胞に見られる L 型アミノ酸輸送特性、第 82 回日本薬理学会年会、横浜、平成 21 年 3 月 18 日
66. 安西尚彦、Promsuk Jutabha、木村 徹、福富俊之、櫻井裕之：高尿酸血症と腎尿酸トランスポーター、日本薬学会第 129 回年会シンポジウム S17「トランスポーター研究のパラダイムシフト：薬物輸送体から薬物標的へ」、京都、平成 21 年 3 月 25 日
67. 安西尚彦：尿酸値低下に及ぼす尿酸トランスポーターの役割、第 7 回村田フォーラム、武蔵野、平成 21 年 3 月 30 日

II. 論文

1. Morimoto E, Kanai Y, Kim do K, Chairoungdua A, Choi HW, Wempe MF, Anzai N, Endou H: Establishment and characterization of mammalian cell lines stably expressing human L-type amino acid transporters. *J Pharmacol Sci.* 108: 505-516, 2008.
2. Tachibana K, Anzai N, Ueda C, Katayama T, Yamasaki D, Kirino T, Takahashi R, Ishimoto K, Komori H, Tanaka T, Hamakubo T, Ueda Y, Arai H, Sakai J, Kodama T, Doi T: Regulation of the human PDZK1 expression by peroxisome proliferator-activated receptor alpha. *FEBS Lett.* 582: 3884-3888, 2008.
3. Anzai N, Ichida K, Jutabha P, Kimura T, Babu E, Jin CJ, Srivastava S, Kitamura K, Hisatome I, Endou H, Sakurai H: Plasma urate level is directly regulated by a voltage-driven urate efflux transporter uratv1 (slc2a9) in humans. *J Biol Chem.* 283: 26834-26838, 2008
4. Endou H, Anzai N. Urate transport across the apical membrane of renal proximal tubules. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids.* 27: 578-584, 2008

5. Torres AM, Anzai N, Endou H. Renal organic anion transporters: Knowledge from animal models. *Curr Topics Pharmacol.* 12: 45-50, 2008.
6. Yokoyama H, Anzai N, Ljubojevic M, Ohtsu N, Sakata T, Miyazaki H, Nonoguchi H, Islam R, Onozato M, Tojo A, Tomita K, Kanai Y, Igarashi T, Sabolic I, Endou H. Functional and immunochemical characterization of a novel organic anion transporter Oat8 (Slc22a9) in rat renal collecting duct. *Cell Physiol Biochem.* 21: 269-278, 2008
7. Nakagawa H, Hirata T, Terada T, Jutabha P, Miura D, Harada KH, Inoue K, Anzai N, Endou H, Inui K, Kanai Y, Koizumi A. Roles of organic anion transporters in the renal excretion of perfluorooctanoic acid. *Basic Clin Pharmacol Toxicol.* 103: 1-8, 2008
8. Islam R, Anzai N, Ahmed N, Ellapan B, Jin CJ, Srivastava S, Miura D, Fukutomi T, Kanai Y, Endou H. Mouse organic anion transporter 2 (mOat2) mediates the transport of short chain fatty acid propionate. *J Pharmacol Sci.* 106: 525-528, 2008
9. Tachampa K, Takeda M, Khamdang S, Noshiro-Kofuji R, Tsuda M, Jariyawat S, Fukutomi T, Sophasan S, Anzai N, Endou H. Interactions of organic anion transporters and organic cation transporters with mycotoxins. *J Pharmacol Sci.* 106: 435-443, 2008
10. Giusto GD, Anzai N, Endou H, Torres AM. Elimination of organic anions in response to an early stage of renal ischemia-reperfusion in the rat. Role of basolateral plasma membrane transporters and cortical renal blood flow. *Pharmacology,* 81: 127-136, 2008
11. Amonpatumrat S, Sakurai H, Wiriyasermkul P, Khunweeraphong N, Nagamori S, Tanaka H, Piyachaturawat P, Kanai Y. L-glutamate enhances methylmercury toxicity by synergistically increasing oxidative stress. *J Pharmacol Sci.* 108: 280-9, 2008.
12. Minami S, Ito K, Honma M, Ikebuchi Y, Anzai N, Kanai Y, Nishida T, Tsukita S, Sekine S, Horie T, Suzuki H. Posttranslational regulation of Abcc2 expression by SUMOylation system. *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.* 296: G406-G413, 2009.
13. Di Giusto G, Anzai N, Endou H, Torres AM. Oat5 and NaDC1 Protein Abundances in Kidney and Urine Following Renal Ischemic Reperfusion Injury. *J Histochem Cytochem.* 57: 17-27, 2009
14. Yamauchi K, Sakurai H, Kimura T, Wiriyasermkul P, Nagamori S, Kanai Y, Kohno N. System L amino acid transporter inhibitor enhances anti-tumor activity of cisplatin in a head and neck squamous cell carcinoma cell line. *Cancer Lett.* 276: 95-101, 2009.
15. 安西尚彦、三浦大作、遠藤 仁：有機アニオントランスポーターOAT4 によるオロト酸輸送、痛風と核酸代謝、32: 141-146, 2008
16. 安西尚彦、加国雅和、大房 健、遠藤 仁：ヒト肝細胞キメラマウスにおける血中ヒトアルブミン値と血清尿酸値の相関性、痛風と核酸代謝、32: 13-18, 2008
17. 安西尚彦：特集：腎構成細胞の細胞学的特性—新しい知見を含めて— 腎尿細管細胞の細胞特性 II、日本腎臓学会誌、50: 566-569, 2008
18. 安西尚彦：特集：水電解質と輸液 膜輸送蛋白質 Up-to-Date、日本腎臓学会誌、50: 110-113, 2008
19. 安西尚彦：特集「痛風・高尿酸血症のすべて」腎の尿酸輸送とトランスポーター、腎と透析、64: 469-476, 2008

20. 安西尚彦、遠藤 仁：連載「腎臓の有機溶質・薬物トランスポーター」第3回、ヌクレオシドトランスポーターSLC28, SLC29/ペプチドトランスポーターSLC15、高尿酸血症と痛風、16: 164-167, 2008
21. 安西尚彦、遠藤 仁：連載「腎臓の有機溶質・薬物トランスポーター」第2回、尿酸トランスポーターURAT1 有機イオントランスポーターSLC22、高尿酸血症と痛風、16: 62-66, 2008
22. 櫻井裕之：発生工学を用いた尿細管の機能再生、腎と透析、66: 339-343, 2009

III. 著書

1. 安西尚彦：尿酸トランスポーターと血清尿酸値異常、トランスレーショナルリサーチを支援する遺伝子医学MOOK 12 創薬研究者必見！ 最新トランスポーター研究 2009、株式会社メディカルドゥ、2009, p.199-205
2. 安西尚彦、金井好克：腎尿酸輸送機構—最近の話題、Annual Review 腎臓 2008、御手洗哲也等編、中外医学社、2008, p.91-99

IV. その他

1. 遠藤 仁：11. 尿酸トランスポーターURAT1によるオロト酸輸送の検討、財団法人痛風研究会平成19年度研究助成に対する概要報告書(23)、2009, p.14
2. 安西尚彦、市田公美¹、木村 徹、北村健一郎²、久留一郎³、遠藤 仁、櫻井裕之（¹東薬大・病態生理、²熊本大院・腎臓内科、³鳥取大院・再生医療）：新規尿酸トランスポーターURATv1 (SLC2A9)の機能解析と腎性低尿酸血症、文科省科研費補助金特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子構築と生理機能」平成20年度第1回班会議、淡路島、平成20年9月23-25日
3. 木村 徹、Yuewei Li¹、金井正美²、安西尚彦、川上速人²、櫻井裕之、金井好克¹（¹大阪大院・医・生体システム薬理学、²杏林大・医・解剖）：アミノ酸トランスポーターCAT5の機能とカベオリンによる調節、文科省科研費補助金特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子構築と生理機能」平成20年度第1回班会議、淡路島、平成20年9月23-25日
4. 金井好克¹、永森收志¹、木村 徹、田中秀和¹、安西尚彦、平田 拓、福富俊之（¹大阪大院・医・生体システム薬理学）：有機溶質トランスポートソーム：その構築と機能的意義、文科省科研費補助金特定領域研究「生体膜トランスポートソームの分子構築と生理機能」平成20年度第1回班会議、淡路島、平成20年9月24-26日
5. 長田道夫、横尾隆、西中村隆一、櫻井裕之、臼井丈一：腎再生研究の現状と将来性（座談会）、腎と透析、66: 369-378, 2009

病理学教室・病院病理部

I. 口演 (学会等)

1. 土岐真朗¹, 山口康晴¹, 村山隆夫¹, 川越圭¹, 田部井弘一¹, 畑英行¹, 蓮江智彦¹, 比嘉晃二¹, 田内優¹, 中村健二¹, 青木圭¹, 大倉康男, 甫守正史², 高橋信一¹ (¹杏林大・医・第三内科, ²杏林大・医・第二内科): 胃にびまん性の浸潤を来たし、稀な内視鏡所見を呈した多発性骨髄腫の1例. 第94回日本消化器病学会総会, 福岡, 平成20年5月9日.
2. 坂本穆彦: 甲状腺低分化癌の概念と定義. ワークショップ 6. 甲状腺低分化癌-up to date-. 第97回日本病理学会総会, 金沢, 平成20年5月15-17日.
3. 坂本穆彦: 卵巣性索間質性腫瘍. 特別企画 2. 卵巣腫瘍取扱い規約の改定. 第97回日本病理学会総会, 金沢, 平成20年5月15-17日.
4. 佐々木毅¹, 稲山嘉明¹, 大倉康男, 熊坂利夫¹, 逸見明博¹, 森正也¹, 横山宗伯¹, 原正道², 水口國雄², 根元則道³, 長村義之⁴, 宮城洋平⁵, 伊藤仁⁶ (¹日本病理学会社会保険小委員会, ²日本病理学会社会保険小委員会顧問, ³日本病理学会社会保険小委員会担当理事, ⁴日本病理学会理事長, ⁵神奈川県立がんセ, ⁶東海大): 病理診断における各項目の原価計算. 第97回日本病理学会総会, 金沢, 平成20年5月15-17日.
5. 佐々木毅¹, 稲山嘉明¹, 大倉康男, 熊坂利夫¹, 逸見明博¹, 森正也¹, 横山宗伯¹, 原正道², 水口國雄², 根元則道³, 長村義之⁴ (¹日本病理学会社会保険小委員会, ²日本病理学会社会保険小委員会顧問, ³日本病理学会社会保険小委員会担当理事, ⁴日本病理学会理事長): 病理医に関する疫学的データ 2007. 第97回日本病理学会総会, 金沢, 平成20年5月15-17日.
6. 三富弘之¹, 大倉康男 (¹国立病院機構相模原病院・研究検査科): 鋸歯状腺腫の亜分類とその組織学的特徴及び診断上の問題点. 第97回日本病理学会総会, 金沢, 平成20年5月15-17日.
7. 藤野節, 野村起美恵¹, 石川雄一¹, 牧野初音², 梅澤明弘², 油谷浩幸³, 坂本穆彦, 中村卓郎⁴ (¹癌研究会・癌研究所・病理部, ²国立成育医療センター・生殖医療研究部, ³東大先端研究・ゲノムサイエンス, ⁴癌研究会・癌研究所・発がん研究部): 発がんおよび腫瘍細胞の維持における EWS-POU5F1 の意義. 第97回日本病理学会総会, 金沢, 平成20年5月15-17日.
8. 坂田征士, 大倉康男, 坂本穆彦, 藤岡保範: 大腸癌のリンパ管侵襲評価における D2-40 抗体の有有用性の検討-Podoplanin 抗体および LYVE-1 抗体と比較して. 第97回日本病理学会総会, 金沢, 平成20年5月15-17日.
9. 堀田綾子, 飯原久仁子¹, 坂本穆彦 (¹東京厚生年金病院・病理): 卵巣癌における PTEN 発現の検討. 第97回日本病理学会総会, 金沢, 平成20年5月15-17日.
10. 倉田 厚: 腫瘍関連サルコイド反応. 第97回日本病理学会総会, 金沢, 平成20年5月15-17日.
11. 寺戸雄一, 石田剛^{1,2}, 福島純一¹, 藤岡保範, 今村哲夫¹ (¹帝京大・病院病理部, ²国立精神・神経センター国府台病院・臨床検査部): 後腹膜に発生した悪性転化を伴う成熟奇形腫の1例. 第97回日本病理学会総会, 金沢, 平成20年5月15-17日.
12. 川上 智寛, 佐藤 順一朗, 倉田 厚, 坂本 穆彦: SLE に合併した大動脈瘤の文献的メタ分析.

第 97 回日本病理学会総会，金沢，平成 20 年 5 月 15-17 日。

13. 佐藤 順一郎¹，川上 智寛¹，倉田 厚，藤岡 保範¹（¹杏林大・医・M5）：嚢胞状中膜壊死における MMP-12 と TGF- β の発現。第 97 回日本病理学会総会，金沢，平成 20 年 5 月 15-17 日。
14. 長友亜津子¹，阿部展次¹，松岡弘芳¹，柳田修¹，正木忠彦¹，森俊幸¹，杉山政則¹，大倉康男，藤岡保範，跡見裕¹（¹杏林大・医・消化器・一般外科）：胃癌の間膜内癌細胞に関する臨床病理学的検討。第 108 回日本外科学会定期学術集会，長崎，平成 20 年 5 月 15 日。
15. 小林啓一¹，永根基雄¹，林 基高¹，栗田浩樹¹，須永茂樹²，清水弘之²，荒井信隆³，水谷俊雄⁴，藤岡保範，塩川芳昭¹（¹杏林大・医・脳外，²東京都立神経病院脳外，³東京都立神経病院病理，⁴財団法人東京都医学研究機構東京神経科学総合研究所神経発達再生研究分野）：難治性てんかんに対する外科的治療後に発症した膠芽腫の一例。第 26 回日本脳腫瘍病理学会，東京，平成 20 年 5 月 23-24 日。
16. 山本寛¹，小山茂樹¹，滝口祥恵²，郡秀一³，海野みちる，大河戸光章¹，藤井雅彦¹（¹杏林大・保・病理学，²千葉県立東金病院検査科，³杏林大・保・細胞診断学）：前立腺腫瘍組織における nm23H1 抗体の染色性。第 57 回日本医学検査学会，札幌，平成 20 年 5 月 30 日。
17. 三輪陽介¹，高山信之¹，佐藤範英¹，横山明弘¹，鈴木亮¹，甫守正史¹，吉野秀朗¹，井野辺恵，藤野節（¹杏林大・医・第二内科）：肺のびまん性小結節影で発症し、急激な経過で死亡した lymphomatoid granulomatosis の 1 例。第 161 回臨床血液例会，川越，平成 20 年 5 月 31 日。
18. 住石歩，北澤暁子，海野みちる，坂本憲彦，水谷奈津子，市川美雄，荒井ゆり子，坂本穆彦，藤岡保範，菅間博：甲状腺篩状型乳頭癌の一例。第 49 回日本臨床細胞学会総会，東京，平成 20 年 6 月 6 日-8 日。
19. 太田雄治郎¹，齋藤生朗²，山田浩子¹，竹内務¹，堀田綾子，成田真一²，諸原眞美²，坂本穆彦（多摩南部地域病院・¹婦人科、²検査科）：子宮体部節層内に広範に浸潤した腫瘍髄伴症候群を伴う神経内分泌腫瘍の一例。第 49 回日本臨床細胞学会総会，東京，平成 20 年 6 月 6 日-8 日。
20. 矢納研二¹，平井康夫²，青木大輔³，森谷卓也⁴，坂本穆彦（¹JA 三重厚生連鈴鹿中央総合病院婦人科，²癌研有明病院婦人科，³慶應義塾大学産婦人科，⁴川崎医科大学 2 病理）：記述式報告様式を用いた子宮内膜細胞診-構想から試験運用まで-。第 49 回日本臨床細胞学会総会，東京，平成 20 年 6 月 6 日-8 日。
21. 大倉康男：切除法が多様化した時代の消化管癌診断における外科医と病理医の協力。第 33 回日本外科系連合学会学術集会，浦安，平成 20 年 6 月 13 日。
22. 藤野節，松本裕文，長谷川淳¹，田島崇¹，森井健司¹，本谷啓太²，中村卓郎³，望月一男¹，藤岡保範（¹杏林大・医・整形外科，²放射線科，³癌研究会・癌研究所・発がん研究部）：高齢者明細胞肉腫の 1 例。第 41 回 Bone Tumor Club，東京，平成 20 年 6 月 14 日。
23. 矢納研二¹，平井康夫³，青木大輔⁴，森谷卓也⁵，坂本穆彦，則松良明⁶，上森昭²，中村豊²，馬場洋一郎²，林昭伸²，早川滋彦¹，丹羽正幸¹，田畑努⁷，近藤英司⁷，山脇孝晴⁸，北畠修生⁹，村田哲也²（¹鈴鹿総合中央病院・産婦人科，²同・中央検査科，³癌研有明病院・婦人科，⁴慶應大・医・産婦人科，⁵川崎医大・第 2 病理，⁶愛媛県立医療技術大・保健科学部，⁷三重大・医・産婦人

- 科,⁸山田赤十字病院・婦人科,⁹同・病理):記述式報告様式を用いた子宮内膜細胞診の試み.第17回三重県産婦人科腫瘍研究会,津,平成20年6月19日.
- 24.坂本穆彦:婦人科腫瘍における浸潤の捉え方(教育講演).第28回婦人科病理研究会,川越,平成20年6月28日.
- 25.小松京子:病理標本適否の判定の仕方.病理技術者講習会(臨床検査同学院主催),東京,平成20年6月28日.
26. Horita A, Sakamoto A: Immunohistochemical study on cell cycle related proteins (PTEN, p27, p53, cyclin D1, cyclin E) of ovarian cancers. Joint Meeting of the Pathological Society of Great Britain and Ireland and NVVP, Leeds, July 1-4, 2008.
27. 松本浩範¹, 矢島正純¹, 渋谷裕美¹, 松尾典子¹, 岩下光利¹, 坂本穆彦(¹杏林大・医・産婦):漿膜破綻を未たした子宮体部 myxofibrosarcoma の1例.第44回日本産婦人科腫瘍学会関東連合会学術集会,名古屋,平成20年7月17日-19日.
28. 藤野節, 森井健司¹, 本谷啓太², 弦間友紀³, 吉野浩³, 別所文雄³, 望月一男¹, 藤岡保範(¹杏林大・医・整形外科,²放射線科,³小児科):神経芽腫の治療後、5年の経過で発症した、小児骨肉腫の1例.第41回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会,浜松,平成20年7月17-18日.
29. 平野和彦, 菊地文史¹, 藤原正親, 菅間博, 栗原秀一², 恒吉正澄², 稲田成作³, 森井健司³, 望月一男³, 大沢文子⁴, 本谷啓太⁴, 藤岡保範(¹NTT 東日本関東病院・病理,²九大大学院・医・病理,³杏林大・医・整形外科,⁴杏林大・医・放射線科):腹壁軟部腫瘍の1例.第41回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会,浜松,平成20年7月17-18日.
30. 今給黎直明¹, 藤野節, 森井健司¹, 本谷啓太², 望月一男¹, 里見和彦², 藤岡保範(¹杏林大・医・整形外科,²放射線科):膝軟部腫瘍の1例.第41回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会,浜松,平成20年7月17-18日.
31. 小松京子(技師賞受賞者記念講演):細胞診領域における遺伝子解析の有用性.日本臨床細胞学会教育セミナー 東京,平成20年7月23日.
32. Komatsu K (Special Lecture): Gene analysis Molecular biology & Gene analysis. 28th World Congress of Biomedical Laboratory Science, New Delhi, July 24-28, 2008.
33. Komatsu K (Panel): Biomedical Laboratory Science Present and Future. 28th World Congress of Biomedical Laboratory Science. New Delhi, July 24-28, 2008.
34. 小松京子(技師賞受賞者記念講演):細胞診領域における遺伝子解析の有用性.日本臨床細胞学会教育セミナー 大阪,平成20年7月31日.
35. 土岐真朗¹, 山口康晴¹, 村山隆夫¹, 川越圭¹, 田部井弘一¹, 畑英行¹, 蓮江智彦¹, 比嘉晃二¹, 田内優¹, 中村健二¹, 中村一久¹, 青木圭¹, 原留弘樹², 峯佳毅¹, 阿部展次³, 大倉康男, 杉山政則³, 跡見裕³, 高橋信一¹(¹杏林大・医・第三内科,²杏林大・医・放射線科,³杏林大・医・外科):非特異的な画像所見を呈した腓尾部腫瘍の1例.第39回日本腓臓学会大会,横浜,平成20年7月31日.
36. 妹尾孝浩¹, 土岐真朗¹, 村山隆夫¹, 川越圭¹, 田部井弘一¹, 畑英行¹, 蓮江智彦¹, 比嘉晃二¹, 田内優¹, 中村健二¹, 鈴木裕², 林田真理¹, 青木圭¹, 原留弘樹², 山口康晴¹, 阿部展次³, 大倉

- 康男, 杉山政則³, 跡見裕³, 高橋信一¹ (¹杏林大・医・第三内科, ²杏林大・医・放射線科, ³杏林大・医・外科): 興味ある画像所見を呈した腭体部癌の1例. 第39回日本膵臓学会大会, 横浜, 平成20年7月31日.
37. 大倉康男: 「口腔粘膜上内癌の診断について: 食道, 子宮頸部の診断基準との比較」 2. 食道の上皮内癌の病理組織診断基準. 第42回日本病理学会近畿支部学術集会, 西宮, 平成20年9月6日.
38. 成田真一¹, 齋藤生朗¹, 竹内務², 太田雄治郎², 諸原眞美¹, 堀田綾子, 坂本穆彦 (多摩南部地域病院・¹検査科, ²婦人科): 膈壁に発生した spindle cell carcinoma の1例. 第22回日本臨床細胞学会関東連合会学術集会, 東京, 平成20年9月20日.
39. 大喜多佑美¹, 海野みちる, 飯島淳子¹, 郡秀一¹, 旗ひろみ¹, 坂本穆彦, 安井英明¹ (¹杏林大・保・細胞診断学): 乳癌細胞における VEGF 発現の免疫染色における検討. 第22回日本臨床細胞学会関東連合会学術集会, 東京, 平成20年9月20日.
40. 太田雄治郎¹, 齋藤生朗², 中川道子¹, 竹内務¹, 堀田綾子, 成田真一², 諸原眞美², 坂本穆彦 (多摩南部地域病院・¹婦人科, ²検査科): 明細胞癌成分を伴った子宮体部類内膜腺癌の2例. 第22回日本臨床細胞学会関東連合会学術集会, 東京, 平成20年9月20日.
41. 大倉康男: 「炎症性腸疾患と大腸癌の内視鏡所見と病理組織」第2部: 大腸癌 2. 早期大腸癌の診断 1) 治療法決定に必要な早期大腸癌の病理. 日本内視鏡学会第24回重点卒後教育セミナー, 東京, 平成20年9月23日.
42. 小松京子: 英文論文の訳し方のコツ I. 一級技師のための総合管理と英語講習会, 平成20年9月28日.
43. 宍戸-原由紀子, 内原俊記¹, 市野瀬志津子² (¹東京都神経研, ・神経学, ²東京医科歯科大・機器分析センター・中央電顕室): 進行性多巣性白質脳症の核内ドット -ウイルス複製を支持する PML ボディ-. 第40回日本臨床分子形態学会総会ならびに学術集会 シンポジウム5 神経系の分子形態科学-基礎と臨床-, 福岡, 平成20年10月1日.
44. 海野みちる: 卵巣腫瘍. 平成20年度 第1回細胞診従事者講習会ならびに第51回日本臨床細胞学会栃木県支部学術講演会, 栃木県壬生町, 平成20年10月4日.
45. 中里陽子¹, 古屋敦剛¹, 吉田勤¹, 増井一夫¹, 輿石義彦¹, 松本裕文, 菅間博, 坂本穆彦, 呉屋朝幸¹ (¹杏林大・医・外科): コロイドの粘液変性を示す濾胞腺腫の1例. 第41回日本甲状腺外科学会学術集会, 東京, 平成20年10月16-17日.
46. 佐藤 順一郎¹, 川上 智寛¹, 倉田 厚, 坂本 穆彦, 藤岡 保範, 中林 公正² (¹杏林大・医・M5, ²杏林大・医・第一内科): SLE に合併した多発大動脈瘤の一例と文献的メタ分析. 第13回血管病理研究会, 東京, 平成20年10月18日.
47. 今井昌康¹, 原留弘樹¹, 魚住和史¹, 似鳥俊明¹, 中里徹矢², 杉山政則², 跡見裕², 藤原正親 (¹杏林大・医・放射線科, ²杏林大・医・第一外科): 横隔膜腫瘍と鑑別が困難であった淡明細胞型肝内胆管細胞癌の1例. 第44回日本医学放射線学会秋期臨床大会, 郡山, 平成20年10月22-24日.

48. 藤野節, ¹野村起美恵, ¹石川雄一, ²牧野初音, ²梅澤明弘, ³油谷浩幸, 坂本穆彦, ⁴中村卓郎 (¹癌研究会・癌研究所・病理部, ²国立成育医療センター・生殖医療研究部, ³東大先端研究・ゲノムサイエンス, ⁴癌研究会・癌研究所・発がん研究部) : 発がんおよび腫瘍細胞の維持における EWS-POU5F1 の機能 (The functional roles of EWS-POU5F1 in carcinogenesis and tumor cell maintenance). 第 67 回日本癌学会総会, 名古屋, 平成 20 年 10 月 28-30 日.
49. Hirokawa M¹, Sakamoto A, Maekawa M¹, Yanase Y¹, Kuma S¹, Miyauchi A² (¹Dept. of Diagnostic Pathology and Cytology, and ²Dept. of Surgery, Kuma Hospital): Cytology of poorly differentiated thyroid carcinoma. 7th Korea-Japan Joint Meeting for Diagnostic Cytology. Korea. Nov. 1, 2008.
50. 倉田厚, 高山信之¹, 坂本仁美², 平野和彦, 藤岡保範 (¹杏林大・医・第二内科, ²杏林大・医・第一外科) : 多重癌に合併した脾臓サルコイド反応の 1 例. 第 28 回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会, 仙台, 平成 20 年 11 月 7 日.
51. 大倉康男 : 上部消化管における病理. 埼玉県放射線技師会第 8 回上部消化管検査認定技師講習会, さいたま, 平成 20 年 11 月 9 日.
52. 藤野節, 堀田綾子, 田島崇¹, 森井健司¹, 本谷啓太², 望月一男¹, 藤岡保範 (¹杏林大・医・整形外科, ²放射線科) : 骨形成不全症の 1 1 歳女兒に発症した右大腿骨腫瘍. 第 42 回 Bone Tumor Club, 福岡, 平成 20 年 11 月 14 日.
53. 弦間友紀¹, 吉野浩¹, 藤野節, 藤岡保範, 菝澤融司², 伊藤泰雄², 大西宏明³, 別所文雄¹ (¹杏林大・医・小児科, ²小児外科, ³臨床検査医学) : 二次がんを発症した神経芽腫の 3 例. 第 24 回日本小児がん学会, 東京, 平成 20 年 11 月 14-16 日.
54. 菅間 博, 水谷 奈津子 : スライドセミナー Case 5 (乳腺). 第 47 回日本臨床細胞学会秋季大会, 東京, 平成 20 年 11 月 14-15 日.
55. 小松京子 : 細胞診 UP-T0-DATE 免疫染色と遺伝子解析の実際. 第 47 回日本 5 臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成 20 年 11 月 14-15 日.
56. 市川美雄, 水谷奈津子, 斉藤誠人, 岩本望, 坂本憲彦, 小松京子, 藤野節, 藤岡保範, 坂本穆彦 : 耳下腺角化嚢胞腫の 1 例. 第 47 回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成 20 年 11 月 14-15 日.
57. 太田雄治郎¹, 齋藤生朗², 中川道子¹, 竹内務¹, 堀田綾子, 成田真一², 諸原眞美², 中井晶子³, 坂本穆彦 (¹多摩南部地域病院・婦人科, ²同・検査科, ³日医大多摩永山病院・女性診療科産科) : 上皮内に限局した子宮頸部明細胞癌の 1 例. 第 47 回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成 20 年 11 月 14-15 日.
58. 大喜多佑美¹, 鈴木瞳¹, 海野みちる, 飯島淳子¹, 郡秀一¹, 旗ひろみ¹, 郷田敦史², 坂本穆彦, 安井英明¹ (¹杏林大・保健学部・細胞診断学, ²聖マリ医大病院・病理部) : 消化器癌細胞における Topoisomerase II の発現の免疫組織化学的検討. 第 47 回日本臨床細胞学会秋期大会, 東京, 平成 20 年 11 月 14-15 日.
59. 山本寛², 郡秀一¹, 大河戸光章², 藤井雅彦², 寺戸雄一, 海野みちる, 滝口祥恵³ (¹杏林大・保・

細胞診断学,²杏林大・保・病理学,³千葉県立東金病院検査科):前立癌 Gleason 分類と nm23H1 蛋白の染色性 - 前立腺ラテント癌と臨床癌は細胞生物学的に同一体か? - . 第 45 回関東甲信地区医学検査学会, 甲府, 平成 20 年 11 月 15 日.

60. 小松京子: 悪性中皮腫の細胞診. 神奈川県細胞診従事者講習会, 伊勢原, 平成 20 年 11 月 29 日.
61. 川越圭¹, 田内優¹, 大野亜希子¹, 林田真理¹, 土岐真朗¹, 青木圭¹, 山口康晴¹, 小林敬明², 杉山政則², 知念克也, 大倉康男, 高橋信一¹ (¹杏林大・医・第三内科, ²杏林大・医・外科): 血便を契機に発見された小腸脂肪腫の 1 例. 第 87 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成 20 年 12 月 12 日.
62. 小松京子: 細胞診断に役立つ分子生物学. 東京都細胞診従事者講習会, 多摩, 平成 20 年 12 月 18 日.
63. 大倉康男: 食道上皮内癌の病理診断と諸問題. 第 252 回広島胃と腸疾患研究会, 広島, 平成 21 年 1 月 10 日.
64. Sakamoto A: Some cytologic features of poorly differentiation of thyroid papillary and follicular carcinomas. The 16th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology. Pattaya, Thailand. Jan. 14-16, 2009.
65. Kurata A, Komatsu K, Sakamoto A: A case of atypical polypoid adenomyosis in endometrial hyperplasia, complex. The 16th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology. Pattaya, Thailand. Jan. 14-16, 2009.
66. 小松京子: 国際臨床検査技師会 (International Federation of Biomedical Laboratory Science) の活動について. JICA 臨床検査技師研修者研修, 東京, 平成 21 年 1 月 20 日.
67. 大倉康男: 大腸上皮性腫瘍の生検組織診断—大腸癌取扱い規約の改訂点を中心に—. 第 8 回北多摩開業医消化器内視鏡勉強会, 東京, 平成 21 年 1 月 24 日.
68. 小松京子, 古川里奈, 水谷奈津子, 田島訓子, 加藤和夫, 市川美雄, 坂本憲彦, 藤岡保範: 法改正によるホルマリン取り扱いに関する検討. 杏林大学看護部勉強会, 平成 21 年 2 月 7 日.
69. 海野みちる: 細胞検査技術向上にむけて—基礎から実戦: 脳腫瘍領域, 平成 20 年度 検査研究部門研修会, 講義と実習, 松本, 平成 21 年 2 月 7-8 日.
70. 倉田勇¹, 田内優¹, 大野亜希子¹, 川越圭¹, 内田康仁¹, 畑英行¹, 蓮江智彦¹, 比嘉晃二¹, 中村健二¹, 土岐真朗¹, 青木圭¹, 山口康晴¹, 高橋信一¹, 大倉康男, 倉田厚 (¹杏林大・医・第三内科): 歩行困難を契機に発見された食道小細胞癌の 1 例. 第 5 回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 平成 21 年 2 月 12 日.
71. 藤野節, 堀田綾子, 藤岡保範, 田島崇¹, 森井健司¹, 望月一男¹, 本谷啓太², 大沢文子² (¹杏林大・医・整形外科, ²放射線科): 散発性の骨形成不全症を背景に生じた右大腿骨過形成性仮骨の 1 例. 第 19 回関東小児整形外科研究会, 東京, 平成 21 年 2 月 14 日.
72. 坂本穆彦: ベセスダ・システム導入と今後の課題. 特別講演. 秋田県医師会平成 20 年度第 3 回子宮癌検診従事医師及び細胞検査士研修会, 秋田, 平成 21 年 3 月 14 日.
73. 西山和利^{1, 2}, 岡村耕一^{1, 3}, 岡野晴子^{1, 2}, 栗田浩樹^{1, 3}, 千葉厚郎², 山口芳裕^{1, 4}, 藤岡保範 (¹杏林大・脳卒中センター, ²杏林大・神経内科, ³杏林大・脳神経外科, ⁴杏林大・救急): rt-PA 静

注療法と心破裂に関する臨床検討. 第34回日本脳卒中学会総会, 島根, 平成21年3月20-22日.

74. Sakamoto A: Intraoperative ovarian tumor cytology: An introduction of the guidelines in Japan (Special lecture). The 5th China-Japan Joint Meeting for Diagnostic Cytopathology. Guangzhou, China, March 27-28, 2009.
75. Hirokawa M¹, Miyauchi A², Maekawa M¹, Yanase Y¹, Kuma S¹, Sakamoto A (1Dept. Diagnostic Pathology and Cytology, 2Dept. Surgery, Kuma Hospital): Poorly differentiated thyroid carcinoma—comparison of cytologic and histopathologic findings (Special lecture). The 5th China-Japan Joint Meeting for Diagnostic Cytopathology. Guangzhou, China, March 27-28, 2009.
76. Ohkura Y : Measurement of the level of submucosal invasion in early colorectal carcinoma. The 10th Update on Colorectal Cancer Surgery, Shinjuku, Mar. 27, 2009.

II. 論文

1. Matsumoto H, Sakamoto A, Fujiwara M, Yano Y¹, Shishido-Hara Y, Fujioka Y, Kamma H (1Ito Hospital): Decreased expression of the thyroid-stimulating hormone receptor in poorly-differentiated carcinoma of the thyroid. *Oncol Rep* 19: 1405-1411, 2008.
2. Hirano K, Shishido-Hara Y, Kitazawa A, Kojima K, Sumiishi A, Umino M, Kikuchi F, Sakamoto A, Fujioka Y, Kamma H: Expression of stem cell factor (SCF), a KIT ligand, in gastrointestinal stromal tumors (GISTs): A potential marker for tumor proliferation. *Pathol Res Pract* 204:799-807, 2008.
3. Sato J, Kawakami T, Nakabayashi K¹, Fukuoka K¹, Hirano K, Terado Y, Yokoyama K², Ohtsuka T¹, Ohkura Y, Fujioka Y, Kurata A (1Dept. Int. Med., Kyorin Univ., 2Dept. Radiol., Kyorin Univ.): Multiple aortic aneurysms complicated by a rupture in the systemic lupus erythematosus: a case report. *Pathol Res Pract* 204:845-850, 2008.
4. Shishido-Hara Y, Higuchi K¹, Ohara S², Duyckaerts C³, Hauw JJ³, Uchihara T⁴ (1Section of Pathology, Aizawa Hosp., 2Department of Neurology, National Chushin-Matsumoto Hosp., 3Laboratoire Raymond Escourle, Service de Neuropathologie, Association Claude Bernard, Groupe hospitalier Pitie-Salpetriere, Paris, 4Department of Neurology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience): Promyelocytic Leukemia Nuclear Bodies Provide a Scaffold for Human Polyomavirus JC Replication and Are Disrupted after Development of Viral Inclusions in Progressive Multifocal Leukoencephalopathy. *J Neuropathol Exp Neurol.* 67: 299-308, 2008.
5. Komatsu K, Komatsu A¹, Nakanishi Y², Sugitani M², Nemoto N² (1Jiseikai Hospital • Pathology, 2Nihon University School of Med • Pathology) : Application of Liquid-Based Preparation to Fine Needle Aspiration Cytology in Breast Cancer. *Acta Cytol* 52: 591-596, 2008.
6. Saraya T¹, Shimura C¹, Mikura S¹, Yasutake T¹, Kato J¹, Yokoyama T¹, Kurai D¹, Fujino T, Yokoyama K², Furuyashiki G³, Wada H¹, Ishii H¹, Goto H¹ (1Dept. Respiratory Medicine, Kyorin Univ., 2Dept. Radiology, Kyorin Univ., 3Dept. Thoracic Surgery, Kyorin Univ.): Huge mediastinal mass with SVC syndrome

- accompanying numerous chest wall collateral vessels. Intern Med 47:1719-1722, 2008.
7. Nakamura T¹, Mitomi H², Kanazawa H³, Ohkura Y, Watanabe M¹ (¹Dept. Surg., Sch. Med., Kitasato Univ, ²Dept. Clin. Res. Lab., Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ³Dept. Surg., Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp.): Tumor budding as an index to identify high-risk patients with stage II colon cancer. Dis Colon Rectum 51:568-572, 2008.
 8. Kishimoto I¹, Mitomi H², Ohkura Y, Kanazawa H¹, Fukui N³, Watanabe M⁴ (¹Dept. Surg., Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ²Dept. Clin. Res. Lab. (Pathol. Division) , Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ³Dept. Pathomechanisms, Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ⁴Dept. Surg., Sch. Med., Kitasato Univ.): Abnormal expression of p16(INK4a), cyclin D1, cyclin-dependent kinase 4 and retinoblastoma protein in gastric carcinomas. J Surg Oncol. 98:60-66, 2008.
 9. Mitomi H¹, Kishimoto I², Amemiya A², Kaneda G², Adachi K³, Shimoda T³, Takigawa M⁴, Fukui N⁵, Ohkura Y (¹Dept. Clin. Res. Lab. (Pathol. Division), ²Dept. Surg., Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ³Dept. Gastroenterol., Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ⁴Dept. Radiol., Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ⁵Dept. Pathomechanisms, Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp.) : Advanced gastric cancer showing long-term complete remission in response to S-1 monotherapy: two case reports. Cases J. 18:405, 2008.
 10. Morii T¹, Mochizuki K¹, Sano H¹, Fujino T, Harasawa A², Satomi K¹ (¹Dept. Orthopaedic Surgery, Kyorin Univ., ²Dept. Radiology, Musashimurayama Hosp.): Occult myofibroblastic sarcoma detected on FDG-PET performed for cancer screening. Ann Nucl Med 22:811-815, 2008.
 11. Saito K¹, Kaminaga T², Muto S¹, Ide H¹, Nishio K¹, Kamiyama Y¹, Okada H³, Terado Y, Furui S², Horie S¹(¹Department of Urology, Teikyo University School of Medicine, ²Department of Radiology, Teikyo University School of Medicine, ³Department of Urology, Dokkyo Medical University): Clinical efficacy of proton magnetic resonance spectroscopy (¹H-MRS) in the diagnosis of localized prostate cancer. Anticancer Res 28:1899-1904, 2008.
 12. Ide H¹, Nakagawa T¹, Terado Y, Yasuda M¹, Kamiyama Y¹, Muto S¹, Horie S¹(¹Department of Urology, Teikyo University School of Medicine): DNA damage response in prostate cancer cells after high-intensity focused ultrasound (HIFU) treatment. Anticancer Res 28:639-643, 2008.
 13. Ide H¹, Hatake K², Terado Y, Tsukino H³, Okegawa T⁴, Nutahara K⁴, Higashihara E⁴, Horie S¹(¹Department of Urology, Teikyo University School of Medicine, ²Department of Medical Oncology, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, ³Department of Urology, Miyazaki University School of Medicine, ⁴Department of Urology, Kyorin University School of Medicine): Serum level of macrophage colony-stimulating factor is increased in prostate cancer patients with bone metastasis. Hum Cell 21:1-6, 2008.
 14. Chinen K, Fujino T, Horita A, Sakamoto A, Fujioka Y: Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy caused by an ovarian cancer expressing tissue factor and vascular endothelial growth factor. Pathol Res Pract 205:63-68, 2009.
 15. Nagane M¹, Nozue K¹, Shimizu S¹, Waha A², Miyazaki H¹, Kurita H¹, Homori M³, Fujioka Y, Shiokawa Y¹ (¹Dept. Neurosurgery, Kyorin Univ., ²Dept. Neurophysiology, Univ. Bonn, ³Dept. Hematology, Kyorin Univ.): Prolonged and severe thrombocytopenia with pancytopenia induced by radiation-combined temozolomide

therapy in a patient with newly diagnosed glioblastoma – analysis of O^6 -methylguanine-DNA methyltransferase status. *J Neurooncol* 92:227-232, 2009.

16. 大倉康男：【胃癌のすべて】胃癌の組織型. 消外 31: 540-545, 2008.
17. 中島寛隆¹, 長浜隆司¹, 大倉康男 (¹早期胃癌検診協会中央診療所): 白色調を呈した 0-IIa 型食道早期癌の 1 例. 胃と腸 43: 1134-1136, 2008.
18. 中島寛隆¹, 長浜隆司¹, 大倉康男, 山本栄篤¹, 吉田諭史¹, 馬場保昌¹, 吉田操¹ (¹早期胃癌検診協会中央診療所): 内視鏡経過例における胃癌発育の遡及的検討—背景粘膜からみて. 胃と腸 43: 1765-1776, 2008.
19. 三富弘之¹, 大倉康男 (¹国立病院機構相模原病院・研究検査科病理): 病理学的に逆追跡可能な早期胃癌症例の解析—多施設症例の検討. 胃と腸 43: 1784-1797, 2008.
20. 錦織達人¹, 松本寛¹, 中野大輔¹, 山口達郎¹, 高橋慶一¹, 岩崎善毅¹, 大橋学¹, 布部創也¹, 岩永知大¹, 根本哲生², 船田信顕², 仲谷弘明³, 大倉康男 (¹都立駒込病院・外科, ²都立駒込病院・病理科, ³仲谷クリニック): 術後 1 年後に多発肝転移再発を来した S 状結腸 sm 癌の 1 例. 癌と化療 35: 2144-2146, 2008.
21. 中村尚志¹, 大倉康男, 山村彰彦², 大野康寛³ (¹調布外科・消化器科内科クリニック, ²東京都多摩がん検診セ・検査科, ³東京都多摩がん検診セ・消化器科): 臨床病理形態学的特徴からみた大腸 IIc 型癌の発育・進展と悪性度. 早期大腸癌 12:553-564, 2008.
22. 菅間博、中山英里、宍戸-原由紀子：癌前駆病変としての乳管内増殖性病変—WHO分類の立場からの解説—. 診断病理 25: 57-63, 2008.
23. 菅間博：甲状腺低分化癌の組織所見のコンセンサス. 病理と臨 26: 629-636, 2008.
24. 藤原正親, 市川美雄, 坂本憲彦, 知念克也, 坂本穆彦：超音波ガイド下経気管支針吸引により癌の転移との鑑別を行った珪肺症に伴う縦隔リンパ節腫大の 1 例. 日臨細胞誌 47: 393-394, 2008.
25. 藤原正親, 菅間博, 大塚弘毅¹ (¹杏林大・医・臨床検査医学): 中皮腫の病態. 臨検 52:968-972, 2008.
26. 宍戸-原由紀子：進行性多巣性白質脳症 (PML) の核内ウイルス封入体形成と細胞変性における PML ボディの役割 —JC ウイルスの分子生物学から、進行性多巣性白質脳症の人体病理学まで—. 病理と臨 26: 999-1006, 2008.
27. 宍戸-原由紀子, 内原 俊記：What you can see in a single picture ? 進行性多巣性脳症 (PML) と PML ボディ 癌化か? 変性か? — ウイルス感染による PML ボディの機能破綻がもたらす細胞の運命 —. *Brain Med* 20: 207-209, 2008.
28. 宍戸-原由紀子：進行性多巣性白質脳症 (PML). *Clin Neurosci* (臨床神経科学) 27: 250-251, 2009.
29. 大倉康男：内視鏡医のための腸管病理組織学入門 潰瘍性大腸炎の生検組織診断. *G. I. Res* 17:67-71, 2009.
30. 尾花ゆかり¹, 生沼利倫¹, 杉谷雅彦¹, 小松京子, 根本則道¹ (¹日本大・医・病理学): 細胞診が早期発見に役立った悪性中皮腫の 1 例. 日臨細胞会誌 47: 205-210, 2008.

III. 著書

1. 坂本穆彦：病理学. 2009 年版系統別看護師国家試験問題解答解説. 系統看護学講座編集室編. 2008. p. 151-168.
2. 坂本穆彦, 北川昌伸, 菅野純：組織病理カラーアトラス. 医学書院. 2008.

3. 坂本穆彦・都竹正文：細胞診セルフアセスメント. 増補版. 医学書院. 2008.
4. 坂本穆彦：細胞診とは. MDIC 標準テキスト. 臨床医学・医療機器工学 (2008・初版). 日本医療機器学会 MDIC 認定編集委員会. 2008. p. 57-58.
5. 坂本穆彦：病理解剖. MDIC 標準テキスト. 臨床医学・医療機器工学 (2008・初版). 日本医療機器学会 MDIC 認定編集委員会. 2008. p. 57-58.
6. 坂本穆彦：細胞診検査. 臨床検査ガイド 2009-2010. Medical Practice 編集委員会編. 文光堂. 2009. p. 991-996.
7. 坂本穆彦・他 (責任編集)：医学書院医学大事典. 第 2 版. 医学書院. 2009 年.
8. 大倉康男：消化管病理標本の読み方 改訂 2 版 4 胃 A. 非腫瘍性病変. 中村眞一編. 東京, 日本メディカルセンター, 2008. p. 45-57.
9. 小松京子：酵素抗体法. 実践病理組織細胞診染色法カラー図鑑<第三版>. 畠山重春編. 東京, 文光堂, 2008. p. 198-224.
10. 小松京子：病理組織細胞学. 臨床検査技師ポケット・レビュー帳 下巻, 芝清子編. 東京, メジカル・ビュー社, 2009. p. 49-72.

IV. その他

1. 坂本穆彦 (パネリスト)：パネルディスカッション. 今後の日本における大学の病理学講座 (分野) の在り方. 第 54 回日本病理学会秋期特別総会, 松山, 平成 20 年 11 月 20 日-21 日.
2. 宍戸-原由紀子：進行性多巣性白質脳症 (PML) 脳生検の現状 -生検 3 症例の報告-. 厚生労働省 特定疾患 プリオン病及び遅発性ウイルス感染に関する調査研究班 平成 19 年度研究報告書.
3. 大倉康男 (主催)：第 3 回 GIPC (Gastrointestinal pathology club), 金沢, 平成 20 年 5 月 15 日.
4. 菅間博：医学大辞典 第 2 版 (伊藤・井村・高久 編)・(分担)「病理、細胞診」事項のアポトーシス他. 医学書院, 東京, 2008.
5. 小松京子：一口英会話. 会報 JAMT, 東京, 日本臨床衛生検査技師会編, 東広社, 東京, 平成 20 年 4 月 1 日 p. 7.
6. 小松京子：一口英会話. 会報 JAMT, 東京, 日本臨床衛生検査技師会編, 東広社, 東京, 平成 20 年 5 月 1 日 p. 7.
7. 小松京子：一口英会話. 会報 JAMT, 東京, 日本臨床衛生検査技師会編, 東広社, 東京, 平成 20 年 6 月 1 日 p. 7.
8. 小松京子：一口英会話. 会報 JAMT, 東京, 日本臨床衛生検査技師会編, 東広社, 東京, 平成 20 年 7 月 1 日 p. 7.
9. 小松京子：一口英会話. 会報 JAMT, 東京, 日本臨床衛生検査技師会編, 東広社, 東京, 平成 20 年 8 月 1 日 p. 7.
10. 小松京子：一口英会話. 会報 JAMT, 東京, 日本臨床衛生検査技師会編, 東広社, 東京, 平成 20 年 9 月 1 日 p. 7.
11. 小松京子：一口英会話. 会報 JAMT, 東京, 日本臨床衛生検査技師会編, 東広社, 東京, 平成 20 年

- 10月1日 p.7.
12. 小松京子：一口英会話．会報 JAMT，東京，日本臨床衛生検査技師会編，東広社，東京，平成20年11月1日 p.7.
 13. 小松京子：一口英会話．会報 JAMT，東京，日本臨床衛生検査技師会編，東広社，東京，平成20年12月1日 p.7.
 14. 小松京子：一口英会話．会報 JAMT，東京，日本臨床衛生検査技師会編，東広社，東京，平成21年1月1日 p.7.
 15. 小松京子：一口英会話．会報 JAMT，東京，日本臨床衛生検査技師会編，東広社，東京，平成21年2月1日 p.7.
 16. 小松京子：一口英会話．会報 JAMT，東京，日本臨床衛生検査技師会編，東広社，東京，平成21年3月1日 p.7.
 17. 小松京子：細胞検査士への道．文京学園進路ガイダンス，東京，平成20年7月5日.
 18. 小松京子：英語の基礎(一級試験一般英語試験レベルに準じて)．一級技師のための総合管理と英語講習会，平成20年7月6日.
 19. 小松京子：英語論文の読み方のコツⅡ．一級技師のための総合管理と英語講習会，平成20年11月2日.
 20. 小松京子：英語論文の書き方のコツ．一級技師のための総合管理と英語講習会，平成21年1月11日.

感染症学教室（微生物）

I. 口演（学会等）

1. 大崎敬子, 蔵田訓, 朝原崇¹, 野本康二¹, 神谷茂 (¹ヤクルト中央研究所) : *Helicobacter pylori* 感染によるスナネズミ胃内フローラ構成菌の変動について. 第 82 回日本感染症学会総会, 松江, 平成 20 年 4 月 17-18 日.
2. 蔵田訓, 田口晴彦¹, 大崎敬子, 神谷茂 (¹杏林大・保健・免疫学) : 肺炎マイコプラズマ感染が気管支喘息に及ぼす影響. 第 82 回日本感染症学会総会, 松江, 平成 20 年 4 月 17-18 日.
3. 倉井大輔¹, 皿谷健¹, 和田裕雄¹, 平尾晋¹, 明石敏², 神谷茂, 後藤元 (¹杏林大・呼吸器内科, ²大正製薬株式会社) : マイコプラズマ肺炎マウスモデルにおける IL-17 の関与の検討. 第 82 回日本感染症学会総会, 松江, 平成 20 年 4 月 17-18 日.
4. 皿谷健¹, 倉井大輔¹, 平尾晋¹, 和田裕雄¹, 石井晴之¹, 蔵田訓, 神谷茂, 田口晴彦², 明石敏³ (¹杏林大・呼吸器内科, ²杏林大・保健・免疫学, ³大正製薬株式会社) : ヒト型マイコプラズマ肺炎マウスモデルに及ぼすクラリスロマイシンの効果の検討. 第 82 回日本感染症学会総会, 松江, 平成 20 年 4 月 17-18 日.
5. 田口晴彦¹, 蔵田訓, 新江賢¹, 小野川傑¹, 佐々木次雄², 神谷茂 (¹杏林大・保健・免疫学, ²国立感染症研究所細菌第二部) : マクロライド耐性 *Mycoplasma pneumoniae* 感染モデルにおける抗マイコプラズマ薬の有効性. 第 82 回日本感染症学会総会, 松江, 平成 20 年 4 月 17-18 日.
6. 神谷茂 (特別講演) : 感染症とプロバイオティクス. 日本生菌製剤協会第20回通常総会, 東京, 平成20年5月26日.
7. Kamiya S : Animal models for gastrointestinal pathological and functional studies. The PC Trexler lecture, XVI Symposium of the International Association on Gnotobiology, XXXI Congress of the Society of Microbial Ecology and Diseases, Stockholm, May 28-30, 2008.
8. Sobko T, Midvedt T & Kamiya S : Effect of luminal bacteria on the circulatory and gastrointestinal nitrate metabolism. XVI Symposium of the International Association on Gnotobiology, XXXI Congress of the Society of Microbial Ecology and Diseases, Stockholm, May 28-30, 2008.
9. 神谷茂 (シンポジスト) : *Clostridium difficile*感染と腸内フローラ. 第12回日本腸内細菌学会, シンポジウム1「腸内フローラの破綻と病原性発現-臨床の立場から-」東京, 平成20年6月12-13日.
10. 岡健太郎¹, 杉山絵美¹, 田中守¹, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 高橋志達¹, 田口晴彦², 稲松孝思³, 神谷茂 (¹ミヤリサン製薬株式会社, ²杏林大・保健・免疫学, ³東京老人医療センター・感染症科) : Metronidazoleと乾燥卵白を用いたラット抗菌薬関連下痢症モデルにおける*Clostridium butyricum* MIYAIRI 588の有効性についての検討. 第12回日本腸内細菌学会, 東京, 平成20年6月12-13日.
11. 大崎敬子, 花輪智子, 米澤英雄, Zaman C, 神谷茂 : *H. pylori luxS*変異株におけるニッケル取り込みとウレアーゼ活性について. 第 14 回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 平成 20 年 6 月 26-27 日.
12. 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂 : *Helicobacter pylori* バイオフィルム形成能と病原性. 第 14 回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 平成 20 年 6 月 26-27 日.
13. 花輪智子, 米澤英雄, 宮崎善史¹, 大崎敬子, 神谷茂 (¹日本医大・微生物免疫) : 細胞表層応答の百

日咳菌のバイオフィルム形成における役割. 第 22 回 Bacterial Adherence & Biofilm 学術集会, 淡路, 平成 20 年 7 月 4-5 日.

14. Brickman TJ¹, Hanawa T, Anderson MT², Suhadolc RJ¹ & Armstrong SK¹ (¹University of Minnesota, ²Northwestern University) : *In vivo* regulation and temporal expression patterns of *bordetella pertussis* iron transport systems. 6th International Biometals Symposium (BioMetals 2008), Santiago de Compostela, Spain, July 14-18, 2008.
15. Kamiya S, Hanawa T, Zaman C, Yonezawa H, Bai CL¹ & Osaki T (¹United Graduate School of Agricultural Science Tokyo and University of Agriculture and technology) : Quorum sensing in *Helicobacter pylori* infection. The 9th Korea-Japan International Symposium on Microbiology 2008, Seoul, Oct.16-17, 2008.
16. 岡健太郎¹, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 杉山絵美¹, 高橋志達¹, 田中守¹, 田口晴彦², 稲松孝思³, 神谷茂(¹ミヤリサン製薬, ²杏林大・保・免疫学, ³東京老人医療センター・感染症科) : Metronidazole と乾燥卵白を用いたラット抗菌薬関連下痢症モデルにおける *Clostridium butyricum* の有効性についての検討. 第91回日本細菌学会関東支部総会, 千葉, 2008年10月23-24日.
17. 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂 : *Helicobacter pylori* バイオフィルム形成がおよぼすクラリスロマイシン耐性への影響. 第 91 回日本細菌学会関東支部総会, 千葉, 平成 20 年 10 月 23-24 日.
18. 神谷茂 : 腸内細菌ってなに? ~プロバイオティクスと健康~. 日本炎症性腸疾患協会講演会「腸内細菌と腸の病気~潰瘍性大腸炎・クローン病・過敏性腸症候群」, 東京, 平成20年10月25日.
19. Zaman C, Osaki T, Hanawa T, Yonezawa H, Kurata S & Kamiya S : Analysis of gastric flora regulating colonization of *H. pylori* in Mongolian gerbil. 第 37 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 20 年 11 月 15 日.
20. 白翠蘭¹, 大崎敬子, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 田中秀幸¹, 神谷茂 (¹宇都宮大農学部生物化学研究室) : *Helicobacter pylori* に対するアムール7の効果. 第 42 回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 大阪, 平成 21 年 1 月 23-24 日.
21. 大崎敬子, Zaman C, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 田口晴彦¹, 朝原崇², 松木隆広², 野本康二², 神谷茂 (¹杏林大学医学部保健学部免疫学研究室, ²ヤクルト中央研究所) : *Helicobacter pylori* 感染スナネズミの胃内細菌叢についての解析. 第 42 回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 大阪, 平成 21 年 1 月 23-24 日.
22. 神谷茂 : ディフィシル菌感染症と院内感染対策. 第114回感染防止研究会, 東京, 平成21年2月7日.
23. 神谷茂, 白翠蘭¹, 大崎敬子, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 田中秀幸¹ (¹宇都宮大農学部生物化学研究室) : モンゴル薬アムール7の*Helicobacter pylori*に対する効果. 第13回日本小児*H. pylori*研究会, 名古屋, 平成21年3月7日.
24. 大崎敬子, 甲斐雅則¹, 米澤英雄, Zaman C, 花輪智子, 蔵田訓, 牧野正彦¹, 神谷茂 (¹国立感染症研究所ハンセン病研究センター) : *Helicobacter pylori lux S* 変異株の外膜蛋白の解析. 第 82 回日本細菌学会総会, 名古屋, 平成 21 年 3 月 12-14 日.
25. Zaman C, 大崎敬子, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂 : Detection of effective microorganisms against *Helicobacter pylori* infection. 第 82 回日本細菌学会総会, 名古屋, 平成 21 年 3 月 12-14 日.

26. 花輪智子, 大崎敬子, 米澤英雄, 蔵田訓, Zaman C, 神谷茂: 百日咳菌バイオフィルム形成における細胞表面応答の関与. 第82回日本細菌学会総会, 名古屋, 平成21年3月12-14日.
27. 松尾淳司¹, 花輪智子, 神谷茂, 山口博之¹ (¹北大院・保健科学・病態解析学・感染制御検査学): 繊毛虫の存在が大腸菌のプラスミド接合伝達頻度に及ぼす影響について. 第82回日本細菌学会総会, 名古屋, 平成21年3月12-14日.
28. 米澤英雄, 大崎敬子, Zaman C, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: *Helicobacter pylori* TK1402株バイオフィルム形成メカニズムの解析. 第82回日本細菌学会総会, 名古屋, 平成21年3月12-14日.
29. 蔵田訓, 田口晴彦¹, 大崎敬子, 花輪智子, 米澤英雄, Zaman C, 神谷茂 (¹杏林大・保健・免疫学): *Mycoplasma pneumoniae* 菌体抗原感作に伴う Th17 経路の働き. 第82回日本細菌学会総会, 名古屋, 平成21年3月12-14日.

II. 論文

- Osaki T, Mabe K¹, Hanawa T & Kamiya S (¹Department of Internal Medicine, Yamagata Prefectural Central Hospital): Urease-positive bacteria in stomach induce false positive reaction on urea breath test for diagnosis of *Helicobacter pylori* infection. J Med Microbiol 57:814-819, 2008.
- Yamaguchi H^{1,2}, Kamiya S, Uruma T³, Osaki T, Taguchi H, Hanawa T, Fukuda M⁴, Kawakami H⁵, Goto H³, Herman Friedman⁶ & Yamamoto Y^{1,6} (¹Division of Molecular Microbiology, Department of Basic Laboratory Sciences, Osaka University Graduate School of Medicine, ²Department of Laboratory Sciences, College of Medical Technology, Hokkaido University, ³Department of 1st Internal Medicine, Kyorin University, School of Medicine, ⁴Laboratory of Electron Microscopy, Kyorin University, School of Medicine, ⁵Department of Anatomy, Kyorin University, School of Medicine, ⁶Department of Medical Microbiology and Immunology, University of South Florida College of Medicine): *Chlamydia pneumoniae* growth inhibition in cells by steroid receptor antagonist RU486 mifepristone. Antimicrob Agents Chemother 52:1991-1998, 2008.
- Niikura M¹, Kamiya S, Kita K² & Kobayashi F (¹Institute of Laboratory Animals, Graduate School of Medicine, Kyorin University, ²Department of Biomedical Chemistry, Graduate School of Medicine, University of Tokyo): Coinfection with nonlethal murine Malaria parasites suppresses pathogenesis caused by *Plasmodium berghei* NK65. J Immunol 180:6877-6884, 2008.
- Kizaki T¹, Takemasa T², Sakurai T¹, Izawa T³, Hanawa T, Kamiya S, Haga S⁴, Imaizumi K⁵ & Ohno H¹ (¹Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, Kyorin University, ²Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, ³Department of Sport and Health Science, Doshisya University, ⁴Institute of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba, ⁵Faculty of Human Sciences, Waseda University): Adaptation of macrophages to exercise training improves innate immunity. Biochem Biophys Res Commun 372:152-156, 2008.
- Brickman TJ¹, Hanawa T, Anderson MT², Suhadolc RJ¹ & Armstrong SK¹ (¹University of Minnesota, ²Northwestern University): Differential expression of *Bordetella pertussis* iron transport system genes during infection. Mol Microbiol 70:3-14, 2008.
- Tamura S¹, Yonezawa H, Motegi M¹, Nakao R¹, Watanabe H¹, Yamazaki T² & Senpuku H¹ (¹National Institute of Infectious Diseases, ²Tokyo Medical and Dental University): Inhibiting effects of Streptococcus

salivarius on competence-stimulating peptide-dependent biofilm formation by *Streptococcus mutans*. Oral Microbiol Immunol. 2009. 24:152-161.

7. Yonezawa H, Kuramitsu HK¹, Nakayama SI², Mitobe J², Motegi M², Nakao R², Watanabe H² & Senpuku H² (¹ State University of New York, ² National Institute of Infectious Diseases) : Differential expression of the Smb bacteriocin in *Streptococcus mutans* isolates. Antimicrob Agents Chemother. 52:2742-2749, 2008.
8. Kumada M¹, Senpuku H¹, Motegi M¹, Nakao R¹, Yonezawa H, Yamamura H², Watanabe H¹ & Tagami J³ (¹ National Institute of Infectious Diseases, ²Biofermin Pharmaceutical Co., Ltd., ³Tokyo Medical and Dental University) : Effects of *Enterococcus faecium* on *Streptococcus mutans* biofilm formation using flow cell system. J. Oral Biosci. 50:68-76, 2008.
9. 神谷茂：強毒型ディフィシル菌感染症の発生とその対策．日本医事新報 No. 4372, p105, 2008
10. 神谷茂：第7回中韓日ヘリコバクター合同会議レポート、Extragastric manifestation of *H. pylori* infection. 日本ヘリコバクター学会誌 10 : 30-31, 2008
11. 神谷茂：産婦人科とプロバイオティクス．産科と婦人科 75:1377-1382, 2008.
12. 神谷茂：*Helicobacter pylori* の病原因子と発癌．日本ヘリコバクター学会雑誌 10:62-64, 2008.
13. 神谷茂：強毒型ディフィシル菌のアウトブレイクと院内感染対策について．感染防止 19:1-8, 2009.
14. 蔵田訓，田口晴彦¹，大崎敬子，花輪智子，米澤英雄，神谷茂（¹杏林大・保健・免疫学）：気管支喘息へのマイコプラズマ感染の影響 The effect of *Mycoplasma* infection on asthmatic mice. 無菌生物 38:88-91, 2008.
15. 宮崎善史¹，花輪智子，大崎敬子，高橋秀実¹，神谷茂（¹日本医大・微生物免疫）：腸内フローラ培養上の biofilm 形成に及ぼす効果. Bacterial Adherence & Biofilm 21:45-48, 2008.

Ⅲ. 著書

1. 神谷茂：腸管感染症に対するプロバイオティクス、プレバイオティクスの効果．アンチエイジング・ヘルスフード -抗加齢・疾病予防・健康長寿延長への応用-．水島裕監修．青木晃、白澤卓二、矢澤一良、米井嘉一編集．東京，サイエンスフォーラム社，2008．p329-337.
2. 神谷茂：熱ショック蛋白質．Key Words 感染症 第2版．山口恵三、戸塚恭一編集．東京，先端医学社，2008．p226-228.

Ⅳ. その他

1. 神谷茂：*Helicobacter pylori* と胃炎・消化性潰瘍・胃がん．セフィーロ No. 7, 18-22, 2008.
2. 神谷茂：プロバイオティクスと腸管感染症．スクールランチノート 2008, 40-44, 2008.
3. 神谷茂：胃排出能に影響を及ぼすプロバイオティクスの開発．ヤクルト・バイオサイエンス研究財団年報 15号, p11-19, 2007.
4. 神谷茂：腸内菌と病原細菌のクロストークに関する基礎的研究．ヤクルト・バイオサイエンス研究財団年報 16号, p125-139, 2008.
5. 神谷茂：環境と感染症．化学療法の領域 24:1729, 2008.
6. 神谷茂：島二中で学んだ事と医学研究への道．島田市立島田第二中学校創立50周年記念式典記念講演，島田，平成20年11月6日．

感染症学教室（寄生虫学）

Infectious Disease/Division of Tropical Diseases and Parasitology

I 口演

1. 新倉 保^{1,2}, 北 潔², 小林富美恵 (1 杏林大・実験動物, 2 東大・国際保健): マウスマラリア原虫弱毒株との複合感染は *Plasmodium berghei* NK65 強毒株感染による肝傷害を抑制する. 第 77 回日本寄生虫学会大会, 長崎, 平成 20 年 4 月 3-4 日.
2. 田邊將信¹, 深尾太郎¹, 永田博司², 関塚永一³, 宮崎耕司³, 小林富美恵, 竹内勤¹ (1 慶應大・医・熱帯寄生虫, 2 けいゆう病院・内科, 3 国立埼玉・内科): 慢性マンソン住血吸虫感染マウスは *Pseudomonas aeruginosa* 致死感染に対し抵抗性である. 第 77 回日本寄生虫学会大会, 長崎, 平成 20 年 4 月 3-4 日.
3. Ishii A¹ & Kobayashi F (1 Dept. Inf. Dis., Hamamatsu Univ. Sch. Med.): Effects of chloroquine treatment on *Plasmodium yoelii* 17XL infection in IFN- γ KO mice. 第 77 回日本寄生虫学会大会, 長崎, 平成 20 年 4 月 3-4 日.
4. 梅宮梨可¹, 松尾智英, Boldbaatar D¹, Liao M¹, 田仲哲也¹, 藤崎幸蔵¹ (1 鹿大・農・先端獣医学): フタトゲチマダニのオートファジー関連遺伝子の単離・同定と中腸におけるオートファゴソーム様構造体の観察. 第 77 回日本寄生虫学会大会, 長崎, 平成 20 年 4 月 3-4 日.
5. 藤野隆志, 松尾智英, 今上絵理¹, 小林富美恵, 松井利博 (1 杏林大・保健学部): *Eimeria kriegsmanni* 感染マウスに対する数種サルファ剤の効果. 第 77 回日本寄生虫学会大会, 長崎, 平成 20 年 4 月 3-4 日.
6. 新倉 保^{1,2}, 北 繁¹, 小林富美恵 (1 東大・国際保健, 2 杏林大・実験動物): *Plasmodium berghei* ANKA 強毒株感染によって引き起こされる脳マラリア様症状はマウスマラリア原虫弱毒株との複合感染によって抑制される. 第 16 回分子寄生虫ワークショップ, 群馬, 平成 20 年 8 月 3-6 日.
7. 小林富美恵: マウスマラリアモデルの功罪: 第 16 回分子寄生虫ワークショップ, 群馬, 平成 20 年 8 月 3-6 日.
8. Umemiya-Shirafuji R¹, Matsuo T, Boldbaatar D¹, Liao M¹ & Fujisaki K¹ (1 Laboratory of Emerging Infectious Diseases, Department of Frontier Veterinary Medicine, Kagoshima University): Strategy of a three host tick *Haemaphysalis longicornis* against starvation during the nonfeeding period. TTP-6, Buenos Aires, Sep. 21-26, 2008.
9. Niikura M^{1,2}, Kamiya S, Kita K² & Kobayashi F (1 Inst. Lab. Anim., Kyorin Univ. Schl. Med., 2 Dept. Biomed. Chem., Grad. Sch. Med., Univ of Tokyo): Liver injury caused by *Plasmodium berghei* NK65 is suppressed by coinfection with nonlethal murine malaria parasites. The 16th Japanese-German Cooperative Symposium on Protozoan Diseases. Goettingen, Sep. 24-29, 2008.
10. 白藤 (梅宮) 梨可¹, 松尾智英, Boldbaatar D¹, Liao M¹, Banzragch B¹, Rahman Md M¹, 藤崎幸蔵¹ (1 鹿大・農・先端獣医学): Characterization of autophagy-related gene homologues from a three host tick, *Haemaphysalis longicornis*. 2008 日韓合同ダニ学会議 (第 17 回日本ダニ学会大会, 慶州市, 平成 20 年 10 月 9-11 日).
11. 新倉 保^{1,2}, 北 繁¹, 小林富美恵 (1 東大・国際保健, 2 杏林大・実験動物): マウスにおける脳マラリア様症状は弱毒株マラリア原虫との複合感染によって抑制される. 第 7 回分子寄生虫・マラリアフォーラム, 松山, 平成 20 年 10 月 10-11 日.

12. Niikura M^{1,2} & Kobayashi F (¹Inst. Lab. Anim., Kyorin Univ. Schl. Med., ²Dept. Biomed. Chem., Grad. Sch. Med., Univ of Tokyo): IL-10 plays a crucial role for the suppression of experimental cerebral malaria by coinfection with nonlethal murine malaria parasites. The 38th Annual Meeting of Japanese Society of Immunologists, Kyoto, Dec. 1-3, 2008.
13. Kobayashi F, Niikura M^{1,2} & Kita K², (¹Inst. Lab. Anim., Kyorin Univ., ²Dept. Biomed. Chem., Grad. Sch. Med., Univ of Tokyo): Suppression of severe pathogenesis during coinfection with lethal and nonlethal malaria parasites: A consideration of possible mechanisms by using murine malaria models. JSPS Seminar, 2009: Strategies for controlling emerging and re-emerging infectious diseases in Southeast Asia in JSPS Core University Program, Tokyo, Jan. 20, 2009.
14. 新倉 保^{1,2}, 北 繁¹, 小林富美恵 (¹東大・国際保健, ²杏林大・実験動物) : マウスマラリア原虫複合感染における IL-10 の意義と役割. 第 2 回原虫感染免疫研究会, 佐賀市, 平成 21 年 2 月 21-22 日.
15. Niikura M^{1,2}, Kita K², Kobayashi F (¹Inst. Lab. Anim., Kyorin Univ., ²Dept. Biomed. Chem., Grad. Sch. Med., Univ of Tokyo): Coinfection with nonlethal malaria parasites suppresses experimental cerebral malaria in IL-10-dependent manner. 第 78 回日本寄生虫学会大会, 東京, 平成 21 年 3 月 27-28 日.
16. 白藤 (梅宮) 梨可¹, Boldbaatar D¹, Liao M¹, Rahman Md M¹, Battur B¹, 松尾智英, 田仲哲也¹, 藤崎幸蔵¹ (¹鹿大・農・先端獣医学) : フタトゲチマダニのオートファジー関連遺伝子の発現解析. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 平成21年3月27-28日.
17. 西川義文¹, 川瀬撰¹, 坂内天¹, 松尾智英, 玄学南¹ (¹帯畜大・原虫研・遺伝生化学) : トキソプラズマにおける新規トロンボスポンジン関連タンパク質の解析. 第 78 回日本寄生虫学会大会, 東京, 平成 21 年 3 月 27-28 日.

II 論文

1. Niikura M^{1,2}, Kamiya S, Kita K² & Kobayashi F (¹Inst. Lab. Anim., Kyorin Univ., ²Dept. Biomed. Chem., Grad. Sch. Med., Univ of Tokyo): Coinfection with nonlethal murine malaria parasites suppresses pathogenesis caused by *Plasmodium berghei* NK65. J Immunol, 180 (10): 6877-6884, 2008.
2. Ishih A¹, Nagata T¹, Kobayashi F, Muregi F.W¹ & Ohori K² & Miyase T³(¹Dept. Inf. Dis., Hamamatsu Univ. Sch. Med., ²Fac. of Management, Shizuoka Sangyo Univ., ³Dept. Pharmacognosy, Univ. of Shizuoka): Possible involvement of IFN- γ in earlier mortality of *Plasmodium berghei* NK65-infected BALB/c mice after febrifugine treatment. Southeast Asian J Trop Med Public Health, 39 (6); 949-956, 2008.
3. Boldbaatar D¹, Battsetseg B², Matsuo T, Hatta T², Umemiya-Shirafuji R¹, Xuan X² & Fujisaki K¹ (¹Laboratory of Emerging Infectious Diseases, Department of Frontier Veterinary Medicine, Kagoshima University, ²National Research Center for Protozoan Diseases, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine): Tick vitellogenin receptor reveals critical role in oocyte development and transovarial transmission of *Babesia* parasite. Biochemical and Cell Biology 86: 331-344, 2008.

4. Tsuji N¹, Miyoshi T¹, Battsetseg B², Matsuo T, Xuan X² & Fujisaki K³ (¹Laboratory of Parasitic Diseases, National Institute of Animal Health, National Agriculture and Food Research Organization, ²National Research Center for Protozoan Diseases, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, ³Laboratory of Emerging Infectious Diseases, Department of Frontier Veterinary Medicine, Kagoshima University): A cystein protease is critical for *Babesia* spp. Transmission in *Haemaphysalis* ticks. PLoS Pathogens 4: 1-14, 2008.

衛生学公衆衛生学教室

I. 口演

1. Uemura T, Ketut Swastica, Sugimori T, Matsui T, Okamoto H & Tsunoda T : The scientific evaluation of functioning food and health education- International workshop on marine genetic biodiversity. Udayana University. (UNUD), Denpasar, Indonesia, April 2-3, 2008.
2. 角田透 : 過重労働による健康障害防止 エビデンス・具体的措置事、東京産業保健推進センター研修セミナー、東京、平成20年4月18日。
3. 岡本博照 : 救急医療レベルとトリアージ運用との関係について一考察。第1回横浜テレトリアージ研究会学術総会、横浜、平成20年5月16日。
4. 大野秀樹 (特別講演) : 登山と恋愛は総合芸術! : 長い人生を乗り切るための元気供給源。第57回アルテ・トネヤマ講演会、東京、平成20年5月18日。
5. 櫻井拓也、北舘健太郎¹、西岡浩¹、藤井創¹、久島達也²、安部茂²、木崎節子、小笠原準悦、白土健、井澤鉄也³、今泉和彦⁴、石田均⁵、大野秀樹 (1 (株) アミノアップ化学、²帝京大、³同志社大、⁴早稲田大、⁵杏林大・医・3内) : ライチ由来新規低分子化ポリフェノール Oligonol は疲労改善効果をもつ。国際食品機能学会 2008、東京、平成20年5月21-23日。
6. 大野秀樹 (記念講演) : 登山は最高の元気供給源ー登山と恋愛は総合芸術ー。2008年日本山岳文化学会通常総会、東京、平成20年5月24日。
7. 松井知子 : 事業場における新卒新入1年目社員の全員面接の予防的意義ー第2報 メンタルヘルスを要する相談についてー。第15回日本産業精神保健学会、大阪、平成20年6月6-7日。
8. 和田貴子¹、岡本博照、細田武伸²、山内亮子¹、馬場道夫¹、深沢政富¹、角田透、宮崎総一郎³、黒岩大輔⁴ (1 杏林大・保健・救急救命、²早稲田大・法、³滋賀医大・睡眠、⁴総務省消防庁消防) : 第16回全国救急隊員シンポジウム「救急隊員の労務管理と健康について」にて行ったアンケート結果について。第11回日本臨床救急医学会総会、東京、平成20年6月8日。
9. 角田透、岡本博照、和田貴子¹、細田武伸²、山内亮子¹、馬場道夫¹、深沢政富¹、黒岩大輔³ (1 杏林大・保健・救急救命、²早稲田大・法、³総務省消防庁消防) : 「救急隊員の労務管理と健康について」でのアンケート結果についてー産業医の視点からー。第11回日本臨床救急医学会総会、東京、平成20年6月8日。
10. 細田武伸¹、岡本博照、大重賢治² (1 早稲田大・法、²横浜市立大・医・公衆衛生) : 救急医療と安全 より安全な職場を目指して 救急医療分野の研究に対する社会医学系研究者の必要性についての検討。第11回日本臨床救急医学会総会、東京、平成20年6月8日。
11. 能登真一¹、石川宏美¹、上村隆元 (1 新潟医療福祉大) : ICF を用いた高齢者の生活機能低下の実態調査。第42回日本作業療法学会、長崎、平成20年6月20日。
12. 岡本博照 : Physicians' Health Survey についてー職域での医師の健康を焦点にした研究の必要性ー。第81回日本産業衛生学会 第5回医療従事者のための産業保健研究会、札幌、平成20年6月24-28日。
13. 岡本博照、角田透、照屋浩司、上村隆元、松井知子、市川佳居、深澤進次、竹前理映子、土田

- 幸介、高島豊：医師の労働負荷と免疫指標（CD56 と NK 細胞活性）について：第 3 報．第 81 回日本産業衛生学会総会、札幌、平成 20 年 6 月 24-28 日．
14. 岩澤聡子¹、菊池有利子¹、中野真規子¹、西脇祐司¹、上村隆元、道川武紘¹、石上愛¹、武林亨¹、田中茂²、足立満³、森川昭廣⁴、丸山浩一⁵、工藤翔二⁶、内山巖雄⁷、大前和幸¹（¹慶応大、²十文字学園女子大、³昭和大、⁴群馬大、⁵東京都福祉保健局、⁶日本医科大、⁷京都大）：三宅島火山ガスの 2 年間曝露による成人住民の呼吸器系への影響検討．第 81 回日本産業衛生学会総会、札幌、平成 20 年 6 月 24-28 日．
 15. 本名理恵、苅田香苗、吉田正雄、小風暁¹、大野秀樹（¹昭和大・医・公衆衛生）：中高年勤労男性の血清脂質値の変動と長寿ミトコンドリア遺伝子多型との関係．第 81 回日本産業衛生学会、札幌、平成 20 年 6 月 24-27 日．
 16. 根本浩一郎¹、福島あゆみ¹、中館俊夫²、大野秀樹（¹横浜郵政健康管理センター、²昭和大）：職域における 2 型糖尿病発症予防研究第 4 報～介入 2 年後の検討～．第 81 回日本産業衛生学会、札幌、平成 20 年 6 月 24-28 日．
 17. Ohno G¹, Obinata I², Shimoeda N³, Otani S⁴, Miyata T⁵, Mikami H⁶, Ohno H & Watanabe K⁷（¹Yoyogi Hospital, ²Nanbugo General Hospital, ³Saiseikai- Narashino Hospital, ⁴Tottori Univ., School of Medicine, ⁵Ikeda Clinic, ⁶Chiba Cancer Research Institute, ⁷National Institute of Polar Research, Research Organization of Information and Systems）: New wave of Asian relationship in Antarctic medical research and medicine. SCAR/IASC IPY Open Science Conference, St. Peterburg, July 8-11, 2008.
 18. 能登真一¹、上村隆元、泉良太¹（¹新潟医療福祉大）：Health Utilities Index MarkIII を用いた要介護高齢者の健康効用値の評価．第 3 回医療経済学会、京都、平成 20 年 7 月 19 日．
 19. 松井知子（基調講演、パネリスト）：メンタルヘルスの予防について－組織の体制づくり－「産業カウンセリングのこれからの課題」．武蔵野大学シンポジウム、武蔵野市、平成 20 年 8 月 6 日．
 20. 松井知子（シンポジスト）：スクールカウンセラー等を生かした校内での連携の在り方．東京都教職員研修センター、東京、平成 20 年 8 月 12 日．
 21. 松井知子、石井留美¹、田中理恵¹、中島恵¹、庄司亜弓¹、横山照子¹、藤岡桐子¹、矢吹幸江¹、塚原三和子¹（¹公立中学校スクールカウンセラー）：児童・生徒のメンタルヘルスにおける心理職の予防への関わり（第 1 報ストレスチェック調査の有効性）．第 27 回日本心理臨床学会、東京、平成 20 年 9 月 5-7 日．
 22. 角田透（基調講演）：シンポジウム「過重労働による健康障害」．産業保健フォーラム IN TOKYO 2008、東京、平成20年9月8日．
 23. 角田透：産業の場における保健指導．多摩東部地域産業保健センター産業医研修会、保谷保健福祉総合センター、西東京、平成20年9月9日．
 24. 小笠原準悦、櫻井拓也、白土健、木崎節子、今泉和彦¹、井澤鉄也²、大野秀樹（¹早稲田大、²同志社大）：B 作動性脂質代謝とコピキチン．第 1 回脳・神経・内分泌から運動の意義を考える会、別府、平成 20 年 9 月 17 日
 25. 小笠原準悦、櫻井拓也、白土健、木崎節子、井澤鉄也¹、長澤純一²、今泉和彦³、大野秀樹（¹

- 同志社大、²電通大、³早稲田大)：急性運動と脂肪細胞のホルモン感受性リパーゼの発現変化。第63回日本体力医学会大会、別府、平成20年9月18-20日。
26. 長澤純一¹、高井俊秀¹、坂口明¹、井澤鉄也¹、木崎節子、大野秀樹 (¹電通大、²同志社大)：運動負荷パターンの差異が酸化ストレスにおよぼす影響。第63回日本体力医学会大会、別府、平成20年9月18-20日。
 27. 高井俊秀¹、長澤純一¹、坂口明¹、大野秀樹 (¹電通大)：運動強度の差異と酸化ストレス。第63回日本体力医学会大会、別府、平成20年9月18-20日。
 28. 町田正直¹、大野秀樹、武政徹¹ (¹筑波大)：一過性持久性運動による血管新生関連因子の発現変化。第63回日本体力医学会大会、別府、平成20年9月18-20日。
 29. 角田透：メタボリックシンドロームの概念と保健指導に必要な知識～予防から治療まで。特定保健指導実践者育成講習会、東京、平成20年9月26日。
 30. 角田透：メタボリックシンドロームの概念と保健指導に必要な知識～予防から治療まで。特定保健指導実践者育成講習会、東京、平成20年10月3日。
 31. 松井知子：日本臨床心理士会研修会「産業領域における臨床心理士の役割について」。大正大学、東京、平成20年10月12日。
 32. 和田貴子¹、岡本博照、山内亮子¹、馬場道夫¹、深沢政富¹ (¹杏林大・保健・救急救命)：「救急隊員の労務管理と健康について」第16回全国救急隊員シンポジウムでのアンケート結果を踏まえ、労務管理について。第36回日本救急医学会総会、札幌、平成20年10月14日。
 33. 角田透：メタボリックシンドロームの概念と保健指導に必要な知識～予防から治療まで。特定保健指導実践者育成講習会、東京、平成20年10月17日。
 34. 角田透：メタボリックシンドロームの概念と保健指導に必要な知識～予防から治療まで。特定保健指導実践者育成講習会、大阪、平成20年10月23日。
 35. 角田透：各国の飲酒ガイドライン。東京アルコール臨床懇話会、東京、平成20年10月24日。
 36. 松井知子：青梅市立小中学校副校長会「教師のメンタルヘルスについて－管理職の役割－」。青梅市教育委員会、青梅、平成20年10月24日。
 37. 土田幸介、竹前理映子、岡本博照、松井知子、深澤進次、大嶺智子¹、照屋浩司、角田透 (¹杏林大・保・健康教育)：口腔内アメニティについての研究 地域住民健診の成績についての検討。第73回日本民族衛生学会総会、横浜、平成20年10月26-27日。
 38. 角田透：恋・愛は癒しになるか－生物種としての消長に関わる命題。第24回日本ストレス学会総会 (シンポジウムⅢ「恋・愛はストレスの癒しになるか?」)、大阪、平成20年10月31日-11月1日。
 39. 角田透、松井知子、岡本博照、照屋浩司：飲酒行動に関連するストレスについて－人間ドック調査資料の検討から－。第24回日本ストレス学会総会、大阪、平成20年10月31日-11月1日。
 40. 松井知子、岡本博照、市川佳居、角田透：児童・生徒のメンタルヘルスの予防的関わり－ストレスチェック調査から－。第24回日本ストレス学会総会、大阪、平成20年10月31日-11月1日。
 41. 岡本博照、照屋浩司、松井知子、角田透：新臨床研修制度前の救急医療従事医師の労働負荷と勤務上の不満/ストレスについての検討。第24回日本ストレス学会総会、大阪、平成20年10

月 31 日-11 月 1 日.

42. 荻田香苗、原田まつ子¹、吉田正雄、小風暁² (¹帝京短大・生活科学、²昭和大・医・公衆衛生) : 若年女性の食生活習慣に関する調査研究 第 1 報—食習慣と気分状態との関係. 第 67 回日本公衆衛生学会、福岡、平成 20 年 11 月 5-7 日.
43. 原田まつ子¹、吉田正雄、小風暁²、荻田香苗 (¹帝京短大・生活科学、²昭和大・医・公衆衛生) : 若年女性の食生活習慣に関する調査研究 第 2 報—食習慣と味覚閾値との関係. 第 67 回日本公衆衛生学会、福岡、平成 20 年 11 月 5-7 日.
44. 小風暁¹、荻田香苗、吉田正雄、大津忠弘¹、白澤貴子¹、星野裕美¹、照屋浩司 (¹昭和大・医・公衆衛生) : 長寿関連ミトコンドリア DNA 多型と心血管疾患危険因子の重積との関連解析. 第 67 回日本公衆衛生学会、福岡、平成 20 年 11 月 5-7 日.
45. 松井知子、大嶺智子¹、岡本博照、深澤進次、上村隆元、土田幸介、照屋浩司、角田透 (¹杏林大・保・養護教育) : 中学校における学校相談体制の構築について—心理職による第一次、第二次予防への関わりから—. 第 67 回日本公衆衛生学会総会、福岡、平成 20 年 11 月 5 日-7 日.
46. 能登真一¹、上村隆元、田中浩二¹ (¹新潟医療福祉大) : ICF を用いた要介護高齢者における生活機能評価と Geriatric Core Set との比較. 第 67 回日本公衆衛生学会総会、福岡、平成 20 年 11 月 5 日-7 日.
47. 松井知子 (シンポジスト) : 都立高等学校向け教育相談にかかわる教員連絡会シンポジウム「思春期の心理と心のサイン」. 東京都教育相談センター、東京、平成 20 年 11 月 11 日.
48. 大野秀樹 (特別講演) : 酸化ストレスと健康—活性酸素は怖くない—. 第 4 回アンチエイジング静岡カンファランス、静岡、平成 20 年 11 月 12 日.
49. 大野秀樹 (特別講演) : 登山と健康. 埼玉労山 安全登山講演会、さいたま、平成 20 年 11 月 15 日.
50. 照屋浩司、加藤英世¹ (¹杏林大・保・母子保健・社会福祉学) : 平成 19 年度保健学部共同研究奨励賞報告 : 超音波骨評価値からみた幼児、児童の発育・発達とその関連要因に関する研究. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、平成 20 年 11 月 15 日.
51. 小笠原準悦、櫻井拓也、木崎節子、大野秀樹 : 脂肪細胞の β -アドレナリン受容体の運動による発現変化とユビキチン-プロテアソームの役割. 第 37 回杏林医学会総会、三鷹、平成 20 年 11 月 15 日.
52. 照屋浩司 : 杏林大学公開講演会/八王子いちょう塾 : 生活習慣病の最新事情. 八王子、平成 20 年 11 月 22 日.
53. 松井知子 (事例検討会講師) : 学校教育相談 II E 研修「事例から学ぶ問題行動への対応」. 東京都教職員研修センター、東京、平成 20 年 11 月 26 日.
54. 櫻井拓也、井澤鉄也¹、木崎節子、小笠原準悦、白土健、石橋義永、今泉和彦²、武政徹³、長澤純一⁴、芳賀脩光⁵、大野秀樹 (¹同志社大、²早稲田大、³筑波大、⁴電通大、⁵郡山女子大) : 運動トレーニングは脂肪組織由来幹細胞の脂肪細胞への分化を抑制する. 第 6 回日本予防医学会学術総会、東京、平成 20 年 11 月 29-30 日.
55. 人見嘉哲¹、木崎節子、櫻井拓也、小笠原準悦、武政徹²、神林康弘¹、日比野由利¹、芳賀脩光³、中村裕之¹、大野秀樹 (¹金沢大、²筑波大、³郡山女子大) : 骨格筋に対する in vivo 遺伝

- 子導入法による calcineurin 制御タンパク Rcan1 発現制御の検討. 第 81 回日本生化学会大会、神戸、平成 20 年 12 月 9-12 日.
56. 角田透: 過重労働による健康障害防止 エビデンス・具体的措置事例. 東京産業保健推進センター研修セミナー、東京、平成20年12月19日.
57. 松井知子: メタボリックシンドロームとメンタルヘルスー行動変容を促す動機づけー. 平成 20 年度三鷹市医師会産業医学講習会・第 30 回産業精神保健学会研修セミナー、三鷹、平成 20 年 12 月 20 日.
58. 白土健、木崎節子、櫻井拓也、小笠原準悦、大石修司¹、松岡健¹、長澤純一²、斎藤大蔵³、今泉和彦¹、大野秀樹 (¹東京医大、²電通大、³防衛医大、⁴早稲田大): 低酸素誘導因子 (HIF)-1 α によるマクロファージスカベンジャー受容体の発現調節. 文部科学省学術フロンティア研究プロジェクト「ライフステージに応じた健康増進と多様性保持」第 3 回研究発表会、所沢、平成 21 年 1 月 6-7 日.
59. 木崎節子、白土健、櫻井拓也、小笠原準悦、石橋義永、人見嘉哲¹、鈴木健二²、芳賀脩光³、今泉和彦⁴、大野秀樹 (¹金沢大、²立命館大、³郡山女子大、⁴早稲田大): 運動トレーニングによる免疫機能の修飾: マクロファージを中心として. 文部科学省学術フロンティア研究プロジェクト「ライフステージに応じた健康増進と多様性保持」第 3 回研究発表会、所沢、平成 21 年 1 月 6-7 日.
60. 井澤鉄也¹、櫻井拓也、小笠原準悦、木崎節子、大野秀樹 (¹同志社大): 脂肪細胞サイズとアディポカイン遺伝子発現との関係に及ぼす運動トレーニングの影響. 文部科学省学術フロンティア研究プロジェクト「ライフステージに応じた健康増進と多様性保持」第 3 回研究発表会、所沢、平成 21 年 1 月 6-7 日.
61. 井澤鉄也¹、小笠原準悦、木崎節子、櫻井拓也、大野秀樹 (¹同志社大): 運動や運動トレーニングによる β -アドレナリン受容体の適応機構. 第 23 回日本体力医学会近畿地方会、吹田、平成 21 年 1 月 31 日.
62. 角田透: メンタルヘルスー精神保健保持のための精神医学的知識及び自己対処法について. 環境省職員研修、環境省環境調査研修所、所沢、平成21年2月26日.
63. 松井知子: メタボリックシンドロームの保健指導ーどのように行動変容を促すか. 第 31 回産業精神保健学会研修セミナー、東京、平成 21 年 3 月 5 日.
64. 角田透: メタボ健診とは 特定健康診査・特定保健指導導入の背景にあるもの. 三鷹ネットワーク大学杏林大学寄付講座 三鷹ネットワーク大学推進機構、三鷹、平成21年3月12日.
65. 大野秀樹 (会長講演): 登山のススメ: その魅力と効能. 第 145 回日本体力医学会関東地方会、三鷹、平成 21 年 3 月 14 日.
66. 白土健、木崎節子、櫻井拓也、小笠原準悦、石橋義永、今泉和彦¹、芳賀脩光²、大野秀樹 (¹早稲田大、²郡山女子大): マクロファージスカベンジャー受容体 1 の発現は HIF-1 α によって調節される. 第 145 回日本体力医学会関東地方会、三鷹、平成 21 年 3 月 14 日.
67. 高井俊秀¹、長澤純一¹、坂口明¹、大野秀樹 (¹電通大): 運動負荷強度の差異がラジカルスカベンジング能力におよぼす効果. 第 145 回日本体力医学会関東地方会、三鷹、平成 21 年 3 月 14 日.

68. 角田透、岡本博照、松井知子、照屋浩司、上村隆元、深澤進次、土田幸介：飲酒習慣と環境との関連についての検討. 第79回日本衛生学会学術総会、東京、平成21年3月29日-4月1日.
69. 松井知子、岡本博照、市川佳居、大嶺智子¹、照屋浩司、上村隆元、深澤進次、土田幸介、角田透（¹杏林大・保・健康教育）：学校精神保健における職種間連携について—児童・生徒のメンタルヘルスへの予防的関わり—。第79回日本衛生学会学術総会、東京、平成21年3月29日-4月1日.
70. 岡本博照、照屋浩司、松井知子、深澤進次、土田幸介、上村隆元、角田透：新臨床研修制度以前の救急医師の労働負荷とストレス反応（Stress Arousal Checklist 日本版のstress17項目）についての検討. 第79回日本衛生学会学術総会、東京、平成21年3月29日-4月1日.
71. 小笠原準悦、櫻井拓也、木崎節子、石橋義永、井澤鉄也¹、鈴木健二²、大河原知水³、大石修司⁴、長澤純一⁵、大野秀樹（¹同志社大、²立命館大、³兵庫医療大、⁴東京医大、⁵電通大）：急性運動による脂肪細胞の脂肪分解反応のメカニズム. 第79回日本衛生学会学術総会、東京、平成21年3月29日-4月1日.
72. 櫻井拓也、井澤鉄也¹、木崎節子、小笠原準悦、白土健、今泉和彦²、人見嘉哲³、中野法彦⁴、芳賀脩光⁵、大野秀樹（¹同志社大、²早稲田大、³金沢大、⁴藍野学院藍野再生医療研究所、⁵郡山女子大）：脂肪組織由来幹細胞の脂肪および血管内皮細胞への分化に対する運動トレーニングの影響. 第79回日本衛生学会学術総会、東京、平成21年3月29日-4月1日.

II. 論文

1. Ikeda S¹, Kizaki T, Haga S², Ohno H & Takemasa T¹ (¹Univ. of Tsukuba, ²Tokyo Metropolitan Univ.) : Acute exercise induces biphasic increase in respiratory mRNA in skeletal muscle. *Biochem Biophys Res Commun* 368: 323-328, 2008.
2. Takahashi K¹, Yamaguchi S¹, Shimoyama T¹, Seki H¹, Miyokawa K¹, Katsuta H¹, Tanaka T¹, Yoshimoto K¹, Ohno H, Nagamatsu S² & Ishida H¹ (¹Third Dept. of Internal Medicine, Kyorin Univ. School of Med., ²Dept. of Biochemistry, Kyorin Univ. School of Med.) : JNK- and IκB-dependent pathways regulate MCP-1 but not adiponectin release from artificially hypertrophied 3T3-L1 adipocytes preloaded with palmitate in vitro. *Am J Physiol Endocrinol Metab* 294: E898-E909, 2008.
3. Hitomi Y¹, Watanabe S¹, Kizaki T, Sakurai T, Takemasa T², Haga S³, Ookawara T⁴, Suzuki K⁴ & Ohno H (¹Kanazawa Univ., ²Univ. of Tsukuba, ³Koriyama Women's Univ., ⁴Hyogo College of Med.) : Acute exercise increases expression of extracellular superoxide dismutase in skeletal muscle and the aorta. *Redox Rep* 13: 213-216, 2008.
4. Kizaki T, Takemasa T¹, Sakurai T, Izawa T², Hanawa T³, Kamiya S³, Haga S⁴, Imaizumi K⁵ & Ohno H (¹Univ. of Tsukuba, ²Doshisha Univ., ³Infectious Disease/Division of Medical Microbiology, Kyorin Univ. School of Med., ⁴Koriyama Women's Univ., ⁵Waseda Univ.) : Adaptation of macrophages to exercise training improves innate immunity. *Biochem Biophys Res Commun* 372: 152-156, 2008.
5. Ogasawara J & Abe T¹ (¹RIKEN) : Amino acid mixture identical to vespa larval saliva increases both leptin secretion and basal lipolysis in rat adipocytes. *Food Sci Technol Res* 14: 95-98, 2008.
6. Kizaki T, Izawa T¹, Sakurai T, Haga S², Taniguchi N³, Tajiri H⁴, Watanabe K⁵, Day N.K.⁶, Toba K⁷ &

- Ohno H (¹Doshisha Univ., ²Koriyama Women's Univ., ³Osaka Univ., ⁴Jikei Univ. School of Med., ⁵Watanabe Clinic, ⁶Dept. of Pediatrics, Univ. of South Florida/All Children's Hospital, ⁷Dept. of Geriatric Med., Kyorin Univ. School of Med.): β -adrenergic receptor regulates Toll-like receptor-4-induced nuclear factor- κ B activation through β -arrestin 2. *Immunology* 124: 348-356, 2008.
7. Kizaki T, Shirato K, Sakurai T, Ogasawara J, Oh-Ishi S¹, Matsuoka T¹, Izawa T², Imaizumi K³, Haga S⁴ & Ohno H (¹Tokyo Medical Univ., ²Doshisha Univ., ³Waseda Univ., ⁴Koriyama Women's Univ.): β -Adrenergic receptor regulates Toll-like receptor 4-induced TRIF-dependent late-phase NF- κ B activation. *Mol. Immunol* 46: 1195-1203, 2009.
8. Sakurai T, Izawa T¹, Kizaki T, Ogasawara J, Shirato K, Imaizumi K², Takahashi K³, Ishida H³ & Ohno H (¹Doshisha Univ., ²Waseda Univ., ³Third Dept. of Internal Medicine, Kyorin Univ. School of Med.): Exercise training decreases expression of inflammation-related adipokines through reduction of oxidative stress in rat white adipose tissue. *Biochem Biophys Res Commun* 379: 605-609, 2009.
9. Yamada T¹, Shimizu T¹, Sakurai T, Nanashima N¹, Kihara-Negishi F², Suzuki M³, Fan Y¹, Akita M¹, Oikawa T⁴ & Tsuchida S¹ (¹Hirosaki Univ. Graduate School of Medicine, ²Teikyo Univ., ³Univ. of Occupational and Environmental Health, School of Med. Kitakyusyu, ⁴Health Sciences Univ. of Hokkaido): Physical and functional interactions between hematopoietic cell-specific ETS transcription factors and homeodomain proteins. *Leuk Res* 33: 483-489, 2009.
10. Karita K, Yamanouchi Y¹, Takano T¹, Oku J², Kisaki T³, Yano E¹ (¹Teikyo Univ. School of Med., ²Mitui Mutual Life Insurance Co., ³Takashimaya Co.): Associations of blood selenium and serum lipid levels in Japanese premenopausal and postmenopausal women. *Menopause* 15: 119-124, 2008.
11. Funatogawa I¹, Funatogawa T¹, Nakao M¹, Karita K, Yano E¹ (¹Teikyo Univ. School of Med.): Changes in body mass index by birth cohort in Japanese adults: results from the National Nutrition Survey of Japan. *Int J Epidemiol* 38: 83-92, 2009.
12. Murata K¹, Iwata T¹, Dakeishi M¹, Karita K (¹Akita Univ. School of Med.): Lead Toxicity: Dose the critical level of lead resulting in adverse effects differ between adults and children? *J Occup Health* 51: 1-12, 2009.
13. Fukazawa S, Teruya K, Uemura T, Omine T¹, Matsui T, Takeda N, Okamoto H, Ichikawa K, Tsuchida K, Takemae R, Matsuda M & Tsunoda T (¹Dept. of Health Education, Faculty of Health Sciences, Kyorin Univ.): The relationship between long-term changes in plasma B-type natriuretic peptide levels and electrocardiographic findings. *Environ Health Prev Med* 13: 156-161, 2008.
14. Ichikawa K, Matsui T, Tsunoda T, Teruya K, Uemura T, Takeda N, Okamoto H & Fukazawa S: The relationship of sleep duration and mental health with electrocardiographic findings: a retrospective-cohort study in Okinawa, Japan. *Environ Health Prev Med* 13: 227-233, 2008.
15. Kishino T¹, Watanabe K², Urata T², Takano M², Uemura T, Nishikawa K³, Mine Y³, Matsumoto M³, Ohtsuka K¹, Ohnishi H¹, Mori H³, Takahashi S³, Ishida H³ & Watanabe T¹ (¹Dept. of Laboratory Med., Kyorin Univ. School of Med., ²Dept. of Clinical Laboratory, Kyorin Univ. Hospital, ³3rd Dept. of Internal Med., Kyorin Univ. School of Med.): Visceral fat thickness in overweight men correlates with alterations

in serum fatty acid composition. *Clinica Chimica Acta* 398: 57-62, 2008.

16. 櫻井拓也、大野秀樹、井澤鉄也¹ (¹同志社大) : スポーツと燃焼系サプリメント. *Functional Food* 2: 257-261, 2008.
17. 大野秀樹 : 登山は最高の元気供給源ー登山と恋愛は総合芸術ー. *山岳文化* 9: 5-10, 2008.
18. 大野秀樹 : アスリートに対するオリゴノールの抗疲労効果. *Coaching Clinic* 22 : 44-48, 2008.
19. 大野秀樹、木崎節子、満尾正¹、堀田宣之²、原田正純³ (¹満尾クリニック、²桜が丘病院、³熊本学園大) : 環境汚染の現状ー重金属を中心としてー. *アンチ・エイジング医学 日本抗加齢医学会雑誌* 4: 736-739, 2008.
20. 大野秀樹、木崎節子、櫻井拓也、大河原知水¹、鈴木敬一郎¹ (¹兵庫医大) : スーパーオキシドジスムターゼ. *日本臨床 増刊号 : 新時代の糖尿病学* 2: 351-354, 2008.
21. 石川守 : 人間ドック受診者に対する事後指導に関する検討ー人間ドック健診施設機能評価、生活習慣病に対する一次予防・二次予防活動の観点からー. *人間ドック* 23 : 63-69, 2008.
22. 上村隆元 : 産業保健国内関連ニュース 3. *産業医学ジャーナル* 31 : 59-65, 2008.
23. 上村隆元 : 青い眼で見た日本、黒い眼で見たアメリカ人ー文化的背景の相違と QOL (Quality of Life) ー. *ライフサイエンス* 34: 52-61, 2008.
24. 上村隆元 : 医療経済の基礎知識、予防医学の費用対効果. *The BONE* (メディカルビュー社) 23: 1-46, 2009.
25. 能登真一¹、上村隆元ら (¹新潟医療福祉大) : 回復期リハビリテーションにおける健康効用値の変化. *作業療法ジャーナル* 43: 496-502, 2009.
26. 能登真一¹、上村隆元 (¹新潟医療福祉大) : リハビリテーションがもたらす健康効用値改善と日本語版 Health Utilities Index MarkIII の妥当性について. *医療経済研究* 20 : 73-84, 2009.

III. 著書

1. 小笠原準悦、櫻井拓也、北館健太郎¹、西岡浩¹、藤井創¹、白土健、石橋義永、木崎節子、井澤鉄也²、斎藤大蔵³、今泉和彦⁴、大野秀樹 (¹(株)アミノアップ化学、²同志社大、³防衛医大、⁴早稲田大) : ラット初代培養脂肪細胞の脂肪分解反応に及ぼすオリゴノールの効果. *Proc. of Functional Polyphenol Symposium: Novel Use of Low Molecular Polyphenol: Oligonol*, 札幌、2008. p.31-36.
2. 大野秀樹 (分担) : 生活習慣 (ライフスタイル) の現状と対策. *栄養科学シリーズ NEXT 公衆衛生学 第2版・データ更新版*. 村松幸、梶本雅俊編. 東京、講談社サイエンティフィック、2008. p.50-60, 62-63.
3. 大野秀樹 (分担) : 主要疾患の疫学. *栄養科学シリーズ NEXT 公衆衛生学 第2版・データ更新版*. 村松幸、梶本雅俊編. 講談社サイエンティフィック、東京、p.86-87, 2008.
4. 芳賀脩光、大野秀樹、大谷克弥 : 老いないための「心と体」ケア : 健康長寿力チェックノート. 東京、NHK 出版、2008.
5. 大野秀樹 (監訳) : Glass, S. and Dwyer, G.B. (Eds.)、長澤純一訳 : *ACSM メタボリック・カリキュレーション・ハンドブック*. 東京、ナップ、2008.
6. 角田透 (分担) : III 嘱託産業医活動の実際、職場巡視のポイント. *嘱託産業医の実務*. 高田昂.

東京、社団法人全国労働基準関係団体連合会、2009. p.109-116.

7. 荻田香苗 (分担) : 予防活動のガイドライン-7.乳がん. 公衆衛生 72. 矢野栄二編. 東京、医学書院、2008. p.573-576.
8. 荻田香苗 (分担) : II-4.環境汚染と公害、 III-18.国際保健. コンパクト公衆衛生学; 第 4 版. 千葉百子、松浦賢長、小林康毅編. 東京、朝倉書店、2008. p.29-37, p.127-131.
9. 上村隆元 (分担) : IV-F エビデンスに基づく保健対策. エッセンシャル 社会・環境と健康 第 2 版第 2 刷. 高島豊、櫻井裕編. 東京、医歯薬出版、2008. p.39-41.
10. 上村隆元 (分担) : IV-G リスクアセスメントとリスクマネージメント. エッセンシャル 社会・環境と健康 第 2 版第 2 刷. 高島豊、櫻井裕編. 東京、医歯薬出版、2008. p.52-53.
11. 上村隆元 (分担) : IV-H 疫学研究と倫理. エッセンシャル 社会・環境と健康 第 2 版第 2 刷. 高島豊、櫻井裕編. 東京、医歯薬出版、2008. p. 124-126.
12. 岡本博照 (分担) : 飲酒行動. エッセンシャル 社会・環境と健康 第 2 版第 2 刷. 高島豊、櫻井裕編、東京、医歯薬出版、2008. p.126-130.

IV. その他

1. 大野秀樹 : 長生きと抗酸化食品. 健康と生活 4: 13-17, 2008.
2. 大野秀樹 : 老化予防とビタミン類. 健康と生活 5: 12-15, 2008.
3. 大野秀樹 : 身体的疲労と栄養. 健康と生活 6-7: 8-12, 2008.
4. 大野秀樹 (学会主催) : 第 145 回日本体力医学会関東地方会、三鷹、平成 21 年 3 月 14 日.
5. 角田透 (研修セミナー主催) : 平成 20 年度三鷹市医師会産業医学講習会・第 30 回産業精神保健学会研修セミナー、三鷹、平成 20 年 12 月 20 日.
6. 角田透 (研修セミナー主催) : 第 31 回日本産業精神保健学会研修セミナー、東京、平成 21 年 3 月 5 日.
7. 角田透 : 職場におけるアルコール対策. 産業保健21 (52) : 14-17, 2008.
8. 荻田香苗 (分担) : 業務上疾病に関する医学文献報告書—精神障害. 労災保険情報センター p.45-51, 2008.
9. 吉田正雄: 花粉症について. Hakumon ちゅうおう. 東京、中央大学、2008. p.56.
10. 吉田正雄: 冬季に流行する感染性胃腸炎 「ノロウイルス感染症」. Hakumon ちゅうおう. 東京、中央大学、2008. p.80-81.
11. 吉田正雄 : 厚生労働省研究班による多目的コホート研究 (JPHC Study) からの成果報告. 厚生労働省多目的コホート研究、五島列島、平成 20 年 11 月 16-18 日.
12. 吉田正雄 : 厚生労働省研究班による多目的コホート研究 (JPHC Study) における眼科疾患研究の進捗状況. 佐久地域連絡調整会議、佐久、平成 21 年 1 月 14 日.
13. 岡本博照 : ライフスタイルとストレスの関係を検討—労働負荷と勤務上の不満/ストレスに職制と有意差なし— (第 24 回日本ストレス学会). Medical Tribune 42: 32, 2009.
14. 松井知子 : 生活環境とメンタルヘルス. 東京さんぽ 21 (July) 38 : 10-12, 2008.

法医学教室

I. 口 演

1. 高田 綾¹, 齋藤一之¹, 高木徹也, 長尾正崇², 永井智紀³, 呂 彩子^{3,4}, 景山則正³, 原 正昭¹ (¹埼玉医大・法医, ²広島大・法医, ³東監医, ⁴慶大・法医): 外傷性くも膜下出血の出血源としての頭蓋内頸動脈損傷, 第92次日本法医学会総会, 長崎, 平成20年4月24日.
2. 上野麻夫, 佐藤洋一, 花岡洋一¹, 都築民幸², 佐藤喜宣, 水口 清¹ (¹東歯大・法歯学, ²日歯大・歯科法医): 歯牙欠損の生前・死後の判断に関する研究 第2報-歯槽硬線のX線像による評価-. 第92次日本法医学会総会, 長崎, 平成20年4月25日.
3. 高木徹也, 宮下奈緒, 梶原正弘, 須藤孝子, 寺岡 敦, 乾 敏彦, 松村桜子, 佐藤喜宣: 長時間意識清明期を有したびまん性脳腫脹の剖検例. 第92次日本法医学会総会, 長崎, 平成20年4月25日.
4. 高篠 智, 都築民幸¹, 宮下奈緒, 三上 礼, 高木徹也, 佐藤喜宣 (¹日歯大・歯科法医): 歯科用ゴム質弾性印象材を応用した人工皮膚を用いた遺体修復. 第92次日本法医学会総会, 長崎, 平成20年4月25日.
5. 花岡洋一¹, 梶原正弘, 都築民幸² (¹東歯大・法歯学, ²日歯大・歯科法医): 大規模災害時における身元確認システム構築に向けた、死後口腔内所見データベース化の試み. 歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い (平成19年度). 抄録集. 2008; p6, 東京.
6. Yoshida M, Hanaoka Y¹, Tsuzuki T², Ueno A, Takagi T, Iwahara K², Yasuda M³, Sato Y, Minaguchi K¹ (¹Dept. Forens. Odont., Tokyo Dental College, ²Center of Forens. Dent., School of Life Dent. at Tokyo, ³The Nippon Dent. Univ., Kawasaki Res. & Develop. Center, Mitutoyo Corp.) : Collection of intraoral findings with dental scanner system -Verification of dental chart prepared by DENTALPAK-. 7th International Symposium ADVANCES IN LEGAL MEDICINE (ISALM). Osaka, JAPAN, Sept. 4, 2008.
7. Tkashino S, Tsuzuki T¹, Iwahara K¹, Takagi T, Sato Y (¹Center of Forens. Dent., School of Life Dent. at Tokyo, ³The Nippon Dent. Univ.) : Restoration of facial skin defects of a dead body by the artificial skin utilized dental impression material. 7th International Symposium ADVANCES IN LEGAL MEDICINE (ISALM). Osaka, JAPAN, Sept. 4, 2008.
8. Miyashita N, Takashino S, Yoshida M, Matsumura S, Takagi T, Sato Y : One autopsy case of iron poisoning. 7th International Symposium ADVANCES IN LEGAL MEDICINE (ISALM). Osaka, JAPAN, Sept. 4, 2008.
9. 佐藤喜宣(講演): 医療現場におけるDVの発見と介入. DV被害者支援セミナー. 2008, 新潟.
10. 岩原香織¹, 松村桜子, 高篠 智, 高木徹也, 都築民幸¹, 佐藤喜宣 (¹日歯大・歯科法医): 職種と「虐待」に関する意識調査 -将来の医療従事者への教育-. 日本子ども虐待防止委員会第14回学術集会. 抄録集. 2008; p120, 広島.
11. 佐藤喜宣(シンポジウム): 子どもの虐待の早期発見・早期介入における臨床法医学の果たす役割 臨床法医学とは. 日本子ども虐待防止委員会第14回学術集会. 抄録集. 2008; p70, 広島.

II. 論文

1. 高篠 智, 佐藤喜宣, 吉田昌記, 宮下奈緒, 須藤孝子, 岩原香織, 松村桜子, 高木徹也: 遺体衛生保全(embalming)処置30日後に法医解剖を行った一例. 法医学の実際と研究, 51:115-119, 2008.
2. 宮下奈緒, 佐藤喜宣, 高篠 智, 吉田昌記, 佐藤洋一, 岩原香織, 都築民幸, 高木徹也: 手製散弾発射装置を用いた自殺の一剖検例. 法医学の実際と研究, 51:121-124, 2008.

3. 斎藤一之, 高木徹也, 高田 綾, 広瀬隆則, 呂 彩子, 原 正昭: 神経節膠腫 (ganglioglioma) のみられた2突然死. 法医学の実際と研究 51: 163-167, 2008.
4. Tominaga Y, Sudo T, Kanegae T, Nagoya T, Matsumura S, Yoshida M, Teraoka A, Shimaura M, Tsukamoto S and Sato Y (): Measurement of free and bound alcohol metabolites and methanol in human biological samples -free and bound alcohol metabolites and methanol in acute alcohol administration-. Jpn. J. Alcohol & Drug Dependence, 44(1): 13-25, 2009.
5. Tominaga Y: Use of acetaldehyde and methanol as markers of alcohol abuse and their measurement. Jpn. J. Alcohol & Drug Dependence, 44(1): 26-37, 2009.

III. 著書

1. 赤川公朗編 (共著): 基礎医学. 第9章法医学. 星和書店. 2008年.

IV. その他

1. 佐藤喜宣: 虐待対策は医療のミッション 看護師に学んでほしい臨床法医学の視点. 看護学雑誌, 72 (2) : 97, 2008.
2. 佐藤喜宣: 外傷からみつける虐待 サインを見逃さないための6つのレッスン・1 着衣の隠された痕跡は何を語る? 保健師ジャーナル, 64 (4) : 308-309, 2008.
3. 佐藤喜宣: 外傷からみつける虐待 サインを見逃さないための6つのレッスン・2 境界が明瞭な痕跡は何を語る? 保健師ジャーナル, 64 (5) : 394-395, 2008.
4. 佐藤喜宣: 外傷からみつける虐待 サインを見逃さないための6つのレッスン・3 辺縁が明瞭な皮膚変色(皮下出血)は何を語る? 保健師ジャーナル, 64 (6) : 486-487, 2008.
5. 佐藤喜宣: 外傷からみつける虐待 サインを見逃さないための6つのレッスン・4 頸部に散在する痕跡は何を語る? 保健師ジャーナル, 64 (7) : 578-579, 2008.
6. 佐藤喜宣: 外傷からみつける虐待 サインを見逃さないための6つのレッスン・5 肩峰部にみられる痕跡は何を語る? 保健師ジャーナル, 64 (8) : 678-679, 2008.
7. 佐藤喜宣: 臨床法医学で読む虐待事件 (1) 赤ちゃんポストという緊急避難. 子ども虐待とネグレクト, 10 (2) : 207-208, 2008.
8. 佐藤喜宣, 松村桜子, 高木徹也: 子どもの虐待. 総合臨床, 57 (11) : 2738-2740, 2008.

共同研究施設フローサイトメトリー部門

【口 演】

- 1 Shiohara T, Kano Y¹, Takahashi R (¹ Department of Dermatology, Kyorin Univ. Sch. Med.) : Update on regulators : regulatory T cells in DIHS/DRESS and SJS/TEN. 3rd International drug hypersensitivity meeting. Paris, Apr. 2, 2008.
- 2 Kano Y¹, Hirahara K¹, Asano Y¹, Mitsuyama Y¹, Takahashi R, Shiohara T (¹ Department of Dermatology, Kyorin Univ. Sch. Med.) : Association between drug and human herpesvirus in drug-induced hypersensitivity syndrome/drug rash with eosinophilia and systemic symptoms. 3rd International drug hypersensitivity meeting, Paris, Apr. 2, 2008.
- 3 Takahashi R and Shiohara T : Trafficking receptor expression on regulatory t cells in severe drug eruptions, 3rd International drug hypersensitivity meeting, Paris, Apr. 11-13, 2008.
- 4 Mitsuyama Y¹, Kano Y¹, Hirahara K¹, Mizukawa Y¹, Shiohara T (¹ Department of Dermatology, Kyorin Univ. Sch. Med.) : Usefulness of monitoring of cytokine expression to evaluate therapeutic efficacy of plasmapheresis in patients with toxic epidermal necrolysis. 3rd International drug hypersensitivity meeting, Paris, Apr. 2, 2008.
- 5 Takahashi R, Kimisima M¹, Yamazaki Y¹, and Shiohara T (¹ Department of Dermatology, Kyorin Univ. Sch. Med.) : Severe drug hypersensitivity disorders is induced by dysfunctional Tregs, The International Investigative Dermatology 2008, Kyoto, May. 14-17, 2008.
- 6 Aota N¹, Fukuhara M¹, Hirahara K¹, Kano Y¹, Shiohara T (¹ Department of Dermatology, Kyorin Univ. Sch. Med.) : Autoimmune disease as sequelae of drug-induced hypersensitivity syndrome. 2nd International conference on cutaneous lupus erythematosus, Kyoto, May. 12, 2008.
- 7 Kano Y¹, Asano Y¹, Hirahara T¹, Shiohara T (¹ Department of Dermatology, Kyorin Univ. Sch. Med.) : Autoimmune diseases occurring after drug-induced hypersensitivity syndrome. 6th International conference on HHV-6 & 7, Baltimore, Jun. 21, 2008.

【論 文】

- 1 Shiohara T, Mizukawa Y¹, Takahashi R, Kano Y¹ (¹ Department of Dermatology, Kyorin Univ. Sch. Med.) : Pathomechanisms of lichen planus autoimmunity elicited by cross-reactive T cells. *Curr Dir Autoimmun* 10 : 206-226, 2008.
- 2 Aota N¹, Hirahara K¹, Kano Y¹, Fukuoka T¹, Yamada A¹, Shiohara T (¹ Department of Dermatology, Kyorin Univ. Sch. Med.) : Systemic lupus erythematosus presenting with Kikuchi-Fujimoto's disease as a long-term sequele of drug-induced hypersensitivity syndrome, a possible role of Epstein-Barr virus reactivation. *Dermatology* 218 : 275-7, 2009.

【著 書】

- 1 Shiohara T, Mizukawa Y¹, Takahashi R, Kano Y¹ (¹ Department of Dermatology, Kyorin Univ. Sch. Med.) : Pathomechanisms of lichen planus autoimmunity elicited by cross-reactive T cells. In : *Dermatologic*

Immunity. Nickoloff BJ, Nestle FO (Ed.) Basel, Karger, 2008. p. 206-226.

【その他】

1. 高橋良：薬剤性過敏症症候群における制御性Tリンパ球の機能解析. 平成20年度科学研究費補助金 若手研究 (B) 研究代表者

共同研究施設実験動物施設部門

I. 口演

1. 新倉保, 北潔¹, 小林富美恵² (¹東大・院・医・国際保健, ²杏林大・医・感染症) : マウスマラリア原虫弱毒株との複合感染は *Plasmodium berghei* NK65 強毒株感染による肝傷害を抑制する. 第 77 回日本寄生虫学会大会, 長崎, 平成 20 年 4 月 2-4 日.
2. 新倉保, 北潔¹, 小林富美恵² (¹東大・院・医・国際保健, ²杏林大・医・感染症) : *Plasmodium berghei* ANKA 強毒株感染によって引き起こされる脳マラリア様症状はマウスマラリア原虫弱毒株との複合感染によって抑制される. 第 16 回分子寄生虫ワークショップ, 草津, 平成 20 年 8 月 3-6 日.
3. Niikura M, Kamiya S¹, Kita K² & Kobayashi F¹ (¹Dept. of Infect. Dis., Fac. of Med., Kyorin Univ., ²Dept. of Biomed. Chem., Grad. Sch. of Med., Univ. of Tokyo) : Liver injury caused by *Plasmodium berghei* NK65 is suppressed by coinfection with nonlethal murine malaria parasites. 16th Japanese-German Cooperative Symposium on Protozoan Diseases. Goettingen, Sep. 24-29, 2008.
4. 新倉保, 北潔¹, 小林富美恵² (¹東大・院・医・国際保健, ²杏林大・医・感染症) : マウスにおける脳マラリア様症状は弱毒株マラリア原虫との複合感染によって抑制される. 第 7 回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム, 松山, 平成 20 年 10 月 10-11 日.
5. Niikura M & Kobayashi F¹ (¹Dept. of Infect. Dis., Fac. of Med., Kyorin Univ.) : IL-10 plays a crucial role for the protection of experimental cerebral malaria by coinfection with nonlethal malaria parasites. 第 38 回日本免疫学会総会・学術集会, 京都, 平成 20 年 12 月 1-3 日.
6. 新倉保, 北潔¹, 小林富美恵² (¹東大・院・医・国際保健, ²杏林大・医・感染症) : マウスマラリア原虫複合感染における IL-10 の意義と役割. 第 2 回原虫感染免疫研究会, 佐賀, 平成 21 年 2 月 21-22 日.
7. Niikura M, Kita K¹ & Kobayashi F² (¹ Dept. of Biomed. Chem., Grad. Sch. of Med., Univ. of Tokyo, ²Dept. of Infect. Dis., Fac. of Med., Kyorin Univ.) : Coinfection with nonlethal malaria parasites suppresses experimental cerebral malaria in IL-10 dependent-manner. 第 78 回日本寄生虫学会大会, 東京, 平成 21 年 3 月 27-28 日.

II. 論文

1. Niikura M, Kamiya S¹, Kita K² & Kobayashi F¹ (¹Dept. of Infect. Dis., Fac. of Med., Kyorin Univ., ² Dept. of Biomed. Chem., Grad. Sch. of Med., Univ. of Tokyo) : Coinfection with nonlethal murine malaria parasites suppresses pathogenesis caused by *Plasmodium berghei* NK65. J Immunol 180: 6877-6884, 2008.
2. Keino H¹, Watanabe T¹, Sato Y², Niikura M, Wada Y³ & Okada AA¹ (¹Dept. of Ophthalmol., ²Div. of Radioisotope Res., Fac. of Med., Kyorin Univ., ³Synta Pharmaceuticals Corp.) : Therapeutic effect of a potent IL-12/IL-23 inhibitor STA-5326 on experimental autoimmune uveoretinitis. Arthritis Res Ther 10: R122, 2008.

生物学教室

I 口演

1. 佐藤玄、¹富村義彦、小川涼子、松田宗男 (¹芝学園) : アナナスショウジョウバエのゲノム配列. 第二回昆虫ゲノム研究会, 東京, 2008年3月6-7日.
2. 山本雅敏¹、上田龍²、和多田正義³、松田宗男(¹京都工芸繊維大学、²国立遺伝学研究所、³愛媛大学) : 「ショウジョウバエ」 ナショナルバイオリソースプロジェクト紹介シンポジウム 第79回日本動物学会・福岡大会、福岡、2008年9月5日
3. 山本雅敏¹、上田龍²、和多田正義³、松田宗男(¹京都工芸繊維大学、²国立遺伝学研究所、³愛媛大学) : 「ショウジョウバエ」 ナショナルバイオリソースプロジェクトパネル展示 第31回日本分子生物学会、第81回日本生化学会合同大会 神戸市、兵庫、2008年12月9~12日

II 論文

1. Yamada H¹, Tomaru M², Matsuda M, and Oguma Y¹. (¹ Institute of Biological Sciences, University of Tsukuba, ² Drosophila Genetic Resource Center, Kyoto Institute of Technology) : Behavioral sequence leading to sexual isolation between *Drosophila ananassae* and *Drosophila pallidosa*. *Journal of Insect Behavior* 21: 222-239. 2008.
2. Murakami K¹, Toyoda A¹, Hattori M¹, Kuroki¹ Y, Fijiyama A¹, Kojima T¹, Matsuda, M, Sakaki Y¹, and Yamamoto M-T². (¹ RIKEN Genomic Science Center, ² Drosophila Genetic Resource Center, Kyoto Institute of Technology) : BAC library construction and BAC end sequencing of five *Drosophila* species: the comparative map with the *D. melanogaster* genome. *Genes and Genetic Systems* 83: 245-256. 2008.
3. Schaeffer S¹, Bhutkar A^{2,3}, McAllister B⁴, Matsuda M, Matzkin L⁵, O'Grady P⁶, Rohde C⁷, Valente V⁸, Aguadé M⁹, Anderson W¹⁰, Edwards K*, Garcia A*, Goodman J¹¹, Hartigan J¹², Kataoka K, Lapoint R¹³, Lozovsky E¹⁴, Machado C⁵, Noor M¹⁵, Papacit M⁹, Reed L⁵, Richards S¹⁶, Rieger T¹⁷, Russo S¹⁸, Sato H, Segarra C¹², Smith D¹², Smith T³, Strelets V¹¹, Tobari Y¹⁹, Tomimura Y²⁰, Wasserman M²¹, Watts T⁵, Wilson R¹¹, Yoshida K²², Markow T⁵, Gelbart W¹⁸ and Kaufman T¹¹ (¹The Pennsylvania State University, ²Harvard University, ³Boston University, ⁴University of Iowa, ⁵University of Arizona, ⁶University of California, ⁷Universidade Federal do Rio Grande do Sul, ⁹Universitat de Barcelona, ¹⁰University of Georgia, ¹¹Indiana University, ¹²Agencourt Bioscience, ¹³Illinois State University, ¹⁴Harvard University, ¹⁵Duke University, ¹⁶Baylor College of Medicine, ¹⁷Universidade Federal de Pernambuco, ¹⁸FlyBase, Harvard University, ¹⁹Institute of Evolutionary Biology, ²⁰Shiba Gakuen, ²¹CUNY-Queens, Flushing, ²²Hokkaido University) : Polytene chromosomal maps of 11 *Drosophila* species: the order of genomic scaffolds inferred from genetic and physical maps, *Genetics*, 179(3):1601-55. 2008.
4. Sawamura K¹, Koganebuchi K², Sato H., Kamiya K³, Matsuda M, Oguma Y¹ (¹Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, ²College of Biological Sciences, University of Tsukuba, National Institute of Education, Nanyang Technological University) : Potential gene flow in natural populations of the *Drosophila ananassae* species cluster inferred from a nuclear mitochondrial pseudogene, *Mol Phylogenet Evol.*, 48(3): 1087-93, 2008

Ⅲ 著書

1. 田中浩輔：甲殻類の心臓拍動調節と血液分配調節 「昆虫のミメティックス～昆虫の設計に学ぶ～」
下澤楯夫 針山孝彦 編、東京、株式会社N T S, 2008. pp. 408-414.

Ⅳ その他

1. Takahara S¹ and Sato H (¹Kyorin University School of Medicine, Department of physics) : Helitrons in fruit flies.
Rebase Reports, 8(5): 537-537, 2008

I. 口演

1. Ohtani M: Quark angular momentum in lattice QCD. J-PARC meeting for spin and hadron physics, 和光, Apr. 7-8, 2008.
2. Ohtani M: Generalized parton distributions - Quark angular momentum and generalized form factors of nucleon -. 日本物理学会 2008 年秋季大会, 山形, 平成 20 年 9 月 20-23 日.
3. 高原哲士, 田嶋直樹¹, 清水良文² (¹福井大・工, ²九州大・理): 中性子過剰核における Woods-Saxon Strutinsky 法の大域的計算. 日本物理学会 2008 年秋季大会, 山形, 平成 20 年 9 月 20-23 日.
4. 大谷宗久: 格子 QCD による核子の一般化形状因子とクォークの角運動量の解析.
核子構造研究の新展開 2009 研究会, つくば, 平成 21 年 1 月 10 日.

II. 論文

1. Ohtani M, Lehner C¹, Wettig T¹ & Hatsuda T² (¹Univ. Regensburg, ²Univ. Tokyo): Topological susceptibility at finite temperature in a random matrix model. Mod Phys Lett A23: 2465-2468, 2008.
2. Brömmel D¹, Göckeler M², Hägler Ph³, Horsley R⁴, Nakamura Y⁵, Ohtani M, Pleiter D⁵, Rakow P⁶, Schäfer A², Schierholz G¹, Schroers W⁵, Stüben H⁷ & Zanotti J⁴ (¹DESY, ²Univ. Regensburg, ³TU München, ⁴Univ. Edinburgh, ⁵NIC/DESY, ⁶Univ. Liverpool, ⁷ZIB): Hadronic structure from the lattice. Eur Phys J Spec Top 162: 63-71, 2008.
3. Göckeler M¹, Hägler Ph², Horsley R³, Nakamura Y⁴, Ohtani M, Pleiter D⁴, Rakow P⁵, Schäfer A¹, Schierholz G⁶, Stüben H⁷ & Zanotti J³ (¹Univ. Regensburg, ²TU München, ³Univ. Edinburgh, ⁴NIC/DESY, ⁵Univ. Liverpool, ⁶DESY, ⁷ZIB): Nucleon structure with partially twisted boundary conditions. Proc Sci (LATTICE 2008): 138-1-7, 2008.
4. Tohyama M & Schuck P¹ (¹IPN Orsay): Extended random-phase approximation with three-body ground-state correlations. Eur Phys J A 36:349-357, 2008.
5. Takahara S & Sato H : Non-autonomous family of Helitrons – a consensus sequence. Replibase Reports 8: 537-537, 2008.

化学教室

I. 口演

1. 大津昌弘, 小林肇¹, 稲田大助¹, 中山孝², 井上順雄¹(¹首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学, ²横浜市立大医学部生化学): マウス胚性幹細胞由来神経幹細胞の増殖に対するメチル水銀の影響. 第31回日本神経科学大会, 東京, 平成20年7月9日-11日
2. 磯野真由¹, 田邊利彰¹, 大津昌弘, 大谷浩樹², 福土政広², 中山孝³, 井上順雄¹(¹首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学, ²首都大学東京大学院放射線科学研究科, ³横浜市立大医学部生化学): マウス胚性幹細胞由来神経幹細胞の増殖と維持に対するX線照射の影響. 第31回日本神経科学大会, 東京, 平成20年7月9日-11日
3. 堀越 朋恵¹, 中山 孝², 赤間 邦子¹, 大津 昌弘, 中村 愛³, 戸田 年総³, 井上 順雄⁴(¹千葉大学大学院理学研究科化学, ²横浜市立大医学部生化学, ³都立老人総合研究所プロテオーム共同研究センター, ⁴首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学): プロテオーム解析から探るサル胚性幹細胞から Neural Stem Sphere への分化誘導. 第31回日本神経科学大会, 東京, 平成20年7月9日-11日
4. 永野仁士¹, 新屋冬美¹, 大津昌弘, 大谷浩樹², 福土政広², 中山孝³, 井上順雄¹(¹首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学, ²首都大学東京大学院放射線科学研究科, ³横浜市立大医学部生化学): マウス胚性幹細胞から神経系細胞への分化に対するX線照射の影響. 第31回日本神経科学大会, 東京, 平成20年7月9日-11日
5. 堀越 朋恵¹, 中山 孝², 大津 昌弘, 赤間 邦子¹, 中村 愛³, 戸田 年総³, 井上 順雄⁴(¹千葉大学大学院理学研究科化学, ²横浜市立大医学部生化学, ³都立老人総合研究所プロテオーム共同研究センター, ⁴首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学): サル胚性幹細胞から Neural Stem Spheres への分化誘導初期過程のプロテオーム解析から得られた新知見. 日本ヒトプロテオーム機構第6回大会, 大阪, 平成20年7月29日-30日
6. 大津昌弘, 稲田大介¹, 久米伸恵¹, 祭友昭², 中山孝³, 百木智子¹, 鈴木豊⁴, 近藤靖⁴, 笠井久隆¹, 井上順雄¹(¹首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学, ²東京慈恵会医科大学整形外科学, ³横浜市立大医学部生化学⁴三菱田辺製薬先端医療研究所): Neural Stem Sphere 法によるヒトES細胞の神経細胞への一方向的な分化誘導. 第51回日本神経化学学会大会, 富山, 平成20年9月11日-13日
7. 山ノ端万里¹, 北沢啓子¹, 久米伸恵², 大津昌弘, 井上順雄²(¹創価大学工学部環境共生工学科, ²首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学): マウス胎生線維芽細胞の培養条件が胚性幹細胞の増殖と分化に及ぼす影響. 第51回日本神経化学学会大会, 富山, 平成20年9月11日-13日
8. 稲田大助¹, 大津昌弘, 小林肇¹, 村上拓治¹, 中山孝², 笠井久隆¹, 井上順雄¹(¹首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学, ²横浜市立大医学部生化学): マウス胚性幹細胞から神経系細胞への分化に対する塩化メチル水銀の影響. 第51回日本神経化学学会大会, 富山, 平成20年9月11日-13日
9. 大津昌弘, 小林肇¹, 前田智美¹, 稲田大助¹, 井上順雄¹(¹首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学): Neural Stem Sphere 法を用いた初期神経発達期におけるメチル水銀の影響評価. 第31回日本保健科学学会学術集会, 東京, 平成20年9月12日-13日
10. 大森啓之¹, 大津昌弘, 小林肇¹, 稲田大助¹, 笠井久隆¹, 井上順雄¹(¹首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学): マウス胚性幹細胞由来神経幹細胞の増殖, 分化に対する温熱刺激の影響.

第 31 回日本保健科学会学術集会，東京，平成 20 年 9 月 12 日－13 日

11. 丑丸真，山本幸子，福嶋義博：機能欠損 Ca^{2+} -ATPase による阻害から推定される Ca^{2+} 輸送機能単位．生体エネルギー研究会第 34 回討論会，東京，平成 20 年 11 月 7 日

12. 山本幸子，福嶋義博，丑丸 真： Ca^{2+} -ATPase 二量体の Ca^{2+} 輸送には両分子のリン酸化が必要である．生体エネルギー研究会第 34 回討論会，東京，平成 20 年 11 月 6 - 8 日

13. 山本幸子，福嶋義博，丑丸 真：筋小胞体 Ca^{2+} -ATPase の活性欠損型変異体共発現による活性阻害．第 81 回日本生化学会大会，神戸，平成 20 年 12 月 10 日

II. 論文

1. Ushimaru M, and Fukushima Y : The dimeric form of Ca^{2+} -ATPase is involved in Ca^{2+} transport in the sarcoplasmic reticulum. *Biochem J* 414:357-361, 2008.

2. Yamamoto S , Morihara Y¹, Wakayama M¹, Tachiki T¹ (¹Univ. of Ritsumeikan, Fac. of Sci. and Engr.): Theanine production by coupled fermentation with energy transfer using gamma-glutamylmethylamide synthetase of *Methylovorus mays* No. 9. *Biosci Biotechnol Biochem* 72:1206-11, 2008

III. 著書

1. 山本幸子、立木 隆*(*立命館大学): γ -グルタミルエチルアミド (テアニン) の合成.微生物によるものづくりー化学法に代わるホワイトバイオテクノロジーの全てー. 植田充美監修. 東京, 株式会社シーエムシー出版, 2008. p.78-84.

2. 大津昌弘, 中山孝¹, 井上順雄²(¹横浜市立大医学部生化学, ²首都大学東京大学院人間健康科学研究科神経再生科学): ES 細胞からの神経幹細胞・神経細胞の分化誘導ー自給型分化誘導法によるヒト細胞の安定供給ー幹細胞の分化誘導と応用ーES 細胞・iPS 細胞・体制幹細胞研究最前線ー 東京, エヌ・ティー・エス, 2009. p.179-186